2015

Syllabus

物質化学科

理工学部

Faculty of Science and Technology

龍谷大学

RYUKOKU UNIVERSITY

学部・学科英文名

龍　谷　大　学	Ryukoku University
理　工　学　部	Faculty of Science and Technology
数理情報学科	Department of Applied Mathematics and Informatics
電子情報学科	Department of Electronics and Informatics
機械システム工学科	Department of Mechanical and Systems Engineering
物 質 化 学 科	Department of Materials Chemistry
情報メディア学科	Department of Media Informatics
環境ソリューション工学科	Department of Environmental Solution Technology

教養教育科目
必修科目

教養教育科目
基幹（選択必修）科目

教養教育科目
選択科目

学部内共通

学科固有

教職課程

本願寺派
教師課程

教養教育科目
必修科目

教養教育科目
基幹（選択必修）科目

シラバス

教養教育科目
選択科目

学部内共通科目

学科固有科目
＜物質化学科＞

教職課程科目

本願寺派教師資格課程科目

最新の情報や、詳細情報は Web シラバスをご確認ください。

教養教育科目
必修科目

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
エ	英語ＩＡ	クラス・開講曜講時による			5
	英語ＩＢ	クラス・開講曜講時による			5
	英語ⅡＡ	クラス・開講曜講時による			6
	英語ⅡＢ	クラス・開講曜講時による			6
	英語Ⅲ	クラス・開講曜講時による			7
	英語Ⅳ	クラス・開講曜講時による			7
	英語（再）	熊懐　祐樹	前期	水２	8
	英語（再）	熊懐　祐樹	後期	水２	8
	英語（再）	熊懐　祐樹	前期	水３	9
	英語（再）	熊懐　祐樹	後期	水３	9
	英語（再）	芝原　直美	前期	水２	10
	英語（再）	芝原　直美	後期	水２	11
	英語（再）	芝原　直美	前期	水３	12
	英語（再）	芝原　直美	後期	水３	13
	英語（再）	薗田　千寿子	前期	金４	14
	英語（再）	薗田　千寿子	後期	金４	14
	英語（再）	谷　綾子	前期	火４	15
	英語（再）	谷　綾子	後期	火４	15
	英語（再）	西川　隆	前期	金４	16
	英語（再）	西川　隆	後期	金４	16
	英語（再）	西川　由美子	前期	水２	17
	英語（再）	西川　由美子	後期	水２	17
	英語（再）	西川　由美子	前期	水３	18
	英語（再）	西川　由美子	後期	水３	18
	英語（再）	宮尾　元子	前期	火４	19
	英語（再）	宮尾　元子	後期	火４	19
ス	スポーツ技術学Ａ	種目･開講曜講時による	学科により異なる		20
	スポーツ技術学Ｂ	種目･開講曜講時による	学科により異なる		20
フ	仏教の思想Ａ	井上　博文	前期	水１	24
	仏教の思想Ａ	小野嶋　祥雄	前期	水１	24
	仏教の思想Ａ	金澤　豊	前期	水１	25
	仏教の思想Ａ（再）	北岑　大至	後期	火５	25
	仏教の思想Ｂ	井上　博文	後期	水１	27
	仏教の思想Ｂ	小野嶋　祥雄	後期	水１	27
	仏教の思想Ｂ	金澤　豊	後期	水１	28
	仏教の思想Ｂ（再）	北岑　大至	前期	火５	28

英語ＩＡ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとる。授業によってはCALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）Participationが含まれる
定期試験（50%）In class test

■テキスト
Seiichi Uno 『Listen and Speak in English』 三修社 2,100円
※担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
※講義時に指示。

英語ＩＢ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。4技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。
今年度は資格試験のための英語も少しは学べるテキストを選んでいます。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
1時間半の予習、復習が必要です。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席しているだけではなく、きちんと当てられた問題に解答をお願いします。
小テスト（20%）小テストを定期的に行います。
定期試験（60%）期末テストだけです。

■テキスト
Funada, S., Chian, C.S., Erickson, J.D. 『Basic Training for the TOEIC Test.』 英宝社 2,100円

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■講義計画
①教科書に沿って授業する。
②期末試験

英語ⅡA

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとる。授業によってはCALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）Participationが含まれる
定期試験（50%）In class test

■テキスト
Seiichi Uno 『Listen and Speak in English』
※担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
※講義時に指示。

英語ⅡB

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
英語Ⅰでの基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。
前期と同様、基礎力の増強を図っていきます。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
おおむね、予復習１時間半です。

■成績評価の方法
小テスト（20%）数回の小テストを課します。
定期試験（60%）期末テストです。
そ の 他（20%）共通テストです。

■テキスト
前期と同じです。

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■講義計画
①教科書に沿って学習を進めましょう。
②授業の最初に小テストを行い、これが出席確認と成績になります。

英語Ⅲ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎をもとに4技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。
本授業では、上記の目標を達成するため、理工学部の学生向けに化学の英文が読めるテキストを使って教授していきたい。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■系統的履修
英語Iを履修しておいてください。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習、復習にそれぞれ45分程度かかることを予想しています。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）授業内の発言が非常に重要です。
小テスト（20%）龍たん・龍じゅくテストです。
定期試験（70%）中間、期末の両方のテストでそれぞれ35点ずつを予定しています。

■テキスト
Someya, M., Murray, P., and Ferrasci, F. 『The Wonderful World of Chemistry Around Us: Insights into Nature.』 英宝社　2,100円

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■講義計画
①年間計画を説明した後、1回目用の教材でみなさんの英語の実力を測ります。
②教科書に沿って進みます。
③中間テスト、および、教科書に沿った学習を進めます。
④教科書に沿って進みます。
⑤期末テスト

英語Ⅳ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎をもとに4技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。
前期と同様に取り組んでいきたい。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
前期と同じです。予復習にそれぞれ45分ほどかかると思います。

■成績評価の方法
小テスト（20%）龍たん・龍じゅくテストです。
定期試験（60%）中間テストと期末テストの合計点です。
そ の 他（20%）共通テストです。

■テキスト
前期と同じです。最後までいったら、別の教材を導入します。

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■講義計画
①年間計画をお話ししてから、1回目用の教材を使って授業します。
②教科書に沿って授業します。
③中間テストと、教科書に沿った授業です。
④教科書に沿って授業します。
⑤期末テストです。

英語（再）

【担当】熊懐　祐樹
【開講】前期　水2

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる４技能の総合的向上を図る。４技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の予習は必ずしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）授業回数の３分の２以上の出席者を評価対象とし、受講態度や授業時の発表の状況から総合的に評価する。
定期試験（50%）授業回数の３分の２以上の出席者を対象とする。

■テキスト
Andrew E. Bennett『Quick-Step English 1』南雲堂　1,700円

■参考文献
特になし

■講義計画
①Introduction
②Unit1
③Unit2
④Unit3
⑤Unit4
⑥Unit5
⑦Unit6
⑧Unit7
⑨Unit8
⑩Unit9
⑪Unit10
⑫Unit11
⑬Unit12
⑭Unit13
⑮Unit14

英語（再）

【担当】熊懐　祐樹
【開講】後期　水2

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる４技能の総合的向上を図る。４技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の予習は必ずしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）授業回数の３分の２以上の出席者を評価対象とし、受講態度や授業時の発表の状況から総合的に評価する。
定期試験（50%）授業回数の３分の２以上の出席者を対象とする。

■テキスト
Jim Knudsen 『Everyday Psychology』 南雲堂　1,600円

■参考文献
特になし

■講義計画
①Introduction
②Unit1
③Unit2
④Unit3
⑤Unit4
⑥Unit5
⑦Unit6
⑧Unit7
⑨Unit8
⑩Unit9
⑪Unit10
⑫Unit11
⑬Unit12
⑭Unit13
⑮Unit14

英語（再）

【担当】熊懐　祐樹
【開講】前期　水３

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる４技能の総合的向上を図る。４技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の予習は必ずしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）授業回数の３分の２以上の出席者を評価対象とし、受講態度や授業時の発表の状況から総合的に評価する。
定期試験（50%）授業回数の３分の２以上の出席者を対象とする。

■テキスト
Andrew E. Bennett『Quick-Step English 1』南雲堂　1,700円

■参考文献
特になし

■講義計画
①Introduction
②Unit1
③Unit2
④Unit3
⑤Unit4
⑥Unit5
⑦Unit6
⑧Unit7
⑨Unit8
⑩Unit9
⑪Unit10
⑫Unit11
⑬Unit12
⑭Unit13
⑮Unit14

英語（再）

【担当】熊懐　祐樹
【開講】後期　水３

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる４技能の総合的向上を図る。４技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の予習は必ずしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）授業回数の３分の２以上の出席者を評価対象とし、受講態度や授業時の発表の状況から総合的に評価する。
定期試験（50%）授業回数の３分の２以上の出席者を対象とする。

■テキスト
Jim Knudsen 『Everyday Psychology』 南雲堂　1,600円

■参考文献
特になし

■講義計画
①Introduction
②Unit1
③Unit2
④Unit3
⑤Unit4
⑥Unit5
⑦Unit6
⑧Unit7
⑨Unit8
⑩Unit9
⑪Unit10
⑫Unit11
⑬Unit12
⑭Unit13
⑮Unit14

英語（再）

【担当】芝原　直美
【開講】前期　水2

■サブタイトル
TOEIC に向けて

■講義概要
TOEICに関連する演習問題を通して、
英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聞く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。
また、英語文化の基礎知識を身につけ、英語を用いて働くのに必要な広い視野を養うことを目指す。

■到達目標
TOEICで十分得点するのに必要な英語力、すなわち、必須の基本的語彙・文法事項・構文を修得する。
また、英語の知識を深めたり、英語学習の良い方法を知り、自ら外国語を学習する習慣につなげる。

■講義方法
主として教科書の問題演習に関する説明の後、情報教室を利用し学習ファイルを作成する。
学習ファイルは次週までに、クラスフォルダーに提出しなければならない。単に解答を記入するだけでなく、
自ら学習する力の育成を重視するので、学習方法や文法・解釈において各自の意見や疑問を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
学内の情報自習室でも、各自課題をし、課題ファイルを提出フォルダーに提出ができる。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）授業10回以上の参加を条件に概ね以下の通りとする。出席はPC起動を機械処理する。遅刻・早退・中座は1/3 欠席。各１点満点・15回　授業に遅れず出席をし、積極的に課題に取り組むこと。
小テスト（14%）15点満点・30分のMini-Testを２回実施し、その平均点を加算する。
レポート（26%）各2点満点のファイルを遅れずに15個提出する。
定期試験（45%）一般教室で聞き取りを含む筆記試験を実施する。
〔欠席した場合・試験結果が心配な場合〕 英語ニュースを読んでミニリポートを提出しよう。
よくできていると1点加点される。上限+５点まで。
1）読みやすく簡単な短い英語ニュースを見つけ、目を通す。
　クラスフォルダー参照：「英字新聞を読もう」
2）英語ニュースの要旨と感想を日本語または英語でまとめる。
　クラスフォルダー参照：「英語ニュース」
3）学籍番号、氏名、欠席日、欠席理由を記し、ニュースの写し、要旨・感想をまとめてニュースファイルとし、できるだけ早く提出フォルダー内のニュースフォルダーに提出しよう。

■テキスト
森田　光弘、鈴木　淳、Stephen B. Ryan 『Strategic Learning for the TOEIC Test』 松柏社　1,900円
音声ファイルは各自ダウンロードして用いる。

■参考文献
ＴＢＡ：授業中に適宜紹介する予定。

■履修上の注意・担当者からの一言
翻訳ソフトの利用を禁止する。辞書持参が望ましいが、忘れたときはネット辞書を利用しよう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１．授業中に直接連絡する。
２．Ｇメールをクラス、学籍番号、氏名を明記し、sibahara@mail.ryukoku.ac.jpに送る。
３．課題ファイル末尾の記入欄に記し、口頭で伝えた上で提出する。

■講義計画
①Orientation
　Mini Test 1
②Chapter 1　Basics for Parts 1 & 5
③Chapter 2　Basics for Parts 2 & 5
④Chapter 3　Basics for Parts 2 & 5
⑤Chapter 4　Basics for Parts 3 & 5
⑥Chapter 5　Basics for Parts 4 & 5
⑦Chapter 6　Basics for Parts 6 & 5
⑧Chapter 7　Basics for Parts 7 & 5
⑨Mini-Test 2
⑩Chapter 8　Strategies for Parts 1 & 5
⑪Chapter 9　Strategies for Parts 2 & 5
⑫Chapter 10 Strategies for Parts 3 & 5
⑬Chapter 11 Strategies for Parts 4 & 5
⑭Chapter 12 Strategies for Parts 6 & 5
⑮Chapter 13 Strategies for Parts 7 & 5
⑯The Final Examination

英語（再）

【担当】芝原　直美
【開講】後期　水2

■サブタイトル
TOEIC Bridgeに向けて

■講義概要
TOEIC Bridgeに関連する演習問題を通して、
英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聞く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。
また、英語文化の基礎知識を身につけ、英語を用いて働くのに必要な広い視野を養うことを目指す。

■到達目標
TOEIC Bridge で十分得点するのに必要な英語力、すなわち、必須の基本的語彙・文法事項・構文を修得する。
また、英語の知識を深めたり、英語学習の良い方法を知り、自ら外国語を学習する習慣につなげる。

■講義方法
主として教科書の問題演習に関する説明の後、情報教室を利用し学習ファイルを作成する。
学習ファイルは次週までに、クラスフォルダーに提出しなければならない。単に解答を記入するだけでなく、
自ら学習する力の育成を重視するので、学習方法や文法・解釈において各自の意見や疑問を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
学内の情報自習室でも、各自課題をし、課題ファイルを提出フォルダーに提出ができる。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）授業10回以上の参加を条件に概ね以下の通りとする。出席はPC起動を機械処理する。遅刻・早退・中座は1/3 欠席。各１点満点・15回　授業に遅れず出席をし、積極的に課題に取り組むこと。
小テスト（10%）10点満点・10分の小テストを２回実施し、その平均点を加算する。
レポート（30%）各2点満点のファイルを遅れずに15個提出する。
定期試験（45%）一般教室で聞き取りを含む筆記試験を実施する。
〔欠席した場合・試験結果が心配な場合〕 英語ニュースを読んでミニリポートを提出しよう。
よくできていると1点加点される。上限+５点まで。
1）読みやすく簡単な短い英語ニュースを見つけ、目を通す。クラスフォルダー参照：「英字新聞を読もう」
2）英語ニュースの要旨と感想を日本語または英語でまとめる。クラスフォルダー参照：「英語ニュース」
3）学籍番号、氏名、欠席日、欠席理由を記し、ニュースの写し、要旨・感想をまとめてニュースファイルとし、できるだけ早く提出フォルダー内のニュースフォルダーに提出しよう。

■テキスト
林　姿穂、西田晴美、Brian Covert 『Crossing the TOEIC Bridge』 朝日出版社　1,944円
音声ファイルは各自ダウンロードして用いる。

■参考文献
ＴＢＡ：授業中に適宜紹介する予定。

■履修上の注意・担当者からの一言
翻訳ソフトの利用を禁止する。辞書持参が望ましいが、忘れたときはネット辞書を利用しよう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１．授業中に直接連絡する。
２．Ｇメールをクラス、学籍番号、氏名を明記し、sibahara@mail.ryukoku.ac.jpに送る。
３．課題ファイル末尾の記入欄に記し、口頭で伝えた上で提出する。

■講義計画
①Orientation
　Unit 1　Eating Out
②Unit 2　Travel
③Unit 3　Amusement
④Unit 4　Meetings
⑤Unit 5　Personnel
⑥Unit 6　Shopping
⑦Unit 7　Advertisement
⑧Unit 8　Daily Life
⑨Unit 9　Office Work
⑩Unit 10 Business
⑪Unit 11 Traffic
⑫Unit 12 Finance and Banking
⑬Unit 13 Media
⑭Unit 14 Health and Welfare
⑮TOEIC Bridge mini-Quiz
⑯The Final Examination

英語（再）

【担当】芝原　直美
【開講】前期　水３

■サブタイトル
TOEIC に向けて

■講義概要
TOEICに関連する演習問題を通して、
英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聞く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。
また、英語文化の基礎知識を身につけ、英語を用いて働くのに必要な広い視野を養うことを目指す。

■到達目標
TOEICで十分得点するのに必要な英語力、すなわち、必須の基本的語彙・文法事項・構文を修得する。
また、英語の知識を深めたり、英語学習の良い方法を知り、自ら外国語を学習する習慣につなげる。

■講義方法
主として教科書の問題演習に関する説明の後、情報教室を利用し学習ファイルを作成する。
学習ファイルは次週までに、クラスフォルダーに提出しなければならない。単に解答を記入するだけでなく、
自ら学習する力の育成を重視するので、学習方法や文法・解釈において各自の意見や疑問を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
学内の情報自習室でも、各自課題をし、課題ファイルを提出フォルダーに提出ができる。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）授業10回以上の参加を条件に概ね以下の通りとする。出席はPC起動を機械処理する。遅刻・早退・中座は1/3 欠席。各１点満点・15回　授業に遅れず出席をし、積極的に課題に取り組むこと。
小テスト（14%）15点満点・30分のMini-Testを２回実施し、その平均点を加算する。
レポート（26%）各2点満点のファイルを遅れずに15個提出する。
定期試験（45%）一般教室で聞き取りを含む筆記試験を実施する。
〔欠席した場合・試験結果が心配な場合〕 英語ニュースを読んでミニリポートを提出しよう。
よくできていると1点加点される。上限+５点まで。
1）読みやすく簡単な短い英語ニュースを見つけ、目を通す。クラスフォルダー参照：「英字新聞を読もう」
2）英語ニュースの要旨と感想を日本語または英語でまとめる。クラスフォルダー参照：「英語ニュース」
3）学籍番号、氏名、欠席日、欠席理由を記し、ニュースの写し、要旨・感想をまとめてニュースファイルとし、できるだけ早く提出フォルダー内のニュースフォルダーに提出しよう。

■テキスト
森田　光弘、鈴木　淳、Stephen B. Ryan 『Strategic Learning for the TOEIC Test』 松柏社　1,900円
音声ファイルは各自ダウンロードして用いる。

■参考文献
ＴＢＡ：授業中に適宜紹介する予定。

■履修上の注意・担当者からの一言
翻訳ソフトの利用を禁止する。辞書持参が望ましいが、忘れたときはネット辞書を利用しよう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１．授業中に直接連絡する。
２．Ｇメールをクラス、学籍番号、氏名を明記し、sibahara@mail.ryukoku.ac.jpに送る。
３．課題ファイル末尾の記入欄に記し、口頭で伝えた上で提出する。

■講義計画
①Orientation
Mini Test 1
②Chapter 1　Basics for Parts 1 & 5
③Chapter 2　Basics for Parts 2 & 5
④Chapter 3　Basics for Parts 2 & 5
⑤Chapter 4　Basics for Parts 3 & 5
⑥Chapter 5　Basics for Parts 4 & 5
⑦Chapter 6　Basics for Parts 6 & 5
⑧Chapter 7　Basics for Parts 7 & 5
⑨Mini-Test 2
⑩Chapter 8　Strategies for Parts 1 & 5
⑪Chapter 9　Strategies for Parts 2 & 5
⑫Chapter 10 Strategies for Parts 3 & 5
⑬Chapter 11 Strategies for Parts 4 & 5
⑭Chapter 12 Strategies for Parts 6 & 5
⑮Chapter 13 Strategies for Parts 7 & 5
⑯The Final Examination

英語（再）

【担当】芝原　直美
【開講】後期　水３

■サブタイトル
TOEIC Bridgeに向けて

■講義概要
TOEIC Bridgeに関連する演習問題を通して、
英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聞く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。
また、英語文化の基礎知識を身につけ、英語を用いて働くのに必要な広い視野を養うことを目指す。

■到達目標
TOEIC Bridge で十分得点するのに必要な英語力、すなわち、必須の基本的語彙・文法事項・構文を修得する。
また、英語の知識を深めたり、英語学習の良い方法を知り、自ら外国語を学習する習慣につなげる。

■講義方法
主として教科書の問題演習に関する説明の後、情報教室を利用し学習ファイルを作成する。
学習ファイルは次週までに、クラスフォルダーに提出しなければならない。単に解答を記入するだけでなく、
自ら学習する力の育成を重視するので、学習方法や文法・解釈において各自の意見や疑問を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
学内の情報自習室でも、各自課題をし、課題ファイルを提出フォルダーに提出ができる。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）授業10回以上の参加を条件に概ね以下の通りとする。出席はPC起動を機械処理する。遅刻・早退・中座は1/3 欠席。各１点満点・15回　授業に遅れず出席をし、積極的に課題に取り組むこと。
小テスト（10%）10点満点・10分の小テストを２回実施し、その平均点を加算する。
レポート（30%）各２点満点のファイルを遅れずに15個提出する。
定期試験（45%）一般教室で聞き取りを含む筆記試験を実施する。
〔欠席した場合・試験結果が心配な場合〕 英語ニュースを読んでミニリポートを提出しよう。
よくできていると1点加点される。上限+５点まで。
1）読みやすく簡単な短い英語ニュースを見つけ、目を通す。クラスフォルダー参照：「英字新聞を読もう」
2）英語ニュースの要旨と感想を日本語または英語でまとめる。クラスフォルダー参照：「英語ニュース」
3）学籍番号、氏名、欠席日、欠席理由を記し、ニュースの写し、要旨・感想をまとめてニュースファイルとし、できるだけ早く提出フォルダー内のニュースフォルダーに提出しよう。

■テキスト
林　姿穂、西田晴美、Brian Covert 『Crossing the TOEIC Bridge』 朝日出版社　1,944円
音声ファイルは各自ダウンロードして用いる。

■参考文献
ＴＢＡ：授業中に適宜紹介する予定。

■履修上の注意・担当者からの一言
翻訳ソフトの利用を禁止する。辞書持参が望ましいが、忘れたときはネット辞書を利用しよう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１．授業中に直接連絡する。
２．Ｇメールをクラス、学籍番号、氏名を明記し、sibahara@mail.ryukoku.ac.jpに送る。
３．課題ファイル末尾の記入欄に記し、口頭で伝えた上で提出する。

■講義計画
①Orientation
　Unit 1　Eating Out
②Unit 2　Travel
③Unit 3　Amusement
④Unit 4　Meetings
⑤Unit 5　Personnel
⑥Unit 6　Shopping
⑦Unit 7　Advertisement
⑧Unit 8　Daily Life
⑨Unit 9　Office Work
⑩Unit 10 Business
⑪Unit 11 Traffic
⑫Unit 12 Finance and Banking
⑬Unit 13 Media
⑭Unit 14 Health and Welfare
⑮TOEIC Bridge mini-Quiz
⑯The Final Examination

英語（再）

【担当】薗田　千寿子
【開講】前期　金４

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読を通じてすべての基礎となる「読解力」の養成を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業終了時に次回授業のリーディングアサインメントを指示します。当該部分を事前に読み、単語の意味や文章の内容を調べておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）予習の度合い、授業への貢献度
小テスト（40%）各ユニットの単語および内容に関する小テスト
そ の 他（30%）ライティング

■テキスト
Rebecca Klevberg Moller 『World in Focus』 Cengage
2,400円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝えます。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
①Introduction 成績評価、授業運営等の説明
②Chapter 2　Lightning
③Chapter 3　Penguins in Trouble
④Chapter 4　Parasomnia
⑤Chapter 5　Maasai Teacher
⑥Chapter 6　Living in Venice
⑦Chapter 7　Tornado Chase
⑧Chapter 8　Treasures in Old San Juan
⑨Chapter 9　Bee Therapy
⑩Chapter 10 Inca Mammy
⑪Chapter 11 Global Warming
⑫Chapter 12 More Water for India
⑬Chapter 13 Tsunami: Killer Wave
⑭Chapter 14 Mecca
⑮Chapter 15 Butler School

英語（再）

【担当】薗田　千寿子
【開講】後期　金４

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読を通じてすべての基礎となる「読解力」の養成を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業終了時に次回授業のリーディングアサインメントを指示します。授業の当該部分を事前に読み、単語の意味や文章の内容を調べておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）予習の度合い、授業への貢献度
小テスト（40%）各ユニットの単語および内容に関する小テスト
そ の 他（30%）ライティング

■テキスト
John S. Lander『Video Magazine Vol. 3』朝日出版社　1,800円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝えます。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
①Introduction 成績評価、授業運営の説明
②Unit 1　Fishing in the Sierras
③Unit 3　Science Fiction Movie Reviews
④Unit 4　Sense Simulation
⑤Unit 5　Sound Effects
⑥Unit 6　The Brain
⑦Unit 7　Glaciers
⑧Unit 8　Dolphins
⑨Unit 9　Musicals
⑩Unit 10 Spam
⑪Unit 11 Modern Architecture
⑫Unit 12 Man on the Moon
⑬Unit 13 Nature Reserve
⑭Unit 14 Creative Recycling
⑮Unit 15 Amazon

英語（再）

【担当】谷　綾子
【開講】前期　火4

■サブタイトル
Step Up with Movie English
■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎をもとに4技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。
■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。
■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとる。基本的な文法を確認しつつ専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。
■授業時間外における予・復習等の指示
各ユニットの終わりに小テストを行うのでしっかり復習しておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席率、授業への参加度などを基準に評価する
小テスト（30%）各ユニットの終わりに理解度を測る小テストを行う
定期試験（40%）2/3以上出席したものを対象に行う
授業中の携帯電話、スマホの使用を禁ずる。
辞書とテキストは毎回持参すること。
■テキスト
井村誠 『Step Up with Movie English』 金星堂　2,160円
■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）
■講義計画
①教科書の使い方、授業の目的、評価の基準などの説明
②Unit 1　Introduction
③Unit 2　Assignment
④Unit 2　Assignment
⑤Unit 3　Put it into Action
⑥Unit 3　Put it into Action
⑦Unit 4　Forgiveness
⑧Unit 4　Forgiveness
⑨Unit 5　Exposure
⑩Unit 5　Exposure
⑪Unit 6　Do It For Someone Else
⑫Unit 6　Do It For Someone Else
⑬Unit 7　Love and Courage
⑭Unit 7　Love and Courage
⑮全体の復習

英語（再）

【担当】谷　綾子
【開講】後期　火4

■サブタイトル
Step Up with Movie English
■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎をもとに4技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。
■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。
■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとる。基本的な文法を確認しつつ専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。
■授業時間外における予・復習等の指示
各ユニットの終わりに小テストを行うのでしっかり復習しておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席率、授業への参加度などを基準に評価する
小テスト（30%）各ユニットの終わりに理解度を測る小テストを行う
定期試験（40%）2/3以上出席したものを対象に行う
授業中の携帯電話、スマホの使用を禁ずる。
辞書とテキストを毎回持参すること。
■テキスト
井村誠 『Step Up with Movie English』 金星堂　2,160円
■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）
■講義計画
①Introduction
②Introduction
③Responsibility
④Responsiblity
⑤The First Night at the Museum
⑥The First Night at the Museum
⑦Getting Prepared
⑧Getting Prepared
⑨Man on a Mission
⑩Man on a Misssion
⑪Conspiracy
⑫Conspiracy
⑬Cooperation
⑭Cooperation
⑮復習

英語（再）

【担当】西川　隆
【開講】前期　金４

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。
どのような話題の英文であっても、辞書があれば読み進んでゆけるように、一定の文法的な理解に基づいた基本的な読解力を身につけることを目標とする。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。基本的に、テキストを中心にして、各ユニットの本文を、語彙、文法上のポイントなどを確認しながら読み進めてゆく。また、進度については、実際に授業を進めてゆくなかで、適宜、調整してゆく。

■授業時間外における予・復習等の指示
各ユニット本文の内容について発言を求めるので、必ず予習をして授業に臨むこと。また、語彙、文法上のポイントなどについては必ず復習し、本文の内容の確認に努めること。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業内発表の内容、取り組みの姿勢を段階をつけて評価する。
定期試験（70%）授業で取り上げたテキストの箇所を範囲とし、その内容、形式の詳細については、学期の最終授業時に説明する。
全授業回数の２/３以上の出席がない場合、定期試験の受験資格が与えられないものとする。また、授業に取り組む姿勢が消極的な場合、特に減点の対象となることもある。

■テキスト
竹内　理、他『Reading Stream:　Elementary』金星堂　1,700円

■参考文献
『基本学習事項--文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■講義計画
①授業にかんするガイダンス
　テキストへの導入
②Unit 1
③Unit 1, Exercises
④Unit 2
⑤Unit 2, Exercises
⑥Unit 3
⑦Unit 3, Exercises
⑧Unit 4
⑨Unit 4,　Exercises
⑩Unit 5
⑪Unit 5, Exercises
⑫Unit 6
⑬Unit 6, Exercises
⑭Unit 7
⑮Unit 7, Exercises

英語（再）

【担当】西川　隆
【開講】後期　金４

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。
どのような話題の英文であっても、辞書があれば読み進んでゆけるように、一定の文法的な理解に基づいた基本的な読解力を身につけることを目標とする。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。基本的に、テキストを中心にして、各ユニットの本文を、語彙、文法上のポイントなどを確認しながら読み進めてゆく。また、進度については、実際に授業を進めてゆくなかで、適宜、調整してゆく。

■授業時間外における予・復習等の指示
各ユニット本文の内容について発言を求めるので、必ず予習をして授業に臨むこと。また、語彙、文法上のポイントなどについては必ず復習し、本文の内容の確認に努めること。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業内発表の内容、取り組みの姿勢を段階をつけて評価する。
定期試験（70%）授業で取り上げたテキストの箇所を範囲とし、その内容、形式の詳細については、学期の最終授業時に説明する。
全授業回数の２/３以上の出席がない場合、定期試験の受験資格が与えられないものとする。また、授業に取り組む姿勢が消極的な場合、特に減点の対象となることもある。

■テキスト
宍戸　真、他　『Practical Reading Expert』　成美堂　1,800円

■参考文献
『基本学習事項--文法・単語・構文・熟語』

■講義計画
①授業にかんするガイダンス
　テキストへの導入
②Lesson 1
③Lesson 2
④Lesson 3
⑤Lesson 4
⑥Lesson 5
⑦Lesson 6
⑧Lesson 7
⑨Lesson 8
⑩Lesson 9
⑪Lesson 10
⑫Lesson 11
⑬Lesson 12
⑭Lesson 13
⑮Lesson 14

英語（再）

【担当】西川　由美子
【開講】前期　水2

■講義概要
簡潔かつ実用的な英語で構成されたテキストを、既習の文法事項を確認しながら学習することで、日常レベルの英語の理解度を高めます。

■到達目標
日常レベルで役に立つ、基礎的な英文法と語彙、会話表現の習得。

■講義方法
・授業開始時、受講生全員が、WARM-UPと練習問題の解答を用意していることを前提に、授業を進めます。授業は「予習の成果を確認する場」と捉えてください。
・授業2回分で1つのUnitを学習します。
・前半週は、リスニング問題が中心ですが、語い、文法の学習もあわせておこないます。
・後半週は、リーディング問題、語い、文法の学習が中心です。
・毎回の授業中、「練習問題の解答」を提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示
【予　習】単位取得のために、予習はかかせません。講義計画にある日程表を参考に、授業に出席する前に、WARM-UPの解答と各問題文の日本語訳を考えた上で、必ず、「練習問題」の解答を用意しておくこと。予習には、辞書、文法書、付属CDを存分に利用してください。
【復　習】予習で不明だった箇所を授業で明らかにし、さらに、時間をおかず、自宅で復習することが重要です。「復習テスト」や「期末テスト」があることをふまえ、毎回の授業内容の消化に努めましょう。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回の授業中に回収する「練習問題の解答」。ただし、WARM-UPや各問題文の日本語訳を含む予習状況や、受講態度も勘案する。
定期試験（20%）期末試験期間中に実施。詳細は後日口頭で発表。
その他（50%）「復習テスト」を1回実施。テキストの「練習問題」から出題。詳細は後日口答で発表。

■テキスト
Seisuke Yasunami『Starting on the TOEIC Test』朝日出版社 1,800円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
・自覚的に単位取得を目指すためにも、始業時刻を厳守すること。チャイムが鳴り終わったところで出席をとります。
・６回欠席すると期末試験の受験資格がなくなります。ただし、遅刻（20分まで）２回で欠席１回とみなします。
・無断退室は欠席扱いとします。私語、居眠りなど不真面目な受講態度は減点の対象になることがあります。

■講義計画
①授業についての説明
②Unit１　前半週の学習範囲→WARM-UP, Part 1 ～ Part 4
③Unit１　後半週の学習範囲→Part 5 ～ Part 7
④Unit２　前半週
⑤Unit２　後半週
⑥Unit３　前半週
⑦Unit３　後半週
⑧Unit４　前半週
⑨Unit４　後半週
⑩Unit５　前半週
⑪Unit５　後半週
⑫Unit６　前半週
⑬Unit６　後半週
⑭「復習テスト」 範囲：Unit 1 ～ Unit 6
⑮質問日

英語（再）

【担当】西川　由美子
【開講】後期　水2

■講義概要
簡潔かつ実用的な英語で構成されたテキストを、既習の文法事項を確認しながら学習することで、日常レベルの英語の理解度を高めます。

■到達目標
日常レベルで役に立つ、基礎的な英文法と語彙、会話表現の習得。

■講義方法
・授業開始時、受講生全員が、WARM-UPと練習問題の解答を用意していることを前提に、授業を進めます。授業は「予習の成果を確認する場」と捉えてください。
・授業2回分で1つのUnitを学習します。
・前半週は、リスニング問題が中心ですが、語い、文法の学習もあわせておこないます。
・後半週は、リーディング問題、語い、文法の学習が中心です。
・毎回の授業中、「練習問題の解答」を提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示
【予　習】単位取得のために、予習はかかせません。講義計画にある日程表を参考に、授業に出席する前に、WARM-UPの解答と各問題文の日本語訳を考えた上で、必ず、「練習問題」の解答を用意しておくこと。予習には、辞書、文法書、付属CDを存分に利用してください。
【復　習】予習で不明だった箇所を授業で明らかにし、さらに、時間をおかず、自宅で復習することが重要です。「復習テスト」や「期末テスト」があることをふまえ、毎回の授業内容の消化に努めましょう。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回の授業中に回収する「練習問題の解答」。ただし、WARM-UPや各問題文の日本語訳を含む予習状況や、受講態度も勘案する。
定期試験（20%）期末試験期間中に実施。詳細は後日口頭で発表。
その他（50%）「復習テスト」を1回実施。テキストの「練習問題」から出題。詳細は後日口答で発表。

■テキスト
Seisuke Yasunami『Starting on the TOEIC Test』朝日出版社 1,800円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
・自覚的に単位取得を目指すためにも、始業時刻を厳守すること。チャイムが鳴り終わったところで出席をとります。
・６回欠席すると期末試験の受験資格がなくなります。ただし、遅刻（20分まで）２回で欠席１回とみなします。
・無断退室は欠席扱いとします。私語、居眠りなど不真面目な受講態度は減点の対象になることがあります。

■講義計画
①授業についての説明
②Unit７　前半週の学習範囲→WARM-UP, Part 1 ～ Part 4
③Unit７　後半週の学習範囲→Part 5 ～ Part 7
④Unit８　前半週
⑤Unit８　後半週
⑥Unit９　前半週
⑦Unit９　後半週
⑧Unit１０　前半週
⑨Unit１０　後半週
⑩Unit１１　前半週
⑪Unit１１　後半週
⑫Unit１２　前半週
⑬Unit１２　後半週
⑭「復習テスト」 範囲：Unit 7 ～ Unit １２
⑮質問日

英語（再）

【担当】西川　由美子
【開講】前期　水３

■講義概要
簡潔かつ実用的な英語で構成されたテキストを、既習の文法事項を確認しながら学習することで、日常レベルの英語の理解度を高めます。
■到達目標
日常レベルで役に立つ、基礎的な英文法と語彙、会話表現の習得。
■講義方法
・授業開始時、受講生全員が、WARM-UPと練習問題の解答を用意していることを前提に、授業を進めます。授業は「予習の成果を確認する場」と捉えてください。
・授業2回分で1つのUnitを学習します。
・前半週は、リスニング問題が中心ですが、語い、文法の学習もあわせておこないます。
・後半週は、リーディング問題、語い、文法の学習が中心です。
・毎回の授業中、「練習問題の解答」を提出してもらいます。
■授業時間外における予・復習等の指示
【予　習】単位取得のために、予習はかかせません。講義計画にある日程表を参考に、授業に出席する前に、WARM-UPの解答と各問題文の日本語訳を考えた上で、必ず、「練習問題」の解答を用意しておくこと。予習には、辞書、文法書、付属CDを存分に利用してください。
【復　習】予習で不明だった箇所を授業で明らかにし、さらに、時間をおかず、自宅で復習することが重要です。「復習テスト」や「期末テスト」があることをふまえ、毎回の授業内容の消化に努めましょう。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回の授業中に回収する「練習問題の解答」。ただし、WARM-UPや各問題文の日本語訳を含む予習状況や、受講態度も勘案する。
定期試験（20%）期末試験期間中に実施。詳細は後日口頭で発表。
その他（50%）「復習テスト」を1回実施。テキストの「練習問題」から出題。詳細は後日口答で発表。
■テキスト
Seisuke Yasunami『Starting on the TOEIC Test』朝日出版社 1,800円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
・自覚的に単位取得を目指すためにも、始業時刻を厳守すること。チャイムが鳴り終わったところで出席をとります。
・６回欠席すると期末試験の受験資格がなくなります。ただし、遅刻（20分まで）２回で欠席１回とみなします。
・無断退室は欠席扱いとします。私語、居眠りなど不真面目な受講態度は減点の対象になることがあります。
■講義計画
①授業についての説明
②Unit１　前半週の学習範囲→WARM-UP,　Part 1 ～ Part 4
③Unit１　後半週の学習範囲→Part 5 ～ Part 7
④Unit２　前半週
⑤Unit２　後半週
⑥Unit３　前半週
⑦Unit３　後半週
⑧Unit４　前半週
⑨Unit４　後半週
⑩Unit５　前半週
⑪Unit５　後半週
⑫Unit６　前半週
⑬Unit６　後半週
⑭「復習テスト」 範囲：Unit 1 ～ Unit 6
⑮質問日

英語（再）

【担当】西川　由美子
【開講】後期　水３

■講義概要
簡潔かつ実用的な英語で構成されたテキストを、既習の文法事項を確認しながら学習することで、日常レベルの英語の理解度を高めます。
■到達目標
日常レベルで役に立つ、基礎的な英文法と語彙、会話表現の習得。
■講義方法
・授業開始時、受講生全員が、WARM-UPと練習問題の解答を用意していることを前提に、授業を進めます。授業は「予習の成果を確認する場」と捉えてください。
・授業2回分で1つのUnitを学習します。
・前半週は、リスニング問題が中心ですが、語い、文法の学習もあわせておこないます。
・後半週は、リーディング問題、語い、文法の学習が中心です。
・毎回の授業中、「練習問題の解答」を提出してもらいます。
■授業時間外における予・復習等の指示
【予　習】単位取得のために、予習はかかせません。講義計画にある日程表を参考に、授業に出席する前に、WARM-UPの解答と各問題文の日本語訳を考えた上で、必ず、「練習問題」の解答を用意しておくこと。予習には、辞書、文法書、付属CDを存分に利用してください。
【復　習】予習で不明だった箇所を授業で明らかにし、さらに、時間をおかず、自宅で復習することが重要です。「復習テスト」や「期末テスト」があることをふまえ、毎回の授業内容の消化に努めましょう。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回の授業中に回収する「練習問題の解答」。ただし、WARM-UPや各問題文の日本語訳を含む予習状況や、受講態度も勘案する。
定期試験（20%）期末試験期間中に実施。詳細は後日口頭で発表。
その他（50%）「復習テスト」を1回実施。テキストの「練習問題」から出題。詳細は後日口答で発表。
■テキスト
Seisuke Yasunami『Starting on the TOEIC Test』朝日出版社 1,800円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
・自覚的に単位取得を目指すためにも、始業時刻を厳守すること。チャイムが鳴り終わったところで出席をとります。
・６回欠席すると期末試験の受験資格がなくなります。ただし、遅刻（20分まで）２回で欠席１回とみなします。
・無断退室は欠席扱いとします。私語、居眠りなど不真面目な受講態度は減点の対象になることがあります。
■講義計画
①授業についての説明
②Unit７　前半週の学習範囲→WARM-UP,　Part 1 ～ Part 4
③Unit７　後半週の学習範囲→Part 5 ～ Part 7
④Unit８　前半週
⑤Unit８　後半週
⑥Unit９　前半週
⑦Unit９　後半週
⑧Unit１０　前半週
⑨Unit１０　後半週
⑩Unit１１　前半週
⑪Unit１１　後半週
⑫Unit１２　前半週
⑬Unit１２　後半週
⑭「復習テスト」 範囲：Unit 7 ～ Unit 12
⑮質問日

英語（再）

【担当】宮尾　元子
【開講】前期　火4

■講義概要
１年次で学習した、リーディング、リスニング科目をもう一度おさらいし、総合的な英語力の伸長をはかる。
■到達目標
異文化の理解を深めて、英語コミュニケーション能力を養う。
■講義方法
英語圏で頻繁に使われる表現を、TOEIC形式の演習問題の中でリサイクルさせて、段階的に学習する。三章分を終える毎に語彙に関する小テストを行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストにはCDが完備されているので、何度も聴いて必須表現や語彙を覚えこもう。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）宿題や発表等、授業への取り組み方の評価。
小テスト（20%）単語テスト。
レポート（10%）授業での提出物等。
定期試験（50%）まとめのテスト
単位取得には総授業回数の三分の二以上の出席が必要である。
■テキスト
倉田誠、他 『Journey to Success』 桐原書店　1,800円
■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1 Departure/Arrival
③Unit 1 Departure/Arrival
④Unit 2 Homestay
⑤Unit 2 Homestay
⑥Unit 3 Telephone
⑦Unit 3 Telephone
⑧Unit 4 Shopping と小テスト
⑨Unit 4 Shopping
⑩Unit 5 Getting around
⑪Unit 5 Getting around
⑫Unit 6 Eating out
⑬Unit 6 Eating out
⑭Review Test　と小テスト
⑮前期の総復習

英語（再）

【担当】宮尾　元子
【開講】後期　火4

■講義概要
１年次で学習した、リーディング、リスニング科目をもう一度おさらいし、総合的な英語力の伸長をはかる。
■到達目標
異文化の理解を深めて、英語コミュニケーション能力を養う。
■講義方法
英語圏で頻繁に使用される表現を、TOEIC形式の演習問題の中でリサイクルさせて、段階的に学習する。三章分を終える毎に語彙に関する小テストを行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストにはCDが完備されているので、何度も聴いて必須表現や語彙を覚えこもう。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）宿題や発表等、授業への取り組み方の評価。
小テスト（20%）単語テスト
レポート（10%）授業での提出物等。
定期試験（50%）まとめのテスト
■テキスト
倉田誠、他 『Journey to Success』 桐原書店　1,800円
■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 7　Parties and Celebrations
③Unit 7　Parties and Celebrations
④Unit 8　Hotel
⑤Unit 8　Hotel
⑥Unit 9　Sightseeing
⑦Unit 9　Sightseeing
⑧Unit 10 Staying Healthyと小テスト
⑨Unit 10 Staying Healthy
⑩Unit 11 Housing
⑪Unit 11 Housing
⑫Unit 12 Studying abroad
⑬Unit 12 Studying abroad
⑭小テストとReview Test
⑮後期の総復習

スポーツ技術学A

【担当】種目・開講曜講時による
【開講】学科により異なる

■講義概要
現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。
1）スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
2）スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
3）自己の体力を分析し、改善策を探る。
スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の２種目のスポーツを行う。

■到達目標
1．スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2．自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法
より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、
1）１年次配当必修で、前期１単位、後期１単位、計２単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。
2）ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、バレーボールの７種目の中から指定された種目を履修する。
3）登録方法は、①予備登録およびWeb登録、②たて３cmよこ2.5cmの写真（出席カード用）２枚を準備し、最初の授業時間（体育館メインフロア）に持参する。なお最初の授業時にはトレーニングウエアは不要である。

■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションの時に指示する

■成績評価の方法
平 常 点（70%）出席と授業参加
レポート（30%）体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
○スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
○体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画
①オリエンテーション（体育館メインフロアに集合､更衣の必要なし）
②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑫体力測定①
⑬体力測定②（体育館に集合）
⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については、講義時に指示）

スポーツ技術学B

【担当】種目・開講曜講時による
【開講】学科により異なる

■講義概要
現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。
1）スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
2）スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
3）自己の体力を分析し、改善策を探る。
スポーツ技術学は､一年次の履修で､前･後期の２種目のスポーツを行う。

■到達目標
1．スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2．自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法
より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、
1）１年次配当必修で、前期１単位、後期１単位、計２単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。
2）ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、バレーボールの７種目の中から指定された種目を履修する。

■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションのときに指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）出席と授業参加
レポート（30%）体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
○スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
○体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画
①各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑫体力測定①
⑬体力測定②（体育館に集合）
⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については､講義時に指示）

仏教の思想

「仏教の思想Ａ・Ｂ」

龍谷大学は、「一切の人間が平等に真実心を与えられているという親鸞精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養とをもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想Ａ・Ｂ」は龍谷大学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義は、龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己をふりかえり、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とします。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想Ａ・Ｂ」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。

この「仏教の思想Ａ・Ｂ」を平易に理解していただくために、以下に教育目標と講義の主な内容を掲げておきます。

講義の教育目標

１．人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。

真実の宗教は、その思想と文化を通して、人間に二つの働きをもっている。一つは、自己の存在意味や人生の根本的な方向性を指し示すという働きである。もう一つは、日々の生活の中で直面する苦しみや悲しみを乗りこえさせるという働きである。仏教は、この二つの働きをもって、自己中心的に生きようとする人間が、あるべき理想の人間に向かって、脱皮、成長していくことをめざしている。

２．倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。

仏教は一つの学問である。高校では、公民科「倫理」や地歴科「世界史」「日本史」の教科で、仏教を学習する。それを踏まえ、「仏教の思想」の教育目標に、次の点を掲げる。

① 青年期における人間が、自ら歩んできた道・人生をあらためて見つめ直し、人間として生きる意味を考える。

② 学生が過去の人々の思想や生き方を学び、また現代社会の諸問題を考えることを通して、人間としての生きる意味や目的を探求する。

③ 仏教は、人類が継承してきた一つの智慧であり、世界の各地で、人々の心の依りどころとなっている。この歴史を学ぶことを通して、ものの見方を豊かにし、人生への思索を深める。

３．人間学として「仏教の思想」を学ぶ。

宗教は民族宗教と世界宗教に大きく分類されるが、世界宗教としての仏教の特質には次のような点があげられる。

・創造主なる神を想定しない

・人間を含むあらゆるいのちに重きを置く

仏教がめざしたのは生きとし生けるものの幸せ・平等・平和である。講義を通して自己を内省し、悲しみや苦しみに立ち向かう勇気と、他者に対する慈愛と感謝と寛容さを培う。

４．広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。

一つの固定的なものの見方を離れ、柔軟で、幅広い考え方や生き方が開かれるように、「仏教の思想」を学ぶ。

５．現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。

戦争・差別・貧困・犯罪など、世界の各地で現実に起きている問題と向きあい、どのように解決したらよいかについて考える。

６．いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。

いのちに関わる現代の諸問題－生命倫理や地球環境など－を積極的に見つめる。仏教は、一つひとつの存在が無限の意味と尊さをもって輝いていると伝えてきた。さまざまな執着や偏見をとりはらい、相手の幸せを願い、相手の痛みをともに分かちあおうとする共感を養う。

７．「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

龍谷大学は、シルクロードコレクションなどの世界的に貴重な古典籍を有する大学である。1639 年創設以来からの、龍谷大学の仏教の先進性と歴史的伝統を、建学の精神を学ぶことを通して理解し、龍谷大学を愛する学生を育てる。

講義の概要

「仏教の思想 A」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を適宜活用して講義を展開します。

「仏教の思想Ａ」では、釈尊の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

人間と宗教――カルトや原理主義・宗教の意義

神々と仏――民族宗教・世界宗教（キリスト教・イスラム教・仏教）

あるがままに見る眼――智慧・如実知見・四諦・三法印

いのちあるものすべてへの慈愛――慈悲・非暴力

自己中心的に考える人間存在――煩悩・我執・四苦八苦

支えあってつながっている宇宙――縁起の理法・空・無我

仏教の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している「仏教の思想と文化」に関する現物資料を教材として授業を行う予定です。講義とともに展示を観覧することで講義内容の理解を深めます。詳細については、講義の中でお知らせします。

仏教の思想Ａ

【担当】井上　博文
【開講】前期　水１

■講義方法
特定のテキストは使用しない。レジュメや参考資料のプリントを毎回配布し、口頭説明と板書による通常の講義形式で授業を進める。また視聴覚教材も適宜使用する。

■系統的履修
仏教の思想B

■授業時間外における予・復習等の指示
生の情報を見ることは重要であるので、龍谷ミュージアムに行くこと、及び近畿圏には見るべき寺院が多くあるので、適宜紹介する。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席とレポート
定期試験（50%）出題、形式に関するガイダンスは事前に行う
成績評価のルールについては初回授業で詳しく説明する。

■テキスト
特になし

■参考文献
龍谷ミュージアム編 『釈尊と親鸞：インドから日本への軌跡』 法藏館　1,575円
参考文献は担当者ができるだけ毎回紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
仏教は非常に面白いものである、というところを入り口にします。仏教は私たちの知的好奇心を大いに刺激してくれます。思想史としても、世界史としても奥行きがあり、これを学ぶことによってたくさんの気づきを与えてくれます。可能な限り、毎回参加し、感じたこと、考えたことをアウトプットできるようにしますので、是非興味を持つところから始めてください。また、仏教はものの見方、とらえ方を教えてくれます。自分の身体を使って、ミュージアムや寺院に足を運んで、様々なものを見てください。

■講義計画
①龍谷大学の沿革と建学の精神
②宗教についての考え方
③仏教以前のインド
④仏教興起の時代（バラモン教と六師外道）
⑤ブッダとは?
⑥ブッダの生涯と思想（1）～誕生と出家、求道（苦行から中道へ）
⑦ブッダの生涯と思想（2）～降魔成道から初転法輪－四諦八正道
⑧ブッダの生涯と思想（3）－無我、諸行無常、縁起
⑨ブッダの入滅とその後の教団結集伝説と教義の体系化
⑩部派分裂とアショーカ王
⑪仏教の視覚化と大乗仏教の発生～経典の文字化と仏像
⑫仏教のインドからの旅立ちと東漸～仏教の移動が意味すること
⑬中央アジアや中国など各地に広がり浸透していった仏教
⑭翻訳僧たちの活躍－インドへの求法の旅
⑮まとめ

仏教の思想Ａ

【担当】小野嶋　祥雄
【開講】前期　水１

■講義方法
毎講義時に配布するプリントと板書によって講義を進める。また、視聴覚教材も適宜活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に紹介する参考文献の通読、寺社への拝観、博物館展示の鑑賞などを通じて、講義内容についての理解を深めることが必要となる。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）「授業回数の３分の２以上の出席者」を評価対象とし、受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードの内容により総合的に評価する。
定期試験（60%）点数により評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
講義時に適宜紹介する。

■講義計画
①ガイダンス（講義概要、なぜ仏教を学ぶのか、龍谷大学の沿革と建学の精神）
②宗教とは何か（世界の宗教、現代社会と宗教、カルトについて知る）
③仏教以前のインド
④釈尊の生涯と思想①（当時の社会状況・誕生）
⑤釈尊の生涯と思想②（出家と求道）
⑥釈尊の生涯と思想③（成道）
⑦釈尊の生涯と思想④（伝道）
⑧釈尊の生涯と思想⑤（入滅）
⑨仏教教団の成立と規則（戒律）
⑩教団の分裂と聖典の編纂
⑪部派仏教とその思想①
⑫部派仏教とその思想②
⑬大乗仏教の興起とその思想①
⑭大乗仏教の興起とその思想②
⑮まとめ

仏教の思想Ａ

【担当】金澤　豊
【開講】前期　水１

■講義方法
特定のテクストは用いず、レジュメを配布する。
配布物に沿って講義を進めるため、配布物の整理整頓は必須。
また、講義終了時に担当者が提示するテーマに即したコメントカードを提出してもらう。
必要に応じて視聴覚教材も使用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
龍谷ミュージアム見学の際などには、必ず小レポートの提出を求める。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況・受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードにより総合的に評価する。
定期試験（50%）点数により評価する。
単位認定のためには講義の総回数の３分の２以上の出席を要する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①ガイダンス
②宗教を学ぶ：カルトや原理主義・宗教の意義
③仏教を学ぶ：インドから日本へ
④仏教を学ぶ：龍谷大学の歴史と建学の精神
⑤釈尊の生涯：仏教前史・釈尊誕生
⑥釈尊の生涯：求道から成道
⑦釈尊の生涯：伝道から涅槃
⑧仏陀の教え：あるがままに見る眼
⑨仏陀の教え：いのちあるものすべてへの慈愛
⑩仏陀の教え：自己中心的に考える人間存在
⑪仏陀の教え：支えあってつながっている宇宙
⑫仏教徒の生活：戒律
⑬仏教徒の生活：修行
⑭仏教徒の生活：寺院と社会
⑮まとめ

仏教の思想Ａ（再）

【担当】北岑　大至
【開講】後期　火５

■講義方法
特定のテキストは用いず、毎回配布する資料をもとに講義を進める。また視覚資料も適宜使用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
復習を十分に行い講義に望んでもらいたい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席、受講態度、講義内容に関するコメント、講義中の小レポートなど。
定期試験（60%）点数を評価とする。
総授業回数の３分の１を越えて欠席した者は、平常点の評価対象とならない。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に適宜紹介する。
■講義計画
①ガイダンス
　－龍谷大学の沿革と建学の精神－
②仏教を学ぶということ
③仏教誕生の時代背景
④釈尊の生涯と思想―誕生・出家
⑤釈尊の生涯と思想―求道・成道
⑥釈尊の生涯と思想―初転法輪・涅槃
⑦釈尊の生涯と思想―仏教教団の展開
⑧大乗仏教の興起と思想
⑨仏教の伝播とまとめ

講義の概要

「仏教の思想 B」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を適宜活用して講義を展開します。

「仏教の思想 B」では、親鸞の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

鎌倉仏教の位置と特質――法然・親鸞・道元・日蓮・一遍

真実の探求――老少善悪を問わず・易行・わけへだてのない安らぎの道

自己を徹底的に見つめる――悪人正機・煩悩具足の凡夫・罪悪深重

現実世界への凝視と安らぎへの願い――火宅無常の世界・欣求浄土・世のなか安穏なれ

あるがままで受け容れられる世界――摂取不捨・阿弥陀仏の本願・自力と他力

あらゆるものは輝いている――白色白光・御同朋御同行・他者の尊重

親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している「仏教の思想と文化」に関する現物資料を教材として授業を行う予定です。講義とともに展示を観覧することで講義内容の理解を深めます。詳細については、講義の中でお知らせします。

仏教の思想B

【担当】井上　博文
【開講】後期　水1

■講義方法
特定のテキストは使用しない。レジュメや参考資料のプリントを配布し、口頭説明と板書による通常の講義形式で授業を進める。またこの講義は、見ることを重視するので、視聴覚教材も数回使用することを予定している。

■系統的履修
仏教の思想A

■授業時間外における予・復習等の指示
特に予習等の指示はないが、龍谷ミュージアムで見学をする際にはレポートを求める。
また適宜レポートを課題とすることもある。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席とレポート
定期試験（50%）出題、形式に関するガイダンスは事前に行う
成績評価のルールについては初回授業で詳しく説明する。

■テキスト
特になし

■参考文献
龍谷ミュージアム編 『釈尊と親鸞：インドから日本への軌跡』
法藏館　1,575円
参考文献は担当者ができるだけ毎回紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
後期は日本仏教と親鸞を中心に見ますが、日本の仏教は私たちの生活にあまりにも近くにあるため、かえって気付かない点、知っているようで知らない点が多々あります。日本にどうやって仏教が導入され、何を期待され、聖徳太子が何を願い、どんな経緯で奈良から長岡京や京都に移転し、京都でどんな仏教に変わっていったのか。なぜ奈良の仏教は京都に移転しなかったのか、空海、最澄平安仏教のスターたちは日本の仏教をどう変えたのか、法然、親鸞はどうやって浄土思想にたどり着き、なぜ今に残ったのか。疑問をたくさん持てば持つほど、なるほどという気づきに出会えます。たくさん観察して疑問をたくさんもってください。

■講義計画
①再びインド－紀元前後ごろ－大乗仏教の誕生と現代大乗仏教起源論争
②龍樹と中観学派
③唯識学派の誕生と展開
④如来蔵思想の誕生と展開
⑤密教とインドから出た仏教
⑥様々な言語や文字になった仏教（1）中央アジア、チベット
⑦様々な言語や文字になった仏教（2）南方仏教－タイ、ミャンマー、スリランカ
⑧中国仏教１
⑨中国仏教２－仏教日本伝来
⑩日本仏教黎明期－聖徳太子から奈良仏教
⑪平城京から長岡京、平安京－最澄と空海
⑫貴族の仏教と末法社会
⑬鎌倉仏教－法然浄土宗から親鸞へ
⑭親鸞の生涯と思想
⑮親鸞の生涯と思想（続）

仏教の思想B

【担当】小野嶋　祥雄
【開講】後期　水1

■講義方法
毎講義時に配布するプリントと板書によって講義を進める。また、視聴覚教材も適宜活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に紹介する参考文献の通読、寺社への拝観、博物館展示の鑑賞などを通じて、講義内容についての理解を深めることが必要となる。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）「授業回数の３分の２以上の出席者」を評価対象とし、受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードの内容により総合的に評価する。
定期試験（60%）点数により評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
講義時に適宜紹介する。

■講義計画
①ガイダンス（講義概要）
②中国における仏教の受容と展開①
③中国における仏教の受容と展開②
④朝鮮半島における仏教の受容と展開
⑤日本における仏教の受容と展開①（飛鳥・奈良時代）
⑥日本における仏教の受容と展開②（平安時代）
⑦日本における仏教の受容と展開③（鎌倉時代）
⑧日本における仏教の受容と展開④（鎌倉時代以降）
⑨浄土教の歴史と思想（七高僧の思想）
⑩親鸞聖人の生涯と思想①
⑪親鸞聖人の生涯と思想②
⑫親鸞聖人の生涯と思想③
⑬親鸞聖人の生涯と思想④
⑭親鸞聖人の生涯と思想⑤
⑮まとめ

仏教の思想Ｂ

【担当】金澤　豊
【開講】後期　水１

■講義方法
特定のテクストは用いず、レジュメを配布する。
配布物に沿って講義を進めるため、配布物の整理整頓は必須。
また、講義終了時に担当者が提示するテーマに即したコメントカードを提出してもらう。
必要に応じて視聴覚教材も使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示
龍谷ミュージアム見学の際などには、必ず小レポートの提出を求める。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況・受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードにより総合的に評価する。
定期試験（50%）点数により評価する。
単位認定のためには講義の総回数の３分の２以上の出席を要する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①ガイダンス
②大乗仏教の思想
③大乗仏教の経典
④中国における仏教の受容と展開①
⑤中国における仏教の受容と展開②
⑥中国における仏教の受容と展開③
⑦日本における仏教の受容と展開　飛鳥時代・奈良時代
⑧日本における仏教の受容と展開　平安時代
⑨日本における仏教の受容と展開　鎌倉時代
⑩浄土教の信仰
⑪親鸞聖人の生涯と思想①
⑫親鸞聖人の生涯と思想②
⑬親鸞聖人の生涯と思想③
⑭現代世界の仏教
⑮まとめ

仏教の思想Ｂ（再）

【担当】北岑　大至
【開講】前期　火５

■講義方法
特定のテキストは用いず、毎回配布する資料をもとに講義を進める。視覚資料も適宜使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示
特に復習が重要である。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席、受講態度、講義内容に関するコメント、講義中の小レポートなど。
定期試験（60%）点数を評価とする。
総授業回数の３分の１を越えて欠席した者は、平常点の評価対象とならない。

■テキスト
特になし

■参考文献
講義中に適宜紹介する。

■講義計画
①ガイダンス―仏教の思想Ａの復習―
②中国への仏教伝播―中国仏教と浄土教―
③日本への仏教伝播―日本仏教と浄土教―
④法然の生涯と思想
⑤親鸞の生涯
⑥親鸞の思想
⑦親鸞の思想と建学の精神
⑧まとめ

教養教育科目
基幹(選択必修)科目

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
キ	教育原論A	藤井　奈津子	前期	月1	31
	教育原論A	藤井　奈津子	前期	月2	31
	教育原論A	広川　義哲	前期	月3	32
	教育原論B	藤井　奈津子	後期	月1	32
	教育原論B	藤井　奈津子	後期	月2	33
	教育原論B	広川　義哲	後期	月3	33
ク	クリティカル・シンキング	岩﨑　豪人	前期	金5	34
	クリティカル・シンキング	岩﨑　豪人	後期	金5	34
ケ	経営学のすすめ	香川　文庸	後期	水1	35
	経済学のすすめ／経済学入門	藤田　和孝	前期	水4	35
	経済学のすすめ／経済学入門	渡邊　洋之	前期	木3	36
	経済学のすすめ／経済学入門	長谷　祐	前期	金5	36
	経済学のすすめ／経済学入門	渡邊　洋之	後期	木3	37
	言語学入門	五十嵐　海理／里井　久輝／前川　貴史	前期	火5	37
	言語学入門	嶋﨑　陽一	後期	月2	38
シ	社会学のすすめ／社会学入門	山本　哲司	前期	月2	38
	社会学のすすめ／社会学入門	山本　哲司	後期	月2	39
	社会調査のすすめ	山本　哲司	前期	月1	39
	社会調査のすすめ	山本　哲司	後期	月1	40
	社会統計学のすすめ／統計入門	伊庭　治彦	前期	木3	40
	社会統計学のすすめ／統計入門	長谷　祐	後期	金5	41
	宗教学のすすめ／現代社会と宗教	辻　虎志	前期	水5	41
	宗教学のすすめ／現代社会と宗教	辻　虎志	後期	水4	42
	宗教の世界／生活の中の宗教	辻　虎志	前期	水4	42
	宗教の世界／生活の中の宗教	辻　虎志	後期	水5	43
	心理学入門	破田野　智美	前期	月1	43
	心理学入門	松島　恵介	前期	月1	44
	心理学入門	破田野　智美	後期	月1	45
	心理学入門	松島　恵介	後期	月1	46
セ	政治学のすすめ／政治学入門	水垣　源太郎	前期	月1	47
	政治学のすすめ／政治学入門	水垣　源太郎	後期	月3	47
	西洋の文学A／文学入門	大槻　志郎	前期	水3	48
	西洋の文学A／文学入門	嶋﨑　陽一	前期	木3	49
	西洋の文学A／文学入門	坂本　輝世	後期	水3	49
	西洋の文学A／文学入門	嶋﨑　陽一	後期	木3	50
	西洋の歴史M	西村　昌洋	前期	水3	50
	西洋の歴史N／教養教育科目特別講義B（西洋近現代史入門）	西村　昌洋	後期	木3	51
チ	地理学のすすめ	松岡　恵悟	前期	木3	51
テ	哲学入門	渡邊　華月	前期	月3	52
	哲学入門	渡邊　華月	前期	水3	53
	哲学入門	渡邊　華月	後期	月3	54
	哲学入門	渡邊　華月	後期	水3	55
ニ	日本国憲法	時本　義昭	前期	月3	56
	日本国憲法	時本　義昭	前期	木3	56
	日本国憲法	時本　義昭	後期	月3	57
	日本国憲法	時本　義昭	後期	木3	57
	日本の文学M	島村　健司	前期	木3	58
	日本の文学N	島村　健司	後期	木3	59
	日本の歴史M	生田　敦司	前期	月3	59
	日本の歴史N	生田　敦司	後期	月3	60
ホ	法学のすすめ／法学入門	時本　義昭	前期	月1	60
	法学のすすめ／法学入門	時本　義昭	後期	月1	61
リ	倫理学入門	菊地　建至	前期	水3	62
	倫理学入門	菊地　建至	後期	水5	63
レ	歴史入門	中田　裕子	前期	木3	64
	歴史入門	中田　裕子	後期	木3	64

教育原論Ａ

【担当】藤井　奈津子
【開講】前期　月１

■サブタイトル
子どもの再発見
■講義概要
かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Aでは、まず後者のロマン主義的子ども観の流れに沿って、大人とは異なる〈子ども〉特有の生のありようについて考えていきたい。文学作品や映画に描かれた子どもを手がかりに、議論を進めていく予定である。
■到達目標
近代における子ども期の発見の歴史と、そこで見出された子ども特有の生のありようについて学び、現代の教育を考えていく上で重要な子ども観を理解できるようになることを目的とする。
■講義方法
板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には、ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。
■系統的履修
できれば教育原論Bも受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
子どもに関する記事やニュース、子どもが描かれた映画や文学作品に関心をもち、積極的に親しむこと。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）毎回のコミュニケーション用紙への記入
レポート（40%）小レポート４回提出
定期試験（40%）期末試験
■テキスト
テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。
■参考文献
Ph. アリエス 『〈子供〉の誕生―アンシャン・レジーム期の子供と家庭生活』 みすず書房 5,200円
森田伸子 『テクストの子ども―ディスクール・レシ・イマージュ』 世織書房 2,600円
本田和子 『映像の子どもたち―ビデオという覗き窓』 人文書院 1,900円
■講義計画
①オリエンテーション
②子ども観の変遷
③子どもの時間（1）―ロマン主義的子ども観
④子どもの時間（2）―〔映画視聴〕
⑤子どもの時間（3）―映画解説―子どものリアリティ
⑥子どもと秘密（1）―子どもの秘密と大人の秘密
⑦子どもと秘密（2）―〔映画視聴〕
⑧子どもと秘密（3）―映画解説―現代における秘密の衰退
⑨子どものイニシエーション（1）―イニシエーションとは何か
⑩子どものイニシエーション（2）―〔映画視聴〕
⑪子どものイニシエーション（3）―映画解説―子どもから大人へ
⑫大人の生における子ども期の意味（1）―子ども期とは何か
⑬大人の生における子ども期の意味（2）―J.S.ミルの事例から
⑭大人の生における子ども期の意味（3）―里山学校の実践
⑮まとめ

教育原論Ａ

【担当】藤井　奈津子
【開講】前期　月２

■サブタイトル
子どもの再発見
■講義概要
かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Aでは、まず後者のロマン主義的子ども観の流れに沿って、大人とは異なる〈子ども〉特有の生のありようについて考えていきたい。文学作品や映画に描かれた子どもを手がかりに、議論を進めていく予定である。
■到達目標
近代における子ども期の発見の歴史と、そこで見出された子ども特有の生のありようについて学び、現代の教育を考えていく上で重要な子ども観を理解できるようになることを目的とする。
■講義方法
板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には、ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。
■系統的履修
できれば教育原論Bも受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
子どもに関する記事やニュース、子どもが描かれた映画や文学作品に関心をもち、積極的に親しむこと。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）毎回のコミュニケーション用紙への記入
レポート（40%）小レポート４回提出
定期試験（40%）期末試験
■テキスト
テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。
■参考文献
Ph. アリエス 『〈子供〉の誕生―アンシャン・レジーム期の子供と家庭生活』 みすず書房 5,200円
森田伸子 『テクストの子ども―ディスクール・レシ・イマージュ』 世織書房 2,600円
本田和子 『映像の子どもたち―ビデオという覗き窓』 人文書院 1,900円
■講義計画
①オリエンテーション
②子ども観の変遷
③子どもの時間（1）―ロマン主義的子ども観
④子どもの時間（2）―〔映画視聴〕
⑤子どもの時間（3）―映画解説―子どものリアリティ
⑥子どもと秘密（1）―子どもの秘密と大人の秘密
⑦子どもと秘密（2）―〔映画視聴〕
⑧子どもと秘密（3）―映画解説―現代における秘密の衰退
⑨子どものイニシエーション（1）―イニシエーションとは何か
⑩子どものイニシエーション（2）―〔映画視聴〕
⑪子どものイニシエーション（3）―映画解説―子どもから大人へ
⑫大人の生における子ども期の意味（1）―子ども期とは何か
⑬大人の生における子ども期の意味（2）―J.S.ミルの事例から
⑭大人の生における子ども期の意味（3）―里山学校の実践
⑮まとめ

教育原論A

【担当】広川　義哲
【開講】前期　月3

■サブタイトル
子ども・学校・社会

■講義概要
教育をめぐる動向がさまざまな変貌をとげ、教育をめぐるさまざまな言説が競合しているなかで、あらためて、教育について考えたい。子どもが「育つ」ときには、どんな風景がそこに広がっているのか。子どもが「学ぶ」学校とは、どのような場所なのか。そして、教育の思想は社会のあり方をどのように説明し、教育の歴史はどのように展開してきたのか。こうした問いを立てつつ、本講義では、教育の歴史や思想および今日的な状況を、子ども・学校・社会の三つの大きなテーマに配分して解説していく。

■到達目標
教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。

■講義方法
毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に適宜、指示します。

■成績評価の方法
レポート（20%）毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験（80%）学期末の筆記試験。

■テキスト
講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。

■参考文献
西平直　『教育人間学のために』 東京大学出版会
矢野智司　『ソクラテスのダブル・バインド』 世織書房
高橋勝　『文化変容のなかの子ども』 東信堂
柴田義松編　『新・教育原理』 有斐閣
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。

■講義計画
①イントロダクション
②教育学の基礎的な概念と枠組み
③育つ子ども：人間の発達と教育の理念
④遊ぶ子ども：フレーベルと遊びの思想
⑤子どもと教育の歴史①：近代日本の学力論争と学びの思想
⑥子どもと教育の歴史②：近代西洋の教育史と自己形成の思想
⑦学校と教育①：学校と教室の変容
⑧学校と教育②：経験の場所としての学校
⑨学校と教育③：子ども期の発見
⑩学校と教育④：近代における学校の成立史と学校像の変動
⑪教育をめぐる現状と課題①：学校化する社会
⑫教育をめぐる現状と課題②：教育と公共性の思想
⑬教育をめぐる現状と課題③：教育と社会化
⑭教育をめぐる現状と課題④：教育と社会の理念
⑮まとめ

教育原論B

【担当】藤井　奈津子
【開講】後期　月1

■サブタイトル
近代教育を超える可能性

■講義概要
かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び･働き･学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Bでは、前者の流れに沿って、子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題について検討し、その上で近代教育を超える新たな教育の可能性について考えていきたい。できるだけ具体的な教育問題・教育実践の事例を取り上げながら、議論を進めていく予定である。

■到達目標
子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題を理解し、近代教育を超える現代の教育の可能性を考えていく視点をもつことができるようになることを目的とする。

■講義方法
板書と口述による講義のほかに､ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には､ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。

■系統的履修
できれば教育原論Aも受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示
教育現場や教育問題に関する記事やニュースに関心をもち、積極的に親しむこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）毎回のコミュニケーション用紙への記入
レポート（40%）小レポート４回提出
定期試験（40%）期末試験

■テキスト
テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。

■参考文献
亀山佳明 『子どもと悪の人間学－子どもの再発見のために』 以文社 3,400円
矢野智司 『自己変容という物語－生成・贈与・教育』 金子書房 2,200円

■講義計画
①オリエンテーション
②近代教育の誕生
③近代教育の諸問題（1）－学級のアノミー化
④近代教育の諸問題（2）－他者への過剰同調
⑤近代教育の諸問題（3）－〔映画視聴〕
⑥近代教育の諸問題（4）－〔映画視聴〕
⑦近代教育の諸問題（5）－映画解説－共有し得ない痛み
⑧近代教育の諸問題（6）－空虚感からの脱出
⑨近代教育を超える可能性（1）－社会化から超社会化へ
⑩近代教育を超える可能性（2）
－〔ビデオ視聴〕－新しい授業実践（中学校）
⑪近代教育を超える可能性（3）
－ビデオ解説－新しい授業実践（中学校）
⑫近代教育を超える可能性（4）
－〔ビデオ視聴〕－新しい授業実践（高校）
⑬近代教育を超える可能性（5）
－ビデオ解説－新しい授業実践（高校）
⑭近代教育を超える可能性（6）
－〔ビデオ視聴〕－新しい授業実践（小学校）
⑮まとめ

教育原論B

【担当】藤井　奈津子
【開講】後期　月2

■サブタイトル
近代教育を超える可能性
■講義概要
かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは､近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Bでは、前者の流れに沿って、子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題について検討し、その上で近代教育を超える新たな教育の可能性について考えていきたい。できるだけ具体的な教育問題・教育実践の事例を取り上げながら、議論を進めていく予定である。
■到達目標
子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題を理解し、近代教育を超える現代の教育の可能性を考えていく視点をもつことができるようになることを目的とする。
■講義方法
板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には､ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。
■系統的履修
できれば教育原論Aも受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
教育現場や教育問題に関する記事やニュースに関心をもち、積極的に親しむこと。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）毎回のコミュニケーション用紙への記入
レポート（40%）小レポート４回
定期試験（40%）期末試験
■テキスト
テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。
■参考文献
亀山佳明 『子どもと悪の人間学－子どもの再発見のために』 以文社 3,400円
矢野智司 『自己変容という物語－生成・贈与・教育』 金子書房 2,200円
■講義計画
①オリエンテーション
②近代教育の誕生
③近代教育の諸問題（1）－学級のアノミー化
④近代教育の諸問題（2）－他者への過剰同調
⑤近代教育の諸問題（3）－〔映画視聴〕
⑥近代教育の諸問題（4）－〔映画視聴〕
⑦近代教育の諸問題（5）－映画解説－共有し得ない痛み
⑧近代教育の諸問題（6）－空虚感からの脱出
⑨近代教育を超える可能性（1）－社会化から超社会化へ
⑩近代教育を超える可能性（2）
－〔ビデオ視聴〕－新しい授業実践（中学校）
⑪近代教育を超える可能性（3）
－ビデオ解説－新しい授業実践（中学校）
⑫近代教育を超える可能性（4）
－〔ビデオ視聴〕－新しい授業実践（高校）
⑬近代教育を超える可能性（5）
－ビデオ解説－新しい授業実践（高校）
⑭近代教育を超える可能性（6）
－〔ビデオ視聴〕－新しい授業実践（小学校）
⑮まとめ

教育原論B

【担当】広川　義哲
【開講】後期　月3

■サブタイトル
教育の歴史と理論
■講義概要
本講義では、学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容、そして、家庭が教育の場所として機能し、家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに、近代以降、教育学が学問として成立してきた歴史をたどり、最後に、大人と子ども、教師と生徒、あるいは友人や恋人との関わりなど、さまざまに彩られる人間関係の諸相から教育を読み解いてゆく。
■到達目標
教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。
■講義方法
毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に適宜、指示します。
■成績評価の方法
レポート（20%）毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験（80%）学期末の筆記試験。
■テキスト
講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。
■参考文献
原聰介ほか編 『近代教育思想を読みなおす』 新曜社
高橋勝・広瀬俊雄編 『教育関係論の現在』 川島書店
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。
■講義計画
①イントロダクション
②教育の歴史①：学校の成立史
③教育の歴史②：子どもへの眼差しの変容
④教育の歴史③：家庭／家族という問題
⑤教育の歴史④：身体の技法・体育の構想
⑥近代の教育思想①：ルソー
⑦近代の教育思想②：ペスタロッチ
⑧近代の教育思想③：ヘルバルト
⑨近代の教育思想④：デューイ
⑩近代の教育思想⑤：シュプランガー
⑪関係から教育を読む①：自己形成の物語
⑫関係から教育を読む②：公共性への通路
⑬関係から教育を読む③：ライフサイクルと人間形成
⑭関係から教育を読む④：教育関係の理論
⑮まとめ

クリティカル・シンキング

【担当】岩﨑　豪人
【開講】前期　金5

■サブタイトル
論理的・批判的な思考法
■講義概要
大学での学びでは、単に講義内容を理解しておぼえるだけでなく、問題を批判的に考え、探求していくことが大切である。そのために必要となるのが、論理的・批判的な思考力「クリティカルシンキング」である。論理的に分析する方法や、その内容を批判的に考えるための方法を学ぶ。具体的な素材を使って演習形式で訓練しながら、論理的･批判的に読み･考え･議論するためのスキルを身につける。
■到達目標
文章（議論）を論理的に分析する能力、その内容の妥当性を批判的に考えるための能力を身につける。
■講義方法
演習形式で行う。また、授業の最後にその回に講義した内容についての問題を出し、解答してもらう。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義毎に課題を出すので、次週の授業までに課題を解いておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
定期試験（50%）
■テキスト
プリント使用
■参考文献
アレク・フィッシャー　『クリティカル・シンキング入門』
ナカニシヤ出版

■講義計画
①イントロダクション（議論の識別）
②議論の分析（1）理由と結論
③議論の分析（2）理由の構造
④議論の分析（3）暗黙の前提
⑤議論の批判と検討（1）理由と推論
⑥議論の批判と検討（2）妥当な議論
⑦議論の批判と検討（3）論証
⑧中間まとめと演習
⑨蓋然的な議論
⑩原因と結果に関する思考
⑪間違えやすい思考
⑫実際の議論の分析と検討
⑬批判と反論
⑭批判的な思考法
⑮まとめと演習

クリティカル・シンキング

【担当】岩﨑　豪人
【開講】後期　金5

■サブタイトル
論理的・批判的な思考法
■講義概要
大学での学びでは、単に講義内容を理解しておぼえるだけでなく、問題を批判的に考え、探求していくことが大切である。そのために必要となるのが、論理的・批判的な思考力「クリティカルシンキング」である。論理的に分析する方法や、その内容を批判的に考えるための方法を学ぶ。具体的な素材を使って演習形式で訓練しながら、論理的･批判的に読み･考え･議論するためのスキルを身につける。
■到達目標
文章（議論）を論理的に分析する能力、その内容の妥当性を批判的に考えるための能力を身につける。
■講義方法
演習形式で行う。また、授業の最後にその回に講義した内容についての問題を出し、解答してもらう。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義毎に課題を出すので、次週の授業までに課題を解いておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
定期試験（50%）
■テキスト
プリント使用
■参考文献
アレク・フィッシャー　『クリティカル・シンキング入門』
ナカニシヤ出版

■講義計画
①イントロダクション（議論の識別）
②議論の分析（1）理由と結論
③議論の分析（2）理由の構造
④議論の分析（3）暗黙の前提
⑤議論の批判と検討（1）理由と推論
⑥議論の批判と検討（2）妥当な議論
⑦議論の批判と検討（3）論証
⑧中間まとめと演習
⑨蓋然的な議論
⑩原因と結果に関する思考
⑪間違えやすい思考
⑫実際の議論の分析と検討
⑬批判と反論
⑭批判的な思考法
⑮まとめと演習

経営学のすすめ

【担当】香川　文庸
【開講】後期　水1

■サブタイトル
企業とは何か?　経営学とはどんな学問か?

■講義概要
みなさんの多くは、大学卒業後、企業に就職します。社会で生きていくためには、「企業とはどのようになものであるのか」を知り、「ビジネス感覚」をある程度身に付けておかねばなりません。本科目では、経営学の学問領域の基礎部分をできるだけ網羅的に紹介するとともに、現実問題との関連を意識した講義を行うことで、「企業とは何か?」、「企業の行動原理は何か」、「企業はどんな問題に直面しているのか」などに関するイメージやアウトラインを認識していただきたいと考えています。

■到達目標
経営学の初歩的な知識を修得する
企業の概念、行動原理を理解する
現実社会において企業が直面している諸課題について学ぶ

■講義方法
板書、プレゼンテーションソフトを活用しながら口頭による講義を行います。

■授業時間外における予・復習等の指示
新聞の社会面や経済面に目を通す習慣を付けてください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）
毎回ではありませんが、講義終了後にその日の講義内容に関わるミニッツペーパー（プチレポートのようなもの）を書いていただくことがあります。その「量」、「内容」、「質」を平常点に加算して評価します。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①ガイダンス
②経営学の対象と方法
　経営学の体系と系譜
③企業・株式会社に関する基礎理論
④経営学各論
⑤企業を取り巻く今日的な課題
⑥総復習

経済学のすすめ（2015年度以降入学生）
経済学入門（2014年度以前入学生）

【担当】藤田　和孝
【開講】前期　水4

■サブタイトル
政策的視点から経済学の基礎を学ぶ

■講義概要
日々、デフレ不況、円高、金融緩和などの経済ニュースを新聞などで目にすることが多い。マクロ経済学、マクロ経済政策の基礎を学ぶことで、日本政府の様々な経済政策が、どのような期待の下で導入されているのか、そしてどのような結果を導いたのか、さらに日本経済の何が問題で政府が何を悩んでいるのか、そして何をどのような視点で考えるべきなのかが分かる。

■到達目標
現在のわが国の景気動向や経済政策についての理解を深めることを目指す。マスコミや政治家の意見に左右されることなく、日本の経済政策について自分の意見をしっかり持てるよう考え方を鍛える。

■講義方法
講義形式で、テキストに沿って進める。
優秀な若手経済学者によるコンパクトな入門書を約３か月で読破する。各自でしっかり読み込んでほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示
テキストは、一般向けに易しく書かれているので、講義に合わせて最後まで読破してほしい。とにかく教科書を隅々まで読む込むこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業への参加度/貢献度を考慮する場合がある。集中して話を聞くこと。
レポート（80%）講義中に３回のレポート提出を課す。
出席は一切評価しないし、出題の趣旨を理解していないレポートも評価しない。

■テキスト
飯田泰之 『図解ゼロから学ぶ経済政策』 角川書店　1,200円

■参考文献
飯田泰之 『思考をみがく経済学』 NHK出版　1,200円
飯田泰之 『日本がわかる経済学』 NHK出版　1,200円
岩田規久男 『マクロ経済学を学ぶ』 ちくま新書
岩田規久男 『デフレと超円高』 講談社現代新書
いずれもコンパクトな一般向けの本である。まずは、小さい本を読破することからはじめて欲しい。

■履修上の注意・担当者からの一言
本講義で取り上げるテーマは、主に経済学部で学ぶ内容である。卒業後、経済学部出身ではないから知らないという言い訳は通用しない。社会人として経済政策に関心をもって勉強を続けていくきっかけを掴んでほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義の後は時間に余裕があるので、捕まえてほしい。

■講義計画
①マクロ経済学と経済政策の３つの柱
②成長政策－総需要と景気変動－
③インフレとデフレ
④金融と総需要－金利と民間設備投資－
⑤為替レートとマクロ経済－経常収支決定のメカニズム－
⑥ミクロ経済政策－市場の失敗など－
⑦情報の非対称性
⑧安定化政策①財政政策
⑨公共投資は景気対策として有効か
⑩安定化政策②金融政策のメカニズム
⑪不況対策としての金融政策
⑫変動相場制の下での金融政策
⑬再分配政策の基本理念
⑭機会の平等と結果の平等
⑮日本の社会保障制度の再分配機能

経済学のすすめ（2015年度以降入学生）
経済学入門（2014年度以前入学生）

【担当】渡邊　洋之
【開講】前期　木3

■サブタイトル
経済思想史入門

■講義概要
本講義では、経済学の定評ある通史であるR・L・ハイルブローナー『入門経済思想史　世俗の思想家たち』2001年をテキストとする。この前半部分を用いて、「資本主義」と呼ばれる近代社会の経済システムの登場と展開について、及び「古典派経済学者」をはじめとする、「資本主義」の法則性と問題点を追究した人々の思考について議論していく。現在の日本では周知のように、格差の拡大、いわゆる「ブラック企業」の存在、そして若年層の貧困などが大きな経済問題となっている。一方最近の経済学的議論においては、所得の不平等に対する累進課税の強化などによる是正が目指された第二次世界大戦後の世界の時代状況が、歴史的に見て特異であり、21世紀は20世紀初頭以前と同様に所得と資産の格差拡大が趨勢となるとの指摘がある。このような状態にある今、階級による格差が歴然としてあり、また労働者が苛酷な状態におかれていた18~19世紀の欧米社会と、そこで語られていた経済学者等の思想をふり返り検討することは、一定の意義があると考えられよう。

■到達目標
1）18~19世紀の代表的な経済学者の歩みと思想について、概説することができるようになる。
2）「資本主義」と呼ばれる近代社会の経済システムの登場と展開、そしてその問題点とされたことついて、概説することができるようになる。
3）上記1）~2）をふまえた上で、現在のさまざまな経済問題に対して、「何が問題となっているのか」「どのような背景があるのか」を説明できるようになる。
4）現在のさまざまな経済問題に対して、流布している安易な答えに安住し思考停止するのではなく、自らが常に考え続けていくという姿勢を身につけることができるようになる。

■講義方法
講義形式での授業を基本とする。章ごとのレジュメを配布（またはプレゼンテーションソフトを用いて提示）し、それに沿って進める。画像や映像資料も適宜紹介していく予定である。また、ミニッツペーパーに講義内容への質問や意見を随時記してもらい、それらからピックアップしたものへの応答を次回講義時等で行うことも考えている。

■授業時間外における予・復習等の指示
テキストの、次回の講義で取り上げる章を、事前に読んでおくこと。また、すべての講義は有機的に結びついているので、各講義前にこれまでのレジュメやノートの内容を再確認してから臨むこと。

■成績評価の方法
定期試験（100%）上記「到達目標」で記した点について、どこまで到達しているかを判断できる問題を課し評価する。
単に「講義に出席した」という事実を点数化することはしない。

■テキスト
ロバート・L・ハイルブローナー著　八木甫ほか訳『入門経済思想史　世俗の思想家たち』筑摩書房（ちくま学芸文庫）2001年

■参考文献
根井雅弘『入門　経済学の歴史』筑摩書房（ちくま新書837）2010年
Robert L. Heilbroner『The Worldly Philosophers: The Lives, times, and Ideas of the Great Economic Thinkers (Revised Seventh Edition)』Touchstone 1999

■講義計画
①ガイダンス
②第一章　前奏曲
　第二章　経済の革命-市場システムの登場（1）
③第二章　経済の革命-市場システムの登場（2）
④第二章　経済の革命-市場システムの登場（3）
⑤第三章　アダム・スミスのすばらしい世界（1）
⑥第三章　アダム・スミスのすばらしい世界（2）
⑦第四章　マルサスとリカードの陰鬱な予感（1）
⑧第四章　マルサスとリカードの陰鬱な予感（2）
⑨第四章　マルサスとリカードの陰鬱な予感（3）
⑩第五章　ユートピア社会主義者たちの夢（1）
⑪第五章　ユートピア社会主義者たちの夢（2）
⑫第六章　マルクスが描き出した冷酷な体制（1）
⑬第六章　マルクスが描き出した冷酷な体制（2）
⑭第六章　マルクスが描き出した冷酷な体制（3）
⑮講義のまとめと補足

経済学のすすめ（2015年度以降入学生）
経済学入門（2014年度以前入学生）

【担当】長谷　祐
【開講】前期　金5

■サブタイトル
「合理的」選択とは…?

■講義概要
私たちは日々、選択に迫られます。「どこで何を食べようか?」、「どのサークルに入ろうか?」、「どんなアルバイトをしようか?」、「どの講義を受けようか?」などなど、皆さんはいろんな選択をしながら生活しています。
では、皆さんは「なぜ」その選択をしたのでしょう?「好きだから」、「仕方なく」、「他より面白そうだったから」、いろんな答えがあると思います。それらの優先順位はどう決まったのでしょう?
今度は逆の立場で考えてみましょう。「たくさんのお客さんに自分の料理を食べて欲しい！」つまり、「多くの人に、『自分の料理店に入るという選択をしてほしい』」。この時、どんな作戦を立てればいいでしょうか?
経済学はこうした選択の裏側を考える学問です。決してお金の問題だけではありません。
この講義では、皆さんの選択の裏側を経済学や心理学の視点から考えていきます。

■到達目標
経済学の基本を学ぶことで、自分たちの行動の裏側にある論理を理解できるようになる。

■講義方法
講義形式による。また、学生の意見・考え方を講義に反映させたいので、意見・考え方を取り入れられるような工夫を試みる

■授業時間外における予・復習等の指示
日常生活の中で、自分の行動を説明しようとしてみる。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（70%）

■テキスト
特になし。
受講生に合わせて、テキストを紹介するが、基本的には配布資料によって講義を行う。
ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
「経済学」には色んな考え方があります。「経済学」を学び、自分の行動を見つめ直すことで、自分の考え方や好みというものが、より理解できるようになると思います。
なお、他の学生になるような非常識な行為（私語・携帯）は慎むようお願いします。私語が多い場合は、退出をお願いしております。

■講義計画
①オリエンテーション
②日常生活における経済とは?
③経済学的な「費用」とは?
④「選択」の目指すもの
⑤価値と価格の話
⑥需要と供給の話
⑦合理的選択をする、ということ
⑧これまでの復習
⑨経済と心理の話
⑩経済行動の話①
⑪経済行動の話②
⑫経済行動の話③
⑬経済行動の話④
⑭「経済学」の世界
⑮これまでの復習

経済学のすすめ（2015年度以降入学生）
経済学入門（2014年度以前入学生）

【担当】渡邊　洋之
【開講】後期　木3

■サブタイトル
経済思想史入門

■講義概要
本講義では、経済学の定評ある通史であるR・L・ハイルブローナー『入門経済思想史　世俗の思想家たち』2001年をテキストとする。この前半部分を用いて、「資本主義」と呼ばれる近代社会の経済システムの登場と展開について、及び「古典派経済学者」をはじめとする、「資本主義」の法則性と問題点を追究した人々の思考について議論していく。
現在の日本では周知のように、格差の拡大、いわゆる「ブラック企業」の存在、そして若年層の貧困などが大きな経済問題となっている。一方最近の経済学的議論においては、所得の不平等に対する累進課税の強化などによる是正が目指された第二次世界大戦後の世界の時代状況が、歴史的に見て特異であり、21世紀は20世紀初頭以前と同様に所得と資産の格差拡大が趨勢となるとの指摘がある。このような状態にある今、階級による格差が歴然としてあり、また労働者が苛酷な状態におかれていた18~19世紀の欧米社会と、そこで語られていた経済学者等の思想をふり返り検討することは、一定の意義があると考えられよう。

■到達目標
1) 18~19世紀の代表的な経済学者の歩みと思想について、概説することができるようになる。
2)「資本主義」と呼ばれる近代社会の経済システムの登場と展開、そしてその問題点とされたことついて、概説することができるようになる。
3) 上記1) ~2) をふまえた上で、現在のさまざまな経済問題に対して、「何が問題となっているのか」「どのような背景があるのか」を説明できるようになる。
4) 現在のさまざまな経済問題に対して、流布している安易な答えに安住し思考停止するのではなく、自らが常に考え続けていくという姿勢を身につけることができるようになる。

■講義方法
講義形式での授業を基本とする。章ごとのレジュメを配布（またはプレゼンテーションソフトを用いて提示）し、それに沿って進める。画像や映像資料も適宜紹介していく予定である。また、ミニッツペーパーに講義内容への質問や意見を随時記してもらい、それらからピックアップしたものへの応答を次回講義時等で行うことも考えている。

■授業時間外における予・復習等の指示
テキストの、次回の講義で取り上げる章を、事前に読んでおくこと。また、すべての講義は有機的に結びついているので、各講義前にこれまでのレジュメやノートの内容を再確認してから臨むこと。

■成績評価の方法
定期試験（100%）上記「到達目標」で記した点について、どこまで到達しているかを判断できる問題を課し評価する。
単に「講義に出席した」という事実を点数化することはしない。

■テキスト
ロバート・L・ハイルブローナー著　八木甫ほか訳『入門経済思想史　世俗の思想家たち』筑摩書房（ちくま学芸文庫）2001年

■参考文献
根井雅弘『入門　経済学の歴史』筑摩書房（ちくま新書837）2010年
Robert L. Heilbroner『The Worldly Philosophers: The Lives, times, and Ideas of the Great Economic Thinkers (Revised Seventh Edition)』Touchstone 1999

■講義計画
①ガイダンス
②第一章　前奏曲
　第二章　経済の革命-市場システムの登場（1）
③第二章　経済の革命-市場システムの登場（2）
④第二章　経済の革命-市場システムの登場（3）
⑤第三章　アダム・スミスのすばらしい世界（1）
⑥第三章　アダム・スミスのすばらしい世界（2）
⑦第四章　マルサスとリカードの陰鬱な予感（1）
⑧第四章　マルサスとリカードの陰鬱な予感（2）
⑨第四章　マルサスとリカードの陰鬱な予感（3）
⑩第五章　ユートピア社会主義者たちの夢（1）
⑪第五章　ユートピア社会主義者たちの夢（2）
⑫第六章　マルクスが描き出した冷酷な体制（1）
⑬第六章　マルクスが描き出した冷酷な体制（2）
⑭第六章　マルクスが描き出した冷酷な体制（3）
⑮講義のまとめと補足

言語学入門

【担当】五十嵐　海理、里井　久輝、前川　貴史
【開講】前期　火5

■サブタイトル
言語学・英語学の基礎を俯瞰する

■講義概要
この講義では、半期で、言語における音声から発話解釈までの分析レベルを俯瞰するものです。
発話するとき、人間の発する音声は連続しているが、その音声は私たちの頭の中で音素といわれるものに変換され、その組み合わせが語や句を作っていきます。そして、文が実際に発話される段になると、こんどは強勢（強く言うところ）がつけられ、その文の機能を明示してくれることがあります。そして、語は形態素を組み合わせることによって作られ、文は単語を組み合わせることによって作られますが、正しく組み合わせるには一定の規則に従わなければなりません。また、ふつうは語の意味を規則に従って組み合わせれば文の意味はわかるのですが、その文が発話されたとき、新たな解釈が与えられることが多いです。このような観点から音声・音韻・イントネーション、語や文の成り立ち、文の意味や発話の解釈について考えることにしたいと思います。
例文は、英語を中心に、日本語の例も用います。英語が不得意な学生にも一定の理解が得られるように配慮します。

■到達目標
上記のとおりです。言語学についての基礎がわかるように講義する予定です。

■講義方法
対面の講義ですが、学生との対話やグループワークなども取り入れることがあります。
なお、進行回数と内容は、目安と考えてください。したがって、諸事情により、変更することがあります。その場合は、教室で通知します。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習よりも復習に力を入れてください。復習に１時間もあれば十分だと思います。

■成績評価の方法
その他（100%）３人の担当者がそれぞれ異なった方法で採点する。

■テキスト
中島平三　『ファンダメンタル英語学』　ひつじ書房　1,400円
このほか、とくに語用論分野については、プリントを配布します。

■参考文献
菅原 真理子　『音韻論（朝倉日英対照言語学シリーズ）』　朝倉書店
アンドリュー・ラドフォード　『入門ミニマリスト統語論』　研究社
澤田治美　編　『ひつじ意味論講座２　構文と意味』　ひつじ書房
中島信夫　『語用論（朝倉日英対照言語学シリーズ）』　朝倉書店
その他、適宜、授業中に紹介していきます。

■講義計画
①音声と意味
②母音と子音（1）
③母音と子音（2）
④アクセントとリズム
⑤イントネーション
⑥文の構造、句の構造
⑦句の間の類似性
⑧節の構造、補文の構造
⑨語の構成要素
⑩派生、複合
⑪意味論（1）構文の意味
⑫意味論（2）否定と数量詞
⑬語用論（1）発話行為
⑭語用論（2）会話の含意
⑮語用論（3）前提

言語学入門

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】後期　月2

■サブタイトル
言語学の広がりを知る
■講義概要
言語学の扱う様々な領域について広く概観し、言語学が扱う対象とは何か、言語学によって扱うことのできないものは何かを知ることで、言語に対する科学的な立場についての理解を深める。言語学の諸分野を広く横断するが、個別の研究の詳細については触れずに、言語学的なものの見方、考え方を習得する機会としたい。授業では主に日本語と英語をモデルとして扱い、後半では特に日本語に焦点をあてたテーマを扱う。
■到達目標
言語学を通じて、言語に対する科学的な態度・見方を身につける。
■講義方法
講義形式による。一つのテーマごとに２，３回の授業をあて、様々な言語学的概念と、それを土台とする言語学領域について紹介する。
■系統的履修
英語・初修外国語などの語学を熱心に学ぶことが、言語学への理解にも通じる。努力されたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に紹介する研究書・解説書などを用いて広く予習・復習されたい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席点・平常点による。
定期試験（80%）筆記試験。論述式とする。
■テキスト
特になし
■参考文献
詳細は授業中に指示する。
■講義計画
①言語の定義
②国語・地方言語・方言
③通時と共時；歴史言語学
④ソシュール
⑤チョムスキーと生成文法
⑥談話の分析
⑦翻訳機械と言語学
⑧日本語の問題：仮名遣い・漢字の歴史
⑨日本語の問題：役割語
⑩まとめ

社会学のすすめ（2015年度以降入学生）
社会学入門（2014年度以前入学生）

【担当】山本　哲司
【開講】前期　月2

■サブタイトル
人生の社会学ー自己認識と社会の探求
■講義概要
社会学者グールドナーは、社会をテーマに探求することの意義を、次のように考えました。”社会の認識を探求することは、自己自身への認識を深めることである”と。
この講義では、人が生まれてから体験する社会的経験について、社会学が、どのような解釈・分析（社会的な出来事を考察する視点は、複数存在する）を行うのか、そのエッセンスを紹介していこうと考えています。人の社会的経験には、どのようなものが考えられるでしょうか。出産と誕生、子どもの社会化、さまざまな教育現象、子どもの遊び、教育問題、自己・アイデンティティ、親子関係、男と女、結婚と適齢期、家族、労働問題、地域社会との関わり、都市やむら社会の変貌、情報環境とマスコミ、差別・人権・環境・保健医療などさまざまな社会問題、老い、高齢化する社会・・・。社会や文化にかかわることで、私たちの身のまわりにあることから、話をはじめましょう。
■到達目標
この講義では、社会のさまざまな現象をひもといていくことによって、講義に参加する人たちが、自分と社会への関わりについて、自分なりのテーマを考えることを目的とします。
■講義方法
適宜、参考文献を紹介し、プリント・資料等を配布しながら、講義をすすめる。
■授業時間外における予・復習等の指示
歴史的出来事や社会問題だけでなく、生活の出来事を社会学的に思考する点に留意してほしい
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席率・ミニッツペーパーの授業の反映度
定期試験（50%）
上記の成績評価法は、授業内容の進行具合により変更する場合があります。
授業内で説明します。
■テキスト
特になし
■参考文献
適宜紹介します。
■講義計画
①講義の進め方／社会学の特質
②社会学の考え方
③社会学の誕生
④人の誕生と社会
⑤子どもの社会化
⑥社会学の考え方２
⑦「教育」の社会学
⑧青年期の成長と社会環境
⑨社会学の考え方３
⑩日本的家族
⑪男女の共生
⑫結婚と社会
⑬家族関係とコミュニケーション
⑭情報環境とマスメディア
⑮社会調査と現実

社会学のすすめ（2015年度以降入学生）
社会学入門（2014年度以前入学生）

【担当】山本　哲司
【開講】後期　月2

■サブタイトル
人生の社会学ー自己認識と社会の探求

■講義概要
『社会学的想像力』という書物において、かつて、ミルズは次のように述べました。「社会学的想像力は、(社会の)歴史と(個人の)生活史とを、また、社会のなかでのそのふたつの関係をも、把握することを可能にする」。私たちの、個人的なささやかな暮らしは、歴史の流れのなか、社会のしくみのなかに、なんらかの形で位置づけられています。
私たちの暮らしているこの社会には、各種メディアを通して、さまざまな呼び名が付されてきました。大衆社会、学歴社会、管理社会、(高度)消費社会、情報化社会、国際化社会、核家族社会、少子化社会、高齢化社会、男女平等の社会、福祉社会、癒しの社会等々。すでにあまり聞かれなくなった名前や、これから目指すべき社会の名前があります。
とりわけ、戦後の日本社会は、大きな歴史的な変動期とも言われてきました。大きな変動のなかで、私たちの暮らしは、どのような影響を被ってきたのでしょうか。また、人々は、どのようにして、家族・地域などの個々人をとりまく環境の変化に対応しようとするのでしょうか。
現代社会を考察する社会学のツールを紹介しながら、現代社会のありようと、私たちの暮らしの意味について考えていきます。

■到達目標
この講義では、社会のさまざまな現象をひもといていくことによって、講義に参加する人たちが、自分と社会への関わりについて、自分なりのテーマを考えることを目的とします。

■講義方法
適宜、参考文献を紹介し、プリント・資料等を配布しながら講義をすすめる。

■授業時間外における予・復習等の指示
歴史的出来事や社会問題だけでなく、生活の出来事を社会学的に思考する点に留意してほしい。

■成績評価の方法
平 常 点（60%）出席率・ミニッツペーパーの授業の反映度
レポート（40%）

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜紹介する。

■講義計画
①講義の進め方／社会学の特質
②社会学の考え方
③社会学の誕生
④人の誕生と社会
⑤子どもの社会化
⑥社会学の考え方２
⑦「教育」の社会学
⑧青年期の成長と社会環境
⑨社会学の考え方３
⑩日本的家族
⑪男女の共生
⑫結婚と社会
⑬家族関係とコミュニケーション
⑭情報環境とマスメディア
⑮社会調査と現実

社会調査のすすめ

【担当】山本　哲司
【開講】前期　月1

■サブタイトル
社会研究のデータ収集と分析

■講義概要
自然科学では、実験によってデータを収集を行う。社会科学の研究では、社会の実態や人々の意識について考察を行うためにデータ収集として調査活動が行われる。社会調査とはどのようなものか。どのようなことを知ることができるのか。
社会調査の目的・倫理・歴史、社会調査の種類とそれぞれの方法が持つ長所と問題点について学び、社会調査の基本的事項から調査の企画～実施までの実際を検討する。

■到達目標
１．社会調査の基礎的な知識・技法の習得
２．調査倫理の学習
３．データの解読の力を養うこと

■講義方法
基本的には講義形式で行うが、実際の作業を通じて調査活動の課題検討も含む。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業内に説明された内容に、実習的な課題作成を要求することがあるので、注意すること。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）授業出席の参加度
定期試験（50%）最終課題
最終課題について、レポートまたはテストの選択は授業の進行によって決定するので、授業内の説明をよく聞くこと。

■テキスト
適宜、紹介する。

■参考文献
適宜、紹介する。

■講義計画
①社会調査とはーガイダンスー
②社会調査の歴史
③社会調査の倫理
④量的調査と質的調査
⑤社会調査の事例
⑥調査テーマの選択・構成とは
⑦調査対象者と抽出
⑧調査票の構成と作成の課題
⑨質問項目と質問文
⑩回答項目と選択肢
⑪調査票の確認
⑫データ化作業とデータの意味
⑬データ分析の実際
⑭データの見せ方と報告について

社会調査のすすめ

【担当】山本　哲司
【開講】後期　月1

■サブタイトル
社会研究におけるデータ収集とデータ分析
■講義概要
自然科学では、実験によってデータを収集を行う。社会科学の研究では、社会の実態や人々の意識について考察を行うためにデータ収集として調査活動が行われる。社会調査とはどのようなものか。どのようなことを知ることができるのか。
社会調査の目的・倫理・歴史、社会調査の種類とそれぞれの方法が持つ長所と問題点について学び、社会調査の基本的事項から調査の企画～実施までの実際を検討する。授業では、とりわけフィールドワークについて具体的な作業とデータ化、それらの社会研究としての意味を確認する。
■到達目標
１．社会調査を企画立案を構想できること
２．データの収集と分析の基礎を学ぶこと
３．調査結果の理解と調査活動の課題を考察すること
■講義方法
基本的に講義形式で行うが、ときおり実習的な課題を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
実習的な課題は授業時間外の宿題となる場合もあるので、注意すること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
■テキスト
適宜、紹介する。
■参考文献
適宜、紹介する。
■講義計画
①社会調査とは何か
②社会調査の歴史
③数量的調査か事例調査か
④社会調査の事例
⑤社会調査のはじまりー電話・インターネット
⑥社会調査のはじまりー歩く
⑦観察する
⑧観察記録の理論と評価
⑨観察記録を作る
⑩聞き取りのはじまり
⑪聞き取りの理論と評価
⑫インタビュー・データの記録と作成
⑬観察記録とインタビュー・データの活用
⑭報告の方法と課題

社会統計学のすすめ（2015年度以降入学生）
統計入門（2014年度以前入学生）

【担当】伊庭　治彦
【開講】前期　木3

■サブタイトル
データに親しむ
■講義概要
日頃、我々は社会を知るために様々なデータを利用し、またデータをとおして社会現象を理解しようとしています。しかし､それぞれのデータがどのように集計されているのか､また､何を意味しているのかを知っておかないと、データの示す現象を正しく理解するができません。あるいは、いわゆる数字のマジックによって、まったく意図的に勘違いをさせられてしまうことも起こります。この講義では、広く社会一般に使われているデータを正しく読み取り､我々の身の回りで起こっている種々の社会現象を理解する術を習得することを目的とします。
■到達目標
基本的な統計学の知識を習得し、統計データが示す社会現象を正しく理解する。
■講義方法
講義形式で行います。また、身近な例を使いながら、簡単な例題を解いてもらい、統計を学んでいただけるよう心がけます。
■授業時間外における予・復習等の指示
統計学は実践の繰り返しです。必ず復習をしてください。
■成績評価の方法
平 常 点（75%）授業回数の3分の2以上の出席者のみ対象とし、受講態度によって評価する。
定期試験（25%）
遅刻は欠席と見なします。
■テキスト
特になし
■参考文献
D. ロウントリー（著）, 加納 悟（翻訳 『新・涙なしの統計学』新世社　1,728円
講義資料を配布します。
■履修上の注意・担当者からの一言
講義中に簡単な計算をします。電卓やノートパソコンを持参して下さい。
■講義計画
①オリエンテーション－統計の力－
②データを集計する
③平均と分散―平均は信用できるのか―
④ヒストグラムの見方と作り方
⑤相関係数は因果関係を意味するのか
⑥ジニ係数とローレンツ曲線で知る格差社会
⑦推測する―正規分布からｔ分布へ―
⑧母平均を区間推定する
⑨仮説検定①
⑩仮説検定②
⑪仮説検定③
⑫χ二乗分布を使う検定①
⑬χ二乗分布を使う検討②
⑭復習①
⑮復習②

社会統計学のすすめ（2015年度以降入学生）
統計入門（2014年度以前入学生）

【担当】長谷　祐
【開講】後期　金5

■サブタイトル
数字に騙されないために

■講義概要
世の中を見渡せば、インターネット、テレビ、新聞など様々な場所で様々な数字が使われています。そこには、内閣支持率や大卒者内定率といった難しそうな数値だけでなく、スポーツ選手の成績、流行のお店の人気度ランキングというものもあります。これらは全て「統計数値」と呼ばれるものです。
また、そうした情報をもとに判断した（たとえば、美味しいラーメンランキングを見てお店を選んだ）のに､あまり満足できなかったこともあるのではないでしょうか?どうしてそうしたことが起きるのか?どうすればそうした情報に騙されずにすむのか?この講義では、そうした数字の情報を正しく理解する力を養い、数字に惑わされずに判断していくコツを学びます。そのため､この講義では､日常生活の中の現象（経済･心理の関連）を例に取り上げ講義を行います。数学の知識がなくても（＋－×÷で充分です)、世の中の様々なことが見えてくるようになると思います。
皆さんが近い将来、必要となる（身につけておくと大きな力となる）客観的なモノの見方について一緒に学んでいけたらと思います。

■到達目標
身近にあふれる数字の意味と、その背景や問題点を理解できるようになる。

■講義方法
講義形式で行います。また、身近な例を使いながら、簡単な例題を解いてもらい、統計を学んでいただけるよう心がけます。

■授業時間外における予・復習等の指示
日常生活のなかで、数字の意味について考えてみる。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（70%）

■テキスト
特になし
講義資料を配布します。
ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
統計学は何か意味のある事を言うために、数式を使います。それゆえに拒否反応を示しがちですが、加減乗除（＋－×÷）が出来ればその多くは問題ありません。むしろ、拒否反応を示す人が多いということは、それだけ身につければ武器になるということです。
授業中、私語が多い場合、他の学生の迷惑になりますので退出をお願いいたします。

■講義計画
①オリエンテーション
②記述統計①：日常生活の中でみる統計
③記述統計②：分布とその特性①（集団の特性を知ろう）
④記述統計③：さまざまな指標がもたらす日本社会の現状
（騙す図を描くには）
⑤記述統計④：分布と特性②（偏差値の恐怖からの開放）
⑥記述統計⑤：これまでの復習
⑦確率①：確率の基本
（コイン投げで5回連続「表」がでたら、次は･･･?）
⑧確率②：期待値とは?（直感と実際のズレ）
⑨確率③:母集団と標本（賭け事で負けないようにするには?）
⑩確率④：これまでの復習（勝ち逃げするためには）
⑪統計的分析①：分布を見よう
⑫統計的分析②：相関を見よう
⑬統計的分析③：ちょっと高度な分析
⑭統計的分析④：統計的分析の注意点
⑮これまでの復習

宗教学のすすめ（2015年度以降入学生）
現代社会と宗教（2014年度以前入学生）

【担当】辻　虎志
【開講】前期　水5

■講義概要
現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。

■系統的履修
宗教の世界

■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。(遅刻は講義開始後10分まで。遅刻・途中退室・私語・居眠りなどの授業妨害にたいしては、受講資格取り消しを含む厳しい処置をとる。)

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　現代における宗教
②宗教と物語　(1)
③宗教と物語　(2)
④宗教と原理主義　(1)
⑤宗教と原理主義　(2)
⑥宗教と悪　(1)
⑦宗教と悪　(2)
⑧宗教と寛容　(1)
⑨宗教と寛容　(2)
⑩宗教と生命　(1)
⑪宗教と生命　(2)
⑫宗教と死刑　(1)
⑬宗教と死刑　(2)
⑭宗教と死刑　(3)
⑮まとめ

宗教学のすすめ（2015年度以降入学生）
現代社会と宗教（2014年度以前入学生）

【担当】辻　虎志
【開講】後期　水4

■講義概要
現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。

■系統的履修
宗教の世界

■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。（遅刻は講義開始後10分まで。遅刻・途中退室・私語・居眠りなどの授業妨害にたいしては、受講資格取り消しを含む厳しい処置をとる。）

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　現代における宗教
②宗教と物語　(1)
③宗教と物語　(2)
④宗教と原理主義　(1)
⑤宗教と原理主義　(2)
⑥宗教と悪　(1)
⑦宗教と悪　(2)
⑧宗教と寛容　(1)
⑨宗教と寛容　(2)
⑩宗教と生命　(1)
⑪宗教と生命　(2)
⑫宗教と死刑　(1)
⑬宗教と死刑　(2)
⑭宗教と死刑　(3)
⑮まとめ

宗教の世界（2015年度以降入学生）
生活の中の宗教（2014年度以前入学生）

【担当】辻　虎志
【開講】前期　水4

■講義概要
我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。

■系統的履修
宗教学のすすめ

■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。（遅刻は講義開始後10分まで。遅刻・途中退室・私語・居眠りなどの授業妨害にたいしては、受講資格取り消しを含む厳しい処置をとる。）

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　生活の中の宗教
②宗教とお金　(1)
③宗教とお金　(2)
④宗教と食
⑤宗教と医療　(1)
⑥宗教と医療　(2)
⑦宗教と経済　(1)
⑧宗教と経済　(2)
⑨宗教とアート
⑩宗教と文学
⑪宗教と政治
⑫宗教とインターネット
⑬宗教とおひとりさま
⑭宗教と性愛
⑮まとめ

宗教の世界（2015年度以降入学生）
生活の中の宗教（2014年度以前入学生）

【担当】辻　虎志
【開講】後期　水5

■講義概要
我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。

■系統的履修
宗教学のすすめ

■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。（遅刻は講義開始後10分まで。遅刻・途中退室・私語・居眠りなどの授業妨害にたいしては、受講資格取り消しを含む厳しい処置をとる。）

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　生活の中の宗教
②宗教とお金　(1)
③宗教とお金　(2)
④宗教と食
⑤宗教と医療　(1)
⑥宗教と医療　(2)
⑦宗教と経済　(1)
⑧宗教と経済　(2)
⑨宗教とアート
⑩宗教と文学
⑪宗教と政治
⑫宗教とインターネット
⑬宗教とおひとりさま
⑭宗教と性愛
⑮まとめ

心理学入門

【担当】破田野　智美
【開講】前期　月1

■講義概要
初学者にとっての心理学のイメージは、一面的でしかないことが多い。しかし実際の心理学の対象は広く、デザインや購買行動、学習、家族、テストなどなど、われわれにとって日常的な事柄に密接に関連している。
そこでこの授業では、日常的話題と結びつけながら、できるだけ広い範囲の「心理学」について概説する。またテーマに合わせ、授業内で極簡単な実験を行い、心理学の研究手法にも触れる。受講者の一人一人が心理学の全体像を把握し、基礎的な知識を確実に身につけられる講義としたい。

■到達目標
人のこころや行動を科学的に捉えようとする心理学の考え方を理解し、今後自らが課題に向き合ったときに、心理学の知識や考え方を自分のものとして運用できるようになることを目標とする。

■講義方法
基本的に自作の資料に基づき講義形式で進める。また各テーマの理解の促進のために授業内で簡単な作業や心理データ収集の実習を行う。このため授業内レポートの提出を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
特に重要な点は授業内で強調するので、用語や意味を確実に理解してほしい。講義を受けた上で不明な点は、質問時間に解決すること。また関連文献を紹介するので、ぜひ読んで理解を深めてほしい。なお資料の一部は事前に公開する。

■成績評価の方法
平常点（100%）
原則として授業内で行う試験に基づいて評価するが、授業内レポートなど授業への参加の程度を加味することがある。

■テキスト
サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明　『心理学スタンダード――学問する楽しさを知る』　ミネルヴァ書房　2,800円

■参考文献
松田隆夫・八木保樹・土田宣明・福原浩之・藤健一・星野裕司・柴田直峰　『心理学概説―心と行動の理解』　培風館　1,900円
小川捷之・椎名健　『心理学パッケージ1－6』　ブレーン出版
ジェームズ J. ギブソン（著）　東山篤規・竹澤智 美・村上嵩至（訳）『視覚ワールドの知覚』　新曜社　3,675円

■講義計画
①心理学の課題と考え方
②視る心理学1
③視る心理学2
④聴く心理学
⑤嗅ぐ・味わう心理学
⑥触れる・痛みの心理学
⑦記憶の心理学1
⑧記憶の心理学2
⑨思考心理学
⑩学習心理学
⑪発達心理学
⑫教育心理学
⑬社会心理学
⑭臨床心理学
⑮「心理学入門」をふりかえる：最終試験

心理学入門

【担当】松島　恵介
【開講】前期　月1

■サブタイトル
伝統的心理学諸理論及び現代心理学諸理論の体系的理解

■講義概要
心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定でやや可塑的な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、又ある時には、科学的な道具立てによって到達できる、ある種の具体物に近い存在でもある。従って、学生が心理学という語から連想するような、現在巷に氾濫するいわゆる「心理ゲーム」や、また例えば「人の心を２分で掴む会話術」、あるいは、極めて単純な「夢分析」、また「ポジティブに生きるための名言集」といった書物の類は、いわゆる「学」としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる＜心＞とは様々な様相を見せるものであるが、それらは決して軽いエンターテイメントや日常コミュニケーションにおける安易な人心操作、また「この夢は～を意味する」というような単純で表層的なものでは決してないし、また、人生哲学の基盤として座右の銘に落ち着くような固定的で変化の乏しいものではない。では、この現代において、心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、否、それはそもそも可能なものであるのか、そして不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学の具体に触れながら、そのエッセンスを理解してもらう。なお、本講義はあくまで「入門」科目に過ぎない為、すべての心理学領域を網羅できるものではないことを予め承知おき願いたい。本講義はあくまで心理学への関心が深まり、且つ広がることを一つの主要眼目といて開講されているのであり、寧ろ本講義終了後に、学生各自が、それぞれの興味に従って探究を深めることができるのであれば、本講義の目的は達成できたということが出来る。

■到達目標
伝統的心理学諸理論及び現代心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る変容の軌跡とその要因についてその概略を理解することができる。

■講義方法
口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修
●人文・社系分野の講義を、登録数の上限の許す限り数多く受講するべきである。そうでなければ、心理学という学問の本質的意味や学問的なや立ち位置を理解することは困難である。最近の学生に多い「コミュニケーション障がい（いわゆるSAD的な『コミュ障』と呼ばれるもの）や「こころの病気」（とりわけ『新型鬱病』など）のみに興味が特化し、その解決策（分かりやすい処方箋）のみを講義に期待するだけの受講者が近年急増しているが、そうした者は本講義を受講するべきではないし、受講したとしても、その本質的な解決策は得られないであろう。こうした問題群についての理解は、広く現在の社会状況に関する多角的な視野、且つ、それに関する多くの情報を冷静に分析出来る客観的で冷静な知性が求められるからである。　※なお、講義終了時の５分程度で教員に学生自身の悩みを教員に打ち明けたり、又、それに関連するアドバイスをその場で教員に求めたりする学生がいるが、教員側がその者の成育歴や家庭環境、生活史といった具体的情報を具体的に把握できていない以上、一切、具体的相談には応じられない。時に安易なアドバイスは、寧ろ逆効果を生じる危険性を孕むからである。（むろん、そうした相談を受けた場合は、適宜、カウンセリングルーム等を紹介する。また。講義内容の質問に関してはその場で出来る限り具体的に応じる。）

■授業時間外における予・復習等の指示
●本講義の単位を得る為には、授業前に行うべき予習（90分）、および授業後に行うべき復習（90分）が共に義務付けれられているので、必ず行うこと。なお、これについては時折チェックを行う。具体的には、講義内において、学生をたびたび指名することで、教員側から確認作業を講義内で行うことがあるので講義中は常に意識しておくこと。

■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
●定期試験（記述式。教科書･ノート他、一切持ち込み不可）･授業内レポート・授業外レポート・出席態度、これら全てにおいて、教員側が独自に設定した規定以上の条件を満たした者以外は単位を一切与えない。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績がほぼ満点であったとしても、授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなり、単位を与えないケースがあるので注意すること）。●特に、内職や私語、居眠り等を行っている者については、即刻退場を命じるとともに、学生証の提出を求め、更に学期末に大幅な減点を行う。（なお学生証を忘れた者については、その場で所属の学部教務課へ出向き、自らの学籍番号と氏名を記載した証明書の発行を受けて来なくてはならない）●なお学期末試験の形式については毎年変更を行うこととするが、大量の記述を要する形式となっているので、長時間で綿密な準備を要する。
★この科目はいわゆる「楽勝科目」ではない。学問的関心と向学心・強い意欲のある者のみすること。講義との相性が合わなかったケースにおいては、後ほど必ず「履修辞退」の手続を行い、名簿からの抹消を行うことを義務付ける。

■テキスト
テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）

■参考文献
宝島編集部編　『心理学・入門』　宝島社
大橋ら著　『心理学者、裁判と出会う』　北大路書房
松島著　『記憶の持続　自己の持続』　金子書房
上記文献は初学者にとって、極めて難解なのとして映るかもしれない。しかし、何度も反芻して熟読することで、その意味するものが内化されていくであろう。
書物とは一度きり読むものではない。

■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。　※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画
①「心」概念とその認識の在り方を巡って
②科学的方法論と心理学との関係性
③心理学的測定論
④主観性／客観性という二元論を巡って
⑤モチベーションに関する諸理論
⑥行動主義の心理学
⑦条件付けと行動療法
⑧認知心理学概説
⑨神経心理学概説
⑩発達心理学概説
⑪臨床心理学概説
⑫フロイト／ユングの理論
⑬人格心理学概説
⑭社会性と自己との関係性を巡って
⑮総括および討論

心理学入門

【担当】破田野　智美
【開講】後期　月1

■講義概要
初学者にとっての心理学のイメージは、一面的でしかないことが多い。しかし実際の心理学の対象は広く、デザインや購買行動、学習、家族、テストなどなど、われわれにとって日常的な事柄に密接に関連している。
そこでこの授業では、日常的話題と結びつけながら、できるだけ広い範囲の「心理学」について概説する。またテーマに合わせ、授業内で極簡単な実験を行い、心理学の研究手法にも触れる。受講者の一人一人が心理学の全体像を把握し、基礎的な知識を確実に身につけられる講義としたい。

■到達目標
人のこころや行動を科学的に捉えようとする心理学の考え方を理解し、今後自らが課題に向き合ったときに、心理学の知識や考え方を自分のものとして運用できるようになることを目標とする。

■講義方法
基本的に自作の資料に基づき講義形式で進める。また各テーマの理解の促進のために授業内で簡単な作業や心理データ収集の実習を行う。このため授業内レポートの提出を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
特に重要な点は授業内で強調するので、用語や意味を確実に理解してほしい。講義を受けた上で不明な点は、質問時間に解決すること。また関連文献を紹介するので、ぜひ読んで理解を深めてほしい。なお資料の一部は事前に公開する。

■成績評価の方法
平常点（100%）
原則として授業内で行う試験に基づいて評価するが、授業内レポートなど授業への参加の程度を加味することがある。

■テキスト
サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明 『心理学スタンダード－－学問する楽しさを知る』 ミネルヴァ書房　2,800円

■参考文献
松田隆夫・八木保樹・土田宣明・福原浩之・藤健一・星野裕司・柴田直峰 『心理学概説―心と行動の理解』 培風館　1,900円
小川捷之・椎名健 『心理学パッケージ1－6』 ブレーン出版
ジェームズ J. ギブソン（著） 東山篤規・竹澤智 美・村上嵩至（訳）『視覚ワールドの知覚』 新曜社　3,675円

■講義計画
①心理学の課題と考え方
②視る心理学1
③視る心理学2
④聴く心理学
⑤嗅ぐ・味わう心理学
⑥触れる・痛みの心理学
⑦記憶の心理学1
⑧記憶の心理学2
⑨思考心理学
⑩学習心理学
⑪発達心理学
⑫教育心理学
⑬社会心理学
⑭臨床心理学
⑮「心理学入門」をふりかえる：最終試験

心理学入門

【担当】松島　恵介
【開講】後期　月1

■サブタイトル
伝統的心理学諸理論及び現代心理学諸理論の体系的理解

■講義概要
心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定でやや可塑的な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、又ある時には、科学的な道具立てによって到達できる、ある種の具体物に近い存在でもある。従って、学生が心理学という語から連想するような、現在巷に氾濫するいわゆる「心理ゲーム」や、また例えば「人の心を２分で掴む会話術」、あるいは、極めて単純な「夢分析」、また「ポジティブに生きるための名言集」といった書物の類は、いわゆる「学」としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる＜心＞とは様々な様相を見せるものであるが、それらは決して軽いエンターテイメントや日常コミュニケーションにおける安易な人心操作、また「この夢は～を意味する」というような単純で表層的なものでは決してないし、また、人生哲学の基盤として座右の銘に落ち着くような固定的で変化の乏しいものではない。では、この現代において、心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、否、それはそもそも可能なものであるのか、そして不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学の具体に触れながら、そのエッセンスを理解してもらう。なお、本講義はあくまで「入門」科目に過ぎない為、すべての心理学領域を網羅できるものではないことを予め承知おき願いたい。本講義はあくまで心理学への関心が深まり、且つ広がることを一つの主要眼目といて開講されているのであり、寧ろ本講義終了後に、学生各自が、それぞれの興味に従って探究を深めることができるのであれば、本講義の目的は達成できたということが出来る。

■到達目標
伝統的心理学諸理論及び現代心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る変容の軌跡とその要因についてその概略を理解することができる。

■講義方法
口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修
●人文・社系分野の講義を、登録数の上限の許す限り数多く受講するべきである。そうでなければ、心理学という学問の本質的意味や学問的なや立ち位置を理解することは困難である。最近の学生に多い「コミュニケーション障がい（いわゆるSAD的な『コミュ障』と呼ばれるもの）や「こころの病気」（とりわけ『新型鬱病』など）のみに興味が特化し、その解決策（分かりやすい処方箋）のみを講義に期待するだけの受講者が近年急増しているが、そうした者は本講義を受講するべきではないし、受講したとしても、その本質的な解決策は得られないであろう。こうした問題群についての理解は、広く現在の社会状況に関する多角的な視野、且つ、それに関する多くの情報を冷静に分析出来る客観的で冷静な知性が求められるからである。　※なお、講義終了時の５分程度で教員に学生自身の悩みを教員に打ち明けたり、又、それに関連するアドバイスをその場で教員に求めたりする学生がいるが、教員側がその者の成育歴や家庭環境、生活史といった具体的情報を具体的に把握できていない以上、一切、具体的相談には応じられない。時に安易なアドバイスは、寧ろ逆効果を生じる危険性を孕むからである。（むろん、そうした相談を受けた場合は、適宜、カウンセリングルーム等を紹介する。また。講義内容の質問に関してはその場で出来る限り具体的に応じる。）

■授業時間外における予・復習等の指示
単位には●本講義の単位を得る為には、授業前に行うべき予習（90分）、および授業後に行うべき復習（90分）が共に義務付けれられているので、必ず行うこと。なお、これについては時折チェックを行う。具体的には、講義内において、学生をたびたび指名することで、教員側から確認作業を講義内で行うことがあるので講義中は常に意識しておくこと。授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。

■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
●定期試験（記述式。教科書･ノート他、一切持ち込み不可）･授業内レポート・授業外レポート・出席態度、これら全てにおいて、教員側が独自に設定した規定以上の条件を満たした者以外は単位を一切与えない。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績がほぼ満点であったとしても、授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなり、単位を与えないケースがあるので注意すること）。●特に、内職や私語、居眠り等を行っている者については、即刻退場を命じるとともに、学生証の提出を求め、更に学期末に大幅な減点を行う。（なお学生証を忘れた者については、その場で所属の学部教務課へ出向き、自らの学籍番号と氏名を記載した証明書の発行を受けて来なくてはならない）●なお学期末試験の形式については毎年変更を行うこととするが、大量の記述を要する形式となっているので、長時間で綿密な準備を要する。
★この科目はいわゆる「楽勝科目」ではない。学問的関心と向学心・強い意欲のある者のみすること。講義との相性が合わなかったケースにおいては、後ほど必ず「履修辞退」の手続を行い、名簿からの抹消を行うことを義務付ける。

■テキスト
テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）

■参考文献
宝島編集部編　『心理学・入門』　宝島社
大橋ら著　『心理学者、裁判と出会う』　北大路書房
松島著　『記憶の持続　自己の持続』　金子書房
上記文献は初学者にとって、極めて難解なのとして映るかもしれない。しかし、何度も反芻して熟読することで、その意味するものが内化されていくであろう。
書物とは一度きり読むものではない。

■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。　※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画
①「心」概念とその認識の在り方を巡って
②科学的方法論と心理学との関係性
③心理学的測定論
④主観性／客観性という二元論を巡って
⑤モチベーションに関する諸理論
⑥行動主義の心理学
⑦条件付けと行動療法
⑧認知心理学概説
⑨神経心理学概説
⑩発達心理学概説
⑪臨床心理学概説
⑫フロイト／ユングの理論
⑬人格心理学概説
⑭社会性と自己との関係性を巡って
⑮総括および討論

政治学のすすめ（2015年度以降入学生）
政治学入門（2014年度以前入学生）

【担当】水垣　源太郎
【開講】前期　月1

■サブタイトル
政治学の基本概念
■講義概要
政治学の基本的な見方について講義する。日々私たちが見聞する断片的な情報から現実の政治を理解するためには、その本質的な特徴と歴史社会的な背景を把握しておくことが重要である。そこで、本講義では、政治学にはじめて接する人を想定して、身近なトピックをとりあげながら、その基本的な見方と応用のしかたを解説する。
■到達目標
政治学の見方に関する基本的知識を得るとともに、現実の政治現象に関する理解力・洞察力・判断力を身につける。
■講義方法
講義による。
■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションおよび各回授業時に指示する文献を読み、課題を行う。
■成績評価の方法
小テスト（45%）各回授業の最後に数問実施する。
レポート（15%）進捗状況を鑑み、2回もしくは3回課す。
定期試験（40%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
eラーニングシステムを利用する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業前後

■講義計画
①オリエンテーション
②政治的態度（1）世論：世論調査は信用できるか
③政治的態度（2）イデオロギー：右翼・左翼とは何か
④政治的相互作用（1）メディアと政治
⑤政治的相互作用（2）政党システム
⑥政治的相互作用（3）選挙と投票行動
⑦政治的相互作用（4）利益団体とロビイング
⑧政治制度（1）執政府
⑨政治制度（2）議会と議員
⑩政治制度（3）行政官僚制
⑪日本政治史（1）福祉国家の政治史
⑫日本政治史（2）公共事業の政治史
⑬近代政治史と国際関係（1）戦後外交の構造変動
⑭近代政治史と国際関係（2）外交政策
⑮近代政治史と国際関係（3）外交と内政

政治学のすすめ（2015年度以降入学生）
政治学入門（2014年度以前入学生）

【担当】水垣　源太郎
【開講】後期　月3

■サブタイトル
政治学の基本概念
■講義概要
政治学の基本的な見方について講義する。日々私たちが見聞する断片的な情報から現実の政治を理解するためには、その本質的な特徴と歴史社会的な背景を把握しておくことが重要である。そこで、本講義では、政治学にはじめて接する人を想定して、身近なトピックをとりあげながら、その基本的な見方と応用のしかたを解説する。
■到達目標
政治学の見方に関する基本的知識を得るとともに、現実の政治現象に関する理解力・洞察力・判断力を身につける。
■講義方法
講義による。
■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションおよび各回授業時に指示する文献を読み、課題を行う。
■成績評価の方法
小テスト（45%）各回授業の最後に数問実施する。
レポート（15%）進捗状況を鑑み、2回もしくは3回課す。
定期試験（40%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
eラーニングシステムを利用する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業前後

■講義計画
①オリエンテーション
②政治的態度（1）世論：世論調査は信用できるか
③政治的態度（2）イデオロギー：右翼・左翼とは何か
④政治的相互作用（1）メディアと政治
⑤政治的相互作用（2）政党システム
⑥政治的相互作用（3）選挙と投票行動
⑦政治的相互作用（4）利益団体とロビイング
⑧政治制度（1）執政府
⑨政治制度（2）議会と議員
⑩政治制度（3）行政官僚制
⑪日本政治史（1）福祉国家の政治史
⑫日本政治史（2）公共事業の政治史
⑬近代政治史と国際関係（1）戦後外交の構造変動
⑭近代政治史と国際関係（2）外交政策
⑮近代政治史と国際関係（3）外交と内政

西洋の文学A（2015年度以降入学生）
文学入門（2014年度以前入学生）

【担当】大槻　志郎
【開講】前期　水3

■サブタイトル
物語の成立

■講義概要
ある物語が面白く感じられ、ある言葉が魅力的に思えるのはなぜなのか。おそらくこれまでは漠然と文学に接してきた学生諸君に、文学を理解するための諸々の知的枠組みを紹介し、それによって新たな目で文学を捉え、より深く面白く味わえるようにすることを第一の狙いとする。道具となる考え方の多くは西洋で生まれたもので、これを知れば文学がより面白くなることは請け合いである。日頃縁遠く見える西洋文学を多く取り上げるものの、それらは日本の文学にも深くつながるものなので、受講を選択する段階であまり「西洋」を気にする必要はない。詩も取り上げる一方、何よりも物語の魅力を焦点とするため、ジャンルとしては主に小説を扱う。映画など文学以外の物語形式にも多く言及することになる。

■到達目標
文学作品を、より知的に、より深く、より楽しく、味わうためのノウハウを身につける
文学という広く豊かな世界への関心を高める
西洋など世界の文学と日本の文学とがどう同じでどう違うかに対する意識を養う

■講義方法
受講者数にもよるが、授業計画に基づく理論的な講義と、実際に文学作品を読み解く作業とを併せて取り入れたい。細かいレベルで考えられるように、作品は短編を中心に扱う。出欠状況の確認も兼ねて、毎回講義の最初にミニクイズ、終わりに感想、質問などを書いてもらうほか、作品分析などで課題の提出を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
次回講義で解説予定の作品等をあらかじめ配るので、指示に従って自分なりに読んで考えてみること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）講義末に書いてもらうコメントや課題の提出状況と内容
定期試験（60%）講義内容に関する選択問題、論述問題など
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として期末試験の受験資格を失うものとし、結果的に単位は認められないことになる。

■テキスト
使用せず。適宜プリント配布。

■参考文献
中条省平 『小説の解剖学』 筑摩書房（ちくま文庫） 798円
廣野由美子 『批評理論入門―「フランケンシュタイン」解剖講義』 中央公論社（中公新書） 780円

■履修上の注意・担当者からの一言
文学の世界をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。よく話を聞いて、じっくり考え深く味わって欲しい。なお、物語についての講義となると、取り上げる小説などについての、いわゆる「ネタばれ」は多少とも避けられない。なるべく配慮はするが、あらかじめ了解の上受講のこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①序説―文学は死んだか?
②詩の言葉、言葉の詩
③ジャンル・タイプ・intertextuality
④幻想という名の真実
⑤言葉の裏を読む
⑥象徴の成立
⑦構造と対立
⑧アイロニー
⑨作者・作品・読者
⑩曖昧と解釈の問題
⑪文学と時間
⑫名前の文化論
⑬旅のモチーフ
⑭実践分析批評1
⑮実践分析批評2
＊以上は、講義項目の流れを示したもので、必ずしも回毎の内容というわけではない。1-13の項目に14,15を絡めてゆくのが基本スタイルである。

西洋の文学A（2015年度以降入学生）
文学入門（2014年度以前入学生）

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　木3

■サブタイトル
ブンガクはなぜあんなにつまらないか?あるいはなぜこんなに面白いか?

■講義概要
宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか？それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標
ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法
毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席による
レポート（80%）4000字程度

■テキスト
特になし

■参考文献
授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画
①オリエンテーション
②文体と内容
③視点の問題
④ことばの３側面：外観
⑤ことばの３側面：響き
⑥ことばの３側面：意味
⑦毎回さまざまな作家を採り上げる。以下の作家については特に個別に論じる予定である。（順不同）
⑧バルザック
⑨P・K・ディック
⑩コナン・ドイル
⑪ボルヘス
⑫アラン・ポー
⑬ヘンリー・ジェイムズ
⑭カフカ
⑮ビュトール
⑯メルヴィル

西洋の文学A（2015年度以降入学生）
文学入門（2014年度以前入学生）

【担当】坂本　輝世
【開講】後期　水3

■サブタイトル
モチーフとメタファーで読む「物語」

■講義概要
「文学」とは「ことば」を使って人間の内面と世界を描くもの、まだ文字がなかった時代から現在に至るまで、人間にとってなくてはならない表現方法の一つです。「ことば」で表現しようとする人々は、さまざまなイメージや技法を使って、自分が表現したいことを伝えようとしてきました。同時に「ことば」は、それを読む人／聞く人の経験、感性、知識などによって、意味が大きく変わってきます。このクラスでは、17世紀初頭の『ハムレット』、19世紀半ばの『ジェイン・エア』、20世紀半ばの『ガリレオの生涯』という３作品を中心に、短編小説などにも触れながら、「ことば」を読む面白さと「物語」の仕組みについて考えます。とくに、「モチーフ」「メタファー」「語り」などの概念を理解することで、文学をより深く読み、他の人と分かち合うためのツールとしてもらえればと思います。「文学」は少し苦手という人には、「ことば」による表現の面白さを感じてもらえるように、「文学」は好きだけれど「面白かった」気持ちの伝え方がわからないという人には、「物語」の仕組みを知ってさらに楽しんでもらえるようになると思います。

■到達目標
「文学」とは何かについて、自分なりの理解をする。あるいは理解を深める。「モチーフ」「メタファー」「語り」などについて理解し、文学を読み、論じるための手段の一つとして使えるようになる。古典とされる作品を読み、その時代背景などを知ることで、大学生に相応しい教養の一部を身につける。

■講義方法
毎週、宿題（指定テキストである戯曲や小説を読む）があります。クラスの最初に、宿題で読んだテキストの内容について、質問に答えたり、コメントや疑問点を書いたりしてもらいます。学期中に3回小レポートの提出､学期末には期末レポートを提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習内容:第１週（オリエンテーション）の予習はなし。指定テキスト（文庫本で計４冊）を読む週が９週、小レポートを作成して提出する週が計３週、プリント教材を読む週が１週、最終週は期末レポートの作成、提出となります。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回のクラスで、読んできたテキストについてコメントなどを書いてもらいます。
レポート（40%）授業で取り上げたトピックに基づいて、期末レポートを書いてもらいます。
そ の 他（30%）『ハムレット』、『ジェイン・エア』、『ガリレオの生涯』それぞれについての小レポートを出してもらいます。
一学期を通して毎週かなりの量を読み、レポート課題も数回提出することになるので、その覚悟をして受講すること。

■テキスト
ウィリアム・シェイクスピア 『新訳ハムレット』 角川書店　500円
シャーロット・ブロンテ 『ジェイン・エア（上・下)』 光文社　1,780円
ベルトルト・ブレヒト 『ガリレオの生涯』 光文社　1,050円

■参考文献
授業内で指示する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
eラーニングシステムを使って、授業で使用したPower Point資料などをアップロードしますので、適宜利用して下さい。

■講義計画
①はじめに：文学の「ことば」
②『ハムレット』(1)：イメージとモチーフ
③『ハムレット』(2)：モチーフのくり返し
④『ハムレット』(3)：メタファーの解釈とテーマ
⑤『ハムレット』(4)：ルネサンスから近代文学へ
⑥『ジェイン・エア』(1)：西洋近代小説の発展
⑦『ジェイン・エア』(2)：一人称の語り手
⑧『ジェイン・エア』(3)：プロットとくり返されるモチーフ
⑨『ジェイン・エア』(4)：物語の「テーマ」とメタファー
⑩『ジェイン・エア』(5)：さまざまな「読み」方
⑪『ガリレオの生涯』(1)：大戦という経験
⑫『ガリレオの生涯』(2)：科学と人間
⑬『ガリレオの生涯』(3)：ヨーロッパの基盤
⑭「湿原で」：モチーフ、メタファー、語り
⑮まとめ

西洋の文学A（2015年度以降入学生）
文学入門（2014年度以前入学生）

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】後期　木3

■サブタイトル
ブンガクはなぜあんなにつまらないか?あるいはなぜこんなに面白いか?

■講義概要
宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか？それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標
ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法
毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席による
レポート（80%）4000字程度

■テキスト
特になし

■参考文献
授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画
①オリエンテーション
②文体と内容
③視点の問題
④ことばの３側面：外観
⑤ことばの３側面：響き
⑥ことばの３側面：意味
⑦毎回さまざまな作家を採り上げる。以下の作家については特に個別に論じる予定である。（順不同）
⑧バルザック
⑨P・K・ディック
⑩コナン・ドイル
⑪ボルヘス
⑫アラン・ポー
⑬ヘンリー・ジェイムズ
⑭カフカ
⑮ビュトール
⑯メルヴィル

西洋の歴史M

【担当】西村　昌洋
【開講】前期　水3

■サブタイトル
西洋の歴史（古代から近世）

■講義概要
本講義では、古代から近世にかけての西洋の歴史の主なトピックをいくつか取り上げ、西洋文明がどのようにして形成されたかを考察し、現代文明につながる西洋文明の特質を考える。
西洋諸国家は近代において絶大な影響力を有し、世界のあり方を良くも悪くも左右してきた。21世紀の現在、西洋の持つ影響力や西洋文明の価値観は以前と比べれば相対化された。しかし、現代世界の枠組みやルールは依然として西洋世界に由来するものであり、私たちはその内側で生活し物を考えているのである。このような世界標準を生み出した西洋の歴史と文化について知ることは、今の自分たちの社会のあり方をより深く理解し知性を研ぎ澄ませる機会になるだろうし、日本の歴史と比較することで、逆に私たち自身の個性や価値を発見することにもつながるだろう。

■到達目標
1 西洋古代から近世までの主要な年代的知識を得る。
2 西洋古代から近世にかけての主要な時代の、ひとつ、あるいはそれ以上の特徴をのべることができる。
3 日本と西洋の歴史の共通点と相違点について考え、関心を抱く。

■講義方法
板書と随時配布するプリントを中心に進める。また、プロジェクターで図像資料や映像資料も紹介する予定。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中、参考文献を紹介するので、各自で探して読む。
復習・自己学習を兼ねて小レポートを数回出す。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）授業中に数回小レポートを課す。
レポート（60%）期末にレポート課題を出す。
レポート課題は必ずすべて提出すること。
西洋の歴史の特徴を理解しているか、自分で参考文献に当たり学習しているか、調べた内容と自分の考えとを明確かつ論理的に説明できているか、こうした点を基準に評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
授業中に適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
西洋の政治･経済･文化に日ごろから関心をもって接すること。私語や携帯電話の使用など、他の受講者の邪魔になるような行為は慎むこと。
各人が自分で文献を探して読むことで学習を深めることが望まれる。

■講義計画
①「西洋の歴史」について
②世界で最初の民主主義
③民主主義をめぐるギリシア人の論争
④ヨーロッパ最初の帝国
⑤ローマ人の帝国意識
⑥キリスト教の出現
⑦西欧世界の形成
⑧生き残った帝国ビザンツ
⑨十字軍とヨーロッパの拡大
⑩キリスト教世界としてのヨーロッパ
⑪中世の爛熟と終わり
⑫宗教改革とキリスト教世界の分裂
⑬新しい国家体系
⑭ヨーロッパの外への船出
⑮ヨーロッパとアジア

西洋の歴史N（2015年度以降入学生）
教養教育科目特別講義B（西洋近現代史入門）（2014年度以前入学生）

【担当】西村　昌洋
【開講】後期　木3

■サブタイトル
西洋の歴史（近世～現代）

■講義概要
本講義では、近世から近現代にかけての西洋の歴史の主なトピックをいくつか取り上げ、西洋世界に軸心をおきながら、世界の一体化をたどり、戦争と革命の激動の時代をふりかえり、近現代の歴史を学ぶ意義を考える。
西洋諸国家は近代において絶大な影響力を有し、世界のあり方を良くも悪くも左右してきた。21世紀の現在、西洋の持つ影響力や西洋文明の価値観は以前と比べれば相対化された。しかし、現代世界の枠組みやルールは依然として西洋世界に由来するものであり、私たちはその内側で生活し物を考えているのである。このような世界標準を生み出した西洋の歴史と文化について知ることは、今の自分たちの社会のあり方をより深く理解し知性を研ぎ澄ませる機会になるだろうし、日本の歴史と比較することで、逆に私たち自身の個性や価値を発見することにもつながるだろう。

■到達目標
1 西洋近世から現代までの主要な年代的知識を得る。
2 西洋近世から現代までの主要な時代の、ひとつ、あるいはそれ以上の特徴をのべることができる。
3 日本と西洋の歴史の共通点と相違点について考え、関心を抱く。

■講義方法
板書と随時配布するプリントを中心に進める。また、プロジェクターで図像資料や映像資料も紹介する予定。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中、参考文献を紹介するので、各自で探して読んでみる。復習・自己学習を兼ねて小レポートを数回出す。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）授業中に数回小レポートを課す。
レポート（60%）期末にレポート課題を出す。
レポート課題は必ずすべて提出すること。
西洋の歴史の特徴を理解しているか、自分で参考文献に当たり学習しているか、調べた内容と自分の考えとを明確かつ論理的に説明できているか、こうした点を基準に評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
授業中に適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
現在の西洋の政治・経済・文化に日ごろから関心をもって接すること。
私語や携帯電話の使用など、他の受講者の邪魔になるような行為は慎むこと。
各人が自分で文献を探して読むことで学習を深めることが望まれる。

■講義計画
①「西洋の歴史」とは何か
②宗教改革とヨーロッパの分裂
③新しい国家体系
④ヨーロッパ外への船出
⑤産業革命と植民地
⑥アジアとヨーロッパ
⑦フランス革命の激動
⑧「国民」とは何か
⑨ナショナリズムの時代
⑩ヨーロッパの世紀
⑪アメリカ合衆国の台頭
⑫近代西洋と日本
⑬グローバル化の時代
⑭世界大戦の時代
⑮アメリカの世紀

地理学のすすめ

【担当】松岡　恵悟
【開講】前期　木3

■サブタイトル
身近な地域、身近な問題を地理学的に観てみよう

■講義概要
地理学は、地表で展開されるさまざまな空間現象について、その地域差（あるいは共通性）に着目しながら追究して行く学問分野です。そこで扱われる空間現象には大きく分けて、地形、気候、植生、水文などの自然現象と、政治、経済、産業、社会、宗教・文化など人文現象がありますが、この科目では産業や人口分布といった人文現象のなかでも経済・社会を読み解くための基本的事項を中心に扱います。また、地理学では地域について考えるためのツールとして地図をよく使います。講義では、まずは地図利用の基本について学び、その後は地図を利用しながら地域のさまざまな空間現象について考えていく、という形になります。
この講義の受講を通して、身近な地域の空間現象について、地理学的な見方や考え方ができるようになることを期待します。それは決して難しいことではなく、もしかしたら高校までの授業などを通じてある程度そのような素養が備わっている人もいるかもしれません。唐突かもしれませんが・・・人生は生活の場所選び（空間選択）の連続です。さまざまな人（や企業など）の空間選択の結果が地域をつくっているとも言えます。既にみなさんは大学進学において空間選択をしましたが、今後さらにさまざまな空間選択の機会があります。そうした際に、ぜひ「地理学的な見方や考え方」を役に立てて欲しいと思います。

■到達目標
身近な地域について理解しようとする際に、地理学的な見方や考え方を導入してみることができる。

■講義方法
教科書は使用しません。基本的にはレジュメ・資料を配布し、それにそって講義を進めます。また毎回多数の地図（パワーポイントで提示、一部は資料として配布）を使用します。そのほか、テーマによっては映像（TVニュースなど）や写真も使用する予定です。なお、2～3週に1回程度のペースで、授業時間中に問題解答（時間が不足した場合には宿題とする）を実施し、その提出物は成績評価の材料とします。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習は特に必要無いと思いますが、地名や用語など小・中学校の社会科で扱われる程度のことは既知を前提として授業を行いますので、不都合がある場合は各自で地図帳等を用意するなど対応してください。復習としては、授業で説明した地理学的な現象やその見方、考え方を、日常ふれる身近な地域の現象などに各自で適用して考えてみるような作業をおすすめします。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）授業中に、または宿題として実施する設問への解答、ミニ・レポートの完成度、受講姿勢を評価します。
レポート（50%）各自が選択した地域（空間現象）について、地理学的な見方や考え方にそって説明できるか、を問うような内容とする予定です。

■テキスト
特になし

■参考文献
テーマごとにレジュメに記載します。復習を行う場合に活用してください。

■履修上の注意・担当者からの一言
とにかく地図（主題図）を数多く使用します。それを積極的に見て（読んで）理解しようとする姿勢がないと、全体の理解に繋がりにくいと思われます。また、テーマによってはある程度の数理的な思考が要求される場合もあります。

■講義計画
①授業の進め方
　アンケート実施
②地図のはなし
③日本国内の「地域差」をみる
④グローバル化と大都市
⑤近畿地方の地理

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】前期　月３

■サブタイトル
自然観を中心として

■講義概要
太古の昔より、人間に恵みと脅威をもたらすものとして、自然というものに人間は深い関わりと関心をもって生きてきた。なかでも自然万物の根源を、自らの生き方にリンクさせながら探求したのが、古代ギリシアの哲学者と呼ばれる人びとであった。先哲のそうしたアプローチを一つの媒介としながら、われわれの生き方を探る視点と併せて自然というものを今一度とらえ直すのが本講義のテーマである。環境問題等の社会問題を扱ううえでの一つの視点を提供したい。受講者も自ら積極的に問いを発して考えるひとときとしてほしい。

■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾け、そのうえで相手にわかるよう自分の意見を述べること。

■講義方法
講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義で使用するスライド用PDFはホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについて話し合うグループワークを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのグループワークの実施翌週以降には、グループワークおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の「各回講義内容PDF」および「哲学入門ナビプリント（二回目の講義で配布）」に目を通しておいてほしい。また三回のレポートはグループワークの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法
平常点（16%）グループワークに参加し、所感文を提出することによる参加点。
レポート（80%）一回目から三回目のグループワーク実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。
その他（４%）講義の出席点（講義日のうちのどれかで出席確認）
グループワークの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する「哲学入門・ナビプリント」で確認すること。二回目の講義では単位取得上必要な事項の詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。グループワークのテーマについてはホームページ上でも公開しているので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のグループワークに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト
特になし

■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。
推奨文献は二回目の講義で配布する「哲学入門・ナビプリント」に記載している。

■履修上の注意・担当者からの一言
取組み次第では、「他の話に耳を傾け、自らの考えを相手にわかるように述べる」という、社会人に必要な資質が身につく有益な講義になりうる。ただし、講義を聞く気がなかったり雑談をしていていてそのような資質が身につく道理がないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画
①ロゴス的自然観の形成
②原子論の利点と問題点
③幸福と快楽―ソクラテス対カリクレス
④知性となる魂―アナクサゴラスからプラトンへ
⑤グループワーク①「自然に生きる」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑥アリストテレスの目的論的自然観
⑦エピクロスとストア派の自然観
⑧グループワーク②「エネルギー問題」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑨フィッチーノの自然観
⑩デカルトの自然観
⑪理性的存在者としての人間―カント
⑫グループワーク③「大学に身を置く意義」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑬唯物論的自然観
⑭「物語の主体」としての自己―マッキンタイア
⑮グループワーク④「環境問題」（所感文を当日に提出）

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】前期　水3

■サブタイトル
倫理観の根を求めての序章

■講義概要
哲学は自然、人間、社会を考えるうえでの一貫した道筋を見いだそうと、模索を続けながら受け継がれてきた、二千数百年以上の歴史をもつ営為である。難解で日常生活に関係ないイメージをもたれがちであるが、実は人間の生き方を問うていくことに直結するものでもある。「どう生きていくか」を問うことは「よく生きること」、つまりわれわれがよって立つ「倫理観」の根を求めることである。「倫理観の根を求めて」問いを発し、筋道立てて考える、そうした訓練の「序章」に本講座がなれればいいと考える。一人一人がただ受動的に聞くだけでなく、「自ら考える」姿勢をもって積極的に参加してほしい。

■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾け、そのうえで相手にわかるよう自分の意見を述べること。

■講義方法
講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義で使用するスライド用PDFはホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについて話し合うグループワークを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのグループワークの実施翌週以降には、グループワークおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の「各回講義内容PDF」および「哲学入門ナビプリント（二回目の講義で配布）」に目を通しておいてほしい。また三回のレポートはグループワークの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法
平常点（16%）グループワークに参加し、所感文を提出することによる参加点。
レポート（80%）一回目から三回目のグループワーク実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。
その他（4%）講義の出席点（講義日のうちのどれかで出席確認）
グループワークの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する「哲学入門・ナビプリント」で確認すること。二回目の講義では単位取得上必要な事項の詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。グループワークのテーマについてはホームページ上でも公開しているので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のグループワークに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト
特になし

■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。
推奨文献は二回目の講義で配布する「哲学入門・ナビプリント」に記載している。

■履修上の注意・担当者からの一言
取組み次第では、「他の話に耳を傾け、自らの考えを相手にわかるように述べる」という、社会人に必要な資質が身につく有益な講義になりうる。ただし、講義を聞く気がなかったり雑談をしていていてそのような資質が身につく道理がないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画
①哲学の芽生え
②古代原子論の挑戦
③ソフィストとソクラテス
④プラトンのイデア論
⑤グループワーク①「幸福観」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑥アリストテレスの倫理思想
⑦ストア派とプロティノスのアパテイア
⑧グループワーク②「エネルギー問題」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑨哲学と宗教―フィッチーノ
⑩デカルトの真理観と情念論
⑪理性的存在としての人間―カント
⑫グループワーク③「大学に身を置く意義」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑬ニーチェと永劫回帰
⑭ロールズの格差原理
⑮グループワーク④「個人の価値観」（所感文を当日提出）

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】後期　月３

■サブタイトル
自然観を中心として

■講義概要
太古の昔より、人間に恵みと脅威をもたらすものとして、自然というものに人間は深い関わりと関心をもって生きてきた。なかでも自然万物の根源を、自らの生き方にリンクさせながら探求したのが、古代ギリシアの哲学者と呼ばれる人びとであった。先哲のそうしたアプローチを一つの媒介としながら、われわれの生き方を探る視点と併せて自然というものを今一度とらえ直すのが本講義のテーマである。環境問題等の社会問題を扱ううえでの一つの視点を提供したい。受講者も自ら積極的に問いを発して考えるひとときとしてほしい。

■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾け、そのうえで相手にわかるよう自分の意見を述べること。

■講義方法
講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義で使用するスライド用PDFはホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについて話し合うグループワークを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのグループワークの実施翌週以降には、グループワークおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の「各回講義内容PDF」および「哲学入門ナビプリント（二回目の講義で配布）」に目を通しておいてほしい。また三回のレポートはグループワークの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法
平常点（16%）グループワークに参加し、所感文を提出することによる参加点。
レポート（80%）一回目から三回目のグループワーク実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。
その他（４%）講義の出席点（講義日のうちのどれかで出席確認）
グループワークの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する「哲学入門・ナビプリント」で確認すること。二回目の講義では単位取得上必要な事項の詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。グループワークのテーマについてはホームページ上でも公開しているので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のグループワークに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト
特になし

■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。
推奨文献は二回目の講義で配布する「哲学入門・ナビプリント」に記載している。

■履修上の注意・担当者からの一言
取組み次第では、「他の話に耳を傾け、自らの考えを相手にわかるように述べる」という、社会人に必要な資質が身につく有益な講義になりうる。ただし、講義を聞く気がなかったり雑談をしていていてそのような資質が身につく道理がないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画
①ロゴス的自然観の形成
②原子論の利点と問題点
③幸福と快楽―ソクラテス対カリクレス
④知性となる魂―アナクサゴラスからプラトンへ
⑤グループワーク①「自然に生きる」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑥アリストテレスの目的論的自然観
⑦エピクロスとストア派の自然観
⑧グループワーク②「エネルギー問題」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑨フィッチーノの自然観
⑩デカルトの自然観
⑪理性的存在者としての人間―カント
⑫グループワーク③「大学に身を置く意義」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑬唯物論的自然観
⑭「物語の主体」としての自己―マッキンタイア
⑮グループワーク④「環境問題」（所感文を当日に提出）

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】後期　水３

■サブタイトル
倫理観の根を求めての序章

■講義概要
哲学は自然、人間、社会を考えるうえでの一貫した道筋を見いだそうと、模索を続けながら受け継がれてきた、二千数百年以上の歴史をもつ営為である。難解で日常生活に関係ないイメージをもたれがちであるが、実は人間の生き方を問うていくことに直結するものでもある。「どう生きていくか」を問うことは「よく生きること」、つまりわれわれがよって立つ「倫理観」の根を求めることである。「倫理観の根を求めて」問いを発し、筋道立てて考える、そうした訓練の「序章」に本講座がなれればいいと考える。一人一人がただ受動的に聞くだけでなく、「自ら考える」姿勢をもって積極的に参加してほしい。

■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾け、そのうえで相手にわかるよう自分の意見を述べること。

■講義方法
講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義で使用するスライド用PDFはホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについて話し合うグループワークを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのグループワークの実施翌週以降には、グループワークおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の「各回講義内容PDF」および「哲学入門ナビプリント（二回目の講義で配布）」に目を通しておいてほしい。また三回のレポートはグループワークの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法
平常点（16%）グループワークに参加し、所感文を提出することによる参加点。
レポート（80%）一回目から三回目のグループワーク実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。
その他（４%）講義の出席点（講義日のうちのどれかで出席確認）
グループワークの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する「哲学入門・ナビプリント」で確認すること。二回目の講義では単位取得上必要な事項の詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。グループワークのテーマについてはホームページ上でも公開しているので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のグループワークに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト
特になし

■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。
推奨文献は二回目の講義で配布する「哲学入門・ナビプリント」に記載している。

■履修上の注意・担当者からの一言
取組み次第では、「他の話に耳を傾け、自らの考えを相手にわかるように述べる」という、社会人に必要な資質が身につく有益な講義になりうる。ただし、講義を聞く気がなかったり雑談をしていていてそのような資質が身につく道理がないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画
①哲学の芽生え
②古代原子論の挑戦
③ソフィストとソクラテス
④プラトンのイデア論
⑤グループワーク①「幸福観」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑥アリストテレスの倫理思想
⑦ストア派とプロティノスのアパテイア
⑧グループワーク②「エネルギー問題」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑨哲学と宗教―フィッチーノ
⑩デカルトの真理観と情念論
⑪理性的存在としての人間―カント
⑫グループワーク③「大学に身を置く意義」（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑬ニーチェと永劫回帰
⑭ロールズの格差原理
⑮グループワーク④「個人の価値観」（所感文を当日提出）

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　月３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
法学入門も受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成27年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　木３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
法学入門も受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成27年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　月３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成27年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　木３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成27年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本の文学M

【担当】島村　健司
【開講】前期　木3

■サブタイトル
「文学」の役割と旅／旅行を描く小説

■講義概要
本講義では「文学」の役割を考えます。なかでも照準化するのは「文学」が担う役割において、生きる幅や厚みを拡張することが重要な位置を占めるということです。このようなことを考えていくために、旅／旅行の観点から近代以降の小説をとりあげていきます。旅は古くから日本文学と親和的な関係にあったといえますが、この講義では近代以降の小説が旅をモチーフとして内包する諸相と、それに向き合う読者のありようを探求します。このバックグラウンドには「日本」が横たわることも視野に入れて考察していきます。
旅は小説にとって重要視されてきたモチーフです。そこで二つの問いを呈してみましょう。
①なぜ、小説は旅をモチーフとするのか。
②旅をモチーフとする小説をどのように考えることができるのか。
②についてはいくつかの具体的な小説を吟味しながら考えます。たとえば、「旅行先でふと文学スポットに遭遇し、帰宅してから関係する小説を読んでみた。あるいは逆にある小説を読んで、舞台となっている場所へ旅行した。」、そのような経験をした人もいるのではないでしょうか。小説はフィクションの世界のことですが、私たちのいまの心情にはたらきかけ、実際の場所へといざなう力を秘めています。そうした小説の現実にはたらきかける力を吟味します。このような小説の力を引き出していけるかどうかは、私たちの想像力にかかっています。
以上の探求を通して、①の問いについて、自分なりのこたえを考えてみてください。
また、このようなことを踏まえて最初に提示した、生きる幅や厚みを拡張するという意味で、文学の「役割」を考えてみましょう。

■到達目標
・さまざまな日本の文学者とその小説について見識を広げる。
・小説を読む経験値を高め、生きる幅を広げることにつなげる。

■講義方法
・講義形式で進めます。
・講義時にとりあげる小説の本文（本やコピーなどの紙媒体に限る）を各自持ってきてください。
・とりあげる小説については、事前に「読後感」を書いて提出してもらいます。
・講義時には提出してもらった「読後感」に必要に応じて触れ、意見を求めます。

■系統的履修
「日本の文学N」を履修することが望ましいと考えます。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習：とりあげる小説について、旅との関連で、感想をまとめて提出（読後感）。
復習：講義の各パートの最後に、講義内容を400字程度に要約し、これについての意見や感想を200字程度で付してまとめたものを提出（要約と感想）。

■成績評価の方法
平 常 点（60%）課題（読後感・要約と感想）の提出状況とその内容から評価します。
レポート（40%）レポートとしての体裁と、内容としての論理性および説得力から評価します。
・1/3以上の欠席は単位認定の対象としません。
・提出物は期日に遅れた場合、評価対象としません。

■テキスト
・必要に応じて資料を作成し、配付します。
・各小説のテキストは指定しませんが、該当時間にその小説の本文（本やコピーなどの紙媒体に限る）を必ず持ってきてください。

■参考文献
講義時に適宜紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な発言を望みます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時間の前後

■講義計画
①ガイダンス（講義の進め方、課題、レポートについて説明）
②「文学」の役割と旅／旅行を描く小説を考えていく前提
③「出会い」の視点（1）
④「出会い」の視点（2）
⑤「出会い」の視点（3）
⑥「出会い」の視点（4）
⑦「出会い」の視点（5）
⑧「旅路」と「逗留」の視点（1）
⑨「旅路」と「逗留」の視点（2）
⑩「旅路」と「逗留」の視点（3）
⑪「帰郷」と「上京」の視点（1）
⑫「帰郷」と「上京」の視点（2）
⑬旅／旅行というテーマ（1）
⑭旅／旅行というテーマ（2）
⑮まとめ

日本の文学N

【担当】島村　健司
【開講】後期　木3

■サブタイトル
「文学」の特質とフィクションのリアリティ
■講義概要
本講義では「文学」の特質を考えます。とくに小説の特質は文字（ここでは日本語）の持つ効力を最大限に生かしたフィクションの物語ということにあります。読者は文字を主要な媒体として、物語内容や登場人物、舞台背景などに対して想像力を駆使して読書行為を営みます。前段を前提として、具体的には、幾人かの「日本」の作家を取り上げ、それらの小説におけるフィクションのメカニズムを考察します。このようなことを通して、想像力や物語の論理、さらにフィクションとリアルのありように対する考えを深めていくことをめざします。
■到達目標
・さまざまな日本の文学者とその小説について見識を広げる。
・私たちが身を置く日常空間と小説の物語世界とのかかわりを考える力を養う。
■講義方法
・講義形式で進めます。
・講義時にとりあげる小説の本文(本やコピーなどの紙媒体に限る)を各自持ってきてください。
・とりあげる小説については、事前に「読後感」を書いて提出してもらいます。
・講義時には提出してもらった「読後感」に必要に応じて触れ、意見を求めます。
■系統的履修
「日本の文学M」を履修することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
予習：とりあげる小説について、フィンションとリアリティとの関連で、感想をまとめて提出（読後感）。
復習：講義の各パートの最後に、講義内容を400字程度に要約し、これについての意見や感想を200字程度で付してまとめたものを提出（要約と感想）。
■成績評価の方法
平 常 点（60%）課題（読後感・要約と感想）の提出状況とその内容から評価します。
レポート（40%）レポートとしての体裁と、内容としての論理性および説得力から評価します。
・1/3以上の欠席は単位認定の対象としません。
・提出物は期日に遅れた場合、評価対象としません。
■テキスト
・必要に応じて資料を作成し、配付します。
・各小説のテキストは指定しませんが、該当時間にその小説の本文（本やコピーなどの紙媒体に限る）を必ず持ってきてください。
■参考文献
講義時に適宜紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な発言を望みます。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時間の前後
■講義計画
①ガイダンス（講義の進め方、課題、レポートについて説明）
②「文学」の特質とフィクションのリアリティを考える前提
③小説の論理と読者の役割を考える（1）
④小説の論理と読者の役割を考える（2）
⑤小説の論理と読者の役割を考える（3）
⑥小説の論理と読者の役割を考える（4）
⑦小説の物語表現と物語内容を考える（1）
⑧小説の物語表現と物語内容を考える（2）
⑨小説の物語表現と物語内容を考える（3）
⑩小説の物語表現と物語内容を考える（4）
⑪小説の時代背景と現在性を考える（1）
⑫小説の時代背景と現在性を考える（2）
⑬小説の時代背景と現在性を考える（3）
⑭小説の時代背景と現在性を考える（4）
⑮まとめ

日本の歴史M

【担当】生田　敦司
【開講】前期　月3

■サブタイトル
日本の通史と歴史観
■講義概要
日本では古代から現在に至るまで、多くの歴史叙述が行われた。そのうち、ある時期の歴史を語るのではなく、古代から連綿と続く歴史を語る「通史」も度々作られた。繰り返し述べられる歴史であっても、その叙述には、述者の思想や書かれた時代の背景が影響し、様々に性格が異なっている。
この講義では、各時代の通史を述べる史料などを取り上げ、その叙述の人物や思想、書かれた時代の背景などを考察する。
■到達目標
各時代の通史を述べる史料などを通して、日本の歴史の思想や史料が書かれた時代の背景などを観る目を養う。
■講義方法
講義形式で行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
シラバスに書かれた講義計画と講義中の予告などの情報から、史料に関する基礎的な知識を、辞書などを使って調べておく。
■成績評価の方法
平常点（20%）講義中の発問への回答や感想などによる積極的な講義への参加度
その他（80%）最終課題（レポート）または定期試験
レポートか定期試験かについては講義中に公表する。
■テキスト
レジュメを配布する。
■参考文献
講義中、折に触れて紹介する。
■講義計画
①ガイダンス
②古代の政治と歴史
③変体漢文と紀伝体
④神話と歴史
⑤律令国家の正史
⑥平安期氏族の歴史編纂
⑦平安貴族の政治と日記
⑧武家政権の成立と歴史叙述
⑨南北朝の動乱と歴史叙述
⑩戦国時代と通史
⑪徳川時代の通史（林家）
⑫新井白石の歴史観
⑬水戸学と尊皇論
⑭明治政府と歴史学
⑮アカデミズムと歴史学

日本の歴史N

【担当】生田　敦司
【開講】後期　月3

■サブタイトル
日本史と神仏
■講義概要
日本人はいつの時代も信仰を持っていた。現在、仏教は寺、神は神社といったような、かなり明確な棲み分けが定着し、我々は、それを当たり前のように捉えている。しかし、明治のいわゆる神仏分離令以前は、神も仏も区別なく同じように祭る風習や文化があった。
この講義では、日本の各時代において、どのように、神や仏と呼ばれるものと向き合い、それらが政治や社会にどのように関わったかを概観してゆく。
■到達目標
日本人の神仏観や信仰形態を通して、日本人が培ってきた思想や文化を歴史の流れとともに理解する。
■講義方法
講義形式で行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
シラバスに書かれた講義計画と講義中の予告などの情報から、史料に関する基礎的な知識を、辞書などを使って調べておく。
■成績評価の方法
平常点（20%）講義中の発問への回答や感想などによる積極的な講義への参加度
その他（80%）最終課題（レポート）または定期試験
レポートか定期試験かについては講義中に公表する。
■テキスト
レジュメを配布する。
■参考文献
講義中、折に触れて紹介する。
■講義計画
①ガイダンス
②縄文時代の信仰
③農耕社会の信仰
④仏教の伝来
⑤律令国家と神仏
⑥神仏の習合
⑦貴族と神仏
⑧「鎌倉新仏教」
⑨南北朝の人々と宗教
⑩戦国時代と宗教一揆
⑪天下人の神格化
⑫江戸時代の宗教政策
⑬国学と神道
⑭神仏分離令
⑮「国家神道」

法学のすすめ
法学入門（2014年度以前入学生）

【担当】時本　義昭
【開講】前期　月1

■サブタイトル
日常生活と法
■講義概要
わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成27年版』　三省堂
※プリント使用
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①基礎知識（法の種類）
②日本国憲法の基本原理
③日本国憲法の保障する人権
④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
⑦日常生活とアクシデント
⑧雇用と法
⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
⑩家族関係Ⅱ（相続）
⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
⑬行政と法
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

法学のすすめ
法学入門（2014年度以前入学生）

【担当】時本　義昭
【開講】後期　月1

■サブタイトル
日常生活と法

■講義概要
わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標
基本的な法的思考を身につけること

■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験

■テキスト
※特に指定しない。

■参考文献
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成27年版』　三省堂
※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画
①基礎知識（法の種類）
②日本国憲法の基本原理
③日本国憲法の保障する人権
④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
⑦日常生活とアクシデント
⑧雇用と法
⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
⑩家族関係Ⅱ（相続）
⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
⑬行政と法
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

倫理学入門

【担当】菊地　建至
【開講】前期　水3

■サブタイトル
現代社会の倫理学入門
★個人の行為や自由について「倫理学的に」考える

■講義概要
★「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから､「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。
●現代社会において､「個人の自由」についてどう考えるかは重要なことです。しかし､「自由」ってどういうことか､じっくり考えたことのあるひとは少ないのではないだろうか。この水曜日3時限の倫理学入門は､「社会によってなされる、個人の行為への介入や制限」と「個人の行為や選択の支援」に注目することによって、また､「経済･市場と倫理の関係」に注目することによって､「自由」について倫理学的に考える授業です。
●「現代社会の自由の問題には、倫理学の視点でどのような特徴があるか」と「倫理学的なアプローチは自由の問題にどのような提案をすることができるか」､これら両方の問いを意識し､「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。
●この授業は「入門」だから､まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について「複数の視点でじっくり考えること」を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
●この「倫理学入門」を通して､「倫理とはどのようなことがらか」､「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」等、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと､「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理学的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標
●現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理学的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

■講義方法
●「講義」形式だが、多くの授業のなかで「(映画を中心とする）映像資料」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。また、テキストは使用しないが、課題・ホームワークは少なくないだろう。あなたは「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容がひと区切りつくごとに、その復習やホームワークに真摯に取り組んでください。また、関心があるテーマについて、日頃から自習を進めることを期待する（遠慮せず質問もしてください)。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）ホームワーク、小テスト（確認テスト)、比較的短い論述（レポート）等で評価する
定期試験（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言
●わたしが担当する倫理学入門は、2015年度も、三種類あります（水曜日3時限･前期、水曜日4時限･前期、水曜日5時限･後期)。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分（たち）で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます。
●あなたは上記の（三種の）倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日･時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。また、曜日・時間により受講者数が大きく異なることはありうるから､「平常点の評価法」もそれに応じて異なることはありえます。詳しくは初回授業で説明します。
●継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、(知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画
①ガイダンス
②映像資料を用いて、自由や倫理について考えることを始める
③「個人の行為と、社会によるその介入・制限」についてよく考える
④映画や読書資料を用いて､「個人の行為や選択を支援すること」についてよく考える
⑤「倫理の基礎」について理解を深める
⑥映画や読書資料を用いて､「経済・市場と倫理」や「グローバリズムと倫理」についてよく考える
⑦授業で取り上げた範囲であなたがもっとも関心のある「自由や倫理の問題」について、徹底的に考えよう
⑧以上、順不同。

倫理学入門

【担当】菊地　建至
【開講】後期　水5

■サブタイトル
現代社会の倫理学入門
「これからの情報社会」や「多数派/少数派」について批判的にじっくり考える

■講義概要
★「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。
★この「水曜日5時限の倫理学入門」は、「映像資料」と「(授業内で配布する) 読書資料やクリティカルシンキングのワーク」を頻繁に活用する授業です。後者の点では、予習・復習の機会も多い授業になるので、そういう自習はしたくないというひとは、この授業に向かないでしょう。もちろん、ただ読書資料を順番に読むだけといったものではなく、さまざまな (映画など) 映像資料やワークも活用し、学生が「楽しく、能動的に」取り組める工夫もたくさんあります。
●この水曜日5時限の倫理学入門は、科学技術と人間のかかわり、とくにその倫理的・政治的な諸問題を「複数の視点でじっくり考える」授業です。2015年度は、ひと (人間) が科学技術の進展に期待して生きることの倫理的・政治的な諸問題の中でも、おもに以下の2つの領域の探究を進める。
1　コンピュータ、スマートフォン等の科学技術・ツールを得て人間は何ができるようになったか、それらの技術に関してこれからさらに何ができるようになるとよいか、何でも何の制限もなくできるようになってよいか等、じっくり考えなければならないことがたくさんある。そういうことに取り組むのに、「倫理学」や「クリティカルシンキング」は大きな力になる。
2　情報社会やデモクラシーにおける「不平等」・「マイノリティ」・「差別」等に関連する問題について、複数の視点でじっくり考える。そういうことに「倫理学」や「クリティカルシンキング」はどのように貢献するか、具体的に取り組む中で理解を深める。
●この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について (他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど) 考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
●この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことがらか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理学的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標
●現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理学的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。
●大学で求められる「読むこと」や「議論すること」について理解を深める。

■講義方法
●「講義」形式だが、多くの授業のなかで「(映画を中心とする) 映像資料」や「(授業内で配布する) 読書資料」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。あなたは「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。
●授業で配布する「読書資料」は (これらは授業内で使用することもあればホームワークに活用する場合もある)、ときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、あなたにやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示
読書資料を読んでくること、授業内容の自習 (予習・復習を含む) が求められる機会は少なくないだろう。また、授業内容がひと区切りつくごとに、その復習やホームワークに真摯に取り組んでください。

■成績評価の方法
平常点 (50%)　ホームワーク、小テスト (確認テスト)、比較的短い論述 (レポート) 等で評価する
定期試験 (50%)

■テキスト
特になし

■参考文献
授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言
●わたしが担当する倫理学入門は、2015年度も、三種類あります (水曜日3時限・前期、水曜日4時限・前期、水曜日5時限・後期)。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分 (たち) で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます。
●あなたは上記の (三種の) 倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。また、曜日・時間により受講者数が大きく異なることはありうるから、「平常点の評価法」や「試験の持込条件」もそれに応じて異なることはありえます。詳しくは初回授業で説明します。
●継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、(知的に) 楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画
①「ガイダンス」
②映像資料と読書資料を活用し、「自由と平等」および「情報社会の倫理や政治の問題の広がり」を理解する -1
③映像資料と読書資料を活用し、「自由と平等」および「情報社会の倫理や政治の問題の広がり」を理解する -2
④クリティカルシンキング -1
－なぜ、大学生が (そして社会人が) クリティカル・シンキングを学ぶことが重要なのか、日常生活のどのような場面で、また人生全体を通してどのような意味で、この授業のクリティカル・シンキングは役立つか
⑤クリティカルシンキング -2
－普段の会話、あなたが気になるマスメディアやインターネットでの他人の発言、これらは通常あまり整理されていない。クリティカル・シンキングの第一歩は、それらの中に、主張とそれを支える論証 (理由や証拠) からなる「議論」を特定することである。議論の特定に慣れよう。
⑥映像資料と読書資料を活用し、「自由と平等」および「情報社会の倫理や政治の問題の広がり」を理解する -3
⑦この「自由な社会」で、個人の行為を規制する理由について理解を深めよう
⑧情報技術の急速な進展と結びついた監視 (記録や履歴を利用する多量収集・検索・追跡) 社会における、政府や民間企業や個人どうしによる個人の監視、個人情報の収集などとその倫理について考える
⑨クリティカルシンキング -3
－騙される (だまされる) のは不愉快であり、時には騙されて被害や損失を招くこともある。それでは、人はどういうことで騙されるのか。心理的クリティカル・シンキングの初歩を学ぶ。また、他人だけがあなたを騙すのでなく、あなた自身によって間違った考えを信じてしまうこともある、このことをよく知ろう。多くの人に共通する「信じやすさ」の仕組みや「心理的・認知的な偏り」について学ぶ。
⑩インターネットなど情報技術の進展がいちじるしい現代社会で、わたしたちはどのように生活し、考え、表現するか
－J.S.ミル『自由論』を参考に、「なぜ、各自が自由に考え、意見や疑問を持ち、それらを他者にも向けて言葉で表すこと (言論) が重視されるべきなのか」という問いを、「(本人の人生というよりはむしろ) 社会にとって」という視点でじっくり考える。
⑪映像資料と読書資料を活用し、「デモクラシーの基礎」と「この社会における〈マイノリティ〉問題のいくつか」について倫理学的に考える -1
⑫映像資料と読書資料を活用し、「デモクラシーの基礎」と「この社会における〈マイノリティ〉問題のいくつか」について倫理学的に考える -2
⑬クリティカルシンキング -4
－クリティカルシンキングのまとめ
⑭インターネットなど情報技術の進展がいちじるしい現代社会で、わたしたちは「デモクラシー」・「多数決や代表をめぐる諸問題」とどのようにかかわればよいか
⑮まとめ
以上、順不同
受講者数や教室の状況によるが、適宜「複数人で協力してクリティカル・シンキングを実践すること」も取り入れる予定である。

歴史入門

【担当】中田　裕子
【開講】前期　木3

■サブタイトル
歴史書（史料）から読む解く真実―人々はなぜ歴史を書き残そうとするのか―

■講義概要
歴史とは、過去に起こった出来事と「現代」に起こった問題の関係性を考察する学問である。この「歴史入門」では、歴史の入門編として歴史書を題材にしつつ、現代世界と深い関わりのある事柄ついて取り上げ、現在問題になっている「民族紛争」「領土問題」などを考察していく。
また、近年「グローバル化」という言葉が盛んに用いられるようになったが、はたして、それは近代に生まれた概念なのであろうか。よって、歴史に登場する様々な王朝間の交易・交流を通して、歴史からみた「グローバル化」を再考する。

■到達目標
①各時代、各地域で記された史料から世界の歴史を学ぶ。
②広い視野に立った歴史観を形成する。
③様々な立場から歴史を学ぶことで、相互に理解することのできる想像力を身につける。
④様々な文化における多様な価値観を学ぶ。

■講義方法
講義時に適宜プリントを配布し、具体的な史料等を提示しながら進めたい。場合によってDVD等も使用する。

■系統的履修
アジアの歴史と社会

■授業時間外における予・復習等の指示
予備知識として、手元に中学歴史、高校世界史の教科書があれば、上の学修内容に関連する箇所を読んでおくことを勧める。また、講義中にとったノートは、後で整理し、復習をしておこう。それらをきとんとすることによって、理解がより深まるはずである。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況とDVD等を見たあとに提出する感想・コメント文の内容評価を含む。
定期試験（70%）論述形式の試験を行う。最終的な理解を評価の対象とする。
随時出席を取る。

■テキスト
特になし

■参考文献
岡田英弘　『歴史とは何か』　文藝春秋　690円
小杉泰　『イスラームとは何か』　講談社　907円
關尾史郎　『西域文書からみた中国史』　山川出版社　729円
森安孝夫　『シルクロードと唐帝国』　講談社　2,300円

■履修上の注意・担当者からの一言
歴史学は単なる暗記物ではない。自分自身で問題意識を持って歴史に問いかけ、歴史発展の中から人間としての生き方を学び取ってほしい。

■講義計画
①ガイダンス－歴史を学ぶ意味を考えよう
②文字の歴史－歴史のはじまりをもとめて
③歴史の父ヘロドトスとギリシア・ローマ世界
④ペルシア戦争と「西洋」「東洋」の誕生～「アジア」はどのようにして生まれたか
⑤中国史上初の歴史書『史記』と司馬遷－中華王朝の歴史とは?
⑥漢帝国と遊牧民の歴史－「シルクロード」とはいつはじまったのか?
⑦出土史料から見る歴史―大谷文書と大谷探検隊
⑧遊牧民が語る「歴史」のはじまり－トルコ系遊牧民の文字－
⑨遊牧民の帝国「モンゴル」とグローバル化
⑩朝鮮の歴史と神話－朝鮮文化の形成と「朝鮮民族」
⑪日本史と歴史書のなりたち－『日本書紀』と『古事記』－
⑫「イスラーム教」を考える
⑬イスラーム国家の発展
－『アラビアンナイト』にみるイスラーム・ネットワークと「グローバル化」
⑭宗教と民族紛争－パレスチナ問題と「民族」
⑮領土・民族・国家について考える－真の「グローバル化」とは何か?

歴史入門

【担当】中田　裕子
【開講】後期　木3

■サブタイトル
歴史書（史料）から読む解く真実―人々はなぜ歴史を書き残そうとするのか―

■講義概要
歴史とは、過去に起こった出来事と「現代」に起こった問題の関係性を考察する学問である。この「歴史入門」では、歴史の入門編として歴史書を題材にしつつ、現代世界と深い関わりのある事柄ついて取り上げ、現在問題になっている「民族紛争」「領土問題」などを考察していく。
また、近年「グローバル化」という言葉が盛んに用いられるようになったが、はたして、それは近代に生まれた概念なのであろうか。よって、歴史に登場する様々な王朝間の交易・交流を通して、歴史からみた「グローバル化」を再考する。

■到達目標
①各時代、各地域で記された史料から世界の歴史を学ぶ。
②広い視野に立った歴史観を形成する。
③様々な立場から歴史を学ぶことで、相互に理解することのできる想像力を身につける。
④様々な文化における多様な価値観を学ぶ。

■講義方法
講義時に適宜プリントを配布し、具体的な史料等を提示しながら進めたい。場合によってDVD等も使用する。

■系統的履修
アジアの歴史と社会

■授業時間外における予・復習等の指示
予備知識として、手元に中学歴史、高校世界史の教科書があれば、上の学修内容に関連する箇所を読んでおくことを勧める。また、講義中にとったノートは、後で整理し、復習をしておこう。それらをきとんとすることによって、理解がより深まるはずである。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況とDVD等を見たあとに提出する感想・コメント文の内容評価を含む。
定期試験（70%）論述形式の試験を行う。最終的な理解を評価の対象とする。
随時出席を取る。

■テキスト
特になし

■参考文献
岡田英弘　『歴史とは何か』　文藝春秋　690円
小杉泰　『イスラームとは何か』　講談社　907円
關尾史郎　『西域文書からみた中国史』　山川出版社　729円
森安孝夫　『シルクロードと唐帝国』　講談社　2,300円

■履修上の注意・担当者からの一言
歴史学は単なる暗記物ではない。自分自身で問題意識を持って歴史に問いかけ、歴史発展の中から人間としての生き方を学び取ってほしい。

■講義計画
①ガイダンス－歴史を学ぶ意味を考えよう
②文字の歴史－歴史のはじまりをもとめて
③歴史の父ヘロドトスとギリシア・ローマ世界
④ペルシア戦争と「西洋」「東洋」の誕生～「アジア」はどのようにして生まれたか
⑤中国史上初の歴史書『史記』と司馬遷－中華王朝の歴史とは?
⑥漢帝国と遊牧民の歴史－「シルクロード」とはいつはじまったのか?
⑦出土史料から見る歴史―大谷文書と大谷探検隊
⑧遊牧民が語る「歴史」のはじまり－トルコ系遊牧民の文字－
⑨遊牧民の帝国「モンゴル」とグローバル化
⑩朝鮮の歴史と神話－朝鮮文化の形成と「朝鮮民族」
⑪日本史と歴史書のなりたち－『日本書紀』と『古事記』－
⑫「イスラーム教」を考える
⑬イスラーム国家の発展
－『アラビアンナイト』にみるイスラーム・ネットワークと「グローバル化」
⑭宗教と民族紛争－パレスチナ問題と「民族」
⑮領土・民族・国家について考える－真の「グローバル化」とは何か?

教養教育科目
選択科目

カナ	科目名	担当者	開講曜	講時	ページ
ア	アジアの文化	徐　光輝	前期	木４	67
	アジアの文化	松井　智子	後期	水３	67
エ	英語セミナーＡ１	宇野　誠一	前期	月１	68
	英語セミナーＡ１	宇野　誠一	前期	月２	68
	英語セミナーＡ１	ワード　ジョン	前期	水３	69
	英語セミナーＡ１	ワード　ジョン	前期	水４	69
	英語セミナーＡ２	宇野　誠一	後期	月１	70
	英語セミナーＡ２	宇野　誠一	後期	月２	70
	英語セミナーＡ２	ワード　ジョン	後期	水３	71
	英語セミナーＡ２	ワード　ジョン	後期	水４	71
	英語セミナーＢ１	前川　貴史	前期	金２	72
	英語セミナーＢ２	前川　貴史	後期	金２	72
	英語セミナーＣ１	音羽　レベッカ	前期	水２	73
	英語セミナーＣ１	音羽　レベッカ	前期	水３	73
	英語セミナーＣ１	ワード　ジョン	前期	水２	74
	英語セミナーＣ２	音羽　レベッカ	後期	水２	74
	英語セミナーＣ２	音羽　レベッカ	後期	水３	75
	英語セミナーＣ２	ワード　ジョン	後期	水２	75
	英語セミナーＤ１	大槻　志郎	前期	水２	76
	英語セミナーＤ２	大槻　志郎	後期	水２	77
	英語セミナーＥ１	里井　久輝	前期	水３	78
	英語セミナーＥ２	里井　久輝	後期	水３	78
オ	欧米の文化	大槻　志郎	後期	水３	79
	欧米の文化	嶋﨑　陽一	前期	月４	80
カ	科学技術史	堤　一義	前期	月３	81
	科学技術史	林　久夫	前期	月１	82
	環境と人間Ａ	小山　豊一	後期	月４	82
	環境と人間Ａ	竺　文彦	前期	月４	83
	環境と人間Ｂ	佐々木　尚子	後期	木４	83
	環境と人間Ｂ	本多　真	前期	木４	84
	環境と倫理	柿本　佳美	前期	木４	84
キ	教養教育科目特別講義Ｃ（アジアの映画）	李　相哲	前期	月１	85
	教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）	野呂　靖／道元　徹心	後期	月３	85
	教養教育科目特別講義Ｅ（アジアの途上国と社会開発）	佐藤　彰男	前期	月３	86
	教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）	岡﨑　史子	前期	水２	86
	教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）	岡﨑　史子	後期	水２	87
ケ	健康とスポーツ	渡辺　英児	後期	月１	87
	現代社会とスポーツ	辻　延浩	後期	金１	88
	現代社会と福祉	岡野　英一	前期	木３	89
	現代社会とマス・メディア	中野　有	前期	水３	89
	現代社会とマス・メディア	中野　有	後期	水３	90
	現代社会とマス・メディア	西村　敏雄	後期	水２	91
	現代の技術	小川　圭二／長澤　佳克	後期	月３	92
コ	国際社会と日本Ａ	池尾　靖志	後期	金２	92
	国際社会と日本Ｂ	佐藤　一進	前期	水１	93
	コリア語ＩＡ	孫　才喜	前期	水３	93
	コリア語ＩＢ／コリア語ＩＣ	朴　炫国	前期	月２	94
	コリア語ⅡＡ／コリア語ＩＢ	孫　才喜	後期	水３	94
	コリア語ⅡＢ／コリア語ＩＤ	朴　炫国	後期	月２	95
	コリア語セミナーＡ	朴　炫国	前期	月４	95
	コリア語セミナーＢ	朴　炫国	後期	月４	96
サ	里山学／教養教育科目特別講義Ａ（里山学入門）／共同開講科目特別講義	宮浦　富保／越川　博元／鈴木　龍也／須藤　明子／鰍地　孝人／寺田　憲弘／朴　炫国／丸山　徳次／山崎　美恵／遊磨　正秀／横田　岳人	前期	月３	96
	雑草学／教養教育科目特別講義Ｇ（雑草学）	三浦　励一	後期	木３	97
シ	自然観察法	宮浦　富保／遊磨　正秀	前期	金２	97
	社会思想史入門	村澤　真保呂	前期	金２	98
	社会思想史入門	森　元斎	後期	木４	99
	ジェンダー論	堀江　有里	前期	火５	99
	ジェンダー論	堀江　有里	後期	火５	100
	情報社会とメディア	外村　佳伸／三浦　雅展	前期	月３	100
	情報社会とメディア	外村　佳伸／三浦　雅展	後期	月３	101
	情報と人間	植村　渉	後期	木３	101
	情報倫理	野村　竜也／芝原　努	前期	月４	102
	人権論Ａ	稲田　七海	前期	月２	102
	人権論Ａ	稲田　七海	前期	月３	103
	人権論Ａ	上原　健太郎	前期	木５	103
	人権論Ａ	中川　ユリ子	前期	月２	104
	人権論Ａ	中川　ユリ子	前期	月３	104

カナ	科目名	担当者	開講曜	講時	ページ
シ	人権論Ａ	朴　沙羅	前期	月２	105
	人権論Ａ	朴　沙羅	前期	月３	105
	人権論Ａ	矢野　亮	前期	木３	106
	人権論Ｂ	稲田　七海	後期	月２	106
	人権論Ｂ	稲田　七海	後期	月３	107
	人権論Ｂ	上原　健太郎	後期	木５	107
	人権論Ｂ	中川　ユリ子	後期	月２	108
	人権論Ｂ	中川　ユリ子	後期	月３	108
	人権論Ｂ	朴　沙羅	後期	月２	109
	人権論Ｂ	朴　沙羅	後期	月３	109
	人権論Ｂ	矢野　亮	後期	木３	110
ス	スポーツ文化論	久保　和之	前期	水２	110
セ	生活の中の数学	國府　宏枝／大西　俊弘	前期	水３	111
	生活の中の生物学	横田　岳人	前期	水３	112
	生活の中の地学	滋野　哲秀	後期	月１	113
	生活の中の統計技術	飯田　晋司	後期	水３	114
	生活の中の統計技術	竹歳　一紀	前期	金３	114
	生活の中の物理	石崎　俊雄	後期	月２	115
	生命と科学	宮武　智弘	前期	金１	116
	生命と共生	柿本　佳美	後期	木４	117
	生命と共生	田村　公江	前期	水２	118
	世界の福祉	太谷　亜由美	前期	水３	118
タ	歎異抄の思想Ⅰ	杉岡　孝紀	前期	金２	119
	歎異抄の思想Ⅱ	杉岡　孝紀	後期	金２	119
チ	中国語ＩＡ	韓　正愛	前期	水４	120
	中国語ＩＡ	張　健同	前期	月３	120
	中国語ＩＢ／中国語ＩＣ	張　健同	前期	水３	121
	中国語ＩＢ／中国語ＩＣ	張　健同	前期	水４	121
	中国語ＩＢ／中国語ＩＣ	李　愛華	前期	水３	122
	中国語ⅡＡ／中国語ＩＢ	韓　正愛	後期	水４	122
	中国語ⅡＡ／中国語ＩＢ	張　健同	後期	月３	123
	中国語ⅡＢ／中国語ＩＤ	張　健同	後期	水３	123
	中国語ⅡＢ／中国語ＩＤ	張　健同	後期	水４	124
	中国語ⅡＢ／中国語ＩＤ	李　愛華	後期	水３	124
	中国語セミナーＡ	韓　正愛	前期	水３	125
	中国語セミナーＢ	韓　正愛	後期	水３	125
ト	ドイツ語ＩＡ	呉　春吉	前期	月２	126
	ドイツ語ＩＡ	呉　春吉	前期	月３	126
	ドイツ語ＩＢ／ドイツ語ＩＣ	青山　豊	前期	月３	127
	ドイツ語ＩＢ／ドイツ語ＩＣ	永井　達夫	前期	水３	127
	ドイツ語ⅡＡ／ドイツ語ＩＢ	呉　春吉	後期	月２	128
	ドイツ語ⅡＡ／ドイツ語ＩＢ	呉　春吉	後期	月３	128
	ドイツ語ⅡＢ／ドイツ語ＩＤ	青山　豊	後期	月３	129
	ドイツ語ⅡＢ／ドイツ語ＩＤ	永井　達夫	後期	水３	129
	ドイツ語セミナーＡ	青山　豊	前期	月４	130
	ドイツ語セミナーＢ	青山　豊	後期	月４	130
ニ	日本語	北川　逸子	前期	月１	131
	日本語	北川　逸子	後期	月１	131
	日本語	北川　逸子	前期	月３	132
	日本語	北川　逸子	後期	月３	132
	日本の文化	泉　文明	後期	月３	133
	人間と社会と法	時本　義昭	前期	木４	133
ハ	発達と教育Ａ	松島　恵介	前期	水１	134
	発達と教育Ａ	松島　恵介	前期	水２	135
	発達と教育Ｂ	松島　恵介	後期	水１	136
	発達と教育Ｂ	松島　恵介	後期	水２	137
フ	フランス語ＩＡ	瓜生　濃世	前期	水４	138
	フランス語ＩＢ／フランス語ＩＣ	嶋﨑　陽一	前期	月３	138
	フランス語ＩＢ／フランス語ＩＣ	森部　卓	前期	木３	139
	フランス語ＩＢ／フランス語ＩＣ	森部　卓	前期	木４	139
	フランス語ⅡＡ／フランス語ＩＢ	瓜生　濃世	後期	水４	140
	フランス語ⅡＢ／フランス語ＩＤ	嶋﨑　陽一	後期	月３	140
	フランス語ⅡＢ／フランス語ＩＤ	森部　卓	後期	木３	141
	フランス語ⅡＢ／フランス語ＩＤ	森部　卓	後期	木４	141
	フランス語セミナーＡ	嶋﨑　陽一	前期	木４	142
	フランス語セミナーＢ	嶋﨑　陽一	後期	木４	142
ヘ	平和学入門	宮﨑　寛	前期	水３	143
	平和学入門	宮﨑　寛	後期	水３	144
メ	メディアにみる福祉	高田　敏司	後期	木５	145
	メディアにみる福祉	幸重　忠孝	後期	木２	145
レ	歴史入門	中田　裕子	前期	水２	146
	歴史入門	中田　裕子	後期	水２	146
ロ	論理学入門	中谷　隆雄	前期	月３	147
	論理学入門	中谷　隆雄	後期	月３	147

アジアの文化

【担当】徐　光輝
【開講】前期　木4

■サブタイトル
古代中国と東アジア
■講義概要
考古学発掘調査によれば、中国文明のあけぼのは遅くとも5000年前の新石器時代後期にさかのぼる。畑作や水田稲作に代表される農耕文化の発展に伴って、各地に城郭都市の原型が現われ、地域初期国家の胎動が注目を浴びており、従来疑われてきた「三皇五帝」などの文献資料の虚実が再検討されるようになった。
このような先史文明を土台に、夏・商（殷）・周のような古代国家が各地で興亡を繰り返し、春秋戦国時代を経て、秦漢帝国が登場した。とりわけ城郭都市、文字、百家思想、金属器（青銅器、鉄器）文化、郡県制度が注目される。
後漢末に起きた「黄巾の乱」を経て、魏、蜀、呉といった三国時代に入るが、西晋王朝によって再び統一された。南北朝時代の民族大融合のなかで、地域文化交流が活発になり、絢爛たる六朝文化、北朝文化が栄え、朝鮮半島や日本列島との文化交流を裏付ける考古発見も多い。
隋唐時代には東西文化交流が更に盛んになり、科学技術、経済、文化、芸術などの分野において大きく発達した。朝鮮半島や日本列島との文化交流も頻繁に行われた。
■到達目標
隋唐時代に至る中国歴史文化の主な流れを知り、また朝鮮半島や日本列島との比較研究の一助になってほしい。
■講義方法
時代順に概説するが、パワーポイント、ビデオなどによる映像資料を常に使う。
■系統的履修
アジアの歴史文化に関する科目を多く履修してほしい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）受講態度等
レポート（60%）期末レポート等
■テキスト
特になし
■参考文献
尾形勇・岸本美緒編 『中国史（新版世界各国史３）』 山川出版社　1998　3,500円
小澤正人・谷豊信・西江清高著 『中国の考古学（世界の考古学７）』 同成社　1999　3,200円
■オフィスアワー・教員への連絡方法
xgh@world.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①はじめに
②黄河文明
③長江、淮河文明
④遼河文明
⑤夏人、夏王朝、夏文化の正体
⑥殷周王朝と都城遺跡
⑦春秋戦国の百家思想
⑧秦の統一と始皇帝陵
⑨漢王朝と長安城、洛陽城
⑩魏晋と『魏志倭人伝』
⑪南北朝の民族大移動
⑫宗教文化の伝播と交流
⑬隋唐帝国の成立と繁栄
⑭遣唐使関連資料の新発見
⑮おわりに

アジアの文化

【担当】松井　智子
【開講】後期　水3

■サブタイトル
タイの社会と文化
■講義概要
この授業では、東南アジア社会、とりわけタイの社会と文化について学ぶ。講義の導入部では、東南アジア社会やタイ社会を理解するための基礎的な概念を解説する。「海域世界」、「開拓社会」などがキーワードとなる。その上で、タイ社会について、ナショナリズム／階層／エスニシティ／ジェンダーといった側面から検討し、「文化と権力」という問題について理解を深める。具体的には、ネイション形成とナショナリズム、経済成長と都市下層民、山地民族女性の表象といった問題を取り上げる。理解を深めるため映像資料も用いるほか、ゲストスピーカーによる講義も予定している。
■到達目標
東南アジア社会、とりわけタイの社会と文化を捉えるための基礎的な概念を理解する。その上で、具体的な諸課題を検討することを通じて、「文化と権力」という問題について考える。東南アジア、特にタイの社会と文化を多面的に学ぶことによって、アジアの社会に対するステレオタイプにとらわれない公平な見方ができるようになることを目指す。
■講義方法
プリントを配布し、それに沿って講義を行う。映像資料や新聞記事なども使用する。ゲストスピーカーによる講演も予定している。
■授業時間外における予・復習等の指示
中間テストを実施するので、授業の復習をすること。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）感想文等の提出を含む。
小テスト（30%）
定期試験（40%）
■テキスト
担当者がプリントを配布する。
■参考文献
柿崎一郎 『物語　タイの歴史』 中公新書　920円
その他、授業中に適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
無遅刻・無欠席が原則です。
■講義計画
①オリエンテーション
②東南アジア社会の特徴
③タイの社会と文化（1）
④タイの社会と文化（2）
⑤タイの都市化と階層文化（1）
⑥タイの都市化と階層文化（2）
⑦タイの都市化と階層文化（3）
⑧これまでのまとめ・中間テスト
⑨国際比較の視点
⑩タイのネイション形成とナショナリズム（1）
⑪タイのネイション形成とナショナリズム（2）
⑫タイのネイション形成とナショナリズム（3）
⑬タイのエスニシティとジェンダー（1）
⑭タイのエスニシティとジェンダー（2）
⑮まとめ

英語セミナーＡ１

【担当】宇野　誠一
【開講】前期　月１

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。
■到達目標
１年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低１００点のアップを期待する。
■講義方法
毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をしておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝日出版　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Text 1
③Text 2
④Text 3
⑤Text 4
⑥Text 5
⑦Text 6
⑧Text 7
⑨Text 8
⑩Text 9
⑪Text 10
⑫Text 11
⑬Text 12
⑭In class Final Exam
⑮Feedback

英語セミナーＡ１

【担当】宇野　誠一
【開講】前期　月２

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。
■到達目標
１年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。
■講義方法
毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をすること。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝日出版　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Text 1
③Text 2
④Text 3
⑤Text 4
⑥Text 5
⑦Text 6
⑧Text 7
⑨Text 8
⑩Text 9
⑪Text 10
⑫Text 11
⑬Text 12
⑭In class Final Exam
⑮Feedback

英語セミナーＡ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水３

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the partcular type of listening questions that can be found in parts1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by acheiving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary,reviewing grammar,and strenghtening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles from The Language Connection section of the Yomiyuri Newspaper to read and , be required to submit their answers to the questions asked about the article."
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Class Performance
小テスト（25%）Small Test
そ の 他（25%）Homework
Vocabulary Notebook
■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■参考文献
特になし
■講義計画
①Introduction to TOEIC
②Describing Photographs
③Tactics: Aspects of Photos
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound/Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Conversations
⑬Incomplete Sentences
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＡ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水４

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be foundin parts 1=4 of the TOEIC test.This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by acheiving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary,reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively.We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles from The Language Connection section of the Yomiuri Newspaper to read , and be required to submit their answers to the questions asked about the article."
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
そ の 他（25%）Homework
Vocabulary Notebook
■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■参考文献
特になし
■講義計画
①Introduction to TOEIC
②Describing Photographs
③Aspects of pictures
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound/Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Conversations
⑬Incomplete Questions
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーA２

【担当】宇野　誠一
【開講】後期　月１

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
前期同様にTOEICに必要とされる能力の向上を後期においてもはかる。後期は特に、Listeningを重点的におこなう。
■到達目標
各自が明確なゴール（到達目標）を持つように願う。
■講義方法
毎週テキストに従って授業を進めていく。毎クラス、その日のポイントを明確ににして教えていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をおこなうこと。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Mikako Fujioka, Christopher Belton 『Listening Strategies for the TOEIC Test』 CENGAGE Learning　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円

■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1
③Unit 2
④unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭In Class Final Test
⑮Feedback

英語セミナーA２

【担当】宇野　誠一
【開講】後期　月２

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
前期同様にTOEICに必要とされる能力の向上を後期においてもはかる。後期は特に、Listeningを重点的におこなう。
■到達目標
各自が明確なゴール（到達目標）を持つように願う。
■講義方法
毎週テキストに従って授業を進めていく。毎クラス、その日のポイントを明確ににして教えていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をしておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Mikako Fujioka, Christopher Belton 『Listening Strategies for the TOEIC Test』 CENGAGE Learning　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円

■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1
③Unit 2
④unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭In Class Final Test
⑮Feedback

英語セミナーＡ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水３

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and give them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary,reviewing grammar,strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively.We will also study specific vocabulary that matches the themes foun in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles fromThe Language Connection section of the Yomiuri Newspaper to read , and be required to submit their answers to the questions asked about the article."
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
そ の 他（25%）Homework
Vocabulary Notebook
■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■参考文献
特になし
■講義計画
①Intro to TOEIC
②Describing Photographs
③Aspects of Photographs
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound/Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Conversations
⑬Incomplete Sentences
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＡ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水４

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts1=4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by acheiving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods,building vocabulary,reviewing grammar,and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively.We will also study specific vocabulaty that matches the themes found in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles fromThe Language Connection section of the Yomiuri Newspaper to read , and be required to submit their answers to the questions asked about the article."
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Class Performance
小テスト（25%）Small Test
そ の 他（25%）Homework
Vocabulary Notebook
■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■参考文献
特になし
■講義計画
①Introduction to TOEIC
②Describing Photographs
③Aspects of Photos
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Questions
⑬Incomplete Sentences
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＢ１

【担当】前川　貴史
【開講】前期　金2

■サブタイトル
時事英語
■講義概要
この授業では、マスメディアに登場する英語を学びます。主に英字新聞で使われる英語に親しんでいきます。社会、経済、科学技術、文化、環境、教育、労働、医療など、幅広い分野についてのニュースを取り上げます。
■到達目標
英字新聞を抵抗感なく読むことができ、内容を理解できるようになること、スキミングやスキャニングなどの速読の手法に慣れることを目標とします。
■講義方法
基本的に教科書の講読や演習を行う。視聴覚教材も利用する。学生によるプレゼンテーションも行いたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中にお知らせします。
■成績評価の方法
その他（100%）定期試験の成績、宿題の提出状況、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。
成績評価の方法については変更することがあります。
■テキスト
Junko Murao, Akiko Miyama, Yuya Koga, Atsushi Mukuhira, Tomoko Tsujimoto, Ashley Moore 『Insights 2015』 KINSEIDO（金星堂） 1,900円
■参考文献
授業中にお知らせします。
■履修上の注意・担当者からの一言
６回以上欠席した場合は定期試験が受けられません。遅刻３回で欠席１回とします。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中にお知らせします。
■講義計画
①イントロダクション
英字新聞の特徴について
②技術についての記事
③経済についての記事
④環境についての記事
⑤社会についての記事
⑥文化についての記事
⑦経済についての記事
⑧文化についての記事
⑨健康についての記事
⑩文化についての記事
⑪経済についての記事
⑫経済についての記事
⑬文化についての記事
⑭教育についての記事
⑮まとめ

英語セミナーＢ２

【担当】前川　貴史
【開講】後期　金2

■サブタイトル
時事英語
■講義概要
この授業では、マスメディアに登場する英語を学びます。主に英字新聞で使われる英語に親しんでいきます。社会、経済、科学技術、文化、環境、教育、労働、医療など、幅広い分野についてのニュースを取り上げます。
■到達目標
英字新聞を抵抗感なく読むことができ、内容を理解できるようになること、スキミングやスキャニングなどの速読の手法に慣れることを目標とします。
■講義方法
基本的に教科書の講読や演習を行います。視聴覚教材も利用する。学生によるプレゼンテーションも行いたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中にお知らせします。
■成績評価の方法
その他（100%）定期試験の成績､学生によるプレゼンテーション、宿題の提出状況、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。
成績評価の方法については変更することがあります。
■テキスト
Junko Murao, Akiko Miyama, Yuya Koga, Atsushi Mukuhira, Tomoko Tsujimoto, Ashley Moore 『Insights 2015』 KINSEIDO（金星堂） 1,900円
■参考文献
授業中にお知らせします。
■履修上の注意・担当者からの一言
６回以上欠席した場合は定期試験が受けられません。遅刻３回で欠席１回とします。
■講義計画
①イントロダクション
②政治についての記事
③健康についての記事
④健康についての記事
⑤社会についての記事
⑥技術についての記事
⑦医療についての記事
⑧社会についての記事
⑨経済についての記事
⑩科学についての記事
⑪文化についての記事
⑫医療についての記事
⑬社会についての記事
⑭社会についての記事
⑮まとめ

英語セミナーＣ１

【担当】音羽　レベッカ
【開講】前期　水２

■サブタイトル
Thinking about Human Life 人生を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、個人の生活・自分と周りの人々との関係を考える
■到達目標
人間として大事なことを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を3回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記のとおり
平常点10・参加40・宿題30（1回に付き10点×3回）・テスト20
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let’ s think about our lives in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com　（必要な時だけ使うこと）

■講義計画
①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
②Movie: “The Apartment” Part I & discussion
映画：「アパートの鍵を貸します」パート１
③Movie: “The Apartment” Part II & discussion Assign HW 1
映画：「アパートの鍵を貸します」パート２
④Me & Myself I: Personal History ? Who am I?
私自身I：パーソナルヒストリー　わたしって誰?
⑤Me & Myself II: Taking Care of Myself ? What do I need? Hand in HW 1
私自身II：自分を大切にするということ私に何が必要か?
⑥Me & Myself III: Choices ? What should I do?
私自身III：選択　私はなにをすればいい?
⑦Me & Myself IV: Self-control ? How can I manage myself?
私自身IV：自己管理　私をどうやって管理する?
⑧Me & Myself V: The Future ? How can I realize my dreams? Assign HW 2
私自身V：将来　私はどうやって夢を実現する?
⑨Me & Others I: Differences ? What makes me me?
私と人I：違い　私と他の人との違い
⑩Me & Others II: Groups ? Where do I belong? Hand in HW 2
私と人II：グループ　私はどこに属する?
⑪Me & Others III: Friends & Family ? How should I relate?
私と人III：友達と家族　私はどうやって関係をつくる?
⑫Me & Others IV: Emotions ? How should I handle my feelings?
私と人IV：感情　私はどうやって感情を管理すればいい?
⑬Me & Others V: Civility ? How should I behave? Assign HW 3
私と人V：社会の中の私のふるまい　私はどう振舞うべきか?
⑭Me & Others VI: Judgment ? How should I evaluate myself and others?
私と人VI：判断　自分と他の人をどうやって判断すればいい?
⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

英語セミナーＣ１

【担当】音羽　レベッカ
【開講】前期　水３

■サブタイトル
Thinking about Human Life 人生を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、個人の生活・自分と周りの人々との関係を考える
■到達目標
人間として大事なことを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を3回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記のとおり
平常点10・参加40・宿題30（1回に付き10点×3回）・テスト20
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let’ s think about our lives in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com　（必要な時だけ使うこと）

■講義計画
①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
②Movie: “The Apartment” Part I & discussion
映画：「アパートの鍵を貸します」パート１
③Movie: “The Apartment” Part II & discussion Assign HW 1
映画：「アパートの鍵を貸します」パート２
④Me & Myself I: Personal History ? Who am I?
私自身I：パーソナルヒストリー　わたしって誰?
⑤Me & Myself II: Taking Care of Myself ? What do I need? Hand in HW 1
私自身II：自分を大切にするということ私に何が必要か?
⑥Me & Myself III: Choices ? What should I do?
私自身III：選択　私はなにをすればいい?
⑦Me & Myself IV: Self-control ? How can I manage myself?
私自身IV：自己管理　私をどうやって管理する?
⑧Me & Myself V: The Future ? How can I realize my dreams? Assign HW 2
私自身V：将来　私はどうやって夢を実現する?
⑨Me & Others I: Differences ? What makes me me?
私と人I：違い　私と他の人との違い
⑩Me & Others II: Groups ? Where do I belong? Hand in HW 2
私と人II：グループ　私はどこに属する?
⑪Me & Others III: Friends & Family ? How should I relate?
私と人III：友達と家族　私はどうやって関係をつくる?
⑫Me & Others IV: Emotions ? How should I handle my feelings?
私と人IV：感情　私はどうやって感情を管理すればいい?
⑬Me & Others V: Civility ? How should I behave? Assign HW 3
私と人V：社会の中の私のふるまい　私はどう振舞うべきか?
⑭Me & Others VI: Judgment ? How should I evaluate myself and others?
私と人VI：判断　自分と他の人をどうやって判断すればいい?
⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

英語セミナーＣ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水２

■サブタイトル
Language Acqusition Through Interaction.
■講義概要
The objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts.Throughout the course we will develop the learners listening and speaking skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give the students the opportunity to personalize the language hey learn,and make use of their own experience and knowledge.We will be working in pairs and small groups,providing a maximum amount of student-generated communication.
■到達目標
After completing this course,students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.
■講義方法
Students will be divided into pairs or small groups at the beginning of each class,thus providing many opportunities for student interaction.Throughout the course, students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students are required to download the Self-study audio at>www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
そ の 他（25%）Homework
■テキスト
Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book 2』 Longman
■参考文献
特になし
■講義計画
①Explanation of course
②Asking for Information
③Describing Things
④Making Requests
⑤Giving Instructions
⑥Reviewing
⑦Making Excuses-Giving Reasons
⑧Giving Opinions
⑨Comparing Things
⑩Reviewing
⑪Giving advice-Suggestions
⑫Talking about Experiences
⑬Inviting
⑭Predictions
⑮Reviewing

英語セミナーＣ２

【担当】音羽　レベッカ
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Thinking about Global Life　世界を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える
■到達目標
世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を3回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記を参照
平常点10・参加40・宿題30（1回に付き10点×3回）・テスト20
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let’ s think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com　（必要な時だけ使うこと）
■講義計画
①Introduction to course, world map work
コース紹介・世界地図を親しんで
②Natural Environment I: Creating the Earth
自然環境１：地球をつくったのは?
③Natural Environment II: Competition & Cooperation
自然環境２：競争と協力
④Global Relationships I: Humanity the Superorganism
グローバル関係１：人類スーパーオーガニズム
⑤Global Relationships II: Work
グローバル関係２：人間の仕事
⑥Global Relationships IV: Culture.Art & Media
グローバル関係３：人間の文化
⑦Global Relationships III: Food Culture
グローバル関係４：食物の文化
⑧Global Relationships V: A Gaijin in Japan
グローバル関係５：日本に住む外国人
⑨What is Civilization I: Human Rights & Responsibilities
文明とは何か１：人権と責任
⑩What is Civilization II: History of Economic Man
文明とは何か２：経済人間の歴史
⑪What is Civilization III: Humanity’ s Highest Achievements
文明とは何か３：人間の最高の達成
⑫When Civilizastion Breaks Down I: Crime & Punishment
文明が危ないとき１：犯罪
⑬When Civilization Breaks Down II: War
文明が危ないとき２：戦争
⑭Word Work and Review
単語の勉強と復習
⑮Final Test
ファイナルテスト

英語セミナーＣ２

【担当】音羽　レベッカ
【開講】後期　水３

■サブタイトル
Thinking about Global Life　世界を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える
■到達目標
世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を3回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記を参照
平常点10・参加40・宿題30（1回に付き10点×3回）・テスト20
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let' s think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com　（必要な時だけ使うこと）
■講義計画
①Introduction to course, world map work
コース紹介・世界地図を親しんで
②Natural Environment I: Creating the Earth
自然環境１：地球をつくったのは?
③Natural Environment II: Competition & Cooperation
自然環境２：競争と協力
④Global Relationships I: Humanity the Superorganism
グローバル関係１：人類スーパーオーガニズム
⑤Global Relationships II: Work
グローバル関係２：人間の仕事
⑥Global Relationships IV: Culture. Art & Media
グローバル関係３：人間の文化
⑦Global Relationships III: Food Culture
グローバル関係４：食物の文化
⑧Global Relationships V: A Gaijin in Japan
グローバル関係５：日本に住む外国人
⑨What is Civilization I: Human Rights & Responsibilities
文明とは何か１：人権と責任
⑩What is Civilization II: History of Economic Man
文明とは何か２：経済人間の歴史
⑪What is Civilization III: Humanity' s Highest Achievements
文明とは何か３：人間の最高の達成
⑫When Civilizastion Breaks Down I: Crime & Punishment
文明が危ないとき１：犯罪
⑬When Civilization Breaks Down II: War
文明が危ないとき２：戦争
⑭Word Work and Review
単語の勉強と復習
⑮Final Test
ファイナルテスト

英語セミナーＣ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Language Acqusition Through Interaction.
■講義概要
The objective of this course is to prpare the students to use English in a variety of natural contexts.Throughout the course we will develop the learners listening and speaking skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give them the opportunity to personalize the language they learn,and make use of their own experiences and knowledge.We will be working in pairs and small groups providing a maximum amount of student of student-generated communication.
■到達目標
After completing this course,students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.
■講義方法
Students will be divided into pairs or small groups at the beginning of each class,thus providing many opportunities for student interaction.Throughoutthe course,students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions inEnglish with greater confidence.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students are required to download the Self -study audioat>www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
そ の 他（25%）Homework
■テキスト
Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book 2』 Longman
■参考文献
特になし
■講義計画
①Explanation of Course
②Asking for Information
③Describing Things
④Making Requests
⑤Giving Instructions
⑥Reviewing
⑦Making Excuses-Giving Reasons
⑧Giving Opinions
⑨Comparing Things
⑩Reviewing
⑪Giving advice-Suggestions
⑫Talking about Experiences
⑬Inviting
⑭Predictions
⑮Reviewing

英語セミナーD１

【担当】大槻　志郎
【開講】前期　水2

■サブタイトル
Fantastic Fantasy: Super Fiction English 1

■講義概要
とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語でも物語を楽しめるようになり、英語の方が翻訳より面白いと思えればしめたもので、あとは読み続ければ英語力向上という結果はついてくる。そのために面白い物語を複数読んでみる。まず大ヒットしたディスニー映画『アナと雪の女王』(Frozen)を児童向けにノベライズしたものを読む。映画を見た人は多いと思うが、文章でも味わってみよう。おそらく全部は読めないので、なるべくあらかじめ映画を見ておくことが望ましい。予習でしっかり読んでもらい､授業では英語の理解を確認、重要表現などの学習に力を入れる。また、広く英語の物語に興味を持ってもらうため、他にも魅力的な短いストーリーや、長編の一部を適宜追加して読んでみたい。

■到達目標
物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法
前週に次回扱う内容のハンドアウトを配布。4ページ程度か。授業で内容を確認、表現の練習など。メインのFrozenについては、リスニング練習を兼ねて話の展開を映画の映像で補う。授業ではまず前回学習した英語表現及び当日読む作品のストーリーについての小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説、表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説＋情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。毎回学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修
英語セミナー D2

■授業時間外における予・復習等の指示
予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければいつまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になれるように工夫したい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）小テスト、予習状況、授業中の発表、コメントなど
定期試験（60%）
３分の１以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則０点とする。

■テキスト
Frozen、及び他の物語の、いずれもハンドアウトを使用する予定。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
欲ばりな内容で消化しきれない恐れもあるので、授業の進め方を調整する可能性がある。メイン作品については、簡単に手に入るのでこの機会にぜひ丸ごと読破してほしい。2015年１月現在、Amazonで買うと600円ほど。購入については相談に乗る。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①introduction
②Frozen（1）
③Frozen（2）
④Frozen（3）
⑤Frozen（4）
⑥Frozen（5）
⑦Frozen（6）
⑧Frozen（7）
⑨Frozen（8）
⑩Frozen（9）
⑪Frozen（10）
⑫Frozen（11）
⑬Frozen（12）
⑭Frozen（13）
⑮Frozen（14）
⑯*以上にいくつか別のストーリーを追加

英語セミナーD２

【担当】大槻　志郎
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Welcome to Mystery: Super Fiction English 2

■講義概要
とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語でも物語を楽しめるようになり、英語の方が翻訳より面白いと思えればしめたもので、あとは読み続ければ英語力向上という結果はついてくる。そのために面白い物語を複数読んでみる。まずミステリーの古典、シャーロック・ホームズの短編。原文はやや厳しいので、傑作2編をとりあえずリトールド版で読んでみる。名探偵の代名詞である有名キャラクターの個性と推理とエキサイティングな展開とを存分に味わって欲しい。予習でしっかり読んでもらい、授業では英語の理解を確認、重要表現などの学習に力を入れる。また、広く英語の物語に興味を持ってもらうため、他にも魅力的な短いストーリーや、長編の一部を適宜追加して読んでみたい。

■到達目標
物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法
前週に次回扱う内容のハンドアウトを配布。4ページ程度か。授業で内容を確認、表現の練習など。メインのHolmesについては、リスニング練習を兼ねて話の展開をTVドラマ版の映像で補う。授業ではまず前回学習した英語表現及び当日読む作品のストーリーについての小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説、表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説＋情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。毎回学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修
英語セミナー D1

■授業時間外における予・復習等の指示
予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければいつまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になれるように工夫したい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）小テスト、予習状況、授業中の発表、コメントなど
定期試験（60%）
３分の１以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則０点とする。

■テキスト
Sherlock Holmesの短編集から２編、及び他の物語の、いずれもハンドアウトを使用する予定。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
欲ばりな内容で消化しきれない恐れもあるので、授業の進め方を調整する可能性がある。リトールド版の英語の物語は、他にも質の高い良いものが数多くあり、図書館からも借りられるし、手軽に入手できるので、この機会にぜひ親しんで欲しい。Amazonなどで何か買ってみたいという場合は相談に乗る。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①introduction
②The Adventures of Sherlock Holmes-1（1）
③The Adventures of Sherlock Holmes-1（2）
④The Adventures of Sherlock Holmes-1（3）
⑤The Adventures of Sherlock Holmes-1（4）
⑥The Adventures of Sherlock Holmes-1（5）
⑦The Adventures of Sherlock Holmes-1（6）
⑧The Adventures of Sherlock Holmes-1（7）
⑨The Adventures of Sherlock Holmes-2（1）
⑩The Adventures of Sherlock Holmes-2（2）
⑪The Adventures of Sherlock Holmes-2（3）
⑫The Adventures of Sherlock Holmes-2（4）
⑬The Adventures of Sherlock Holmes-2（5）
⑭The Adventures of Sherlock Holmes-2（6）
⑮The Adventures of Sherlock Holmes-2（7）
＊以上にいくつか別のストーリーを追加

英語セミナーＥ１

【担当】里井　久輝
【開講】前期　水３

■サブタイトル
英語らしい音と表現を身につけよう！
■講義概要
映画や歌などの視聴覚教材は、興味を持って楽しく英語の運用力を身につけることができるとてもよい手段である。本セミナーでは、映画や歌を通じて、その中で使われるさまざまな表現を学び、英語らしい発音・音声を身につけ、実践的なコミュニケーション力の強化をはかる。
■到達目標
映画・ミュージカル・ドラマなどの台詞や、スタンダード・ジャズやポップスなどの歌を通じて、英語に親しみながら、英語らしい自然な発音・音声を習得するための調音音声学の基礎を身につける。台詞や歌詞から学んださまざまな英語表現を実際に使用してみることで、英語の総合的運用力の向上を目指す。
■講義方法
映画・ミュージカル・ドラマや英語の歌の中に現れる印象深い台詞や歌詞を取り上げ、その中に含まれる母音・子音およびプロソディ（韻律的要素）の音声学的な解説と発音実践を通じて、自然な英語音声を学び身につける。台詞や歌詞が使用されるさまざまな状況や場面を想定し、語用論的な観点からの分析も試みつつ、発音に留意しながら自ら実際に演じてみることで、その内容を実際のコミュニケーションの場面でも役立てられるよう深めてゆく。なお、英語発音のプラクティカルや、映画・台詞についての発表も適宜行ってもらう予定である。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。
常に発音を確認しながらの音読を怠らず、身につけた表現は繰り返し暗唱すること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）平素の学習活動状況・小テスト・提出課題・担当箇所の発表などを含む。
レポート（50%）レポート課題は別途指示する。
■テキスト
里井久輝 『英語で歌おう! スタンダード・ジャズ』 アルク 2,000円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
このセミナーでは特に毎回の入念な予復習と、真摯な受講態度とが必須である。常に音読を心がけ、興味と意欲を持ってしっかり取り組むこと。なお、第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。
■講義計画
①前期オリエンテーション
②Film（1）
③Song（1）
④Film（2）
⑤Song（2）
⑥Film（3）
⑦Song（3）
⑧Film（4）
⑨Song（4）
⑩Film（5）
⑪Song（5）
⑫Film（6）
⑬Song（6）
⑭まとめ・レポート提出（1）
⑮まとめ・レポート提出（2）

英語セミナーＥ２

【担当】里井　久輝
【開講】後期　水３

■サブタイトル
英語らしい音と表現を身につけよう！
■講義概要
映画や歌などの視聴覚教材は、興味を持って楽しく英語の運用力を身につけることができるとてもよい手段である。本セミナーでは、映画や歌を通じて、その中で使われるさまざまな表現を学び、英語らしい発音・音声を身につけ、実践的なコミュニケーション力の強化をはかる。
■到達目標
映画・ミュージカル・ドラマなどの台詞や、スタンダード・ジャズやポップスなどの歌を通じて、英語に親しみながら、英語らしい自然な発音・音声を習得するための調音音声学の基礎を身につける。台詞や歌詞から学んださまざまな英語表現を実際に使用してみることで、英語の総合的運用力の向上を目指す。
■講義方法
映画・ミュージカル・ドラマや英語の歌の中に現れる印象深い台詞や歌詞を取り上げ、その中に含まれる母音・子音およびプロソディ（韻律的要素）の音声学的な解説と発音実践を通じて、自然な英語音声を学び身につける。台詞や歌詞が使用されるさまざまな状況や場面を想定し、語用論的な観点からの分析も試みつつ、発音に留意しながら自ら実際に演じてみることで、その内容を実際のコミュニケーションの場面でも役立てられるよう深めてゆく。なお、英語発音のプラクティカルや、映画・台詞についての発表も適宜行ってもらう予定である。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。
常に発音を確認しながらの音読を怠らず、身につけた表現は繰り返し暗唱すること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）平素の学習活動状況・小テスト・提出課題・担当箇所の発表などを含む。
レポート（50%）レポート課題は別途指示する。
■テキスト
里井久輝 『英語で歌おう! スタンダード・ジャズ』 アルク 2,000円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
このセミナーでは特に毎回の入念な予復習と、真摯な受講態度とが必須である。常に音読を心がけ、興味と意欲を持ってしっかり取り組むこと。なお、第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。
■講義計画
①後期オリエンテーション
②Film（1）
③Song（1）
④Film（2）
⑤Song（2）
⑥Film（3）
⑦Song（3）
⑧Film（4）
⑨Song（4）
⑩Film（5）
⑪Song（5）
⑫Film（6）
⑬Song（6）
⑭まとめ・レポート提出（1）
⑮まとめ・レポート提出（2）

欧米の文化

【担当】大槻　志郎
【開講】後期　水３

■サブタイトル
テーマで斬る欧米文化

■講義概要
「文化を学ぶ」ということの意味は必ずしも明確ではない。したがって文化についての講義も、文化研究の最先端に触れるものから、観光ガイドに近いものまで、その振幅は広い。この講義は、特定の国や地域に限定せず、広く欧米文化を理解するためのテーマをいくつか設定して考察しながら、欧米を考え直す機会を提供しようとするものである。その際、歴史をはじめ、世界の状況に関する基本的な知識が土台となるが、そうした知識は日本の教育からしばしば欠落しているのが現状である。したがってこの講義では、時間の制約はあるものの、基本的な事項についても簡単な解説をする他、小テスト、課題などで補強的な学習を求めたい。

■到達目標
未知の世界としての異文化を、単純化せず、固定観念を持たずに、さまざまな角度、視点から考察する態度を養う。
欧米についての基礎知識をより多く身につける。

■講義方法
授業計画に基づく講義。出欠の確認も兼ねて、毎回講義の最初に、欧米の基礎知識についての小テスト、終わりに講義についての簡単なコメントを書いてもらう。課題として特定の問題について調べてもらうことがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
とくに最初の西洋史通史の段階では、たとえば参考文献などを講義の前後によく読んで、西洋史についての基礎知識を身に付けておくことが望ましい。また講義中いろいろ新しい概念、用語などを示すので、なるべくその日のうちに内容を思い起こして自分なりに整理しておくとよい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）小テスト、講義末に書いてもらうコメント、他の課題の提出と内容。
定期試験（60%）講義内容を理解できているかどうかについて、選択問題、論述などの筆記試験。小テストから一部出題。
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として定期試験の受験資格を失うものとし、したがって単位も認められないことになる。

■テキスト
特になし

■参考文献
綿引弘 『一番大切なことがわかる「世界史」の本』 三笠書房（知的生きかた文庫） 619円
講義内容の土台となる西洋史の知識をサポートする副読本として好適。西洋史の基礎知識が不足としている場合は、講義前に一度通読し、講義期間中も折にふれて読むことが望ましい。
その他文献も講義中に紹介。

■履修上の注意・担当者からの一言
欧米の文化をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。しっかり話を聞いて、未知の内容はちゃんと学び、問題を掘り下げるつもりでいろいろ考えてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜４講時。但しいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①「欧米」の誕生（西洋史通史１）
②「欧米」の誕生（西洋史通史2）
③聖書と神話
④時間をめぐる話
⑤移動としての歴史
⑥土地と家族の問題
⑦階級
⑧理性と野性、文明と自然
⑨風土と文化
⑩言語の歴史、言葉の重さ
⑪言葉、シンボル、数字
⑫人間主義
⑬個人主義
⑭個人主義と名前
⑮総合
＊以上は、講義項目のおおまかな流れを示したもので、必ずしも回数毎の内容ではない。

欧米の文化

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　月４

■サブタイトル
20世紀芸術の歴史をふりかえる

■講義概要
19世紀の後半から20世紀にかけて、西欧世界の芸術には数々の傑作が生み出された。それらの作品は、さまざまな先端的思想を反映しつつ、私たちの感性を革新し、日常生活のなかでの事物の見方すら変えてしまいかねないほどの大きなインパクトいまだにを与え続けている。本講義では、20世紀を彩ったさまざまな芸術作品（とくに美術）、文化現象を、フランスを中心に歴史的にふりかえりながら、そうした芸術作品への理解を深めるための手がかりを提示していく。

■到達目標
「ゲンダイゲイジュツは難解だ」「よく分からない」といわれがちな20世紀の芸術、文化をもっと身近に楽しむための入門を提供したい。

■講義方法
絵画写真、ビデオ、ＣＤなどさまざまな教材を使って講義形式ですすめる。

■授業時間外における予・復習等の指示
自らも積極的に絵画や音楽・建築といった芸術作品に触れる機会を持っていただきたい。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席による。
定期試験（80%）論述式の試験を課す。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①イントロダクション：常識のウソと芸術のヴィヴィッドな関係
②モダン・アートの誕生（印象派・後期印象派）
③マルセル・デュシャン
④ジャクソン・ポロックとアクション・ペインティング
⑤アンディ・ウォーホールとポップ・アート
⑥絵画におけるミニマリズム
⑦音楽におけるミニマリズム
⑧コンセプチュアル・アート
⑨ジョン・ケージ
⑩パフォーマンス
⑪森村泰昌
⑫まとめ

科学技術史

【担当】堤　一義
【開講】前期　月３

■講義概要
現代社会において私たちは陰に陽に科学技術の恩恵を受けて生活している。そして、そうした現在の科学技術は決して初めから存在していた訳でも、ある日突然出現した訳でもなく、過去の長い期間にわたる先人達の真理の探究、あるいはまた技術改良への弛まぬ努力によって培われてきたものである。私たちはそのことを常に意識しておくべきであり、科学技術の発展の歴史を学ぶことは、現代の科学技術をより深く理解することと同時に、次への発展の手掛りを得ることにつながるであろう。例えば、製鉄の技術は文明の発展に大きく貢献した。蒸気機関の発明は産業革命を推進し、近代文明への発展のきっかけを作った。また、電気の実用化によって私たちの生活は大きく変化することとなったし、現代の便利な社会がコンピュータの発明の恩恵を多大に受けていることは言うまでもない。そうした科学技術の歴史を辿るとき、「古代から現代に至る長い時間軸を広い分野に亙って包括的に捉えようとする視点」と「ある特定の技術に着目してその変遷を注意深く掘り下げる視点」の両方が重要である。本講義においては、前半においては先ず前者の視点に立って、古代から現代に至る科学技術の歴史を俯瞰する。中盤から後半にかけては、後者の視点に立ち、特に、製鉄、紡績、工作機械、動力、鉄道、船舶、自動車、電気、通信、計算機などに注目してそれぞれの歴史を個別にかつ詳細に講述する。個々の科学技術が生まれた時代背景や科学技術にまつわるエピソードなども随時紹介する予定である。

■到達目標
社会に大きな変革を及ぼした主要な科学技術について説明ができ、その技術内容についても正しく説明ができる。

■講義方法
写真や図などを適宜紹介しつつ、パワーポイントを使用して講述を行う。パワーポイントのため全てをメモすることは困難と思われるが、受講生においては、キーワードや要点を効率良くメモし、自分自身のノートを作り上げて行く。また、出席の確認を兼ね、毎回の授業の終了時点で小問題の解答を提出する。

■系統的履修
時代背景を理解するため、「世界史」や「日本史」の復習を推奨する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義内容に基づき、最終的に自分自身のノートを完成させることが目標である。したがって、講義の後には，必ず、当日の講義内容の要点をまとめ、興味のある点やさらに詳しく知りたい点については図書館やインターネットなどを活用して調べておくことが大切である。このようにして日々の積み重ねによって作成したノートは、必ずや諸君の生涯の宝物になるであろう。

■成績評価の方法
小テスト（60%）出席確認と学習状況の把握を兼ねて小テストを実施し、その評価を合計して成績の判断材料の一部とする。
レポート（40%）学習が進んだ段階で、課題（レポート）を与える。その評価を合計してやはり成績の判断材料の一部とする。課題（レポート）においては、各自のオリジナリティを重視する。もちろん他人のコピーは厳禁である。

■テキスト
特になし

■参考文献
山崎正勝　他　『科学技術史概論』　ムイスリ出版　1,900円
山崎俊雄　他　『科学技術史概論』　オーム社　3,200円
三津間秀彦　他　『新・機械技術史』　日本機械学会　2,800円
高橋雄造　『電気の歴史』　東京電機大学出版局　3,000円
中山秀太郎　『機械発達史』　大河出版　2,000円
ウィリアム・Ｆ・バイナム　『歴史でわかる科学入門』　太田出版　1,800円
Ｌ・Ｔ・Ｃ・ロルト　『工作機械の歴史』　平凡社　3,600円
マイケル･モーズリー　他　『科学は歴史をどう変えてきたか』　東京書籍　2,500円
多くの関連書籍が出版されているので、気に入ったものを探して読んでみることを推奨する。

■履修上の注意・担当者からの一言
けっして受け身とならず、自ら知識を学び取っていくという積極的な姿勢が望まれる。言うまでもなく、授業中の私語は厳に慎むべきである。

■講義計画
①科学技術史総論（古代）
②科学技術史総論（中世）
③科学技術史総論（近世）
④科学技術史総論（近代）
⑤科学技術史総論（現代）
⑥製鉄の歴史
⑦紡績・織布産業の歴史
⑧工作機械の歴史
⑨動力の歴史
⑩蒸気機関車の歴史
⑪鉄道の歴史
⑫船舶の歴史
⑬自動車の歴史
⑭電気・通信の歴史
⑮計算機の歴史

科学技術史

【担当】林　久夫
【開講】前期　月1

■サブタイトル
現在と将来の科学技術を客観的に考えるために
■講義概要
20世紀は科学技術の時代と言われた。石炭・石油をエネルギー源として、18世紀から産業革命が始まり、高度な物質文明を築き上げてきた。しかし、同時にこのことが、地球環境問題を引き起こしている。石器時代から人類は道具を作り始めたが、ギリシア時代にものや現象に対する科学的な思考を始め、中世を経て近代の科学技術を基礎とした社会を作り上げてきたと言える。本講では、ギリシア・ローマ時代の科学技術、アラビアの科学、中世の錬金術、12世紀ルネッサンス、産業革命以降の近代科学技術の発展について概観する。また、とくに天文学、物理学の分野においては宇宙観や力学の変遷に、化学・生物学の分野においてはエネルギー観や物質観の変遷に着目し、これらの分野における先駆者たちの発見のきっかけや思考過程について、科学者たちのエピソードなども交えて解説する。この講義を受講することによって、現在私たちが教育によって当然と考えている科学の基本的な概念の成り立ちを理解し、今後の科学技術の発展に対して客観的な判断が下せるようになることを期待する。
■到達目標
科学技術の発展を5つ程度の時代に分け、それぞれの発達した地域・国家を説明できる。
各時代の科学技術の特性を、それぞれ3人程度の科学哲学者の業績と関連付けて説明できる。
各時代の科学技術の相互関係を、経済的・政治的・宗教的背景と関連付けて説明できる。
■講義方法
プリント、DVD、PowerPointなどの視覚的教材を活用しながら、視覚に訴え、興味の持てる授業にしたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の授業の最後に、次回までに調査・学習しておくべきテーマを設定し、それに関して次回の授業の最初にクイズを行うので、十分準備をしておくこと。配布資料のPowerPointなどの視覚的教材は一部未完成なので、授業中に完成させ、それを用いて復習を行うこと。また、推薦・指定DVDなどは、締め切り間際には混雑するので、時間の余裕を持って視聴すること。
■成績評価の方法
小テスト（40%）予めテーマを与えておく
定期試験（30%）
そ の 他（30%）中間試験
■テキスト
特になし
■参考文献
渋谷一夫ら 『科学史概論』 ムイスリ出版　2,400円
八杉龍一 『図解　科学の歴史』 東京教学社　2000円
伊東俊太郎 『近代科学の源流』 中央公論新社　1050円
伊東俊太郎 『十二世紀ルネサンス』 講談社学術文庫　1050円
■講義計画
①環境問題と科学技術
②ギリシアの宇宙観
③ギリシアの物質観
④ローマの科学技術
⑤アラビアの科学
⑥中世の科学技術
⑦ガリレオ、デカルト、ニュートン
⑧中間試験と解説
⑨錬金術と元素観
⑩フロギストン仮説の崩壊
⑪原子論の復活
⑫永久機関への夢
⑬産業革命と熱機関
⑭近代科学技術
⑮持続可能な社会のための科学技術と技術者倫理

環境と人間A

【担当】小山　豊一
【開講】後期　月4

■サブタイトル
環境を学び、いかに対処するか。
■講義概要
今日の環境問題は、多くの分野を内包するため、多方面から複雑に絡み合う事象の一つ一つをたぐり寄せて全体像をとらえる必要に迫られている。また、水質汚濁、大気汚染、森林破壊など地球規模で起こっている環境問題について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて説明する。
■到達目標
さまざまな環境問題を理解し、その背景と解決策を学ぶ。
■講義方法
テキストと補足資料を使用する。毎回、演習を行う。必要に応じて映像を用いる。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストを用いるのでテキストによる予習を行うこと。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席
レポート（80%）期末に、与えられたレポートを提出
■テキスト
石川宗孝 『環境読本』 電気書院　2,500円
■参考文献
参考となる図書は講義で適宜紹介する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時間前後の直接連絡
■講義計画
①環境問題と社会づくり
②基本的環境論その１
③基本的環境論その２
④地球環境問題その１
⑤地球環境問題その２
⑥公害・環境問題の歴史
⑦日本の環境問題その１
⑧日本の環境問題その２
⑨日本の環境問題その３
⑩生態系サービス
⑪人口問題
⑫レポート出題
⑬環境と企業
⑭生活と環境
⑮まとめ、レポート提出

環境と人間A

【担当】竺　文彦
【開講】前期　月4

■サブタイトル
環境をいかに学び、いかに対処するか。
■講義概要
かつては、公害問題が環境問題であったが、公害問題については、法的な対応や行政的な対応によって、一応社会的には対応がなされたといえる。しかし、その後、ダイオキシン問題などの微量汚染物質が問題となったり、地球温暖化というような社会のエネルギーの使用を根本的に考え直さなければならないような大きな環境問題が出現してきている。これらのさまざまな環境問題の実態について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて、説明する。
■到達目標
さまざまな環境問題を理解し、基本的な考え方を確立する。
■講義方法
テキストおよびパワーポイント等を使用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストを用いるので、テキストによる予習、復習を行うこと。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
石川宗孝　『環境読本』　電気書院　2,500円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
広く世界の環境の問題に目を向けてほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室を訪問してほしい。
■講義計画
①環境と社会づくり
②大気、水圏、土壌、森林
③地球温暖化、オゾン層
④酸性雨、森林破壊、砂漠化
⑤大気汚染
⑥水質汚濁
⑦廃棄物
⑧大気汚染防止技術
⑨水質汚濁防止技術
⑩化学物質、車社会
⑪温暖化、エネルギー
⑫CSR
⑬環境マネジメント、環境会計
⑭グリーン購入、LCA
⑮生活と環境

環境と人間B

【担当】佐々木　尚子
【開講】後期　木4

■講義概要
日常の中で意識することは少ないが、私たち人間は地球上の自然環境に支えられて生活している。この授業では、多様な自然環境の成り立ち、ならびに自然環境と人間の相互作用の歴史について概説する。生態学や地質学、自然地理学、人類学といった様々な学問領域を基礎として、1）自然界を構成する地圏・水圏・気圏・生物圏の基本的な仕組みについて解説し、2）ヒトという生物がどのように環境を利用してきたのか、またヒトによる利用が自然環境にどのような影響を与えてきたのかを概観した上で、3）人間が持続的に自然環境を利用していくためには何が必要なのかを検討する。
■到達目標
A. 生態学や地球科学の視点に基づき、自然環境の仕組み及び人間の環境利用について理解する。
・地球上には様々な自然環境があることを見出し、その違いを生みだす仕組みについて理解する。
・生物は、それぞれ単独で生きているのではなく、他の生物や、大気や水などの非生物的環境と関わり合いながら生きていることを理解する。
・ヒトという生物がどのように環境と関わりながら生きてきたのか、その特徴を理解し、自分のことばで説明できるようになる。
B. 毎回の授業で課すミニレポートを通じて、講義の要点を聞き取って整理し、自らの意見を述べる力を身に付ける。
■講義方法
投影資料を使った解説を基本とし、必要に応じてグループディスカッションなどを織り込みながら講義を進める。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業計画に記載されているキーワードについて、事前に調べておくこと。
講義中に提示した参考文献に目を通しておくこと。
ミニレポートで出された課題について復習しておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（15%）毎回ミニレポートを課す。授業の要点を理解し、自分のことばで説明できること。
小テスト（35%）事前に予告した上で、小テストを実施する。授業で解説した重要事項を理解していること。
定期試験（50%）授業で解説した内容を理解し、重要事項については自分のことばで説明できること。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
講義計画は、進捗状況に応じて変更する場合があります。
■講義計画
①ガイダンス：「環境」とは何か?
②非生物的環境1：プレートテクトニクスとマントル対流
③非生物的環境2：大気大循環モデルと気候帯の形成
④非生物的環境3：風成循環と熱塩循環
⑤生態系：非生物的環境と生産者、消費者、分解者
⑥環境収容力
⑦生物間相互作用
⑧進化と適応
⑨前半のまとめ＋小テスト
⑩ヒトの生物学的特色
⑪環境への文化的適応1
⑫環境への文化的適応2
⑬日本列島における自然利用
⑭持続可能性：資源枯渇と廃棄物
⑮生物多様性と文化多様性

環境と人間B

【担当】本多　真
【開講】前期　木4

■講義概要
標題にある「環境」や「人間」といった表現は、近代以降に現在のような用いられ方がなされるようになったもので、それは世界を客観的に理解しようという営みの中で生まれました。それまでの人々にとって、自分の置かれた環境について、その性質や特徴を客観的に把握することは困難なことでした。つまり、近代という時代は、わたしたちに新しい世界観をもたらしたといえます。では、新しい世界観とは具体的にどのようなものだったのでしょう。
この講義では近代社会に焦点を当てながら、私たちが住まう社会の特徴、それから問題点を探ってゆきます。とりわけ注目するのは、「正しさ」をめぐる認識についてです。社会構造の変化によって「正しさ」にも変化が見られます。
講義では映像資料などを用いて社会に備わる様々な問題をみてゆきます。受講生にはそれぞれの研究テーマに沿って本講義を受講することが求められます。

■到達目標
この講義では、「正しさ」の基準について説明できることを目標とします。

■講義方法
配布資料のほか、動画などを用いて講義をおこないます。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に紹介した文献に目を通し、内容を復習すること。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、平常点
小テスト（20%）加点、自由課題
レポート（50%）内容＋提出期限厳守

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①はじめに
②農耕社会から近代社会へ
③「理念」の登場
④「理念」の崩壊
⑤「正しさ」とお金①
⑥「正しさ」とお金②
⑦対話編-実践-
⑧「正しさ」をめぐる議論①
⑨「正しさ」をめぐる議論②
⑩「正しさ」をめぐる議論③
⑪「正しさ」をめぐる議論④
⑫近代社会の特徴①
⑬近代社会の特徴②
⑭現代をどう生きてゆくか
⑮まとめ

環境と倫理

【担当】柿本　佳美
【開講】前期　木4

■サブタイトル
環境正義と社会

■講義概要
私たちが毎日の生活で使うモノは、どこから来てどのように処理され、生態系にどのような影響を及ぼすのでしょうか。
私たちの生活は、生態系と地球環境から取り出される様々な資源によって支えられています。農業はもちろん、自然環境とはかかわりの薄いように見える科学技術・工業も、自然環境から人間にとって有益な資源を取り出す過程を伴います。その一方で、科学技術と工業の発展の過程では、公害や希少な生物種の絶滅等の深刻な環境破壊も発生しています。
自然環境の変動で影響を受けるのは、社会や生態系のなかで最も弱い立場にあるひとであり生物です。環境をめぐるさまざまな問題の原因は、科学技術そのものにあるというよりはむしろ、それを利用する社会のあり方にあると言えるでしょう。
この授業では、環境正義という視点から環境倫理に関わる基礎理論を学び、具体的な事例を手がかりに倫理的な課題について考えていきます。

■到達目標
環境倫理の基礎理論を学び、環境問題の射程を知ることで、多角的な思考ができる。
尊重すべき原則と客観的な根拠に基づき､自らの見解をまとめることができる。

■講義方法
プリントを使用し､講義形式で行う｡数回のミニレポートあり｡これをもとに授業を進めることもある。

■系統的履修
「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。
環境問題に関する新聞等による報道に注意し、環境に関わる記事については必ず目を通しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
レポート（10%）
定期試験（70%）
通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。

■テキスト
加藤尚武編　『環境と倫理（新版)』　有斐閣アルマ　1,890円

■参考文献
関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求著　『環境の社会学』　有斐閣アルマ　1,900円
上記のほか、参考となる文献については授業中に挙げます。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。
受講者の関心によって授業内容を一部変更することがあります。
授業開始30分以降の入室はお断りすることがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日13:00 ～ 13:30、講師控室

■講義計画
①はじめに：私たちの生活のなかの環境問題
②環境問題のはじまり：「公害」の発生
③環境倫理のはじまり：自然保護と土地倫理
④環境倫理のキーワード：共有地の悲劇と世代間倫理
⑤環境倫理のキーワード：環境正義
⑥環境倫理のキーワード:「人間中心主義」vs「非人間中心主義」
⑦生態系との共生：琵琶湖と人々の暮らし
⑧環境資源と人間：水
⑨環境資源と人間：土地
⑩環境資源と人間：大気
⑪生活のなかの環境問題：ごみ問題と私たちの生活
⑫生活のなかの環境問題：里山と持続可能な発展
⑬エネルギー問題と環境：持続可能な社会とは?
⑭エネルギー問題と環境：再生可能エネルギー
⑮まとめ：共生と社会

教養教育科目特別講義C（アジアの映画）

【担当】李　相哲
【開講】前期　月1

■サブタイトル
映画で語るアジアの歴史と文化
■講義概要
この授業は映画という芸術を理解するためのものではない。映画はその国の歴史や時代を背景にしている場合が多い。また、その空間に生きる人々の生活を題材にしている。映画は我々に過去の出来事を再現し、未知の世界を見せてくれたり、想像の世界を作り出すこともある。
この講義では、アジアの映画を通してアジアの近現代に対する理解を深めていく。映画に映し出される場所、人物、物語が、その国の歴史や文化、人々の普通の生活をどう反映しているのかを考えながら、映画に取り上げられた国について理解を深める。
■到達目標
アジアの国々の歴史、生活、文化を理解する。
■講義方法
講義形式
映画を見ながら、関連書物を読み、講義を聴くという形式。
■系統的履修
アジアの文化、欧米の文化
■授業時間外における予・復習等の指示
その都度指示する
■成績評価の方法
平 常 点（10%）講義中に取り上げる映画をみたか、テキストを読んだか
小テスト（0%）
レポート（30%）映画に関する感想文、テキストに関する感想文
定期試験（60%）
指定のテキストをしっかり読んで欲しい。
■テキスト
李相哲　『東アジアのアイデンティティ』　凱風社　2,300円
テキストは必ず必要ですので、受講前に手に入れ、読み進めてください。
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：水曜日12時30分～ 13時30分
連絡方法：cieli@soc.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①スケジュール、講義方法を知ってもらう
（必ず出席すること）
②現代韓国の文化事情について
③分断国家の悲劇を知る
④韓国の文化を知る
⑤韓国人の家族愛、映画芸術の今を知る
⑥韓国の歴史を知る
⑦韓国と日本の関係を知る
⑧現代中国の文化事情について
⑨現代中国を理解する
⑩中国の近代を知る
⑪中国の現代を知る
⑫現代中国と文化事情
⑬日本の映画は中国、韓国映画とどう違うか
⑭現代アジアの家族、アジア的英雄像
⑮日中韓文化、どう違うのか

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂　靖、道元　徹心
【開講】後期　月3

■サブタイトル
近江の仏教文化
■講義概要
近江国（現・滋賀県）は、豊かな水をたたえた琵琶湖を有し、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在するなど日本文化の中心地の一つとなってきた。この講義では、近江における仏教文化の諸事象について、「説話」・「伝承」・「絵画」・「仏像」を素材として取り上げながら、「仏教」という視点から近江という地域を見ていくことで新たな「近江像」を紹介する。
■到達目標
近江の歴史と文化における仏教との密接な関係性について「理解」し、資料などの「根拠」に基づいて自らの言葉で「表現」できることを目標とする。
■講義方法
２名の担当者（道元徹心・野呂靖）によるチェーンレクチャー形式をとる。講義にあたっては、プリント、板書、映像資料などを用いて講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に紹介した参考文献を読み、指示された博物館・寺社の拝観を行うこと。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）「授業回数の３分の２以上の出席者」のみ評価対象とし、受講態度、および毎講義時に提出を求めるコメントカードの内容により総合的に評価する。
レポート（50%）近江と仏教との関係性について「理解」し、「根拠」を示しながら「論述」できているかを評価する。
■テキスト
担当者が毎回プリントを配布する。
■参考文献
講義時に随時、紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
【担当者からの一言】
皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある近江については、知っているようで知らないことが数多くあるはずである。仏教との関わりを通して近江の歴史を見ることで、これまで全く気がつかなかった滋賀県の魅力が明らかになるであろう。
【注意事項】
本講義は滋賀県の現状や、歴史・文化に関する「概説的・網羅的」な講義ではないので注意すること。また、講義中に私語を行う者や、無断で途中退出する者は、一切、成績評価の対象としない。
■講義計画
①ガイダンス（道元・野呂）
②比叡山の歴史と仏教①（道元）
③比叡山の歴史と仏教②（道元）
④比叡山の歴史と仏教③（道元）
⑤比叡山の歴史と仏教④（道元）
⑥比叡山の歴史と仏教⑤（道元）
⑦比叡山の歴史と仏教⑥（道元）
⑧比叡山の歴史と仏教⑦（道元）
⑨園城寺の歴史と文化（野呂）
⑩石山寺の歴史と文化（野呂）
⑪甲賀の忍者伝承と修験道（野呂）
⑫琵琶湖の語源と比叡山の仏教（野呂）
⑬近江の寺院と神仏習合（野呂）
⑭湖北の観音信仰（野呂）
⑮総括（野呂）

教養教育科目特別講義Ｅ（アジアの途上国と社会開発）

【担当】佐藤　彰男
【開講】前期　月３

■講義概要
本講義では、貧困問題を基点にアジアの途上国における社会問題をとりあげ、それらの問題がどのようにして先進社会と関係しているのかを明らかにしていく。またそのような問題を克服するために行われてきた先進諸国からの開発援助について検討し、効果や限界を明らかにしていく。

■到達目標
アジアの途上国に目を向けることによって視野を広げ、社会を理解するための新たな方途を獲得する。

■講義方法
基本的には音声と板書による講義であるが、必要に応じて映像資料等を用いる

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に適宜指示する。

■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末に論述式の試験を実施する。

■テキスト
授業中に適宜指定する。

■参考文献
恩田守雄　『開発社会学 -理論と実践-』　ミネルヴァ書房
4,104円

■講義計画
①社会開発とは何か
②途上国の社会問題
③植民地とミッショナリー
④南アジアの農村復興運動
⑤経済援助の成功と失敗
⑥成長の限界と持続可能な開発
⑦エンパワーメントと参加型開発
⑧近代化論と社会開発
⑨途上国とリサイクル
⑩底辺労働と環境問題
⑪NGOとエンパワーメント
⑫マイクロファイナンス
⑬ヴィレッジフォンの試み
⑭途上国開発と社会学
⑮「豊かな社会」と途上国問題

教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）

【担当】岡﨑　史子
【開講】前期　水２

■サブタイトル
現代の食を巡る諸問題を知り、健康な食生活を考える

■講義概要
従属栄養生物であるヒトは様々な生き物（動植物、微生物）を食物として摂取するが、食物には生命の維持に不可欠な栄養素がバランス良く含まれなければならない。食を巡る様々な問題が社会を騒がす現代、食と栄養に関する基本的知識を持つことは、健康な生活を確保する大切な一歩である。本講義では、健康で豊かな食生活を送るために、我々が何を知らなければならないのか、広い視野に立って身近な問題から考えてゆきたい。

■到達目標
食物と栄養について広い視点から捉えて学ぶことで、健康な食生活に必要な情報を選び取る能力を養い、自らの生活に生かすことができる

■講義方法
講義形式を基本とする。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義の時に指示する

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（20%）
定期試験（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①食を巡る諸問題
②世界の食料事情と日本
③食品の栄養成分
④栄養素の消化・吸収
⑤栄養素の代謝
⑥ライフステージ別栄養学
　胎児期～学童期
⑦ライフステージ別栄養学
　思春期～高齢期
⑧生活習慣病と栄養
⑨運動と栄養
⑩食物アレルギー
⑪食品の表示
⑫食品の安全性１
⑬食品の安全性２
⑭食糧の安定供給
⑮まとめ

教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）

【担当】岡﨑　史子
【開講】後期　水２

■サブタイトル
現代の食を巡る諸問題を知り、健康な食生活を考える

■講義概要
従属栄養生物であるヒトは様々な生き物（動植物、微生物）を食物として摂取するが、食物には生命の維持に不可欠な栄養素がバランス良く含まれなければならない。食を巡る様々な問題が社会を騒がす現代、食と栄養に関する基本的知識を持つことは、健康な生活を確保する大切な一歩である。本講義では、健康で豊かな食生活を送るために、我々が何を知らなければならないのか、広い視野に立って身近な問題から考えてゆきたい。

■到達目標
食物と栄養について広い視点から捉えて学ぶことで、健康な食生活に必要な情報を選び取る能力を養い、自らの生活に生かすことができる

■講義方法
講義形式を基本とする。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義の時に指示する

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（20%）
定期試験（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①食を巡る諸問題
②世界の食料事情と日本
③食品の栄養成分
④栄養素の消化・吸収
⑤栄養素の代謝
⑥ライフステージ別栄養学
　胎児期～学童期
⑦ライフステージ別栄養学
　思春期～高齢期
⑧生活習慣病と栄養
⑨運動と栄養
⑩食物アレルギー
⑪食品の表示
⑫食品の安全性１
⑬食品の安全性２
⑭食糧の安定供給
⑮まとめ

健康とスポーツ

【担当】渡辺　英児
【開講】後期　月１

■講義概要
テクノロジーの急速な発展は人類に多大な恩恵をもたらした一方で、運動不足などによる生活習慣病などの発生率が年々高くなってきている。そこで、本講義は、現代社会における健康とスポーツ・運動の役割をスポーツ科学の観点から以下の項目について紹介する。
（1）現代社会におけるスポーツ・運動と健康
（2）スポーツ・運動と身体的な健康
（3）スポーツ・運動と心の精神的健康
（4）食生活とスポーツ

■到達目標
現代社会における運動やスポーツの重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。

■講義方法
講義形式で、担当教員が講義する。受講人数が少なければ実際にトレーニングセンターを使って運動を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間外に講読できる文献を講義の時に紹介する。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業参加状況を総合的に判断する
定期試験（80%）大学が定める定期試験中に試験を実施する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
スポーツや運動に興味のある学生の履修を期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
最初の講義で紹介する。

■講義計画
①健康、スポーツ、運動、身体活動とは
②⑴スポーツや運動への参加状況
　⑵運動は寿命を長くするか。
③スポーツ・運動不足と生活習慣病について
④健康に関する体力要素
⑤エネルギー供給システムの違いについて
⑥⑴運動処方について
　⑵運動によるウェートコントロール
⑦レジスタンストレーニング
⑧⑴ストレスと運動
　⑵行動パターンと運動
⑨⑴スポーツ・運動と精神的健康
　⑵運動の実践による心理的効果
⑩⑴運動により心理的効果のメカニズム
　⑵運動の実践による自己概念の向上
⑪スポーツ・運動を継続させるための心理的方策
⑫スポーツ栄養学について
⑬スポーツの実践によるライフスキルの獲得
⑭スポーツ科学の基礎知識
⑮まとめ

現代社会とスポーツ

【担当】辻　延浩
【開講】後期　金1

■サブタイトル
現代のスポーツ文化

■講義概要
現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化･ビジネス化･グローバル化という３つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。

■到達目標
スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会的問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え、実践の視点を見つけることができる。

■講義方法
プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ（DVD、VHS）を使用。

■授業時間外における予・復習等の指示
特になし

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況および受講態度
小テスト（20%）毎授業後のプリント
レポート（20%）中間試験。講義内容(前半)をもとに出題する。記述式。
定期試験（40%）講義内容（後半）を中心に出題する。記述式。
そ の 他（0%）
出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し､記述を求める。

■テキスト
受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。

■参考文献
井上俊・亀山佳明編　『スポーツ文化を学ぶ人のために』　世界思想社　2,415円

■履修上の注意・担当者からの一言
授業プリントは一人１枚受け取ること。枚数に限りあり。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
以下のメールに連絡してください。ntsuji@edu.shiga-u.ac.jp

■講義計画
①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。
②スポーツの起こりと発展について、陸上競技の技術史をもとに学びます。
③競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。
④ホイジンガとカイヨワのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。
⑤教育としてのスポーツについて、学習指導要領の変遷、体育科（保健体育科）の目標と内容を中心に考えます。
⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。
⑦中間試験
⑧人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。
⑨「メディアと競技スポーツの商品化」､「勝利至上主義とドーピング」､「競技スポーツと環境問題」､「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。
⑩これからの社会とスポーツと題して、ニュースポーツやユニセックスのスポーツ、民族スポーツについて学びます。
⑪スポーツとライフマネジメントについて、子どもの体力・運動能力や生活行動の調査データをもとにして考えます。
⑫現代社会における健康問題に対する食事の重要性について学びます。
⑬24時間型社会がもたら睡眠への影響を実態調査結果をもとに理解するとともに、睡眠は脳とからだをつくるをキャッチフレーズとして、最近の睡眠の科学的知見を学びます。
⑭健やかなからだを育むことを目的として、睡眠６か条および補足６か条を理解するとともに、自己の睡眠生活を見つめ直し、その改善方法について考えます。
⑮「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。
⑯定期試験

現代社会と福祉

【担当】岡野　英一
【開講】前期　木3

■サブタイトル
現代社会の変化と福祉を捉える
■講義概要
人々にとって「福祉」とは何かを考えます。そのうえで、急激な現代社会の変化に対応して進められている福祉政策と福祉実践について、経済・社会的視点、歴史的視点、文化的視点を通じて考察することを目的とします。
■到達目標
私たちの社会生活の中に、福祉政策と実践はどのようにかかわっているのかを、授業を通じて具体的に理解できるようにします。
■講義方法
テキストに沿いながら制作した資料に基づき、講義を進めます。
■系統的履修
社会福祉は社会問題・生活問題の解決に取り組む営みです。常に社会の動きに気を配り、社会問題・生活問題の解決はどうあるべきかを思考してください。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストの内容を予習しておくことを求めます。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回出欠を確認します。
小テスト（20%）中間時に筆記試験を行います。
定期試験（50%）筆記試験を行います。
毎回資料を準備します。
■テキスト
野口勝巳・山西辰雄　『社会福祉要論』　川島書店　2,400円
教科書に沿って進めますので、購入を勧めます。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
社会福祉は、私たちの生活問題の解決のための実践です。常々、社会の動きに気を配り、どのような問題が起きているのか、その対策はどうあるべきかについて考えてください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
okano@soc.ryukoku.ac.jpまで連絡をください。
■講義計画
①授業にあたってのオリエンテーションを行います。
②「社会福祉」という考え方、私たちの暮らしの中での社会福祉の意味を考えます。
③世界と日本の社会福祉の歴史的にどのように発展し、形成されてきたかを学びます。
④社会福祉を進める制度とその実施体系を学びます。
⑤福祉にかかわる専門職の概要と働きを間びます。
⑥公的扶助の仕組みと役割、その課題を考えます。
⑦子ども家庭福祉の仕組みと役割、その課題を考えます。
⑧社会福祉の制度とその実施体制にかかわる中間（筆記）試験を行います
⑨障碍者福祉の仕組みと役割、その課題を考えます。
⑩高齢者福祉の仕組みと役割、その課題を考えます。
⑪地域福祉の考え方とその進め方について学びます。
⑫地域福祉の担い手（住民・専門職・関係機関・その他）の役割について学びます。
⑬医療福祉の仕組みと役割、その課題を考えます。
⑭社会福祉実践に必要な相談と援助について学びます。
⑮今日の社会福祉の動きを学び、これからの課題について考えます。

現代社会とマス・メディア

【担当】中野　有
【開講】前期　水3

■サブタイトル
メディア・リテラシー
■講義概要
マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。最新の情報をベースにマスメディアの本質を考える。
テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に接しながら考える能力を向上させる。
国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。
■到達目標
メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。自分の頭で考え（Think）し、発表する能力を養う。
■講義方法
時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。
毎回、講義のレジュメを配布する。ハーバード大学のサンデル教授の「白熱教室」のような学生との対話形式の講義を目指す。
毎回の講義で確実にスマートになる講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）毎回の講義で約10分間の小レポートを作成。
レポート（30%）講義で習得したことを1400字でまとめる。最終講義かその前の講義時にレポートを提出。
■テキスト
李相哲、小黒純他　『超入門ジャーナリズム101の扉』　晃洋書房　1,575円
オリエンテーションにて説明。
■参考文献
参考文献はオリエンテーションにて説明する。
■履修上の注意・担当者からの一言
世界に通用する教養を楽しく学ぼう。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室：email nakanoassociate@yahoo.co.jp
■講義計画
①オリエンテーション
②マス・メディアとは
③マス・メディアのエッセンス
④メディアはメッセージである
⑤メディア・リテラシーとは
⑥Think,Learn,Lead　自分の頭で考える
⑦哲学的思想
⑧近代史を語る
⑨国際情勢の変化を解読
⑩外交・安全保障とマス・メディア
⑪グローバル・イングリッシュの習得
⑫国際経済を解読
⑬ソーシャル・メディアの役割
⑭総括
⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】中野　有
【開講】後期　水３

■サブタイトル
メディア・リテラシー、現代社会を解読する

■講義概要
マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。
毎日、メディアに接する時間は平均６時間と言われている。洪水のようにあふれる情報を如何に解読するかが非常に大切である。現代社会、特にグローバル・ソサエティーにおいては、単に学ぶことよりも自分の頭でThinkする能力が求められている。そこで、考えることを学ぶ講義を行う。
テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に触れながら考える能力を向上させる。
国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち、世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標
メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。

■講義方法
時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。
ハーバード大学のサンデル教授の「白熱教室」のような学生との対話形式の講義を目指す。

■系統的履修
毎週放送しているラジオカフェ・シンクタンクジャーナルをインターネットを通じて聴く。

■授業時間外における予・復習等の指示
新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）積極的発言を重視､毎回約10分の小レポートを作成。
レポート（30%）講義で習得し分析したことを1400字でまとめる。講義の最終日かその前の講義中に提出。

■テキスト
李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房　1,575円
オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■参考文献
オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的かつ真剣に授業に参画して欲しい。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。豊かな人生を謳歌するための教養（リベラル・アーツ）を学ぶことができる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室　email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画
①オリエンテーション
②マス・メディアのエッセンスを習得
③メディアはメッセージである
④鉄のトライアングル（政・官・財）とメディア
⑤哲学思想とメディア
⑥歴史の潮流
⑦近代史とメディア
⑧国際情勢の変化を解読
⑨外交・安全保障とメディア
⑩国際経済とメディア
⑪海外のメディアから学ぶ、ニューヨークタイムズ、BBC,CNN
⑫ソーシャル・メディア
⑬グローバル・イングリッシュ
⑭総括
⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】西村　敏雄
【開講】後期　水2

■サブタイトル
新聞やテレビなどのメディア情報が乱舞する時代、そのメディアが本当に「真実を伝えているのか」、また「どうしたら真実を見つけることができるか」を学ぶ。

■講義概要
新聞やテレビ、インターネットなど情報は多様化している。発信するメディアからの情報には「記者や編集者のフィルターがかけられている」。その中からいかに真実を見抜くか。例えばイラク戦争ではアメリカなど攻撃する側からの情報が多く、攻撃されるイラク内部の実情に関する情報は圧倒的に少なかった。また、３・１１の東北大震災では政府や東電の情報が一方通行でメディアを通じて流され原発事故の真実が伝えれれないまま政府は「収束宣言」を出した。また、先の選挙では自民党が圧勝したが、圧倒的多数の与党がこれからの日本の進路の舵をどうきるのか。その行方を追う。さらに身近な問題として最近頻発している「冤罪・人権」などをめぐる警察や検察など権力の思惑などを、記事や映像からによってもたらされる情報から見抜く視点を養うことが求められている。特に「人権とメディアのあり方」を基本的に学ぶことにより、より身近な社会、政治、国際、経済問題などの「真実」を見抜いて、「自分なりの意見・視点を持つ」ことを目的としている。

■到達目標
新聞やテレビなどマスコミをあまり見ない、読まない学生に身近な情報からいかにして「真実を見抜くのか」を学んでもらう。

■講義方法
①新聞の読み比べ
②こちらだけでなく双方向で学ぶ
③毎回リアクションペーパー（出席票の代わりでもある）を書いてもらう。
DVDやビデオを鑑賞しながら「知らなかった世界」を鑑賞してもらい、その中から[真実を見つけ」、さらに「自分の視点」を養ってもらう。

■系統的履修
報道論Ⅰ、Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の最後には、次回のテーマを提示して事前に新聞やテレビ、インターネットなどを通じて調べてくる。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）欠席は３回まで、４回になると自動的に受講資格なしになる。授業後に書くリアクションペーパー提出が出席票となる。
小テスト（60%）授業の前半と後半のに総復習として小レポートを２回実施する（各1,200字以上）
積極的に授業に参加する意志が必要。私は全国紙の記者を約30年間、社会部、経済部、特派員などを歴任。自分が「見て、聞いて、歩いてきた」その現場から報告と現在流されている新聞やテレビなどのもっとも身近な話題に迫りながら、受講生との双方向であらゆる情報を検証したい。

■テキスト
『超ジャーナリズム入門』　晃洋書房　2,100円
毎回、レジュメを作成して渡す。出席票の代わりにリアクションペーパーを渡し、感想などを書いてもらう。

■参考文献
『政府は必ず嘘をつく』　角川新書
『メディアコントロール』　世界思潮社

■履修上の注意・担当者からの一言
欠席は３回までで、４回で授業の受講資格を失うので注意。忌引きや病気などは必ず連絡すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
toshi_bozu_1949@yahoo.co.jpのパソコンに連絡する。連絡するときには「名前、所属、テーマ」などは必ず書くこと。欠席の場合も連絡すること。

■講義計画
①授業の進め方
　①この授業の意義
　②レジュメの内容
　③採点
　④受講生に求めるもの。
②メディア・リテラシーの意義。「現実的事実とメデャア報道の事実」を通していかに「真実」を見つけるかを読み解く。
③新聞が読者に届くまでの記者の一日を追いながら、新聞記事やテレビニュースが作られていくのかを検証する。
④本来のジャーナリズムの役割や使命を考えながら現代のメディアのおかれた環境や立場を分析する。
⑤戦争がいかにして「作られるか」を検証して。第二次世界大戦から最近のテロなどを通して考える。メディアがいかに権力にコントロールされているかを考え、その報道のあり方を探る。
⑥ビデオ・ベトナム戦争「これは正義の戦いか」を鑑賞する。まだジャーナリズムが健全なころを振り返り現在のメディアと比較する。
⑦ビデオ・イラク戦争をベトナム戦争と比較してそれを取材するマスコミが果たした役割や政治に翻弄されたメディアの功罪などを検証する。
⑧冤罪事件
「痴漢冤罪」の恐怖。身近な問題として。
⑨冤罪事件
「足利事件」のDNA科学を信用し、誤審なった菅谷さんの失われた17年の人生を考える。
⑩冤罪事件
「松本サリン事件」での被害者が、権力やマスコミによって「犯人」に仕立てられた河野さんの例を挙げてその危険性を検証する。
⑪日本軍「従軍慰安婦」に関するマスコミの対応や日韓の政治の思惑を検証する。朝日新聞が誤報としたこの問題で何が誤報か、さらにこの問題に他のメディアがどう答えたのかも取り上げる。
⑫NHKのやらせドキュメントや新聞報道などに見る誤報問題（STAP細胞報道など）を取り上げる。
⑬実際に起こった少年事件や精神障碍者の報道を取り上げその問題点を考える。
⑭前半授業の総括（上記シラバスの7回目くらいに入れる予定）
⑮後半授業の総括

現代の技術

【担当】小川　圭二、長澤　佳克
【開講】後期　月３

■サブタイトル
現代社会を支える先進技術
■講義概要
前半の講義では、現代社会を支える基盤技術について講義する。現代技術の代表的分野の中から、ものづくり技術、輸送技術、微細技術、コンピュータ技術、ロボット技術などを取り上げ、これらの分野における基礎的知識、技術の現状および今後の課題などについて、わかりやすく講述する。後半の講義では、まず先進技術の発祥と進化をノーベル賞、トレイバー賞を中心に解説し、次に日本が得意とする高分子から半導体までの新素材、新機能材料について、その機能発現の原理と実社会での応用をわかりやすく説明する。また社会的な問題であるエネルギーや環境問題について、その現状と解決への技術上の取り組み述べる。さらに医薬品、バイオテクノロジー等のライフサイエンスを支える現代技術についても講義を行い、これら全ての先進技術の発展に不可欠な分析・解析技術を紹介して、後半の講義をまとめる。
■到達目標
現代社会を縁の下で支えている先端技術の現状と課題について理解を深め、今後のあるべき姿あるいは方向性を考えるための基礎知識を修得する。また、科学技術の進歩とそれらの恩恵について知り、21世紀において、20世紀にもたらされた地球環境の悪化に対する対策を講じながら、持続的発展をいかに続けていくかを理解することが到達目標である。
■講義方法
前半は、主にパワーポイントを使っての講義を行う。必要に応じてプリントを配布し、それに準じて講義する。
後半は、パワーポイントを使っての講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
現代技術に関する新聞、ＴＶなどの報道記事に関心を持つことが好ましい。
■成績評価の方法
レポート（20%）前半10点、後半10点
定期試験（40%）
そ の 他（40%）中間試験
前半は、授業途中で課すレポートの成績（10点満点）と中間試験の成績（40点満点）によって評価する（合計50点満点）。
後半も、授業途中で課すレポートの成績（10点満点）と定期試験の成績（40点満点）によって評価する（合計50点満点）。
前半と後半の点数を足し合わせて総計100点とする。
■テキスト
特定のテキストは使用しない。前半の講義では、必要に応じてプリントを配布する。後半の講義では、予め資料をシラバスに掲載する。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
私語は他人に迷惑となるので慎むこと。目に余る者は退出または減点する。
中間試験は持込み不可。定期試験も持ち込み不可。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
後半の講義ではメールによる質問も受け付ける。
■講義計画
①現代技術序論
②ものづくり技術１（身近な工業製品のできるまで）
③ものづくり技術２（金型）
④輸送技術（自動車、鉄道、飛行機）
⑤微細技術（マイクロマシン、ナノ技術）
⑥コンピュータ技術（計算機の歴史、計算機の応用）
⑦ロボット技術（ロボット技術の歴史、産業用ロボット）
⑧前半のまとめ、中間試験
⑨現代科学技術の発祥と進化
⑩産業各論　１（樹脂、繊維）
⑪産業各論　２（半導体、照明）
⑫産業各論　３（エネルギー、環境）
⑬産業各論　４（医薬品、食料品）
⑭産業各論　５（バイオテクノロジー）
⑮産業各論　まとめ　（産業を支える解析分析技術）

国際社会と日本Ａ

【担当】池尾　靖志
【開講】後期　金２

■サブタイトル
沖縄からみた日本と国際関係
■講義概要
この講義では、米軍基地の被害にあえぐ、沖縄の視点から、「本土」と沖縄との関係、沖縄とアメリカとの関係、日本とアメリカとの関係について考察する。
そのなかで、国際関係論や、平和研究の知見を修得することをめざす。
■到達目標
ニュースや新聞などをみて、自分なりの意見が自分の言葉で論理的に説明できるようになる。
国際関係論の基本的な知識が習得できる。
■講義方法
講義プラス視聴覚教材使用
■授業時間外における予・復習等の指示
講義で指示された箇所を事前に読んでくること。
毎日、新聞・ニュースなどに目を通すこと。
■成績評価の方法
レポート（10%）moodleでレポートを1回課す。
定期試験（90%）論述2問。
■テキスト
池尾靖志・元山仁士郎　『沖縄問題の解決にむけて（仮題）』
凱風社
テキストは、9月初頭に刊行予定なので、タイトルが変わる可能性があります。
■参考文献
池尾靖志編　『平和学をつくる』　晃洋書房　2,600円
■履修上の注意・担当者からの一言
板書を中心に進めるので、ノートを用意すること。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義の前後をつかまえること。
■講義計画
①国際関係の基本構造
②沖縄問題の現状（1）：少女暴行事件
③沖縄問題の現状（2）：SACO合意
④沖縄問題の現状（3）：辺野古移設
⑤沖縄問題の現状（4）：高江
⑥国際関係の理論（1）リアリズム（1）
⑦国際関係の理論（2）リアリズム（2）
⑧国際関係の理論（3）リアリズム（3）
⑨国際関係の理論（4）リベラリズム（1）
⑩国際関係の理論（5）リベラリズム（2）
⑪国際関係の理論（6）リベラリズム（3）
⑫政治学の理論（1）民主主義（1）
⑬政治学の理論（2）民主主義（2）
⑭政治学の理論（3）民主主義（3）
⑮まとめと復習
⑯定期試験

国際社会と日本Ｂ

【担当】佐藤　一進
【開講】前期　水１

■サブタイトル
思想課題としての「西欧近代」と日本

■講義概要
本講義では「西欧近代」を日本にとっての思想課題としてとらえ、その衝撃によって生じてきた数々の葛藤について政治､経済､社会､科学などの側面から思想的な分析と考察を行ないます。東日本大震災と原発事故を経た日本は多くの困難を抱えていますが、それらの起源をたどれば黒船来航以来、日本がつねに葛藤してきた「近代性」の問題へといたります。日本にとって国際化とは何よりもまず「近代化」であり、それはすなわち「西欧化」を意味してきました。しかし近代化の問題と限界は現在、いっそう切迫した状況としてわたしたちの眼前に広がっています。
したがって、今日の日本社会に山積する数々の問題を克服していくことはただ政策的、技術的なテーマなのではなく､「西欧近代」を支える思想と対峙しながら、いかにして日本は日本であろうとするのかという思想的な問いを問うことにほかなりません。
本講義では、西欧近代の思想史的な経緯のなかから、西欧近代を構成する重要なファクターをおさえ、それらファクターが日本の近代化の過程でどのように変容しながら受容され、現代日本の世界観を構成しているのかについて解説しながら、わたしたち自身の世界観、すなわちヴィジョンを更新していくための手がかりを考察します。

■到達目標
・「西欧近代」と「近代性」の原理をつかむ。
・「西欧近代」との出会いのなかで日本が経験した数々の葛藤の歴史について知る。
・現代的な諸問題を展望するための思想的な視座を築く。

■講義方法
基本的に講義形式で行ないますが、状況に応じてディスカッションの形式をとることもあります。また､映像資料の視聴も行ないます。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に取ったノートを、できるだけその日のうちに整理してください。その時に不明な点、分からない点を明確化し、次回の講義において質問してください｡毎回講義の冒頭で質問を受け付け、それについて答えながら講師と受講生で一緒に考える時間を設けます。講義で示した文献にもできるだけアクセスしてください。

■成績評価の方法
レポート（100%）講義内容に基づいたレポート課題（2000字～4000字程度）を提示します。

■テキスト
特になし

■参考文献
佐藤一進　『保守のアポリアを超えて―共和主義の精神とその変奏』　NTT出版　4,000円
佐伯啓思　『西田幾多郎―無私の思想と日本人』　新潮社　780円
その他の原典、参考文献は講義中に適宜指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
予備知識は特に要求しませんが、人間と何か、人間と政治、経済、社会、歴史はどのように関わっているのかという思想的、哲学的な関心と意欲を持つ人の受講を歓迎します。講義中に受講生に対して問いを投げかけますので､それに応答する積極性を求めます。

■講義計画
①国際化とグローバル化――西欧近代とは何か
②主権国家と社会契約
③商業文明と契約なき社会秩序
④普遍同質国家と歴史の終わり（1）
⑤普遍同質国家と歴史の終わり（2）
⑥明治維新と武士道（1）
⑦明治維新と武士道（2）
⑧文明開化と武士道のゆくえ（1）
⑨文明開化と武士道のゆくえ（2）
⑩「近代の超克」と太平洋戦争（1）
⑪「近代の超克」と太平洋戦争（2）
⑫戦後民主主義と主体性（1）
⑬戦後民主主義と主体性（2）
⑭戦後国際社会と日本的精神（1）
⑮戦後国際社会と日本的精神（2）

コリア語ＩＡ

【担当】孫　才喜
【開講】前期　水３

■サブタイトル
韓国語の初級コース

■講義概要
この講座では「読める、話せる」韓国語を目指している。同じ漢字文化圏の言語で、同じく漢字ベースの単語、語順も同じという日本語と非常に似ている韓国語は隣語でもある。日本語母語者にとって、韓国語学習の最初の関門は韓国語の文字体系を理解して読めることである。正確に読める行為は、両言語の語順が同一である点から、話せる行為に繋げるのに容易である。
韓国語と深く関わる韓国の社会、文化などについても紹介する。外国語・韓国語の学習に止まらず、誰かに「話す・聞く」行為の練習を通じて､コミュニケーションの重要性や､コミュニケーションの多様なテクニックなどをも考える。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
韓国語の文字と発音の構造を理解して、先ず、町中のハングル看板や駅名、地名などが読めて、話せること。
それから､自己紹介から始めて､相手との簡単な会話が出来ること。

■講義方法
テキストを中心として進みながら、必要に応じて、プリント資料を用いて補強する。
受講生は、毎回の授業中に一回以上の韓国語の問答、あるいはペア活動を通して､「韓国語を話して」もらう。

■授業時間外における予・復習等の指示
各授業で学習した韓国語の中から重要単語、又は核心の文を覚え、それらをReading又はWritingしてもらうため、30分～60分の復習を要する。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席度を含めて､授業中の問答､ペア活動など、授業参加の積極性を評価。
小テスト（30%）予告の上、随時小テストを行い、それを総合して評価。
レポート（20%）その都度、課される課題に対する成果を総合して評価。

■テキスト
崔柄珠　『おはよう韓国語１』　朝日出版社　2,400円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の初級講座の特質上、理解の正確性と同時に誠実な練習の繰り返しがより重要となるので、毎回の出席は大事！
３分の２以上の授業出席は必須。

■講義計画
①言語と歴史、文化との関係／韓国語について
②ハングルの構造／母音と子音
③母音の単語
④子音＋母音の単語
⑤子音+母音+子音の単語
⑥音韻の変化／連音化、濃音化、激音化①
⑦音韻の変化／連音化、濃音化、激音化②
⑧名詞文の叙述・疑問①
⑨名詞文の叙述・疑問②
⑩名詞文の叙述・疑問③
⑪名詞文の叙述・否定①
⑫名詞文の叙述・否定②
⑬名詞文の叙述・否定③
⑭用言文の叙述・疑問／습니다体①
⑮用言文の叙述・疑問／습니다体②

コリア語ＩＢ（2015年度以降入学生）
コリア語ＩＣ（2014年度以前入学生）

【担当】朴　炫国
【開講】前期　月2

■講義概要
1．韓国語の子音と母音を把握して暗記する.
2．韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語（ハングル）を正確に発音するようにする.
3．韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う.
4．韓国語の数字の使い方を学ぶ。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
1．日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする.
2．韓国語で自己の紹介ができて, 相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする.
3．一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする.

■講義方法
1．教科書の内容を読んで, 意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する.

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだ文法や単語の暗記.

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、授業中質問と対答, 読み
小テスト（30%）宿題, 授業態度, 聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト
入佐信宏,文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』 白帝社 2,500円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1．外国語として韓国語を週１回勉強してマスターすることは不可能です. 毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください.
2．積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①日常生活.習慣に関する表現－１
　動詞の不定形ー質問,対答
②日常生活.習慣に関する表現－２
　動詞の不定形ー質問,対答
③物の状態に関する表現－１
　ー形容詞の原型, 変形
④物の状態に関する表現－２
　ー形容詞の原型, 変形
⑤趣味の表現、種類
⑥数字の表現、読み方ー日,月,時間,番号
⑦毎日生活に関する表現ー日,月,時間,番号、曜日
⑧過去表現
⑨未来表現
⑩買い物の表現ー単位,数え方,お金－１
⑪買い物の表現ー単位,数え方,お金－２
⑫韓国の歌
⑬韓国の映画
⑭韓国のドラマ
⑮韓国語と文化の係わり

コリア語ⅡＡ（2015年度以降入学生）
コリア語ＩＢ（2014年度以前入学生）

【担当】孫　才喜
【開講】後期　水3

■サブタイトル
韓国語の初級コース

■講義概要
この講座では「読める、話せる」韓国語を目指している。同じ漢字文化圏の言語で、同じく漢字ベースの単語、語順も同じという日本語と非常に似ている韓国語は隣語でもある。日本語母語者にとって、韓国語学習の最初の関門は韓国語の文字体系を理解して読めることである。正確に読める行為は、両言語の語順が同一である点から、話せる行為に繋げるのに容易である。
韓国語と深く関わる韓国の社会、文化などについても紹介する。
外国語・韓国語の学習に止まらず、誰かに「話す・聞く」行為の練習を通じて、コミュニケーションの重要性や、コミュニケーションの多様なテクニックなどをも考える。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
韓国語の文字と発音の構造を理解して、先ず、町中のハングル看板や駅名、地名などが読めて、話せること。
それから、自己紹介から始めて、相手との簡単な会話が出来ること。

■講義方法
テキストを中心として進みながら、必要に応じて、プリント資料を用いて補強する。
受講生は、毎回の授業中に一回以上の韓国語の問答、あるいはペア活動を通して、「韓国語を話して」もらう。

■授業時間外における予・復習等の指示
各授業で学習した韓国語の中から重要単語、又は核心の文を覚え、それらをReading又はWritingしてもらうため、30分～60分の復習を要する。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席度を含めて、授業中の問答、ペア活動など、授業参加の積極性を評価。
小テスト（30%）予告の上、随時小テストを行い、それを総合して評価。
レポート（20%）その都度、課される課題に対する成果を総合して評価。

■テキスト
崔柄珠 『おはよう韓国語１』 朝日出版社 2,400円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の初級講座の特質上、理解の正確性と同時に誠実な練習の繰り返しがより重要となるので、毎回の出席は大事！
3分の2以上の授業出席は必須。

■講義計画
①用言文の叙述・疑問/습니다体
②用言文の叙述・否定/습니다体①
③用言文の叙述・否定/습니다体②
④用言文の叙述・疑問/해요体①
⑤用言文の叙述・疑問/해요体②
⑥用言文の叙述・疑問/해요体③
⑦指示詞と漢語系数詞
⑧해요体の縮約形①
⑨해요体の縮約形①
⑩固有語形数詞と助数詞
⑪時刻の表現
⑫用言の連用形①丁寧な命令
⑬助詞の活用
⑭用言の連用形②順接
⑮用言の連用形③逆接

コリア語ⅡＢ（2015年度以降入学生）
コリア語ＩＤ（2014年度以前入学生）

【担当】朴　炫国
【開講】後期　月2

■講義概要
1．韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2．韓国語と日本語の発音差を認識して正確に発音するようにする。
3．韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
1．日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2．韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3．一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだ文法や単語の暗記

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、授業中質問と対答、読み、暗記
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト
延世大学校韓国語学堂 『延世韓国語1-1』 延世大学校大学出版文化院
教科書は授業時紹介

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1．外国語として韓国語を週１回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2．積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.rykoku.ac.jp、研究室４号館331、077-543-7881、(月、金曜日以外の昼ご飯の時間、会議の可能性あり、前以て電話必要)

■講義計画
①人間と言語、言語と文化,
②韓国語の起源とハングルの製作
③韓国語の母音と子音
④母音の単語－音、書き方、読み方
⑤子音の単語－音、書き方、読み方－１
⑥子音の単語－音、書き方、読み方－２
⑦子音の交替 平音、硬音、濃音　パチム（終声）
⑧あいさつ　発音練習－連音化
⑨自己生活　発音練習－鼻音化1
⑩勉強　発音練習－硬音化
⑪家族　発音練習－鼻音化２
⑫図書館　発音練習－濃音化１
⑬昼ご飯　発音練習－７終声
⑭友達　発音練習－濃音化２
⑮買い物　発音練習－激音化

コリア語セミナーA

【担当】朴　炫国
【開講】前期　月4

■講義概要
1．韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2．韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語（ハングル）を正確に発音するようにする。
3．韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。
4．韓国語の数字の使い方を学ぶ。

■到達目標
言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができる。
1．日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2．韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3．一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
1．教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだ文法や単語の暗記

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、授業中質問と対答、読み
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト
入佐信宏,文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』 白帝社　2,500円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1．外国語として韓国語を週１回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2．積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①日常生活、買い物に関する表現－１
　数字や単位の使い方－質問,対答
②日常生活、買い物に関する表現－２
　数字や単位の使い方－質問,対答
③頼む時の表現－１
　－値段の表現、物の名前
④頼む時の表現－２
　－数字の表現、単位の使い方
⑤時間の表現、時や分の区分
⑥数字の表現、読み方－日、月、時間、番号
⑦毎日の生活に関する表現－日、月、時間、番号、曜日
⑧感情や感覚の表現（1）
⑨感情や感覚の表現（2）
⑩勧誘の表現－質問や答え（否定）
⑪勧誘の表現－質問や答え（肯定）
⑫韓国の民謡
⑬韓国の人気映画
⑭韓国の人気ドラマ
⑮韓国語と日本語の比較や係わり

コリア語セミナーB

【担当】朴　炫国
【開講】後期　月４

■講義概要
１．韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
２．韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語（ハングル）を正確に発音するようにする。
３．韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。
４．韓国語の数字の使い方を学ぶ。

■到達目標
言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができる。
１．日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
２．韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
３．一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
１．教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだ文法や単語の暗記

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、授業中質問と対答、読み
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト
入佐信宏,文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』 白帝社 2,500円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
１．外国語として韓国語を週１回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
２．積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①日常生活、習慣に関する表現－１
　動詞の不定形ー質問、対答
②日常生活、習慣に関する表現－２
　動詞の不定形ー質問、対答
③物の状態に関する表現－１
　－形容詞の原型、変形
④物の状態に関する表現－２
　－形容詞の原型、変形
⑤趣味の表現、種類
⑥数字の表現、読み方－日、月、時間、番号
⑦毎日生活に関する表現－日、月、時間、番号、曜日
⑧過去表現 - 語尾（-았/었）の活用
⑨未来表現 - 語尾（-겠）の活用
⑩買い物の表現ー単位、数え方、お金－１
⑪買い物の表現ー単位、数え方、お金－２
⑫韓国の民謡の表現
⑬韓国の映画の表現
⑭韓国のドラマの表現
⑮韓国語と日本語の比較

里山学（2015年度以降入学生）
教養教育科目特別講義Ａ（里山学入門）（2008～2014年度入学生）
共同開講科目特別講義（2003 ～ 2007年度入学生）

【担当】宮浦 富保、越川 博元、鈴木 龍也、須藤 明子、帖地 孝人、寺田 憲弘、朴 炫国、丸山 徳次、山崎 英恵、遊磨 正秀、横田 岳人
【開講】前期　月３

■サブタイトル
里山学　地域の自然と文化

■講義概要
里山は、人間が長期にわたって手を入れ、自然と多様な形で関わり、自然と共生することによって、人間同士の共存を可能にしてきた場所であった。日本の生物の多様性の一部は里山の存在によって維持されてきたということも明らかになりつつある。ところがエネルギー革命と農業革命のため里山は放置され、都市の膨張とともに開発のターゲットにされてきた。生物多様性を維持し、人間の生活を支え、日本文化の形成にも密接に関連していたと考えられる里山が失われようとしている。「里山学入門」では，里山の環境、動植物、歴史、里山と文化・制度との関わりなどについて、複数の教員が講義する。

■到達目標
里山といわれる環境について、その歴史や現状を理解する。里山を代表とする身近な自然環境と人間との関係について、自分自身の意見を持つ。

■講義方法
複数教員によるチェーンレクチャーであり、それぞれの教員ごとにいろいろな方法で講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示
ほぼ毎回、レポートを課す。人間と自然の関係についての自分の考えを整理すること。

■成績評価の方法
レポート（100%）

■テキスト
講義時間内に教員ごとに指示する。

■参考文献
丸山徳次・宮浦富保 『里山学のすすめ』 昭和堂 2,310円
丸山徳次・宮浦富保 『里山学のまなざし』 昭和堂 2,310円
講義時間内に教員ごとに指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
チェーンレクチャーであるので、すべての講義時間に出席しないと、里山学の全体を理解することができない。

■講義計画
①４月１３日　里山の歴史と現状
②４月２０日　里山の環境倫理
③４月２７日　里山の生物多様性
④５月１１日　水辺環境と里山
⑤５月１８日　環境社会学からみた里山
⑥５月２５日　里山と山の神＜日本編＞
⑦６月　１日　里山と山の神＜韓国編＞
⑧６月　８日　人と自然の関係～森からの思想
⑨６月１５日　里山の所有と利用
⑩６月２２日　食と文化
⑪６月２９日　人の生活と水環境
⑫７月　６日　里山のバイオマス利用
⑬７月１３日　瀬田地域の里山の歴史
⑭７月２０日　里山が放置され，増える生きものと減る生きもの
⑮７月２７日　植物と里山文化

雑草学（2015年度以降入学生）
教養教育科目特別講義G（雑草学）（2014年度以前入学生）

【担当】三浦　励一
【開講】後期　木3

■サブタイトル
身近な自然とどうつき合うか

■講義概要
雑草は人間にとって、最も身近な自然の要素である。それゆえ、いろいろな楽しみと同時に、やっかいな問題ももたらすことになる。とりわけ農業者にとっては、農業は雑草との戦いの連続である。本講義では、そのような相手を知り、うまくつき合っていくための基礎知識を提供する。一方では、雑草の分類・形態・生理・生態など、生物としてみた雑草の特徴を概観する。もう一方では、人と雑草の関係性のさまざまな局面をとりあげ、雑草とどうつき合うべきかを考えてみたい。農業の起源などの歴史的な問題から、遺伝子組換え作物や特定外来生物といった現代的問題までが視野にはいってくるだろう。
またできる限り、季節折々の雑草について、実物にふれながら話を進めたい。

■到達目標
身近な自然としての雑草を知り、雑草を楽しむことができる一方、雑草が農業や社会にもたらす問題とその対策の現状についても科学的・合理的に理解することができる。

■講義方法
主にパワーポイントと毎回配布するプリントを用いて講義する。

■系統的履修
農学部学生を対象としていないのは、農学部向けには2016年度以降、より専門的な内容を含む「雑草学Ⅰ・Ⅱ」（仮称）を設ける計画があるためである。

■授業時間外における予・復習等の指示
予・復習のノルマは特に設けない。ただし、授業でとりあげた雑草を野外で見かけたら、何という名前のどんな草だったか思い出してみるクセをつけてほしい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）毎回、出席票を兼ねた簡単なアンケート・コメントを求める。
定期試験（60%）基礎的知識とともに雑草問題に対する自分なりの考え方が獲得できているかも問う。

■テキスト
特になし

■参考文献
伊藤操子　『雑草学総論』　養賢堂
松中昭一　『きらわれものの草の話（ジュニア新書）』　岩波書店

■履修上の注意・担当者からの一言
理系・文系を問わず興味が持てる内容にする予定である。

■講義計画
①夏雑草を観察してみよう
②まず相手の名前を知ろう：植物語源学のすすめ
③「もののけ姫」と秋の七草
④農業と雑草：雑草を滅ぼさざれば雑草に滅ぼされんとす
⑤雑草の繁殖器官：はびこるためのカタチ
⑥雑草の生活環と休眠性：作物に合わせる、作物とすみ分ける
⑦雑草の機械的防除法：刈る、削る、耕す
⑧雑草の化学的防除法：除草剤の作用・使い方・安全性
⑨遺伝子戦争：除草剤抵抗性雑草と遺伝子組換え作物の話
⑩雑草の生物的防除法：その夢と限界
⑪帰化植物と特定外来生物：排除の論理を越えて
⑫絶滅危惧雑草と農業生態系の生物多様性
⑬春の七草と冬雑草を観察してみよう
⑭雑草がなければ作物もなかった――そのパンさえも。
⑮再考・人間にとって雑草とは何か?

自然観察法

【担当】宮浦　富保、遊磨　正秀
【開講】前期　金2

■講義概要
瀬田学舎の近くには比較的豊かな自然環境が残されています。この講義では、瀬田学舎周辺で観察できる植物や動物を主な題材として、身近な自然を観察するポイントを学習します。身近な動植物の名前を知るのみでなく、行動や生態、進化的な観点から、観察し、記録し、簡単な分析を行う方法を学びます。

■到達目標
身近な自然環境を観察するための基本的な項目を体得する。

■講義方法
スライドや板書による講義とともに、実際にキャンパス内外の身近な自然を観察し、記録、分析する方法を体験学習する。

■系統的履修
なし

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時間中に学習した観察手法を、身近な環境で実践することにより、確実に身につけるとともに、自然の多様な側面を理解していただきたい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）３回以上の欠席で不合格とする
レポート（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①野外における観察とは（ガイダンス）
②地形図の見方と野外での観察記録
③自然の恵み
④覚えよう身近な樹木
⑤「昆虫の飛び方を探る」（チョウやハチの飛翔）
⑥田圃の生き物
⑦植物と動物の関係
⑧ホタルの観察
⑨動物の餌探し
⑩生物による造形（巣作り）
⑪生物の形の数理
⑫「生き物のだましを見抜こう」（擬態）
⑬カワニナの観察
⑭樹木の形
⑮まとめ

社会思想史入門

【担当】村澤　真保呂
【開講】前期　金2

■サブタイトル
現代社会を理解するための思想史入門

■講義概要
私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験を重ねて、いまの社会の姿ができあがっています。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を掲げてつくりだされたものです。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることはきわめて有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。とりわけ福島原発事故後の日本社会の目も覆うばかりの状況を乗り越えるためにも、今後の社会のあり方を若い人たちが考えていく必要に迫られています。
この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史をふまえて理解することをつうじて、現代社会の課題を学生が自分自身で考察できるようにすることを目的にしています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。

■到達目標
社会のあり方と思想の関連について理解する。

■講義方法
講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に指示。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）
評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。

■テキスト
特になし

■参考文献
宇野重規　『西洋政治思想史』　有斐閣　1,700円
プラトン　『国家』　岩波書店
アリストテレス　『政治学』　岩波書店
トマス・モア　『ユートピア』　岩波書店
ベーコン　『ニューアトランティス』　岩波書店
ルソー　『社会契約論』　光文社
J.S.ミル　『自由論』　光文社
マルクス　『共産党宣言』　岩波書店
授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめ、厳しい処置をとる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中に指示する。

■講義計画
①人間と自然：正義の根拠
②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
③古代ギリシア：プラトンとアリストテレス（2）
④中世神学とミクロコスモス：トマス・アキナス
⑤ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
⑥国際法の構想：グロティウスとカント
⑦近代精神と新しい社会（1）：デカルトとホッブス
⑧近代精神と新しい社会（2）：スピノザとライプニッツ
⑨近代国家の構想（1）：ルソー
⑩近代国家の構想（2）：ロック、モンテスキュー
⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
⑫近代社会の矛盾（1）：マルクス
⑬近代社会の矛盾（2）：社会学と社会主義
⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
⑮まとめと補足

社会思想史入門

【担当】森　元斎
【開講】後期　木4

■サブタイトル
現代社会を理解するための思想史入門
■講義概要
私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験が積み重ねられて現在の社会の姿がつくられました。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を追求するなかで、多くの犠牲と苦労の果てにつくりだされました。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることはきわめて有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。とりわけ若い人たちは、福島原発事故後の日本社会の目も覆うばかりの状況を乗り越えるためにも、今後の社会のあり方を考える必要に迫られています。
この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題を学生ひとりひとりが自分自身で考察できるようにすることを目的にしています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。
■到達目標
社会のあり方と思想の関連について理解する。
■講義方法
講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に指示。
■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）
評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめ、厳しい処置をとる。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中に指示する。
■講義計画
①人間と自然：正義の根拠
②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
③古代ギリシア：プラトンとアリストテレス（2）
④中世神学とミクロコスモス：トマス・アキナス
⑤ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
⑥国際法の構想：グロティウスとカント
⑦近代精神と新しい社会（1）：デカルトとホッブス
⑧近代精神と新しい社会（2）：スピノザとライプニッツ
⑨近代国家の構想（1）：ルソー
⑩近代国家の構想（2）：ロック、モンテスキュー
⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
⑫近代社会の矛盾（1）：マルクス
⑬近代社会の矛盾（2）：社会学と社会主義
⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
⑮まとめと補足

ジェンダー論

【担当】堀江　有里
【開講】前期　火5

■サブタイトル
ジェンダー入門
■講義概要
ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性差（女らしさ・男らしさ）のことである。社会は､性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また､このような「性別二元論」は､二分された「男」と「女」を一対になるものとして認識する（異性愛主義）。わたしたちの生活に、無意識に存在するこれらの価値観を、いくつかの事例からまずは「問う」作業を行ない、ジェンダーを基盤とした社会構造のなかに個々人が生活していることを考察して行きたい。
■到達目標
ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることをめざす。
■講義方法
講義形式にて進める。また､適宜､映像資料などを用いる。ほか、ディスカッションなどを取り入れる場合もある。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義内に指示する。また、わからないことがあったら、その都度、図書館等で調べるようにすること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況およびミニレポートで総合的に評価する。
定期試験（80%）基礎用語の確認および論述による試験を実施する。
■テキスト
特になし
■参考文献
大越愛子・倉橋耕平『ジェンダーとセクシュアリティ』昭和堂　2,592円
高橋準『ジェンダー学への道案内（四訂版）』北樹出版　2,268円
風間孝・河口和也『同性愛と異性愛』岩波書店　821円
堀江有里『レズビアン・アイデンティティ』洛北出版
その他、講義内に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語等の講義妨害行為。他人の出席カードの記入等の不正行為には厳しく対処しますので各自注意して受講登録をしてください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
非常勤講師（パートタイム）のため、講義時間にのみ出講しています。講義後に声をかけてください。
■講義計画
①イントロダクション：講義概要の紹介等
②ジェンダーとは何か？：概念説明、性差別の存在
③女性解放の思想と実践（1）：市民権を求める運動
④女性解放の思想と実践（2）：「家父長制」という装置
⑤女性解放の思想と実践（3）：日本の場合
⑥労働とジェンダー（1）：賃金格差と職場・法
⑦労働とジェンダー（2）：セクシュアル・ハラスメント
⑧家族とジェンダー（1）：近代家族の成り立ち
⑨家族とジェンダー（2）：家族の多様性
⑩性暴力の諸問題（1）：軍隊「慰安婦」制度
⑪性暴力の諸問題（2）：軍事基地とジェンダー
⑫ジェンダーとセクシュアリティ（1）：性の多様性
⑬ジェンダーとセクシュアリティ（2）：性自認と越境
⑭ジェンダーとセクシュアリティ（3）：性的指向／同性愛と異性愛
⑮振り返りとまとめ

ジェンダー論

【担当】堀江　有里
【開講】後期　火5

■サブタイトル
ジェンダー入門
■講義概要
ジェンダーとは、社会的･文化的につくられた性差（女らしさ･男らしさ）のことである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」を一対になるものとして認識する（異性愛主義）。わたしたちの生活に、無意識に存在するこれらの価値観を、いくつかの事例からまずは「問う」作業を行ない、ジェンダーを基盤とした社会構造のなかに個々人が生活していることを考察して行きたい。
■到達目標
ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることをめざす。
■講義方法
講義形式にて進める。また、適宜、映像資料などを用いる。ほか、ディスカッションなどを取り入れる場合もある。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義内に指示する。また、わからないことがあったら、その都度、図書館等で調べるようにすること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況およびミニレポートで総合的に評価する。
定期試験（80%）基礎用語の確認および論述による試験を実施する。
■テキスト
特になし
■参考文献
大越愛子・倉橋耕平『ジェンダーとセクシュアリティ』昭和堂　2,592円
高橋準『ジェンダー学への道案内（四訂版）』北樹出版　2,268円
風間孝・河口和也『同性愛と異性愛』岩波書店　821円
堀江有里『レズビアン・アイデンティティ』洛北出版
その他、講義内に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語等の講義妨害行為。他人の出席カードの記入等の不正行為には厳しく対処しますので各自注意して受講登録をしてください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
非常勤講師（パートタイム）のため、講義時間にのみ出講しています。講義後に声をかけてください。
■講義計画
①イントロダクション：講義概要の紹介等
②ジェンダーとは何か？：概念説明、性差別の存在
③女性解放の思想と実践（1）：市民権を求める運動
④女性解放の思想と実践（2）：「家父長制」という装置
⑤女性解放の思想と実践（3）：日本の場合
⑥労働とジェンダー（1）：賃金格差と職場・法
⑦労働とジェンダー（2）：セクシュアル・ハラスメント
⑧家族とジェンダー（1）：近代家族の成り立ち
⑨家族とジェンダー（2）：家族の多様性
⑩性暴力の諸問題（1）：軍隊「慰安婦」制度
⑪性暴力の諸問題（2）：軍事基地とジェンダー
⑫ジェンダーとセクシュアリティ（1）：性の多様性
⑬ジェンダーとセクシュアリティ（2）：性自認と越境
⑭ジェンダーとセクシュアリティ（3）：性的指向／同性愛と異性愛
⑮振り返りとまとめ

情報社会とメディア

【担当】外村　佳伸、三浦　雅展
【開講】前期　月3

■講義概要
本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。
我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。
■到達目標
・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。
■講義方法
主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。
■授業時間外における予・復習等の指示
復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に適宜指示する
■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問等ある場合は授業の直後に教員まで
■講義計画
①現代情報化社会：情報社会の問題点と背景
②生活とメディア：ディジタルな生活考
③コミュニケーション・メディア論：電話からつぶやきまで
④ビジネスとメディア：ビジネス・モデルはメディアと共に
⑤文化とメディア：日本文化、アーカイブ
⑥安心・安全社会とメディア：情報化時代のリスク論
⑦社会秩序とメディア：ネット時代の生き方
⑧情報の基本概念：情報・メディア・伝達
⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
⑩情報システムと情報ネットワーク
⑪メディアの諸相（1）：音メディアが伝える情報
⑫メディアの諸相（2）：映像メディアが伝える情報
⑬メディアの諸相（3）：感情・感動を伝えるメディア
⑭人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
⑮芸術とメディア：デジタルアート、デザイン

情報社会とメディア

【担当】外村　佳伸、三浦　雅展
【開講】後期　月３

■講義概要
本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。
我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標
・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法
主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示
復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画
①現代情報化社会：情報社会の問題点と背景
②生活とメディア：ディジタルな生活考
③コミュニケーション・メディア論：電話からつぶやきまで
④ビジネスとメディア：ビジネス・モデルはメディアと共に
⑤文化とメディア：日本文化、アーカイブ
⑥安心・安全社会とメディア：情報化時代のリスク論
⑦社会秩序とメディア：ネット時代の生き方
⑧情報の基本概念：情報・メディア・伝達
⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
⑩情報システムと情報ネットワーク
⑪メディアの諸相（1）：音メディアが伝える情報
⑫メディアの諸相（2）：映像メディアが伝える情報
⑬メディアの諸相（3）：感情・感動を伝えるメディア
⑭人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
⑮芸術とメディア：デジタルアート、デザイン

情報と人間

【担当】植村　渉
【開講】後期　木３

■講義概要
我々の生活には、スマートフォンやゲーム機を始め、あらゆる所でコンピュータを利用している、それらは「情報」をやり取りしているが、その「情報」とはどういうものかを科学・技術的な側面から学習する、前半は数学的な扱いを紹介し、後半は通信的な側面からの扱いを紹介する。

■到達目標
「情報」がどういうものか理解し､コンピュータやインターネットがどのように動いているかを理解することを目標とする。

■講義方法
板書を中心に一部パソコンによる提示も行う。

■系統的履修
なし

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜レポート課題を出すので、自習すること、わからないことがあれば、教員の部屋に質問に来ること。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
河村　一樹　『情報とコンピュータ』　オーム社　2,200円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
科目は瀬田学舎の全学部・全年次を対象としたものですが、理工学部　特に電子情報学科の学生には推奨しません。本来、理工学部固有の科目において学習すべき内容（と理工学部生として当然身につけているはずの教養）を講義するからです。すでに学習した内容、もしくは今後学習する内容を聴くことになるので、本科目により新たな知識を得ることはないと思います。教養教育科目の総合科目については、他の科目（理工系でない科目）を受講することを強く推奨します。
なお､担当教員は2015年８月から10月まで研究員で海外に行っているため、講義の開始時期が遅れます。補講・休講の案内をしっかりと確認して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
電子情報学科のページにて公開しています。

■講義計画
①ディジタルについて（情報量、２進数）
②数字の表現（変数の型、符号の扱い、２の補数）
③論理演算
④論理回路、標本化と量子化
⑤数値表現のまとめ
⑥いろいろなアルゴリズム
⑦NP問題
⑧アルゴリズムのまとめ
⑨オペレーティングシステム概要
⑩オペレーティングシステムの構成要素１（CPU、プロセス）
⑪オペレーティングシステムの構成要素２（記憶装置）
⑫インターネットの仕組み
⑬DNS、メール、経路設定
⑭ネットワークサービスとサーバ（www）
⑮まとめと質疑応答

情報倫理

【担当】野村　竜也、芝原　努
【開講】前期　月４

■サブタイトル
情報社会における心理・技術・法
■講義概要
情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。例えば、従来の知的財産権法制は情報社会において有効な行動指針たりうるのか、新たな形態の反社会的行動に対する対策はいかにありうるのか、人と人の間の対話のあり方はどのように変容していくのか等、問題は多岐に渡り、社会や個人の様々な側面に関係している。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の3テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していくことを目指す。
■到達目標
人がインターネット等で活動する際に直面する問題はどのようなものか、そうした問題を予防し、またはこれに対処する行動指針とはどのようなものかを理解する。
■講義方法
講義計画に沿ってレジュメと資料を配布し、それに基づき講義形式で進める。可能な限り視聴覚教材も利用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
インターネット上での心理に関連する新聞コラム、事件報道等に常に注目しておくこと。講義内容を理解する上で必須かつ有用。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（10%）
レポート（40%）
定期試験（30%）
■テキスト
特になし
■参考文献
A.N.ジョインソン 『インターネットにおける行動と心理』 北大路書房　2,800円
ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー他 『ビッグデータの正体』 講談社　1,800円
名和小太郎 『情報の私有・共有・公有　ユーザーからみた著作権』 NTT出版　2,500円
■講義計画
①インターネットにおける行動と心理
②コンピュータウイルス、セキュリティ対策、ネットワークサービスと開発者倫理
③確認のための小テスト
④関連法律、現行法の問題点および今後の動向
⑤総括

人権論Ａ

【担当】稲田　七海
【開講】前期　月２

■サブタイトル
多様化する労働と生活
■講義概要
本講義では、雇用、貧困、生活保護、ホームレスなどの社会問題を通して、多様化する労働や生活のあり方について考えることを目的とします。雇用の流動化による格差の拡大や貧困問題が深刻化する現在、「働き方」や「生活」をめぐっては、私たちにとってもっとも身近で重要な課題となっています。労働や生活をとおして見えてくる貧困・格差をめぐる問題と、それらに対応する社会保障や社会政策、そしてそれらを補完する都市部コミュニティの民間の実践プロセスを通して、わたしたちの労働や生活における権利について考えていきます。
■到達目標
本講義では、私たちに身近な労働や生活のあり方をとおして、「働くこと」や「生活すること」をめぐる自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。
■講義方法
教科書は指定しませんが、各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料）などを活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席やワークシートなどの課題
定期試験（60%）
平常点と試験の結果から総合的に評価します。
受講人数によりますが、定期試験が授業内試験に変更する可能性があります。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁。静かになるまでしつこく注意します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義実施日の昼休みに非常勤控室にいます。
■講義計画
①イントロダクション：「働くこと」「生活すること」と人権
②多様化する「働き方」と都市生活
③高度経済成長期における労働と生活１―都市化とライフコース
④高度経済成長期における労働と生活２―日本型雇用とライフコースの分岐
⑤労働と社会保障１―歴史と展開
⑥労働と社会保障２―経済成長と福祉国家
⑦多様化するライフコース１
⑧多様化するライフコース2
⑨ホームレスの労働と生活1
⑩ホームレスの労働と生活2
⑪広義化するホームレス1
⑫広義化するホームレス2
⑬セーフティネットと地域１
⑭セーフティネットと地域２
⑮これまでの総括

人権論A

【担当】稲田　七海
【開講】前期　月3

■サブタイトル
多様化する労働と生活
■講義概要
本講義では、雇用、貧困、生活保護、ホームレスなどの社会問題を通して、多様化する労働や生活のあり方について考えることを目的とします。雇用の流動化による格差の拡大や貧困問題が深刻化する現在、「働き方」や「生活」をめぐっては、私たちにとってもっとも身近で重要な課題となっています。労働や生活をとおして見えてくる貧困・格差をめぐる問題と、それらに対応する社会保障や社会政策、そしてそれらを補完する都市部コミュニティの民間の実践プロセスを通して、わたしたちの労働や生活における権利について考えていきます。
■到達目標
本講義では、私たちに身近な労働や生活のあり方をとおして、「働くこと」や「生活すること」をめぐる自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。
■講義方法
教科書は指定しませんが、各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料）などを活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席やワークシートなどの課題
定期試験（60%）
平常点と試験の結果から総合的に評価します。
受講人数によりますが、定期試験が授業内試験に変更する可能性があります。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁。静かになるまでしつこく注意します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義実施日の昼休みに非常勤控室にいます。
■講義計画
①イントロダクション：「働くこと」「生活すること」と人権
②多様化する「働き方」と都市生活
③高度経済成長期における労働と生活１―都市化とライフコース
④高度経済成長期における労働と生活２―日本型雇用とライフコースの分岐
⑤労働と社会保障１―歴史と展開
⑥労働と社会保障２―経済成長と福祉国家
⑦多様化するライフコース１
⑧多様化するライフコース2
⑨ホームレスの労働と生活1
⑩ホームレスの労働と生活2
⑪広義化するホームレス1
⑫広義化するホームレス2
⑬セーフティネットと地域１
⑭セーフティネットと地域２
⑮これまでの総括

人権論A

【担当】上原　健太郎
【開講】前期　木5

■サブタイトル
1990年代以前のライフコース
■講義概要
学校を卒業し、就職する。結婚をし、家族を形成する。こうした標準的かつ理想的なライフコースがいかにして成立したのか。本講義ではこうした問題意識に対し、特に、標準的かつ理想的なライフコースを歩まなかった／歩めなかった人びとに焦点を当てることで考えていく。とりわけ、1990年代以前のライフコースについて論じ、1990年代以降については「人権論B」（後期）で取り上げる。
■到達目標
戦後日本社会における標準的なライフコースがどのようなものであり、それがいかにして成立したのか、またそのライフコースからは程遠い人びとの生活がどのようなものであったのかについて、自分の言葉で説明できるようになる。
■講義方法
基本的には講義形式ですすめる。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習したうえで講義に出席すること。
■成績評価の方法
定期試験（100%）戦後日本における標準的ライフコースの成立過程について具体的に述べていること。
■テキスト
特になし
■参考文献
本田由紀 『社会を結びなおす』 岩波ブックレット　520円
■講義計画
①イントロダクション――戦後日本型循環モデルについて
②地方から都市へ
③都市での仕事①
④都市での仕事②
⑤都市での家族形成①
⑥都市での家族形成②
⑦都市での教育①
⑧都市での教育②
⑨自営業の生活
⑩地方の生活①
⑪地方の生活
⑫都市下層の生活①
⑬都市下層の生活②
⑭都市下層の生活③
⑮総論

人権論A

【担当】中川　ユリ子
【開講】前期　月2

■サブタイトル
現在の被差別部落・入門
■講義概要
日本で人権ということばが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。
本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。時代とともに全体として裕福にもなった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言い難い。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。
大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。
差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。
■到達目標
たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。
■講義方法
初回から4，5回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかが理解できるような題材を用いて、講義を行う。
■系統的履修
特にない。
■授業時間外における予・復習等の指示
社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること
■成績評価の方法
平 常 点（20%）全講義回数の1/3の回について、出席をとる。
定期試験（80%）部落問題の現状とその背景について、的確に捉えているのかどうかが評価基準となる。
基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える（文章を作る）という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。
■参考文献
読んで欲しい本、興味をひくだろうと思われる書籍等は、講義時に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義が終わったあとで、質問に対応する。その時に、不十分であれば、改めて日時を設定することもできる。
■講義計画
①部落問題とは何か
②今日の差別事象－－結婚差別を考える
③被差別部落の実態－－統計資料より
④被差別部落の実態－－統計資料より
⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
⑥古い問題、新しい問題
⑦部落の新しい世代
⑧ある唄から部落を見る①
⑨ある唄から部落を見る②
⑩賤民の歴史－中世・近世
⑪部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑫部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑬部落の人々が語ること
⑭部落とは何か
⑮予備日（ビデオの上映など）

人権論A

【担当】中川　ユリ子
【開講】前期　月3

■サブタイトル
現在の被差別部落・入門
■講義概要
日本で人権ということばが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。
本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。時代とともに全体として裕福にもなった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言い難い。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。
今、大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。
差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。
■到達目標
たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。
■講義方法
初回から4，5回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかが理解できるような題材を用いて、講義を行う。
■系統的履修
特にない。
■授業時間外における予・復習等の指示
社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること
■成績評価の方法
平 常 点（20%）全講義回数の1/3の回について、出席をとる。
定期試験（80%）部落問題の現状とその背景について、的確に捉えているのかどうかが評価基準となる。
基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える（文章を作る）という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。
■参考文献
読んで欲しい本、興味をひかれるだろうと思われる本等は、講義時に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義の終了後に質問に対応する。その時の時間が不十分であれば、改めて日時を設定することもできる。
■講義計画
①部落問題とは何か
②今日の差別事象－－結婚差別を考える
③被差別部落の実態－－統計資料より
④被差別部落の実態－－統計資料より
⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
⑥古い問題、新しい問題
⑦部落の新しい世代
⑧ある唄から部落を見る①
⑨ある唄から部落を見る②
⑩賤民の歴史－中世・近世
⑪部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑫部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑬部落の人々が語ること
⑭部落とは何か
⑮予備日（ビデオの上映など）

人権論A

【担当】朴　沙羅
【開講】前期　月2

■サブタイトル
社会問題としての人権
■講義概要
この講義では、具体的な人権問題について様々な観点から検討します。恋愛・結婚・就職・医療・福祉といった、日常的に直面する出来事を通じて、日本の現状と世界の現状とを比較しながら、人権という概念と人権の保障・充実について考えを深めます。
■到達目標
人権という概念が、単なる言葉やスローガンとしてではなく、日常生活を支え、よりよい生活を送りたいと願うときに役に立つものであることを理解し、どのようなときにどのように役に立つか、必要に応じて思い出せるようになることを目指します。
■講義方法
講義では、主にプリントを用いて現代世界で生じている人権問題について解説します。
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし
■成績評価の方法
平 常 点（30%）全講義のうち3分の2以上の出席者のみを成績評価の対象とします。
小テスト（70%）毎回、講義終了後に小テストを課します。
講義終了後に毎回小テストを実施し、その提出によって出席点（1回につき2点）と小テストの点数（各回5点満点）をつけます。
■テキスト
特になし
■参考文献
遠藤比呂通　『人権という幻』　勁草書房　2,916円
■履修上の注意・担当者からの一言
受講者の人数・関心に応じて授業内容・評価方法が変更される場合があります。
■講義計画
①ガイダンス
②なぜ人権を学ぶのか
③「基本的人権」入門：生存権
④「基本的人権」入門：良心の自由と幸福の追求
⑤家族・恋愛と人権
⑥子どもの人権
⑦医療と人権
⑧労働と人権
⑨障害と人権
⑩同和問題と人権
⑪外国人と人権
⑫犯罪と人権
⑬戦争と人権
⑭人権を守る仕組み
⑮授業のまとめとふりかえり

人権論A

【担当】朴　沙羅
【開講】前期　月3

■サブタイトル
社会問題としての人権
■講義概要
この講義では、具体的な人権問題について様々な観点から検討します。恋愛・結婚・就職・医療・福祉といった、日常的に直面する出来事を通じて、日本の現状と世界の現状とを比較しながら、人権という概念と人権の保障・充実について考えを深めます。
■到達目標
人権という概念が、単なる言葉やスローガンとしてではなく、日常生活を支え、よりよい生活を送りたいと願うときに役に立つものであることを理解し、どのようなときにどのように役に立つか、必要に応じて思い出せるようになることを目指します。
■講義方法
講義では、主にプリントを用いて現代世界で生じている人権問題について解説します。
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし
■成績評価の方法
平 常 点（30%）全講義のうち3分の2以上の出席者のみを成績評価の対象とします
小テスト（70%）毎回、講義終了後に小テストを課します。
講義終了後に毎回小テストを実施し、その提出によって出席点（1回につき2点）と小テストの点数（各回5点満点）をつけます。
■テキスト
特になし
■参考文献
遠藤比呂通　『人権という幻』　勁草書房　2,916円
■履修上の注意・担当者からの一言
受講者の人数・関心に応じて授業内容・評価方法が変更される場合があります。
■講義計画
①ガイダンス
②なぜ人権を学ぶのか
③「基本的人権」入門①
④「基本的人権」入門②
⑤恋愛・家族と人権
⑥子どもの人権
⑦医療と人権
⑧労働と人権
⑨障害と人権
⑩同和問題と人権
⑪外国人と人権
⑫犯罪と人権
⑬戦争と人権
⑭人権を守る仕組み
⑮授業のまとめとふりかえり

人権論A

【担当】矢野　亮
【開講】前期　木3

■サブタイトル
生活のなかにある人権
■講義概要
私たちはすでに「人権」と関わる日常生活世界を生きています。にもかかわらず、「人権」と聞くと、ある特定の差別や排除を被った「当事者（たち）」の問題だと括って（限定して）考えてしまいがちです。
本講義では、身近な生活場面において生起する人権侵害に関する具体的事例を取り上げ、それらの対応策について検討することを通じて、人権について議論していきます。その際、「当事者」を理解することにとどまらず、「当事者」を取り巻く社会政策や社会運動の歴史的展開過程についても視野に入れて考え議論していきます。
■到達目標
本講義では、身近な生活場面における事例検討を通して、自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持てるようになることを到達目標とします。
■講義方法
教科書は指定しません。各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料等）を活用しながら講義を進めていきます。
■系統的履修
人権論B
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①ガイダンス
②私と人権――部落問題から
③「生活」の捉え方
④生活のなかにある人権①児童
⑤生活のなかにある人権②保育・教育
⑥生活のなかにある人権③恋愛・結婚
⑦生活のなかにある人権④労働
⑧生活のなかにある人権⑤老い
⑨生活のなかにある人権⑥障がい
⑩生活のなかにある人権⑦住宅
⑪生活のなかにある人権⑧家族
⑫生活のなかにある人権⑨地域
⑬生活のなかにある人権⑩国家
⑭生活のなかにある人権⑪国際
⑮まとめと振り返り

人権論B

【担当】稲田　七海
【開講】後期　月2

■サブタイトル
居住権について考える
■講義概要
本講義では、居住福祉の観点から人権について考えることを目的とします。近年、ホームレスやネットカフェ難民などの住居を持たない人々や、無縁化や孤立化によって無届の福祉施設などを転々する困窮高齢者など、安定した居場所を持たずに都市空間の中を漂流する人たちの存在が社会問題化しています。労働が流動化し、家族のあり方や人とのつながり方が大きく変化する現在、所与のものとして存在した住宅のあり方は変化し、人々の「居住する権利」が脅かされる場面も少なくありません。本講義では、「住宅とは福祉の基礎である」という居住福祉の観点から、「住まうこと」と人権について議論していきます。
■到達目標
「住まうこと」は、人が生きていくために不可欠な条件です。本講義では、自らの居住する権利について知り、居住をめぐる多様なあり方への理解を深めることを目標とします。
■講義方法
テーマに沿って、参考資料（映像資料、調査報告書、審議会資料など）を活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席とワークシートなどの課題
定期試験（60%）
平常点と試験によって総合的に評価します。
受講人数によりますが、定期試験が授業内試験に変更する可能性があります。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁。静かになるまでしつこく注意します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業実施日の昼休みに講師控室にいます。
■講義計画
①イントロダクション
②居住福祉とは何か?
③居住福祉をめぐるさまざまな動向
④居住福祉と住宅政策
⑤ネオリベラリズムと住宅政策
⑥居住の貧困とホームレス
⑦公共空間と不法占拠
⑧ホームレスと居住支援
⑨貧困ビジネスと居住福祉
⑩高齢者の無縁化と居住
⑪若者の仕事と居住1
⑫若者の仕事と居住2
⑬子どもの貧困と居住福祉
⑭まちづくりと居住福祉
⑮これまでの総括

人権論B

【担当】稲田　七海
【開講】後期　月3

■サブタイトル
居住権について考える
■講義概要
本講義では、居住福祉の観点から人権について考えることを目的とします。近年、ホームレスやネットカフェ難民などの住居を持たない人々や、無縁化や孤立化によって無届の福祉施設などを転々する困窮高齢者など、安定した居場所を持たずに都市空間の中を漂流する人たちの存在が社会問題化しています。労働が流動化し、家族のあり方や人とのつながり方が大きく変化する現在、所与のものとして存在した住宅のあり方は変化し、人々の「居住する権利」が脅かされる場面も少なくありません。本講義では、「住宅とは福祉の基礎である」という居住福祉の観点から、「住まうこと」と人権について議論していきます。
■到達目標
「住まうこと」は、人が生きていくために不可欠な条件です。本講義では、自らの居住する権利について知り、居住をめぐる多様なあり方への理解を深めることを目標とします。
■講義方法
テーマに沿って、参考資料（映像資料、調査報告書、審議会資料など）を活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席とワークシートなどの課題
定期試験（60%）
平常点と試験によって総合的に評価します。
受講人数によりますが、定期試験が授業内試験に変更する可能性があります。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁。静かになるまでしつこく注意します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業実施日の昼休みに講師控室にいます。
■講義計画
①イントロダクション
②居住福祉とは何か?
③居住福祉をめぐるさまざまな動向
④居住福祉と住宅政策
⑤ネオリベラリズムと住宅政策
⑥居住の貧困とホームレス
⑦公共空間と不法占拠
⑧ホームレスと居住支援
⑨貧困ビジネスと居住福祉
⑩高齢者の無縁化と居住
⑪若者の仕事と居住1
⑫若者の仕事と居住2
⑬子どもの貧困と居住福祉
⑭まちづくりと居住福祉
⑮これまでの総括

人権論B

【担当】上原　健太郎
【開講】後期　木5

■サブタイトル
1990年代以降のライフコース
■講義概要
学校を卒業し、就職する。結婚をし、家族を形成する。こうした標準的かつ理想的なライフコースは戦後の日本社会において成立した。本講義では、こうしたライフコースが、1990年代以降、いかにして揺らぎ始めたのかについて説明する。特に、フリーターやホームレスなど、標準的かつ理想的なライフコースを歩まなかった／歩めなかった人びとに焦点を当てることによって、そのライフコースの揺らぎについて具体的に検討する。
■到達目標
戦後から80年代にかけて成立した標準的なライフコースが、90年代以降、いかにして揺らぎはじめているのか、自分の言葉で説明できるようになる。
■講義方法
基本的に講義形式ですすめる。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習したうえで講義に出席すること。
■成績評価の方法
定期試験（100%）戦後日本社会において成立した標準的ライフコースの揺らぎについて具体的に述べていること。
■テキスト
特になし
■参考文献
本田由紀 『社会を結びなおす』 岩波ブックレット　520円
■履修上の注意・担当者からの一言
「人権論A」（前期）の講義内容を理解したうえで受講することが望まれる。
■講義計画
①イントロダクション――戦後日本型循環モデルについて
②戦後日本型循環モデルの揺らぎ
③若年非正規雇用の生活①
④若年非正規雇用の生活②
⑤若年非正規雇用の生活③
⑥未婚化・晩婚化①
⑦未婚化・晩婚化②
⑧ホームレスという生き方①
⑨ホームレスという生き方②
⑩ホームレスという生き方③
⑪若年ホームレスという生き方
⑫女性ホームレスという生き方
⑬地方の若者の生き方①
⑭地方の若者の生き方②
⑮総論

人権論B

【担当】中川　ユリ子
【開講】後期　月2

■サブタイトル
「生」と「性」
■講義概要
女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と、何の疑問も持たずに言う大人たちも、多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、その言葉に違和感を感じる人は必ずいるに違いない。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。
現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。
「らしさ」の呪縛から解き放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。
■到達目標
常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。
■講義方法
まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。
■授業時間外における予・復習等の指示
テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）全講義回数の1/3の回について、出席をとる。
定期試験（80%）ジェンダーに関する問題の現状と背景について、的確に捉えているかどうかが評価基準になる。
試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。プリントを配布する。
■参考文献
おもしろい本などは、講義時に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
希望があればemailを使用する。
■講義計画
①差別問題を考える意味
②世間は女と男をどう扱うのか
③新聞で気付くこと
④女の子、男の子はつくられる――性の認識
⑤どこで「らしさ」を学んだのか――絵本
⑥どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑦どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑧どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑨どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑩どこで「らしさ」を学んだのか――抗議の歴史
⑪常識を疑え！
⑫女人禁制――伝統をどう考えるか
⑬多様な性のあり方――同性愛
⑭多様な性のあり方――同性愛
⑮まとめ （ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】中川　ユリ子
【開講】後期　月3

■サブタイトル
「生」と「性」
■講義概要
女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と何の疑問も持たずに言う大人たちは、多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、違和感を感じる人は必ずいるに違いない。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。
現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。
「らしさ」の呪縛から解き放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。
■到達目標
常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。
■講義方法
まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。
■授業時間外における予・復習等の指示
テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）全講義回数の1/3の回について、出席をとる。
定期試験（80%）ジェンダーに関する問題の現状と背景について、的確に捉えているかどうかが評価基準になる。
試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。プリントを配布する。
■参考文献
おもしろい本などは、講義時に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
希望があればemailを使用する。
■講義計画
①差別問題を考える意味
②世間は女と男をどう扱うのか
③新聞で気付くこと
④女の子、男の子はつくられる――性の認識
⑤どこで「らしさ」を学んだのか――絵本
⑥どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑦どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑧どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑨どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑩どこで「らしさ」を学んだのか――抗議の歴史
⑪常識を疑え！
⑫女人禁制――伝統をどう考えるか
⑬多様な性のあり方――同性愛
⑭多様な性のあり方――同性愛
⑮まとめ （ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】朴　沙羅
【開講】後期　月2

■サブタイトル
人権概念の検討
■講義概要
この授業では、そもそも「人権」とはどのような概念であり、どのようにして生まれたのかということを、政治思想・法律・社会問題という3つの角度から検討します。やや抽象的な内容ですが、様々な人権侵害を人権侵害として成り立たせてきた背景にどのような歴史や議論があったのかを伝えるのがこの授業の概要です。
■到達目標
この授業では、多様な背景を持つ人々が共生していくために必要な、国際的に議論される際の人権とはどのようなものであるのかについて、共通の理解を持ってもらうことを目標とします。
■講義方法
講義では、主にプリントを用いて人権概念の誕生から今日までの歴史を検討します。授業終了前に小テストを実施し、それによって成績を評価します
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし
■成績評価の方法
平 常 点（30%）全講義のうち3分の2以上の出席者のみを成績評価の対象とします。
小テスト（70%）毎回、講義終了後に小テストを課します。
講義終了後に毎回小テストを実施し、その提出によって出席点（出席すれば1回につき2点）と小テストの点数（各回5点満点）をつけます。
■テキスト
特になし
■参考文献
樋口雄一 『人権（一語の辞典)』 三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
受講者の人数・関心に応じて授業内容・評価方法が変更される場合があります。
■講義計画
①ガイダンス
②講義の見取り図：様々な文脈の「人権」
③講義の見取り図：言葉としての「人権」
④思想としての人権：人権思想の誕生
⑤思想としての人権：様々な政治思想と人権
⑥思想としての人権：個人の権利と集団の権利
⑦思想としての人権：「強い個人」という前提とその裏側
⑧法の中の人権：憲法の発生と人権
⑨法の中の人権：臣民の権利と基本的人権
⑩法の中の人権：人権が制約されるとき
⑪法の中の人権：国際人権保障
⑫人権と相対主義：国際政治の中の人権
⑬人権と相対主義：人権概念の虚偽性をめぐって
⑭人権と相対主義：人権は相対化され得るか
⑮講義のまとめとふりかえり

人権論B

【担当】朴　沙羅
【開講】後期　月3

■サブタイトル
人権概念の検討
■講義概要
この授業では、そもそも「人権」とはどのような概念であり、どのようにして生まれたのかということを、政治思想・法律・社会問題という3つの角度から検討します。やや抽象的な内容ですが、様々な人権侵害を人権侵害として成り立たせてきた背景にどのような歴史や議論があったのかを伝えるのがこの授業の概要です。
■到達目標
この授業では、多様な背景を持つ人々が共生していくために必要な、国際的に議論される際の人権とはどのようなものであるのかについて、共通の理解を持ってもらうことを目標とします。
■講義方法
講義では、主にプリントを用いて人権概念の誕生から今日までの歴史を検討します。授業終了前に小テストを実施し、それによって成績を評価します
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし
■成績評価の方法
平 常 点（30%）全講義のうち3分の2以上の出席者のみを成績評価の対象とします。
小テスト（70%）毎回、講義終了後に小テストを課します。
講義終了後に毎回小テストを実施し、その提出によって出席点（出席すれば1回につき2点）と小テストの点数（各回5点満点）をつけます。
■テキスト
特になし
■参考文献
樋口雄一 『人権（一語の辞典)』 三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
受講者の人数・関心に応じて授業内容・評価方法が変更される場合があります。
■講義計画
①ガイダンス
②講義の見取り図：様々な文脈の「人権」
③講義の見取り図：言葉としての「人権」
④思想としての人権：人権思想の誕生
⑤思想としての人権：様々な政治思想と人権
⑥思想としての人権：個人の権利と集団の権利
⑦思想としての人権：「強い個人」という前提とその裏側
⑧法の中の人権：憲法の発生と人権
⑨法の中の人権：臣民の権利と基本的人権
⑩法の中の人権：人権が制約されるとき
⑪法の中の人権：国際人権保障
⑫人権と相対主義：国際政治の中の人権
⑬人権と相対主義：人権概念は偽者か?
⑭人権と相対主義：人権は相対化されうるか
⑮講義のまとめとふりかえり

人権論B

【担当】矢野　亮
【開講】後期　木3

■サブタイトル
部落問題を事例として
■講義概要
本講義では、戦前、戦中、戦後から現代における「人権」をめぐる言説空間について、部落問題を事例として取り上げることを通じて、いかなる時代状況において、「部落」と「人権」が人びとにいかに語られ問題化されてきたのかを考えたい。また、それらの問題化のプロセスを理解すると同時に、各時代における社会事業や社会政策、社会運動等の目的と方策、影響力についても理解を深める。
■到達目標
部落問題を事例として、いかなる時代状況のもと、いかなる実践と研究があり、現代にいたる人権概念に到達してきたのかを理解することを通じて、身近な人権に関する諸課題の解決策を模索する手掛かりを得ること。
■講義方法
参考資料を使用しながら講義を進める。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する。
■講義計画
①ガイダンス
②私と人権――部落問題から
③部落問題をめぐる言説空間――戦前①
④部落問題をめぐる言説空間――戦前②
⑤部落問題をめぐる言説空間――戦時
⑥部落問題をめぐる言説空間――1945年～ 1950年
⑦部落問題をめぐる言説空間――1950年代
⑧部落問題をめぐる言説空間――1960年代
⑨部落問題をめぐる言説空間――1970年代
⑩部落問題をめぐる言説空間――1980年代
⑪部落問題をめぐる言説空間――1990年代
⑫部落問題をめぐる言説空間――2000年代
⑬人権の到達点と現代的課題①
⑭人権の到達点と現代的課題②
⑮まとめ、振り返り

スポーツ文化論

【担当】久保　和之
【開講】前期　水2

■サブタイトル
スポーツについての知識を増やす
■講義概要
近代スポーツは、様々なところで人々の生活とつながりを持っており、様式は時代や地域、民族で異なっている。スポーツ種目や国によってそれぞれの文化的背景が異なる。オリンピックや海外のスポーツを通して、多様なスポーツ文化の意義とその歴史的な背景について、歴史学・文化人類学的な視点からアプローチし、スポーツについて深く知ることを目的としている。
■到達目標
スポーツの成り立ちや現在の状況について理解する。
■講義方法
パワーポイント、板書、配布資料、ビデオ、を用いて講義形式で進める。
■系統的履修
現代社会とスポーツ、健康とスポーツ
■授業時間外における予・復習等の指示
できるだけ新聞を読んでください。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）講義中のミニレポート
レポート（50%）期末の課題レポート
■参考文献
井上　俊・亀山佳明 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社　2,300円
■履修上の注意・担当者からの一言
パワーポイントのスライドをすべてノートに書き写す必要はありません。
資料が必要であれば、申し出てください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業後に問い合わせてください。
■講義計画
①スポーツ文化とは
②スポーツの成立
③古代スポーツ
④古代オリンピック
⑤近代オリンピック
⑥スポーツの国際化
⑦現代スポーツの諸問題1
⑧現代スポーツの諸問題2
⑨海外のスポーツ文化1
⑩海外のスポーツ文化2
⑪日本のスポーツ1
⑫日本のスポーツ2
⑬マイナースポーツ
⑭シーズンスポーツ
⑮まとめ

生活の中の数学

【担当】國府　宏枝、大西　俊弘
【開講】前期　水３

■サブタイトル
日常生活と数学　／　現代数学のアイデア

■講義概要
高校まではみんなが数学を学んできましたが、大学では縁遠くなってしまう人が多いかもしれません（統計は使う専攻が多そうですね）。これはとても残念なことで、もう少し進んだ数学には、高校までで出会ったのとは全然違う、新しいアイデアがたくさん出てくるんです。また、数学は入試以外に役立たない、と思っている人もいるかもしれませんが、そんなことはありません。数学は世の中の現実の問題に深く関わっています。
この講義の前半では、日常生活の中で出会ういくつかの事物について、数学的な考察をします。みなさんには、それに関連する模型等を作るような活動もやってもらう予定です。
この講義の後半では、高校までで学ばなかったような数学のいろいろな新しいアイデアを、数学が作られてきた動機にもどって、直観のはたらく現実世界を舞台として解説します。
この講義に参加して、数学の美しさの一端を感じるとともに、数学が実際に役立つ（こともある）ことを実感しましょう。
なお、この科目では、特定の専攻分野のための数学の基礎知識の準備のためのものではありません。

■到達目標
数学の各分野独特の考え方や方法論の一端を感じることで頭が柔らかくなるかもしれません。また、現実の問題で、数学を利用して解決できそうかちょっと考えてみるモード、が自分の頭の中に生まれるかもしれません。

■講義方法
担当教員が内容を説明しつつ、講義の参加者に実際に問題を考えてもらいます。その結果を、ときどき、eラーニングシステムで教員に返してもらい、その結果をもとにさらに参加者とともに考えます。

■系統的履修
この科目の前に履修しておくべき科目は特にありません。高校の数学を復習しながら使います。事前にこの科目を履修しておかないと履修できない科目もありませんが、この科目で統計学に興味を持った人には「生活の中の統計技術」や「統計入門」、論理に興味を持った人には「論理学入門」、コンピュータに興味を持った人には「情報社会とメディア」や「情報と人間」が教養教育科目の中でお奨めです。

■授業時間外における予・復習等の指示
eラーニングシステムを利用します。

■成績評価の方法
その他（100%）
前半の成績評価と後半の成績評価を合算する。
第15回目に前半後半の内容を合わせた試験と、随時行うレポートに基づいて評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
到達目標になるべく近づけるように、講義計画や講義方法の詳細は、受講者数やそこまでの授業の状況に応じて変更することがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
瀬田1号館5階501（國府）

■講義計画
①無限操作の不思議（フラクタル）
②直線で曲線を描こう（包絡線）
③フィボナッチ数列とひまわりの葉序
④折り鶴の数理
⑤紙の３等分（オリガミクス）
⑥自然界に潜む曲線
⑦ローンの数理
⑧安上がりな高速道路整備－グラフ理論と最小シュタイナー木
⑨一筆書きできる図形できない図形－グラフ理論
⑩コーヒーカップ=ドーナツ－トポロジー
⑪ぬいぐるみにはつむじがある－2次元の中間値の定理
⑫アンサーを変えるのと変えないのどっちが得？
　－確率のパラドクス
⑬お天気予報とカオス－力学系
⑭バーコードのお話－誤り訂正符号
⑮試験

生活の中の生物学

【担当】横田　岳人
【開講】前期　水３

■講義概要
自然科学の中で研究成果の進展が目まぐるしい生物学は、その成果がヒトの理解を深めるのに役立つだけでなく、私たちの暮らしや健康の改善、医療技術の進展に繋がっています。その一方で、倫理面での問題も多く投げかけてくれます。この講義では、新聞記事や雑誌の特集記事等で紹介される生物学に関連する事項について、トピックスを中心に取り上げ解説していく中で、新聞、雑誌に現れる生物学的事柄を理解し、自ら考える基礎を据えることを目的とします。
講義計画が示されていますが、その時期に話題になっている生物学に関連する事項を適宜講義に取り入れますので、計画の順番が入れ替わったり、変更になることがあります。あらかじめお断りしておきます。

■到達目標
新聞や雑誌に取りあげられる生物学的事柄に関心を持ち、基本的な事柄を理解できるようになる。

■講義方法
授業は講義形式で行います。講義に必要な資料などは、講義の中で紹介し、必要に応じて配布します。

■授業時間外における予・復習等の指示
初回授業時に、関連書籍リストを配布します。リストにある書籍を中心に各自で書籍を選び、選んだ書籍を予習・復習として読んでおくこと。予習復習状況を3回程度レポートとして提出していただき、確認します。

■成績評価の方法
レポート（30%）自学修の実施状況
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①種とはなにか
②生と死
③細胞～すべての生物は細胞からできている
④細胞の増殖（細胞分裂）
⑤生殖
⑥遺伝子DNAと遺伝子の発現
⑦遺伝子組み換え
⑧遺伝と病気
⑨再生医療
⑩刺激の受容と反応
⑪植物の物質収支
⑫ホメオスタシス
⑬進化
⑭生物の集団
⑮生物多様性保全と絶滅

生活の中の地学

【担当】滋野　哲秀
【開講】後期　月1

■サブタイトル
自然のダイナミックな現象を通じて科学の方法を学び、生きた地球の姿に迫る。

■講義概要
自然科学についての基礎知識を理解する科目として、地学分野の興味ある話題を選び講義する。それを通じて、私たちをとりまく宇宙・地球・生態系、そしてそれらを構成する物質や情報が自然科学的な観点からどのように理解されているかを解説する。特に自然災害に関する内容を重視し、地震・火山・気象に関する防災情報の活用について事例を用いて具体的に紹介する。これにより自然と人間の生活との関わりに触れながら、私たちをとりまく環境を理解するための論理･知識･方法論について概観できるようにする。
また、天気予報の基礎知識を学んだ後、毎回授業のはじめに、気象庁発表の「週間予報支援図［アンサンブル］、週間アンサンブル予想図」等を用いて、一週間の天気予報を各自に作成してもらい、次週の授業で予報の評価を行う予定である。

■到達目標
新聞や雑誌などメディアに取りあげられる宇宙や地球に関する事柄に関心を持ち、基本的な事柄が理解できるようになる。また、防災・減災という観点からも自然現象を理解できるようになる。

■講義方法
授業は講義形式で行います。講義に必要な資料などは、講義の中で紹介し、必要に応じて配布します。
毎回授業の終わりに振り返りの小レポートを記入し提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示
初回授業時に、関連書籍リストを配布します。リストにある書籍を中心に各自で書籍を選び、選んだ書籍を予習・復習として読んでおくこと。予習復習状況を２回程度レポートとして提出していただき、確認します。

■成績評価の方法
レポート（40%）毎回授業の終わりに記入する振り返りの小レポート、２回程度提出するレポート
定期試験（60%）選択問題、記述問題
原則として２／３以上の出席を必要とする。

■テキスト
気象庁のホームページに気象、地震、火山、海洋などについてのわかりやすい解説があります。必要に応じて授業でこのサイトを利用します。

■参考文献
小倉義光　『一般気象学』　東京大学出版会　2,800円
佐藤勝彦　『はじめての宇宙の話』　かんき出版　1,300円
鎌田 浩毅　『地球は火山がつくった―地球科学入門（岩波ジュニア新書』　岩波書店　780円

■履修上の注意・担当者からの一言
遅刻すると受講生の迷惑となるので、遅れないように授業に参加すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
教職センターに来室してください。

■講義計画
①太陽系の中の地球
　太陽の概観、惑星の大気
②地球大気の鉛直構造
③高層気象観測と高層天気図
　大気の安定と不安定
④雲の分類と降水過程（どのようにして雲から雨が降るのか）
⑤大規模な大気の運動
地球をめぐる大気の流れと温帯低気圧
⑥メソスケールの現象（台風、梅雨、降雪など）
⑦気候の変動（海洋と地球大気、エルニーニョ・ラニーニャなど）
⑧日本の四季の天気
　－天気図の特徴から季節が見える－
⑨火山噴火の仕組み
　－火山噴火の様々な姿－
⑩火山がつくってきた動く大地
　－プレートテクトニクス－
⑪地震のメカニズム
　－プレートの運動と地殻変動－
⑫地震災害
　－地震の揺れ、津波－
⑬太陽と月と惑星のふしぎ
　－太陽系誕生のドラマと惑星の素顔－
⑭恒星と銀河宇宙
　－星の一生、ブラックホール、銀河－
⑮膨張する宇宙、四つの力と素粒子
　－ビッグバンと宇宙の大規模構造－

生活の中の統計技術

【担当】飯田　晋司
【開講】後期　水３

■サブタイトル
使える統計！
■講義概要
インターネットや携帯電話の通信記録、株価や為替レートの変動、通販サイトの購買履歴など、世の中には大量のデータがありますが、そこからデータの性質を読み取って役立てることは簡単ではありません。この科目では、これらのための技術の集合体である統計を学びます。
授業は数学のりです。高等学校1年程度の数学の予備知識を期待します。統計の予備知識は前提としません。統計ではPC特にExcelなどの表計算ソフトやその他の統計ソフトがよく利用されますが、この授業では、授業形式の制約から、ソフトウェアの使用方法についてはごく限られた範囲しか説明できません。
■到達目標
1変数または2変数の統計データを理解するためにグラフを描いたり平均や分散や相関係数などの量を求めたりすることができる。
データ全体からその一部分だけをサンプルとして抽出して調べ、全体の性質を推定することができる。
■講義方法
適宜プリントを用いた講義。
■系統的履修
本科目は、統計入門、社会統計学、数量的方法入門、確率統計・演習、確率・統計、統計学概論などの科目と内容が重なります。これらの科目の大部分よりも、本科目は初等的な範囲にとどまります。これらの科目を履修済、あるいは履修予定の方は、本科目の履修を思いとどまった方がいいかもしれません。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回自主的に復習を行うことを期待します。
■成績評価の方法
その他（100%）予定されている2回の小テストの両方に60点以上をとるか、あるいは定期試験に60点以上をとることで合格とします。どちらの基準でも合格の場合、最終成績は小テストの平均点と定期試験の点数の高い方とします。
■テキスト
特になし
■参考文献
日本統計学会 編『統計学基礎』東京図書
片谷教孝、松藤敏彦『環境統計学入門』オーム社
向後千春、冨永敦子『統計学がわかる』技術評論社　1,764円
向後千春、冨永敦子『統計学がわかる（回帰分析・因子分析編）』技術評論社　1,764円
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは授業中に連絡します。連絡先：iida@rins.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①統計学とは，データの整理1：箱ひげ図
②データの整理２：度数分布表とヒストグラム
③データの整理３：データの位置を代表する値、平均値
④データの整理４：データのばらつきを表す値、分散と標準偏差
⑤データの整理５：分布の中での個々のデータの位置：標準得点と偏差値
⑥データの整理６：２変量データの整理：散布図、共分散と相関係数、回帰直線、最小２乗法
⑦１回目小テスト
⑧確率１：離散的な値をとる確率変数、期待値、母平均、母分散
⑨確率２：２つの確率変数が独立であること、結合確率、条件付確率、ベイズの定理
⑩確率３：独立な確率変数の和の母平均と母分散、ベルヌーイ分布と2項分布
⑪確率４：連続的な値をとる確率変数、確率密度関数、正規分布
⑫推定と検定１：仮説検定の考え方、信頼係数と区間推定
⑬推定と検定２：中心極限定理、標本数が多い場合の母集団比率の区間推定、正規分布を仮定した場合の母平均の区間推定
⑭2回目小テスト
⑮推定と検定３：回帰直線の傾きの区間推定

生活の中の統計技術

【担当】竹歳　一紀
【開講】前期　金３

■サブタイトル
「統計的なものの見方」を養う
■講義概要
統計データをもとに統計学を使ってさまざまな対象の「真の姿」を映し出そうとする「統計的なものの見方」は、自然科学はもちろん経済学・経営学・社会学など社会科学のいずれの分野においても必要となるばかりでなく、社会に出てからもさまざまな場面で役立ちます。
この講義では、統計データの整理と記述の方法（記述統計）と、確率の考えをもとに標本（サンプル）から母集団（全体）の特性を推論する方法（推測統計）の基本を修得することを通じて、「統計的なものの見方」を養っていきます。
■到達目標
１．統計データの記述方法について理解する。
２．確率変数と確率分布について理解する。
３．統計的推定と仮説検定の考え方について理解する。
■講義方法
基本的にパワーポイントおよび黒板を使って解説していきます。また適宜、練習問題を解いてもらいます。その際に、√（ルート）計算の機能がついた電卓などが必要となります。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容は連続していますので、次の回までに復習をして理解を確実にしておいてください。
授業に用いた資料（の一部）は授業後にネットから取得できるようにする予定です。詳細は授業時に説明します。
■成績評価の方法
小テスト（50%）各回の内容についての理解度を評価します。
定期試験（50%）総合的な理解度と応用力を評価します。
■テキスト
特になし
■参考文献
井上勝雄 『新・よくわかる統計学の考え方』 ミネルヴァ書房　2,500円
数式による定義などをきっちり勉強したい人はここであげた参考文献や他の統計学のテキストを参照してください。内容に大きな違いはありません。
■履修上の注意・担当者からの一言
若干の数式を扱いますが、計算自体はほぼ算数のレベルです。エクセルや統計ソフトは扱いません。
試験の際にも電卓による計算が必要となります。試験時には、スマートホンや携帯電話の計算機能は使用不可です。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
第１回あるいはそれ以降の授業時に連絡します。
■講義計画
①ガイダンス
「統計的なものの見方」とは何か？
②さまざまな統計
データ・標本・母集団
若干の数式表記について
③１変量データの記述－度数分布表・メジアン・モード－
④１変量データの記述－平均値・標準偏差・偏差値－
⑤２変量データの記述－相関係数－
⑥母集団を記述する－正規分布とさまざまな確率分布－
⑦母集団を記述する－確率変数の平均と分散－
⑧小テスト第1回
⑨統計分析と無作為標本
⑩推定と検定の考え方－点推定と区間推定－
⑪推定と検定の考え方－仮説検定の考え方－
⑫正規母集団の統計分析－点推定と区間推定－
⑬正規母集団の統計分析－仮説検定－
⑭統計法則をつかむ－大数の法則と中心極限定理－
⑮小テスト第２回

生活の中の物理

【担当】石崎　俊雄
【開講】後期　月2

■サブタイトル
身の回りの物理と科学技術

■講義概要
身の回りの科学技術に限っても、その進歩は著しく、益々高度になると共に複雑になり、その仕組みを理解して使うことは益々難しくなっている。それ故に、その基本的な仕組みを知って、正しく使うのみならず、人類の将来に貢献する科学技術の推進のさせ方がより強く求められている。この講義では、誰もが恩恵に浴している科学技術に使われている物理的仕組みを、身の回りの物理現象に注目することから、平易に理解することを目的としている。毎回、話題を一つ取り上げ、動画やビデオなどビジュアルな資料提示の手段を採り入れることにより、その物理的現象に興味を持つようにする。そして、その物理的仕組みについて理解していくことにより、文系、理系の履修にかかわらず、身の回りの物理現象に対する直観的な理解を促進し、科学に対する興味を刺激するようなわかり易い講義を行う。

■到達目標
身の回りの物理現象ならびに科学技術の仕組みと理屈に強く関心を持つようになる。科学技術に関するテレビや新聞のニュースが正しく理解でき、環境問題やエネルギー問題などについて、自分の考えや意見をしっかりと自信を持って言えるようになる。

■講義方法
授業計画に示すように、毎回一つのテーマについて、身の回りの自然としての物理現象または科学技術としての物理学の応用例について、直観的な理解が深まるような授業を行う。

■系統的履修
一般に物理関係の科目を受講すると効果的であるはずであるが、論理的に考えることを訓練する科目はすべて役に立つ。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義計画に示したテーマについて、講義の前後に関連する資料（本、新聞・雑誌、インターネットなど何でも可）でもっと詳しく調べて、自分の興味を膨らませていくこと。

■成績評価の方法
平常点（100%）講義を頭と耳と目を使って聴いているか、内容を理解しているかを問う小テストにより評価する。毎回実施するので出席が難しい人は受講を避けて下さい。
平常点を小テストで評価することの意味をよく認識してください。講義を聴いて考えているか努力しているか、その度合い、即ち平常点を、小テストで調べます。能力テストではありません。従って、問いに対して、講義内容を用いて自分の言葉で回答してはじめて評価されます。注意する必要はないと思いますが、代筆等の不正行為に対しては関係した者全員が不合格になります。

■テキスト
講義において、主としてPowerPointにより示す内容、さらに他のマルチメディアを使って示す内容

■参考文献
藤城敏幸　『生活の中の物理』　東京教学社　1,800円
広く科学分野の出版物、書籍、科学雑誌、大手の新聞の科学欄の記事に関心を持って読んでください。

■履修上の注意・担当者からの一言
出席しても、耳を貸すだけでは修得できません。教壇で説明していることをしっかり見ながら聞くことが必須です。さらに、その場で考えることが要求されます。また、理解した内容を、説明に適した簡単なスケッチ図やグラフを添えて、的確な文章で表現する努力が評価されます。なお、高等学校で物理を学んでいることを前提にすることはありません。講義の時間に学ぶ基本概念と法則から理解ができるはずと考えてください。勿論、そのためには小中学校で教わった理科と算数と、大学生レベルの日本語と、勉学の努力は前提になります。さらに、成績評価の方法の項に記載した内容に注意してください。

■講義計画
①振り子の原理…位置エネルギーと運動エネルギー
②てこの原理…支点、力点、作用点
③ロケットの仕組み…アポロからスペースシャトル、はやぶさまで
④引力と遠心力…人工衛星の話（宇宙ステーションから静止衛星まで）
⑤モータと発電機…電気はどこで作られる。電車の話。
⑥電波の利用…ラジオ、テレビの話
⑦電子レンジの原理…なぜ温まるか、おいしい冷凍食品
⑧楽音の周波数の規則、音階、和音…十二平均率音階、純正調音階、和音
⑨ギターの絃の振動、たいこの皮の振動…波の伝搬と反射の話
⑩温度と熱…物の温まり方、熱の伝わり方
⑪トランジスタと半導体…エレクトロニクスの話
⑫粒子と波動の２重性…量子力学と特殊相対性理論
⑬地球と宇宙…気候変動、オーロラの話
⑭電話とインターネット、コンピュータの話
⑮携帯電話・スマートホンの仕組みと中身

生命と科学

【担当】宮武　智弘
【開講】前期　金１

■講義概要
生体の中に含まれる様々な化学物質は生命活動において重要な役割を果たしている。私たちはそれら生体物質の構造と機能を理解し生活の向上のために巧みに利用しており、物質生産や医療など様々な分野で生体に由来する材料が利用されている。一方で、こうした分子生物学の進歩はクローン技術など生命倫理に関わる問題も引き起こしている。本講義では生体内で働く分子のすがたを解説し、それらと私たちの生活との関わりについて紹介する。

■到達目標
生体物質・生命科学についての基礎知識を習得する。また、生命科学の進歩が私たちの生活に与える影響について考えることができるようになる。

■講義方法
参考書の内容に準じながら、適時資料を配布する。

■授業時間外における予・復習等の指示
生命科学に関する基礎的な知識を積み上げ式に講義するので、参考書やその他の生物化学の書籍を用いながら復習することが重要である。また、次週の講義内容についても講義の最後に指示するので､関連する内容を予習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
柳田充弘, 佐藤文彦, 石川冬木編　『生命科学』　東京化学同人
2,400円

■履修上の注意・担当者からの一言
生体に含まれる化学物質は複雑なものが多いが、できるだけ平易に説明するよう努めたい。よって、高校や大学で生物や化学を履修していなくとも、生命科学に興味がある学生の受講を薦める。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室　瀬田学舎　１号館２０７号室
オフィスアワー　（月）５講時、（木）４講時

■講義計画
①生命と化学物質
②生命科学と私たちの生活
③アミノ酸とタンパク質
④タンパク質のはたらき
⑤酵素のはたらき
⑥遺伝子とDNA
⑦遺伝情報の伝達
⑧細胞と生殖
⑨生命倫理
⑩バイオテクノロジー
⑪脂質と脂肪
⑫糖質の科学
⑬生命科学と環境
⑭光合成と生命のエネルギー
⑮まとめ

生命と共生

【担当】柿本　佳美
【開講】後期　木4

■サブタイトル
人間社会と生命科学技術

■講義概要
近年の医療技術の進歩と生活水準の向上は、私たちが健康で長く生きることを期待できる社会をつくりだしています。それればかりでなく、様々な生命科学技術の発達は、「自分が望む生」を実現することも可能にしつつあります。たとえば、生殖補助技術の発達は、望ましい遺伝情報を持つ子どもを得ようとすることや代理母によって子供を持つことを可能にし、高度医療技術の発達は、自らの意志で延命治療の拒否や死を選択する人々を生み出しています。その一方で、発達した生命科学技術があってもそれを利用できる人とできない人との間の健康格差が生まれ、社会のなかの弱い立場の人々、たとえば障がいを持つ人々や高齢者を望ましくない生として排除しかねない傾向があります。
中立的に見える科学技術も、他の領域の知と同じように、社会のなかで利用され、価値づけされます。生命科学技術をめぐるさまざまな見解を知ることは、科学技術のメリットとデメリットを理解し、望ましくない結果の予防にもつながります。
この授業では、生命倫理学の基礎理論に関する解説ののち、主要な問題を取り上げ、医療技術をはじめとする生命科学技術のあり方について考えていきます。

■到達目標
医療・生命科学技術に関するさまざまな問題について、さまざまな角度から検討することができる。
客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができる。

■講義方法
映像資料とプリントを使用し、講義形式で行います。ディスカッションとミニレポートあり。ミニレポートをもとに授業を進めることもあります。

■系統的履修
「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。
新聞等による報道に注意し、医療・生命科学等に関わる記事については読んでおくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（20%）
定期試験（70%）
欠席遅刻はしないこと。通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。
中間レポート課題を課すことがあります。

■テキスト
加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理学を学ぶ人のために』 世界思想社　2,300円
玉井真理子・大谷いづみ 『はじめて出会う生命倫理』 有斐閣　1995円

■参考文献
参考文献については、授業中に適宜提示します。
生命倫理に関する文献のうち１冊を読むように。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。
受講者の関心によって、授業内容を一部変更することがあります。
なお、授業開始30分後以降の入室はお断りすることがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日13:00 ～ 13:30、講師室

■講義計画
①はじめに：医療・生命科学技術と私たち
②生命倫理のキーワード：「生命倫理学」の歴史
③生命倫理のキーワード：人を対象とする実験のルールとは
④生命倫理のキーワード：「自律」と「尊厳」
⑤生命倫理の理論：優生思想と障害学
⑥生命倫理の理論：ケア倫理
⑦生殖に関する諸問題：中絶
⑧生殖に関する諸問題：出生前診断と選択的中絶
⑨生殖に関する諸問題：第三者提供配偶子の使用と代理母
⑩生命科学と私たち：遺伝子解読技術の進歩がもたらすもの
⑪生命科学と私たち：ES細胞研究とiPS細胞研究
⑫死に関する諸問題：脳死と臓器移植
⑬死に関する諸問題：植物状態と治療停止
⑭死に関する諸問題：安楽死と緩和ケア
⑮まとめ：未来世代と科学技術

生命と共生

【担当】田村　公江
【開講】前期　水2

■サブタイトル
生命倫理の諸問題
■講義概要
医療治術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか?」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療､あるいはそれらの組み合わせなど､治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。
生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人がいるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもよいのか」､「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか?「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか?すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることはできます。
この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人になりましょう。
■到達目標
生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。
■講義方法
授業計画に沿って講義形式で進めます。
■系統的履修
教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
復習に役立つプリントを配布します。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況などで評価する。詳しくは授業内で説明する。
定期試験（50%）
■テキスト
特になし
■参考文献
伏木信次・樫則章・霜田求［編］改訂２版 『生命倫理と医療倫理』 金芳堂 2,500円
加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理を学ぶ人のために』 世界思想社 1998 2,300円
欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室（２号館300-1）
連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp
件名に「生命と共生の受講生」と書き､本文に名前（フルネーム）と学籍番号を書くこと。
■講義計画
①ガイダンス　倫理学とは
②生命倫理とは何か
③自分のことは自分で決める―医師と患者の関係―
④人工妊娠中絶に関する基礎知識
⑤人工妊娠中絶の問題点
⑥人工妊娠中絶に関する法律
⑦出生前診断
⑧優生思想と選択的中絶
⑨不妊治療の問題点
⑩臓器移植
⑪脳死は人の死か
⑫臓器移植、脳死判定の問題点
⑬自己決定原理とは
⑭安楽死・尊厳死
⑮安楽死・尊厳死の問題点

世界の福祉

【担当】太谷　亜由美
【開講】前期　水3

■サブタイトル
貧困からの脱却を考える
■講義概要
世界の先進国において、貧困問題は大きな問題として常に国は対処を求められている。日本では「貧困」が目に見えない形で進行し、国の新古典派的労働政策が幅広く採用され、若い人達にも貧困が広がっている。日本の子供の貧困は、先進国においてもとくに深刻な状態となっている。また高齢者の貧困問題も同様である。これらに対し日本の政策はどのように行われているかを考察した上で、先進各国の貧困対策を見て行きたい。対象となる国は､アメリカ､イギリス､ニュージーランド、オーストラリアを中心とした国々とし、各国の貧困者対策がどのように行われているか、また制度の違いに注意して、一緒に考えていきたいと思う。
■到達目標
各国の制度の違いと、貧困解消のための目標がどのように設定されているかを知り、日本の政策の方向性を考え、社会に出た際の知識として保持すること。
■講義方法
毎回、レジュメを配布の上、その資料に基づいて講義を行う。
■系統的履修
特になし
■授業時間外における予・復習等の指示
期末試験において、論述試験を行うので、各自講義後に学習内容について、どのような内容であったか復習すること。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）出席点
定期試験（90%）講義において学習した内容について論述試験を課す。
出席回数が3回未満のものは単位を認定しない。
■テキスト
毎回レジュメを配布しますので、それを必ず入手すること。
■参考文献
とくに参考となる文献については講義時に、指定します。
■履修上の注意・担当者からの一言
講義中は私語厳禁。私語を続けられる方は退出をお願いします。
■講義計画
①貧困の尺度を学ぶ
　相対貧困度
②日本の貧困率と子供の貧困、若者の貧困、高齢者の貧困
③子どもの貧困への対策
④若者の貧困対策
　高齢者の貧困対策
⑤アメリカの貧困の現状
⑥アメリカの貧困対策
⑦イギリスの貧困の現状とこれまでの政策
　子どもの貧困の撲滅
⑧現在のイギリスの貧困者対策と政策
⑨どのような政策の差が見られたか復習
⑩ニュージーランドの貧困の現状
⑪現在のニュージーランドの貧困者対策
⑫子どもに対する貧困対策を考える。
　別離子供への養育費制度
⑬オーストラリアの貧困の現状
⑭オーストラリアの貧困者対策
　別離子供への養育費制度
⑮これまで講義した国々について復習を行う。

歎異抄の思想Ⅰ

【担当】杉岡　孝紀
【開講】前期　金2

■サブタイトル
親鸞の言葉
■講義概要
親鸞の門弟唯円が著したとされる『歎異抄』は、近代以降、多くの知識人によって注目され、単に一宗派の聖典としてではなく、哲学、倫理、心理学、歴史、或いは文学などの分野との関連において、親鸞思想の重要性を高く評価する起因を作った書物であると言える。本書には、親鸞の円熟した思想の風格と豊かな信仰体験の心情とが明らかにされており、実に多くの人がこの書によって自己の苦悩を解決し、また深い絶望から救われていった喜びを語っています。
本書の構成は十八条からなる。その内容は大きく師訓篇（第一条～第十条）と異議篇（第十一条～第十八条）に分かれる。本講義では、親鸞の言葉が示されている前半の師訓篇を読み進め、親鸞の思想を学んでいくことを主題とする。
■到達目標
龍谷大学でしか学ぶことのできない「親鸞の思想」を学ぶことができます。
■講義方法
テキストを読み、レジュメに基づきながら講義を進めていきます。
DVD教材を用いた授業も行い、その際には内容に関して要約･感想を書いてもらいます。
■系統的履修
仏教の思想Ａ・Ｂ
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストはもちろんのこと、関連する参考文献を自主的に読むようにしましょう。
■成績評価の方法
レポート（10%）
定期試験（90%）
毎回授業改善を目的として出席をとりますが、出席点はありません。
■テキスト
梯實圓（解説）『歎異抄』 本願寺出版社　400円
■参考文献
林智康　ほか 『歎異抄事典』 柏書房　3,865円
■履修上の注意・担当者からの一言
とりあえず登録してみようと思っているあなた、やめましょう。もっと深く親鸞思想を学びたいと思っているあなた、どうぞ登録してみてください。
■講義計画
①『歎異抄』の概説
②『歎異抄』に出会った人々
③序文の内容
④第一条…阿弥陀仏の本願
⑤第二条…値遇の真実性
⑥第三条…悪人正機①
⑦第三条…悪人正機②
⑧第四条…浄土の慈悲
⑨第五条…念仏は追善のために非ず
⑩第六条…弟子－一人ももたず
⑪第七条…無碍の一道
⑫第八条…非行非善の念仏
⑬第九条…他力の救い
⑭第十条…義なきを義とす
⑮まとめの講義

歎異抄の思想Ⅱ

【担当】杉岡　孝紀
【開講】後期　金2

■サブタイトル
親鸞思想への誤解
■講義概要
『歎異抄』は親鸞滅後、弟子唯円が東国門弟の間に生じた異義を歎いて著したものである。異義とは、親鸞の教えに背く誤った信心理解をいうものであるが、本講義ではこの異義内容が明かされている『歎異抄』の第十一条から第十八条を読むことを通して、親鸞の思想を考えていくものである。
■到達目標
各条に示される異議内容について理解し分類してみる。
■講義方法
テキストを読み、レジュメにしたがって解説していく。
■系統的履修
「仏教の思想Ａ・Ｂ」、「歎異抄の思想Ⅰ」
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストだけでなく、関連する参考文献を自主的に読んで参加してください。
■成績評価の方法
レポート（10%）
定期試験（90%）
授業改善の目的で出席をとりますが、出席点はありません。
■テキスト
梯實圓（解説）『『歎異抄』（現代語訳付）』 本願寺出版社
400円
■参考文献
梯實圓 『聖典セミナー歎異抄』 本願寺出版社　3,990円
林智康他 『歎異抄事典』 柏書房　3,885円
■履修上の注意・担当者からの一言
とりあえず登録してみようと思っているあなた、やめましょう。もっと深く親鸞思想を学びたいと思っているあなた、どうぞ登録してみてください。
■講義計画
①『歎異抄』の概説
②『歎異抄』に出会った人々
③第十一条…本願と念仏
④第十二条①
…信仰と学問
⑤第十二条②
…真理・真実
⑥第十三条①
…本願ぼこりと宿業
⑦第十三条②
…親鸞の人間観
⑧第十四条…念仏による滅罪
⑨第十五条…悟りと救い
⑩第十六条…回心とは
⑪第十七条…浄土往生と辺地への往生
⑫第十八条…正しい布施と誤った布施
⑬後序…信心の同異,
私のための本願、善悪を知らず
⑭流罪記録
⑮まとめの講義

中国語ＩＡ

【担当】韓　正愛
【開講】前期　水４

■講義概要
中国語ＩＡは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法
毎回異なるテーマで講義を行うとともに、会話の場を作ります。

■系統的履修
中国語ⅡＡ

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業への出席状況、宿題、授業態度
小テスト（70%）

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超中国語入門』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＡ

【担当】張　健同
【開講】前期　月３

■講義概要
中国語ＩＡは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修
中国語ⅡＡ、ＩＢとⅡＢ及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
そ の 他（10%）宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＢ（2015年度以降入学生）
中国語ＩＣ（2014年度以前入学生）

【担当】張　健同
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語ＩＢは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《１冊めの中国語(会話クラス)》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。

■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス)』白水社　2,415円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①発音１
②発音２
③発音３
④第一課：１、人称代詞；２、“是”；３、“不是”；４、副詞 “也” “都” “不”
⑤第二課：５、指示代詞－中国語の「こそあど」；６、“吗” 疑問文；７、反復疑問文
⑥第三課：８、形容詞文；９、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）;13、“的” 後の名詞省略;14、親族呼称；15、“的” が省略される条件
⑧第五課：16、前置詞 “在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞 “儿”；22、“呢”
⑩第七課：23、モノを数える;24、“有”（動詞「もつ」）;25、“二” と “两”
⑪第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）;27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么” と “那么”
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

中国語ＩＢ（2015年度以降入学生）
中国語ＩＣ（2014年度以前入学生）

【担当】張　健同
【開講】前期　水４

■講義概要
中国語ＩＢは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《1冊めの中国語（会話クラス)》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。

■テキスト
劉穎（ほか）『1冊めの中国語（会話クラス)』白水社　2,415円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。　学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①発音１
②発音２
③発音３
④第一課：１、人称代詞；２、“是”；３、“不是”；４、副詞 “也” “都” “不”
⑤第二課：５、指示代詞－中国語の「こそあど」；６、“吗” 疑問文；７、反復疑問文
⑥第三課：８、形容詞文；９、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）;13、“的” 後の名詞省略;14、親族呼称；15、“的” が省略される条件
⑧第五課：16、前置詞 “在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞 “儿”；22、“呢”
⑩第七課：23、モノを数える;24、“有”（動詞「もつ」）;25、“二” と “两”
⑪第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）;27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么” と “那么”
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

中国語ＩＢ（2015年度以降入学生）
中国語ＩＣ（2014年度以前入学生）

【担当】李　愛華
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語の発音、声調などをゆっくりしっかりと練習し、中国語をきれいに話せる基礎を身に付け、そして文法を習得し、日常会話ができるように、気楽に、楽しく授業をやっていく。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
正しい中国語の発音を身に付け、簡単な日常会話ができるようになる。

■講義方法
言う、聴く、読む、書くをよく練習する。

■系統的履修
発音

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中で説明する。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）

■テキスト
本間　史　孟　広学　『中国語ポイント55』　白水社　2,300円

■参考文献
共同編集　『中日辞典』　小学館第二版　7,000円

■講義計画
①中国語について
②ピンイン単母音
③子音
④復母音
⑤鼻母音
⑥第１課
⑦第２課
⑧第３課
⑨復讐

中国語ⅡＡ（2015年度以降入学生）
中国語ＩＢ（2014年度以前入学生）

【担当】韓　正愛
【開講】後期　水４

■講義概要
中国語ⅡＡは、中国語ＩＡを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修
中国語ＩＡ

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業への出席状況、宿題、授業態度
小テスト（70%）

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著　『超中国語入門』　晃洋書房

■参考文献
※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ⅡA（2015年度以降入学生）
中国語ⅠB（2014年度以前入学生）

【担当】張　健同
【開講】後期　月3

■講義概要
中国語ⅡAは、中国語ⅠAを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修
中国語ⅠA、ⅠBとⅡB及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
そ の 他（10%）宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ⅡB（2015年度以降入学生）
中国語ⅠD（2014年度以前入学生）

【担当】張　健同
【開講】後期　水3

■講義概要
中国語ⅡBは中国ⅠBの引き続きです。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。

■テキスト
劉穎（ほか）『1冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2,415円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①中国語Ⅰの復習
②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ⅰ
③第十一課：36、連動文;37、使役の表し方;38、兼語文;39、“给”
④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
⑤第十三課：43、助動詞Ⅱ「できる」;44、助動詞Ⅲ「したい」;45、“了”；46、“几”と“多少”
⑥第十四課：47、中国語のアスペクト;48、“着”－持続;49、「过」－経験
⑦第十五課：50、「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le；51、「経験」の“过1”と「終結」の“过2”
⑧第十六課：52、自然現象の表し方;53、比較;54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
⑪第十九課：61、趨向補語;62、結果補語、趨向補語の可能形;63、“越来越…”
⑫第二十課：64、疑問詞の呼応文型;65、複文の意味関係;66、「動詞＋目的語」構造の文
⑬まとめ1
⑭まとめ2
⑮まとめ3

中国語ⅡＢ（2015年度以降入学生）
中国語ＩＤ（2014年度以前入学生）

【担当】張　健同
【開講】後期　水４

■講義概要
中国語ⅡＢは中国ＩＢの引き続きです。
■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。
■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。
■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。
■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2,415円
■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。
■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。
■講義計画
①中国語ＩＢの復習
②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ｉ
③第十一課：36、連動文；37、使役の表し方；38、兼語文；39、“给”
④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
⑤第十三課：43、助動詞Ⅱ「できる」；44、助動詞Ⅲ「したい」；45、“了”；46、“几”と“多少”
⑥第十四課：47、中国語のアスペクト；48、“着”－持続；49、「过」－経験
⑦第十五課：50、「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le；51、「経験」の“过1”と「終結」の“过2”
⑧第十六課：52、自然現象の表し方；53、比較；54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
⑪第十九課：61、趨向補語；62、結果補語、趨向補語の可能形；63、“越来越…”
⑫第二十課：64、疑問詞の呼応文型；65、複文の意味関係；66、「動詞＋目的語」構造の文
⑬まとめ1
⑭まとめ2
⑮まとめ3

中国語ⅡＢ（2015年度以降入学生）
中国語ＩＤ（2014年度以前入学生）

【担当】李　愛華
【開講】後期　水３

■講義概要
中国語の発音、声調などをゆっくりしっかりと練習し、中国語をきれいに話せる基礎を身に付けて、それに文法を習得し、日常会話ができるように、気楽に、楽しく授業をやっていく。
■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
正しい中国語の発音を身に付け、簡単な日常会話ができるようになる。
■講義方法
言う、聴く、読む、書くをよく練習する。
■系統的履修
発音
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中で説明する。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）
■テキスト
本間　史　孟　　広学『中国語ポイント55』白水社　2,300円
■参考文献
共同編集　『中日辞典』　小学館　7,000円
■講義計画
①前期復習
②８課
③復習、練習
④９課
⑤復習、練習
⑥１０課

中国語セミナーA

【担当】韓　正愛
【開講】前期　水3

■講義概要
中国語ＩA、ⅡAを履修した者、またはそれと同等のレベルにある者を対象とします。中国の現状と伝統文化を紹介しながら、中国語の上達を図る講義です。映像資料やシラバスに基づいた講義を展開していきます。

■到達目標
言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。
また、文化や社会について主体的に考察することができる。
辞書を用いて簡単な作文を書くこと、スピーキング及びリスニングができるようになること。

■講義方法
演習方式

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）

■テキスト
レジュメ等を講義中に配付します。

■参考文献
張国璐、池上貞子 『ときめき中国』 朝日出版社　2,160円

■講義計画
講義時に指示します。

中国語セミナーB

【担当】韓　正愛
【開講】後期　水3

■講義概要
中国語ＩA、ⅡAを履修した者、またはそれと同等のレベルにある者を対象とします。中国の現状と伝統文化を紹介しながら、中国語の上達を図る講義です。映像資料やシラバスに基づいた講義を展開していきます。

■到達目標
言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。
また、文化や社会について主体的に考察することができる。
辞書を用いて簡単な作文を書くこと、スピーキング及びリスニングができるようになること。

■講義方法
演習方式

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）

■テキスト
レジュメ等を講義中に配付します。

■参考文献
張国璐、池上貞子 『ときめき中国』 朝日出版社　2,160円

■講義計画
講義時に指示します。

ドイツ語ＩＡ

【担当】呉　春吉
【開講】前期　月２

■講義概要
この授業は、初めてドイツ語を学習する人を対象とし,ドイツ語のアルファベットの読み方、発音、簡単な挨拶というような基礎的なことから始めます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容がバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。この後、テキストの文章を読み、最後に会話練習等を練習する予定です。時間が許せば、ドイツに関するビデオや映画なども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による。
定期試験（70%）テキストの内容に関する筆記試験
平常点（30%）と学期試験（70%）を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト
今村　武 『レーアブック＝レーゲンスブルク』 朝日出版社 2,500円
辞書等については授業中に紹介します。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画
①ドイツ語のABCと発音とアウトライン
②挨拶表現
③一般動詞の現在人称変化
④名詞の性と定冠詞
⑤名詞の格変化
⑥不定冠詞と名詞の格変化
⑦sein,haben,werdenの現在人称変化
⑧不規則動詞の現在人称変化
⑨名詞の複数形
⑩並列の接続詞と従属接続詞
⑪前置詞の格支配
⑫人称代名詞の格変化と用法
⑬再帰代名詞と再帰動詞
⑭不定冠詞類、定冠詞類
⑮前期のまとめ

ドイツ語ＩＡ

【担当】呉　春吉
【開講】前期　月３

■講義概要
この授業は、初めてドイツ語を学習する人を対象とし,ドイツ語のアルファベットの読み方、発音、簡単な挨拶というような基礎的なことから始めます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容がバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。この後、テキストの文章を読み、最後に会話練習等を練習する予定です。時間が許せば、ドイツに関するビデオや映画なども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による。
定期試験（70%）テキストの内容に関する筆記試験
平常点（30%）と学期試験（70%）を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト
今村　武 『レーアブック＝レーゲンスブルク』 朝日出版社 2,500円
辞書等については授業中に紹介します。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画
①ドイツ語のABCと発音とアウトライン
②挨拶表現
③一般動詞の現在人称変化
④名詞の性と定冠詞
⑤名詞の格変化
⑥不定冠詞と名詞の格変化
⑦sein,haben,werdenの現在人称変化
⑧不規則動詞の現在人称変化
⑨名詞の複数形
⑩並列の接続詞と従属接続詞
⑪前置詞の格支配
⑫人称代名詞の格変化と用法
⑬再帰代名詞と再帰動詞
⑭不定冠詞類、定冠詞類
⑮前期のまとめ

ドイツ語ＩＢ（2015年度以降入学生）
ドイツ語ＩＣ（2014年度以前入学生）

【担当】青山　豊
【開講】前期　月３

■サブタイトル
ドイツ語文法を学ぶ

■講義概要
文法とドイツ語による表現を学ぶ。文法の学習というと無味乾燥というイメージを持つかもしれないが、外国語をマスターするにはこれが早道であり合理的でもある。授業では、必要最小限の文法規則を繰り返し学習することによって自分のものとしたうえで、受講生各自が、それを用いて自分の思うところをドイツ語で表現できるようにしたい。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
まとまった内容のドイツ語文が正確に読めるようになる。

■講義方法
受講生の理解度を確認しながら、ゆっくり進めていく。

■系統的履修
ドイツ語ＩＡ

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回少しずつでも予習復習をすること。

■成績評価の方法
平常点（50%）出席を重視する
その他（50%）

■テキスト
富山　典彦『基礎がわかる！　ドイツ文法』郁文堂　2,300円

■参考文献
授業中に説明する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画
①文字と発音
②同上
③動詞の現在人称変化
④名詞の格変化
⑤規則動詞
⑥不規則動詞
⑦前置詞
⑧小テスト
⑨副文
⑩再帰動詞
⑪人称代名詞
⑫冠詞類
⑬分離動詞
⑭補足
⑮小テスト

ドイツ語ＩＢ（2015年度以降入学生）
ドイツ語ＩＣ（2014年度以前入学生）

【担当】永井　達夫
【開講】前期　水３

■サブタイトル
テキスト、インターネット、ＤＶＤなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（前半部分）

■講義概要
語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。

■講義方法
一人一台のＰＣが使えるCALL教室で授業をする予定です。講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。

■系統的履修
必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に随時指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）授業への参加度･宿題･レポートなどによる「平常点」
小テスト（60%）数回の筆記テストは、すべて授業中に実施します。
総得点で60％以上が合格です。出席は３分の２以上必要です。遅刻２回につき欠席１回に換算しますので、注意してください。

■テキスト
富山典彦　『基礎が分かる！　ドイツ文法』　郁文堂　2,300円

■参考文献
必要があれば、授業のなかで紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
ほんとうにドイツ語が身につく講義にしていくつもりです。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
開講時に連絡方法を言います。

■講義計画
①オリエンテーション
②発音とつづり
③Lektion 1　名詞の性と複数形
④Lektion 2　動詞の人称変化
⑤Lektion 2　同上
⑥Lektion 3　定冠詞・不定冠詞
⑦Lektion 4　命令形、等
⑧中間テストを予定
⑨Lektion 5　定冠詞類・不定冠詞類
⑩Lektion 5　人称代名詞
⑪Lektion 6　話法の助動詞
⑫Lektion 7　前置詞
⑬Lektion 7　同上
⑭前期の総復習
⑮学期末テストを予定

ドイツ語ⅡA（2015年度以降入学生）
ドイツ語ⅠB（2014年度以前入学生）

【担当】呉　春吉
【開講】後期　月2

■講義概要
この授業は、前期に習得した知識を踏まえた上で、さらに様々な動詞表現、時制等を学びます。
テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容がバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。この後、テキストの文章を読み、最後に会話練習等を練習する予定です。時間が許せば、ドイツに関するビデオや映画なども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による。
定期試験（70%）テキストの内容に関する筆記試験
平常点（30%）と学期試験（70%）を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト
今村　武 『レーアブック＝レーゲンスブルク』 朝日出版社 2,500円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画
①前期の復習
②zu不定詞
③分離動詞と非分離動詞
④形容詞の用法と格変化
⑤話法の助動詞
⑥動詞の３基本形（1）
⑦過去形
⑧現在完了形
⑨動詞の復習とまとめ
⑩受動態
⑪関係代名詞（1）
⑫関係代名詞（2）
⑬接続法（1）
⑭接続法（2）
⑮総復習

ドイツ語ⅡA（2015年度以降入学生）
ドイツ語ⅠB（2014年度以前入学生）

【担当】呉　春吉
【開講】後期　月3

■講義概要
この授業は、前期に習得したドイツ語の知識を踏まえた上で、さらに様々な動詞表現、時制等を学びます。
テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容がバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。この後、テキストの文章を読み、最後に会話練習等を練習する予定です。時間が許せば、ドイツに関するビデオや映画なども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による。
定期試験（70%）テキストの内容に関する筆記試験
平常点（30%）と学期試験（70%）を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト
今村　武 『レーアブック＝レーゲンスブルク』 朝日出版社 2,500円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画
①前期の復習
②zu不定詞
③分離動詞と非分離動詞
④形容詞の用法と格変化
⑤話法の助動詞
⑥動詞の３基本形（1）
⑦過去形
⑧現在完了形
⑨動詞の復習とまとめ
⑩受動態
⑪関係代名詞（1）
⑫関係代名詞（2）
⑬接続法（1）
⑭接続法（2）
⑮総復習

ドイツ語ⅡＢ（2015年度以降入学生）
ドイツ語ＩＤ（2014年度以前入学生）

【担当】青山　豊
【開講】後期　月３

■サブタイトル
ドイツ語で表現する
■講義概要
ドイツ語文を正確に読むためには最小限のしっかりした文法規則を自分のものにしなければならない。この授業ではできるだけ負担を感じることなく文法的に正確に読み書きができるようにしたい。
■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
文法規則に従ってドイツ語文を読んで理解し、さらにドイツ語で表現できるようになること。
■講義方法
受講生の理解度に合わせてゆっくり進める。
■系統的履修
ドイツ語ⅡＡ
■授業時間外における予・復習等の指示
少しずつでも毎回予習と復習をしてほしい、
■成績評価の方法
平常点（50%）出席を重視する
その他（50%）
■テキスト
富山　典彦『基礎がわかる！　ドイツ文法』郁文堂　2,300円
■参考文献
授業中に説明する
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①話法の助動詞
②過去形
③現在完了形
④受動態
⑤形容詞の格変化
⑥比較
⑦関係代名詞
⑧小テスト
⑨命令形
⑩接続法
⑪同上
⑫補足
⑬同上
⑭同上
⑮小テスト

ドイツ語ⅡＢ（2015年度以降入学生）
ドイツ語ＩＤ（2014年度以前入学生）

【担当】永井　達夫
【開講】後期　水３

■サブタイトル
テキスト、インターネット、ＤＶＤなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（後半部分）
■講義概要
ドイツ語ＩＢ（ＩＣ）の続きです。授業の概要はＩＢ（ＩＣ）と同じです。以下は繰り返しになります。
「語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩（ＩＢ、ＩＣの続き）から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。」
■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
引き続き、ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。
■講義方法
一人一台のＰＣが使えるCALL教室で授業をする予定です。講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。
■系統的履修
必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に随時指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）授業への参加度･宿題･レポートなどによる「平常点」
小テスト（60%）数回の筆記テストは、すべて授業中に実施します。総得点で60％以上が合格です。出席は３分の２以上必要です。遅刻２回につき欠席１回に換算しますので、注意してください。
■テキスト
富山典彦　『基礎が分かる！　ドイツ文法』　郁文堂　2,300円
■参考文献
必要があれば、授業のなかで紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
後期になって学習の速度が少し上がりますが、予習復習をしっかりしてついてきてください。ドイツ語ＩＢ（ＩＣ）を履修せずにこの講義を取る学生は、開講時までに自分で前期の範囲を学習しておくことが前提となります。後期も引き続きレポートなどの課題をたくさん出します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
開講時に連絡方法を言います。
■講義計画
①前学期の復習
②Lektion 8　複合動詞
③Lektion 8　再帰動詞・非人称動詞
④Lektion 9　動詞の３基本形
⑤Lektion 9　完了形、等
⑥Lektion 10　形容詞の格変化
⑦Lektion 10　同上
⑧中間テストを予定
⑨Lektion 11　受動表現
⑩Lektion 12　接続詞
⑪Lektion 13　関係文
⑫Lektion 14　比較表現
⑬Lektion 15　zu不定詞
⑭後期の総復習
⑮学期末テストを予定

ドイツ語セミナーA

【担当】青山　豊
【開講】前期　月4

■サブタイトル
ドイツ語でドイツの文化を学ぶ。
■講義概要
これまでに学んだドイツ語の知識を整理確認して、次のステップへ進む。取り組みやすい平易なドイツ語のテキストを用いて読解力や表現力を養成する。
■到達目標
言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができる。インターネットなどのドイツ語情報を正しくキャッチできるようになる。
■講義方法
マンツーマンの対話的授業にしたい。
■系統的履修
ドイツ語を１単位以上履修済みであることが受講の条件。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の予習と復習が必要。
■成績評価の方法
平常点（50%）
その他（50%）
平常点（50%）と授業への熱意（50%）を総合して評価する。
■テキスト
斉藤　佑史 『おもしろドイツ！』 郁文堂　2,500円
■参考文献
これまでのドイツ語の科目で使用したテキストを授業に持参するとよい。
■履修上の注意・担当者からの一言
ある程度ドイツ語の知識があることを受講の条件とするが、授業の内容は容易で初級から中級への橋渡しである。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①はじめまして
②ドイツの自然と気候
③ドイツの食事
④ドイツの住居
⑤便利な表現
⑥休暇
⑦ビールとワイン
⑧スポーツ
⑨音楽
⑩映画
⑪文学
⑫クリスマス
⑬環境問題
⑭補足
⑮補足

ドイツ語セミナーB

【担当】青山　豊
【開講】後期　月4

■サブタイトル
「ことば」からみたドイツの文化と日常生活
■講義概要
これまでに修得したドイツ語の知識を整理確認した上で、聞き話すという会話的要素をベースに日常的ドイツ語にふれながら、現代ドイツの文化を考察する。テキストとしてはドイツ人の生活情報や異文化をテーマにしたものを使用する予定。
■到達目標
言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができる。日常生活に必要なレベルの読解力とドイツ語による表現力を身につける。
■講義方法
少人数クラスになると思われるので、対話的授業にしたいと考えている。積極的に取り組む意欲もひきだしたい。
■系統的履修
ドイツ語の基礎的知識があることが受講の条件。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の予習が必要である。
■成績評価の方法
平常点（50%）
その他（50%）
平常点（50%）と授業への熱意（50%）を総合的に評価する。
■テキスト
さまざまなテーマを扱ったテキストをコピーして使用する予定。
■参考文献
これまでに使用したテキストを授業に持参するとよい。
■履修上の注意・担当者からの一言
基本的にはセミナーＡに続くドイツ語運用能力の向上をもめざす授業であるので、堅苦しく考えずに参加して欲しい。授業には必ず辞書を持参のこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①受講生の興味と実力に合わせた内容のテキストを読み進めながら、表現力を磨く。（プリントを使用の予定）
②同上
③同上
④同上
⑤同上
⑥同上
⑦同上
⑧同上
⑨同上
⑩同上
⑪同上
⑫同上
⑬同上
⑭同上
⑮同上

日本語

【担当】北川　逸子
【開講】前期　月1

■サブタイトル
日本・近江の里山

■講義概要
日本語能力を今よりも高めたいと望んでいる留学生は多いと思います。この講義は、切り口を「里山」に絞り、それについて学ぶ過程で、日本語の聴解力、情報を把握する力、口頭発表能力などを向上する目的で行います。里山は日本各地に見られる自然と人間が共生できる空間である。しかし、本来、自然はありのままであろうとし、人間は自然と対決し、自分たちの意のままに変化させようとしてきました。そのせめぎあいの折り合いをつけた形の一つが里山と言えると思います。この授業では、日本各地および滋賀県の里山を知り、持続可能な発展のあり方について考察します。

■到達目標
1．日本、特に滋賀県のひとびとと自然の関係を知る。
2．聴解力、メモを取る能力、口頭発表能力、文をまとめ発表する能力を養う。

■講義方法
教師側から日本各地、とくに滋賀県（近江）の里山に関する情報を提示する。情報はNHK・BSの番組「ニッポンの里山」ほかの収録番組を用いる場合も、参考文献からの文章で提示する場合もある。
学生はそれについての情報を聞き取る。また､得た情報に関して毎週1～2名が意見発表をする。

■授業時間外における予・復習等の指示
発表順に当たった学生は、事前に発表原稿を作成する。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業参加度
レポート（40%）期末に指定されたテーマで書いたレポートを提出､その内容を評価する。
そ の 他（30%）発表内容・発表時の態度
出席率67%以下の学生には単位は付与しませんので、必ず10回以上出席してください。
期末のレポートは必ず提出してください。

■テキスト
特になし

■参考文献
今森光彦　『里山の四季』　平凡社　2,300円
玉村豊男　『里山ビジネス』　集英社　680円
藻谷浩介　『里山資本主義』　新潮社　856円
学生は上記の参考文献を購入する必要はありません。

■履修上の注意・担当者からの一言
社会学部・理工学部の学生は自分の興味と少し違うと思うかもしれませんが、テーマはあくまでも一つの手段であり、それについて考察することによって日本語力を向上させます。できるだけ毎週出席してください。また、授業以外に日本語のサポートが必要な場合は、担当者に連絡してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日に登校します。それ以外の日はメールで連絡してください。メールアドレスは以下の通りです。itskit22@ybb.ne.jp

■講義計画
①自己紹介
②里山について（概説）
③滋賀県高島市「生きものと恵みを分けあう森」
④滋賀県草津市「青花の咲く田んぼ」
⑤滋賀県近江八幡市「命のゆりかごヨシ原」
⑥熊本県水俣市「海をはぐくむ森の湧水」
⑦佐賀県唐津市「ホタルがきらめく石垣」
⑧「びわ胡一周ぐるっと水辺紀行」
⑨新潟県十日町市「天野川と紅葉を移す棚田」
⑩千葉県八街市「命がつながる落花生の畑」
⑪石垣島「サンゴ礁は海の畑」
⑫京都府亀岡町「船頭が守る清流の川」
⑬京都府伊根町「漁師が守る海辺の森」
⑭京都市「オオサンショウウオが済む杉林」
⑮まとめ

日本語

【担当】北川　逸子
【開講】後期　月1

■サブタイトル
現代社会の問題

■講義概要
どの学部の学生であっても、日本で生活するとき、いろいろな出来事や社会の動きに関心を持つと思います。この授業では、できるだけ新しい素材のTVニュースや文化現象を取り上げ、ともに論じていきたいと思っています。また、関連語句などについても、その都度紹介します。

■到達目標
いろいろな事象に関して、まとまった自分の意見が述べられるようになること。

■講義方法
教師側からTVニュース、番組、インターネットに表れた事柄などを提示するので、学生はそれに対して自分の意見を述べること。ディスカッションの形態で意見を述べることもする。また、数回に一度意見を書かせることもある。

■授業時間外における予・復習等の指示
特にない。文章を書いた場合は授業時間以外で完成させる場合もある。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席1回につき2点で計算する。あとの20点は授業参加度を評価する。
レポート（50%）期末に期間中に最も関心を持ったことについて調べ、レポートにする。
出席率67％以下の学生には単位を付与しません。必ず毎週出席してください。

■テキスト
東京大学IKOM日本語プログラム　『日本への招待』　東京大学出版会　5,000円
学生はテキストを購入する必要はありません。

■参考文献
中根千枝　『社会人類学』　講談社　1,150円
学生は上記の参考文献を購入する必要はありません。

■履修上の注意・担当者からの一言
この授業は教師と学生がともに作り上げるタイプの授業です。自由な発言を歓迎します。また、留学生は学修上、特別に悩むことも多いと思いますが、気軽に相談してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日に登校します。それ以外の日の連絡はメール経由でお願いします。メールアドレスは以下の通りです。
itskit22@ybb.ne.jp

■講義計画
教材については、その時々に最も新鮮な材料を選ぶので、特に示さない。

日本語

【担当】北川　逸子
【開講】前期　月３

■サブタイトル
レポート作成の方法
■講義概要
日本人学生にとっても留学生にとっても大学生活で困難なことの一つがレポートの作成です。Web上にある他人のレポートや論文をコピーせずに、自分の力でレポートを書くことができれば大きな自信につながります。ひいては、卒論作成においても自信を持ってあたることができます。この講義では、実例を実習しながら、レポート作成の諸要素について学びます。
■到達目標
自分の力でレポートが作成できること
■講義方法
毎回教師からレポート作成の要領を説明し、実例を挙げてレポート作成を実習します。併せて、必要な日本語表現も学びます。
■系統的履修
後期・日本語月曜日３講時
■授業時間外における予・復習等の指示
自分のレポート作成に必要なデータの収集、整理
文章の見直し、書いた文章をメールで送って添削を受けること
■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業参加度。出席一回2点で計算。
小テスト（30%）日本語表現についての小テスト
レポート（40%）自分が選んだテーマでレポートを作成する
毎回違う内容を勉強しますので、必ず毎週出席してください。
出席率が67%以下の学生には単位を付与しません。
期末のレポートは必ず提出してください。
■テキスト
浜田麻里ほか『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版　2,500円
大島弥生ほか『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房　1600円
学生は上記のテキストを購入する必要はありません。毎回プリントを渡します。
■参考文献
二通信子ほか　『留学生のための論理的な文章の書き方』　スリーエーネットワーク　1,600円
佐々木瑞枝ほか　『大学で学ぶための日本語ライティング』　The Japan Times　1,800円
学生は上記の参考文献を購入する必要はありません。
■履修上の注意・担当者からの一言
自分が興味を持っていること、学部の授業で特に関心を持ったことについて深く知り、レポートにまとめ上げてください。
日本語の運用については責任を持って指導しますが、専門分野については学部の指導教員の指導を仰いでください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日に登校します。それ以外の日の連絡や書いたレポートの添削などはメール経由でお願いします。メールアドレスは以下の通りです。itskit22@ybb.ne.jp
■講義計画
①自己紹介、講義内容の概説、アンケート
②基礎編１（レポートの構造、構成の作り方）
③基礎編２（レポートでよく使われる表現）
④基礎編３（自分の意見を書いてみよう、論文のモデル）
⑤基礎編４（序論の役割、問題提起）
⑥実践編１（先行研究の提示、情報収集、引用のしかた）
⑦実践編２（序論、本論、結論の作り方）
⑧実践編３（本論の書き方）
⑨実践編４（論拠の書き方、データ提示）
⑩実践編５（結論の提示）
⑪実践編６（論の展開、例示、推論）
⑫実技編１
⑬実技編２
⑭実技編３
⑮最終チェック

日本語

【担当】北川　逸子
【開講】後期　月３

■サブタイトル
研究発表（アカデミック・プレゼンテーション）
■講義概要
自分の研究を書き上げた論文、レポートの内容をほかの多くの聴衆にどのように理解してもらったらいいでしょうか。この授業では、研究内容をMicrosoft PowerPoint を使って、視覚的に分かりやすく提示する方法を実践します。
■到達目標
自分の研究内容をプレゼンテーションできること。
■講義方法
個人指導、または小グループ指導の形で、学生それぞれのテーマに即して、レポートの作成、資料さがし、視覚資料の作成を指導する。そののち、日本語での発表に向けて、話しかたの指導を行う。
1～2年生の場合は、グループで任意のテーマで行ってもよいとする。
■系統的履修
前期月曜日3講時
■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学習した論文、レポートの書き方をふまえて、自分で書いた文を次の授業前にメールで担当者に送り、添削を受ける。視覚資料についても同じ方法で送信する。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）1回の授業あたり2点で計算する。授業参加度を加味する。
レポート（40%）発表原稿、視覚資料
そ の 他（30%）研究発表
出席率67%以下の学生には単位を付与しません。毎週出席してください。
また、発表原稿、視覚資料は最終版を必ず提出してください。
■テキスト
産能短期大学　『研究発表の方法』　産能短期大学　2,233円
学生は上記のテキストを購入する必要はありません。
■参考文献
産能短期大学『大学生のための日本語』産能短期大学　2,800円
三浦香苗ほか『アカデミック・プレゼンテーション』ひつじ書房　2,200円
学生は上記の書籍を購入する必要はありません。毎回、プリントを渡します。
■履修上の注意・担当者からの一言
この授業は要求されることが多いので、学生自身の努力が大変重要です。
また、日本語については責任を持って指導しますが、専攻の内容については学部の指導教員のご指導を仰いでください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日に登校します。それ以外の日の連絡、および書いたレポートや視覚資料の添削はメールを使って送ってください。
メールアドレスは以下の通りです。itskit22@ybb.ne.jp
■講義計画
①自己紹介、研究発表とはどんなものか
②研究発表の順序、研究発表計画書を書く
③研究発表の内容アウトライン作成
④研究発表の資料を探す
⑤発表内容の執筆１
⑥発表内容の執筆２
⑦発表内容の執筆３
⑧参考文献一覧の作成
⑨視覚資料の作成１
⑩視覚資料の作成２
⑪視覚資料の作成３
⑫リハーサル１
⑬リハーサル２
⑭研究発表
⑮ふりかえり

日本の文化

【担当】泉　文明
【開講】後期　月３

■サブタイトル
京都四大行事と歳時記：京に学ぶ京を学ぶ
■講義概要
皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。
■到達目標
京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。
■講義方法
講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。
■系統的履修
〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。
■授業時間外における予・復習等の指示
休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。
■テキスト
泉　文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房　1,800円
授業時に指示及び配布プリント。
■参考文献
上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。
■講義計画
①概論
②京都の季節感・歳時記
③京の町のでき方・歴史
④京都の四大行事概観
⑤葵祭
⑥祇園祭
⑦お盆行事と五山送り火
⑧時代祭
⑨映画で学ぶ京都１
⑩映画で学ぶ京都２
⑪映画で学ぶ京都３
⑫映画で学ぶ京都４
⑬京都の京都の世界遺産・国宝・重要文化財/小京都と姉妹都市・友好都市/京ことば１
⑭京都の伝統工芸・伝統芸能・茶花香道/京ことば２
⑮総論

人間と社会と法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　木４

■サブタイトル
現代日本における人権
■講義概要
日本国憲法が保障した平等は、法的な身分制度を否定しただけではなく、社会的な階層関係をも破壊した。その結果、一方で、身分制度から解放された国民の活力は高度経済成長と均質な社会を実現したが、他方で、平等意識に基づく無節操な自己主張ははどめを失い無秩序と混乱をもたらした。いずれにしても、日本の社会は憲法制定時からあまりにも変わってしまい、いまや憲法制定者が予想もしなかった利益や自由が人権の名の下に主張されている。そこで本講義では、人権の歴史をふまえたうえで、社会的背景や訴訟理論にもふれつつ、新しい人権について裁判所の判決を中心に検討したい。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
法学入門か日本国憲法を受講していることを前提として講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
レポート（100%）出席2/3以上の者を対象とする
■テキスト
特に指定しない。
■参考文献
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成27年版』 三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①人権の歴史と分類
②憲法訴訟Ⅰ
③憲法訴訟Ⅱ
④日本国憲法の成立
⑤戦後史Ⅰ
⑥戦後史Ⅱ
⑦戦後史Ⅲ
⑧幸福追求権と新しい人権
⑨プライバシーの権利
⑩知る権利
⑪環境権
⑫自己決定権Ⅰ
⑬自己決定権Ⅱ
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

発達と教育A

【担当】松島　恵介

【開講】前期　水1

■サブタイトル

児童・青年期における発達及び教育に関わる事項に関して多角的に議論を行うと共に関連知識を習得する。

■講義概要

教職課程における実習の先行必修科目に該当する。子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という単なる受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を往来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界へと参入し始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。一般学生の受講も可。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいてその概略を理解することができる。また、それら同士が単純な因果関係で結び付けることが困難であることに関しても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

●本講義の単位を得る為には、授業前に行うべき予習（90分）、および授業後に行うべき復習（90分）が共に義務付けれられているので、必ず行なうこと。なお、これにについては時折チェックを行う。具体的には、講義内において、学生をたびたび指名することで、教員側から確認作業を講義内で行うことがあるので講義中は常に意識しておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

●定期試験（記述式。教科書･ノート他、一切持ち込み不可）･授業内レポート・授業外レポート・出席態度、これら全てにおいて、教員側が独自に設定した規定以上の条件を満たした者以外は単位を一切与えない。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績がほぼ満点であったとしても、授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなり、単位を与えないケースがあるので注意すること）。

●特に、内職や私語、居眠り等を行っている者については、即刻退場を命じるとともに、学生証の提出を求め、更に学期末に大幅な減点を行う。（なお学生証を忘れた者については、その場で所属の学部教務課へ出向き、自らの学籍番号と氏名を記載した証明書の発行を受けて来なくてはならない）

●なお学期末試験の形式については毎年変更を行うこととするが、大量の記述を要する形式となっているので、長時間で綿密な準備を要する。

★この科目はいわゆる「楽勝科目」ではない。学問的関心と向学心・強い意欲のある者のみ履修すること。講義との相性が合わなかったケースにおいては､後ほど必ず｢履修辞退｣の手続を行い、名簿からの抹消を行うことを義務付ける。

■テキスト

特になし

■参考文献

発達心理学再考のための序説　『浜田寿美男』
発達と教育の心理学―子どもは「ひと」の原点（心理学の世界 教養編）『麻生 武』
授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。

★なお、当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

①発達とは何か（序論）
②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
③発達と自我、それをめぐる教育について
④対人関係と自己の発達
⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
⑥ピアジェの発達理論・概説
⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
⑧発達と教育の接点
⑨学習・日常認知
⑩知能とは何か/障がい児の発達過程
⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
⑫発達と現代の諸問題（1）
～人間関係、とりわけ家族をめぐる問題について
⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育A

【担当】松島　恵介
【開講】前期　水2

■サブタイトル
児童期から青年期における発達と教育について多角的な知見から知識を習得するとともに、議論を深める。

■講義概要
教職課程実習の先行必修科目に該当する。子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という単なる受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を往来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界へと参入し始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。一般学生の受講も可。

■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では説明困難であることについても一定の理解を得る。

■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修
「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修のこと。

■授業時間外における予・復習等の指示
●本講義の単位を得る為には、授業前に行うべき予習（90分）、および授業後に行うべき復習（90分）が共に義務付けれられているので、必ず行なうこと。なお、これにについては時折チェックを行う。具体的には、講義内において、学生をたびたび指名することで、教員側から確認作業を講義内で行うことがあるので講義中は常に意識しておくこと。

■成績評価の方法
レポート（100%）
●定期試験（完全記述式。教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席態度、これら全てにおいて、教員側が独自に設定した規定以上の条件を満たした者以外は単位を一切与えない。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績がほぼ満点であったとしても、授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなり、単位を与えないケースがあるので注意すること）。
●特に、内職や私語、居眠り等を行っている者については、即刻退場を命じるとともに、学生証の提出を求め、更に学期末に大幅な減点を行う。（なお学生証を忘れた者については、その場で所属の学部教務課へ出向き、自らの学籍番号と氏名を記載した証明書の発行を受けて来なくてはならない）
●なお学期末試験の形式については毎年変更を行うこととするが、大量の記述を要する形式となっているので、長時間で綿密な準備を要する。
★この科目はいわゆる「楽勝科目」ではない。学問的関心と向学心・強い意欲のある者のみ受講すること。講義との相性が合わなかったケースにおいては、後ほど必ず「履修辞退」の手続を行い、名簿からの抹消を行うことを義務付ける。

■テキスト
特になし

■参考文献
発達心理学再考のための序説　『浜田寿美男』
発達と教育の心理学―子どもは「ひと」の原点（心理学の世界 教養編）『麻生 武』
授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。
★なお、当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画
①発達とは何か（序論）
②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
③発達と自我、それをめぐる教育について
④対人関係と自己の発達
⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
⑥ピアジェの発達理論・概説
⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
⑧発達と教育の接点
⑨学習・日常認知
⑩知能とは何か/障がい児の発達過程
⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
⑫発達と現代の諸問題（1）
～人間関係、とりわけ家族をめぐる問題について
⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島　恵介
【開講】後期　水1

■サブタイトル
児童・青年期における発達及び教育に関わる事項に関して多角的に議論を行うと共に関連知識を習得する。

■講義概要
教職課程実習の先行必修科目に該当する。子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という単なる受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を往来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界へと参入し始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。一般学生の受講も可。

■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいてその概略を理解することができる。また、それら同士が単純な因果関係で結び付けることが困難であることに関しても理解することができる。

■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修
「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示
●本講義の単位を得る為には、授業前に行うべき予習（90分）、および授業後に行うべき復習（90分）が共に義務付けれられているので、必ず行なうこと。なお、これにについては時折チェックを行う。具体的には、講義内において、学生をたびたび指名することで、教員側から確認作業を講義内で行うことがあるので講義中は常に意識しておくこと。

■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
●定期試験（記述式。教科書･ノート他、一切持ち込み不可）･授業内レポート・授業外レポート・出席態度、これら全てにおいて、教員側が独自に設定した規定以上の条件を満たした者以外は単位を一切与えない。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績がほぼ満点であったとしても、授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなり、単位を与えないケースがあるので注意すること）。
●特に、内職や私語、居眠り等を行っている者については、即刻退場を命じるとともに、学生証の提出を求め、更に学期末に大幅な減点を行う。（なお学生証を忘れた者については、その場で所属の学部教務課へ出向き、自らの学籍番号と氏名を記載した証明書の発行を受けて来なくてはならない）
●なお学期末試験の形式については毎年変更を行うこととするが、大量の記述を要する形式となっているので、長時間で綿密な準備を要する。
★この科目はいわゆる「楽勝科目」ではない。学問的関心と向学心・強い意欲のある者のみ受講すること。講義との相性が合わなかったケースにおいては､後ほど必ず｢履修辞退｣の手続を行い、名簿からの抹消を行うことを義務付ける。

■テキスト
特になし

■参考文献
発達心理学再考のための序説　『浜田寿美男』
発達と教育の心理学―子どもは「ひと」の原点（心理学の世界 教養編）『麻生 武』
授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画
①発達と教育を学ぶ意義（序論）
②自己意識と発達課題
③学習と自律性
④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなaど）
⑤論理構成力と発達過程
⑥社会的問題行動と発達および教育
⑦遊びと発達・教育
⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
⑨学校文化と発達
⑩隠れたカリキュラムをめぐって
⑪個性化の教育/障がい児の発達過程
⑫教育と現代的諸問題
⑬発達と現代的諸問題
⑭まとめと今後
（将来/未来における発達および教育の諸問題）の課題
⑮質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島　恵介
【開講】後期　水2

■サブタイトル
児童・青年期における発達及び教育に関わる事項に関して多角的に議論を行うと共に関連知識を習得する。

■講義概要
教職課程実習の先行必修科目に該当する。子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という単なる受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を往来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界へと参入し始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。一般学生の受講も可。

■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいてその概略を理解することができる。また、それら同士が単純な因果関係で結び付けることが困難であることに関しても理解することができる。

■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修
「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示
●本講義の単位を得る為には、授業前に行うべき予習（90分）、および授業後に行うべき復習（90分）が共に義務付けれられているので、必ず行なうこと。なお、これにについては時折チェックを行う。具体的には、講義内において、学生をたびたび指名することで、教員側から確認作業を講義内で行うことがあるので講義中は常に意識しておくこと。

■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
●定期試験（記述式。教科書･ノート他、一切持ち込み不可）･授業内レポート・授業外レポート・出席態度、これら全てにおいて、教員側が独自に設定した規定以上の条件を満たした者以外は単位を一切与えない。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績がほぼ満点であったとしても、授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなり、単位を与えないケースがあるので注意すること）。
●特に、内職や私語、居眠り等を行っている者については、即刻退場を命じるとともに、学生証の提出を求め、更に学期末に大幅な減点を行う。（なお学生証を忘れた者については、その場で所属の学部教務課へ出向き、自らの学籍番号と氏名を記載した証明書の発行を受けて来なくてはならない）
●なお学期末試験の形式については毎年変更を行うこととするが、大量の記述を要する形式となっているので、長時間で綿密な準備を要する。
★この科目はいわゆる「楽勝科目」ではない。学問的関心と向学心・強い意欲のある者のみ受講すること。講義との相性が合わなかったケースにおいては､後ほど必ず｢履修辞退｣の手続を行い、名簿からの抹消を行うことを義務付ける。

■テキスト
特になし

■参考文献
発達心理学再考のための序説　『浜田寿美男』
発達と教育の心理学―子どもは「ひと」の原点（心理学の世界 教養編）『麻生 武』
授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画
①発達と教育を学ぶ意義（序論）
②自己意識と発達課題
③学習と自律性
④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなaど）
⑤論理構成力と発達過程
⑥社会的問題行動と発達および教育
⑦遊びと発達・教育
⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
⑨学校文化と発達
⑩隠れたカリキュラムをめぐって
⑪個性化の教育/障がい児の発達過程
⑫教育と現代的諸問題
⑬発達と現代的諸問題
⑭まとめと今後
（将来/未来における発達および教育の諸問題）の課題
⑮質疑応答（総括的議論）

フランス語ＩA

【担当】瓜生　濃世
【開講】前期　水４

■サブタイトル
すぐに使えるフランス語
■講義概要
この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげると同時に初歩的な文法を学びます。教科書はパリの料理学校で学ぶ日本人が主人公となっており、食文化を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な視聴覚教材を利用してフランスの文化についても解説を行い、多様な広がりを持つ授業としていきます。
■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
平易なフランス語が理解できるようになること。
■講義方法
文法事項を解説し、発音練習を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
小テストがありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。
■成績評価の方法
小テスト（40%）
定期試験（60%）
■テキスト
藤田裕二　『タルト・タタン』　駿河台出版社　2,300円
■参考文献
辞書の購入は義務ではありませんが、仏和辞典を入手する場合は次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。
■講義計画
①第０課
②第１課
③第１課
④第２課
⑤第２課
⑥第３課
⑦第３課
⑧第４課
⑨第４課
⑩第５課
⑪第５課
⑫第６課
⑬第６課
⑭第７課
⑮まとめと復習

フランス語ＩB（2015年度以降入学生）
フランス語ＩC（2014年度以前入学生）

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　月３

■サブタイトル
さらに楽しいフランス語
■講義概要
フランス語IA（14年次生以上はIA）は基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIB（14年次生以上はIC）は、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。同時に多くの視聴覚教材を利用して、フランスの文化と歴史について、幅広い解説をしていきます。さらに、盛りだくさんの内容を誇るコンピュータ教材を用いることで、発音練習なども深めていく予定です。
■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
口頭練習を数多く取り入れることで、実践的なコミュニケーション能力を習得することを目指します。
■講義方法
CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。
■系統的履修
前期完結の授業ですが、つづけてフランス語IDも受講し、通年で学習することを目指してください。
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の内容は授業時間内に完結しますが、付録のＣＤ教材などを通じて自宅での復習を繰り返し行えば効果的です。また、CALL教室が自習用に開放されるときには、学習用ソフトウェアによる自習が可能です。
■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）
■テキスト
中川努、中井珠子、曽我祐典　『フランス語2020』　白水社　2,484円
■参考文献
仏和辞典を使用します。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。
■講義計画
次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。
Tell Me More（Auralog）
その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語ＩＢ（2015年度以降入学生）
フランス語ＩＣ（2014年度以前入学生）

【担当】森部　卓
【開講】前期　木3

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには、日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法
パソコンソフト “Tell me more” の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により､小テストに変更する場合あり。

■テキスト
藤田裕二　『パスカル・オ・ジャポン』　白水社　2,310円

■参考文献
辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に､受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。このソフトは日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
②フランスとフランス語に親しむ
③挨拶する
④発音と綴り字の説明
⑤名前、国籍、職業を言う
⑥年齢を言う、家族を語る
⑦好きなものを言う
⑧持ち物を言う
⑨友達について話す
⑩疑問詞を使ってたずねる
⑪近い未来、近い過去のことを言う
⑫時間、天候を言う
⑬数量を表す
⑭パリで出会う日本文化
⑮レストランに行く

フランス語ＩＢ（2015年度以降入学生）
フランス語ＩＣ（2014年度以前入学生）

【担当】森部　卓
【開講】前期　木4

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには、日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。

■到達目標
基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができる。
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法
パソコンソフト “Tell me more” の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により､小テストに変更する場合あり。

■テキスト
藤田裕二　『パスカル・オ・ジャポン』　白水社　2,310円

■参考文献
辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に､受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。このソフトは日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
②フランスとフランス語に親しむ
③挨拶する
④発音と綴り字の説明
⑤名前、国籍、職業を言う
⑥年齢を言う、家族を語る
⑦好きなものを言う
⑧持ち物を言う
⑨友達について話す
⑩疑問詞を使ってたずねる
⑪近い未来、近い過去のことを言う
⑫時間、天候を言う
⑬数量を表す
⑭パリで出会う日本文化
⑮レストランに行く

フランス語ⅡA（2015年度以降入学生）
フランス語ⅠB（2014年度以前入学生）

【担当】瓜生　濃世
【開講】後期　水4

■サブタイトル
すぐに使えるフランス語

■講義概要
前期の内容を引き継ぎます。この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげると同時に初歩的な文法を学びます。教科書はパリの料理学校で学ぶ日本人が主人公となっており、食文化を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な視聴覚教材を利用してフランスの文化についても解説を行い、多様な広がりを持つ授業としていきます。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
平易なフランス語が理解できるようになること。

■講義方法
文法事項を解説し、発音練習を行う。

■系統的履修
フランス語ⅠA

■授業時間外における予・復習等の指示
小テストがありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。

■成績評価の方法
小テスト（40%）
定期試験（60%）

■テキスト
藤田裕二　『タルト・タタン』　駿河台出版社　2,300円

■参考文献
辞書の購入は義務ではありませんが、仏和辞典を入手する場合は次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言
半期以上のフランス語学習の経験がある者のみ受講すること。外国語の授業は継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。

■講義計画
①前期の復習
②第８課
③第９課
④第９課
⑤第10課
⑥第10課
⑦第11課
⑧第11課
⑨第12課
⑩第12課
⑪第13課
⑫第13課
⑬第14課
⑭第14課
⑮まとめと復習

フランス語ⅡB（2015年度以降入学生）
フランス語ⅠD（2014年度以前入学生）

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】後期　月3

■サブタイトル
さらに楽しいフランス語

■講義概要
フランス語IIA（14年次生以上はIB）は基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIIB（14年次生以上はID）は、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。後期はとくにコンピュータ教材、インターネットによる演習の比率を増やしていく予定です。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
きれいな発音による、役立つフランス語の習得。

■講義方法
CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。

■系統的履修
後期完結の授業ですが、前期に開講されるフランス語ICもできれば受講しておいてください。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の内容は授業時間内に完結しますが、付録のＣＤ教材などを通じて自宅での復習を繰り返し行えば効果的です。また、CALL教室が自習用に開放されるときには、学習用ソフトウェアによる自習が可能です。

■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）

■テキスト
中川努、中井珠子、曽我祐典　『フランス語2020』　白水社　2,484円

■参考文献
仏和辞典を使用します。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。

■講義計画
次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。
Tell Me More（Auralog）
その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語ⅡＢ（2015年度以降入学生）
フランス語ＩＤ（2014年度以前入学生）

【担当】森部　卓
【開講】後期　木3

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はＩＢの続きです。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト
藤田裕二　『パスカル・オ・ジャポン』　白水社　2,310円

■参考文献
辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ＩＢの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
②一日を語る
③頼む、命令する
④店で買い物をする
⑤未来のことを語る
⑥過去のことを語る（直説法複合過去）
⑦バカンスに行く
⑧フランス語でメールを出す
⑨人や物について語る
⑩美術館に行く
⑪大人気のジャパン・エキスポ
⑫フランス留学と学生生活について
⑬乗り物に乗る
⑭感情を表現する
⑮日仏文化交流の昨今

フランス語ⅡＢ（2015年度以降入学生）
フランス語ＩＤ（2014年度以前入学生）

【担当】森部　卓
【開講】後期　木4

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はＩＢの続きです。

■到達目標
自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができる。
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト
藤田裕二　『パスカル・オ・ジャポン』　駿河台出版社　2,310円

■参考文献
辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ＩＢの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
②一日を語る
③頼む、命令する
④店で買い物をする
⑤未来のことを語る
⑥過去のことを語る（直説法複合過去）
⑦バカンスに行く
⑧フランス語でメールを出す
⑨人や物について語る
⑩美術館に行く
⑪大人気のジャパン・エキスポ
⑫フランス留学と学生生活について
⑬乗り物に乗る
⑭感情を表現する
⑮日仏文化交流の昨今

フランス語セミナーA

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　木4

■サブタイトル
フランス語を楽しく深める
■講義概要
１年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテクストとＣＡＬＬ教材を併用して、前年の学習内容を復習しつつ、その上に新しい知識を付け加えて、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。教科書では、ブルターニュ地方の文化が詳しく紹介されています。そうした文化学習にも力を入れていきます。
■到達目標
言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができる。
■講義方法
CALL教室で、視聴覚教材を用いると同時に、教科書を講読しながら、文法を学びます。
■系統的履修
前期完結の授業ですが、つづけてフランス語セミナーＢも受講されることをすすめます。
■授業時間外における予・復習等の指示
テクストの講読を中心に宿題を課します。
■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）内容については受講生と相談の上決定します。
■テキスト
小谷奈津子他 『エスプラナード２』 朝日出版社　2,200円
■参考文献
仏和辞典を持つことが望ましい。次の２点を特に勧めます。『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な参加を望みます。
■講義計画
①教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More（Auralog）を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はフランスブルターニュ地方の文化や料理を平易なフランス語で紹介するものです。
②レンヌ駅で：自己紹介と文の基本
③リース広場：関係代名詞où、形容詞の最上級
④クレープリー：命令法と部分冠詞
⑤レンヌ大学：複合過去・半過去
⑥モン・サン・ミシェル：受動態
⑦エリック・ロメール『夏物語』
⑧ブルターニュ地方の名物
⑨前期のまとめ

フランス語セミナーB

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】後期　木4

■サブタイトル
フランス語・フランス文化の理解を楽しく深める。
■講義概要
１年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテクストとＣＡＬＬ教材を併用して、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。セミナーＢでは、コンピュータ教材を利用して、会話練習をする一方、フランスの歴史・文化について学ぶことに重点を置きます。
■到達目標
言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができる。
■講義方法
CALL教室を利用します。引き続き中級文法を学ぶと同時に、視聴覚教材を通じてフランスの文化・歴史を学びます。また、希望により実用フランス語検定受験のための学習も用意します。
■系統的履修
後期完結の授業ですが、内容的にはフランス語セミナーＡと共通しています。継続した受講を勧めます。
■授業時間外における予・復習等の指示
テクストの講読を中心に宿題を課します。
■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）内容については受講生と相談の上決定します。
■テキスト
小谷奈津子他 『エスプラナード２』 朝日出版社　2,200円
■参考文献
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な参加を望みます。
■講義計画
①教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More（Auralog）を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はブルターニュ地方の文化を平易なフランス語で紹介するものです。
②前記の内容の復習・まとめ
③ケルト民族フェスティヴァル：単純未来と補語人称代名詞
④巨石文化：中性代名詞と条件法
⑤ユエルゴアでの散歩：感嘆文と大過去
⑥アーサー王伝説：接続法
⑦地獄の入り口：現在分詞とジェロンディフ
⑧ジャック・プレヴェール
⑨バラ色の花崗岩海岸：前置詞

平和学入門

【担当】宮﨑　寛
【開講】前期　水3

■サブタイトル
「ここ」と「あそこ」を繋ぐ思考

■講義概要
「平和とは何か」について考えることは、「暴力とは何か」を考えることと切り離せません。
「暴力」には、目に見えるものもあれば、見えないものもあります。個人的に直接ふるう暴力もあれば、社会・政治・経済のあり方そのものが生み出す暴力もあるでしょう。いじめや様々な差別、様々なハラスメント、経済格差、貧困、戦争･･･「暴力」の例は無数にあるようです。そして、東電福島第一原発事故以降、核・原子力と被曝もまた、暴力に関連付けながら考えていくべき重要課題です。本講義では、「平和」と「暴力」を様々な視点から考えていきます。
授業では映画や音楽などの教材も使いながら、核･ヒバクシャ、冷戦、ホロコースト、パレスチナ・イスラエル、イラク戦争などの事象を中心にとりあげていきます。同時に、これらの問題・暴力と私たちの日常生活とがどのような関係にあるのかについてもできる限り受講生のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。さらに、オルタナティブメディアをとりあげつつ多様な視点の可能性についても触れていきます。決まった「答え」がないからこそ、皆さんの自由な思考で自分なりの「平和」概念を磨いてください。
受講生が多くなった場合でも、できる限り直接みなさんと議論したいと思いますが、コミュニケーション・ペーパーも併用していきます。積極的な参加を期待します。

■到達目標
自分なりの「平和」概念を追究し始めること。普段の会話の中で、授業で扱った題材をはじめ時事問題を意識するようになること。

■講義方法
主として講義形式ですが、時々、映画・音楽などの視聴覚資料も使っていく予定です。

■系統的履修
日本と国際社会A、日本と国際社会Bなど

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で扱った内容やニュースで知った内容で気になった点があったら､積極的にメモを書きためてください｡気になった点･質問をコミュニケーション・ペーパーやメールなどでお知らせしてもらえれば、できるだけ次の授業などで議論する時間を確保したいと思います。

■成績評価の方法
小テスト（30%）第8回目の授業で実施します
レポート（70%）第1回目の授業（イントロ）で説明します

■テキスト
必要に応じてこちらで準備します。

■参考文献
必要に応じて授業中にお知らせします。

■履修上の注意・担当者からの一言
基本的にはリラックスして受講してもらうのが一番です。ただし、多数の受講生が一つの教室を共有しますので、そのことを意識し、他の受講生の学習の妨げとならないような行動･発言を心がけて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業の中でお知らせします。

■講義計画
①イントロダクション
②ヒバクシャ１
③ヒバクシャ２
④暴力とは何か
⑤冷戦（後）と原子力「平和」利用
⑥現代版植民地主義：沖縄米軍基地
⑦暴力と思考
⑧1回目～ 7回目の授業の整理：小テスト
⑨ホロコーストとは何だったのか1
⑩ホロコーストとは何だったのか2
⑪パレスチナとイスラエル
⑫パレスチナとイスラエル2：
　文化的暴力に抗して
⑬イラク戦争と世界経済
⑭オルタナティブな視点、情報、言葉
⑮まとめ

平和学入門

【担当】宮﨑　寛
【開講】後期　水3

■サブタイトル
「ここ」と「あそこ」を繋ぐ思考

■講義概要
「平和とは何か」について考えることは、「暴力とは何か」を考えることと切り離せません。
「暴力」には、目に見えるものもあれば、見えないものもあります。個人的に直接ふるう暴力もあれば、社会・政治・経済のあり方そのものが生み出す暴力もあるでしょう。いじめや様々な差別、様々なハラスメント、経済格差、貧困、戦争･･･「暴力」の例は無数にあるようです。そして、東電福島第一原発事故以降、核・原子力と被曝もまた、暴力に関連付けながら考えていくべき重要課題です。本講義では、「平和」と「暴力」を様々な視点から考えていきます。
授業では映画や音楽などの教材も使いながら、核･ヒバクシャ、冷戦、ホロコースト、パレスチナ・イスラエル、イラク戦争などの事象を中心にとりあげていきます。同時に、これらの問題・暴力と私たちの日常生活とがどのような関係にあるのかについてもできる限り受講生のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。さらに、オルタナティブメディアをとりあげつつ多様な視点の可能性についても触れていきます。決まった「答え」がないからこそ、皆さんの自由な思考で自分なりの「平和」概念を磨いてください。
受講生が多くなった場合でも、できる限り直接みなさんと議論したいと思いますが、コミュニケーション・ペーパーも併用していきます。積極的な参加を期待します。

■到達目標
自分なりの「平和」概念を追究し始めること。普段の会話の中で、授業で扱った題材をはじめ時事問題を意識するようになること。

■講義方法
主として講義形式ですが、時々、映画・音楽などの視聴覚資料も使っていく予定です。

■系統的履修
日本と国際社会A、日本と国際社会Bなど

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で扱った内容やニュースで知った内容で気になった点があったら､積極的にメモを書きためてください｡気になった点･質問をコミュニケーション・ペーパーやメールなどでお知らせしてもらえれば、できるだけ次の授業などで議論する時間を確保したいと思います。

■成績評価の方法
小テスト（30%）第8回目の授業で実施します
レポート（70%）第1回目の授業（イントロ）で説明します

■テキスト
必要に応じてこちらで準備します。

■参考文献
必要に応じて授業中にお知らせします。

■履修上の注意・担当者からの一言
基本的にはリラックスして受講してもらうのが一番です。ただし、多数の受講生が一つの教室を共有しますので、そのことを意識し、他の受講生の学習の妨げとならないような行動･発言を心がけて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業の中でお知らせします。

■講義計画
①イントロダクション
②ヒバクシャ１
③ヒバクシャ２
④暴力とは何か
⑤冷戦（後）と原子力「平和」利用
⑥現代版植民地主義：沖縄米軍基地
⑦暴力と思考2
⑧1回目～ 7回目の授業の整理：小テスト
⑨ホロコーストとは何だったのか1
⑩ホロコーストとは何だったのか2
⑪パレスチナとイスラエル
⑫パレスチナとイスラエル2：
　文化的暴力に抗して
⑬イラク戦争と世界経済
⑭オルタナディブな視点、情報、言葉
⑮まとめ

メディアにみる福祉

【担当】高田　敏司
【開講】後期　木5

■サブタイトル
暮らしを支える社会保障の今と課題
■講義概要
世界に例を見ない長寿化と少子化で、日本は人口が減り続ける「超高齢・人口減社会」に突入しています。
右肩上がりの経済成長を前提につくられた現在の社会保障制度は抜本的な見直しが迫られています。
そこで政治や行政、医療・福祉関係者、住民の中からはさまざまな動きが起こっています。
本講義では現場で取材する新聞記者の立場から、社会保障について介護や医療、年金、雇用、生活保護、地方自治などの観点から時事ニュースなどを例に解説するとともに、どのような課題があるのかも考えます。
■到達目標
福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く知り、社会生活に向けて最低限、必要な社会保障の教養が身につくようにしたいと考えます。
さらには自分の問題として福祉を考えられる手がかりを示したいと思っています。
これから高齢者が増え、大きく揺らぐ制度の影響を最も受けるのが、ほかならぬ皆さんの世代なのですから。
■講義方法
新聞記事やテレビの特集番組などを素材にして講義します。
■授業時間外における予・復習等の指示
できるだけ新聞に目を通し、社会保障関連の動向に関心を持ってください。
講義を聞き、疑問に思ったことや関心を持ったことがあれば、講義終了後でもどんどん質問してください。
■成績評価の方法
定期試験（100%）（人数によってはミニレポートを課すこともあります。その場合は試験90点、ミニレポート10点とします）
テストは自筆ノートのみ持ち込み可とする予定です
■テキスト
特になし
■参考文献
講義で適宜、紹介します
■履修上の注意・担当者からの一言
頭に残りにくいので、パワーポイントは使いません。
最低限の板書と、必要な時に配るプリントを中心に進めます。
能動的にメモを取るようにして下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問などがあれば、気軽にメールで連絡下さい
（taka8@mvd.biglobe.ne.jp）
■講義計画
①超高齢・人口減社会に生きる（ガイダンス）
②介護保険が変えた（創設の背景と仕組み）
③介護保険の抱える課題
④すすむケアの工夫（認知症の対応）
⑤日本の医療の特徴（医師不足の深層）
⑥勤務医の実態と医療事故
⑦患者が医療を変える（がん医療を中心に）
⑧先端医療の話題から
⑨どうなる年金
⑩生活保護と雇用保険（すべり台社会に）
⑪人口減少の実相と女性
⑫福祉の軸になる就労と教育
⑬バリアフリーの共生社会（障碍者福祉と住宅福祉）
⑭負担と給付の選択肢（政治の力）
⑮地域自治と支えあい（参加と再構築）

メディアにみる福祉

【担当】幸重　忠孝
【開講】後期　木2

■サブタイトル
身近なメディアから福祉を感じる
■講義概要
学生生活を過ごす中で「福祉」を身近に感じることは少ない。しかし、実は私たちの身近なところに福祉の課題や福祉サービスが存在している。この講義では､学生にとって身近なメディア（新聞､テレビ､インターネット、小説、コミックス、映画など）の中で表現されている福祉を題材に、様々な福祉課題や福祉サービスを講義を通して深めていくこととする。
■到達目標
・福祉とは身近なテーマであることを知る
・様々なメディアから福祉課題や福祉サービスを知る
・メディアによる福祉の表現の問題を学ぶ
■講義方法
講義の前半は、各回ごとのメディア教材（映画、ドラマ、コミックス、小説、インターネットなど）を紹介
※過去の講義で活用した題材
映画「誰も知らない」「ジョゼと虎と魚たち」「青い鳥」「それでもボクはやっていない」
TVドラマ「だいすき!!」「瞳」「どんまい」「僕と彼女と彼女の生きる道」「エンジン」
コミック･自叙伝『リアル』『ヘルプマン』『うさぎドロップ』『ホームレス中学生』
他各種ドキュメンタリー番組、新聞記事、ホームページ
講義の後半は、使った教材による福祉課題が何なのかと福祉サービスの解説を行う
講義終了後、課題レポートによって学生自身の考察を深める
■授業時間外における予・復習等の指示
課題コミック、映画・ドラマの視聴と課題レポート（授業内レポートとの選択）
■成績評価の方法
レポート（100%）講義時のレポート試験か講義終了後に自宅での課題レポートを選択
■テキスト
特になし
■参考文献
二通諭 『映画で学ぶ特別支援教育』 全国障害者問題研究会　1,785円
講義では使いませんが、講義で使う以外の映画もたくさん紹介解説している文献です。
■履修上の注意・担当者からの一言
1．視覚教材の視聴中に他者への迷惑になる行為を行った場合は退室も含め厳しく対処します。
2．課題で指定された映画やドラマ、コミックなどは各自でレンタルなどをして視聴してもらいます。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
教員のホームページやブログを活用
■講義計画
①オリエンテーション
②障がい者が出演する映画から学ぶ
③障がい者のためのバラエティ番組から学ぶ
④介護がテーマのドラマから学ぶ
⑤介護従事者についてドキュメンタリーから学ぶ
⑥子どもの虐待について映画から学ぶ
⑦施設で生活する子どもが描かれているドラマから学ぶ
⑧ひとり親家庭についてコミックから学ぶ
⑨子どもの貧困についてYouTubeから学ぶ
⑩生活困窮について自叙伝から学ぶ
⑪若者への福祉についてドキュメンタリーから学ぶ
⑫災害時に福祉についてドラマから学ぶ
⑬ボランティアについてゲストスピーカーから学ぶ
⑭発達障害についてゲストスピーカーから学ぶ
⑮まとめ

歴史入門

【担当】中田　裕子
【開講】前期　水2

■サブタイトル
歴史書（史料）から読む解く真実―人々はなぜ歴史を書き残そうとするのか―

■講義概要
歴史とは、過去に起こった出来事と「現代」に起こった問題の関係性を考察する学問である。この「歴史入門」では、歴史の入門編として歴史書を題材にしつつ、現代世界と深い関わりのある事柄ついて取り上げ、現在問題になっている「民族紛争」「領土問題」などを考察していく。
また、近年「グローバル化」という言葉が盛んに用いられるようになったが、はたして、それは近代に生まれた概念なのであろうか。よって、歴史に登場する様々な王朝間の交易・交流を通して、歴史からみた「グローバル化」を再考する。

■到達目標
①各時代、各地域で記された史料から世界の歴史を学ぶ。
②広い視野に立った歴史観を形成する。
③様々な立場から歴史を学ぶことで、相互に理解することのできる想像力を身につける。
④様々な文化における多様な価値観を学ぶ。

■講義方法
講義時に適宜プリントを配布し、具体的な史料等を提示しながら進めたい。場合によってDVD等も使用する。

■系統的履修
アジアの歴史と社会

■授業時間外における予・復習等の指示
予備知識として、手元に中学歴史、高校世界史の教科書があれば、上の学修内容に関連する箇所を読んでおくことを勧める。また、講義中にとったノートは、後で整理し、復習をしておこう。それらをきとんとすることによって、理解がより深まるはずである。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況とDVD等を見たあとに提出する感想・コメント文の内容評価を含む。
定期試験（70%）論述形式の試験を行う。最終的な理解を評価の対象とする。
随時出席を取る。

■テキスト
特になし

■参考文献
岡田英弘　『歴史とは何か』　文藝春秋　690円
小杉泰　『イスラームとは何か』　講談社　907円
關尾史郎　『西域文書からみた中国史』　山川出版社　729円
森安孝夫　『シルクロードと唐帝国』　講談社　2,300円

■履修上の注意・担当者からの一言
歴史学は単なる暗記物ではない。自分自身で問題意識を持って歴史に問いかけ、歴史発展の中から人間としての生き方を学び取ってほしい。

■講義計画
①ガイダンス－歴史を学ぶ意味を考えよう
②文字の歴史－歴史のはじまりをもとめて
③歴史の父ヘロドトスとギリシア・ローマ世界
④ペルシア戦争と「西洋」「東洋」の誕生～「アジア」はどのようにして生まれたか
⑤中国史上初の歴史書『史記』と司馬遷－中華王朝の歴史とは?
⑥漢帝国と遊牧民の歴史－「シルクロード」とはいつはじまったのか?
⑦出土史料から見る歴史―大谷文書と大谷探検隊
⑧遊牧民が語る「歴史」のはじまり－トルコ系遊牧民の文字－
⑨遊牧民の帝国「モンゴル」とグローバル化
⑩朝鮮の歴史と神話－朝鮮文化の形成と「朝鮮民族」
⑪日本史と歴史書のなりたち－『日本書紀』と『古事記』－
⑫「イスラーム教」を考える
⑬イスラーム国家の発展
－『アラビアンナイト』にみるイスラーム・ネットワークと「グローバル化」
⑭宗教と民族紛争－パレスチナ問題と「民族」
⑮領土・民族・国家について考える－真の「グローバル化」とは何か?

歴史入門

【担当】中田　裕子
【開講】後期　水2

■サブタイトル
歴史書（史料）から読む解く真実―人々はなぜ歴史を書き残そうとするのか―

■講義概要
歴史とは、過去に起こった出来事と「現代」に起こった問題の関係性を考察する学問である。この「歴史入門」では、歴史の入門編として歴史書を題材にしつつ、現代世界と深い関わりのある事柄ついて取り上げ、現在問題になっている「民族紛争」「領土問題」などを考察していく。
また、近年「グローバル化」という言葉が盛んに用いられるようになったが、はたして、それは近代に生まれた概念なのであろうか。よって、歴史に登場する様々な王朝間の交易・交流を通して、歴史からみた「グローバル化」を再考する。

■到達目標
①各時代、各地域で記された史料から世界の歴史を学ぶ。
②広い視野に立った歴史観を形成する。
③様々な立場から歴史を学ぶことで、相互に理解することのできる想像力を身につける。
④様々な文化における多様な価値観を学ぶ。

■講義方法
講義時に適宜プリントを配布し、具体的な史料等を提示しながら進めたい。場合によってDVD等も使用する。

■系統的履修
アジアの歴史と社会

■授業時間外における予・復習等の指示
予備知識として、手元に中学歴史、高校世界史の教科書があれば、上の学修内容に関連する箇所を読んでおくことを勧める。また、講義中にとったノートは、後で整理し、復習をしておこう。それらをきとんとすることによって、理解がより深まるはずである。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況とDVD等を見たあとに提出する感想・コメント文の内容評価を含む。
定期試験（70%）論述形式の試験を行う。最終的な理解を評価の対象とする。
随時出席を取る。

■テキスト
特になし

■参考文献
岡田英弘　『歴史とは何か』　文藝春秋　690円
小杉泰　『イスラームとは何か』　講談社　907円
關尾史郎　『西域文書からみた中国史』　山川出版社　729円
森安孝夫　『シルクロードと唐帝国』　講談社　2,300円

■履修上の注意・担当者からの一言
歴史学は単なる暗記物ではない。自分自身で問題意識を持って歴史に問いかけ、歴史発展の中から人間としての生き方を学び取ってほしい。

■講義計画
①ガイダンス－歴史を学ぶ意味を考えよう
②文字の歴史－歴史のはじまりをもとめて
③歴史の父ヘロドトスとギリシア・ローマ世界
④ペルシア戦争と「西洋」「東洋」の誕生～「アジア」はどのようにして生まれたか
⑤中国史上初の歴史書『史記』と司馬遷－中華王朝の歴史とは?
⑥漢帝国と遊牧民の歴史－「シルクロード」とはいつはじまったのか?
⑦出土史料から見る歴史―大谷文書と大谷探検隊
⑧遊牧民が語る「歴史」のはじまり－トルコ系遊牧民の文字－
⑨遊牧民の帝国「モンゴル」とグローバル化
⑩朝鮮の歴史と神話－朝鮮文化の形成と「朝鮮民族」
⑪日本史と歴史書のなりたち－『日本書紀』と『古事記』－
⑫「イスラーム教」を考える
⑬イスラーム国家の発展
－『アラビアンナイト』にみるイスラーム・ネットワークと「グローバル化」
⑭宗教と民族紛争－パレスチナ問題と「民族」
⑮領土・民族・国家について考える－真の「グローバル化」とは何か?

論理学入門

【担当】中谷　隆雄
【開講】前期　月３

■サブタイトル
練習して身につく論理学
■講義概要
講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまの形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、推論とは、「前提から結論を導き出すこと」である。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。
■到達目標
弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。
■講義方法
推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。
■授業時間外における予・復習等の指示
特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
評価は主として定期試験によって評価する。定期試験約80点（80%）、平常点約20点（20%）
■テキスト
飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂　2,000円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。
■講義計画
①論理とは何か
②推論の最小単位としての命題（文）・命題を否定する語（ない）
③命題と命題を結ぶ語（そして）
④命題と命題を結ぶ語（あるいは）
⑤命題と命題を結ぶ語（ならば）
⑥命題と命題を結ぶ語（双条件）
⑦常に真な命題；表による判定
⑧常に真な命題；図による判定
⑨推論の妥当性；表による判定
⑩推論の妥当性；図による判定（その基本）
⑪推論の妥当性；図による判定（その応用）
⑫ルールによる推論の証明（1）（そして）
⑬ルールによる推論の証明（2）（ならば）
⑭ルールによる推論の証明（3）（ない）
⑮総復習

論理学入門

【担当】中谷　隆雄
【開講】後期　月３

■サブタイトル
練習して身につく論理学
■講義概要
講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまの形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、推論とは、「前提から結論を導き出すこと」である。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。
■到達目標
弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。
■講義方法
推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。
■授業時間外における予・復習等の指示
特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
主として定期試験によって評価する。定期試験約80点（80%）、平常点約20点（20%）
■テキスト
飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂　2,000円
改定の可能性があるので、テキストは後期になってから購入すること
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。
■講義計画
①論理とは何か
②推論の最小単位としての命題（文）・命題を否定する語（ない）
③命題と命題を結ぶ語（そして）
④命題と命題を結ぶ語（あるいは）
⑤命題と命題を結ぶ語（ならば）
⑥命題と命題を結ぶ語（双条件）
⑦常に真な命題；表による判定
⑧常に真な命題；図による判定
⑨推論の妥当性；表による判定
⑩推論の妥当性；図による判定（その基本）
⑪推論の妥当性；図による判定（その応用）
⑫ルールによる推論の証明（1）（そして）
⑬ルールによる推論の証明（2）（ならば）
⑭ルールによる推論の証明（3）（ない）総復習
⑮総復習

学部内共通科目

（物質化学科）

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
エ	ＭＯＴ演習	笠嶋　聖	後期	月１	151
	ＭＯＴ概論	安藤　信行／加藤　正浩／神野友香子／谷口　清志	前期	火５	151
カ	科学技術英語	青井　芳史	後期	月２	152
	科学技術英語	岩澤　哲郎	後期	月２	152
	科学技術英語	内田　欣吾	後期	月２	153
	科学技術英語	大柳　満之	後期	月２	154
	科学技術英語	糟野　潤	後期	月２	154
	科学技術英語	白神　達也	後期	月２	155
	科学技術英語	富﨑　欣也	後期	月２	155
	科学技術英語	中沖　隆彦	後期	月２	156
	科学技術英語	林　久夫	後期	月２	156
	科学技術英語	藤原　学	後期	月２	157
	科学技術英語	宮武　智弘	後期	月２	157
	科学技術英語	和田　隆博	後期	月２	158
	化学基礎実験	宮武　智弘	後期	金３～５	158
	科学思想史	但馬　亨	前期	月２	159
	学外実習（キャリア実践実習）／学外実習	青井　芳史／岩澤　哲郎／内田　欣吾／大柳　満之／糟野　潤／白神　達也／富﨑　欣也／中沖　隆彦／林　久夫／藤原　学／宮武　智弘／和田　隆博	前期	集中	159
	環境科学	藤原　学	前期	金２	160
キ	技術者倫理	田岡　直規／細谷　陽三	前期	集中	160
	キャリアデザイン	天野　勉／上村　知子／柳生　利恵	前期	木２	161
	キャリアプランニング	矢野　隆子	前期	水１	162
ク	グローバル人材育成プログラムⅠ／海外キャリア実践教育及び実習Ａ	宮武　智弘／富﨑　欣也	前期	集中	163
	グローバル人材育成プログラムⅡ／海外キャリア実践教育及び実習Ｂ	宮武　智弘／富﨑　欣也	前期	集中	163
ケ	計算機基礎実習Ⅰ	三浦　雅展	前期	木４・木５	164
	計算機基礎実習Ⅱ	岩澤　哲郎	後期	木３・木４	164
コ	工学概論	泉田　信也	前期	木１	165
	工業経済	齊藤　進	後期	金４	165
シ	資源エネルギー論	青井　芳史	後期	金２	166
	自然観察実習	丸山　敦／辻　祥子	前期	水３～５	166
	情報学概論	杉山　久佳	前期	木５	167
	情報と職業	北林　雅俊	前期	集中	167
セ	生態学概論	山中　裕樹	後期	月２	168
	生体情報概論	椙崎　弘幸	前期	金２	168
	生物学概論Ⅰ	鈴木　孝仁	前期	月１	169
	生物学概論Ⅱ	鈴木　孝仁	後期	月１	169
	生物学実験	横田　岳人／石村　彩子／太田　真人	後期	水３～５	170
チ	地域環境概論	竺　文彦／遊磨　正秀	前期	木２	170
	地学概論Ⅰ	三上　禎次	前期	火５	171
	地学概論Ⅱ	塩野　清治	後期	水２	171
	地学実験	塩野　清治／三上　禎次	前期	水３～５	172
	地球環境概論	宮浦　富保／市川　陽一	後期	火１	172
	知的財産概論	藤河　恒生	後期	水３	173
ニ	人間工学	橋本　正治	前期	水１	173
フ	物理実験	左近　拓男	前期	月３～５	174

MOT演習

【担当】笠嶋　聖
【開講】後期　月1

■講義概要
本演習は本学卒業生が就職後においては社員・経営者両サイド視点の育成。並びに大学発ベンチャー（起業）の出来る人材育成を目指して開講する。対象者は「MOT（技術経営）概論」習得済みとし、実践的な”経営”に対する講義を行う。概要としては（1）マーケティング論　（2）財務・会計・資金調達　（3）組織論　（4）経営情報　　について応用を重視したMOT教育を執り行う。

■到達目標
経営者からの視点育成

■講義方法
本学教室での講義を行う。

■系統的履修
MOT（技術経営）概論

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
課題のレポート内容、発表・討論などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
前期開講の「MOT（技術経営）概論」の知識を前提とするため、本科目の履修登録は「MOT（技術経営）概論」の単位合格者に限る。

■講義計画
①総論
②資金調達に関する考察
③財務・会計（1）
④財務会計（2）
⑤労務管理
⑥組織論
⑦情報分析・マーケティング
⑧技術経営情報分析
⑨知的財産権
⑩エネルギー論
⑪企業評価
⑫リスク管理
⑬ビジネスプランの作成
⑭産官学連携によるイノベーション
⑮まとめ

学部内共通

MOT概論

【担当】安藤　信行、加藤　正浩、神野　友香子、谷口　清志
【開講】前期　火5

■サブタイトル
技術経営入門

■講義概要
本講義は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、（1）マーケティング・戦略論、（2）財務・会計、（3）労務・組織、（4）生産管理・情報管理・流通管理など、（5）法務・知財（特許）・標準化（品質管理など）を、バランス良く総合的に学べる内容になっている。応用を重視した実践的なManagement of Technology（MOT：技術経営）教育プログラムの構成とする。

■到達目標
技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法
各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法
レポート（100%）
講師ごとに出される課題のレポート内容などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
後期開講の「MOT演習」を受講を希望するものは、本科目を受講すること。

■講義計画
①総論
②企業経営理論（1）企業形態・株式会社
③企業経営理論（2）経営計画・マーケティング
④企業経営理論（3）経営戦略
⑤企業経営理論（4）競争戦略
⑥財務・会計（1）概論・会計原則
⑦財務・会計（2）損益計算書・貸借対照表
⑧財務・会計（3）安全性・収益性・生産性分析
⑨財務・会計（4）損益分岐点分析
⑩人事・労務・組織
⑪運営管理：生産・販売・流通・在庫・情報化
⑫法務：会社設立・運営
⑬知的所有権：特許
⑭標準化動向（品質・環境・労務）
⑮まとめ：ビジネスプランの作成方法

科学技術英語

【担当】青井　芳史
【開講】後期　月2

■講義概要
本講義では、４年生で本格的に特別研究を行うに当たり必要となってくる、専門性の高い英語の習得を目的とする。教材として英文の専門書および実際の学術論文を用い、受講者全員で読み進んでいく。単なる英語の読解にとどまらず、論文の内容に関する理解も重要である。

■到達目標
学習・教育到達目標：F2（◎）、E1（○）
４年次に行う特別研究で必要となってくる専門性の高い英語（F2）が習得でき、４年次の特別研究の内容等に関しても理解（E1）できるようになること。

■講義方法
・科学論文に特有な英語表現を学ぶことによって、学習・教育到達目標F2を達成する。
・英文の専門書および実際の学術論文を用い受講者全員で読み進めていくことによって、学習・教育到達目標E1を達成する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義までに必ず自分の担当の学術論文を読んでおくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）毎回の予習状況、発表態度
小テスト（30%）単語、英文和訳、和文英訳

■テキスト
講議時にプリントを配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
英語を単に訳すだけでは不十分です。書いてある内容を理解して初めて読めたことになります。とにかく数をこなして慣れることが大事です。面倒がらずに英文にチャレンジしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは毎週月曜日および金曜日の5講時に設けています。また、質問は随時受け付けます。

■講義計画
①科学技術英語の基礎
②英文の専門書を読む－Introduction
③英文の専門書を読む－Introduction
④英文の専門書を読む－Crystalline Versus Amorphous Solids
⑤英文の専門書を読む－Elementary Crystallography
⑥英文の専門書を読む－Traditional Versus Advanced Ceramics
⑦英文の専門書を読む－General Characteristics of Ceramics
⑧英文の専門書を読む－Applications
⑨英文の専門書を読む－The Future
⑩英語学術論文についての解説、読み方
⑪英語学術論文を読む－AbstractとIntroduction
⑫英語学術論文を読む－Experimental
⑬英語学術論文を読む－Results and Discussion
⑭英語学術論文を読む－Conclusion
⑮英語学術論文のレジュメの作成

学部内共通

科学技術英語

【担当】岩澤　哲郎
【開講】後期　月2

■講義概要
目的は「卒業研究に必要な英語の習得」及び「学術雑誌や論文に対する理解」等に置く。本講義は「物質化学研究デザイン演習」と関連付けながら進める。次年度（4年生時）の卒業研究時に必要なコミュニケーションにおける英語力、学術雑誌に記載の実験項を読解する能力を養うことに注力する。

■到達目標
学習・教育到達目標，F2（◎），E1（○）
・卒業研究の内容に深い関わりについて、実験項の英文読解を通じて学習・教育目標E1を達成する。
・卒業研究の内容に深い関わりを持つ英単語や表現方法の習得を通じて学習・教育目標F2を達成する。

■講義方法
１．配布プリントを用いて講述する。
２．英文読解の際には予習復習を前提とし、宿題を与える。

■系統的履修
化学英語演習、物質化学デザイン演習

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に力点を置く復讐の項目について説明します。また、次回講義時の範囲を説明しますので、予習の項目について説明します。

■成績評価の方法
レポート（100%）
復習に力点を置き、事前配布の英語資料に対する適切な対応を求めます。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
予習復習を丁寧かつ適切に行ってください。期日までに資料の提出を求めます。期日の順守を行ってください。

■講義計画
①ガイダンス、実験ノートにおける英語
②実験操作方法に関する英語表現
③実験ノート等に関する英語表現
④再結晶操作に関する英語表現
⑤カラム精製等に関する英語表現
⑥研究室における安全事項に必須な英単語
⑦実験器具等の使用時において必要な英語表現
⑧実験結果の報告時における英語表現
⑨研究発表における英語表現
⑩実験項における英語の基礎
⑪実験項における英語の基礎
⑫学術論文を読む際の基本的な英語表現
⑬学術論文のランク付けに関する英語
⑭学術論文のイントロダクションの読み方
⑮学術論文のイントロダクションの読み方

科学技術英語

【担当】内田　欣吾
【開講】後期　月2

■講義概要
本講義では、4年生で始まる特別研究に備え、専門性の高い英語の習得を目的とする。教材は、当研究室の研究に関連する英文総説を選び、内容を理解しながら英文和訳を進める。期末に、全学習範囲の中から、英文和訳と化学的内容を問う試験を行い、成績を評価する。

■到達目標
学習・教育到達目標：F2（◎），E1（○）
4年次に行う特別研究で必要となってくる専門性の高い英語が習得できる。これにより学習・教育到達目標F2を達成する。
また、実際の特別研究の分野の英語を教材として用いるため、4年次の特別研究の内容等に関しても理解できる。これにより学習・教育到達目標E1を達成する。

■講義方法
英文の専門書および実際の学術論文を用い受講者全員で読み進めていく。英文の和訳と共に書いてある内容に対しての説明等も同時に行う。適宜小テストを行う。

■系統的履修
物質化学研究デザイン演習

■授業時間外における予・復習等の指示
次週の英文和訳の担当箇所を指示するので、各担当者は責任をもって担当箇所を和訳し、内容を説明できるように予習しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（80%）毎授業の予習を行い、英文和訳と内容の説明ができる
小テスト（20%）学期末に全範囲から英文和訳と化学的な内容を問う試験を行う

■テキスト
講義開講前にpdfファイルでテキストを配布する。

■参考文献
Ben.L.Feringa 『Molecular Switches』 Wiley-VCH

■履修上の注意・担当者からの一言
英語を単に訳すだけでは不十分です。書いてある内容を理解して初めて読めたことになります。数多くの英文を読むことが読解力アップへの唯一の道です。

■講義計画
①英文の総説を読む（1）
②英文の総説を読む（2）
③英文の総説を読む（3）
④英文の総説を読む（4）
⑤英文の総説を読む（5）
⑥英文の総説を読む（6）
⑦英文の総説を読む（7）
⑧英文の総説を読む（8）
⑨英文の総説を読む（9）
⑩英文の総説を読む（10）
⑪学術論文の種類と内容・英文の原著論文を読む（1）
⑫英文の原著論文を読む（2）
⑬英文の原著論文を読む（3）
⑭英文の原著論文を読む（4）
⑮まとめと試験
⑯1～10回目まではフォトクロミック、ジアリールエテンの総説Chem.Rev.2014を輪読する。毎年学生のレベルにより進行速度が異なる。9～14回目は、その年の最新の論文を輪読する。論文はその年の最新のものを使うので、ここでは記載できない。

科学技術英語

【担当】大柳　満之
【開講】後期　月2

■サブタイトル
科学技術論文の読み方を習得する
■講義概要
「科学技術英語」は、来年度研究室仮配属が決定している学生に対して行う授業であるので、同じメンバー授業が行われる「研究デザイン演習」とリンクさせたかたちで行う。具体的には、研究室で取り組んでいる幾つかのプロセスに関連した基本的な学術論文を選び、論文の成り立ちを詳しく説明する。授業では、主語、述語、……原詞構文など文法的なところをしっかり抑える訓練をする。論文は、セラミックスの分野では学術的レベルの高いとされるアメリカセラミックス学会の雑誌を中心にその中から選定する。英語の読み方、音読も行う。海外からの教授が訪問されたときは、この授業にも出来るだけお呼びして、討論や講演を通して生の英語を聞く機会を積極的に企画する。
■到達目標
学習・教育到達目標：F2（◎），E1（○）
英語の学術論文を自分で探すことによって、学習・教育到達目標E1を達成し、努力さえすれば自分で読むことが出来るような技術を習得することによって､学習･教育到達目標F2を達成する。
■講義方法
学術論文は、教員が選定する。授業終了時に次回に読んで訳して来てもらう箇所を予め通知する。予習をしてきたことを前提に、その通知した部分を順番に読んでいく。先ず、一文ずつ全員で音読し、ランダムに訳してもらう人を当て、一人一文ずつ訳してもらう。最初は意味が通じなくても直訳してもらう。その後、構文など文章を解析した上で、意訳をしてもらい、最後に答えを言う。この繰り返しを行っていく。
■系統的履修
3年前期の化学英語の履修が不可欠。
■授業時間外における予・復習等の指示
与えられた学術論文の毎回指定された箇所を授業の予習・復習時に少なくとも3回は、音読の練習を行う。予習では、ノートに訳を書き、復習では、教員が訳した内容を参考にノートの別の箇所に清書する。最後に､論文すべてを項目別に訳して、図表を添付したレポートを提出する。
■成績評価の方法
レポート（100%）レポートが指示通りできているか。また、その体裁、内容、適切性を評価する。
毎回の授業での平常点を中心に評価する。
■テキスト
アメリカセラミックス学会誌などから適宜論文を選択して使用
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
この講義は、欧文学術論文の読み方を習熟することを目的としている。従って、予習を充分にやってこないと授業についていけないことを承知しておくこと。
■講義計画
①学術欧文誌論文の構成と読み方入門
②SPS of Al2O3　Abstract研究の解説
③SPS of Al2O3　Introductionと研究分野の解説
④SPS of Al2O3（Experimantal）　Starting powder and SPS process
⑤SPS of Al2O3（Experimantal）　Sintering procedure
⑥SPS of Al2O3（Experimantal）　Characterization techniques
⑦SPS of Al2O3（Results）　Temperature and time effect
⑧SPS of Al2O3（Results）　Pressure and heating rate effect
⑨SPS of Al2O3（Results）　Pulse-Sequence effect
⑩SPS of Al2O3（Discussion）　Densification
⑪SPS of Al2O3（Discussion）　Grain growth
⑫SPS of Al2O3（Discussion）　Microstructure feathures
⑬SPS of Al2O3（Discussion）　Mechanical behaviors
⑭SPS of Al2O3（Conclusion）　研究成果のまとめ
⑮レポート作成の要領の解説　全体を通した質問

科学技術英語

【担当】糟野　潤
【開講】後期　月2

■講義概要
科学技術の発達と国際化に伴い,最新の技術や研究成果の多くは,英語で発表されている。４年次の特別研究においては、これらの研究論文を読み、内容を理解する力が求められる。本講義では、化学英語演習で習得した基礎的な単語・英文に加えて専門用語の知識を増やし、学術論文の独特な言い回しに慣れるとともに、科学技術論文を読んでその内容を理解することや簡単な英文の書き方を習得する。
■到達目標
学習・教育到達目標：F2（◎），E1（○）
特別研究で必要となってくる専門性の高い英語が習得することによって、学習・教育到達目標F2を達成する。また、習得した英語力を活かして学術論文を輪読し、内容を理解して情報を収集することによって､学習･教育到達目標E1を達成する。
■講義方法
受講生全員で専門書や学術論文を読み進めるので、予習を前提とする。必要に応じて、関連する研究・技術内容や文法の説明を行う。適宜小テストを行う。毎回辞書を持参すること。
■系統的履修
化学英語演習
■授業時間外における予・復習等の指示
適宜資料を配布し、予・復習の内容を指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）予習の英文和訳を発表する。
小テスト（30%）単語、英文和訳、論文の内容を問う
毎回の予習状況、発表態度、小テストやレポートの結果を総合的に判定する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①ガイダンス（演習の進め方、学術論文の紹介）
②学術論文を読む・Abstract
③学術論文を読む・Introduction（1）
④学術論文を読む・Introduction（2）
⑤学術論文を読む・Experimental（1）
⑥学術論文を読む・Experimental（2）
⑦学術論文を読む・Results and Discussion（1）
⑧学術論文を読む・Results and Discussion（2）
⑨学術論文を読む・Results and Discussion（3）
⑩学術論文を読む・Results and Discussion（4）
⑪学術論文を読む・Results and Discussion（5）
⑫学術論文を読む・Results and Discussion（6）
⑬学術論文を読む・Conclusion（1）
⑭学術論文を読む・Conclusion（2）
⑮まとめと試験

科学技術英語

【担当】白神　達也
【開講】後期　月2

■サブタイトル
研究活動に使用する技術用語を正確に把握する。
■講義概要
近年の科学技術を学び、またみずからが情報発信していくには英語は不可欠のツールとなってきた。もはや英語は科学技術の分野で共通の言語となったといっても過言ではない。実際の英語力が必要なのはもちろんのこと、専門用語や独特の言い回しに習熟しないと主張したいことも伝えられないし、必要な情報が得られないといった事態にもなる。公教育機関で長年英語教育を受けてきて英語に自信がある人でも最初はとまどいが多いものである。本演習では特に専門の文章への「慣れ」を重視し、おのおのが全く違った英語の長文を読解することにより、よりスムーズに研究生活に入れるように訓練することを目的とする。
■到達目標
学習・教育到達目標：E1（◎）、F2（○）
科学技術の専門用語や独特の言い回しを理解することによって、学習・教育到達目標E1を達成する。
英語に対する慣れと、キーボードでの英文の早打ちを通して、学習・教育到達目標F2を達成する。
■講義方法
全員に異なるテキストを初日に提示、あるいは配布する。10人前後のセミナー方式で行う。
■系統的履修
化学英語演習
■授業時間外における予・復習等の指示
出席は予習を原則とする。予習を行わずに出席をしても、欠席あるいは遅刻扱いとする。
■成績評価の方法
レポート（100%）毎回行うレポートを採点対象とする。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
この演習は演習時間外の予習が中心となる。十分な予習を行ってこなかった人には、その当日の演習受講資格はないものと見なす。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
1号館210号室に訪ねてくれば、可能な限り対応する。
■講義計画
初日に提示する。

科学技術英語

【担当】富﨑　欣也
【開講】後期　月2

■講義概要
研究者・技術者として社会に貢献するためには、英文で記述された研究論文等から情報収集することが必須である。ここでは、4年生で始まる特別研究に備えて、英文の専門書や実際の研究論文を教材として用い、内容を理解しながら英文和訳を進める。更に、研究成果を英文で発表する際に必要となる有機合成化学および生物化学に関する和文論述の英訳にも挑戦する。
■到達目標
学習・教育到達目標：E1（○），F2（◎）
専門分野に近い内容の英文学術論文等を輪読し、化学論文特有の英語表現に慣れることによって、学習･教育到達目標Ｅ１を達成する。和文英訳の反復学習により研究者・技術者としての英語による基本的な情報交換能力を身につけることによって、学習・教育到達目標F2を達成する。
■講義方法
英文の専門書および実際の学術論文を用いて、受講者全員で英文を読み、書き、和訳する。予習を前提とし、毎週必ず発表する機会が与えられる。毎週必ず小テストを実施する。
■系統的履修
化学英語演習
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回課される宿題、レポートの作成および小テストの勉強をすること。
■成績評価の方法
小テスト（50%）英単語テスト、和文英訳テスト
レポート（50%）
毎回の予習状況、発表態度および小テストなどの結果により総合的に判定する。
■テキスト
随時指定する。
■参考文献
必要に応じて化学英語雑誌等を配布する。
■講義計画
①General Remarks
②Amino Acids and Proteins（1）: Introduction
③Amino Acids and Proteins（2）: Structures and Names
④Amino Acids and Proteins（3）: Amino Acids as Dipolar Ions
⑤Amino Acids and Proteins（4）: Synthesis of Alpha-Amino Acids
⑥Amino Acids and Proteins（5）: Resolution of DL-Amino Acids
⑦Amino Acids and Proteins（6）: Primary Structures of Polypeptides and Proteins
⑧Amino Acids and Proteins（7）: Protein and Polypeptide Synthesis
⑨Amino Acids and Proteins（8）: Secondary and Tertiary Structures
⑩Amino Acids and Proteins（9）: Alpha-Helix and Beta-Sheet Formations
⑪Molecular Structure of Nucleic Acids（1）: Watson-Crick model, Introduction
⑫Molecular Structure of Nucleic Acids（2）: Pauling-Corey Model
⑬Molecular Structure of Nucleic Acids（3）: Watson-Crick model, Results
⑭Molecular Structure of Nucleic Acids（4）: Watson-Crick model, Discussion
⑮Summary

科学技術英語

【担当】中沖　隆彦
【開講】後期　月2

■講義概要
3年生前期の「化学英語演習」で化学に関する基礎的な単語、熟語などを学んだので、後期の本授業では化学英語のアドバンスコースに位置付けて、より専門性の高い英語を学習する。教材としては実際の学術論文を用い、詳しい解説を加えながら、受講者全員で読み進んでいく。論文を読み終えると4年生で行う雑誌会と同じ形式のレジメを提出する。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1（◎），F2（○）
学術論文を読むことにより実践的なテクニックを学ぶことができ、学習・教育到達目標E1を達成する。
英語学術論文を読むことによりコミュニケーションの基礎となる語彙を増やすことができ、学習教育到達目標F2を達成する。
研究室で頻繁に使う基礎的な英語を習得すること、また実践的な学術論文を教材として用いているので4年生のセミナー（雑誌会）とのスムーズな連携が可能にする。英語ばかりではなく論文の内容についても考えながら授業を行うので論文の書き方、測定方法などについても習得する。

■講義方法
英語の和訳を事前にノートに書いてくることが原則です。それを授業時間に全員に当て、適宜解説をしながら進めていきます。

■系統的履修
化学英語演習

■授業時間外における予・復習等の指示
英語の和訳をノートに1行おきにやっておいてください。単語の復習は毎回行っておいてください。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）毎回行う日本語訳から判断する。
レポート（30%）授業の最後に雑誌会形式のレジメを提出してもらい、理解度から判断する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①学術論文の輪読にあたり、概要説明
②学術論文の輪読・Introduction 1 回目
③学術論文の輪読・Introduction 2 回目
④学術論文の輪読・Experimental 1 回目
⑤学術論文の輪読・Experimental 2 回目
⑥学術論文の輪読・Results and Discussion 1 回目
⑦学術論文の輪読・Results and Discussion 2 回目
⑧学術論文の輪読・Results and Discussion 3 回目
⑨学術論文の輪読・Results and Discussion 4 回目
⑩学術論文の輪読・Results and Discussion 5 回目
⑪学術論文の輪読・Results and Discussion 6 回目
⑫学術論文の輪読・Results and Discussion 7 回目
⑬学術論文の輪読・Conclusions 1 回目
⑭学術論文の輪読・Conclusions 2 回目
⑮輪読した論文の総括

学部内共通

科学技術英語

【担当】林　久夫
【開講】後期　月2

■講義概要
国際的な場で科学技術に関する情報を交換する場合、語学能力は不可欠である。とりわけ事実上の国際語である英語の能力は欠かせない。英語を読み、書き、聞き、話せることはいずれも必要である。これらができることを最終目標とすべきであるが、学部学生としては、科学論文の形で英語に接することが圧倒的に多い。本講では、簡単な英語の科学論文を読みこなせることを目標とする。前半では、科学技術に関する平易な内容のプリントを配布し、輪読することにより、英語の論文・解説などで用いられる言い回し・単語・慣用句などの基礎知識を確認する。後半では、学生各自が興味ある英文の科学記事・解説等を調査し、熟読の上、全員の前で発表する。

■到達目標
学習・教育到着目標：F2（◎），E1（○）
下記の項目1の能力を身につけることにより、学習･教育到達目標E1を達成する。
下記の項目2の能力を身につけることにより、学習･教育到達目標F2を達成する。
1．専門分野に近い内容の科学技術論文等を時折辞書を参照しながら読めるようになる。
2．科学論文に特有な英語表現やこれまでに学んだ英語の力を科学技術情報の交換に役立つ道具として利用できる。

■講義方法
少人数（8 ～ 12名程度）により、専門分野に近い内容の科学技術論文等を輪読する。学生は予習をしてくることを前提とし、毎週必ず発表する機会を与えられる。

■系統的履修
化学英語演習、英語セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
最低限、次回に学習する範囲の予習をしてくることを前提として授業を行うので、毎回最後に指示する範囲については、どの個所であれ、各自が自分の言葉で説明できるように準備しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
小テスト（50%）
毎回の発表態度、質問状況ならびに随時行う宿題、小テストなどの結果により総合的に判定する。

■テキスト
『随時指定する』
最初の講義のときにプリントを配布する

■参考文献
必要に応じて科学英語雑誌等を配布する

■履修上の注意・担当者からの一言
週一回の大学における演習だけでは充分な学習効果は期待できないので、予習・復習を充分に行うこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページで周知するものの他、適宜指導を行う。

■講義計画
①General Remarks for Laboratory Practices
②Precaution against Accidents and First-aid Treatement
③Accidents that may occur in Laboratory
④First-aid Treatment in Accidents
⑤Basic Elements in Chemistry Laboratory
⑥Practice for Safety
⑦Basic Techniques in Laboratory
⑧Conservation of Elements
⑨Confirmation of the Amount of Substance
⑩Molecular Mass of Gases
⑪Heat of Reaction and Hess's Law
⑫Neutrilization Titration
⑬Ionization Tendency of Metals
⑭Polymers
⑮Summary

科学技術英語

【担当】藤原　学
【開講】後期　月2

■講義概要
４年次において特別研究を行う際には、前処理や最新の分析手法を調べるために英語論文を読むことが必要になってくる。また、論文をまとめる際にも参考論文としての英語論文を収集し読むことは必須である。「科学技術英語」では、それの準備として科学に関する読み物を受講生で読み進めていく。そこでは、専門用語を学ぶとともに、科学法則の再確認も行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：F2（◎），E1（○）
科学英語に必要な英単語の意味と用法を習得するとともに、グループ内で自分の意見を発表するなど、今後理系の学生としていろいろな場面で必要とされる基本的な力を身につける。特別研究に関連した英語文献を講読することにより、分析・物理化学・環境化学についての高度な専門知識（E1）と英語によるコミュニケーション基礎技術（F2）を習得する。

■講義方法
本科目では、受講生全員で同じ英文を読み、順次訳していく。重要な単語はｂ辞書を用いて確認する。関連した事項については説明するとともに、適宜受講生の理解度をチェックする。場合によっては、テープ教材も活用し、リスニングの力を向上させる。

■系統的履修
化学英語演習

■授業時間外における予・復習等の指示
配布された資料に目を通しておくこと。また、次回授業までに単語などを調べておくこと。

■成績評価の方法
平常点（100%）課題（英文の和訳ならびに関連事項の説明）
毎回、辞書を持参すること。授業中における課題について総合的に評価する。そのため授業に積極的に参加することを求める。

■テキスト
テキストは講義中に配布する。

■参考文献
資料等は講義時に指示する。

■講義計画
①はじめに（授業の進め方の説明と単語チェック）
②課題（1）～（5）
③単語チェック・演習
④課題（6）～（9）
⑤課題（10）（11）・演習
⑥総合演習

科学技術英語

【担当】宮武　智弘
【開講】後期　月2

■講義概要
４年次の特別研究においては様々な研究論文を読み参考にすることが必須となるが、その多くは英語で書かれている。ここでは、研究論文の読解能力を身につけることを目標とし、そこで多く使われる英文表現や専門用語を実際の研究論文を題材にして学ぶことになる。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1（◎），F2（○）
研究論文で多く出てくる専門用語（英語）を身に着け、研究論文の内容を理解することで、学習・教育到達目標E1を達成する。
技術系の英文を読み、よく用いられる英文表現を学ぶことにより、学習・教育到達目標F2を達成する。

■講義方法
化学の教科書レベルの英文から読み進め、徐々に専門的な内容に移行し、最後は研究論文の読解に挑戦する。英文に書かれている内容を理解することに重きを置きながら進め、特に複雑な文章については、その文法についても解説する。

■系統的履修
化学英語演習

■授業時間外における予・復習等の指示
英語の理解には自学習が大変重要である。資料等を配布し、予復習の内容を適宜指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（60%）口頭試問
小テスト（40%）

■テキスト
特になし

■参考文献
演習時に適宜紹介する。

■講義計画
①化学英語の特徴と学習法
②英語の文型
③簡単な英作文（1）基本文型
④簡単な英作文（2）修飾語句
⑤簡単な英作文（3）関係代名詞
⑥化学英文の読解（1）基本文型
⑦化学英文の読解（2）修飾語句
⑧化学英文の読解（3）関係代名詞
⑨化学英文の読解（4）教科書を読む
⑩化学英文の読解（5）実験操作法
⑪研究論文の読解（1）研究論文の構成
⑫研究論文の読解（2）実験結果
⑬研究論文の読解（3）考察
⑭研究論文の読解（4）まとめ
⑮試験・まとめ

科学技術英語

【担当】和田　隆博
【開講】後期　月2

■講義概要
国際化時代においては、英語による情報収集と情報発信が不可欠である。それら情報収集や情報発信には、今まで中学・高校及び大学の初学年で学んできた文学的英文とは大きく異なり、たくさんの専門用語や科学的表現がはいった技術英語が用いられる。この科学技術英語では、前期で学んだ化学英語演習を基礎にして、自分自身で海外から科学や技術に関する最新情報を収集したり、情報発信するための、応用能力を身につけることをねらいとする。

■到達目標
学習・教育到達目標：F2（◎）E1（○），
科学技術に関する情報収集方法、英文の読解力、英作文力も身につけるように指導する。

■講義方法
基本的には、セミナー形式で演習を行いながら行う。

■系統的履修
化学英語演習

■授業時間外における予・復習等の指示
担当の英文の和訳は、授業中でみんなの前で発表できるように十分に予習しておくことが必用です。

■成績評価の方法
その他（100%）
授業中に実施する小テストと口頭での最終発表で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション
②科学文献の調査方法
③科学文献の整理方法
④化学英語の文章に親しもう（1）
⑤化学英語の文章に親しもう（2）
⑥化学英語の文章に親しもう（3）
⑦化学英語の文章に親しもう（4）
⑧化学英語の文章に親しもう　課題テスト
⑨化学英語の文章に親しもう（1）
　世界標準の化学テキストを読む
⑩化学英語の文章に親しもう（2）
　世界標準の化学テキストを読む
⑪化学英語の文章に親しもう（3）
　世界標準の化学テキストを読む
⑫化学論文を読みこなそう（1）
　先輩の書いた英語論文を読む
⑬化学論文を読みこなそう（2）
　先輩の書いた英語論文を読む
⑭文献紹介のためのスライド作成
⑮みんなの前で英語の化学論文を紹介しよう

化学基礎実験

【担当】宮武　智弘
【開講】後期　金3・金4・金5

■講義概要
物質を構成している元素やイオンを識別し、組成を正しく決定する化学的手法を実験を通して習得する。ここで学ぶ実験操作は、3年、4年次に実施される物質の合成・評価に関する実験の基礎であり、物質化学を学ぶ学生にとっては最も重要な基礎科目の1つである。薬品や実験器具の正しい取り扱い方を習得するとともに、実験操作の背後にある化学理論を理解し、実験結果を吟味・考察し、報告書にまとめる訓練を行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3，F1（○）
化学実験の基本操作を身に着け、自らの手で実験を行いながら、実験結果について考察することによって、学習・教育到達目標D3を達成する。
実験結果をまとめ、報告書を作成する能力を身に着けることで、学習・教育到達目標F1を達成する。

■講義方法
化学実験室で各人に配布された実験器具を用いて「化学実験書」に記載された内容の実験を個人単位で行う。また、実験結果をレポートにまとめて提出するとともに、実験内容に関する演習問題を解きながら、実験課題の理解に努める。

■系統的履修
物質化学総論、分析化学

■授業時間外における予・復習等の指示
実験の目的、内容、および試薬等の危険性をしっかりと理解した上で実験を行うことが重要であり、受講前の予習は必須である。また、実験の後のレポート作成および演習課題により、復習を行う。予習・復習の方法については、担当者より適宜指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）実験内容に関する予習および実験操作の習熟度
小テスト（10%）
レポート（70%）実験レポートおよび関連する演習問題

■テキスト
龍谷大学理工学部編「化学実験書」をガイダンス時に配付する。

■参考文献
化学同人編集部編『化学実験を安全に行うために』化学同人
化学同人編集部編『続化学実験を安全に行うために』化学同人

■履修上の注意・担当者からの一言
この講義は実験であるので原則として補講は行わない。欠席はしない事。やむを得ない理由で欠席する場合は必ず宮武（内線7467）あるいは前田（内線7593）まで連絡する事。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
随時TA、担当教員が質問を受け付ける。

■講義計画
①ガイダンス（実験に臨む心得･安全意識･レポートの書き方･基本操作・準備と後始末）・定性分析の基礎
②定性分析（１属陽イオンの系統分析）
③定性分析（２属陽イオンの系統分析）
④定性分析（３属陽イオンの系統分析）
⑤定性分析（４属陽イオンの系統分析）
⑥定性分析（５属陽イオンの系統分析）
⑦未知試料の定性分析（未知陽イオンの系統分析）
⑧容量分析の基礎
⑨容量分析（標準溶液の調製と標定）
⑩容量分析（酸塩基滴定）
⑪容量分析（酸化還元滴定）
⑫容量分析（キレート滴定）
⑬水質分析
⑭演習・実験の後始末
⑮まとめ

科学思想史

【担当】但馬　亨
【開講】前期　月2

■サブタイトル
ヨーロッパにおける近代科学・技術の成立と発展についての通史

■講義概要
現代世界において，科学・技術の問題に触れずして人類の知識総体の理解を行うことはまず不可能であろう．しかし，このように強大な影響力は古代の段階においてすでに得られていたのであろうか．当講義では，発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について，約二千年前のギリシャから遡り解説していく．なお，扱われる対象は近代の数学や物理学を主体としたいわゆる自然科学分野であるが，その他として西洋思想の諸問題についての理解が必須であるため，適宜取り上げる．

■到達目標
各時代ごとの自然科学・技術の様態について適切な歴史的認識を得ること，さらには理論的な科学発展の経過についての理解を得ること．

■講義方法
プリントなどの資料の配布に加えて，映像資料などの学習教材を使って歴史的背景について説明する．

■系統的履修
自然科学の論理

■授業時間外における予・復習等の指示
参考図書等の指示をするが，課題の考察について図書館の蔵書等を利用して自主的に調査してもらう場合もある．

■成績評価の方法
平 常 点（15%）小テストと合算で30点
小テスト（15%）平常点と合算で30点
定期試験（70%）授業で扱ういくつかの核となるべきトピックについて，その理解を問う．
テストでは論述が主体となります．

■テキスト
特になし

■参考文献
トーマス・クーン著 中山 茂訳『科学革命の構造』みすず書房 2,730円

■履修上の注意・担当者からの一言
携帯電話や私語などには厳しく対処し，場合によっては単位を取り消す可能性もあります．

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業開始時にe-mailアドレスをお伝えします．

■講義計画
①ガイダンス
②古代ギリシャ（1）：前ソクラテス期
③古代ギリシャ（2）：プラトン以降
④ヘレニズム期と古代精密科学
⑤アラビアと中世の科学
⑥初期近代（1）：万能人の思想
⑦初期近代（2）：印刷術，近代解剖学
⑧前半内容の確認
⑨科学革命の世紀（1）：理論
⑩科学革命の世紀（2）：個別事例
⑪18世紀の科学
⑫19世紀（1）：科学の組織化，制度化
⑬19世紀（2）：近代生物学の誕生
⑭現代の科学：科学の巨大化
⑮総括

学部内共通

学外実習（キャリア実践実習）（2009年度以降入学生）
学外実習（2008年度以前入学生）

【担当】青井　芳史、岩澤　哲郎、内田　欣吾、大柳　満之、糟野　潤、白神　達也、富﨑　欣也、中沖　隆彦、林　久夫、藤原　学、宮武　智弘、和田　隆博
【開講】前期　集中

■講義概要
理工学部の各学科の講義・演習・実験・実習等を通じて培っている知識を背景として、学外の企業・研究所等の現場における実務を体験する。学外実習は夏期休暇中の約2週間実施され、実習終了後に報告書の提出、報告会への参加が必要である。また実習先の企業･研究所等は大学により指定される。その他、学外実習に関する説明会が事前に実施される。

■到達目標
学習・教育到達目標：E2（◎），C1，C2，D3，F1，F3，（○）
■学外実習に参加することにより研究・開発・生産現場等の仕事を通じて学習・教育到達目標E2を達成する。
■学外実習に参加することにより大学における基礎知識習得の意義を知り、学習・教育到達目標D3を達成する。
■学外実習に参加することにより社会的訓練と人格の向上を学び、学習・教育目標C1を達成する。
■学外実習に参加することにより環境意識の高まりに対する社会的要請を学び、学習・教育目標C2を達成する。
■企業における専門知識や専門用語の習得と使用を通じて、学習・教育目標F1を達成する。
■企業における仕事上のコミュニケーションを学び、学習・教育目標F2を達成する。

■講義方法
原則として事前実習の受講および学外の企業・研究所等での実習とし、実習内容は実習先の計画による。

■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションに必ず出席すること。実習先では、担当者の方と積極的にコミュニケーションをとりながら実習を進めること。

■成績評価の方法
レポート（60%）
定期試験（40%）実習後､配属予定研究室で実習報告により判定。実習最終日に実習先に提出する報告書を実習先から大学に返送してもらうこと、および実習後に学内で開催される実習報告会への出席等により総合的に合否を判定する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
説明会には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、学生として責任ある態度をとること。実習先の指定は原則大学側が行うが、学生の積極的な進取的選定も可とする事があるので学外実習担当教員に相談すること。
＜学外実習実施委員＞
数理：高橋隆史　電子：山本伸一　　機械：永瀬純也
物質：藤原　学　情報：三浦雅展　　環境：近藤倫生

■講義計画
①３月上旬　大学より企業・研究所等へ実習受入の依頼書発送
②４月中旬　実習先希望アンケート作成・提出
③５月中旬　実習に関するオリエンテーション
④５月下旬　大学より企業・研究所等へ実習内容確認書発送
⑤６月下旬　実習先の通知・オリエンテーション
⑥７月中旬　大学より企業・研究所等へ正式依頼状発送　事前実習
⑦８月24日　学外実習実施（実習先企業等からの回答により実期間等が変更される場合があります。）～ ９月11日
⑧９月下旬　学外実習報告会（実習先企業・研究所、学生、教員が参加）については学生に直接関係する事項です。上記の予定ですが、状況により変更になる場合があります。掲示に十分注意すること。

環境科学

【担当】藤原　学
【開講】前期　金2

■講義概要
環境とは私たちが住んでいるところであり、その場所は宇宙と言っても身近な地球と言ってもよい。そこには様々な物質と生命体が存在し、相互に影響を及ぼし合って環境を変化させ続けている。生命体の活動の中でも、人間の産業活動とそれに伴うエネルギー消費が環境に与える影響は甚大である。それゆえ、私たちは人間と他の生命体及び物質との関連で環境を評価し、持続可能な人間社会の構築に向けて積極的かつ主体的に取り組む必要がある。このような視点に立って、本講では先ず身近な地球環境の現状を把握し、科学的根拠をもって理解するとともに今後取り組むべき事柄について考察する。また、過去および現在における環境問題と化学とのかかわりについても講述する。

■到達目標
学習・教育到達目標：A,B1（◎）、C2（○）
1）今日の地球規模の環境問題を直視し、科学的・客観的に理解し説明できる（A）。
2）持続可能な人間社会の実現に向けて、環境に配慮しながら化学の知識を応用する方法を知る（B1）。
3）科学技術者として環境問題を主体的にとらえ、社会が要請する倫理的行動とは何かを判断することができる（C2）。

■講義方法
毎回の講義のはじめに前回の講義のポイントを復習し、講義内容を明確にして連続性のある講義となるよう努める。板書に基づく理解しやすい講義を心掛ける。講義に関連した課題を与え、学習内容を再確認できるようにする。

■系統的履修
資源エネルギー論・物質化学科グリーンケミストリー科目

■授業時間外における予・復習等の指示
講義内容をシラバスで確認のうえ、参考書等であらかじめ予習することが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）課題
定期試験（40%）期末試験
そ の 他（30%）中間試験

■テキスト
特になし

■参考文献
木下紀正、八田明夫 『地球と環境の科学』 東京教学社 2,300円
山口勝三、菊池　立、斉藤紘一 『環境の科学』 培風館　1,950円
その他、適宜授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
科学的・客観的に地球環境の現状を理解したうえで、自分自身の問題としてどのようなことができるのかを考えてほしい。

■講義計画
①環境および環境科学とは（環境の定義と構成因子）
②環境で用いられる単位
③地球の大気（他の惑星との比較）
④大気（オゾン層とオゾンホール）・海洋と河川（日本の河川の特徴）
⑤土壌（腐植物質・日本の土壌の特徴）
⑥大気汚染物質（発生源と対策）
⑦酸性雨
⑧日本における公害の歴史（その１）
⑨中間試験
⑩日本における公害の歴史（その２）
⑪公害と技術者倫理
⑫炭素循環と地球温暖化
⑬滋賀県・琵琶湖の現状
⑭化学物質と環境
⑮まとめ

技術者倫理

【担当】田岡　直規、細谷　陽三
【開講】前期　集中

■講義概要
科学技術が人間社会や自然環境に対して与える正負の影響について理解する。また、その中で、専門職である技術者、研究者として、倫理に関わる問題に出会った場合にどのように対処すべきか、技術者、研究者の倫理、責任について理解する。さらに具体的な事例研究やグループディスカッション等を通じて、公衆の安全、公共の福祉、健康、文化、社会、環境等、様々な観点から価値を総合的に考慮する必要があることを理解し、具体的な問題解決を図る場合の、倫理的判断能力と問題解決能力の向上を図る。

■到達目標
①科学技術が人間社会や自然環境に対して与える正負の影響について理解する、②専門職である技術者として、技術者、研究者の倫理、責任について理解する、③専門職である技術者として、具体的な問題解決を図る場合の倫理的判断能力と問題解決能力を持つ、④自ら考える力を身に付ける、ことを目標とする。

■講義方法
講義に事例研究やグループディスカッション等を交えて進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
集中講義（４日間）のため、毎日講義終了時に小テスト、レポート、テストのいずれかを実施する。その際、配布資料、参考図書等持込可とする。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）グループディスカッション、発表等
小テスト（20%）集中講義４日内、１・２日目終了時
レポート（30%）３日目終了時
定期試験（30%）４日目終了時

■テキスト
特になし

■参考文献
田岡直規・橋本義平・水野朝夫編著 『技術者倫理 日本の事例と考察－問題点と判断基準を探る』 丸善出版　3,000円
杉本泰治・高城重厚 『第四版　大学講義 技術者の倫理入門』 丸善　1,700円

■履修上の注意・担当者からの一言
講義に事例研究やグループディスカッション等を交えて進め、専門職である技術者、研究者として、具体的な問題解決を図る場合の倫理的判断能力と問題解決能力を持ち、自ら考える力を身に付けることを目標とするため、積極的に討議に参加すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
集中講義のため、講義終了後にオフィスアワーを設ける。場所は原則として講義を行った教室を利用する。

■講義計画
①技術者倫理とは
②企業倫理と技術者倫理
③倫理問題解決の技法。事例討議と演習１
④事例討議と演習２
⑤技術者とは何か
⑥日米学協会倫理規程
⑦環境倫理。事例討議と演習３
⑧事例討議と演習４
⑨科学技術社会と技術者倫理
⑩原子力と技術者倫理
⑪研究倫理。事例討議と演習５
⑫事例討議と演習６
⑬技術者、研究者の行動基準
⑭技術者の継続研鑽
⑮事例討議と演習７
⑯テスト

キャリアデザイン

【担当】天野　勉、上村　知子、柳生　利恵
【開講】前期　木2

■サブタイトル
willから始める大学生活

■講義概要
キャリアデザインへの1年次生からの取り組みが自分のキャリアをつくっていく上で決定的に重要であることを実践的に学ぶ。社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生には、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要がある。大学卒業を控えた選職活動に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。この授業では、自分のキャリアをつくっていく上で、何故、そうしたという「考え方」や「知識」の基、これから君達が自分でつくる学生生活を自分の言葉で語ることがいかに重要であるかを理論的･体験的に学ぶ。その具体的な演習方法として、
●個人ワーク：自己に問いかける→考える→まとめる→書く→気づき、内省を深めて行く
●グループワーク：仲間を通じて、自分の考えやメンバーの考えを、話す→聞く→感じる→考える・気づき、自己を発見をする
また、演習を通じて考える・書く過程に必要な文章作成に対する授業も組み込んでいる。具体的には、
○大学生としての適切な文章が書ける言語的指導
○レポート、論文作成に必要な基本的な言語表現技術の習得
○レポート作成を意識した論理展開の取り組み
を基本に、正しい文章が書けることを目指す。
具体的には、文章作成の型を意識し、演習シートや振り返りシートを基に、スキル向上につなげて行く。
提出シートは､講師が励ましのコメントやスキル向上への方法等､地道な添削を行う。
＜理工学部キャリア教育＞
http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career/index.html

■到達目標
・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが「キャリアデザイン」の第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

■講義方法
授業の中では、積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワークを行いながら解説を試みる。グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分自身で、体験の中から発見・再発見･再認識し､自分の考えとして発言していき､メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。また互いの意見を発言、聞く、伝えるスタイルはコミュニケーションの訓練にもなる。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。板書量は多くないが必ずノート記入を要求する。

■系統的履修
キャリアプランニング（２年次・前期）

■授業時間外における予・復習等の指示
講師からの指示により、自己紹介の準備やプレゼンテーション授業時の資料準備がある。
また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法で厳しく行う
レポート（30%）評価基準：文章作成の基礎習得の有無及びキャリア観。
テーマはオリエンテーション時に発表
そ の 他（20%）決められた提出物を何種類か提示する。
真面目に授業に取り組み提出物を提示することにより､単位取得は可能｡従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。
テキストの中にワークシートが組み込まれているため、授業時のテキスト忘れは要注意すること。平常点に影響する。文章作成においては、他の授業のレポート作成時に必要なスキルでもあり、役立つものとなる。

■テキスト
東田晋三著 『新自分デザイン・ブックⅠ』 株式会社ドリームシップ　1,600円
生協にて販売｡部数品切れの可能性あり､早めに確保すること。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものです。キャリア開発/キャリア教育の基本が自己理解にあるのはそういう理由です。3年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みます。講義予定は、受講生の反応を見ながら柔軟に進めます。今年で11年目になるキャリア教育、学生による授業評価は、毎回受講して良かった90%以上と非常に高い評価が出ている。受講学生の積極的な発言を期待しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
キャリア講師は７名で火曜日・水曜日・木曜日に授業を行っている。授業の合間は講師控え室にて待機。

■講義計画
①オリエンテーション（評価の方法、学習のポイント等の解説）
高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを伝える。
②レポートの書き方
レポートを書く際に問題となる、段落の作り方、文をつなぐ接続詞の使い方、事実と意見の書き分け方、明確に書くために気をつけることを確認していく。
同様に､書くことを通じて｢考え｣｢気づき｣､その思いを｢ 伝える｣こともトレーニングしていく。
③自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。
④何のために大学にきたのだろう（目的）
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。
⑤大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に､スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗してもあきらめず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ
⑥伝えたい（バズコミュニケーション）
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じた。なぜ伝える･伝わるが難しいのかSMCRを通して理論的に学び、コミュ二ケーションの方法を体験し、気づきを得る。
⑦自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。
⑧協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。
⑨好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し､「世の中」と「学問・学び」について考えさせる。世の中の捉え方や、なぜ世の中に興味・関心をもつことが大切なのかを考える。
⑩失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時に、その人の値打ちが問われる。失敗した時、どういう「振り返り」をして、どういう戦略・戦術で再チャレンジしたか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標になり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。
⑪キャリアマインドをもとう
～２つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにもつながる。
⑫ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、さらに考えるということを学ぶ。
⑬勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要な事であり、目に見えない心を鍛え・磨く事を伝える。
⑭プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。
⑮Willから始まる大学生活
WillがあればMustが生まれ、Actionへと移行し、継続することによりHabitがつき、Canとなる。
自分で決めたMustから導かれるActionとHabitの検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

キャリアプランニング

【担当】矢野　隆子
【開講】前期　水1

学部内共通

■サブタイトル
自らの意志と責任で考え、キャリアを開発しよう。

■講義概要
1年次では、自分の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、大学で学ぶ目的・目標を持つことの大切さを学んだ。キャリアプランニングでは、種をまき、芽を出す意識を自らが自覚をし、自分らしさを活かして大学生活を充実させる為に、自分は何者か、どこへ行こうとしているのか、そんな自分を見つめる事からこの授業は展開する。自分の人生を可能な限り自分で納得のいくものにしていく為にも、大切なことは、最終的な目的地やそこにいたる筋道を明確にすることだけではなく、「なぜそこを目指そうとしているのかという理由や自分にとっての意味を明確」にしていくことである。変化の激しい時代であるがゆえに、自分の考えも変わることもあるが、判断に迷った時の拠り所となる「理由や意味」を明確にしていくことは、キャリア開発には欠かせない重要なことである。

その為にも、マニュアル的な発想や行動ではなく、「自分で考える力」や「自分の中身」を鍛える授業とし、これからの大学生活で何を経験しておくべきか、実際に行動を起こす為の具体的計画をたて、目標を達成するために自分でプロセスを楽しめる状態に持っていく力、それは、「なぜ」「どうやって」「どうしたら」を考え、答えを出す作業が、その力として身につくものであり、自分の言葉でその経験を熱く語れるようになる。そのためにこの授業では、課題解決型（PBL）の授業スタイルとして、キャリアに関するテーマーに基づいて、自分達の不安や問題・課題等より、問いをたてることからグループの作業が始まる。そして、実際に調査したり、文献を調べたりして行動していくことにより、自分の意見を表明することになる。議論のなかでは、様々な問いに関して絞り込みが可能となり、その問いに対して、現状は?原因は?それは有効か?効果は?リスクは?等、分割された問いに対して答えができるように調べていき、調べた事柄に基づいて自分達の意見を表明（考察）して答えを出して行く。結果を出すまでのプロセスをグループメンバーと共に協力・行動していくことに、自分で考える力や自分の中身を鍛える要素があり、かけがえのない経験が得られるものとなる。

<理工学部キャリア教育の取り組み>
http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career/index.html

■到達目標
自分の考えをしっかり持ち、自分の意見を発表することができ、議論ができること。その為に必要な事を考え、気づき、自分の中身が鍛えられ、成長できたと思えること。具体的には、
・コミュニケーション能力がつくこと
・課題解決能力がつくこと
・何事も後回しにせず、自発的に取り組める自立心が身に付くこと。

■講義方法
自分のキャリアを考える為のワークやグループでの学習がメインである。今年度より、一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、共に学び合うプロジェクト型学習を取り入れる。プロジェクトチームでの学習や行動する具体的な例として
1. テーマに沿って、達成するための自分たちの考えを出し合う。ブレーンストーミングをする。
2. 必要な情報収集や調査を行い、企画書を作成し、プレゼンテーションをする。
3. 社会に関する情報として、働くことの楽しさや、問題解決、対人関係、組織のしくみ等様々なことについて、自分達の疑問点や不安なこと等、皆さんとキャリア講師との対話を通じて、働くことの意味や価値を見いだしていく。
4. 皆に評価してもらい、実現可能な企画書にするための行動計画をたてる。役割を決める。
5. 実際に行動し実行する。管理する。中間報告を行う。
6. 更に知恵を出し合い、より良い成果を上げる方法を考え、最終成果報告とする。
7. 自らが振り返り、キャリアプランニングへと結びつけて行く。

ワークおよびディスカッションを主に、受け身の講義ではなく自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"作っていく面白さの参加型講義を行う。
また、授業のなかで「はたかちカード」を使って、自分の価値観を探っていくワークを行い、自己理解を深めていく。
これらプロジェクト型学習は、社会に出ても困らない基礎的な能力を必要とするため、グループでの活動をする中で、習得・習熟できていくものとし、また自分の課題が明確になり、今後の能力開発への目標にもなると考える。

■系統的履修
1年次キャリア授業：キャリア・デザイン
※1年次のキャリア・デザインを履修していなくても、履修登録は可能である。

■授業時間外における予・復習等の指示
講師からの指示により、宿題及び下調べとしてするべきことや資料準備等がある。（毎回ではない）具体的には
・自己紹介シート作成（随時）
・ワークシート作成（必要授業時に指示）
・グループとしての協同作業（次回授業までに消化しておくべきことの指示）等がある。
また、授業内ではワークシート作成があり、欠席した者は必ず、次回までに完成しておくこと。（授業について行けなくなるので注意を要します。規律性・責任性を仕事では基本として求められます。そのベースとなることを日常の大学生活でも身に付けることが重要である。）

■成績評価の方法
平常点（30%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法にて厳しく行う
その他（70%）決められた提出物を何種類か提示する。
試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。（どのように対処すべきか自分で考える、大人度をアップさせること）また、5章よりグループで考え・行動することになるので、互いに協調性をもって協力していくことが求められる。（この能力は仕事をするうえで、最も必要とされる能力である）キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものです。キャリア開発/キャリア教育の基本が自己理解にあるのはそういう理由です。2年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。

■テキスト
1. 授業時に使用する「はたかちカード」の購入。金額は¥450円前後授業時に徴収。
2. 授業計画のテーマに沿ったテキストを配布予定。各人、幅3センチ以上の2穴綴じ仕様のA4サイズバインダーを必ず用意すること。

※特に注意すべきこととして、授業時にワークシートの取り外し等を行う為、押さえ込み式のバインダーは絶対に持参・購入しないことを強く伝えます。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
キャリア教育の基本は、自分の能力を知り、人間性を磨くことから始まる。日頃からの言葉づかい・挨拶・礼儀作法、時間厳守は最低限のマナーとし、身に付けられることが必要である。その基本のもと、自由に発想し自らの信念に基づき主体的に行動し、結果に責任を持つことが求められる。つまり、授業を通して、日常生活や大学生活で大人度をアップさせる行動や態度を常に意識し、大人の常識を身に付け社会性を高めること。このことは、2年後に控えた就職活動に役立ち、就活を左右するものでもある。課題解決型学習（PBL）では、多くのことを学び、働く理由や意味を少しでも明確にできるよう成長した自分になってもらいたい。課題解決にあたっての資料作成では、レポート作成に最も必要な問いをたてる→調べる→分析する→自分なりの答えを出す（考察）という実践が学べることになるので、様々な能力とともに文章作成スキルが向上する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
2年次キャリア講師は4名。前期授業は火曜・水曜・木曜。授業の合間は、いずれも講師控え室にて待機。

■講義計画
①●自分について考える　オリエンテーション
②●働くベースとなるものを知る　私の勤労観と職業観
自分の勤労観・職業観を探り、ベースにあるものに気づき、発展させる。
③●自分のことを知ろう　自己理解：能力について
④●グループディスカッション
ある目的や目標に沿って議論をすることは、どの場所でも必要なことである。ディスカッションやディーベートは各人の価値観とのぶつかり合いや戦いであることを基に、理論だけではなく実際にやってみて、自ら発見することが大切である。就職試験対策のディスカッションというトレーニングだけではない、大切なことを演習を通じ自ら発見し、できるようになろう。
⑤●社会を知ろう　その1
この章より、PBL（Project-Based Learning 課題解決型学習）を行う。1グループ5～6人程度のチームを構成し、各チームのプロジェクトテーマとしては、解決方法が知られていないオープンなものを設定します。プロジェクト実行のためのフレームワークの設定、実施計画立案、プロジェクト実行を自ら行います。この過程で、皆さんは自らのキャリア開発の重要性を認識し、課題解決という目標に向かって意欲的に取り組むことにより、学習動機を強くすると同時に、通常の講義・科目では得られない実践的な力（課題解決能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力、コミュニケーション力など社会で求められる基本的な力）を身に付けることができます。
⑥●社会を知ろう　その2
・キャリア講師の経験談から社会を知る
社会について、インターネットやメディア情報だけでなく、社会経験のあるキャリア講師と、自分達の疑問とすることや知りたいことを質問確認しながら、働くということにたいしての、意味や価値に気づいていく、参加型の授業をを行う。その為にも、ただ、漠然と聞く受け身の体勢ではなく、自分達の知りたいことをグループで事前整理するなどの作業を行う。
⑦●働くを知る1：作成する
・目標設定→行動計画書作成
PBL型学習について説明を受け、社会人の話を聞いて、皆さんが疑問とすることや問題とすること等を話し合い、グループでどのような目標設定をするかをじっくり検討し、具体的に行動計画書に記入していきます。
⑧●働くを知る2：検討する　行動計画書の発表
・行動計画書→実現可能か?
行動計画書の基、目標達成に必要な情報を、どこで・いつ・どんな形で・どのように得るのか等を検討し、形にしていきます。その為の必要なことに対して、グループで役割分担等を確認し、自分達でできることや協力を求めたり支援が必要とすることなどをイメージ化していきます。また自分達の作成した行動計画書が実現可能かも
プレゼンをおこない、他のメンバー間との情報共有を行い、質問や確認を行います。
⑨●働くを知る3：行動・調査する
・現状・問題把握→解決策検討
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
⑩●働くを知る4：調査・報告する
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
⑪●働くを知る5：調査・まとめる
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
⑫●働くを理解する　調査結果最終報告　評価・振り返り
⑬●自己分析：価値観について～はたかちカードワークその1～
⑭●自己理解：価値観について～はたかちカードワークその2～
グループで語ろう
⑮●まとめ　ポートフォリオ作成　振り返り

グローバル人材育成プログラムⅠ（2011年度以降入学生）　【担当】宮武　智弘、富﨑　欣也
海外キャリア実践教育及び実習A（2009～2010年度入学生）　【開講】前期　集中

■サブタイトル
海外での実習
■講義概要
社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にある。しかしながら、日本から海外へ留学する学生減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加している。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレー周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施する。なお、現地には理工学部の教員も滞在してサポートする。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しているので、こうした企業への就職を希望している人は奮って受講すること。
＜日　　程＞　夏期休暇中のうち、2週間程度
＜募集人数＞　16名
＜費用（予定）＞　35万円程度（主に航空運賃など。航空運賃のサーチャージ等により変動することがあります。）
＜実習先企業（予定）＞　Innovation Core SEI、Senju Comtek、Neuro Skyなど
＜応募方法＞　科目の事前登録
■到達目標
働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。
海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。
■講義方法
・実習は現地の日系企業にて実施するので、主に日本語での実習となるが、英語を使う場面も当然あり得る。内容は実習先の計画による。
・実習中の滞在はホームステイを基本とする。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできる。
・実習中は理工学部教員が現地に滞在してサポートを行う。
■系統的履修
グローバル人材育成プログラムⅡ
■授業時間外における予・復習等の指示
事前学修で身につけたことを実践するとともに、ホームステイでは自分から積極的に英語で話すように心がけること。
■成績評価の方法
平常点（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。
説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。
■講義計画
①オリエンテーション・本科目の目的等の説明
②受講希望調査
③選考のための面接
④海外での実習・各実習先による実習内容

グローバル人材育成プログラムⅡ（2011年度以降入学生）　【担当】宮武　智弘、富﨑　欣也
海外キャリア実践教育及び実習B（2009～2010年度入学生）　【開講】前期　集中

■サブタイトル
事前学修および事後学修
■講義概要
海外での実習に必要な事前研修として、「中小企業研究セミナー」、「ビジネスマナー実践研修」、「英語コミュニケーション向上研修」、「実習での目的設定」などを行う。
また、実習終了後に、「事後研修」、「報告会」を行う。
■到達目標
働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。
海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。
■講義方法
【中小企業研究セミナー】
理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーを実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修する。
【ビジネスマナー実践研修】
ビジネスマナーの基本についての講義を受講した後、小クラス編成での実践練習を行う。
【英語コミュニケーション向上研修】
英会話を中心に、英語によるコミュニケーション力向上に向けた実践的な学修を行う。
【事後学修】
実習の振り返りと受講者全員の報告会を実施。
【報告会】
学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加。
※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。
■系統的履修
グローバル人材育成プログラムⅠ
■授業時間外における予・復習等の指示
英語自学自習支援のために貸し出した英語学習ソフトとノートパソコンで、自学自習を通して語学力を高めること。
■成績評価の方法
平常点（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。
事前研修および事後研修には必ず参加すること。
■講義計画
①中小企業の経営者・実務家による講義
②ビジネスマナー講座（講義・実技）
③実践英語
④海外での実習での目的等の設定
⑤海外での実習の振り返り
⑥受講者全員による実習報告
⑦学外実習（キャリア実践実習）と合同の報告会

計算機基礎実習Ⅰ

【担当】三浦　雅展
【開講】前期　木4・木5

■講義概要
この実習は、(1) インターネット上の情報を収集するためのソフトウェアの使い方、(2) 収集した情報を加工するためのソフトウェアの使い方、(3) 自分から世の中に向かって情報を発信するためのソフトウェアの使い方を身に付けることを目的とする。また、インターネットの普及によって我々の生活が非常に豊かになった反面、様々な問題点も生じている。そこで、インターネットの良い点と弊害について考え、インターネットを適切に活用するための知識をしっかりと身に付けていくことを第2の目的とする。

■到達目標
学習・教育到達目標：D1（◎）
情報の収集・加工・発信に必要な各種ソフトウェアを使いこなす能力を身に付けることができる。また、インターネットの特質を理解し、インターネットの適切な活用法を身に付けることができる。

■講義方法
各自1台のコンピュータを用いて実習形式で行う。毎回演習課題を出題する。

■授業時間外における予・復習等の指示
課題が時間内に終了しなかった場合、自習室等を用いて継続しておくこと。

■成績評価の方法
平常点（30%）
その他（70%）毎回提出する演習課題に対する達成度

■テキスト
加藤潔, 田中久弥, 飛松敬二郎, 山崎浩之 『理工系コンピュータリテラシー －MS-Office2013対応－』 共立出版　2,200円
情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ 『インターネットの光と影』 北大路書房　1,800円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
実習を中心とした授業のため、毎回の出席が必須。TA（ティーチングアシスタント）による指導補助を行なうが、自ら主体的に実施することが必須。TAに頼りすぎず自らの力で進めることを目標とせよ。また、講義時間内に課題が終了しない場合も想定されるので、自習時間も積極的に設けること。

■講義計画
①ログオン・ログオフの仕方。日本語入力。メール
②ファイル・フォルダの作成。メモ帳の使い方。ウェブからの情報収集。PowerPointの基本操作。
③Excelの使い方：基本操作
④Excelの使い方：数式
⑤Excelの使い方：データ分析
⑥Excelの使い方：応用課題
⑦Wordの使い方：基本操作
⑧Wordの使い方：Excelとの連携
⑨Powerpointによるプレゼン資料作成：作成の基本手順
⑩Powerpointによるプレゼン資料作成：他のソフトとの連携
⑪ウェブページ（HTMLファイル）の作成：基本部分
⑫ウェブページ（HTMLファイル）の作成：画像、表
⑬インターネットの活用法
⑭情報倫理
⑮まとめと最終確認

計算機基礎実習Ⅱ

【担当】岩澤　哲郎
【開講】後期　木3・木4

■講義概要
化学の分野においても、コンピュータの使用は日常的なものになっている。本科目においては、計算機基礎実習Ⅰで履修したコンピュータの基本的な知識と技術を化学の分野に応用することを主に行う。ワープロ機能を用いた一般的な文書作成やインターネットによる情報検索だけではなく、化学の分野で用いられている画像情報の取り込み、グラフ作成、化学反応式および分子構造の作成およびパワーポイントを用いた資料の作成を行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：D1（○）
化学の分野での一般的なコンピュータ利用法の習得、および、実験科目や4年次での卒業研究にて行うデータ処理や発表をスムーズに行うための基本的技法の習得を通じて、学習・教育目標D1を達成する。

■講義方法
毎回、簡潔に要点を講述した後に、課題を与える。各自コンピュータを使用して、時間内にその課題を完成させる。教員およびTAの助言を求めることも可能であるが、なるべく一人の力で解決できるように指導する。毎回宿題を与える。

■系統的履修
計算機基礎実習Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示
予習する項目、復習する項目について、重要な部分を講義時に適宜説明する。

■成績評価の方法
レポート（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
コンピュータを苦手と感じている学生の受講を歓迎する。また、毎回の宿題や課題を積極的にこなすこと学生の受講を歓迎する。

■講義計画
①PC操作技術の確認
②パワーポイントを用いた有機材料に関するスライド作成
③パワーポイントを用いた医薬品材料に関するスライド作成
④パワーポイントを用いた有名化学者に関するスライド作成
⑤Chem Drawを使う化学構造式の描き方
⑥Chem Drawを使う複雑な構造式の描き方
⑦Chem Drawを使う化学反応式の描き方
⑧Chem Drawを使う電子の動きの描き方
⑨Chem Drawを使う反応機構の描き方
⑩パワーポイントを用いたグラフの作成
⑪ワードを用いた図表の作成
⑫エクセルを用いた計算・図表の作成
⑬パワーポイントのノート機能の活用
⑭パワーポイントのアニメーションの活用
⑮パワーポイントを使うプレゼンテーションの仕方について

工学概論

【担当】泉田　信也
【開講】前期　木1

■講義概要
世の中の技術革新はめざましく、我々の身の回りに普及し、社会、経済の営みを大きく変えようとしている。技術革新で人々の暮らしは便利になった。しかし、その根底にはエネルギーという大事な問題があることも事実で東日本大震災で身近な問題となった。この講義では、まず電力とエネルギーに関連した工学技術の基礎から始め、次に、主に電気、エレクトロニクスが関係する身近にある技術革新やその原理を紹介する。また、これらの技術は、電気、機械などハード技術だけでなくソフトや材料技術など、いろいろな学問や異なる分野の技術が融合した成果であること、また、ものづくりの現場の絶え間ない開発・改良技術、量産化の技術、低コスト化技術、製品の信頼性を高める技術など、工場の生産技術も非常に重要であることを紹介し、エネルギーや物づくりの重要性を知ってもらう機会を与えることがこの講義の目的である。

■到達目標
何気なく使っている身の回りの製品にも、すごい技術が秘められていることを理解する。現代の工学技術の奥深さや、他の技術との関わり合いを知り、自分の将来の進路を考える参考とする。

■講義方法
毎回の授業が「読みきり」となる形で、昨今の新しい技術の流れの中の様々な話題を取り上げ、講義を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義では限られた時間内にいろいろな技術の内容に触れるので、重要な用語（キーワード）などは、あとで自分で調べてみること。それによって自分の知識として身につく。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回の講義の終わりに、講義でわかったこと、わからなかったことを書いて提出してもらい、それで出席とみなす。欠席届のない3回以上の欠席は平常点は0点とする。
定期試験（70%）欠席理由の如何を問わず6回以上の欠席は定期試験は受験資格無し（0点）とする

■テキスト
特になし

■参考文献
講義で紹介する

■履修上の注意・担当者からの一言
講義を聞いて理解できなかったことは、あとで質問したり、自分でインターネットや本などで調べること。講義中は私語を慎み、まず、人（講師）の話を聞く。そして疑問、質問あれば遠慮なく質問すること。

■講義計画
①日本が直面している大問題、電力とエネルギーの基礎
②電気とは。電気ができ、家庭に届くまでの仕組み
③太陽電池、太陽光発電の現状
④風力、波力、潮力、電気自動車、クリーンエネルギーの新しい創生と蓄電技術
⑤いろいろな波（光、電波、音波、地震波、津波）の性質、現象、その関連技術
⑥ますます薄くなるディスプレイ、その原理と構造
⑦スマホやデジカメの中はどうなってる?。電子機器の軽薄短小化の技術
⑧ハイテク製品の陰にレアメタルあり。材料による製品の技術革新
⑨現代の通信はどのような原理で成り立っているか、そのしくみと歴史
⑩ランプからLED、有機EL照明まで。光の革命技術
⑪身近なすごい技術、レーザー。CDからレーザー兵器まで、その原理
⑫身の回りのいろいろな電磁気・電磁誘導、その応用技術
⑬家庭に普及したパソコンやインクジェット、その原理と進歩
⑭半導体って何?、どうやって作る?、工場の中は?
⑮まとめ

工業経済

【担当】齊藤　進
【開講】後期　金4

■サブタイトル
企業で働く技術者をめざしている学生向けの工業経済

■講義概要
18世紀後半に、動力として人間を含む動物の力や、風力・水力などの自然の力を利用するだけであった時代から、蒸気機関のような機械による力も使える時代になった。その結果、工業は急速に発展し、社会構造も大きく変化した。このことを産業革命と呼んでいる。その時代以降、農業や商業に代わり、工業が経済の中心に位置することになった。
工業経済は、人間生活に使用する物資を製品として加工生産し、販売するときの経済活動を取り扱うものである。企業で働く技術者は、新製品を開発するとき、製品を生産するときなどには、意識しなくてはならない考えである。
この講義は、私の経験から、講義計画に記載した項目が技術者に必要な知識と考え、工業の歴史的な観点と工業経営の観点を含め「工業経済」として扱う。

■到達目標
技術者の業務に関連する工業経済の知識と、その知識を使って思考する能力を身につける。

■講義方法
配布資料に沿って、プロジェクターと板書を使って、講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習：現在興味のある業界や企業の経済動向と技術動向に関する情報を収集する。
復習：講義の内容を興味のある業界や企業に当てはめたとき、どのようになるか考える。

■成績評価の方法
平 常 点（45%）授業回数の3分の2以上の出席者を評価対象とし、受講態度によって評価する。
レポート（25%）講義内容を理解したかどうかの確認のために、講義終了時にミニレポートを5回+α提出してもらう。
定期試験（30%）「この講義で学んだことについて、自分の立場で説明できる。」という点を評価する。

■テキスト
配布資料をテキストとして使用する。

■参考文献
関連図書などは、配布資料に記載する。

■履修上の注意・担当者からの一言
「工業経済」は、企業に勤める技術者にとって、役立つものと確信しています。授業時間中は、授業に集中してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
疑問や質問がある場合は、講義中又は講義終了後に、話しかけてください。

■講義計画
①ガイダンス
「高校で習った（?）経済」と「経済学」
②工業発展の歴史1
（石器時代から産業革命まで）
③工業発展の歴史2
（生産方式の変遷）
④日本の工業発展経過と貿易
⑤現代日本の工業と工業経済
⑥需要と供給の均衡
⑦生産過程と製造企業の組織
⑧分業と生産可能性フロンティア
⑨製品の原価と技術者の役割
⑩生産管理と品質管理
⑪標準化と知的財産権
⑫給与体系と成果主義
⑬製品開発事例
⑭企業の社会的責任
⑮企業で働く技術者と起業する技術者
まとめ

資源エネルギー論

【担当】青井　芳史
【開講】後期　金2

■講義概要
我々の生活や文明は、その維持、発展のために多くのエネルギーを消費することによって成り立っている。これらのエネルギーの大部分は、石油、石炭、天然ガスといった化石燃料の燃焼反応により取り出された熱エネルギーの変換によっている。我々の社会を支えるための多量のエネルギー消費は、化石燃料を初めとする自然界からの資源の多量消費を伴い、資源の枯渇といった問題をはらんでいる。一方、多量のエネルギー消費により自然の許容量を超える廃棄が繰り返されることにより、自然環境の汚染・破壊が引き起こされている。このように、エネルギー論を論じるに当たっては、「資源」、「エネルギー」、「環境」の三者からの視点が必要である。本講義では、できる限り具体的な事例を中心に、資源とエネルギーの関わり、現状のエネルギー利用とその課題、新エネルギーの開発状況等を環境問題との関連をふまえて講義する。

■到達目標
学習・教育到達目標：B1（◎），C2（○）
・我々の実際の生活において利用されている「エネルギー」、「資源」の関連と、その「環境問題」への関わりを学習することによって、学習・教育到達目標B1を達成する。
・新エネルギーの開発状況を知ることにより、エネルギー資源利用の今後の展開、展望について理解することによって、学習・教育到達目標C2を達成する。

■講義方法
適時プリント資料を配付し板書を中心に講義する。
随時演習を行うと共にレポートを課す。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義後の復習をしっかり行うこと。
課題を自らの手で解くこと。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（40%）
そ の 他（40%）中間テスト

■テキスト
特になし

■参考文献
井田民男　他『熱エネルギー・環境保全の工学』コロナ社2,900円
押田勇雄『現代エネルギー工学概論』オーム社　2,900円
世良　力『資源・エネルギー工学要論』東京化学同人　2,400円

■履修上の注意・担当者からの一言
資源・エネルギーに関連した問題は実生活に密着したものであり、新聞等でも良く取り上げられる内容でもある。常にこれらのことに関心を持ち、自らの問題として取り組む姿勢を大切にして欲しい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは毎週月曜日および金曜日の5講時に設けています。また、随時質問は受け付けます。

■講義計画
①資源・エネルギー・環境保全
②エネルギーとは
③エネルギーとエクセルギー
④化石エネルギー（概論、石炭）
⑤化石エネルギー（石炭、石油）
⑥化学エネルギー（石油、天然ガス）
⑦原子力エネルギー（核分裂反応）
⑧中間テスト
⑨原子力エネルギー（原子炉）
⑩原子力エネルギー（原子炉、核燃料サイクル）
⑪自然エネルギー（水力、地熱、風力）
⑫自然エネルギー（太陽光発電）
⑬新エネルギー技術（燃料電池）
⑭新エネルギー技術（燃料電池、バイオマス）
⑮まとめ

自然観察実習

【担当】丸山　敦、辻　祥子
【開講】前期　水3・水4・水5

■講義概要
環境科学では野外における自然現象を観察し、その場で生じている事柄や問題を、科学的なデータをもとに明らかにしていく。その最も基本となるのは、自然現象の観察である。この実習では，比較的身近にある自然環境を対象に，主として植物や動物などの生物が織りなす自然現象を対象に、自然観察法の初歩を体験的に幅広く学習する。

■到達目標
野外での生物現象の観察の基本を身につける。自然観察に用いる道具類の取り扱いを学ぶ。動植物の関わり合いについて、実際の観察を通じて理解する。

■講義方法
実習は３つの班に分かれ、概ね４回ずつ一つのテーマについて実習を行う。具体的な実習テーマは初回ガイダンス時に示す。基本的に実習内容についての講義の後に実習を行うが、詳細は担当教員毎に異なる。不明な点は初回のガイダンス時に確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示
初回のガイダンス時に、授業時間以外で実施する実習内容について説明するので、指示にしたがうこと。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）実習参加状況
レポート（40%）レポート、スケッチを評価。
そ の 他（20%）積極性、自発性、協調性を総合評価。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。野外での実習には，思いがけない危険が伴う。安全のてびきを熟読し，指導者の指示に従うこと。また，実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので，事前の掲示に十分注意すること。

■講義計画
①実習ガイダンス
②３つのテーマについて４回ずつ実習を行う
③水域生物を中心とした自然観察（丸山敦）
④陸上生物を中心にした自然観察（辻祥子）
⑤人間生活と自然（林珠乃）
⑥博物館（動物園・植物園）での実習
⑦実習まとめ

情報学概論

【担当】杉山　久佳
【開講】前期　木5

■講義概要
コンピュータと情報ネットワークの基礎を解説する。まずコンピュータの発展の歴史を延べ、現代および将来の応用分野を示す。次にコンピュータシステムの基盤となる２進数と論理回路などの諸要素について解説する。情報ネットワークに関しては、その基盤となる符号化とディジタル信号処理などの要素技術を解説する。

■到達目標
コンピュータと情報ネットワークの基礎を理解するとともに、これらを統合した現代社会の基盤技術の全体像を把握することを目標とする。

■講義方法
指定した参考書を中心として進める。授業中に適宜小テストを行うことで理解度をチェックする。

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜講義中に指示する.

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
三井田他 『情報工学概論』 森北出版　2,100円

■講義計画
①コンピュータの歴史（機械式計算機）
②コンピュータの歴史（電子計算機）
③コンピュータの歴史（パーソナルコンピュータ）
④２進数の基礎
⑤２進数の演算（加減算および乗算）
⑥２進数の演算（計算機内部演算）
⑦小テスト
⑧２進数の内部表現
⑨ブール代数と演算回路（ブール代数の基礎）
⑩ブール代数と演算回路（演算回路設計）
⑪コンピュータの構成（ハードウェア）
⑫コンピュータの構成（ソフトウェア）
⑬ネットワークの基礎
⑭コンピュータネットワーク（インターネット）
⑮コンピュータネットワーク（移動体通信）

学部内共通

情報と職業

【担当】北林　雅俊
【開講】前期　集中

■サブタイトル
情報化の進展が及ぼす社会生活の変容

■講義概要
情報化の進展が社会を発展させ生活を充実させているが、同時に社会に及ぼす影響や課題も生じている。この現状を認識するとともに、情報化の進展が職業や教育に与える影響について考察する。

■到達目標
情報化社会の進展が及ぼす社会生活の変容をふまえ、更に高度化する情報化社会に柔軟にかつ、的確に対応できる能力と態度を育てる。

■講義方法
配布するプリント及び資料を用いて授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の終了時に次回の授業に必要な事項について指示するときは、事前に調べて説明できるようにしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（30%）
定期試験（40%）
試験、レポート、学習状況等を総合して評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
文部省 『高等学校学習指導要領解説　情報編』 開隆堂出版株式会社　221円

■履修上の注意・担当者からの一言
高等教員免許教科「情報」に係る科目です。

■講義計画
①ガイダンス　教科「情報」、科目「情報と職業」について
②情報化の進展と学校教育（1）情報化の進展
③情報化の進展と学校教育（2）情報教育
④情報化の進展と学校教育（3）
　情報科教員に求められる資質・能力
⑤情報化の進展と職業（1）情報化社会と情報システム
⑥情報化の進展と職業（2）働く環境の変化と労働観
⑦情報化の進展と職業（3）
　企業の情報化と求められる人材の変化
⑧日本の情報通信技術政策（1）
⑨日本の情報通信技術政策（2）
⑩日本の情報通信技術政策（3）
⑪企業における情報活用（1）
⑫企業における情報活用（2）
⑬情報化社会における犯罪と法律
⑭情報化社会における危機管理
⑮産業構造の変化と職業／情報と職業のまとめ

生態学概論

【担当】山中　裕樹
【開講】後期　月2

■講義概要
環境問題への関心が高まり、「エコ」の語は世間に溢れる。しかし、生態学（ecology）の理解は必ずしも高いとは言えない。生態学は、生物どうし、および生物と非生物的環境の間の全ての関係を扱う科学分野であり、興味の方向や時空間スケール、研究手法によって多方面に発展している。この学問を概観することで、生態学本来の可能性や、環境問題の本質を理解するための学問的基礎を得られよう。本講義では、生態学の基礎（共通）概念から始まり、進化生態学、行動生態学、社会生態学、個体群生態学、群集生態学、生態系生態学、応用生態学などについて概説する。重要キーワードの理解に重点をおき、具体的事例の紹介で理解を助ける。また、各分野の視点から、移入種、温暖化、生物多様性損失などの環境問題を考察する。

■到達目標
生態学全般についての概括的な知識を習得し、生態学の発展諸分野への興味を持つ。環境問題を生態学的に考察する重要性を知る。

■講義方法
プロジェクタを中心に行う。プロジェクタで示す内容はレジュメとして配布するが、教科書の購入および事前学習は必須である。適宜小テストを行い、習得状況を確認する。

■系統的履修
生物学序論、生物学概論、または高校「生物Ⅱ」

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）各回の講義終了後に理解度を試す課題を出し、その得点を平常点とする
小テスト（60%）合計３回実施

■テキスト
日本生態学会 『生態学入門（第2版）』 東京化学同人　2,940円
教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。第1版は内容が変更されているので注意が必要。

■参考文献
日本生態学会 『生態学事典』 共立出版　13,650円
マッキンジー、ボール、バーディー 『生態学キーノート』 シュプリンガー・フェアラーク東京　3,360円
ベゴン、タウンゼント、ハーパー 『生態学ー個体・個体群・群集の科学』 京都大学学術出版会　12,600円

■履修上の注意・担当者からの一言
パワーポイントを併用し、その内容はレジュメとして配布する。教科書の購入は正しい理解のために必須である。自学習として毎回、教科書該当部分の予習および復習を求める。講義中に発言や質問を求めることがある。

■講義計画
①生態学概観、生物の基礎知識
②進化生態学の基礎
③分子進化と生態学
④生活史の適応
⑤性の意義
⑥生理生態特性の適応
⑦行動の適応
⑧社会の適応
⑨種内競争と個体群
⑩種間競争と個体群
⑪被食・寄生と個体群
⑫種間相互作用と生物群集
⑬生態系と機能
⑭応用生態学
⑮環境変動と生態学

生体情報概論

【担当】椙崎　弘幸
【開講】前期　金2

■サブタイトル
遺伝情報とその伝達メカニズム

■講義概要
組換えDNA実験技術の発展を背景に、遺伝情報の解析が塩基配列レベルで飛躍的に進展し、細菌等の単細胞生物はもとより、ヒトに代表される高等生物の遺伝情報に対する理解が深まってきた。高次生命現象の研究までもが次々と組換えDNA実験技術を用いて発展し、新しい概念の確立、既成概念の修正がなされている。本講義では、組換えDNA実験技術の基礎となる原核生物の遺伝情報とその伝達メカニズムについての解説から始める。さらに、この技術を用いて解明された真核生物の遺伝情報とその伝達メカニズム、生体機能の発現のメカニズムについて、分子レベルで追及した研究成果を紹介する。

■到達目標
遺伝情報の発現と制御のメカニズムを学ぶことにより、細胞内での情報伝達システムの一端を知ることができる。情報科学や物理系の学科を専攻する学生にとっても理解できるように、講義を進めていく。

■講義方法
参考資料として毎回講義計画のテーマに関するプリントを配布し、パワーポイントと板書を用いて講義を進める。
参考資料はpdfとしても提供する。

■系統的履修
高等学校で履修した生物と化学の基本事項の確認

■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の理解を深めるため、毎講義開始時に配布するプリントに記載のキーワードについて、復習をしておくこと。

■成績評価の方法
定期試験（100%）筆記試験により成績を評価する。
第1学期試験期間に筆記試験をおこなう。試験に際し、参考資料（本や配布資料など）の持ち込みを許可する。

■テキスト
特になし

■参考文献
J.D. Watson et al. 『遺伝子の分子生物学』 トッパン
B. Alberts et al. 『細胞の分子生物学』 教育社
B. Lewin 『遺伝子第8版』 東京化学同人
いずれの本も旧版ではあるが、本学の図書館に完備されている。一回目の講義時に配布するプリントに遺伝情報とその伝達メカニズムに関する入門書を挙げておく。一読することを勧める。

■履修上の注意・担当者からの一言
参考文献に挙げた本は高価なので、あえて購入する必要はありません。知識をより深めたいときに、図書館に完備してある参考文献に挙げた図書を利用していただきたい。最初の講義の時に入門書を紹介します。将来生物科学を専攻したいと考えている人は参考文献の一読を薦める。

■講義計画
①遺伝物質の化学的本性
②遺伝物質の構造
③遺伝物質の複製
④遺伝物質の組換え
⑤遺伝情報の発現と制御（1）－原核生物における転写のメカニズム
⑥遺伝情報の発現と制御（2）－真核生物における転写とRNAプロセッシングのメカニズム
⑦蛋白質の構造と機能
⑧遺伝情報の発現と制御（3）－翻訳のメカニズム
⑨遺伝子系の保存
⑩組換えDNA実験技術
⑪トピックス紹介（1）がん遺伝子
⑫トピックス紹介（2）免疫系におけるゲノムの再編成
⑬トピックス紹介（3）シグナル伝達
⑭トピックス紹介（4）細胞周期の制御
⑮トピックス紹介（5）生物の形を決める遺伝情報

生物学概論Ⅰ

【担当】鈴木　孝仁
【開講】前期　月1

■サブタイトル
生体分子から細胞・個体まで
■講義概要
生物学は生物の特長である生命現象とは何か、生きているとはどういうことかなどといった問題を自然科学の言葉で理解しようとする学問分野である。本講義では、まず生物体を構成する分子と生物の基本単位である細胞をとりあげ、細胞が示す普遍的な構造と機能について説明する。生物は生命維持のため、どのように自己複製をし、新しい個体を形成するか。その際、どのようにして、個々の生物は特異性を維持するのか、その物質的背景は何かなどについて、一年を通して論じるので、生物学概論Ⅰ、生物学概論Ⅱ、両方を選択されるのが望ましい。
■到達目標
昨今、生物学および生物学を基礎にした医学・生命科学の知識は飛躍的に増えている。そこで、生命とそれが示す生命現象を自然科学的な観点・視野からも考えられるようになって欲しい。単なる知識の披瀝ではなく、底流に流れる方法論や実験観察から導かれる法則性を理解してほしい。
■講義方法
講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義はプロジェクターを用い、教科書とその内容を補うための配布プリントに基づいて行う。随時、最先端の話題についても言及する。
■系統的履修
生物学、とくに分子生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。
■授業時間外における予・復習等の指示
大学の講義の一時間には二時間の予習と復習の時間が課されている。従って、私は講義時間に大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
丸山工作・丸山敬　『生命科学入門』　東京教学社　2,484円
■参考文献
鈴木孝仁『改訂版フォトサイエンス生物図録』数研出版　916円
その他の参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義終了時にしてください。
■講義計画
①生物の階層構造、系統と分類
②生体構成物質１：水、糖質、脂質
③生体構成物質２：核酸と遺伝子
④生体構成物質３：タンパク質
⑤遺伝子の転写と翻訳
⑥メンデル遺伝学（古典遺伝学）
⑦プラスミドと遺伝子工学
⑧細胞生物学１：真核生物と原核生物
⑨細胞生物学２：細胞内輸送と細胞小器官
⑩細胞生物学３：ミトコンドリアとエネルギー代謝
⑪細胞生物学４：葉緑体と光合成
⑫細胞生物学５：細胞骨格と運動
⑬細胞生物学６：核分裂と細胞分裂
⑭細胞生物学７：細胞周期と癌
⑮生物学概論Ⅰの復習

生物学概論Ⅱ

【担当】鈴木　孝仁
【開講】後期　月1

■サブタイトル
細胞・個体から個体集団まで
■講義概要
生物学概論Ⅰの講義内容に続き、生物個体はどのような調節機構のもとで成体になるのか、また、それぞれの種の生物の形体や機能の特異性や変異性はどのようにして生じ、維持されるのか、その物質的基礎は何か。生物体の恒常性は、どのようなシステムのもとで維持されているのか。生命の誕生とその後の発展はどのようにて起ったと考えられているのか。動物の行動のもつ意義は何かなど、広範な分野について概観し、解説する。
■到達目標
生物学領域の知識は飛躍的に増え、様々なバイオテクノロジーの分野へ応用され始めている。この講義を通じて 生物の関わる現象を多面的に学んで欲しい。
■講義方法
講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義は、プロジェクターを使用し、配布プリントを中心に行い、教科書も補足的に使用する。話題性のある項目も取り上げる。
■系統的履修
生物学概論Iから発展した内容となっている。内容を十分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。
■授業時間外における予・復習等の指示
大学の講義の一時間には、二時間の予習と復習の時間も課されている。従って、予習・復習を通じて知識を補い、自分で考え、問題提起を試みて欲しい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
山工作・丸山敬　『生命科学入門』　東京教学社　2,484円
■参考文献
鈴木孝仁　『改訂版フォトサイエンス・生物図録』　数研出版社　916円
その他参考図書やWEBサイトは随時講義中に知らせる。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義終了時。それ以外の時間はメールアドレス（takahito@cc.nara-wu.ac.jp）まで。
■講義計画
①原核生物の遺伝子発現調節
②真核生物の遺伝子発現調節
③動物の生殖と配偶子形成、受精
④動物の発生と分化
⑤植物の発生と生殖
⑥植物の形態形成と植物ホルモン
⑦動物の神経系の発達・構造・機能
⑧脳と神経、感覚器官の機能
⑨動物の内分泌系Ⅰ
⑩動物の内分泌系Ⅱ
⑪動物の行動と神経生物学
⑫生体防御の仕組みと免疫学Ⅰ
⑬生体防御の仕組みと免疫学Ⅱ
⑭生物進化と集団遺伝学
⑮生物学概論Ⅱの総括と復習

生物学実験

【担当】横田　岳人、石村　彩子、太田　真人
【開講】後期　水３・水４・水５

■講義概要
生命活動は生物の示す多様な形態と機能の上に成り立っている。それがどのようにして維持されているのかについては、形態学、細胞学、発生学、生理学、生化学、遺伝学、生態学などの視点から研究されている。
本実験では、適切な材料を選び、種々な生物学的な研究方法を用いて、生物の示す生活活動の諸相について調べる。

■到達目標
学習・教育目標：D3，F1（◎）
多分野にわたるこの実験を通し、生物体の構造が多様で変異に富むこと、生物間の相互作用や生育環境に対して示す生物の適応性などについて、基本的なことを身に付ける。

■講義方法
実験に先だって、実習の目的・内容・意義・方法を説明したあと、個別･グループで実験する。授業計画の項目によっては、複数回にわたる場合もある。学習内容は天候など諸種の条件で順序が変更されることがある。

■系統的履修
生物学概論Ⅰ，生物学概論Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示
実験に関しては、講義（生物学概論Ⅰ，生物学概論Ⅱ）で触れない項目もあるので、実験後、用いた生物や実習に関連した事項について復習してください。

■成績評価の方法
その他（100%）
平常点、レポートの提出をもって評価する。

■テキスト
実験開始前に資料を用意し配布する。

■参考文献
必要に応じ、資料は用意する。

■履修上の注意・担当者からの一言
生物学の実験では、どうしても生きているものの生命を奪わねばならないことがある。実験を通して、生物学の知識、研究の手段や技術を学ぶ以上に、命の尊厳、生きているということの意義に深く思いをいたし、真面目に実験に取り組んで欲しい。

■講義計画
①実験開始にあたって、顕微鏡の使用法
②魚種と生息数調査１：捕獲と標識
③魚種と生息数調査２：再捕獲
④魚種と生息数調査３：データーの整理
⑤野外観察：里山の植相調査
⑥植物の気孔の観察と気孔数の調査
⑦原形質分離と浸透圧の測定
⑧鳥類の観察（野山の鳥／水鳥）
⑨生体反応の温度依存性
⑩比較形態学１：マウスの解剖
⑪比較形態学２：アメリカザリガニの解剖
⑫ペーパークロマトグラフを用いた光合成色素の分離
⑬体細胞分裂の観察
⑭唾液腺染色体の観察
⑮植物維管束系の観察

地域環境概論

【担当】竺　文彦、遊磨　正秀
【開講】前期　木２

■講義概要
一定の地域における汚濁発生源が水域に流入し、あるいは、廃棄物となって、地域の環境レベルを決定していく。生物においては、これらの無機的環境の中において、動物、植物が、生態系を構成し、総合的な環境が形成されている。これらの地域における無機的環境、生物的環境について述べる。たとえば、琵琶湖においては、流域の様々な汚濁物質、汚染物質が河川を通じて湖に流入し、琵琶湖の水質を形成していくため、陸域の汚濁源が問題となる。これらの琵琶湖に関連する環境を中心に解説していく。

■到達目標
地域における物理・化学的、生物的環境について基礎的な理解をする。

■講義方法
パワーポイント、プリント等を用いて講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義内容に関連する新聞記事，雑誌記事，ウェブニュースを熟読し，その内容について日常を通じて理解を深める努力をする。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）受講状況等による
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①地域環境とは何か
②流域における水質汚濁源
③湖への汚濁源流入プロセス
④琵琶湖の水質変化
⑤湖内での水質形成プロセス
⑥地域での有機物発生源
⑦廃棄物処理・循環プロセス
⑧流域における水環境の考え方
⑨古代湖としての琵琶湖流域
⑩流域の水利用とダム
⑪流域におけるダムの効用
⑫流域におけるダムの問題点
⑬流域における水利用
⑭世界の水の授受（仮想水）
⑮地域の水環境を科学する

地学概論Ⅰ

【担当】三上　禎次
【開講】前期　火5

■サブタイトル
美しき地球
■講義概要
地球表層で起こる気象現象や，地球を構成しているものについて学習する．その上で．地球のシステムが自然の道理の中で出来上がっている素晴らしいものであることを学習する．
■到達目標
地球科学の基礎を学び，さまざまな地球科学的自然現象が，災害や環境，資源と深くかかわっていることを認知し，その重要性を知ることを目標とする．
■講義方法
講義形式でパワーポイントを用いて行う．適宜プリントを使用する．
一部ディスカッションまたは簡単なフィールドワークを取り入れる可能性あり．
■授業時間外における予・復習等の指示
普段から地球科学にまつわる時事のニュースや，
読書，博物館等での社会教育学習にも積極的に取り組むことが望ましい．
■成績評価の方法
平 常 点（50%）コメントペーパーの内容も加味する
定期試験（50%）
煩わしい私語や著しい遅刻，その他授業態度が良くない場合は，成績に大きく響く可能性大．受講を認めない場合もある．
■テキスト
特になし
■参考文献
『ニューステージ　新地学図表』 浜島書店　853円
図表集は出来る限り購入することが望ましい．
その他，必要な書籍は授業時に紹介する．
■講義計画
①－大気と気候－
②－雲と天気図・気象現象－
③ディスカッション
④太陽系での地球の成り立ちや他の惑星との違い
⑤－地球の測り方・調べ方－
⑥－地球内部の構造－
⑦火山の種類や噴火の形態，マグマの性質
⑧火成岩岩石の分類や構成している鉱物
⑨堆積構造の種類と出来方，そこからわかる堆積環境
⑩堆積岩に関する基礎
⑪化石の進化とその見方，その意義
⑫変成作用とそれらの分類
⑬ディスカッション
⑭日本のジオパーク，世界のジオパーク
⑮地球科学を学ぶ意義

学部内共通

地学概論Ⅱ

【担当】塩野　清治
【開講】後期　水2

■サブタイトル
変動する地球
■講義概要
2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震の大被害を経験して、地震に備えるための防災・減災対策の必要性が広く認識されるようになった。なぜM9.0という超巨大地震が起こったのか。同じような巨大地震が西日本でも起こる危険性はないのか。起こるとすればいつごろか。流言・飛語に惑わされることなく、事態を正しく認識するには、変動する地球の実態（過去と現在）を正しく理解しておく必要がある。この講義では地球の内部構造や誕生してから現在に至る歴史について研究史を交えながら概観したのち、ヴェーゲナーによる大陸移動説がプレートテクトニクスとよばれる、様々な地学現象を総合的に理解するパラダイム（共通認識）へと発展していく歴史的経過をたどりながら、変動する地球についての基礎知識を体系的に学修する。最後にその観点から西日本に住む我々にとって無視することにできない次の南海地震の必然性について考える。
■到達目標
宇宙・太陽系・地球に関する基礎知識を習得する。特に地球上で発生する様々な地学現象を長期的視点にたって総合的に理解するための基礎的知識を身につけること。
■講義方法
講義内容に関連する資料（Work Sheet）を配布する。その資料とパワーポイントを使用しながら講義を進める。配布資料や使用したパワーポイントはPDF形式で講義計画の資料からダウンロードできる。
■系統的履修
地学概論Ⅰ、地学実験、力学、物理学、数学、化学
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の授業の最後に復習問題を課す。問題の解答は授業中に指定する時期（4回）にまとめて提出すること。予習が必要な場合は適宜指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）復習問題のレポート（４回）の成績
定期試験（50%）筆記試験の成績
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
毎回復習問題を課すので欠席しないように。授業中、講義に集中している者への迷惑行為（私語、携帯電話、飲食など）は慎むこと。疑問な点があれば授業中に積極的に発言してほしい。数値計算をする場合があるので電卓を持参すること。
■講義計画
①太陽系の惑星：地球型惑星と木星型惑星
②地球の形と大きさ：メートル単位の起源
③地球楕円体とジオイド：標高の基準
④アイソスタシー：大陸と海洋の違い
⑤地殻とマントル：モホロビチッチ不連続面
⑥地球の深部構造：地殻・マントル・核
⑦地層と化石：地質年代
⑧放射年代：地球の年齢
⑨地球全史：地球の誕生から人類の誕生まで
⑩大陸移動説：ヴェーゲナーの提唱
⑪地球の磁場：大陸移動説の復活
⑫海嶺と海溝：海洋底拡大説
⑬地磁気異常の縞模様：海洋底拡大説の検証と展開
⑭プレートテクトニクス：プレートの誕生・移動・消滅
⑮大地震への備え：南海地震の必然性

地学実験

【担当】塩野　清治、三上　禎次
【開講】前期　水３・水４・水５

■講義概要
地学に関する基礎的な実験のなかから、授業計画に示す課題を取り上げて実施する。実験の前にその内容（意義、理論と方法）を解説し、ついで個別またはグループで実験を行う。室内実験だけでなく野外での平板測量や地質巡検を組み入れているため､天候によっては日程や内容を組み替えることがある。

■到達目標
室内実験と野外実習を通じて、地球を理解するため観察法・測定法・実験法・解析法の基礎を習得する。

■講義方法
実験課題ごとにプリントを配布し、これを参考にして実験方法を説明する。その後、個別またはグループで実験を行うが、課題５～12は２班に分けて並行実施する。実験ごとのレポートは授業終了時に提出する場合と次回の授業開始時に提出する場合がある。

■系統的履修
地学概論Ⅰ、地学概論Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示
実験内容を説明するプリントは事前に配布するので予習しておくこと。実験レポートを次回の授業開始時に提出する場合は、実験終了後はできるだけ早めに、実験経過・結果、ノートやプリントを参照して、レポートを作成しておくことが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）実験態度
レポート（90%）レポートの形式と内容

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
時間内に終了できるように、担当者の説明をよく聞き、実験に集中すること。
疑問な点があれば、積極的に質問して、各課題の目的や方法をしっかり理解した上で実験を進めること。
授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止（緊急に必要な場合は退席すること）。
数値計算が必要になる場合があるので、電卓を持参すること。

■講義計画
①ガイダンス／クリノメータの使い方
②太陽黒点の観察
③平板測量
④地形図の読み方
⑤岩石・造岩鉱物の肉眼観察
⑥化石の肉眼観察
⑦偏光顕微鏡による岩石薄片の観察
⑧ステレオ投影
⑨Katerの可逆振子による重力の測定
⑩近地地震の走時曲線の解析
⑪遠地地震の走時曲線の解析
⑫地質図の書き方と読み方
⑬学外実習Ⅰ：地質巡検（甲西・石部)、関連施設の見学
⑭学外実習Ⅱ：地質巡検（田上)、関連施設の見学
⑮気象通報による天気図の作成／総合討論

地球環境概論

【担当】宮浦　富保、市川　陽一
【開講】後期　火１

■講義概要
近年、地球がどのように変化したかを理解するためには、まず地球の生物圏としての機能を理解し、その機能に人間が影響をもたらす以前はどのようになっていたかを理解することが必要である。環境の時代を象徴するように、地球環境問題が声高に取り上げられているが、それらが人間の生活にどのように関わっているのか、その因果関係を明確にし、なぜ問題視するかを論述する。人間が引き起こしたさまざまな地球環境問題に取り組み、解決策をさぐるにあたって、まず地球が集積されたシステムとしてどのように機能しているかを基本的に理解することが重要である。

■到達目標
学習・教育目標：B1（◎），A（○）
地球における複雑な物理的・生物的環境を把握し、人間活動が地球の機能に対しどのように影響をもたらしているかを理解する。人間による地球環境へのインパクトを評価し、対処するのに必要な基礎的知見を得ることが可能となる。

■講義方法
板書、OHP、あるいはパワーポイントを用いてわかり易く講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義で学んだことを理解するために、ネットや図書館を利用して事例研究を行うとともに、様々な観点から地球環境問題の議論が行われていることを確認し、理解を深めていただきたい。

■成績評価の方法
レポート（30%）
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①講義の進め方
　地球環境とは?
②地球の歴史
③地球の気候変動
④地球の生態系－起源と進化
⑤地球の生態系－生物多様性
⑥人類の来歴と環境問題
⑦生態系に与える人間の影響
⑧地球環境の持続可能性
⑨環境汚染－陸上
⑩環境汚染－大気
⑪環境汚染－海洋
⑫地球温暖化
⑬エネルギーと地球環境
⑭環境問題の対策と見通し
⑮まとめ

知的財産概論

【担当】藤河　恒生
【開講】後期　水３

■講義概要
本講座では産業財産権である特許権、実用新案権、意匠権、商標権について概観し、特に、技術者にとって大事な特許権について詳細に学習する。特許に関する手続きはどのようにするか、特許を受けるための要件とは何か、特許書類はどのように読み、書くか、などを実例を見ながら勉強する。特許庁が提供している産業財産権情報を活用するために、特許情報提供サービスのシステムにアクセスする基本操作から学ぶこととし、特許情報提供サービスのシステムの操作に関する時間もかなり取っている。本講座を通じて知的財産を身近に感じ、また、知的財産の重要さを感じ取ることも目的としている。

■到達目標
産業財産権（特許、実用新案、意匠、商標）の取得、活用についての全体像を理解する。
特許制度について、全体にわたった基礎的な知識を習得する。
将来、産業財産権の制度を利用できるよう実用的な知識を習得する。

■講義方法
配布する資料を使って講義をするとともに、インターネットを用いて実例を参照又は調査したり、電子出願ソフトを用いた特許出願書類作成の練習をしたりする。
講義は、各自がインターネットを使用できる教室で行う予定である。また、ゲストスピーカーによる講義もはさむ予定である。

■授業時間外における予・復習等の指示
パソコンの基本的な操作はできるようにしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
レポートの課題は、最終講義の２回前の講義時に渡し、最終講義時にレポート提出を受ける予定である。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①知的財産権（産業財産権）とは?特許制度とは?
②出願から特許権取得までⅠ（特許出願書類）
③出願から特許権取得までⅡ（公報、産業財産権情報）
④出願から特許権取得までⅢ（審査請求以降）
⑤特許庁の特許情報提供サービスで特許情報にアクセス／演習
⑥発明とは?特許になる発明とは?
⑦特許を受けることができる者とは?職務発明とは?
⑧発明発掘から特許出願まで
⑨特許出願書類を書いてみようⅠ（特許請求の範囲）
⑩特許出願書類を書いてみようⅡ（明細書他）
⑪外国での特許取得　外国の特許情報にアクセス
⑫特許以外の産業財産権制度／実用新案・意匠
⑬特許以外の産業財産権制度／商標
⑭特許庁の特許情報提供サービスで意匠・商標情報にアクセス／演習
⑮企業における知的財産権の位置づけ

学部内共通

人間工学

【担当】橋本　正治
【開講】前期　水１

■サブタイトル
製品設計への人間工学的アプローチ

■講義概要
人間工学は、人間をシステムの一要素として扱い、人間の特性を考慮し、人間にとって適切なシステムの設計・改良をめざす工学である。ここでは、生理学・心理学・運動学の立場から人間の諸特性を明確にし、特に生産の場における製品設計・作業設計等に用いられる人間工学的方法について解説する。これによって人間工学的な観点から設計における問題解決できる能力を養う。

■到達目標
人間の生体機能、運動機能に関する基本的な特性を理解でき、設計に応用できる。
機械・電気システムにおいて考慮しなければならない入出力インタフェースの特性を理解し設計に応用できる。

■講義方法
ノート講義を中心に進めますが、適時ＯＨＰ等で最新事例も紹介します。図を使った説明が多くなりますので可能な限りプリントも用意します。ノートへの記入が負担となるかもしれませんが、整理されたノートを作り上げることで、学習が進むと考えます。

■授業時間外における予・復習等の指示
復習：毎回のテーマに応じた課題を、指定用紙に記入し提出

■成績評価の方法
平 常 点（40%）予習課題の提出をもって平常点とします。
レポート（60%）14週目に課題を出し、15週目に提出。
平常点（40%）とレポート（60%）とし、合計100点満点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
長町三生　『現代の人間工学』　朝倉書店　3,885円

■履修上の注意・担当者からの一言
解らないことや興味のあることは授業の途中でも質問や意見を発言して下さい。それはきっと他の人も同じように考えているに違いないからです。ただ聞いているだけの授業ではなく、授業に積極的に参加して、より興味ある内容となるよう一緒に学んでいきましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
下記アドレスまでメールしてください
hashi@mec.setsunan.ac.jp

■講義計画
①人間工学の定義（歴史的背景、人間工学をとりまく研究分野）
②人間の生理的特性と心理的特性（感覚器全般）
③人間の生理的特性と心理的特性（色の研究の歴史）
④人間の生理的特性と心理的特性（色を感じるメカニズム）
⑤人間の生理的特性と心理的特性（視覚と色覚特性）
⑥人間の生理的特性と心理的特性（色の表現法）
⑦人間の生理的特性と心理的特性（聴覚）
⑧生理的機能の測定法（筋電、心拍、呼吸、発汗）
⑨心理的機能の測定法（官能検査、アンケート調査）
⑩動作分析・動作解析（動作分析）
⑪動作分析・動作解析（動作解析）
⑫動作分析・動作解析（運動計測）
⑬マンマシンシステム（フィードバック、インターフェイスの要素、人間の制御機能）
⑭マンマシンインターフェイス（歴史的背景、コミュニケーションと情報の流れ）
⑮インターフェイスの最新事例（人工現実感）

物理実験

【担当】左近　拓男
【開講】前期　月３・月４・月５

■サブタイトル
理工学基礎実験

■講義概要
■科目概要・科目内容
理工学の全ての分野の基礎となる力学、光学、熱学、電磁気学、原子物理学の分野から選ばれた基本的で重要な11種の実験について実習する。物質化学および環境ソリューション工学は本質的に実験分野であり、将来卒業研究や大学院において、新しい方法により新しい物質を合成したり，新しい実験を行って新しい現象を見つけたり、新しい実験装置や新しい機械を製作したりすることになるが、そのためのトレーニングである。ノギス、マイクロメータ、サーキットテスター、デジタルボルトメータ、オッシロスコープ等の簡単な道具や測定器はいつでも使えるように練習すること、得られた実験データの誤差が評価できて、有効数字がわかること、重力加速度、波の波長、速度、振動数、温度、熱起電力、活性化エネルギー、電気抵抗、電圧、電流、電力、ローレンツ力、ヤング率、光の波長、屈折率、波の干渉、回析等の概念について実験によって深く理解することを目標とする。プレゼンテーションの練習のため最後に発表会も行なう。
■この科目を履修することにより身につくポイント
物理的センスと基礎的実験技術

■到達目標
学習・教育到達目標：D3（◎）
種々の実験の原理を理解する。ノギスなど基礎的器具を使えるようになる。実験データの誤差を評価できる。積極的に質問し，自ら進んで勉強できるようになる。

■講義方法
実験指導書にそって、二人一組で、毎回1つのテーマの実験を行う。レポートを各自まとめて提出する。

■系統的履修
物理学Ⅰ，物理学Ⅱ，物理学Ⅲ，物理実験（理工学基礎実験A）を続けて履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示
物理学の基礎科目をきちんと学習し、よく復習しておくこと。実験テキストもよく予習しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（80%）実験およびレポート
小テスト（10%）
そ の 他（10%） 発表会
毎回のレポートを主体に（約８割）、発表（約1割）、まとめの試験（約1割）を加味して評価する。

■テキスト
龍谷大学理工学部編 『物理実験』 初回に配布します。
小出昭一郎著 『物理学（三訂版）』 裳華房 2,100円
定規、関数電卓，A4ノート１冊を各自用意してきてください。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
初回のガイダンスとノギスの使い方の実験を無断欠席すると今期履修しないものとみなすので注意してください。まず実験の原理、方法を自習して、考えてもわからなかったことをTAに質問し、わからなかった理由を考えることにより力をつけてください。受講マナーにも気をつけてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
実験１テーマにつき１人のTAが配置された少人数教育であるので，３コマ連続の時間を有効に利用して物理の内容についても，どんどん教員およびTAに質問してください。

■講義計画
①ノギスの使い方
②振り子によるgの測定
③のびによるヤング率の測定
④弦の振動の実験
⑤分光器の実験
⑥レーザー光の回析実験
⑦テスターの使い方とパルス回路
⑧アナログ回路
⑨電気抵抗の温度変化
⑩熱起電力
⑪電子の比電荷の測定
⑫発表会準備と公欠の人の追加実験
⑬発表会
⑭まとめの試験
⑮総合演習

学科固有科目

（物質化学科）

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
エ	英語セミナー	林　久夫	前期	火５	177
	英語セミナー	青井　芳史／岩澤　哲郎／内田　欣吾／大柳　満之／糟野　潤／白神　達也／富﨑　欣也／中沖　隆彦／藤原　学／宮武　智弘／和田　隆博	前期	木５	177
	エネルギー循環工学	和田　隆博	後期	木１	178
カ	化学英語演習	宮武　智弘／糟野　潤／兵藤　憲吾／藤井　一郎	前期	火１	178
	化学系数学Ⅰ・演習／数学Ⅱ・演習	阪井　一繁	後期	月２	179
	化学系数学Ⅱ・演習／数学Ⅲ・演習	白神　達也	前期	火２	179
	化学系物理Ⅰ・演習／物理学Ⅱ・演習	白神　達也	前期	木１	180
	化学系物理Ⅱ・演習／物理学Ⅲ・演習	和田　隆博	後期	水２	180
	化学工学概論	青井　芳史	前期	水３	181
	化学数学	白神　達也	後期	火４	182
	化学リスク学	富﨑　欣也	前期	水１	183
	環境化学	三宅　司郎	前期	月１	183
キ	機器分析化学	藤原　学	前期	木４	184
	機器分析化学実験	藤原　学	後期	火３～５	184
	基礎数学・演習／数学Ⅰ・演習	大竹　眞一	前期	水２	185
	基礎物理・演習／物理学Ⅰ・演習	澤田　肇	後期	木３	185
	機能材料工学	榊間　博	後期	木３	186
ク	グリーンプロセス工学	富﨑　欣也	後期	木２	186
ケ	結晶材料工学	和田　隆博	前期	木１	187
コ	工業化学	岩澤　哲郎／糟野　潤	前期	木２	187
	工業法規	吉田　玲子	後期	月１	188
	構造解析学	白神　達也／野村　勝裕	後期	火１	188
	高分子化学	林　久夫	後期	月１	189
	高分子材料化学	中沖　隆彦	後期	金３	190
	高分子プロセス化学	中沖　隆彦	後期	火３	190
セ	生化学	富﨑　欣也	前期	火２	191
	セラミック材料工学	大柳　満之	前期	金２	191
チ	超分子化学	宮武　智弘	前期	月４	192
ト	特別研究	青井　芳史	通年	集中	192
	特別研究	岩澤　哲郎	通年	集中	193
	特別研究	内田　欣吾	通年	集中	194
	特別研究	大柳　満之	通年	集中	194
	特別研究	糟野　潤	通年	集中	195
	特別研究	白神　達也	通年	集中	195
	特別研究	富﨑　欣也	通年	集中	196
	特別研究	中沖　隆彦	通年	集中	196
	特別研究	林　久夫	通年	集中	197
	特別研究	藤原　学	通年	集中	197
	特別研究	宮武　智弘	通年	集中	198
	特別研究	和田　隆博	通年	集中	198
ナ	ナノ材料工学	青井　芳史	後期	木２	199
ニ	入門セミナー	藤原　学／青井　芳史／富﨑　欣也／中沖　隆彦／渡辺　英児	前期	金３・金４	199
フ	物質化学研究デザイン演習	青井　芳史	後期	月３・月４	200
	物質化学研究デザイン演習	岩澤　哲郎	後期	月３・月４	200
	物質化学研究デザイン演習	内田　欣吾	後期	月３・月４	201
	物質化学研究デザイン演習	大柳　満之	後期	月３・月４	202
	物質化学研究デザイン演習	糟野　潤	後期	月３・月４	203
	物質化学研究デザイン演習	白神　達也	後期	月３・月４	203
	物質化学研究デザイン演習	富﨑　欣也	後期	月３・月４	204
	物質化学研究デザイン演習	中沖　隆彦	後期	月３・月４	204
	物質化学研究デザイン演習	林　久夫	後期	火１・火２	205
	物質化学研究デザイン演習	藤原　学	後期	月３・月４	206
	物質化学研究デザイン演習	宮武　智弘	後期	月３・月４	206
	物質化学研究デザイン演習	和田　隆博	後期	月３・月４	207
	物質化学総論	青井　芳史／岩澤　哲郎／内田　欣吾／大柳　満之／糟野　潤／白神　達也／富﨑　欣也／中沖　隆彦／林　久夫／兵藤　憲吾／藤井　一郎／藤原　学／宮武　智弘／和田　隆博	後期	火４	207
	物理化学Ⅰ・演習	林　久夫	後期	木２	208
	物理化学Ⅱ・演習	林　久夫	前期	木２	209
	物理化学Ⅲ	富﨑　欣也	後期	金３	210
	物理化学Ⅳ	白神　達也	後期	水３	210
	物理化学実験	林　久夫／兵藤　憲吾	後期	月３～５	211
	物理学Ⅳ・演習	和田　隆博	前期	月３	212
フ	プレゼンテーション演習	野口　昌子	前期	月１	213
	プレゼンテーション演習	野口　昌子	前期	月２	214
	分子設計化学	岩澤　哲郎	後期	水１	215
	分析化学	糟野　潤	前期	月１	215
ム	無機化学Ⅰ・演習	和田　隆博	前期	月２	216
	無機化学Ⅱ・演習	藤原　学	後期	木４	216
	無機化学Ⅲ	青井　芳史	前期	金１	217
	無機化学Ⅳ	大柳　満之	後期	火２	217
	無機合成化学実験	大柳　満之／藤井　一郎	前期	金３～５	218
ユ	有機化学Ⅰ・演習	中沖　隆彦	前期	火４	218
	有機化学Ⅱ・演習	岩澤　哲郎	後期	木１	219
	有機化学Ⅲ	内田　欣吾	前期	木３	219
	有機化学Ⅳ	宮武　智弘	後期	水１	220
	有機構造解析学	内田　欣吾	前期	月２	220
	有機合成化学実験	内田　欣吾／兵藤　憲吾	前期	火３～５	221
	有機材料化学	内田　欣吾	後期	金１	221
リ	量子化学	藤原　学	前期	水２	222

英語セミナー

【担当】林　久夫
【開講】前期　火5

■講義概要
本セミナーは配属された研究室において、小グループを対象として行われる。下記の各分野について、担当教員の指導により、まず輪読と演習により基礎的知識を習得したのち、特別研究に関連した最近の論文(主として英語)の紹介等を行う。これにより、専門用語を含む外国語に対する読解力を培うと共に発表・討論を通じて特別研究を行っていくための専門分野の知識を一層深める。
「環境・分析化学系」
　無機溶液化学および状態分析化学、生体膜の物理化学、金属錯体および微量分析、材料物性の測定
「無機・セラミックス系」
　セラミックス材料の合成、無機材料の合成、セラミックス薄膜の合成・評価法、構造無機化学とその物性
「有機・高分子系」
　触媒化学、有機光化学、有機合成化学、高分子の化学・物理化学および物理、高分子の固体物性
「生物機能分子化学系」

■到達目標
学習・教育到達目標：F2（◎），E1（○），F1
学術論文を読解出来るようになる。
特別研究を行うための専門知識を習得する。

■講義方法
担当教員により異なる。

■系統的履修
化学英語演習、科学技術英語

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回読む文献については事前に指定するので、担当者はそれを熟読し、受講者全員からの質問に答えられるよう、十分な準備をしておくこと。

■成績評価の方法
その他（100%）研究テーマに対する取り組みの姿勢、テーマに関する調査や発表の内容、課題の達成度などを担当教員が評価する。

■テキスト
担当教員により異なる。

■参考文献
担当教員により異なる。

■講義計画
英文の専門書および学術論文の輪読。

英語セミナー

【担当】青井 芳史、岩澤 哲郎、内田 欣吾、大柳 満之、糟野 潤、白神 達也、富﨑 欣也、中沖 隆彦、藤原　学、宮武 智弘、和田 隆博
【開講】前期　木5

■講義概要
本セミナーは配属された研究室において、小グループを対象として行われる。下記の各分野について、担当教員の指導により、まず輪読と演習により基礎的知識を習得したのち、特別研究に関連した最近の論文(主として英語)の紹介等を行う。これにより、専門用語を含む外国語に対する読解力を培うと共に発表・討論を通じて特別研究を行っていくための専門分野の知識を一層深める。
「物質評価系」
　無機溶液化学および状態分析化学、生体膜の物理化学、金属錯体および微量分析、材料物性の測定
「無機・金属系」
　セラミックス材料の合成、無機材料の合成、セラミックス薄膜の合成・評価法、構造無機化学とその物性
「有機・高分子系」
　触媒化学、有機光化学、有機合成化学、高分子の化学・物理化学および物理、高分子の固体物性

■到達目標
特別研究を行うための専門知識を習得すること。
(学習教育到達目標E)
学術論文を読解出来るようになること。
(学習教育到達目標F1,F2)

■講義方法
担当教員により異なる。

■授業時間外における予・復習等の指示
論文を熟読してレジメを作成してください。復習は単語や語句など覚えるよう努めてください。

■成績評価の方法
その他（100%）研究テーマに対する取り組みの姿勢、テーマに関する調査や発表の内容、課題の達成度などを担当教員が評価する。

■テキスト
担当教員により異なる。

■参考文献
担当教員により異なる。

■講義計画
英文の専門書および学術論文の輪読。

エネルギー循環工学

【担当】和田　隆博
【開講】後期　木1

■サブタイトル
熱力学の基礎と発電技術
■講義概要
エネルギーの有効利用は、現在社会にとってきわめて重要な課題である。石油や天然ガスは産出国の政治情勢によって安定に供給される保証が無く、しかもこれらの化石燃料を燃焼させて熱エネルギーを生成する際に発生する炭酸ガス（CO_2）が地球規模での環境変化を起こしつつある。また、21世紀のエネルギー源として期待されてきた原子力発電は、福島原子力発電所の事故によって見直しが迫られている。本講義では、熱力学の応用の観点からエネルギーはその総量は変化せず、エントロピーを増大させながら様々な形に変化するものであるとの立場から、分子論的観点からの熱力学の復習、火力発電や原子力発電のような大規模なエネルギー変換技術から、現在活発に研究開発が行われている太陽光発電や燃料電池等の分散型発電技術まで幅広く講義する。
■到達目標
学習・教育到達目標：A, B2, C2（○), E1
現在地球上で問題になっているエネルギー問題や環境問題等を理解するための基礎。各種エネルギーの共通点と特殊性が理解できる。「原子力発電とその問題点」や「新しい発電方法」について常識的な判断が出来、理科系でない一般の人に説明できる。
■講義方法
講義とともに演習を行い、理解を深める。
■系統的履修
物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、物理学Ⅲ、物理化学Ⅰ
■授業時間外における予・復習等の指示
復習に重点を置いて勉強を進めることで、授業時間中での講義内容の理解も進む。
■成績評価の方法
小テスト（20%）前回の復習テストを主体とする
定期試験（80%）中間試験（30点）　期末試験（50点）
■テキスト
特になし
■参考文献
舘野淳　『原子力のことがわかる本　原子爆弾から原子力発電まで』　チャートBOOKS・数研出版　1,100円
ピーター・アトキンス著斉藤隆央訳　『万物を駆動する四つの法則』　早川書房　1,600円
千原秀明・稲葉章　訳　『熱力学要論　－分子論的アプローチ－』　東京化学同人　3,300円
J. オグボーン／M. ホワイトハウス編　『アドバンシング物理A2』　シュプリンガー・フェアラーク東京
■履修上の注意・担当者からの一言
エネルギーについて物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、物理学Ⅲ、物理化学Ⅰ等で学んだ事柄を横断的に学ぶことで、これらの科目の異なった視点からの復習としても役立つ。
■講義計画
①エネルギーの基礎
②化学系のエネルギー（1）電子エルギー・振動エネルギー
③化学系のエネルギー（2）回転および並進エネルギー
④熱力学第二法則とエントロピー（1）エントロピーの基礎
⑤熱力学第二法則とエントロピー（2）化学系のエントロピー
⑥熱力学と統計力学
⑦中間試験
⑧各種エネルギー源と各種発電技術
⑨原子力発電とその問題点（1）原子力発電技術
⑩原子力発電とその問題点（2）核燃料サイクル　プルサーマル　高速増殖炉
⑪原子力発電とその問題点（3）放射線能と放射線
⑫太陽光発電（1）太陽エネルギー
⑬太陽光発電（2）太陽電池　変換効率 太陽光発電システム
⑭太陽光発電（3）太陽電池開発の現状
⑮太陽光発電（4）普及する太陽光発電

学科固有

化学英語演習

【担当】宮武　智弘、糟野　潤、兵藤　憲吾、藤井　一郎
【開講】前期　火1

■講義概要
化学技術に関する文献などはその多くが英語で書かれており、英語で情報を収集・理解し、発信することが益々重要となっている。4年次の特別研究においても英語で書かれた研究論文を読み、それを参考にして研究を進めることが必須である。後期に開講される「化学技術英語」ではより専門的な内容の英語にふれることになるが、本講義では科学に関する基礎的な事柄が書かれた洋書をテキストとし、受講生が今までに習得してきた内容が英語でどのように表現されるのかについて学ぶことになる。その中で、元素名をはじめとする基本的な専門用語とその発音を習得するとともに、英語を使って化学を理解する能力を身につけることをねらいとしている。
■到達目標
学習・教育到達目標：Ｆ２（◎)、Ｄ１（○）
化学に関する英文の読解力を身につけることで、学習・教育到達目標F2を達成する。
化学に関する専門用語（英語）を身につけることで、学習・教育到達目標D1を達成する。
■講義方法
20 ～ 30人程度の少人数クラスを編成し、セミナー形式でテキストを講読しながら進める。
■系統的履修
科学技術英語・英語セミナー・特別研究
■授業時間外における予・復習等の指示
予習・復習の内容については、担当者より適宜指示する。
■成績評価の方法
小テスト（100%）毎時間実施する小テストによって評価する(必要に応じて、クラス間の得点調整を行う)
■テキスト
John T. Moore 『Chemistry Made Simple』 Broadway Books
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
英語に親しみが薄い人も多いと思うが、積極的に英語に触れる気持ちを持って受講してもらいたい。
■講義計画
①オリエンテーション
②化学英語の基礎
③Atoms
④Compounds
⑤Gases
⑥Liquids and solids
⑦Solutions
⑧Oxidation-reduction
⑨Electrochemistry
⑩The atmosphere
⑪Organic chemistry
⑫The chemistry of energy
⑬The chemistry of the environment
⑭Biochemistry
⑮まとめ

化学系数学Ⅰ・演習（2014年度以降入学生）
数学Ⅱ・演習（2013年度以前入学生）

【担当】阪井　一繁
【開講】後期　月2

■講義概要
微積分の基本的な概念を理解し、それらを使った計算能力を身につけることは、自然科学を学ぶ学生にとって最低限の「たしなみ」とも言えます。化学においても、「変化を様子を調べる」手段である微分法、「変化の蓄積を調べる」積分法を、実験における器具や装置のように自由に使いこなせることは、大きな武器となります。この講義では、高校で学習した1変数関数の微積分の復習から始めて、多変数関数の微積分まで、「使える数学」の習得を目標に講義を行います。

■到達目標
学習・教育到達目標：D1（◎）
微積分の概念を原理から理解し、道具として自在に使っていける能力が身につく。偏微分、全微分、合成関数の微分公式、テイラー展開、関数の極値、重積分、簡単な微分方程式、複素数にかかわる概念を修得し、活用できる能力を身につけることで学習・教育到達目標 D1 を達成する。

■講義方法
配布プリントに沿って講義形式で解説を行う。また、毎回講義内容に関する演習問題（テスト形式）を解き、基礎的な考えや問題解法が身についているか確認を行う。

■系統的履修
なし

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の講義内容が次回の小テストの出題範囲となるので、復習は必須です。また、配布プリントに事前に目を通し、目的意識を持って講義に臨むことを勧めます。

■成績評価の方法
小テスト（40%）
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
必要があれば講義中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
科目の性格上、積み上げ式の内容になるのはやむを得ないため、予習・復習を含め講義への積極的な参加を怠ると、遅れを取り戻すことは困難になります。また、数学系の学科ではないという理由で数学を敬遠する人もいるかと思いますが、「数学」ではなく「化学に役立つ道具の使い方」を学ぶのだと割り切って受講するとよいでしょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
自習してもわからないところは遠慮なく質問をしてください。オフィスアワーの曜講時は講義中に案内します。

■講義計画
①1変数関数の微分法（さまざまな微分の計算）
②1変数関数の微分法（関数の近似・テイラー展開）
③多変数関数の微分法（偏微分・全微分・高階偏導関数）
④合成関数の微分公式
⑤2変数関数の極値問題
⑥条件つき極値問題
⑦積分法（高校数学の復習）
⑧積分法（いろいろな積分の計算）
⑨簡単な微分方程式
⑩線形微分方程式
⑪重積分
⑫極座標
⑬極座標と重積分
⑭複素平面とオイラーの公式
⑮全体の復習

化学系数学Ⅱ・演習（2014年度以降入学生）
数学Ⅲ・演習（2013年度以前入学生）

【担当】白神　達也
【開講】前期　火2

■サブタイトル
化学におけるベクトル演算の重要性

■講義概要
もともと連立1次方程式を効率よく、確実に解く方法として考え出された「行列と行列式」のもつ重要な基本概念（例えば、基本変形、和、積、ランク、固有値、固有ベクトル、対角化など）およびそれらの関連性を講義する。一方、ベクトルおよび行列は結晶物性を理解する上に必要なテンソルなどの概念とも関連しているので、その関係性を表す初級ともいえる一次変換について学習する。また、行列の逆行列、固有値および対角化は高階線形微分方程式の解法にも用いられ、量子力学のエネルギー固有値とも関連しているのである。さらに、ベクトル解析や複素数の概念、フーリエ解析の初歩を扱い、電磁気学への数学的手がかりをつかむ。

■到達目標
学習・教育到達目標：D1（◎）
ベクトルや行列およびそれらがもつ行列式、固有値などの重要な概念、ベクトルとテンソルとの関係を理解する初歩としての一次変換、ベクトルはもっと広い概念でさまざまなものを表現できること、などを理解することにより、学習・教育到達目標D1を達成する。

■講義方法
教科書、板書、プリント、プロジェクタなどにより行います。理解度を確認するための演習を6回以上、必要に応じて課します。出席は何らかの形で毎回取ります。試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■授業時間外における予・復習等の指示
演習後にそのプリントをもう1枚持ち帰らせ、復習を指示する。

■成績評価の方法
小テスト（30%）演習の合計で決める。
定期試験（70%）

■テキスト
薩摩順吉・四ツ谷晶二『キーポイント線形代数』岩波書店　2,200円
川野日郎・薩摩順吉・四ツ谷晶二『微分積分＋微分方程式』裳華房　2,700円

■参考文献
佐藤敏明『図解雑学　ベクトル・行列』ナツメ社　1,350円
トランスナショナル カレッジ オブ レックス編『フーリエの冒険』ヒッポファミリークラブ　3,500円

■履修上の注意・担当者からの一言
現代化学を理解するために、ベクトルや行列およびそれらがもつ行列式、固有値などの重要な概念、ベクトルとテンソルとの関係を理解する初歩としての一次変換は必ず必要になるものなので、この講義で理解してください。ここにあげた参考文献は比較的平易に読めるものなので、講義の内容理解に対する補助として使用してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途掲示する。1号館210号室を訪ねてくれば、可能な限り対応する。

■講義計画
①ガウスの消去法による連立1次方程式の解法
②クラメルの公式と行列式の計算
③行列の積と逆行列
④最小二乗法の線形代数的解法（Excelを用いて）
⑤ベクトル空間
⑥線形変換と逆変換
⑦行列のランク
⑧行列の固有値と固有ベクトル
⑨行列の対角化
⑩エルミート行列とユニタリ行列
⑪複素数とオイラーの公式
⑫フーリエ級数の初歩
⑬フーリエ変換の実例
⑭パーシバルの等式
⑮まとめ

化学系物理Ⅰ・演習（2014年度以降入学生）
物理学Ⅱ・演習（2013年度以前入学生）

【担当】白神　達也
【開講】前期　木1

■サブタイトル
化学に必要な範囲の力学入門

■講義概要
原子や分子の運動は、本質的には量子力学という力学にしたがいます。しかし、少し重い原子やイオンではそれらを質点と考えたニュートンの運動方程式が充分な近似で成り立つので、古典と言われる力学を学ぶことは今もなおその価値が失われてはいません。本講義では化学で必要な最小限の力学について解説します。また、物体の回転を表すにはベクトルの内積に加えベクトル積が必要なので、その解説も行います。分子の運動も、剛体と呼ばれるある形を持ったものの運動と考えるのが、わりとよい近似になることが多いので、剛体の運動について学ぶことは分子運動のイメージをつかむ助けになります。

■到達目標
学習・教育到達目標：D1（◎）
質点系の古典力学を中心に、バネを例にした保存力とエネルギー保存の関係を解析的に理解することや、ベクトル積の計算法とその物理的意味、剛体の簡単な運動と慣性モーメントの計算および物理的意味、座標の変換について十分に理解することにより、学習･教育到達目標D1を達成する。

■講義方法
教科書、板書、プリントなどにより行います。理解度を確認するための演習を６回以上、必要に応じて課します。出席は何らかの形で毎回取ります。試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■系統的履修
物理学Ⅰ・演習、数学Ⅰ・演習、数学Ⅱ・演習、物理化学Ⅳ

■授業時間外における予・復習等の指示
演習後にそのプリントをもう1枚持ち帰らせ、復習を指示する。

■成績評価の方法
小テスト（30%）演習（小テスト）の合計です。
定期試験（70%）

■テキスト
戸田盛和　『物理入門コース１　力学』　岩波書店　2,500円

■参考文献
戸田盛和、渡辺慎介　『物理入門コース演習1　例解力学演習』　岩波書店　2,800円

■履修上の注意・担当者からの一言
物理学Ⅰ・演習、数学Ⅰ・演習を熱心に受講して欲しいです。できるだけわかりやすく講義をするつもりですが、演習問題を自分で解くなど受講する方も努力をして下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途連絡します。一号館210号室を訪ねてくれれば可能な限り対応します。

■講義計画
①空間と時間、速度、速度の積分
②運動の法則
③運動量と力積、直線運動
④単振動
⑤１次元の運動とエネルギー
⑥２次元の運動
⑦仕事と運動エネルギー
⑧力のポテンシャルとエネルギー保存
⑨中心力と平面極座標
⑩角運動量と力のモーメント
⑪ローレンツ力の計算
⑫外積（ベクトル積）
⑬質点系の力学
⑭分子の慣性モーメント
⑮相対運動とオイラー角

学科固有

化学系物理Ⅱ・演習（2014年度以降入学生）
物理学Ⅲ・演習（2013年度以前入学生）

【担当】和田　隆博
【開講】後期　水2

■サブタイトル
量子学入門

■講義概要
量子力学は現在における物理学の1つの大きな柱であり、物理化学・無機化学・有機化学を問わずすべての化学の基礎である。しかしながら、量子力学はその重要性にも関わらず高校の授業ではほとんど取り上げられていない。本講義では物理学序論や物理学Ⅰで学んだ古典力学の知識を基礎にして、量子力学への発展について理論と実験を対比させながら説明する。特に化学の学生に理解が難しい光の粒子としての性質や物質の波としての性質について詳しく講義する。授業の最後には、その日に講義した内容について演習を行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：D1（◎）
物理化学・無機化学・有機化学を含むすべての化学の基礎として有用である。量子力学の基礎を理解して、物理化学・無機化学・有機化学への応用について対応できる。

■講義方法
講義とともに演習を行い、理解を深める。

■系統的履修
物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示
復習を十分に行うことで、授業時間中での講義内容の理解も進む。

■成績評価の方法
小テスト（20%）前回講義の復習テスト
定期試験（80%）中間試験（30点）, 期末試験（50点）

■テキスト
高田 健次郎　『わかりやすい量子力学入門―原子の世界の謎を解く』　丸善　2,625円

■参考文献
千原 秀昭, 稲葉 章 訳　『アトキンス　物理化学要論（第3版）』　東京化学同人　5,880円

■履修上の注意・担当者からの一言
大学に入ってはじめて学ぶ科目である。繰り返し勉強して新しい概念に慣れるようにしてほしい。

■講義計画
①なぜ量子力学を学ぶのか
②古典物理学の困難（1）気体や固体の比熱
③古典物理学の困難（2）熱放射
④古典物理学の困難（3）原子の構造と安定性
⑤量子論の誕生（1）　プランクの熱放射理論
　エネルギーの量子化と物質の比熱
⑥量子論の誕生（2）　光の粒子フォトン　コンプトン効果
⑦量子論の誕生（3）　ボーアの原子模型　ドブロイの波動論
⑧中間試験
⑨量子力学の確立（1）波動関数とシュレディンガーの波動方程式　自由粒子の波
⑩量子力学の確立（2）定常状態とエネルギーの量子化
⑪量子力学の確立（3）振動子の定常状態
⑫量子力学の確立（4）化学の問題への応用
⑬波動関数と確率：粒子の存在確立　不確定性原理
⑭古典力学と量子力学：トンネル効果と演算子
⑮演習とまとめ

化学工学概論

【担当】青井　芳史
【開講】前期　水３

■講義概要
有機物であろうが無機物であろうが、あらゆる化学製品・材料を社会で広く利用できるようにするためには工業的に生産をする必要がある。金属、セラミックス、プラスチック、医薬品、繊維はもちろんのこと、自動車産業、情報機器産業等の全ての工業生産に必要な素材は化学が関与した物である。これら化学製品を工業的に大量に生産するためには実験室的にビーカーの中での生産というわけにはいかない。そこでは、どのような設備でどのような運転の仕方でいかに効率よく大量生産しなければならないかという観点が必要となってくる。また、環境問題の観点からも省エネルギーで、排ガス、廃液の少ない環境に与える負荷の少ない方法で生産する必要がある。そのような化学製品の実際の生産に関した工学、技術が「化学工学」である。本講義では、この化学工学の基礎的な事項である物質収支、エネルギー収支を中心に概説する。

■この科目を履修することにより身につくポイント
化学技術者として身につけておかなければならない化学工学的な見方、考え方ができるようになる。また、化学製品の生産に関わることのみならず、排水処理プロセス等の環境問題解決にも化学工学は活用されており、化学工学的知識を身につけることによりこれらの分野においても知識を活用することができる。

■到達目標
学習・教育到達目標：D1（◎）
・単純な単位操作系における物質収支・エネルギー収支について、フローシートを作製し自ら式をたて計算することができるようになることによって、学習・教育到達目標D1を達成する。

■講義方法
教科書に沿って、適時プリント資料を配付し講義する。
講義と共に、随時演習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の練習問題を解く。
毎週出される課題を自ら手を動かして解くこと。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（40%）
そ の 他（40%）中間テスト

■テキスト
須藤雅夫 『基礎　化学工学』 共立出版　3,150円

■参考文献
小島和夫　他 『入門　化学工学』 培風館　2,910円
竹内　雍　他 『解説　化学工学』 培風館
化学工学会 『技術者のための化学工学の基礎と実践』 アグネ承風社
竹内　雍 『解説　化学工学演習』 培風館
化学工学編集委員会編 『化学工学入門』 実教出版

■履修上の注意・担当者からの一言
化学工学では自ら手を動かして計算をすることが重要である。講義中になるべく多くの演習を実施するので、独力で解答することにより身につけて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
特別研究に関連した最近の論文（主として英語）の紹介等を行う。また、随時質問は受け付けます。

■講義計画
①序論（化学工学とは）
②単位と次元
③プロセス変数
④気体の状態方程式Ⅰ
⑤気体の状態方程式Ⅱ
⑥物質収支の基礎
⑦中間テスト
⑧複雑なプロセスに対する物質収支Ⅰ
⑨複雑なプロセスに対する物質収支Ⅱ
⑩エネルギーの基礎
⑪エネルギー収支
⑫反応を伴わないエネルギー収支
⑬反応系のエネルギー収支
⑭化学プロセスの基礎
⑮化学プロセスの計算

化学数学

【担当】白神　達也
【開講】後期　火4

■サブタイトル
化学において使用する数学、統計学

■講義概要
化学、特に物理化学分野ではさまざまな数学の概念を使用する。熱力学や化学反応速度論、量子化学や統計力学などの理解を妨げる最大の要因は、その分野で使用されている数学の理解不足であるといっても過言ではない。この講義の前半では、必修の数学ですでに学習してきた数学概念が、物理化学の諸分野でどのように使用されているかを数回の小テストを通じて取得する。また、ケモメトリックスをはじめとして、実験データを解析する際に、統計的手法は必要不可欠である。それなのに、大学受験では取り上げられないという理由だけで、高校ですら履修されていないというのが現状である。これは国家的損失と言ってよく、数量化を伴わない議論がはびこる遠因ともなっていよう。ここでは高校の復習レベルから統計学の初歩を学び、多変量解析につながる考え方を学んでいく。さらに、X線回折やNMRなど、現在のほとんどの機器分析の原理にはフーリエ変換が基礎にある。測定データの精度やその解釈の妥当性を考えるときに、フーリエ変換の知識はそのよりどころとなる。ここでは複素数の復習からフーリエ級数の理解のための三角関数の復習を導入として、フーリエ変換の物理的意味を理解する。

■到達目標
学習・教育到達目標：D1（◎）
(1) 物質化学、物理化学における諸現象を定量的に、より厳密に理解する力を養う。
(2) 各自が求めた定量的実験データについて、何とか数式化を試みて、論理的な説明を与える能力を養う。
(3) 統計学の初歩を理解し、検定により仮説が採用できるかどうかを判断する能力を養う。
以上の３点を養成することにより、学習・教育到達目標D1を達成する。

■講義方法
(1) 配布するプリント教材を用いて、授業計画に沿って講義する。
(2) 適宜、授業中に６回以上、小テストを行う。

■系統的履修
数学Ⅰ･演習、数学Ⅱ･演習、数学Ⅲ･演習、物理化学Ⅰ･演習、物理化学Ⅱ・演習、物理化学Ⅲ、物理化学Ⅳ、量子化学

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜、2年生前期までに履修した数学の復習を指示する。統計学を除き、必ず復習から入る。

■成績評価の方法
小テスト（35%）小テストの合計
定期試験（65%）

■テキスト
森毅ほか　『高等学校の確率・統計』　ちくま学芸文庫　1,600円
小暮陽三　『なっとくするフーリエ変換』　講談社　2,700円
川野日郎、薩摩順吉、四ツ谷晶二　『微分積分＋微分方程式』　裳華房　2700円
薩摩順吉、四ツ谷晶二　『キーポイント　線形代数』　岩波書店　2200円

■参考文献
小寺平治　『ゼロから学ぶ統計解析』　講談社　2,500円
佐藤博保　『なっとくする化学数学』　講談社　2,700円

■履修上の注意・担当者からの一言
数学は物質化学、物理化学をより厳密に理解するための強力な手段の一つであるとの認識を持ってほしい。即ち、個々の数式が物理化学上の具体的な現象を論理的に説明する上に、どの様に役立っているかを体得してほしい。数学としてはすでに履修している内容なので、難易度は高くない。また、統計学は化学のみならず実生活で必須であるにもかかわらず、大学受験で出題されないことから、高等学校までで履修していない人が大半だと思います。だから高等学校の教科書を用いてほんの初歩から始めます。少なくとも最初に揚げた統計の教科書は入手してください。

■講義計画
①微分・積分のおさらい
②微分・積分の化学への応用
（ファンデルワールスの状態方程式とカルノーサイクル）
③偏微分と熱力学関係式
④偏微分の化学への応用（相平衡）
⑤統計の意味
⑥確率変数
⑦二項分布と正規分布
⑧仮説と検定
⑨さらに進んだ統計学
⑩常微分方程式のおさらい
⑪1階常微分方程式（化学反応速度論）
⑫行列の固有値と固有ベクトルのおさらい
⑬固有値と固有ベクトルの分子軌道法への応用（ヒュッケル法）
⑭フーリエ変換の初歩
⑮フーリエ変換の物理的意味

化学リスク学

【担当】富﨑　欣也
【開講】前期　水1

■講義概要
化学物質は多岐にわたっており、それぞれ特有の性質を持っている。本講義では、これら化学物質のなかでとくに危険性の高い物質の取扱法と保管の方法を述べる。現在、危険な化学物質に関しては、使用者が使用量と排気量を把握し､届け出ることが義務づけられている(PRTR法)。それゆえ、化学物質を取り扱う際には、科学者（化学者）倫理についての心得を身につけることが必要である。さらに、化学実験室でのア安全性に留意することは勿論のこと、化学物質により環境破壊をもたらさない心得を持つことも要求される。このためには、危険な物質の処理法も修得する必要がある。下記の項目について順次講義する。

■到達目標
学習・教育到達目標：A, B2 , C2（○), E1
化学物質による環境や生体への影響について理解することによって、学習・教育到達目標Aを達成する。
危険な化学物質の安全な保管ならびに使用法などを理解することによって、学習・教育到達目標B2を達成する。
化学物質の生体影響ならびに環境汚染を招かない化学物質処理法などを理解することによって、学習･教育到達目標C2を達成する。
危険な化学物質に関する分析評価法を理解することによって、学習・教育到達目標E1を達成する。

■講義方法
参考書の内容に準じながら､板書およびプリントを配布して講義する。最近のトピックスを適宜取り入れ､随時レポートを課し､演習を行う。

■系統的履修
物質化学科固有科目の学科基本科目とグリーンケミストリー関連科目。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の課題レポート作成のために、講義内容の予習・復習をすること。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（40%）
そ の 他（40%）中間試験を実施する。

■テキスト
講義に必要な資料を配布する。

■参考文献
日本化学会編 『化学安全ガイド』 丸善株式会社 2,600円
日本化学会編 『第4版化学実験の安全指針』 丸善株式会社 2,600円
全国危険物安全協会 『危険物取扱必携－実務編』

■履修上の注意・担当者からの一言
化学物質や化学反応および装置などの安全性に配慮することの必要性を認識し、科学（化学）者倫理の素養を身につける。また、危険取扱者、公害防止管理者等、環境計測に関する資格を取得できるよう努力してもらいたい。わからないこと、疑問点については積極的に質問することを期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途連絡する。適宜質問を受け付ける。

■講義計画
①科学者（化学者）倫理
②化学と安全－リスクとは－
③リスクアセスメント
④火災と爆発
⑤化学物質の危険性（1）：消防法
⑥化学物質の危険性（2）：第１類、第２類危険物
⑦化学物質の危険性（3）：第３類、第４類危険物
⑧中間試験
⑨化学物質の危険性（4）：第５類、第６類危険物
⑩化学物質の危険性（5）：化学物質の生体影響
⑪各種装置の危険性（高温、高圧、X線など）
⑫PRTR（Pollutant Release and Transfer Register）法について
⑬化学物質による環境汚染
⑭廃棄物の処理
⑮危険物取扱者の資格について、化学実験の安全性に対する対処法

環境化学

【担当】三宅　司郎
【開講】前期　月1

■講義概要
産業の発展と人口増加に伴い、様々な化学物質が環境に負荷を与えている。その結果として、地球規模では温暖化や酸性雨、オゾン層の破壊などが取り沙汰されている。一方、私達の生活環境を考えた場合、食の安全、花粉症、メタボリックシンドローム、放射性物質による汚染など、身の回りに起こっている様々な問題を環境化学として捉えることができる。
本講では、これら環境に負荷を与える化学物質をテーマにして、その分析法とデータの解釈、現在取られている対策について講義する。なお、原則として講義計画に沿って授業を行うが、毎回行う小テストによって理解力を確認し、適宜進捗を修正する。

■到達目標
学習・教育到達目標：B1（◎)、C2、D2（○）
環境に負荷を与える化学物質の種類､性質､分析法を理解する。

■講義方法
出版されている成書を参考書として使用するが、講義の理解を深めるためにパワーポイントやプリントを利用する。

■系統的履修
分析化学、環境科学

■授業時間外における予・復習等の指示
新聞やテレビのニュース等で環境問題に対する関心を深めることが望ましい。

■成績評価の方法
小テスト（50%）毎回、前週の復習として小テストを行う。
定期試験（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
小島次雄、川平浩二、藤倉良 『これからの環境科学』 化学同人 2,300円
小熊幸一、上原伸夫、保倉明子、谷合哲行、林英男 『これからの環境分析化学入門』 講談社 2,900円

■講義計画
①概説
②環境化学と分析技術
③地球温暖化
④酸性雨
⑤オゾン層破壊
⑥POP s
⑦内分泌撹乱化学物質
⑧地球環境の化学（まとめ）
⑨残留農薬-1
⑩残留農薬-2
⑪カビ毒
⑫放射性物質
⑬アレルギー性物質
⑭生活環境の化学（まとめ）
⑮全体のまとめ

機器分析化学

【担当】藤原　学
【開講】前期　木4

■講義概要
最近の機器分析装置は、高機能化し極微量サンプルにおいても簡便に短時間で数値を得ることができる。また装置の複合化および自動化が進み、原理を理解していなくてもデータを取得できることが多くなっている。しかし、それらの結果を鵜呑みにして新規材料の評価を行なうと誤った結論を導くことがあり、非常に危険である。これらの危険を回避するためには、機器分析法の原理を理解し、それに即した利用とデータ解析に努めなければならない。本講義では、無機物質や有機物質の一般的な分析に用いられている主要な機器分析法について詳述する。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1（○）
電磁波と物質の相互作用を理解し、ランベルト - ベールの法則を用いて定量値を求めることができる。それぞれの機器分析法の原理を理解できる。それぞれのスペクトルから、物質の化学状態に関する情報を抽出することができる。必要な情報を得るため、最も適切な機器分析法を選択することができる（E1）。

■講義方法
プリントおよび黒板を使い、講義を行なう。適時小テストや宿題を課して理解度を深める。

■系統的履修
物理化学Ⅳおよび分析化学、機器分析化学実験

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の講義中に達成度・理解度を確認する小テストを行う。理解が不十分な項目については、次回講義までに必ず復習し、習得しておくこと。わからない場合は、講義終了後または講義時間外に質問すること。

■成績評価の方法
小テスト（30%）課題に対する達成度および理解度
定期試験（70%）

■テキスト
庄野利之、脇田久伸　『入門機器分析化学』　三共出版　3,000円

■参考文献
参考文献・資料等は講義時に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科の固有科目を履修していることを前提として講義を進める。専門用語など理解できない点は、講義中に質問するか自習することによって解決していってほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に伝える。

■講義計画
①電磁波と物質との相互作用
②光吸収（ランベルト - ベールの法則）
③紫外・可視吸収スペクトル法（1）、装置・スペクトルの実例
④紫外・可視吸収スペクトル法（2）、定性・定量分析への応用
⑤X線分析法（1）、X線の特性
⑥X線分析法（2）、X線回折法
⑦X線分析法（3）、蛍光X線分析法・X線吸収法
⑧磁気共鳴分析（1）、磁気共鳴（NMRとESR）
⑨磁気共鳴分析（2）、装置とNMRスペクトルの実例
⑩磁気共鳴分析（3）、NMRスペクトルの応用
⑪クロマトグラフィー（1）、分離分析概論･クロマトグラフィーの分類
⑫クロマトグラフィー（2）、装置（GCとLC）
⑬クロマトグラフィー（3）、分析例（GCとLC）・複合分析装置
⑭その他の主な分析法（1）
⑮その他の主な分析法（2）・まとめ

学科固有

機器分析化学実験

【担当】藤原　学
【開講】後期　火3・火4・火5

■講義概要
物質の分離・精製ならびにそれらの同定・定量や物質固有の性質の評価は、機器を用いた方法で行われることが多くなってきている。機器分析化学実験では、基本的な機器分析の手法についてそれらの測定原理と応用について理解できるように講義し、実際に機器装置を用いた測定を行う。得られた測定データの処理と解析方法について学ぶ。たとえば､水溶液中の水素イオン濃度（pH）は水素イオン電極とpHメータを用いてどのようにして測定されるのかなど、装置の構成、測定原理ならびに装置の操作法さらに得られた結果の解析法について修得させる。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3（◎），E2,F1（○）
物質の分離・精製ならびにそれらの同定・定量法を習得することは、新規物質を創製する上で、いかに重要であるかを経験として身につけ、総合的・多面的な基礎知識に基づいた論理的思考力を養成する（D3）。また、実験報告書の作成方法も習得する（F1）ことが到達目標である。さらに、4年次での特別研究を自立して遂行していくために必要な知識と技術の獲得を目指す（E2）。

■講義方法
少人数のグループ実験で下記の項目について実施する。実験指導書に基づき説明をしたのち実験を行う。得られた結果をまとめレポートする。機器の測定原理と操作法を予習しておくこと。原則として、遅刻・欠席は認めない。

■系統的履修
機器分析化学および学科固有科目群

■授業時間外における予・復習等の指示
次回の実験項目を確認し、予習を行っておくこと。次回までに実施した実験項目のレポートを作成し、次回の実験開始前に提出すること（演習およびＰＣ演習については、実験当日に提出すること）。なお、わからないことがあれば積極的に質問すること。

■成績評価の方法
小テスト（20%）最後の授業時間に実験に関する試験を実施する
レポート（80%）実験に取り組む態度も考慮する

■テキスト
本学理工学部物質化学科編　『機器分析化学実験指導書』

■参考文献
庄野利之・脇田久伸編著『入門機器分析化学』三共出版　3,000円
庄野利之・脇田久伸編著『入門機器分析化学演習』三共出版　2,300円

■履修上の注意・担当者からの一言
グループ実験であるが、各個人が積極的に取り組み、各種機器分析手法の測定原理を修得するとともに、得られた結果の数値のもつ意味を十分理解し、解析できるように努力してほしい。わからないこと、疑問点については積極的に質問することを期待する。とくに演習においては、課題を短時間に解決する能力を身につける。

■講義計画
①安全講習会
②実験全般についての説明
③電気分析法（pH曲線の解析、電導度滴定）
④電気化学測定法（電極反応の解析）
⑤吸光光度分析法（色素のpKaの測定、錯体組成の決定）
⑥赤外線分光光度法（有機化合物の同定）
⑦ガスクロマトグラフ分析法（炭化水素類の分離分析）
⑧高速液体クロマトグラフ分析法（有機化合物の分離定量）
⑨磁化率の測定（遷移金属錯体の磁気モーメントの測定と解析）
⑩核磁気共鳴法（有機化合物の同定）・
　電子スピン共鳴法（不対電子の検出）
⑪ＰＣ演習（化学反応の解析、中和滴定曲線など）
⑫課題演習
⑬実験についての試験
⑭課題についての質問・後片付け
⑮予備日

基礎数学・演習（2014年度以降入学生）
数学Ⅰ・演習（2013年度以前入学生）

【担当】大竹　眞一
【開講】前期　水2

■サブタイトル
微分法
■講義概要
微分積分は物質化学を学んでいくため必要不可欠なものである。その基礎となる微分法について学ぶ。導関数・微分係数・テイラーの定理・偏導関数・偏微分係数といった内容を予定している。代数関数・三角関数・逆三角関数・指数関数・対数関数などの微分法について学び、さらにテイラーの定理・オイラーの公式・偏微分法について、実際に使えるような計算力にも配慮しながら、講義を進める。
講義のほか演習も行い、学力の定着をめざす。
■到達目標
学習・教育到達目標：D1（◎）
導関数・微分係数・テイラーの定理・オイラーの公式などを習得し、実際に使えるようになる。
■講義方法
講義を基本とするが適宜演習の時間をとる。
■授業時間外における予・復習等の指示
予習，復習は必ず行うこと．これを前提に講義は進められる．演習，課題なども，積極的に取り組んでいただきたい．
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
期末試験（60点）、課題・小テスト等平常点（40点）をあわせて評価する。
■テキスト
大竹真一著 『≪基礎固め≫数学』 化学同人　1,800円
プリント教材（教室で配付）を併用する。
■参考文献
特になし
■講義計画
①微分係数、導関数の定義：関数の極限、微分係数、導関数
②微分の計算公式①：合成関数、逆関数の微分法
③微分の計算公式②：三角関数とその導関数
④微分の計算公式③：指数関数・対数関数とその導関数
⑤微分の計算公式④：逆三角関数とその導関数
⑥一変数関数の微分法の応用と演習
⑦高次導関数、平均値の定理：高次導関数、ロルの定理、平均値の定理
⑧テイラーの定理・テイラー展開①：テイラーの定理，マクローリンの定理
⑨テイラーの定理・テイラー展開②：テイラー展開，マクローリン展開
⑩複素平面とオイラーの公式①：複素平面
⑪複素平面とオイラーの公式②：オイラーの公式
⑫偏微分係数、偏導関数の定義：偏微分係数・偏導関数
⑬偏微分の計算①：偏導関数，偏微分係数の定義
⑭偏微分の計算②：偏導関数，偏微分係数の計算
⑮多変数関数の微分法の応用と演習

基礎物理・演習（2014年度入学生）
物理学Ⅰ・演習（2013年度以前入学生）

【担当】澤田　肇
【開講】後期　木3

■サブタイトル
大学レベルの化学学習に必要不可欠な最低限の力学範囲の物理
■講義概要
大学での化学学習に必要不可欠な最低限の力学範囲の物理を高校レベルの初歩から講義・演習する。
■到達目標
学習・教育到達目標：D１（◎）
大学レベルの化学を学習する上で最低限必要不可欠な力学範囲の物理をマスターすること。
■講義方法
教科書および適宜プリントを用いての授業。講義形式。
■授業時間外における予・復習等の指示
高校において力学を履修しなかった学生は、特に入念な復習が必要。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
澤田肇著 『≪基礎固め≫物理』 化学同人　1,800円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
専門科目は、本科目の十分な理解を前提として講義されることを注意しておく。
■講義計画
①いろいろな力
②力の合成・分解
③力のモーメント
④問題演習（1）１回目～３回目の講義分
⑤速度・加速度
⑥運動と微分積分
⑦力と運動
⑧問題演習（2）５～７回目講義分
⑨運動量と力積
⑩衝突と分裂
⑪問題演習（3）９～10回目講義分
⑫仕事
⑬位置エネルギー
⑭力学的エネルギー
⑮問題演習（4）12～14回目講義分
⑯上記の進度内容はあくまで大まかな予定なので、注意のこと。

学科固有

機能材料工学

【担当】榊間　博
【開講】後期　木3

■サブタイトル
電子材料の基礎（金属、半導体、磁性体、超伝導体など）

■講義概要
LSIやストレージなどの電子デバイスを支える半導体や磁性体などの種々の機能材料の基礎と応用について講義を行う。特に固体の電気伝導と金属の自由電子モデル、初歩的なバンド理論、半導体の基礎と半導体デバイス、磁性体の基礎と磁気デバイス、超伝導体の基礎について、材料科学の観点から理解を深めることに注力する。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1（◎）
固体中の電子状態と材料物性、それを利用した電子デバイスについての基礎的理解

■講義方法
（1）テキストと配布プリントを用いて､授業計画に沿って講義する。
（2）理解を深めるため、基礎的な演習とレポート課題を課す。

■系統的履修
物理Ⅲ・演習、物理Ⅳ・演習、無機化学Ⅰ、結晶材料工学

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に次回の講義はテキストのどの章について行うか知らせるので、前もって目を通しておくこと。
配布プリントは綴じて保管し、授業の復習や質問時に活用すること。

■成績評価の方法
レポート（10%）適時、課題を課す。
定期試験（90%）中間試験（30点）と期末試験（60点）を行う。
60％以上の出席を必要条件とする。

■テキスト
田中勝久　『固体化学』　東京化学同人　3,675円
教科書の他に、講義内容をまとめたプリントを配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
講義内容の理解を深めるために、時間の許す範囲で演習を一緒に行います。演習中にも質問を受け付けますので、積極的に活用してください。この課題演習は授業中に10回ほど行いますので授業に出席していないと課題点（10点）は取れません。従って講義内容の理解と単位の取得には出来る限り出席することが必要です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義内容で理解できないことがあれば、講義後に申し出てください。その場で、あるいは別に時間をとって説明します。

■講義計画
①固体の電気伝導 －オームの法則
②金属の自由電子論（1）－波数空間
③金属の自由電子論（2）－状態密度
④バンド理論（1）－エネルギーギャップ
⑤バンド理論（2）－価電子帯・伝導帯
⑥前半のまとめ ／中間テスト
⑦半導体（1）－真性半導体
⑧半導体（2）－不純物半導体
⑨半導体（3）－半導体の応用
⑩磁性体（1）－反磁性と常磁性
⑪磁性体（2）－強磁性
⑫磁性体（3）－反強磁性とフェリ磁性
⑬磁性体（4）－磁性体の応用
⑭超伝導（1）－超伝導の基礎
⑮超伝導（2）－材料／ 後半のまとめ

学科固有

グリーンプロセス工学

【担当】富﨑　欣也
【開講】後期　木2

■講義概要
20世紀は科学技術の時代であり、様々な化学製品が爆発的に生産され続けてきた。だがそれらは廃棄が非常に難しいものであったり、少なからず毒性を示す副産物が生成したりする例も多く、今世紀後半には処理能力の限界を迎えると予想されている。そこで来世紀以降も持続可能な社会を目指して新たなパラダイムシフトが起こりつつある。それが「グリーン」という概念で示される一連の科学技術である。本講では「グリーン」概念がどのようなものであるかを伝えるとともに、具体的な例を示しつつその概要を示すことを目的とする。

■到達目標
学習・教育到達目標：A, B2（○），　E1
数多くの「環境にやさしい化学プロセス」学習を通じて「グリーン」概念全般を理解することによって、学習・教育到達目標Aを達成する。毒性を低減した原材料の使用や副産物の生成を抑制する化学プロセス、ならびに触媒反応を利用する化学プロセスの学習によって、学習・教育到達目標B2を達成する。
世界的に競争が激化している次世代の地球環境産業技術の研究開発動向について学習することによって､学習･教育到達目標E1を達成する。

■講義方法
特に教科書は使用せず、板書、プリントを中心に行う。理解を助けるためのレポートを必要に応じて課す。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の課題レポート作成のために、予習・復習すること。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（40%）
そ の 他（40%）中間試験を実施する

■テキスト
講義に必要な資料を配布する。

■参考文献
工藤徹一、御園生誠『グリーンマテリアルテクノロジー』講談社　3,400円
御園生誠、村橋俊一『グリーンケミストリー』講談社　2,900円
柘植秀樹､荻野和子､竹内茂彌『環境と化学－グリーンケミストリー入門－』東京化学同人　2,200円
（財）地球環境産業技術研究機構編『CO_2貯留テクノロジー』工業調査会　2,400円

■履修上の注意・担当者からの一言
来世紀の人類における「最大多数の最大幸福」は「グリーン」概念の確立なくしては達成し得ないであろう。学際的な観点から化学プロセスを眺める目を持って欲しい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途掲示する。また、適宜質問を受け付けます。

■講義計画
①地球環境問題の最前線
②グリーンケミストリー
③生分解性プラスチック
④有機系材料のグリーンプロセス（1）：超臨界流体中における有機合成反応
⑤有機系材料のグリーンプロセス（2）：イオン性液体中における有機合成反応
⑥有機系材料のグリーンプロセス（3）：水中における有機合成反応
⑦中間試験
⑧無機系材料のグリーンプロセス（1）：固体酸触媒の利用
⑨無機系材料のグリーンプロセス（2）：無機膜によるガス分離
⑩廃棄物とリサイクル（1）：セメント産業とリサイクル
⑪廃棄物とリサイクル（2）：金属のリサイクル
⑫エネルギー関連プロセスのグリーン化（1）：二酸化炭素排出量削減技術
⑬エネルギー関連プロセスのグリーン化（2）：再生可能エネルギー
⑭エネルギー関連プロセスのグリーン化（3）：原子力と水素の利用
⑮まとめ

結晶材料工学

【担当】和田　隆博
【開講】前期　木1

■サブタイトル
材料物性入門
■講義概要
材料物性の基礎となる、結晶構造と結晶構造解析、格子振動と比熱などの熱的性質を学習した後、材料物性の各論として誘電体を取り上げ、その分極のメカニズム、圧電体・焦電体・強誘電体の諸物性と応用について講義を行い、材料科学の観点から理解を深めることに注力する。最後に、固体の電子構造に対する物理的な見方と化学的な見方の違いについて説明する。
■到達目標
学習・教育到達目標：E1（◯）
材料物性の基礎となる結晶構造・構造解析と熱的性質、及び誘電体の諸物性と応用および固体の電子構造に関する基礎的理解
■講義方法
（1）配布プリントを参考にして、授業計画に沿って講義する。
（2）理解を深めるため、適宜基礎的な演習を行う。
■系統的履修
無機化学Ⅰ、無機化学Ⅳ、物理学Ⅲ、機能材料工学
■授業時間外における予・復習等の指示
適時、授業の開始時に小テストを実施する。
■成績評価の方法
小テスト（20%）適時、授業の開始時に小テストを実施する。
定期試験（80%）中間試験（30点）と期末試験（50点）
■テキスト
後期の「機能材料工学」のテキストとしても使用する。
教科書の他に、講義内容をまとめたプリントを配布する。
■参考文献
田中勝久　『固体化学』　東京化学同人　3,675円
高重 正明　『物質構造と誘電体入門』　裳華房　3,780円
■講義計画
①オリエンテーション－分子と結晶
②結晶構造（1）－空間格子
③結晶構造（2）－結晶構造
④結晶構造（3）－構造解析
⑤結晶構造（4）－格子欠陥
⑥格子振動（1）－格子振動の基礎
⑦格子振動（2）－固体の比熱
⑧格子振動（3）－熱伝導と熱膨張
⑨中間テスト
⑩誘電体（1）－分極と誘電率
⑪誘電体（2）－分極の種類
⑫誘電体（3）－誘電分散
⑬誘電体（4）－強誘電体
⑭固体の電子構造（1）分子との違い
⑮固体の電子構造（2）化学者による理解

工業化学

【担当】岩澤　哲郎、糟野　潤
【開講】前期　木2

■講義概要
本講義では、純粋科学の基礎に立って如何に効率良く物づくりを行うか、そのプロセスについて講述する。前半（担当者：岩澤）は、ファインケミカルズ合成において重要となる化学反応の考え方（電子動きを書いて反応機構を理解する）に力点を置いて講述する。後半（担当者：糟野）は、地球環境問題への対応、無機工業薬品、無機・金属工業化学、無機材料工業化学、ファインセラミックスなどを中心に生産プロセスとその化学について講義する。
■到達目標
学習・教育到達目標：D2, E1（◯）, B2
・環境低負荷型反応の具体例に関する知識の習得を通じて、学習・教育到達目標B2を達成する。
・工業化学製品が製造されるベースには合理的な反応機構や理解できる反応ルートが所在することの理解を通じて、学習・教育到達目標D2を達成する。
・工業化学プロセスに関する基本的な考え方の習得を通じて、学習・教育到達目標E1を達成する。
■講義方法
テキストは使用しない。化学反応の反応機構を中心に説明する。スキームを多く描くことを基本に図説する。適宜プリントを配布する。
■系統的履修
有機化学Ⅰ、有機化学Ⅲ、有機化学Ⅳ、有機機器分析化学、分子設計化学、有機合成化学実験、無機化学Ⅱ、化学工学概論、セラミック工業化学
■授業時間外における予・復習等の指示
予習する項目と復習する項目について、重要な部分を講義時に説明する。
■成績評価の方法
小テスト（50%）中間試験
定期試験（50%）
■テキスト
特になし
■参考文献
山口泰史『大学生のための有機反応問題集』三共出版　2,100円
大谷杉郎『新工業化学概論』裳華房　3,500円
■履修上の注意・担当者からの一言
岩澤担当分については、復習に力点を置いてください。講義中に述べる基本的事項および要点を考慮しつつ、電子の動きや流れを描くことに注力してください。糟野担当分は、無機工業が発展した経緯に注目してください。
■講義計画
①アルケン・アルキン・ハロゲン化アルキルの反応性
②ハロアルカンの合成、ジエンの反応、酸化還元反応
③有機金属試薬の反応、アルデヒドやケトンの反応
④エノラートアニオンの反応
⑤カルボン酸とその誘導体の反応
⑥重要な反応、転位反応
⑦カルボアニオン化学周辺に関する演習
⑧中間試験の実施
⑨現代無機化学工業と地球環境問題
⑩無機工業薬品（酸）
⑪無機工業薬品（アルカリ）
⑫化学肥料
⑬無機・金属工業
⑭セラミックスとガラス
⑮無機工業化学とグリーンケミストリー

工業法規

【担当】吉田　玲子
【開講】後期　月1

■講義概要
知的財産権を筆頭に、製造物責任や営業秘密の取り扱いなど、技術者が知っておくべき倫理・法律の基礎知識を習得する。
科学技術の発達やグローバル化の進展にともなって、知的財産権はますます重要性が高まりつつある。知的財産権は、人の知的・精神的活動の所産としての創作物を支配する権利を指しており、例えば、特許、実用新案のような発明に対して与えられるもの、意匠のようにデザインに対して与えられるもの、著作権のように著作物に対して与えられるものがある。これらの権利は、現代社会を側面から支えているものであり、自分の開発した技術を実際に利活用する際に重要な役割を果たしている。
知的財産権について、講義では、特許法を中心に幅広い観点から理解を深める。また、我が国だけでなく世界の主要国の制度や、知的財産権の保護の国際的枠組みについても取りあげる。
あわせて、ＩＳＯなどの標準化の仕組み、化学物質の規制等についても取りあげる。

■到達目標
テクノグローバリゼーションにおける工業技術に係わる者が守らなければならない法規について、基本的知識を習得することを目的とする。倫理観を高め社会人してのルールを身に付ける。

■講義方法
特に教科書は使用せず、板書、プリントを中心に行う。最近のトピックスを適宜取り入れ、理解を助けるための課題を課す。進捗により講義計画の加減を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
技術者と企業に関する新聞、ＴＶなどの報道記事に関心を持つことが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）課題
定期試験（70%）期末試験
課題は前半（第８回まで）のいずれかの講義で出す予定。

■テキスト
講義に必要な資料を配布する。

■参考文献
井野邊　陽　『理系のための法律入門：技術者研究者が知っておきたい権利と責任』　講談社

■履修上の注意・担当者からの一言
実社会での産業活動の中でのさまざまなルールについて関心を持ってもらいたい。研究室配属後および就職後など、予測される将来の業務上不可欠な知識であることを意識して、講義に臨んでほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義後質問を受け、次の講義で補足説明および資料を配布する。

■講義計画
①概説（企業と活動における各種法など）
②知的財産法の基礎知識
③特許権Ⅰ（特許の要件）
④特許権Ⅱ（手続、効力、発明は誰のものか）
⑤特許権Ⅲ（特許、知的財産の利用と活用）
⑥職務発明制度
⑦秘密情報と守秘義務、不正競争防止法
⑧諸外国の特許制度
⑨著作権・商標権
⑩前半まとめ（課題の解説、演習等）
⑪製造物責任法（ＰＬ法）
⑫誤認表示に対する規制
⑬内部告発
⑭ＩＳＯ標準化、化学物質に関する規制
⑮まとめ

学科固有

構造解析学

【担当】白神　達也、野村　勝裕
【開講】後期　火1

■サブタイトル
物性を支配する構造の特色とその評価方法

■講義概要
物質の性質はその物質を構成する原子の種類、配列、結合の仕方によって支配される。それに加えてこれらの要素を合わせて物質の構造という。また、電子の配列や相互作用の働きによってできる磁気構造や電子構造も視野に入れなければならない。本講義では広い意味での構造を知るための基本原理として、空間格子と対称操作をふまえての原子座標、格子パラメータおよび結晶構造因子の理解を目標とし、ポーリングの法則や結晶構造のエネルギー的側面が、その構造の必然を理解するのに有効であることを示す。また、JCPDSカードやリートベルト法といったデータ解析法および中性子散乱や透過型電子顕微鏡を用いた実験法を紹介する。さらに、PCを用いたRIETANおよびVESTAの演習を行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1（◎）
空間格子と対称操作、原子座標、格子パラメータおよび結晶構造因子の理解を深め、ポーリングの法則、JCPDSカードの見方、リートベルト法および中性子散乱の初歩および演習、電子回折の見方を習得することにより、学習･教育到達目標E1を達成する。

■講義方法
教科書は一部参照しながら、板書、プリント、プロジェクタなどにより行います。理解度を確認するための小テストを5回以上、必要に応じて課します。出席は何らかの形で毎回取ります。また、5回程度､PC演習室において､RIETAN-FPおよびVESTAの演習を行う。

■系統的履修
数学全般、固体化学、セラミック材料工学、結晶材料工学、ナノ材料工学、機能材料工学

■授業時間外における予・復習等の指示
中間、および期末にまとめのプリントを配布し、復習を促す。また、RIETANフリーソフトを各自ダウンロードしてもらい、復習を薦める。

■成績評価の方法
小テスト（30%）小テストの合計です。
定期試験（70%）

■テキスト
佐々木義典他『基本化学シリーズ12　結晶化学入門』朝倉書店　3,500円
日本分析化学会X線分析研究懇談会編『粉末X線回折の実際（第2版)』朝倉書店　5,800円

■参考文献
F.S.ガラッソー著，加藤誠軌・植松敬三　訳　『図解 ファインセラミックスの結晶化学』　アグネ技術センター　4,500円

■履修上の注意・担当者からの一言
構造解析法は､無機･金属系すべての研究室､評価系のほとんどの研究室､有機・高分子系の一部の研究室で、卒業研究をはじめとする研究活動になくてはならないものである。実際に測定を行う日までに理解して準備していただきたい。物質化学科以外の学生にも言えることであるが、配属研究室で構造解析を必要とする人には必須ともいえる科目である。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途通知する。一号館210号室を訪ねてくれば可能な限り対応する。

■講義計画
①イントロダクション
②結晶の幾何学
③ポーリングの法則
④いろいろな結晶構造の整理
⑤X線の性質と回折
⑥結晶構造因子と消滅則
⑦VESTAの操作法
⑧VESTAで見る結晶構造と対象要素
⑨RIETAN-FPの操作法
⑩RIETAN-FPのPC演習
⑪中性子散乱で何がわかるか?
⑫JCPDSカードの見方
⑬X線構造解析の応用
⑭透過型電子顕微鏡を用いた構造解析
⑮まとめ

高分子化学

【担当】林　久夫
【開講】後期　月1

■サブタイトル
高分子科学の基礎

■講義概要
高分子は合成繊維、エラストマー（ゴム）、プラスチックなどの合成高分子と蛋白質や多糖類などの天然高分子に大別される。本講では主として合成高分子について、その合成、構造、性質ならびに加工についての基本的な事項を解説する。まず、高分子合成の反応機構ならびに生成物の分子構造上の特徴について解説する。つぎに各種の高分子特有の性質とその評価法について解説する。さらに、結晶、アモルファスなどの基本概念を解説し、これらの状態と高分子鎖の形態およびモルフォロジーとの関係を詳述する。さらに、力学的性質、熱的性質などの各種材料物性とその評価法について概説する。また、紡糸、成型などの高分子加工技術についても概説する。このように、現在使用されている材料の重要な一分野である合成繊維、エラストマー（ゴム）、プラスチックなどに関する基本的概念が理解でき、高分子を合成したり、使用したり、廃棄したりする場合に必要な基礎知識や考え方が身につく。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（◎）
下記の能力を身につけることにより、学習・教育到達目標D2を達成する。
1）基本的な分子合成法について説明できる。
2）高分子の階層的な構造に関して基礎的な説明ができる。
3）基本的な高分子材料の性質について説明できる。
4）高分子の利用価値を説明できる。

■講義方法
毎回の講義のテーマは常に明確化し、重要なポイントは全て板書し強調する。講義の冒頭または最後にクイズ（短時間のテスト）を課し、講義内容の理解を深め、学生－教員間のコミュニケーションを計るとともに出欠を確認する。

■系統的履修
高分子プロセス化学、高分子材料化学

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の授業の最後に、その日の講義内容の要点を整理するので、十分を復習しておくこと。次回の授業の最初にクイズを行い、知識の定着を確認する。

■成績評価の方法
小テスト（30%）毎回授業の要点を示し、次回にそれに関するクイズを出題する
定期試験（40%）期末試験。電卓持込み可、ノート・教科書等持込み不可
そ の 他（30%）中間試験

■テキスト
蒲地幹治　『高分子化学入門』　NST　3,600円

■参考文献
高分子学会編　『高分子科学の基礎（第2版）』　東京化学同人　4,100円

■履修上の注意・担当者からの一言
自主的に学ぶ姿勢が肝心で、形式的な出席は期待していない。高分子化学の生きた素養を身につけることが最終目的であり、色々な学習方法の中で、結局講義を真剣に聞くことが一番の近道であることを理解してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページ等で周知するもの以外にも、随時指定する。

■講義計画
①高分子とは
②逐次重合反応Ⅰ－重宿合
③逐次重合反応Ⅱ－重付加
④連鎖重合反応Ⅰ－ラジカル重合
⑤連鎖重合反応Ⅱ－イオン重合
⑥分子構造－コンフィギュレーション
⑦孤立鎖の形態－コンホメーション
⑧中間テストと解説
⑨溶液の性質
⑩固体の構造Ⅰ－非晶の構造
⑪固体の構造Ⅱ－結晶の構造
⑫固体の性質Ⅰ－力学的性質
⑬固体の性質Ⅱ－温度の影響
⑭動的粘弾性
⑮ポリマーブレンド

高分子材料化学

【担当】中沖　隆彦
【開講】後期　金3

■講義概要
2年次後期の「高分子プロセス化学」で学んだ構造・物性のセクションをさらに深く学習します。高分子は分子が長くつながった物質であるため低分子とは異なった様々な特徴を示します。例えばプラスチック製品や洋服の繊維などは高分子特有の性質を利用したものです。強い繊維はどうやって作るのか?硬いプラスチックはどういうコンセプトで作られたか?など高分子の分子構造と身近に見られる物性の関係について講義します。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1（◎）
高分子の固体構造、溶液物性、粘弾性の基本について理解し、学習教育到達目標E1を達成する。

■講義方法
講義形式で進めます。適宜演習も行いながら授業を進めます。

■系統的履修
「高分子化学」「高分子合成化学」

■授業時間外における予・復習等の指示
復習は配布した演習問題を解いて理解を深めるよう努めてください。

■成績評価の方法
定期試験（55%）期末試験55点
そ の 他（45%）中間試験45点
試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■テキスト
村橋ら 『高分子化学』 共立出版

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に理解して覚えてしまうように努力してください。あとで勉強しようと思っても量が多くなっていやになったり、授業で聞いたことを忘れたりしてしまいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
随時1号館204号室で行います。

■講義計画
①立体規則性高分子
②高分子の高次構造
③X線回折法
④赤外・ラマン分光法
⑤NMR分光法
⑥結晶化度の決定法
⑦中間試験
⑧溶液中での高分子の分子構造
⑨浸透圧
⑩光散乱、粘度法
⑪弾性
⑫粘性
⑬力学模型
⑭日常の高分子材料（前半）
⑮日常の高分子材料（後半）

学科固有

高分子プロセス化学

【担当】中沖　隆彦
【開講】後期　火3

■講義概要
高分子材料は現代生活において欠くことのできない、身近であり重要な材料です。合成繊維、プラスチック、接着剤など身の回りにある高分子材料はどうやって作られているのでしょうか?高分子は分子量の大きな化合物です。分子量を大きくするためには色々な方法があります。これらの重合方法について系統的に解説します。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（○）
高分子合成の基礎的な重縮合、開環重合、付加重合、イオン重合について学習することにより、学習教育到達目標D2を達成する。

■講義方法
講義形式で進めます。適宜演習も行いながら授業を進めます。

■系統的履修
高分子化学

■授業時間外における予・復習等の指示
復習は配布した演習問題を解いて理解を深めるよう努めてください。

■成績評価の方法
定期試験（55%）期末試験55点
そ の 他（45%）中間試験45点
試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■テキスト
村橋ら 『高分子化学』 共立出版

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に理解して覚えてしまうように努力してください。あとで勉強しようと思っても量が多くなっていやになったり、授業で聞いたことを忘れたりしてしまいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
1号館204号室で随時行います。

■講義計画
①高分子の基礎－分子量－
②重縮合
③重付加、付加縮合
④開環重合
⑤ラジカル重合
⑥ラジカル共重合
⑦中間試験
⑧アニオン重合
⑨遷移金属触媒重合
⑩カチオン重合
⑪連鎖移動反応
⑫ブロック・グラフト重合
⑬高分子反応
⑭機能性高分子前半
⑮機能性高分子後半

生化学

【担当】富﨑　欣也
【開講】前期　火2

■講義概要
生物はすべて化学物質でできており、本講義では生命現象の本質を理解する基礎として、生体物質の有機化学を系統的に学ぶ。まず、生体を構成する基本的な分子として、炭水化物、蛋白質、脂質、核酸について、これらがどのような構造をしており、どのように生体内で合成されるかについて学ぶ。ついで、これらの分子構造が高次組織体として生体の形成と機能の発現にどのような役割を果たしているかを解説する。また、生体内における代謝経路にこれらの分子がどのように関与しているかを学ぶ。

■到達目標
学習・教育到達目標：Ｄ２（○）
生体内にどのような化学物質が存在するか、またそれらの生体物質がどのような化学的相互作用・化学反応を通して個体の生命維持・種保存のために働いているかを理解することによって、学習・教育到達目標Ｄ２を達成する。

■講義方法
原則として教科書にそって講義する。

■系統的履修
有機化学Ⅰ～Ⅳ

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の課題レポート作成のために、予習・復習すること。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（40%）
そ の 他（40%）中間試験

■テキスト
マクマリー『有機化学（下）第６版』東京化学同人　4,620円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
生体に関わる有機化合物を理解するためには有機化学の基本事項を習得していることが必要となるため、有機化学Ⅰ～Ⅳの内容を理解しておいてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途連絡する。適宜質問を受け付ける。

■講義計画
①炭水化物の構造
②炭水化物の性質と反応
③多糖類
④アミノ酸の構造
⑤アミノ酸の性質
⑥タンパクの構造と性質
⑦酵素
⑧中間試験
⑨脂質と生体膜
⑩複素環と核酸
⑪核酸の構造と性質
⑫遺伝情報の伝達
⑬バイオテクノロジー
⑭代謝経路の有機化学
⑮まとめ

セラミック材料工学

【担当】大柳　満之
【開講】前期　金2

■講義概要
セラミックスは人類が最初に火を用いて作った土器の類にまで遡ることができる。セラミックスは、ガラス、陶磁器、耐火物、セメントなどの伝統的セラミックスと呼ばれるものから、フェライト、コンデンサー材料などの機能性セラミックスと呼ばれるものまで多岐におよぶ。この講義では、これらセラミックスについて原料、製造法、性質だけでなく相図についても詳しく述べ、セラミックスの全体像が把握できるようにする。また、各種セラミックスに共通の焼結機構、力学的特性、電気的特性などを理解するために実用セラミックスを例に挙げて解説する。

■到達目標
JABEE学習・教育到達目標：E1（○）
セラミック材料の全体像を把握できることを目指し、この分野の技術者として将来活躍するために基礎となる知識の習得を目標とする。

■講義方法
各講義テーマの重要な事項について説明する。難しいと思われるところは、反復しながら十分理解できるよう努める。

■系統的履修
物質化学の一年次、二年次前期における学部内共通科目と学科基本科目は、すべて履修しておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示
この講義は、特定の教科書を使用しないので、授業に出ていないと理解できなくなる。しかし、授業に出ているだけでは、試験の点数は取れない。毎回の復習は十分に行ってほしい。

■成績評価の方法
定期試験（50%）
そ の 他（50%）中間試験を行う
中間試験と学期末試験の結果で成績を評価する

■テキスト
特になし

■参考文献
守吉祐介、笹本　忠、植松敬三、伊熊泰郎、門間英毅、池上隆康、丸山俊夫『セラミックスの焼結』内田老鶴圃
E.Moore and L.Smart著、平尾一之、河本邦仁訳『入門固体化学』化学同人　4,326円
柳田博明、永井正幸『セラミックスの科学』技報堂出版　4,326円
A.R.West著、遠藤 忠訳『固体化学入門』講談社　4,660円

■履修上の注意・担当者からの一言
この講義は、特定の教科書を使用しないので、授業に出ていないと理解できなくなる。

■講義計画
①セラミックス材料工学概説
②伝統的セラミックスⅠ（陶磁器・耐火物）
③伝統的セラミックスⅡ（セメント・ガラス）
④ニューセラミックスⅠ（構造材料）
⑤ニューセラミックスⅡ（機能材料）
⑥セラミックス粉体の製造プロセス
⑦セラミックスの焼結プロセス（製造工程）
⑧セラミックスの焼結と理論
⑨その他の無機材料
⑩格子欠陥と転位
⑪平衡状態図概説
⑫二成分系平衡状態図（1）
⑬二成分系平衡状態図（2）
⑭三成分系平衡状態図（1）
⑮三成分系平衡状態図（2）

超分子化学

【担当】宮武　智弘
【開講】前期　月４

■講義概要
近年、有機分子や有機金属錯体が、分子間での相互作用を利用して分子集合体を形成する例が多く報告されている。こうした分子集合体は興味深いことに、単独の分子とは異なる物性を示し、これまでにない新しい機能を発現することが知られている。さらに、生体内で働く分子の多くは、他の分子と複合体を形成しながら機能しており、こうした分子間での相互作用・分子集合体を扱う「超分子化学」の概念がますます重要となっている。本講義では、まず超分子化学の基礎として、分子間に働く力について解説した後、分子認識、LB膜、超分子金属錯体などの実例を、最新の研究成果を交えながら紹介する。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1（○）
分子間にはどのような力が働くのか、またそれらの分子間相互作用によりどのような超分子が形成されるのかを理解することによって、学習・教育到達目標E1を達成する。

■講義方法
適宜資料を配布しながら講義を行う。

■系統的履修
有機化学Ⅰ～Ⅳ、生化学

■授業時間外における予・復習等の指示
本講義内容と関連する系統的履修科目についても講義の中で紹介するので、あわせて予習・復習することが望まれる。

■成績評価の方法
小テスト（20%）
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
戸田三津夫、戸田芙三夫『超分子化学入門』裳華房　2,205円

■履修上の注意・担当者からの一言
超分子化学における分子間相互作用や分子集合体の働きを理解するためには有機化学の基本事項を習得していることが必要となるため、有機化学Ⅰ～Ⅳの内容を理解しておいてほしい。

■講義計画
①超分子化学の世界
②分子間相互作用（1）イオン相互作用とvan der Waals力
③分子間相互作用（2）水素結合と配位結合
④包接化合物
⑤ホストーゲストの化学と分子認識
⑥クラウンエーテルとその関連化合物
⑦シクロデキストリン
⑧カリックスアレーンとその関連化合物
⑨カテナンとロタキサン
⑩超分子金属錯体
⑪その他の超分子系
⑫超分子の分析手法（1）構造解析法
⑬超分子の分析手法（2）物性評価法
⑭超分子化学の応用
⑮まとめ

学科固有

特別研究

【担当】青井　芳史
【開講】通年　集中

■講義概要
当研究室では、無機機能性材料をテーマに研究を行う。特に、薄膜材料に着目し、薄膜合成法、物性評価、機能化に関する研究を行う。具体的な研究テーマとしては、気相法による炭素系薄膜材料の合成とその物性および表面機能化、液相析出法による３次元規則構造を有する金属酸化物の合成とその物性、交互堆積法による機能性マイクロカプセルの合成等である。研究室では指導教官およびメンバーとの議論を行いながら実験計画を立て、それを遂行し、得られた結果をまとめる。また研究の過程で必要な情報を自ら収集しながら、知識を深める。最後に、研究成果を卒業論文にまとめ、発表会にてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習･教育到達目標:B1、C2、D3、E1、E2、E3、F1、F3（◎）、A（○）
・実験で用いる薬品の安全性や、実験廃液の処理方法、環境への影響などを知り、化学薬品を適切に取り扱うことができるようになることによって、学習・教育到達目標A, B1, C2を達成する。
・研究で得られたデータをとりまとめ、それについて論理立てて説明できるようになることによって、学習・教育到達目標D3を達成する。
・研究テーマの領域に関する知識を身につけることによって、学習・教育到達目標E1を達成する。
・研究課題に対する実験計画を立てることができるようになることによって、学習・教育到達目標 E2を達成する。
・研究の遂行に必要な情報を収集しながら、自らの知識を深めることができるようになることによって、学習・教育到達目標 E3を達成する。
・卒業論文の作成、卒業論文発表会および指導教員とのディスカッションを通じて、学習・教育到達目標F1を達成する。
・指導教官や研究室のメンバーとの議論を通じて、円滑に研究を進めることができるようになることや、共通機器の管理、研究室の各種行事の運営を通じて、学習・教育到達目標F3を達成する。

■講義方法
定期的（３週間ごと）に研究グループ内での研究報告会を実施し、指導教官、研究グループメンバーと議論しながら研究を進める。加えて、３週間ごとに研究結果を取りまとめて、研究室内でプレゼンテーションを行う。適宜、学会やセミナー等への参加、発表を行うとともに、共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■系統的履修
物質化学研究デザイン演習、科学技術英語、無機化学、物理化学、ナノ材料工学、など

■授業時間外における予・復習等の指示
研究分野に関する研究論文を読み､自らの研究分野に関する理解を深める。

■成績評価の方法
その他（100%）（平常点ならびに卒業論文発表会での評価）
到達目標の達成度は研究室における指導の過程でチェックし、最終的にすべての項目が達成されていることを確認する。また、総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教官（主・副各１名）により審査し、主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）の合計が60%以上をもって合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科においては特別研究に取り組むには4年次初頭に開催される安全講習会を受講することが義務付けられている。
また､600時間以上かけて特別研究を行うことが求められている。

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

特別研究

【担当】岩澤　哲郎
【開講】通年　集中

■講義概要
当研究室では、有機合成化学に関するテーマの研究を行う。テーマの対象は大きく分けて次の二つ。１）選択的な四置換オレフィン合成の一般化、２）究極的な省エネ型反応開発。独自性にこだわった前衛的な分子化学の追求を目指す。研究室では指導教員および研究室員に対して報告相談を行いながら実験計画を立て、それを実行し、得られた結果をまとめる。また研究の過程で必要な創意工夫をこらし、問題解決に集中する。最後に、研究成果を卒業論文にまとめ、発表会にてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習･教育到達目標B1, C2, D3, E1, E2, E3, F1, F3（◎）, A（○）
卒業論文の作成、卒業論文発表会および指導教官とのディスカッションを通じて､学習･教育到達目標F1を達成する。また、以下①～⑧の能力を身につけることを目標とする。
①研究テーマの領域に関する知識を身につけて、学習・教育目標 E1を達成する。
②研究課題に対する実験計画を立てる能力の養成を通じて、学習・教育目標 E2を達成する。
③研究の遂行に必要な情報を収集し、自らの知識を深める能力の養成を通じて、学習・教育目標 E3を達成する。
④実験で用いる薬品の安全性や、実験廃液の処理方法、環境への影響などの知識獲得を通じて、学習・教育到達目標C2を達成する。
⑤効率的合成の意義に関する知識獲得を通じて、学習・教育目標B2を達成する。
⑥医薬品合成に直接関与する有機化学の意義を知り、学習・教育目標Aを達成する。
⑦研究で得られたデータの論理的説明を行う能力の養成を通じて、学習・教育到達目標D3を達成する。
⑧指導教員や研究室のメンバーとの円滑な議論の遂行を通じて、学習・教育目標F3を達成する。

■講義方法
定期的に研究報告書を作成し、指導教員と議論しながら研究を進める。加えて、一定期間ごとに研究結果を取りまとめて、グループ内でプレゼンテーションを行う。適宜、学会やセミナー等への参加､発表を行うとともに､共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■系統的履修
科学技術英語、物質化学研究デザイン演習、有機化学、分子設計化学、生化学、超分子化学

■授業時間外における予・復習等の指示
予習する項目と復習する項目について、重要な部分を適宜説明する。

■成績評価の方法
その他（100%）
到達目標①～⑧の達成度は研究室における指導の過程でチェックし、最終的にすべての項目が達成されていることを確認する。また、総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教官（主・副各１名）により審査し、主担当教員による評価（70％）と副担当教員による評価（30％）の合計が60％以上をもって合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
報告、連絡、相談、チームワークに力点を置いた指導を行います。

■講義計画
①研究テーマについて解説
②過去のデータの追試実験
③作業仮説に基づいた実験
④計画の練り直し
⑤新たな作業仮説に基づいた実験
⑥計画と実際の実験結果との照らし合わせ
⑦次の実験に向けた作業仮説を立てる
⑧データのまとめ
⑨作業仮説に基づいた実験
⑩計画の練り直し
⑪新たな作業仮説に基づいた実験
⑫次の実験に向けた作業仮説を立て、それに基づいて実験を行う
⑬データのまとめ
⑭発表会準備
⑮研究内容の引き継ぎ作業

特別研究

【担当】内田　欣吾
【開講】通年　集中

■講義概要
当研究室では、有機光機能材料をテーマに研究を行う。特に光の刺激により２つの異なる物性をもつ状態間を可逆的に再生するフォトクロミック材料に着目し、これらの新規化合物の合成や、これらを活用した新しい光応答システムの開発を行う。研究室では、指導教員および研究室のメンバーとの議論を行いながら実験計画を立て、それを遂行し、得られた結果をまとめる。また研究の過程で必要な情報を自ら収集しながら、知識を深める。最後に、研究成果を卒業論文にまとめ、発表会にてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習･教育到達目標:B1, C2, D3, E1, E2, E3, F1, F3（◎）A（○）
上記の学習・研究活動により、以下の①～⑥の能力を身につけることを目標とする。
①研究テーマの領域に関する知識を身につける（学習・教育到達目標E1)。
②研究課題に対する実験計画を立てることができる（学習・教育到達目標E2)。
③研究の遂行に必要な情報を収集しながら、自らの知識を深めることができる（学習・教育到達目標E3)。
④実験で用いる薬品の安全性や、実験廃液の処理方法、環境への影響などを知り、化学薬品を適切に扱うことができる（学習・教育到達目標 A, B1, C2)。
⑤研究で得られたデータを取りまとめ、それについて論理立てて説明できる（学習・教育到達目標D3)。
⑥指導教官や研究室のメンバーとの議論を通じて円滑に研究を進め、卒業論文の作成、卒業論文発表会でのプレゼンテーションを行う（学習・教育到達目標F1, F3)。

■講義方法
定期的（1週間ごと）に研究報告書を作成し、指導教員と議論しながら研究を進める。加えて3か月ごとに研究成果を取りまとめて、グループ内でプレゼンテーションを行う。適宜、学会やシンポジウム等への参加、発表を行うとともに、共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■系統的履修
有機化学、有機材料化学、物質化学研究デザイン演習など

■授業時間外における予・復習等の指示
研究内容に関連する書籍や学術論文を読み、自学習を行う。指導教員から、文献を指示することもある。

■成績評価の方法
平常点（100%）卒業論文ならびに卒論発表会での評価
到達目標①～⑥の達成度は研究室における指導の過程でチェックし、最終的にすべての項目が達成されていることを確認する。また、総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教員（主・副各1名）により審査し、主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）の合計が60%以上をもって合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

学科固有

特別研究

【担当】大柳　満之
【開講】通年　集中

■講義概要
当研究室では、環境にやさしいグリーンマテリアルとプロセスを中心に無機材料化学をテーマに研究を行う。具体的には、1．メカノケミカルプロセスと放電プラズマ焼結を組み合わせた難焼結性で高融点セラミックスの低温合成と低温焼結及びその物性評価とプロセスの解析（SiC、C、Al2O3、ZrO2等）、 2．パルス通電が物質移動を促進する効果の解析と通電を利用したバルクセラミックスの作製、3．ナノ構造化された水素吸蔵材料の合成や触媒を利用した水素吸蔵特性の評価、など低環境負荷型の省エネルギープロセスとエネルギー貯蔵材料を意識して、新規化合物の探索を行う。研究室では指導教官およびメンバーとの議論を行いながら実験計画を立て、それを遂行し、得られた結果をまとめる。また研究の過程で必要な情報を自ら収集しながら、知識を深める。最後に、研究成果を卒業論文にまとめ、発表会にてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習･教育到達目標:B1, C2, D3, E1, E2, E3, F1, F3（◎), A（○）
上記の学習・研究活動により、以下①～⑥の学習・教育到達目標を達成する。
①研究テーマの領域に関する知識を身につける（学習・教育到達目標 E1)。
②研究課題に対する実験計画を立てることができる（学習・教育到達目標E2)。
③研究の遂行に必要な情報を収集しながら、自らの知識を深めることができる（学習・教育到達目標 E3)。
④実験で用いる薬品の安全性や、実験廃液の処理方法、環境への影響などを知り、化学薬品を適切に取り扱うことができる（学習・教育到達目標A, B2, C2)。
⑤研究で得られたデータをとりまとめ、それについて論理立てて説明できる（学習・教育到達目標D3)。
⑥卒業論文の作成、卒業論文の発表会及び指導教官との討論を通じて、学習・教育到達目標F1を達成する。
⑦指導教官や研究室のメンバーとの議論を通じて、円滑に研究を進めることができる（学習・教育到達目標F3)。

■講義方法
定期的（１週間ごと）に研究報告書を作成し、指導教官と議論しながら研究を進める。加えて、一定期間（２ヶ月程度）ごとに研究結果を取りまとめて､グループ内でプレゼンテーションを行う。適宜、学会やセミナー等への参加、発表を行うとともに、共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■授業時間外における予・復習等の指示
研究を立案し、実験を行う前には、必ず教員と打ち合わせを行う。打ち合わせをするために充分な準備が必要である。実験後にも必ず教員と打ち合わせを行う。打ち合わせには、実験結果を充分に整理して望むこと。定期的に中間発表会を行うが､プレゼンテーションの準備を充分に行い、発表中に出されたコメントや質問を整理し、次回の打ち合わせの際にまとめて報告する。

■成績評価の方法
平常点（100%）（平常点ならびに卒業論文発表会での評価）
到達目標①～⑦の達成度は研究室における指導の過程でチェックし、最終的にすべての項目が達成されていることを確認する。また、総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教官（主・副各１名）により審査し、主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）の合計が60%以上をもって合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科においては特別研究に取り組むには4年次初頭に開催される安全講習会を受講することが義務付けられている。
また、600時間以上かけて特別研究を行うことが求められている。

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

特別研究

【担当】糟野　潤
【開講】通年　集中

■講義概要
当研究室では、主に電気分析化学に関するテーマの研究を行う。電気化学的な測定・解析以外に、支持電解質の合成と分析、電極材料の開発や物性評価なども行う。大きく分けて、①水と混じり合わない有機溶液と水溶液の界面での電荷移動反応の解析 |分析化学的視点（イオンの分離定量）と生化学的視点（有機溶液を生体膜と見立てる）に基づく|、②新しい迅速全電解用フローセルの開発とその性能評価、③光合成生物を用いた光-電気エネルギー変換反応と有害物質センサへの応用の３つのテーマに関して研究を進める。研究室では、指導教員およびメンバーとの議論をまめに行いながら実験計画を立て、それを遂行し、得られた結果をまとめていく。また、研究の過程で必要な情報を自ら収集しながら、知識を深める。最後に、研究成果を卒業論文にまとめ、発表会にてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習･教育到達目標:B1, C2, D3, E1, E2, E3, F1, F3（◎）,A（○）
上記の学習・研究活動により、以下①～⑥の能力を身につけることを目標とする。
①研究テーマの領域に関する知識を身につける（学習・教育到達目標 E1)。
②研究課題に対する実験計画を立てることができる（学習・教育到達目標 E2)。
③研究の遂行に必要な情報を収集しながら、自らの知識を深めることができる（学習・教育到達目標 E3)。
④実験で用いる薬品の安全性や、実験廃液の処理方法、環境への影響などを知り、化学薬品を適切に取り扱うことができる（学習・教育到達目標A, B1, C2)。
⑤研究で得られたデータをとりまとめ、それについて論理立てて説明できる（学習・教育到達目標D3)。
⑥指導教官や研究室のメンバーとの議論を通じて円滑に研究を進めることができる（学習・教育到達目標F1, F3)。

■講義方法
定期的（１週間ごと）に研究報告書を作成し、指導教員と議論しながら研究を進める。加えて、２か月ごとに研究成果を取りまとめて､研究室内でプレゼンテーションを行う。適宜､学会やセミナー等への参加、発表を行うとともに、共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて専門分野の知識を深める。

■系統的履修
物質化学研究デザイン演習、分析化学、無機化学ＩＩＩ、機器分析化学実験など

■授業時間外における予・復習等の指示
研究の進捗に応じて、適宜指示する。

■成績評価の方法
平常点（100%）卒業論文ならびに発表会での評価
到達目標①～⑥の達成度は研究室における指導の過程でチェックし､最終的にすべての項目が達成されていることを確認する。また、総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教官（主･副各１名）により審査し、主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）の合計が60%以上をもって合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科においては特別研究に取り組むには、３年次に開催される安全講習会を受講していることが必須である。
また、600時間以上かけて特別研究を行うことが求められている。

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

学科固有

特別研究

【担当】白神　達也
【開講】通年　集中

■講義概要
4年次に進級すると、学科の研究グループあるいは教員の研究室に10数人単位で配属され、指導教員によるマンツーマンの指導のもとに1年間を通じて特別研究を行う。これは、3年次までに修得した基礎学力の上に立って、特定の研究テーマについて自主的に研究を行い、その成果を卒業論文にまとめ、発表するものである。この特別研究によって、履修した科目の応用能力を高め、新しい未知のテーマに挑戦して自主的に勉学し、研究成果をまとめ、発表する能力を養成することを目的としている。当研究室では、セメント及び蛍光体の研究を行っている。研究室では指導教官およびメンバーとの議論を行いながら実験計画を立て、それを遂行し、得られた結果をまとめる。また研究の過程で必要な情報を自ら収集しながら､知識を深める。最後に、研究成果を卒業論文にまとめ､発表会にてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：Ｅ１、E2、E3（◎）、A、B2、C2、D3、F3（○）
上記の学習・研究活動により、以下①～⑥の能力を身につけることを目標とする。
①研究テーマの領域に関する知識を身につける（学習教育到達目標 E1)。
②研究課題に対する実験計画を立てることができる（学習教育到達目標 E2)。
③研究の遂行に必要な情報を収集しながら、自らの知識を深めることができる（学習教育到達目標 E3)。
④実験で用いる薬品の安全性や、実験廃棄物の処理方法、環境への影響などを知り、化学薬品を適切に取り扱うことができる（学習教育到達目標A, B2, C2)。
⑤研究で得られたデータをとりまとめ、それについて論理立てて説明できる（学習教育到達目標D3)。
⑥指導教員や研究室のメンバーとの議論を通じて、円滑に研究を進めることができる（学習教育到達目標F3)。

■講義方法
定期的（１週間ごと）に研究報告書を作成し、指導教官と議論しながら研究を進める。適宜、学会やセミナー等への参加、発表を行うとともに、共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■系統的履修
物質化学研究デザイン演習を始めとするすべての創生科目とすべての必修科目、構造解析学を始めとする無機系の選択科目。

■授業時間外における予・復習等の指示
日々の研究活動すべてがこの科目の予・復習である。

■成績評価の方法
平常点（100%）（平常点ならびに卒業論文発表会での評価）
到達目標①～⑥の達成度は研究室における指導の過程でチェックし、最終的にすべての項目が達成されていることを確認する。また、総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教官（主・副各１名）により審査し、主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）の合計が60%以上をもって合格とする

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科においては特別研究に取り組むには3年次後期に開催される安全講習会を受講することが義務付けられている。
また､600時間以上かけて特別研究を行うことが求められている。

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

特別研究

【担当】富﨑　欣也
【開講】通年　集中

■講義概要
当研究室では、生体分子のもつ秩序性と階層性を利用する材料開発をテーマとする研究を行う。生体分子の中でもペプチドは、化学合成法によって様々な機能性基を位置特異的に配置可能であることと、自己集合化によってナノからマイクロメートルスケールのボトムアップ型材料合成に適していることから注目を集めている。ここでは特に短いペプチドの自己集合現象を研究対象とする。また、これらを鋳型とする有機－無機複合材料の合成と性質についても研究展開する。卒論生には、個別の研究テーマが与えられるので、指導教員と議論を行いながら実験計画を立て、それを遂行し、得られた結果をまとめる。また、研究の過程で必要な情報を自ら収集しながら、知識を深める。最後に、研究成果を卒業論文にまとめ、卒論研究発表会にてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：A（○）, B1, C2, D3, E1, E2, E3, F1, F3（◎）
実験で用いる薬品の安全性や、実験廃液の処理方法、環境への影響などを理解することによって、学習・教育到達目標Aを達成する。
化学薬品を適切に取り扱う能力を身につけることによって、学習・教育到達目標 B1を達成する。
化学薬品の人体への影響や応急処置法を身につけることによって、学習・教育到達目標 C2を達成する。
研究で得られたデータをとりまとめ、それについて論理立てて説明できる能力を身につけることによって､学習･教育到達目標 D3を達成する。
研究テーマの領域に関する知識を身につけることによって、学習・教育到達目標E1を達成する。
研究課題に対する実験計画を立案することによって、学習・教育到達目標E2を達成する。
研究の遂行に必要な情報を収集しながら、自らの知識を深めることによって、学習・教育到達目標E3を達成する。
卒業論文の作成、卒業論文発表会および指導教員とのディスカッションを通じて、学習・教育到達目標F1を達成する。
指導教官や研究室のメンバーとの議論を通じて、円滑に研究を進めることができる能力を身につけることによって、学習・教育到達目標 F3を達成する。

■講義方法
一定期間（2ヶ月程度）ごとに研究結果を取りまとめて、研究室内でプレゼンテーションを行う。個々の研究の進捗に応じて、指導教員と個別にあるいはグループ毎に議論しながら研究を進める。加えて、適宜、学会やセミナー等への参加、発表を行うとともに、他研究機関の研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■授業時間外における予・復習等の指示
実験以外の勉強、例えば自宅でできる研究背景や関連分野の理解について積極的に行うこと。

■成績評価の方法
その他（100%）研究室内での研究進捗状況プレゼンテーションならびに卒業論文発表会での評価を総合する。
学習･教育到達目標の達成度は研究室における指導の過程でチェックし、最終的にすべての項目が達成されていることを確認する。また、総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教員（主・副各1名）が審査し、主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）の合計が60%以上をもって合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜指定する。

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科においては特別研究に取り組むには4年次初頭に開催される安全講習会を受講することが義務付けられている。
また、600時間以上かけて特別研究を行うことが求められている。
研究成果については、これまでのように時間は解決してくれないので、積極的に行動すること。

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

学科固有

特別研究

【担当】中沖　隆彦
【開講】通年　集中

■講義概要
4年次に進級すると、学科の研究グループあるいは教員の研究室に10数人単位で配属され、指導教員によるマンツーマンの指導のもとに1年間を通じて特別研究を行う。これは、3年次までに修得した基礎学力の上に立って、特定の研究テーマについて自主的に研究を行い、その成果を卒業論文にまとめ、発表するものである。この特別研究によって､履修した科目の応用能力を高め､新しい未知のテーマに挑戦して自主的に勉学し、研究成果をまとめ、発表する能力を養成することを目的としている。指導教員は、あらかじめ学科において指示された方式により、また研究テーマは指導教員と学生との相談により決定される。特別研究のテーマは、3年次までの学生実験のテーマとは異質で、結果が全く見えない未知のテーマに挑戦することがあると肝に銘じることが肝要である。
研究テーマは大きく分けて2つのグループで行う。
(1) 高分子固体およびゲルの分子構造解析：高分子の物性を決める重要なファクターに分子レベルでの構造がある。固体NMR、熱分析、X線回折、赤外分光法などの分析法の原理を理解したうえで分子構造解析を行う。
(2) 生分解性高分子の創生：微生物を用いたバイオプラスチックの生合成を、安価な炭素源を用いて行うプロセスを確立する。石油に依存しない環境型高分子材料の重要性について検討する。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1, E2, E3（◎） A, B2, C2, D3, F3（○）
先端の研究テーマを設定ることにより､学習教育到達目標E1を達成する。
オリジナルな研究テーマの設定により、未知の問題を討議して研究を進めることにより、学習教育到達目標E2を達成する。
自分自身で、論文を検索して、自分のテーマに生かしていくことにより、学習教育到達目標E3を達成する。
単なる材料の開発にとどまらず、社会的な影響も考えることにより、学習教育到達目標Aを達成する。
プラスチック材料のリサイクルを学習することにより、学習教育到達目標B2を達成する。
単なる材料の開発にとどまらず、社会的な影響も考えることにより、学習教育到達目標C2を達成する。
卒業研究を進めるに当たり、オリジナルなアイディアを考えることにより、学習教育到達目標D3を達成する。
研究室内のコミュニケーションにより、学習教育到達目標F3を達成する。

■講義方法
毎週研究報告会を行い、プレゼンのスキル向上を図るとともに、質疑を行い他のメンバーの研究に対して批判の目を養う。また夏冬に半年間の研究成果をまとめて発表する中間報告会を行う。適宜学会やセミナー等への参加、発表を行うとともに、共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■系統的履修
物質化学研究デザイン演習､高分子化学､高分子プロセス化学､高分子材料化学など

■授業時間外における予・復習等の指示
討論したことは、よく理解するよう努めてください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）日常のディスカッションにより評価する。
定期試験（70%）卒論および卒論発表会で評価する。
研究テーマへの日常の取り組み姿勢、研究結果に対する掘り下げ､卒業論文の内容､発表内容などにより総合的に評価する。
主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科においては特別研究に取り組むには4年次初頭に開催される安全講習会を受講することが義務付けられている。
また、600時間以上かけて特別研究を行うことが求められている。

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

特別研究

【担当】林　久夫
【開講】通年　集中

■講義概要
本科目では、合成および天然の高分子化合物（プラスチック、繊維、フィルム、エラストマー、ゲルなど）に関する基礎的テーマを研究する。高分子化合物は、多数の原子が共有結合で鎖状に繋がった分子構造を基本としている。そのため、分子形態、結晶・非晶状態、モルフォロジー等の各階層の構造において、特有で多様な特徴を示す。本研究室では、高分子化合物を合成・抽出分離により作製し、これらの物質の各階層における構造とそれが示す物性との間の関係を研究する。研究室内で、教員や大学院生を交えた議論を行う中で、各自が自ら実験計画を立て、それを遂行し、得られた結果をまとめる。また、研究の過程で必要な情報を自ら収集しながら、知識を深める。最後に、研究成果を卒業論文にまとめ、発表会にてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1、E2、E3（◎）、A、B2、C2、D3、F3（○）
上記の学習・研究活動により、以下①～⑥の能力を身につけることを目標とする。
①研究テーマの領域に関する知識を身につける（学習教育到達目標 E1）。
②研究課題に対する実験計画を立てることができる（学習教育到達目標 E2）。
③研究の遂行に必要な情報を収集しながら、自らの知識を深めることができる（学習教育到達目標 E3）。
④実験で用いる薬品の安全性や、実験廃液の処理方法、環境への影響などを知り、化学薬品を適切に取り扱うことができる（学習教育到達目標A, B2, C2）。
⑤研究で得られたデータをとりまとめ、それについて論理立てて説明できる（学習教育到達目標D3）。
⑥指導教官や研究室のメンバーとの議論を通じて、円滑に研究を進めることができる（学習教育到達目標F3）。

■講義方法
定期的（１週間および１月毎）に研究報告書を作成し、指導教員と議論しながら研究を進める。加えて、学期毎に中間報告を取りまとめて、研究室内でプレゼンテーションを行う。適宜、学会やセミナー等への参加、発表を行うとともに、共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■授業時間外における予・復習等の指示
研究の進捗に応じて適宜指示する。

■成績評価の方法
平常点（100%）平常点ならびに卒業論文発表会での評価
到達目標①～⑥の達成度は研究室における指導の過程でチェックし、最終的にすべての項目が達成されていることを確認する。また、総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教官（主・副各１名）により審査し、主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）の合計が60%以上をもって合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科においては特別研究に取り組むには4年次初頭に開催される安全講習会を受講することが義務付けられている。
また、600時間以上かけて特別研究を行うことが求められている。

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

特別研究

【担当】藤原　学
【開講】通年　集中

■講義概要
近年、分析機器の発展で分析化学の学問領域も大きく変化している。以前からの溶液中における各成分の濃度を求めることから、固体試料中の各元素の３次元分布やそれらの状態分析へと研究の中心が移っている。本研究室では、主にX線光電子スペクトル（XPS）法や蛍光X線分析（XRF）法を用いて各種金属化合物および錯体の状態分析を行い、XPSやXRFの有用性を明らかにする。また、龍谷大学隣接地周辺の森林から土壌や水サンプルを対象とした環境分析、大宮図書館が所蔵する「大谷コレクション」などの貴重な考古試料の分析も行う。それぞれの研究テーマの意義を十分に理解し、関連分野を調査しながら実験を進め、種々の分析手法を身につける。また、分析データから重要な情報を抽出し、それらを総合的に評価する。研究成果を卒業論文にまとめ、発表会にてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：B1, C2, D3, E1, E2, E3、F1, F3（◎）、A（○）
上記の学習・研究活動により、以下①～⑥の能力を身につけることを目標とする。
①研究テーマの領域に関する知識・技術を身につける（E1）。
②研究課題に対すて実行可能な実験計画を立てることができる（E2）。
③研究の遂行に必要な情報を収集し、自らの知識を深めることができる（E3）。
④実験で用いる薬品の安全性や、実験廃液の処理方法、環境への影響などを知り、化学薬品を適切に取り扱うことができる（A, B2, C2）。
⑤研究で得られたデータをまとめ、それについて論理立てて説明できる（D3）。
⑥指導教官や研究室のメンバーとの議論を通じて、円滑に研究を進めることができる（F3）。
さらに、卒業論文の作成、卒業論文発表会および指導教員とのディスカッションを通じて、学習・教育到達目標のF1を達成する。

■講義方法
指導教官や研究室のメンバーと議論しながら各自の研究を進める。加えて、毎月研究結果を取りまとめて、中間発表を行う。適宜、学会やセミナー等への参加、発表を行うとともに、共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■系統的履修
物質化学研究デザイン演習、分析化学、機器分析化学、化学基礎実験、機器分析化学実験など

■授業時間外における予・復習等の指示
研究については、まず自ら研究計画を立て、それに従って着実に実行していくこと。自主的に学習して、研究慮域だけでなく関連領域についての知識を深めること。疑問点があれば、指導教員に積極的に質問するとともに研究室内で十分議論すること。

■成績評価の方法
平常点（100%）（日常的な研究活動、卒業論文作成状況ならびに卒業論文発表会での評価）
到達目標①～⑥および他の達成度は研究室における指導の過程でチェックし、最終的にすべての項目が達成されていることを確認する。また、総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教官（主・副各１名）により審査し、主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）の合計が60%以上をもって合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科においては特別研究に取り組むには3年次に開催される安全講習会を受講することが義務付けられている。
また、600時間以上かけて特別研究を行うことが求められている。

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

特別研究

【担当】宮武　智弘
【開講】通年　集中

■講義概要
当研究室では、生体分子に関わる有機化学をテーマに研究を行う。生体分子は互いに相互作用しながら分子集合体を構築し、単独の分子ではみられない性質を持つことが多い。ここでは特に光合成系、生体膜およびポリペプチドを研究対象として、クロロフィルのモデル分子や脂質膜透過性分子を合成し、その自己集積体の構造・性質を調べる。研究室では指導教官およびメンバーとの議論を行いながら実験計画を立て、それを遂行し、得られた結果をまとめる。また研究の過程で必要な情報を自ら収集しながら、知識を深める。最後に、研究成果を卒業論文にまとめ、発表会にてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習・教育到達目標:B1, C2, D3, E1, E2, E3, F1, F3（◎）,A（○）
上記の学習・研究活動により、以下①～⑥の能力を身につけることを目標とする。
①研究テーマの領域に関する知識を身につける（学習・教育到達目標 E1)。
②研究課題に対する実験計画を立てることができる（学習・教育到達目標 E2)。
③研究の遂行に必要な情報を収集しながら、自らの知識を深めることができる（学習・教育到達目標 E3)。
④実験で用いる薬品の安全性や、実験廃液の処理方法、環境への影響などを知り、化学薬品を適切に取り扱うことができる（学習・教育到達目標A, B1, C2)。
⑤研究で得られたデータをとりまとめ、それについて論理立てて説明できる（学習・教育到達目標D3)。
⑥指導教官や研究室のメンバーとの議論を通じて円滑に研究を進め、卒業論文の作成、卒業論文発表会でのプレゼンテーションを行う（学習・教育到達目標F1, F3)。

■講義方法
定期的（１週間ごと）に研究報告書を作成し、指導教官と議論しながら研究を進める。加えて、一定期間（２ヶ月程度）ごとに研究結果を取りまとめて、グループ内でプレゼンテーションを行う。適宜、学会やセミナー等への参加、発表を行うとともに、共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■系統的履修
物質化学研究デザイン演習、有機化学、生化学、超分子化学、など

■授業時間外における予・復習等の指示
研究内容に関する書籍や学術論文を読みながら、自学習を行う。内容については、担当者からも指示する。

■成績評価の方法
平常点（100%）卒業論文ならびに発表会での評価
到達目標①～⑥の達成度は研究室における指導の過程でチェックし､最終的にすべての項目が達成されていることを確認する｡また､総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教官（主･副各１名）により審査し、主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）の合計が60%以上をもって合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
特別研究に取り組むには、３年次に開催される安全講習会を受講していることが必須である。

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

学科固有

特別研究

【担当】和田　隆博
【開講】通年　集中

■講義概要
4年次に進級すると、学科の研究グループあるいは教員の研究室に10数人単位で配属され、指導教員によるマンツーマンの指導のもとに1年間を通じて特別研究を行う。これは、3年次までに修得した基礎学力の上に立って、特定の研究テーマについて自主的に研究を行い、その成果を卒業論文にまとめ、発表するものである。この特別研究によって、履修した科目の応用能力を高め、新しい未知のテーマに挑戦して自主的に勉学し、研究成果をまとめ、発表する能力を養成することを目的としている。指導教員は、あらかじめ学科において指示された方式により、また研究テーマは指導教員と学生との相談により決定される。特別研究のテーマは、3年次までの学生実験のテーマとは異質で、結果が全く見えない未知のテーマに挑戦することがあると肝に銘じることが肝要である。

■到達目標
学習・教育到達目標：A（○）, B1, C2, D3, E1, E2, E3, E1, E2, E3, F1, F3（◎）
卒業論文の作成、卒業論文の発表会および指導教員との議論を通じて、学習・教育目標F1を達成する。

■講義方法
研究テーマおよびそれらの進行状況に応じ個別に行う。適時、それぞれの研究室内において中間発表会を行う。
定期的（１週間ごと）に研究報告書を作成し、指導教官と議論しながら研究を進める。加えて、春・夏・秋・冬には研究結果を取りまとめて、グループ内でプレゼンテーションを行う。適宜、学会やセミナー等への参加、発表を行うとともに、共同研究機関での実験、研究者との交流等を通じて関連分野の知識を深める。

■授業時間外における予・復習等の指示
自主的に研究を進めることを基本としている。
研究計画、実験、実験結果の解析、新たな実験計画の立案のサイクルを指導教員助言を受けながら回せるようになることを目標としている。

■成績評価の方法
平常点（100%）教員とのミーティングや研究室でのセミナー、卒業論文発表会で発表内容等で評価
各学習・教育到達目標の達成度は研究室における指導の過程でチェックし、最終的にすべての項目が達成されていることを確認する。また、総研究時間が600時間以上であることを確認する。卒業論文ならびに卒業研究発表会におけるプレゼンテーションは指導教官（主・副各１名）により審査し、主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）の合計が60%以上をもって合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科においては特別研究に取り組むには3年に開催される安全講習会を受講することが義務付けられている。
また､600時間以上かけて特別研究を行うことが求められている。

■講義計画
研究テーマおよびそれらの進行状況状況に応じて適時調整する。

ナノ材料工学

【担当】青井　芳史
【開講】後期　木2

■講義概要
ナノテクノロジーとは、材料をナノメートルオーダーで制御することにより新しい機能を発現する技術、ナノメートルオーダーで材料を加工する技術、観察・計測する技術であり、あらゆる工業分野において飛躍的な革新をもたらす可能性を秘めた技術である。本講義では、特に無機材料に焦点を当て、材料科学（Materials Science）、プロセス化学に関連した内容をナノテクノロジーとの関連で講述する。
具体的な内容を多く活用し、最先端の「ナノテクノロジー」、「ナノ材料」の姿の一端を見ることのできるよう講義する。
この科目を履修することにより、無機材料の基礎と共に、ナノ材料としてのそれらを学ぶことにより、材料としての無機・セラミックスの理解と活用のための知識が身に付く。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1（◯）
・ナノメートルオーダーのサイズを有するナノ材料について、バルク材料とは異なる物性・機能を有することの原理、その特徴について考察できるようになることによって、学習・教育到達目標E1を達成する。

■講義方法
特に決まったテキストは使用しない。適時プリント資料を配付し板書を中心に講義する。
随時演習を行うと共にレポートを課す。

■系統的履修
物理Ⅱ、物理Ⅲ、セラミック材料工学、結晶材料工学、機能材料工学

■授業時間外における予・復習等の指示
講義までに前回部分の復習をしっかり行なっておくこと。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（40%）
そ の 他（40%）中間試験

■テキスト
特になし

■参考文献
平尾一之　『ナノマテリアル最前線』　化学同人　4,400円
坂田　亮　『理工学基礎　物性科学』　培風館　2,400円
村西治人　『基礎固体化学』　三共出版　2,900円

■履修上の注意・担当者からの一言
本講義は、物理学、物性物理学、結晶化学、プロセス化学等の広い分野に及ぶ基礎知識が必要である。適時、演習、レポート等で理解度をチェックしながら進めるつもりであるが、理解できないところがあれば積極的に質問してきて欲しい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは毎週月曜日および金曜日の5講時に設けています。また、随時質問は受け付けます。

■講義計画
①ナノテクノロジー、ナノ材料とは
②量子力学の基礎
③バルク材料の電子物性
④2次元系ナノ材料の電子物性
⑤1次元系ナノ材料の電子物性
⑥0次元系ナノ材料（ナノ粒子）の電子物性
⑦中間テスト
⑧量子ドット
⑨ナノ粒子の電気的特性
⑩ナノ粒子の光学的特性
⑪ナノ粒子の作製法
⑫ナノ粒子の応用Ⅰ
⑬ナノ粒子の応用Ⅱ
⑭ナノ計測技術－電子顕微鏡－
⑮ナノ計測技術－走査プローブ顕微鏡－

学科固有

入門セミナー

【担当】藤原　学、青井　芳史、富﨑　欣也、中沖　隆彦、渡辺　英児
【開講】前期　金3・金4

■講義概要
大学においては、既に明らかになっていることを知識として学ぶと共に、結果が明らかでない問題や複数の解答がある問題を自分自身で考えることが要求される。これには論理的に思考する訓練が必要である。また思考を深めるためには意見の異なる者と討論することが重要となる。「入門セミナー」では、受講生の問題発見力・問題解決力・自己表現力を向上させることを目的にしている。本科目は、与えられた課題を各自が解いていくのではなくて、課題自体を受講生が設定することから始まる。
論理的に思考する、グループ内でディスカッションを通して意見をまとめていく、自分の意見を発表するなど、今後理系の学生としていろいろな場面で必要とされる基本的な力を養うことができる。

■到達目標
学習・教育到達目標：F1，F3，C2（◯）
課題を発見する。グループ内で、議論し意見をまとめる（F1, F3）。データをまとめる。パワーポイントを用いて、発表する。他のグループの発表を聞き、評価する。課題を調査することを通じて、科学技術者として社会から求められている基本的な倫理観を養う（C2）。

■講義方法
本科目では、受講生を4つのグループに分け、4名の教員で分担する。通常の講義方法とは異なり、教員は学生の活動に対するアドバイザー役を務める。

■系統的履修
必修科目である計算機基礎実習Ⅰを必ず履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に知らせる。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業中における討論・グループ内での貢献度
レポート（10%）最終レポート
そ の 他（60%）ポスター発表会での発表（20%）および口頭発表会での発表（40%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
本科目においてはあくまでも受講生が主体であり、討論参加およびレポート作成など自己表現が授業の中心となるので、積極的に参加されることを望む。選択科目であるが、受講されることを強く薦める。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に知らせる。

■講義計画
①はじめに（グループ分け・内容説明）
②課題討論（1）・情報収集法説明・図書館見学
③課題討論（2）・課題について議論・仮テーマ決定
④課題討論（3）・仮テーマ発表会
⑤情報収集（1回目）
⑥情報収集（2回目）
⑦情報収集（3回目）・ポスター発表用データ作成・発表準備
⑧情報収集（4回目）・ポスター発表練習
・ポスター発表会（昼休みを含めて実施）
⑨情報収集（5回目）・報告書作成
⑩データのまとめ・議論・報告書作成
⑪報告書作成・提出
⑫口頭発表用データ作成・発表準備
⑬グループ内発表会
⑭口頭発表会（前半）・他のグループの採点評価
⑮口頭発表会（後半）・他のグループの採点評価・アンケート

物質化学研究デザイン演習

【担当】青井　芳史
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
本演習では、これまで講義、演習、学生実験を通して学習してきた物質化学の基礎知識を実際の研究活動に応用する方法を学ぶことを目的とする。具体的には、4年次に研究室に配属された際にスムーズに特別研究を実施することができるよう、研究テーマの内容、機器の取り扱い等を説明を交え実際に実習を行う。また､その内容について報告書にまとめるとともに、PowerPointを用いてプレゼンテーションを行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3,E1,E2（◎）,F1（○）
・４年次における卒業研究に向け、自らテーマについて研究計画を立案できるよう科学的基礎知識を学習することによって、学習・教育到達目標D3を達成する。
・研究室の研究テーマを学び、理解することによって、学習・教育到達目標E1を達成する。
・研究を行う上で必要な情報を学術論文等から得、自ら研究課題を立案できるようになることによって、学習・教育到達目標E2を達成する。
・調査した内容や実験成果をまとめて、報告書の作製、プレゼンテーションを行うことができるようになることによって、学習・教育到達目標F1を達成する。

■講義方法
授業の最初にその日やることに関する説明を行い、その後研究室の学生のもとで実際に機器等の取り扱いについて学ぶ。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義開始前までに必ず､その日行うことを確認し予習しておくこと。

■成績評価の方法
その他（100%）主担当教員による評価（70%）、他の教員による評価（30%）
毎回提出のレポート、日常態度、積極性をもとに主担当教員が判定する。(70%）また授業の最後に他の教員のもとでプレゼンを行い評価する。(30%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
自ら考え行動することが重要です。いろいろなことに興味を持ち、積極的に取り組んでください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは毎週月曜日および金曜日の5講時に設けています。また、質問は随時受け付けます。

■講義計画
①研究室で行っている研究に関する説明
②気相法による薄膜作製の原理と実習－ECRスパッタリング法とは－
③気相法による薄膜作製の原理と実習
　－ECRスパッタリング法による薄膜作製－
④気相法による薄膜作製の原理と実習－PLD法とは－
⑤気相法による薄膜作製の原理と実習－PLD法による薄膜作製－
⑥液相法による薄膜作製の原理と実習－液相析出法、LbL法とは－
⑦液相法による薄膜作製の原理と実習－液相析出法による薄膜作製－
⑧液相法による薄膜作製の原理と実習
　－LbL法によるマイクロカプセルの作製－
⑨材料評価に使用する機器の原理と実習
　－XPS 、Raman散乱分光による薄膜の物性測定－
⑩材料評価に使用する機器の原理と実習
　－AFM、ナノインデンターによる薄膜評価－
⑪材料評価に使用する機器の原理と実習－電子顕微鏡－
⑫材料評価に使用する機器の原理と実習－UV-Visによる薄膜評価－
⑬工場見学
⑭研究室内でのプレゼンテーション
⑮他の教員のところでのプレゼンテーション

学科固有

物質化学研究デザイン演習

【担当】岩澤　哲郎
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
必要最低限の基礎的な研究技術を学び、卒業研究のスタートアップを円滑に進めることを目指す。すなわち、卒業研究を行うための入門講座としての位置付け。研究室内におけるコミュニケーション能力の養成に力点を当てた指導を行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
・基本的で実際的な実験技術の習得を通じて、D3を達成する。
・調査結果の整理の解析を通じて次の実験計画の立案に関与し、E1を達成する。
・調査結果の中から問題提起を行う議論を通じて、E2を達成する。
・調査結果の報告連絡相談を通じて、F1を達成する。

■講義方法
１．研究室メンバー及び教員とコミュニケーションを取りながら調査業務を推進する。
２．具体的な調査および探求活動を通してはじめの一歩を踏み出す。
３．研究室で扱う課題（研究テーマ）について学び、問題点の把握と目的の理解、及び目標について学ぶ。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、分子設計化学

■授業時間外における予・復習等の指示
予習する項目と復習する項目について、適宜講義時に説明する。

■成績評価の方法
レポート（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
主体的な行動と積極的なコミュニケーションを求めます。

■講義計画
①オリエンテーション
②研究課題の背景に対する理解
③実験演習、化学反応を行う
④実験演習、workup操作を行う
⑤実験演習、カラム精製操作を行う
⑥実験演習、再結晶操作を行う
⑦実験演習、物理データの収集を行う
⑧実験演習、実験結果を周りと相談しながらまとめる
⑨実験演習、実験結果を報告する方法について学ぶ）
⑩実験演習、次に行う実験の計画を考える
⑪実験演習、発表のための資料作成
⑫研究室の先輩のプレゼンテーションを聴講して学ぶ
⑬研究室の皆の前で発表練習
⑭発表方法について細かい技術の説明
⑮他研究室にてプレゼンテーション

物質化学研究デザイン演習

【担当】内田　欣吾
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
本授業は3年生前期までに学習してきた基礎的な知識が未知の現象を解き明かすのに必要であるということを実感するとともに、4年生で行う卒業研究をスムーズに開始できるように設けられた科目である。最初の1時間は実際に研究室で行っているテーマを簡単に解説したり、世界の他の研究グループの研究の現状について説明をする。その後、研究室の学生の指導のもと簡単な実験と装置の使い方を習得し、そのデータを用いて報告書の書き方を実習する。一方で、各自、別々の最新の科学技術論文を選び、それを理解した上で、それを基に研究テーマをデザインする。デザインした内容は、パワーポイントを用いて発表原稿とＡ４用紙1枚の発表要旨を作成し、他の研究室の教員の前で発表を行う。最後に各自、研究テーマの設定について教員と文献調査に基づきディスカッションする。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3, E1, E2（◎), F1（○）
4年生で行う研究テーマがどういうものなのかということと研究室に付属する器具や装置を使用することにより、卒業研究の全体像を把握することができる。これにより学習・教育到達目標E2を達成する。
3年生後期から卒業研究に触れることにより、4年生からの卒業研究がスムーズに始めることができる。
最新の文献を理解し、新しい研究テーマをデザインする過程で、学習・教育到達目標D3, E1, E2を達成する。
さらに、デザインした研究の概要を口頭発表し、質疑応答することで学習・教育到達目標F1を達成する。

■講義方法
最初は研究室の研究テーマの説明などを行い、その後グループに分かれて文献調査および実験室で教員と研究室の学生の指導のもと実験・測定なども行う。デザイン演習であるので、Webから最近の研究について知見を深め、教員のアシストを得ながらデザイン演習を行う。学生により既存文献より研究デザインを行う学生と、実験を行い結果から発表内容をまとめる学生とに分かれる。発表は、パワーポイントを作成しA4用紙1枚の予稿原稿を作成し、最終日に他研究室の教員の前で口頭発表を行い評価を受ける。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、有機材料化学

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回、文献調査した内容や実験成果をまとめ、次回に報告するので資料を毎回更新して準備してください。資料はワードまたはパワーポイントでの形式で準備すること。

■成績評価の方法
その他（100%）
毎回提出のレポート、日常態度、積極性をもとに主担当教員が判定する。(70%)また授業の最後に他の教員のもとでパワーポイントを用いた口頭発表を行い評価する。(30%)

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
常にこの研究はどこが新しいのか、どこに価値があるのかを考えてください。そのうえで、どうしたらオリジナリティーが出せるかについても考えてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
演習の時間内に終わることができない場合は、時間を延長して演習に取り組んでいる。

■講義計画
①現在の研究テーマの説明、文献検索・Internet検索
②研究の進め方、実験ノート、レポートの書き方等
③フォトクロミック化合物の研究背景（1）光と分子
④フォトクロミック化合物の研究背景（2）ジアリールエテンの特徴
⑤フォトクロミック化合物の研究背景（3）光反応分子システムの進展
⑥文献調査あるいは実験・研究デザイン（1）
※内容は個人のテーマにより異なる
⑦文献調査あるいは実験・研究デザイン（2）
※内容は個人のテーマにより異なる
⑧文献調査あるいは実験・研究デザイン（3）
※内容は個人のテーマにより異なる
⑨文献調査あるいは実験・研究デザイン（4）
※内容は個人のテーマにより異なる
⑩文献調査あるいは実験・研究デザイン（5）
※内容は個人のテーマにより異なる
⑪文献調査あるいは実験・研究デザイン（6）
※内容は個人のテーマにより異なる
⑫パワーポイント作成（1）
発表用パワーポイント作成・添削
⑬パワーポイント作成（2）および要旨作成
発表用パワーポイント作成の最終段階
⑭発表練習
⑮他の教員のところでのプレゼンテーション

学科固有

物質化学研究デザイン演習

【担当】大柳　満之
【開講】後期　月３・月４

■サブタイトル
研究の設計方法と実践

■講義概要
「研究デザイン演習」の目的は、卒業研究を始める半年前から、研究を開始する前に研究とは何か、またどのようにして研究というものが構築されるかを習熟することにある。特に、研究を設計する前段階として、自分が注目した合成・プロセス、材料機能・物性などについて、従来研究がどのようにされており、どのようなことをやれば新規で独創的な研究が展開できるかを考える機会を提供する。まず、研究室で行っている研究を紹介し、研究の背景や研究の着目点、進め方などを概説した上で、自分が注目したい対象を決定する。次に、その対象を選んだ理由を説明し、引き続きこれまでに研究されている事柄を調査するステップに進む。次に自分が研究したい項目を見つけ教員との討論のなかで、研究すべき対象と項目を選定する。これまでに関連研究がどこまでなされてきたかを再び調査し、研究するための背景を充分検討する。次に研究を行うための方法を検討し、研究計画を立案させる。最後に、これまでの過程をすべてまとめPowerPointにて発表を行う。一部、早く進んだ人には実験も行ってもらう。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3,E1,E2（◎）,F1（○）
研究の立案能力を養う訓練を行うことにより、学習・教育到達目標D3を達成する。対象とする無機材料分野において、高度な専門知識を身につけることにより、学習・教育到達目標E1を達成する。また、研究立案する過程で自らが研究課題を設定し、それを展開するためにこれまでに経験してこなかった未知の課題について、具体的な研究の詳細を立案することにより、学習・教育到達目標E2を達成する。さらに、要旨をまとめるに当たり、日本語の論理的な記述力を養い、口頭発表による試験に向けて、討論したり、発表の訓練をすることにより、学習・教育到達目標F1を達成する。本科目の目的は、「研究」入門として位置づけている。　　自分で実験・研究の立案をできるための方法を習得することを目標とする。

■講義方法
授業概要に従い、各人或いはグループと教員が個別に討論を行っていき、途中で全員の進行過程をお互いに認識するための発表会も行う。研究対象は出来るだけ簡単なものを選ぶ。

■系統的履修
特になし。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回、予定されている実験・研究内容について予習を行う。
演習後は、行った実験･研究内容について、報告書にまとめる。

■成績評価の方法
その他（100%）最終の発表結果により点数をつける。
最終の発表結果により点数をつける。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
この演習は、積極的に取り組めば組むほど自分の力となって跳ね返ってくるので、精力的に動いて欲しい。

■講義計画
①「研究デザイン演習」について
②研究室での研究の紹介
③研究分野や対象を選定
④研究内容（対象と項目）の選定
⑤研究項目に関する研究の背景や先行研究の調査
⑥研究方法の検討
⑦研究計画の立案
⑧デザインした研究計画のプレゼンテーションの作製
⑨実験の実施①
　遊星ボールミルによるナノ粉体の作製
⑩実験の実施②
　ナノ粉体の放電プラズマ焼結
⑪実験の実施③
　水素吸蔵ナノ粉体の作製
⑫実験の実施④
　水素吸蔵合金の水素吸蔵特性評価
⑬プレゼンテーションとレポートの作成
⑭パワーポイントを用いたプレゼンテーションの実施
⑮指導教員以外の教員ところでのプレゼンテーション

学科固有

物質化学研究デザイン演習

【担当】糟野　潤
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
物質化学研究デザイン演習では、それまで講義、演習や学生実験を通して学習してきた物質化学の基礎知識を実際の研究テーマに応用する方法を学ぶ。最初に、研究内容と背景について説明した後、測定機器の原理などの基本事項を確認する。つぎにそれらが実際の研究の場でどのように活かされているかを学ぶ。また、プレゼンテーション資料の作成と発表の方法を身につける。
この演習でそれまでの教育課程で身につけた知識やスキルを活かして、問題解決を図ることにより、卒業研究へのスムーズな橋渡しを狙う。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
物質化学に関する基礎知識を研究の中でどのように使うかを学ぶことによって、学習・教育到達目標D3を達成する。
特別研究で実施する研究内容について学び、関連する知識を身に着けることによって、学習・教育到達目標E1を達成する。研究事例を学び、課題解決の具体的な方法を知ることによって、学習・教育到達目標E2を達成する。
学習した研究事例を報告書にまとめ、口頭発表することによって、学習・教育到達目標F1を達成する。

■講義方法
研究室の研究課題を中心に、測定機器の原理や手法を習得するとともに、研究の背景にある知識やテクニックに関する情報収集を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜資料を配布し、予・復習の範囲を指示する。

■成績評価の方法
その他（100%）
レポート、演習態度、積極性をもとに主担当教員が判定する（70%）。また、講義の最後に他の教員のもとでプレゼンテーションを行い評価する（30%）。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション（演習の進め方、実験ノートの書き方等）
②学外実習報告
③研究テーマの紹介（1）
④研究テーマの紹介（2）
⑤実験演習（1）試料調製（濃度計算、天秤、器具の洗浄）
⑥実験演習（2）参照電極の作り方、作用電極の前処理法
⑦実験演習（3）サイクリックボルタンメトリー（固体電極）
⑧実験演習（4）サイクリックボルタンメトリー（液液界面電荷移動）
⑨実験演習（5）サイクリックボルタンメトリー（修飾電極）
⑩実験演習（6）クーロメトリー（固体電極）
⑪実験演習（7）クーロメトリー（液液界面）
⑫発表資料の作成（1）
⑬発表資料の作成（2）
⑭発表練習
⑮他研究室でのプレゼンテーション

物質化学研究デザイン演習

【担当】白神　達也
【開講】後期　月３・月４

■サブタイトル
研究発表に必要なプレゼンテーション

■講義概要
本演習では、配属予定の研究室において、その研究室の研究分野に関連した文献調査、発表や基礎的な練習実験を行い、決められた形式や時間内でプレゼンテーションを行う。研究が行われる意味や、科学の一分野の中での研究の位置づけについて洞察できる目を養う。それまでの教育課程で身につけた知識やスキルを総動員して、問題解決を図ることにより、卒業研究へのスムーズな橋渡しを狙う。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3,E1,E2（◎）、F1
粉末X線回折、TG-DTAの原理を理解した上で、測定とその解析を行い、与えられた試料の総合評価を行うことにより、学習・教育到達目標D3とE2を達成する。配属予定の研究室の研究分野に関連した文献調査を独力で行えることにより、学習・教育到達目標E1を達成する。発表や基礎的な練習実験を行い、決められた形式や時間内でプレゼンテーションを行うこと。他の人のプレゼンを聞いて、その内容をつかむことにより、学習・教育到達目標F1を達成する。

■講義方法
粉末X線回折、TG-DTAの原理を理解した上で、測定とその解析を行い、与えられた試料の総合評価を行う。また、その内容について、レポートすることと与えられた時間でプレゼンテーションすることを目標とする。他の人のプレゼンを聞いて、その内容をつかむことをレポートにて確認する。

■系統的履修
すべての科目。強いてあげれば「入門セミナー」と実験

■授業時間外における予・復習等の指示
粉末X線回折、TG-DTAの原理のみならず、与えられた試料の基礎知識の予・復習を指示する。

■成績評価の方法
レポート（70%）レポート作成を通して、課題への取り組み姿勢、表現力、課題に対する理解、まとめ方および発表、文書形式の遵守度などを総合する。
そ の 他（30%）プレゼンテーション能力およびその要約力、質疑応答を総合して副担当が決める。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション（テーマ決定）
②粉末X線回折測定
③粉末X線回折解析
④TG-DTA測定
⑤TG-DTA解析
⑥学外実習報告
⑦第一回レポート提出、内容検討会
⑧解析、調査補足（質問等の時間を設定する）
⑨第二回レポート提出（第一回レポートの修正）、プレゼンテーションの準備
⑩プレゼンテーションの準備
⑪プレゼンテーションの練習（他の試料のテーマについてレポートを課す。内容に力点を置き、単なる感想とはしない）
⑫最終報告書提出（プレゼンテーションを簡潔に文書化したもの、A4一枚）、予備時間（プレゼン練習、質問等）
⑬第三回レポート提出、予備時間（プレゼン練習、質問等）
⑭練習予備日
⑮他の先生に報告書の内容を報告　10分/人程度

物質化学研究デザイン演習

【担当】富﨑　欣也
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
研究者･技術者への第一歩として､「立案､調査､提案､実験､考察､報告」といった一連の研究開発行程を学ぶことは非常に意義深い。本講では、これまで講義、演習や学生実験を通して習得してきた物質化学の基礎知識を基に、実際の研究で推進する研究テーマに関する研究提案を行うことで、受講者を化学分野の断片的理解から横断的理解へと導く。まず、研究室で行っているテーマの解説や有機合成化学の基礎、機器分析装置の原理・手法等を説明する。次いで、受講生自らが調査研究報告書を作成し、研究提案する。一部、早く進んだ受講生には実験も行ってもらう。また、視野を広げるために、受講者全員で学外の研究機関を見学する。

■到達目標
学習・教育到達目標：Ｄ3，Ｅ1，Ｅ2（◎），Ｆ1（○）
科学的基礎知識をもとに、卒業研究を遂行する際に必要な研究室の研究テーマを理解することによって、学習･教育到達目標Ｄ３を達成する。
研究遂行上必要な学術論文、書籍およびインターネット等からの情報収集能力を習得することによって､学習･教育到達目標E1を達成する。
学術論文、書籍およびインターネット等から獲得した情報をもとに、課題解決に向けて論理的に思考する能力を修得することによって、学習・教育到達目標E2を達成する。
得た知識をスライドにまとめ、発表することによって、学習・教育到達目標F1を達成する。

■講義方法
研究室の基盤技術である有機化合物合成法、化合物同定のための機器分析装置の原理・手法および関連分野について学ぶ。また、研究室で行っている研究分野を対象とした課題について、学術論文、書籍およびインターネット等から情報収集を行い、得た情報をまとめて担当教員以外の教員に対してプレゼンテーションを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時間内では資料収集､整理､報告書作成は終了しないので、自宅学習をすること。

■成績評価の方法
レポート（70%）レポート作成を通じて、課題への取り組み姿勢、表現力、発表力の達成度を評価する。
そ の 他（30%）授業の最後に他の教員のもとでプレゼンを行い評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
研究者・技術者としての第一歩となる特別研究のテーマに近いことを学ぶ。自分の課題に対峙するのみならず、他の受講生の発表にも興味をもって、積極的に周辺知識の獲得に努めてもらいたい。

■講義計画
①研究室紹介・演習の進め方
②学外実習の報告会
③学外の研究機関見学
④文献調査法
⑤課題の検討（1）：広範囲な分野からの課題の抽出
⑥課題の検討（2）：課題の絞り込み
⑦調査課題の決定と発表会
⑧自己テーマの調査研究（1）：広範囲な関連文献の調査
⑨自己テーマの調査研究（2）：関連文献の読解
⑩自己テーマの調査研究（3）：調査結果の整理
⑪発表資料の作成（1）：発表スライドの作成
⑫発表資料の作成（2）：発表原稿および要旨の作成
⑬発表練習（1）：発表と打ち合わせ
⑭発表練習（2）：発表と最終確認
⑮他研究室での発表・総括

学科固有

物質化学研究デザイン演習

【担当】中沖　隆彦
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
本授業は3年生前期までに学習してきた基礎的な知識を応用できるように準備するということと、4年生で行う卒業研究とのつなぎに位置付けられる科目である。最初の1時間程度は実際に研究室で行っているテーマを簡単に解説したり、装置の原理等の説明をする。そのあと研究室の学生の指導のもと簡単な実験と装置の使い方を習得する。また秋の高分子若手研究会にも参加する。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
本講義の最後に自分自身で卒業研究をデザインすることにより、学習教育目標D3を達成する。
卒業研究で行う実験装置を扱うことにより装置などの原理を調べることにより学習教育目標E1を達成する。
本講義の最後に自分自身で卒業研究をデザインすることにより、学習教育目標E2を達成する。
本講義の最後に自分自身でプレゼンテーションをすることにより、学習教育目標F1を達成する。

■講義方法
講義の最初に研究テーマの説明などを行い、その後グループに分かれて実験室で研究室の学生の指導のもと実地操作に当たる。各回ごとにレポートを提出する。

■系統的履修
高分子化学、高分子プロセス化学、高分子物性

■授業時間外における予・復習等の指示
演習した項目に関する、語句や装置の原理などを復習しておいてください。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）毎回の演習での積極性について評価する。
レポート（50%）毎回レポートを提出し、その理解度を口頭でチェックする。
そ の 他（30%）他の研究室で演習成果の発表を行う。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
卒業研究で行うテーマに近いことを学びます。常に自分なりにどこかでオリジナリティーが出せるよう考えてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業のあと、質問に来て下さい。

■講義計画
①液体NMR：アタクチックポリスチレン（aPS）を重クロに溶かして　1H　NMR
②固体NMR：グリシンのCP/MAS測定、グリシンのCPT1測定
③ホットプレスでポリ乳酸フィルム（生分解性高分子）をつくり加水分解させる
④開環重合：Novoを使いカプロラクトンの開環重合を行う
⑤scCO2IR： 超臨界赤外分光器の使い方とCO2の吸光度の圧力依存性
⑥微生物培養：バクテリアの培地作りと増殖
⑦高分子若手研究会参加
⑧ゲルの作成と真空ラインの使い方
⑨DSCによりポリエチレンの結晶化度を求める
⑩フィルムの引張試験
⑪引っ張り試験
⑫プレゼンテーション練習会
⑬プレゼンテーション練習会
⑭他の教員のところでのプレゼンテーション
⑮プレゼンテーションの結果報告と総括

物質化学研究デザイン演習

【担当】林　久夫
【開講】後期　火1・火2

■サブタイトル
グリーンケミストリーと高分子

■講義概要
講義や学生実験では多くの場合、先人の科学技術者によって発見された原理や完成された技術を、知識として吸収したり訓練によって体得したりすることに重点が置かれる。一方、実社会では、問題を提起したり、その問題を分析し解決に導くまでの方法と手順を明らかにしたり、それを効率的に遂行するための実施計画を練ったり、さらには結果を分かりやすく報告・発表したりするための能力や技術も要求される。本講ではこのような能力や技術の習得を目的とし、まず本研究室の専門分野の概要を解説した後、下記に示す一連の作業を具体的なテーマに即して行う。

1）問題を提起する、
2）その問題を分析し解決に導くまでの方法と手順を明らかにする、
3）それを効率的に遂行するための実施計画を練る、
4）結果を分かりやすく報告・発表。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
下記の項目1の能力を身につけることにより、学習・教育到達目標D3を達成する。
下記の項目2の能力を身につけることにより、学習・教育到達目標E1を達成する。
下記の項目3の能力を身につけることにより、学習・教育到達目標E2を達成する。
下記の項目4の能力を身につけることにより、学習・教育到達目標F1を達成する。

1）学科の理念と研究室の目標に合致した研究テーマを数個見出せる。
2）研究室の研究テーマの概要を説明できる。
3）自分の選んだ研究テーマの目標を達成するための計画を立てることができる。
4）得た知識を、研究発表会等で分かりやすく発表することができる。

■講義方法
少人数（7 ～ 12名程度）教育を行う。教員は毎回の演習の達成目標とそれに至るアウトラインを示し、学生自身の自主性と積極性を喚起することに努めながら、全体の舵取りを行う。

■系統的履修
特別研究

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回、各自が全員の前で発表を行うので、発表用のパワーポイント資料を作成し、フラッシュメモリー等に入れて持参すること。また、同じ内容の印刷物を１部用意すること。準備する資料の範囲・内容については、事前の授業で指示する。

■成績評価の方法
平常点（70%）毎回提出するレジメ、パワーポイント資料および発表内容の合計点
その他（30%）報告会における得点
担当教員による平常点（70点）と期末に他教員の前で行う発表会における得点（30点）の合計により判定する。

■テキスト
適宜指定する
適宜プリント等を配布します。

■参考文献
適宜指定する

■履修上の注意・担当者からの一言
常に問題意識を持ちながら日常生活を送ることが様々な問題の発見や解決につながる。演習の時間中ばかりでなく、常日頃からの自主的・積極的な関与を期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページで周知するものの他、随時指定する。

■講義計画
①研究室の紹介・演習の進め方
②学外実習の報告（1）名簿の前半
③学外実習の報告（2）名簿の後半
④研究テーマの紹介（1）研究概要
⑤研究テーマの紹介（2）各論
⑥基本的測定技術
⑦文献調査法
⑧課題の検討（1）課題の目的
⑨課題の検討（2）課題の方法論
⑩自己テーマの調査研究（1）結果
⑪自己テーマの調査研究（2）考察
⑫自己テーマのまとめ
⑬発表練習（1）名簿の前半
⑭発表練習（2）名簿の後半
⑮最終発表（他研究室にて）

物質化学研究デザイン演習

【担当】藤原　学
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
藤原研究室において４年次の特別研究を行う際には、多くの機器分析装置を用いる。そのため、それらを用いて有用なデータを得るためには、機器の原理・サンプルの前処理・操作法・データ解析などについてそれぞれの手法ごとに習熟しておかなければならない。さらに研究室の研究課題を理解し、それとともに自らの研究課題について深く考えるために、あらかじめ研究の目的や背景についてよく調査し、議論し、思考する必要がある。「研究デザイン演習」においては、これらの思考法を養うことを目的としている。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
理系の学生として今後研究を進めていく時のいろいろな場面で必要とされる基本的な力を養う。自らの力で研究を企画（D3）し、計画し、実行することのできる基礎（E1・E2）を身につける。また、一般的な機器分析操作（前処理・測定・解析）を理解し、それらの基礎技術（E1・E2）を身につけ、それを決められた書式にまとめ口頭で発表できる（F1）。

■講義方法
本科目では、いろいろな機器分析装置の原理・手法を学び、自らの研究課題として実現可能な実験計画書の作成を行う。また、担当教員以外の教員へプレゼンテーションを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
理解できないところは自ら調べるとともに、積極的に質問すること。後半は実験計画を自ら立て、それに従って事前準備を進め、時間内に実験が終了するように努力すること。

■成績評価の方法
平常点（70%）実験・課題・議論への参加・プレゼンテーション資料作成など
その他（30%）他教員へのプレゼンテーション
授業中における課題・研究計画書およびプレゼンテーションについて総合的に評価する。そのため授業に積極的に参加することを求める。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①はじめに（現在の研究課題の説明）・主要な分析機器装置の概略
②金属錯体および機器分析法について
③X線発生の原理と応用
（X線光電子分光法・前処理・測定・データ解析）
④X線分析（蛍光X線分析・前処理・測定・データ解析）
⑤サンプリング・環境試料前処理法
考古科学分析
⑥錯体合成・X線光電子分光分析・データ処理法
⑦分子モデリング・分子軌道計算
⑧報告書作成・プレゼンテーション
⑨プレゼンテーション（その２）・総合課題

学科固有

物質化学研究デザイン演習

【担当】宮武　智弘
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
物質化学研究デザイン演習では、それまで講義、演習や学生実験を通して学習してきた物質化学の基礎知識を実際の研究テーマに応用する方法を学ぶ。まず、測定機器の原理などの基本事項を確認し、つぎにそれらが実際の研究の場でどのように活かされているかを学ぶ。また、プレゼンテーション資料の作成と発表の方法を身につける。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
物質化学に関する基礎知識を研究の中でどのように使うかを学ぶことによって、学習・教育到達目標D3を達成する。
特別研究で実施する研究内容について学び、関連する知識を身に着けることによって、学習・教育到達目標E1を達成する。
研究事例を学び、課題解決の具体的な方法を知ることによって、学習・教育到達目標E2を達成する。
学習した研究事例を報告書にまとめ、口頭発表することによって、学習・教育到達目標F1を達成する。

■講義方法
各項目について基本事項や実際の応用例などを解説した後、演習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習・復習については、必要に応じて演習課題等を配布する。

■成績評価の方法
その他（100%）演習および発表会でのプレゼンテーションにより評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
演習時に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
４年次の特別研究においては自らの手で実験をし、結果を考察することが求められる。本演習はその前段階となるものであり、自己学習の方法を身につけてもらいたい。

■講義計画
①科学論文の構成と文献調査
②実験データの扱いと計算
③核磁気共鳴スペクトル法（1）基本原理
④核磁気共鳴スペクトル法（2）データの解析法
⑤核磁気共鳴スペクトル法（3）構造解析への応用
⑥質量分析法（1）基本原理
⑦質量分析法（2）構造解析への応用
⑧紫外可視吸収スペクトルの基礎と応用
⑨蛍光スペクトルの基礎と応用
⑩その他の分光法
⑪研究論文に見る実験結果の解析
⑫プレゼンテーションの基礎（1）スライドの作成法
⑬プレゼンテーションの基礎（2）話し方
⑭プレゼンテーションの練習
⑮発表会とまとめ

物質化学研究デザイン演習

【担当】和田　隆博
【開講】後期　月３・月４

■サブタイトル
エネルギー問題や環境問題に取り組むための物質化学入門

■講義概要
物質化学研究デザイン演習では、一人一人が別々の研究テーマに取り組むことで、それまで講義や学生実験を通して勉強してきた物質化学の基礎知識を、実際の研究テーマに応用する方法を学ぶ。今まで学んできた科目ごとの断片的な知識を組み合わせて、各自の課題を解決するために活用する経験をする。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
研究のやり方・デザイン能力が身に付く。それまでに勉強してきた事柄が、研究を行う上でどのように生かされるかがわかる。「課題を発見し、調査を行い、実験方法を学び、データを整理して、得られた結果をみんなの前で発表する」、研究開発の基本サイクルを身につける。

■講義方法
研究室で行っているエネルギー問題や環境問題に関係する具体的な研究テーマの中から興味のあるテーマを一つ選択し、各自がその中から別々の課題に取り組む。各自が教員や先輩とコミュニケーションをとりながら研究の背景や研究方法、実験装置の原理や使い方、結果の解釈について学ぶ。

■授業時間外における予・復習等の指示
演習内容を深く理解するために自主的に取り組むことを基本にしている。そのために、行ったことの復習とこれから行うことの予習が重要である。

■成績評価の方法
その他（100%）
学科共通の評価方法に準ずる。（発表・要旨・レポート）

■テキスト
特になし

■参考文献
参考図書は、研究テーマによって異なるので、授業の最初に指示する。

■講義計画
①オリエンテーション
②研究の背景についての調査
③実験方法について
④実験演習（1）
⑤実験演習（2）
⑥実験演習（3）
⑦実験演習（4）
⑧実験演習（5）
⑨実験結果の整理
⑩実験結果の解釈
⑪発表のための資料作成
⑫発表のための資料作成
⑬研究室のみんなの前で実験結果の発表
⑭研究室の先輩の研究発表を聴講
⑮他の研究室の先生の前での発表

学科固有

物質化学総論

【担当】青井　芳史、岩澤　哲郎、内田　欣吾、大柳　満之、糟野　潤、白神　達也、富﨑　欣也、中沖　隆彦、林　久夫、兵藤　憲吾、藤井　一郎、藤原　学、宮武　智弘、和田　隆博　【開講】後期　火４

■講義概要
「環境・資源・エネルギー」を視野に入れて行動することが、21世紀に活躍する研究者・技術者・社会人に強く求められている。物質化学科のカリキュラムはこの考えのもとに組み立てられている。最初の2回の授業において物質化学科で4年間何を学び、卒業時には何ができるようになるのかを概説する。その後の講義では、物質化学科の全教員がリレー講義で物質化学各分野における最先端の研究成果や21世紀の物質化学に求められているものについて分かりやすく解説する。その中で、各教員の体験から生み出された貴重な研究哲学が語られるだろう。

■到達目標
学習・教育到達目標：B2,C2,D3（○）
本講義を受講すると、物質化学科の4年間で何を学ぶのかを概観することができる。また物質化学各分野における最先端の研究成果を概観でき、今後学んでいく基礎科目がこれらとどのように関わり、いかに大切かを学ぶことができる。
物質化学科の学習内容および学習目標を理解する。グリーンケミストリーおよびJABEEプログラムについて理解する。最新の化学分野の研究動向を知る。環境に配慮したものづくりについての知識を身につける（B2）。科学技術者としての基本的な倫理観（C2）を身につけ、総合的・多面的な考え方を知る（D3）。

■講義方法
物質化学科の全教員が1回ずつを担当するリレー講義形式で行う。教科書等は使用せず、必要に応じてプリントなどの資料を配付する。プロジェクターやビデオを使用することもある。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業ごとに達成度・理解度を確認する課題を与える。理解が不十分な項目があれば、次回授業までに必ず復習しておくこと。わからない点があれば、講義終了後もしくは次回の講義までに担当者に積極的に質問すること。

■成績評価の方法
その他（100%）各講義時にレポートあるいはテストを課す毎回、テーマごとにレポートの提出を求めるか、テストを行い、それによって評価する。

■テキスト
大柳満之編　『仏教の共生思想と科学技術』　丸善　2,625円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
毎回出席し、レポートを提出することを義務づけているので、必ず出席すること。

■講義計画
①グリーンケミストリー　ガイダンス
②日本技術者教育認定（JABEE）プログラムについて
③プラスチックの功罪
④光応答材料と分子機械
⑤SI単位系と測定のいろいろ
⑥自然に学ぶものづくり
⑦身の回りの高分子材料
⑧生活の中の電気化学
⑨生物の中の超分子化学
⑩地球環境問題と太陽光発電
⑪化学における電子の役割
⑫「触媒」を使う挑戦的有機合成
⑬化学の眼で生命体を観る、そして利用する
⑭植物バイオマスの工業的利用
⑮環境負荷の低い無機燃焼合成

物理化学Ⅰ・演習

【担当】林　久夫
【開講】後期　木2

■サブタイトル
物理化学入門

■講義概要
この講義では、物質化学科の学生として必須である化学の３分野（無機化学・有機化学・物理化学）のうち、物理化学分野の基礎知識を、いくつかの簡単な法則に基づいて整理する。また、化学入門として、科学的思考センスを養うことをも目的としている。高校で化学を選択しなかった諸君にも十分理解できるよう、基礎的な事項から始め、具体例や応用例を示しながら順を追って講述する。また、適宜演示実験や演習を行い、理解の助けとするとともに、科学技術レポートの作成等の指導も行う。講義内容は、物質の三態（相転移）、気体の性質（完全気体、状態方程式、気体運動論モデル、実在気体、気体の液化）、熱力学の基礎（圧力、温度、熱、仕事、状態量、系）を扱う。高校で化学を履修した人にはその復習として、充分化学を履修してこなかった人に対しては化学への入門としての役割を果たし、化学の基礎知識を再確認して、大学での自発的な学習へのスムーズな移行を達成することを目指す。

■到達目標
学習・教育到達目標:D2（○）
下記の項目の能力を身につけることにより、学習・教育到達目標D2を達成する。
１）高校レベルの化学の基礎知識を駆使して、応用問題が解ける。
２）気体の巨視的な性質を微視的な分子の運動と関係づけて説明できる。
３）基礎的な熱力学関数に関して簡単な数学的取り扱いができる。
４）第一法則に則り、熱、仕事、エネルギー、エンタルピーに関する基礎的な計算ができる。

■講義方法
毎回の授業のテーマは常に明確化し、重要なポイントは全て板書し強調する。授業は講義と演習を効果的に組み合わせた形態で行う。基本概念の解説の後、適宜演習、レポートやクイズ（短時間のテスト）を課し、講義内容の理解度を深めると同時に応用力を身につける。

■系統的履修
物理化学Ⅱ・演習、物理化学Ⅲ、物理化学Ⅳ

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回演習を行うので、その演習課題と講義内容との対応関係を、ノートと教科書を参考にして、確認しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）毎回行う演習・レポート・小テスト等の提出物の合計点
定期試験（30%）期末試験（電卓持ち込み可、ノート・教科書等持ち込み不可）
そ の 他（30%）中間試験（電卓持ち込み可、ノート・教科書等持ち込み不可）

■テキスト
アトキンス、千原秀昭・稲葉章訳 『物理化学要論（第5版）』東京化学同人　5,600円
斎藤勝裕・林久夫 『ステップアップ 大学の物理化学』 裳華房　2,520円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
主体的に学ぶ姿勢が大切なのであって、形式的な出席は望んでいない。化学一般の素養を身に付けることが最終目標であり、色々な学習方法の中で、真剣にかつ積極的な姿勢で講義を聴くことが結局一番の近道であることを理解して欲しい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページ等で周知した時間以外にも随時指定する。

■講義計画
①物理化学の体系
②気体、液体、固体
③理想気体と状態方程式
④実在気体と臨界現象
⑤相転移
⑥熱と仕事とエネルギー
⑦定積変化と定圧変化
⑧中間テスト
⑨定積熱容量と定圧熱容量
⑩内部エネルギーとエンタルピー
⑪反応熱とヘスの法則
⑫標準生成熱
⑬原子化熱と結合エネルギー
⑭熱力学の基礎（1）系と状態変数
⑮熱力学の基礎（2）第一法則

学科固有

物理化学Ⅱ・演習

【担当】林　久夫
【開講】前期　木2

■サブタイトル
化学熱力学入門

■講義概要
物理化学は、無機化学、有機化学と並んで化学の主要な分野であり、物質化学の基礎である。本講では「物理化学Ⅰ・演習」、「物理化学Ⅲ」および「分析化学」等の関連科目と総合して、物理化学の基礎をバランスよく提供する。本講の範囲は主として化学熱力学の基礎領域である。まず、熱力学で用いられる基本的な概念の再確認から始め、熱力学の基本法則である第一法則、第二法則を詳説する。さらに、これらの応用として、化学反応熱の計算、化学平衡と反応の進行方向の予言、相転移や相平衡、ならびに溶液の性質などを取扱う。講義全体を通じて現実に即した計算を行うことで抽象的概念を直感的に把握し、その取扱いに習熟することに努める。これにより、物質化学の理解と開発に使用できる非常に強力な武器を手に入れることができる。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（○）
下記の項目の能力を身につけることにより、学習・教育到達目標D2を達成する。
1）物理的な変化や化学反応の進行方向が何によって決定されるのかについての基本的な考え方を説明することができる。
2）第一、第二法則の基礎を説明できる。
3）代表的な変化過程について、熱・仕事、内部エネルギー、エンタルピー、エントロピー、ギブズエネルギーの変化を計算できる。
4）それらを用いて簡単な化学反応や相変化を説明できる。

■講義方法
毎回の講義のテーマは常に明確化し、重要なポイントは板書し強調する。随時レポートやクイズ（短時間のテスト）を課し、出欠を確認するとともに講義内容の理解度を把握し、学生諸君が消化不良に陥らないよう配慮する。

■系統的履修
物理化学Ⅰ・演習，物理化学Ⅲ，物理化学Ⅳ

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回演習を行うので、その演習課題と講義内容との対応関係を、ノートと教科書を参考にして、確認しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）毎回行う演習、レポートおよび小テストの提出物の合計点
定期試験（30%）期末試験（電卓持ち込み可、ノート・教科書等持ち込み不可）
そ の 他（30%）中間試験（電卓持ち込み可、ノート・教科書等持ち込み不可）

■テキスト
アトキンス　千原秀昭・稲葉章訳 『物理化学要論（第5版）』 東京化学同人　5,600円
斎藤勝裕・林久夫 『ステップアップ 大学の物理化学』 裳華房　2,520円

■参考文献
渡辺啓 『化学熱力学（改訂版）』 サイエンス社　1,650円

■履修上の注意・担当者からの一言
主体的に学ぶ姿勢が大切なのであって、形式的な出席は望んでいない。物理化学の素養を身に付けることが最終目標であり、色々な学習方法の中で、真剣にかつ積極的な姿勢で講義に参加することが結局一番の近道であることを理解して欲しい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページ等で周知するものの他、随時指定する。

■講義計画
①熱力学とは
②理想気体と実在気体
③液体と溶液
④エネルギーと熱・仕事
⑤熱力学の第一法則
⑥反応熱と結合エネルギー
⑦可逆過程と不可逆過程
⑧中間試験と解説
⑨熱力学の第二法則
⑩エントロピーの性質
⑪ギブズエネルギー
⑫純物質の相平衡
⑬化学ポテンシャル
⑭混合物の性質
⑮化学ポテンシャルと化学平衡

物理化学Ⅲ

【担当】富﨑　欣也
【開講】後期　金3

■講義概要
物理化学は、無機化学、有機化学と並んで化学の主要な部分を占めており、物質化学科の学生にとって必須の分野である。物質化学科では、物理化学Ⅰ・演習、物理化学Ⅱ・演習、物理化学Ⅲおよび物理化学Ⅳで、アトキンス著の物理化学要論を分担して受け持ち、物理化学の基礎をバランスよく提供することを目的としている。すなわち、一連の科目について同一の教科書を用いることにより、受講生諸君が自分が今学んでいる事項が、この学問分野全体のどの位置にあるかを容易に把握することができるよう計画されている。その中で、物理化学Ⅲがカバーする範囲は、相平衡および化学反応速度論で、教科書の章立てで行くと、それぞれ第5章、6章、7章、10章および11章に対応する。講義の順番が変わることがある。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（◎）
相平衡では、1、2成分系の相図および理想溶液の基礎を、化学反応速度論では、経験的な反応速度論を中心に素反応や速度式の成り立ちを学習することによって、学習・教育到達目標D2を達成する。

■講義方法
各講義テーマの重要な事項について解説する。難しいと思われるところは、反復しながら十分に理解できるよう努めたい。また、演習問題を具体例として理解を深める。

■系統的履修
物理化学Ⅰ・演習、物理化学Ⅱ・演習および物理化学Ⅳ

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の課題レポート作成のために、予習・復習すること。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（40%）
そ の 他（40%）中間試験
毎回提出するレポートで出欠の確認を行う。

■テキスト
P.W.アトキンス、千原・稲葉訳 『物理化学要論（第5版）』東京化学同人　5,900円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
この講義は、特定の教科書を使用するが、基本的に授業に出ていないと理解できなくなる。毎回の復習はテキストの演習と共に十分に行ってほしい。

■講義計画
①平衡に関する一般則（1）：純物質の性質
②平衡に関する一般則（2）：純物質の相図
③混合物の性質（1）：化学ポテンシャル
④混合物の性質（2）：束一的性質
⑤混合物の性質（3）：混合物の相図
⑥ギブズエネルギーと化学平衡（1）：化学平衡の原理
⑦中間試験
⑧ギブズエネルギーと化学平衡（2）：平衡組成
⑨ギブズエネルギーと化学平衡（3）：平衡の移動
⑩反応速度論（1）：速度式と速度定数
⑪反応速度論（2）：反応速度の温度依存性
⑫反応速度論（3）：速度式の解釈
⑬反応速度論（4）：速度式のつくり方・律速段階の理解
⑭反応速度論（5）：触媒反応・連鎖反応
⑮まとめ

学科固有

物理化学Ⅳ

【担当】白神　達也
【開講】後期　水3

■サブタイトル
原子構造・化学結合・統計力学・分子分光法

■講義概要
原子や分子はわれわれの日常感覚からはほとんど推し量ることのできない振る舞いをします。その振る舞い方を知ることは物質の構造や性質などを理解するためには非常に重要です。このミクロの世界を支配する法則が量子力学であり、高校や1年次で学んだニュートンの運動方程式（古典力学）とは異なるシュレーディンガー方程式がその基礎となっています。この方程式の解から原子・分子の構造や化学結合に関する種々の情報が得られます。また、原子・分子の構造に基づいた分子分光法が非常に発達し、材料の解析に不可欠の手段となっています。これらの知識は化学を学ぶための必須の基礎といえます。これらのことがらについて本講義で解説します。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（○）
原子・分子構造や化学結合を支配する基本原理の理解や、物質の構造と物性を理解するときの基礎概念の理解、赤外、ラマン散乱、NMRなど重要な分子分光法の測定原理とその理解に必要な統計的なものの見方を養って、学習･教育到達目標D2を達成する。

■講義方法
教科書、板書、プリントなどにより行います。理解度を確認するためのレポート、小テストを6回以上、必要に応じて課します。出席は何らかの形で毎回取ります。試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■系統的履修
無機化学Ⅰ･演習、無機化学Ⅱ･演習、物理学Ⅰ･演習、物理学Ⅱ･演習、物理化学Ⅰ・演習、物理化学Ⅱ・演習、物理化学Ⅲ

■授業時間外における予・復習等の指示
小テスト後にそのプリントをもう1枚持ち帰らせ、復習を指示する。

■成績評価の方法
小テスト（30%）小テストの合計です。
定期試験（70%）

■テキスト
アトキンス『物理化学要論（第5版）』東京化学同人　5,900円

■参考文献
アトキンス『物理化学（上・下）第8版』東京化学同人
アトキンス『物理化学問題の解き方（学生版）第6版』東京化学同人
千原英昭、稲葉章訳『熱力学要論』東京化学同人　3,300円

■履修上の注意・担当者からの一言
ミクロな世界はわれわれの感覚とはかけ離れています。そのことをもって「理解できない」とは考えないでください。私だって感覚的にはあわないが、「実験事実」が上記の考えの肩を持っているので信じているのです。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途掲示します。Ⅰ号館210号室を訪ねてくれば、可能な限り対応します。

■講義計画
①量子論－微視的な系の力学（量子力学）－
②原子構造（1）－水素型原子－
③原子構造（2）－多電子原子の構造－
④化学結合（1）－いろいろな概念－
⑤化学結合（2）－原子価結合法－
⑥化学結合（3）－分子オービタル－
⑦分子性の物質・双極子モーメント
⑧統計的な考え方
⑨分布という考え方
⑩量子論と分布
⑪分子分光法（1）－分子の回転と振動－
⑫分子分光法（2）－電子遷移－
⑬分子分光法（3）－光電子分光法－
⑭分子分光法（4）－磁気共鳴－
⑮まとめ

物理化学実験

【担当】林　久夫、兵藤　憲吾
【開講】後期　月３・月４・月５

■講義概要
物質の物理的・化学的性質を定量的に測定することは物理化学の基本であり､物質化学の理解に不可欠である｡本実験では、物理化学関連の講義・演習の理解を深めることを主な目的とし、異なったテーマを順次実行する。これらの実験を通して、物理化学における基本的な測定技術を習得するとともに、これらの測定量の基本概念を把握する。そのため、装置を自作したり比較的単純な装置を使用するなどの工夫により、測定原理と測定値との間の関係が直観的に把握できるように計画されている。また、測定データの取り扱いに関する基本的な概念・技術も習得する。さらに、4年生配当の特別研究に対する基礎訓練としての性格もあわせ持っている。
結果として、以下に示す効果を期待している
(1) 関連分野の講義・演習の理解が深まる。
(2) 実験操作の基本が身につく。
(3) 簡単な測定装置を自分で組み上げることができるようになる。
(4) 簡単な装置で分子・原子レベルの測定ができる面白さを知る。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3（◎），F1（○）
下記の項目1）～4）の能力を身につけることにより、学習・教育到達目標D3を達成する。
下記の項目5）の能力を身につけることにより、学習・教育到達目標F1を達成する。
1）基本的な実験操作が自分で行える。
2）研究を進めるための計画が立てられる。
3）物理化学で扱う基礎的な概念を把握できる。
4）安全管理に関する基礎知識に従って実験できる。
5）チームワークによって実験を進めることができる。

■講義方法
3～8人の小グループに分かれ、毎回異なったテーマを順に行う。「物理化学実験指針」に基づく解説の後、教員やティーチング・アシスタント（TA）の指導・監督のもとに自ら実験を行う。結果はレポートにまとめて提出する。

■系統的履修
物理化学Ⅰ・演習および物理化学Ⅱ・演習

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回行うテーマについての実験指針をよく読み、フローチャートや箇条書きにまとめておくこと。実験を始める前に確認し、できていない場合には実験を開始できないの注意すること。

■成績評価の方法
平 常 点（22%）準備状況、操作技術、積極性、理解度をそれぞれ5段階評価した合計点
レポート（66%）各テーマ毎に提出するレポート点の合計（6点×11回）
そ の 他（12%）最終回に実施する筆記試験（電卓・資料等持ち込み可）

■テキスト
龍谷大学理工学部物質化学科　『物理化学実験指針（改定第17版)』
履修者に無料で配布する

■参考文献
龍谷大学理工学部物質化学科　『物理化学実験指針DVD』
足立吟也ら編　『物理化学実験のてびき』　化学同人　1,800円
千原秀昭編　『物理化学実験法（第4版)』　東京化学同人　3,200円
アトキンス　千原秀昭・稲葉章訳　『物理化学要論（第4版)』　東京化学同人　5,600円

■履修上の注意・担当者からの一言
あらかじめ「物理化学実験指針（改定17版)」を熟読し、疑問点は調査や質問によって解決してから実験に取りかかること。操作の手順や意味を十分理解し、イメージトレーニングを積んでおくことは実験のスムーズな進行と安全のため重要である。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー以外にも随時指定する。

■講義計画
①実験全体の解説と一般的注意・安全の指針、データ解析法、レポートの書き方等の説明、
②反応速度－酸化還元反応の擬一次反応の速度定数を決定する
③凝固点降下－凝固点降下を測定し、分子量を求める
④蒸気圧－蒸発のエンタルピーおよびエントロピー変化を求める
⑤密度－密度測定により高分子の結晶化度を求める
⑥粘度－溶液の粘度を測定し、極限粘度から分子量を評価する
⑦表面張力－液滴法により界面活性剤の臨界ミセル濃度を決定する
⑧吸着－吸着等温線から比表面積を求める
⑨電導度－比電導度を測定し、電離定数を求める
⑩放射線－放射線の基本性質を測定する
⑪計算化学－パソコンを用いて分子動力学シミュレーションを行う
⑫反応熱ー中和反応におけるヘスの法則を確認する
⑬データの解析法、レポート・論文の書き方
⑭予備日
⑮筆記試験とまとめ

学科固有

物理学Ⅳ・演習

【担当】和田　隆博
【開講】前期　月３

■サブタイトル
電磁気学入門

■講義概要
物理Ⅳ・演習で取り上げる電磁気学は現代社会において重要な分野であるとともに、物質化学･材料工学分野の学生にとってその基礎となる科目の一つである。金属・半導体・誘電体・磁性体・超伝導体等の機能材料の理解には電磁気学の知識は不可欠である。講義としては化学系の学生にも理解しやすいよう出来るだけ物質に関連した具体例を取り入れ、演習では基礎的な計算法を理解して初歩的な問題が解けるように指導する予定である。「結晶材料工学」や「機能材料工学」、「エネルギー循環工学」の基礎科目である。

■到達目標
学習・教育到達目標：D1（◯）
電気化学を含む物理化学や結晶材料・機能材料の基礎で、電磁気的な考え方で物質を理解できるようになる。また電磁気学の公式を用いて簡単な問題が解けるようになる。

■講義方法
(1) 教科書と配布プリントを用いて授業を行う。
(2) 理解を深めるため、基礎的な課題演習を行い、レポート課題を課す。

■系統的履修
物理学Ⅰ・演習、物理学Ⅱ・演習、物理学Ⅲ・演習

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の各章が一回の講義に対応しており、その順番に授業を進めるので、講義前に目を通し予習しておくこと。
配布プリントは綴じて保管し、復習や質問時に活用すること。

■成績評価の方法
小テスト（20%）適時、授業の開始時に実施
定期試験（80%）中間試験（30点）と期末試験（50点）
60%以上の出席を必要条件とする。

■テキスト
佐野元昭　『新・基礎　電磁気学』　サイエンス社　1,890円
各章が一回の講義に対応している。またE-B対応・SI単位系を採用した新しい内容の教科書である。この教科書の他に、講義内容をまとめたプリントを配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
講義の内容を理解しているかどうかは、演習で問題を解いてみることが重要です。

■講義計画
①オリエンテーション　クーロン力
②静電界
③電位
④ガウスの法則
⑤導体
⑥コンデンサ
⑦誘電体
⑧中間テスト
⑨定常電流
⑩静磁界
⑪電磁力
⑫アンペールの法則
⑬磁性体
⑭電磁誘導
⑮交流回路と電磁波

プレゼンテーション演習

【担当】野口　昌子
【開講】前期　月1

■サブタイトル
演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要
「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切にし、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自己の特性を語るために理解を深めます。

■到達目標
1．人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2．就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3．ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や傾聴力」を体得する。

■講義方法
・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践します。

■成績評価の方法
その他（100%）
授業の中で各自が発表する「プレゼンテーションレポート」や「演習」などにより決定します。

■テキスト
講師作成プリント

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画
①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
⑤ブレーンストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを得る手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

プレゼンテーション演習

【担当】野口　昌子
【開講】前期　月2

■サブタイトル
演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要
「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切にし、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自己の特性を語るために理解を深めます。

■到達目標
1．人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2．就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3．ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や傾聴力」を体得する。

■講義方法
・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践します。

■成績評価の方法
その他（100%）
授業の中で各自が発表する「プレゼンテーションレポート」や「演習」などの評価により決定します。

■テキスト
講師作成プリント

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画
①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
⑤ブレーンストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを得る手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

学科固有

分子設計化学

【担当】岩澤　哲郎
【開講】後期　水1

■講義概要
逆合成解析の基礎について講義する。次世代の物質化学産業は低コストかつ短工程な実用的プロセスに価値を求めている。そのためには、グリーンケミストリーの概念を背景とした戦略的な合成化学的考え方が必須となる。本講義ではその本質の一つである逆合成解析について解説する。また、反応機構（矢印）についても解説を行う。

■到達目標
学習・教育到達目標　E１（○）
目的とする分子を逆合成解析して合成経路を立案し、実際に合成ルートを提案する能力の習得を通じて、学習教育目標E1を達成する。

■講義方法
化学構造式や化学反応式等の図説を積極的に講義中に描きながら進める。これまでの有機化学の復習も兼ねながら総合的に講述し、「理解すること」に力点を置く。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、有機合成化学実験、工業化学、有機材料化学、生化学

■授業時間外における予・復習等の指示
予習する項目と復習する項目について、重要な部分を講義時に説明します。

■成績評価の方法
小テスト（50%）中間試験
定期試験（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
C. L. ウィルス著、富岡 清 訳『有機合成の戦略』化学同人　2,100円

■履修上の注意・担当者からの一言
「逆合成解析」は現代有機合成の基盤となる実際的な考え方。有機系研究室においては最もベースとなる「ものづくり」のための方法論の一つ。ファインケミカルズ、医薬品分子に焦点を当てた講述を行います。また、電子の動き（矢印）を書くことにも力点を置きます。講義内容の復習に焦点をあてた理解を求めます。

■講義計画
①電子の動きに関する基本事項
②カルボニル化学に関する基本的反応性
③「逆合成解析」とは
④シントンと合成等価体の対応
⑤逆合成解析の基本に関する演習
⑥結合の分極と潜在極性
⑦極性転換の考え方
⑧極性転換を可能にする分子素子
⑨極性転換の基本に関する演習
⑩官能基相互変換について
⑪複雑な化合物にアプローチするための指針
⑫有機合成に関する選択的反応とは
⑬保護基の導入の利点
⑭複雑な有機分子の逆合成解析
⑮天然物合成における逆合成解析

分析化学

【担当】糟野　潤
【開講】前期　月1

■講義概要
物質（試料）を構成している成分を定性・定量化する分析化学は、化学全般の基礎を成す学問領域の一つであり、化学の分野で起こっている現象を定量的に理解する物理化学系列科目の基礎科目として位置付けられている。特に「化学平衡」は、化学における最も重要な概念の一つである。講義では、化学分析の基礎となる溶液内平衡および反応の特徴を述べるとともに定量的な取り扱いも行う。化学平衡の知識は、実際の化学分析だけでなく、有機合成における分離、無機化合物における熱的挙動などにおいても非常に重要であるので、確実に習得してほしい。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（◎）
各種濃度の単位の意味を理解し、濃度計算ができる。化学平衡の考え方、化学平衡式の取り扱いと種々の近似を理解することによって、学習・教育到達目標D2を達成する。

■講義方法
教科書やプリントを使い、講義を行なう。小テストや宿題を課して理解を深める。

■系統的履修
物理化学Ⅰ･演習、物理化学Ⅱ･演習、物理化学Ⅲ、物理化学Ⅳ、量子化学

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回、講義終了時に次週の講義内容の範囲を伝える。また、復習用の演習問題等をプリントで配布する。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）毎回講義中に演習を行う
定期試験（80%）中間試験40%、定期試験40%

■テキスト
大橋弘三郎, 小熊幸一, 鎌田薩男, 木原壯林　『分析化学：溶液反応を基礎とする』　三共出版　3,500円

■参考文献
P.W. Atkins著；千原秀昭, 稲葉章訳　『物理化学要論』　東京化学同人　5,600円
この教科書は物理化学系列科目である「物理化学Ⅰ･演習」「物理化学Ⅱ・演習」「物理化学Ⅲ」「物理化学Ⅳ」および「無機化学Ⅲ」において使用する。

■履修上の注意・担当者からの一言
知識として知っておくべきことと考えることのバランスが重要です。考える癖をつけてください。理解できない部分を残したままにしておくと、後々の講義の理解度にも影響が出ますので、分からないことあればいつでも積極的に質問してください。

■講義計画
①濃度の計算
②水溶液の性質、活量
③化学平衡の分類・酸および塩基の定義
④酸塩基解離平衡（1）
⑤酸塩基解離平衡（2）
⑥酸塩基解離平衡（3）
⑦酸塩基解離平衡（4）
⑧中間試験
⑨緩衝溶液
⑩酸塩基滴定（1）
⑪酸塩基滴定（2）
⑫溶解度平衡（1）
⑬溶解度平衡（2）
⑭溶解度平衡（3）
⑮分析データの評価、分析試料の取り扱い、まとめ

無機化学Ⅰ・演習

【担当】和田　隆博
【開講】前期　月2

■サブタイトル
無機化学入門
■講義概要
無機化学はすべての元素とその化合物を対象にしている。そのため、扱う物質は膨大であり、その構造や性質も非常に多様性に富んでいる。それで、ともすれば講義は各論中心になり知識の詰め込みになりやすい。本講義では、そのような負担をできるだけ少なくするために、原子の構造や分子の構造、化学結合の把握を中心に行う。個々の物質については基本概念の応用として取り扱う。演習を通してその基本的概念の活用方法を学びつつ、幅広い応用力を養う。
■到達目標
学習・教育到達目標：D2（◎）
無機化学の基礎や化学結合論の基礎。本講義で学ぶ大学における化学の概念に早く慣れると有機化学や物理化学等の他の科目に対する理解も深まる。元素の周期性の根本を理解し、化学結合の本質を理解することで、大学の化学として化合物の構造や性質を統一的に理解できるようになる。
■講義方法
講義と演習を通して基本概念を活用する方法を学ぶ。
■授業時間外における予・復習等の指示
予習・復習をすることで授業中の講義内容の理解が高まる。大学での化学の考え方に早くなれるためにも、復習は特に重要。
■成績評価の方法
小テスト（20%）講義前の復習テスト
定期試験（80%）中間テスト（30点），期末テスト（50点）
■テキスト
M. J. Winter 著 西本吉助訳 『フレッシュマンのための化学結合論』 化学同人　2,200円
■参考文献
Atkins,Peter　Overton,Tina　Rourke,Jonathan　Weller,Mark　Armstrong,Fraser 著，田中　勝久　平尾　一之　北川　進 訳 『シュライバー・アトキンス　無機化学〈上〉』 東京化学同人　6,825円
■講義計画
①大学で学ぶ無機化学
②原子の構造（1）軌道からオービタルへ
③原子の構造（2）水素原子の構造，
④原子の構造（3）パウリの排他原理とフントの規則　多電子原子
⑤原子の性質
⑥原子価結合法（1）混成オービタル　Sp3混成　Sp2混成　sp混成
⑦原子価結合法（2）共鳴構造
⑧分子の形とVSEPR則
⑨中間試験
⑩分子軌道法の基礎
⑪等核2原子分子（1）結合次数　電子配置　HOMO　LUMO
⑫等核2原子分子（2）酸素分子のエネルギー準位図　窒素分子のエネルギー準位図
⑬異核2原子分子
⑭多原子分子
⑮演習とまとめ

学科固有

無機化学Ⅱ・演習

【担当】藤原　学
【開講】後期　木4

■講義概要
無機化学Ⅱ・演習では、典型元素の性質と化合物について簡単に概説したのち、おもに金属および金属イオンの性質ならびに配位化合物に関して、それらの反応性と構造との関連について述べる。とくに、遷移金属イオンを含む化合物の酸化還元反応について詳述する。また、配位化合物の応用面と生体内に微量存在するこれら金属イオンの役割や、生体にとって有害な金属イオンの振る舞いについて述べる。さらに、無機イオンの関与した溶液内反応から核化学に至るまで以下の項目に従って講述し、常に演習を行いながら理解度を深める。
■到達目標
学習・教育到達目標：Ｄ２（◎）
広範な化学物質に関する知識を学ぶとともに、身の回りから生体内に至るまで化学物質が果たしている役割について説明できる。無機化学につての基礎知識を身につける（D2）。
さらに、我々の生活が多種多様の物質によって支えられていることが充分理解できる。
■講義方法
テキストの内容に準じながら、最近のトピックスを適宜取り入れ、板書およびプリントを配付して講義する。随時、演習を行い、理解度を確認する。さらに、宿題（演習）を多く課し、講義に即したレポートを課す。
■系統的履修
分析化学、無機化学Ⅰ・演習
■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に達成度・理解度を確認する課題を行う。理解が不十分な項目については、次回講義までに必ず復習し、習得しておくこと。わからない場合は、講義終了後または講義時間外に積極的に質問すること。
■成績評価の方法
レポート（30%）課題に対する達成度および理解度
定期試験（70%）中間試験（30%）、定期試験（40%）
■テキスト
鈴木晋一郎ら著 『ベーシック無機化学』 化学同人　2,625円
■参考文献
F.A.Cottonら 著 『Advanced Inorganic Chemistry-6th ed』 john Wiley, N.Y.
■履修上の注意・担当者からの一言
無機化学Ⅱ・演習は固有科目野中での基礎科目であるから、できるだけ1年次において習得しておくことが必要である。わからないこと、疑問点については積極的に質問することを期待する。演習は自らの理解力を深めるためであるから、自分自身で行うことが大切である。
■講義計画
①元素の性質と結合（典型元素と遷移元素）・演習
②化学結合・電気陰性度・イオン化エネルギー・HSAB則・演習
③アルカリ金属元素・演習
④アルカリ土類金属元素・演習
⑤ホウ素族（第13族）・炭素族（第14族）・演習
⑥窒素族（第15族）・演習
⑦酸素族（第16族）・演習
⑧ハロゲン族（第17族）・貴ガス族（第18族）・演習
⑨中間試験
⑩ｄブロック元素（金属錯体の構造・異性現象）・演習
⑪ｄブロック元素（金属錯体における原子価結合法）・演習
⑫ｄブロック元素（結晶場理論と安定化エネルギー）・演習
⑬ｄブロック元素（配位場理論と分子軌道計算）・演習
⑭ｄブロック元素（金属錯体の安定度）・演習
⑮総合演習・講義のまとめ

無機化学Ⅲ

【担当】青井　芳史
【開講】前期　金1

■講義概要
本講義では、『電子の移動をともなう化学的事象を扱う学問』である電気化学の基礎と応用について講義する。電気分解や電池の反応はもちろん、酸化還元反応に分類される反応はすべて原子・分子の電子授受反応である。電子移動を伴う化学反応、電気化学は、材料合成，めっき，エレクトロニクスなど，私たちの日常生活から先端産業まで，様々な分野において幅広く活かされている。また、生物の細胞内では多岐に渡る酸化還元反応が常に生じており、光エネルギーの助けで進む光合成はその代表的な例である。こうした現象を理解し、制御・応用するには、電子移動に関して正しいイメージをもつことが重要である。この講義では、電子移動の化学について概説し、電気化学の基礎と応用について講義する。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（◎）
・電子移動が関与する原子・分子間での酸化還元反応のしくみと、光エネルギー、電気エネルギーと化学エネルギーとの相互関係や相互変換について理解することによって、学習・教育到達目標D2を達成する。

■講義方法
テキストおよび参考書の内容に準じながら、最近のトピックスを適宜取り入れ、板書およびプリントを配布して講義する。随時、レポートを課し、演習を行う。

■系統的履修
物質化学科固有科目の基礎科目とくに無機化学Ⅰ・演習、無機化学Ⅱ・演習など

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の練習問題を解くこと。
課題を自らの手でしっかり解くこと。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（40%）
そ の 他（40%）中間試験

■テキスト
泉生一郎　他『基礎からわかる電気化学』森北出版

■参考文献
松田好晴、岩倉千秋共著『電気化学概論（化学教科書シリーズ）』丸善
平尾一之ら『無機化学ーその現代的アプローチ』東京化学同人
渡辺正・中村誠一郎著、日本化学会編『電子移動の化学－電気化学入門（化学者のための基礎講座11）』朝倉書店

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは毎週月曜日および金曜日の5講時に設けています。また、随時質問は受け付けます。

■講義計画
①電気化学とは
　電解質溶液の性質（イオンの解離）
②電解質溶液の性質(電解質溶液の電気伝導率､イオンのモル電気伝導率)
③電解質溶液の性質（イオンの移動度と輸率､イオンの活量とイオン強度）
④電池の起電力と電極電位（電気分解と電池、電極電位と起電力）
⑤電池の起電力と電極電位（ギブズエネルギーと起電力）
⑥電池の起電力と電極電位（電池の起電力に対する濃度の影響）
⑦中間テスト
⑧電極と電極界面の構造（電気二重層の構造とモデル）
⑨電極と電極界面の構造（界面導電現象）
⑩電極反応の速度（ファラデーの法則）
⑪電極反応の速度（電荷移動過程における反応速度）
⑫電極反応の速度（物質移動過程における反応速度）
⑬電気化学の応用（一次電池、二次電池）
⑭電気化学の応用（燃料電池）
⑮電気化学の応用（金属の腐食と防食）

無機化学Ⅳ

【担当】大柳　満之
【開講】後期　火2

■サブタイトル
結晶構造と相図（平衡状態図）

■講義概要
固体化学は、固体物質の構造、状態、物性、反応性、および合成法などを化学的側面から探求する学問領域である。近年、新素材開発、材料開発を含むいわゆる材料科学におけるめざましい発展にともない、固体化学を一つの分野として独立させようとする試みがなされると同時に、その重要性が日増しに認められてきている。本講義では、すべての領域を包含することは難しいので、固体化学の中でも基礎中の基礎である「結晶構造」と「平衡状態図」を中心に学習する。結晶化学、構造解析の一つであるX線回折、物質の状態と組織に密接に関係するギブスの相律と平衡状態図、固溶体や不定比化合物などの物質群についてできるだけ平易に授業を行う。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（◎）
卒業研究等の実験を遂行する上に必要となる基礎能力を養う。結晶化学の基本的なところは、時間を割いて丁寧に説明し、また粉末X線回折と平衡状態図に関しても、卒業研究に困らないように実力を身につける。

■講義方法
各講義テーマの重要な事項について解説する。難しいと思われるところは、反復しながら十分に理解できるように努めたい。また、なるべく具体例も取り上げ、分かり易さを重視して講義を行いたい。

■系統的履修
物理化学Ⅰ、物理化学Ⅱ、物理化学Ⅲ

■授業時間外における予・復習等の指示
この講義は、特定の教科書を使用しないので、授業に出ていないと理解できなくなる。しかし、授業に出ているだけでは、試験の点数は取れない。毎回の復習は十分に行ってほしい。

■成績評価の方法
定期試験（50%）100点満点
そ の 他（50%）中間試験　100点満点
中間試験と定期試験の合計で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
E.Moore and L.Smart著、平尾一之、河本邦仁訳『入門固体化学』化学同人　4,326円
A.R.West著、遠藤忠訳『固体化学入門』講談社　4,660円
柳田博明、永井正幸著『セラミックスの科学』技報堂出版　4,326円
古山昌三、村石治人著『基礎無機固体化学』三共出版　2,718円

■履修上の注意・担当者からの一言
この講義は、特定の教科書を使用しないので、授業に出ていないと理解できなくなる。授業中に説明する例題と中間試験と定期試験の問題が関連することが多いので、授業にしっかり出てよく例題や課題をしっかり復習する習慣をつける。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
物質化学科のHPに掲載されているオフィスアワーや授業の終了時にアポイントメントをとること。

■講義計画
①物質の充填構造
②対称性（回転、対称面、反転、回反、回映など）
③空間群（その意味と表記法）
④空間格子（ブラベ格子、ミラー指数、方向指数）
⑤代表的な結晶構造（MX、MX2）と多形
⑥代表的な結晶構造（M2X3、ABO3、AB2O4）
⑦X線とブラッグの反射条件および粉末X線回折
⑧格子欠陥と転位
⑨平衡状態と化学ポテンシャル、ギブスの相律
⑩化合物と固溶体
⑪2成分系平衡状態図と不変系の反応、固溶体（1）
⑫2成分系平衡状態図と不変系の反応、固溶体（2）
⑬態図と形成組織の関係（1）
⑭態図と形成組織の関係（2）
⑮焼結理論

無機合成化学実験

【担当】大柳　満之、藤井　一郎
【開講】前期　金３・金４・金５

■講義概要
無機化合物、合金、セラミックスに関する合成化学実験を通じて、各種合成プロセスにおける実験操作を習得する。1000℃を超える高い温度条件で使用する機器の操作に慣れる。実験操作にあわせて、置換反応、結晶の析出反応、結晶成長、試料の精製と結晶相転移、凝固、焼結等の物理化学的現象と相律や状態図(相図)との関係を学ぶ。実験は、実験書の予習、実験準備、実験操作、後かたづけ、レポート作成をもって完了する。実験を通じて安全や環境への対応についても経験する。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3（◎)、E2、F1（○)
無機合成化学実験の基本操作や基礎的な物性測定法、と同時に無機物質の特性を理解するための総合的・多面的な基礎知識を修得することにより、学習・教育到達目標D3を達成する。また、無機合成化学実験の基本操作を習得し、講義などで習った組織や相図などの関係を実際に実験を通した未知の実践方法を会得、また実験の考察など実験中に発生した課題を解決する手段を適切に思考することにより、学習・教育到達目標E2を達成する。さらに、実験データをまとめて報告書を作成することによって、学習・教育到達目標F1を達成する。

■講義方法
原則として2 ～ 4名を1チームにして、教科書に沿って実験する。実験の指導は教授、助手、実験講師、TA等で編成したチームで行う。

■系統的履修
特になし。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回行う実験について、テキストを元に予習を行い、ノートに実験方法や内容をまとめる。予習ノートは､実験を開始する前にTAが点検し、生成期にも反映させる。実験終了後は、テーマごとに与えられた課題とともに実験の目的、操作、結果、考察などを要領よくまとめて、レポートを作成する。

■成績評価の方法
その他（100%）
項目ごとに提出したレポートの成績、実験中に行う個人面接による理解度チェック、予習・受講状況や実験操作等の平常点を加味して評価する

■テキスト
龍谷大学理工学部物質化学科編　『無機合成化学実験　実験指針及び関連機器取扱説明書』

■参考文献
高温での実験などもあり、充分過ぎるほどの注意が要求されます。充分予習を行い適切な実験操作を頭の中で描いてから実験に取り組む習慣をつけてください。実験室を離れるときは、必ずTAなどの許可を取るようにしてください。

■履修上の注意・担当者からの一言
無機化学、物理化学や固体化学など基礎科目を充分に復習しておくこと。

■講義計画
①実験に関する諸注意と実験の解説
②無機塩の合成（鉄アンモニウムミョウバンの合成）
③金属と合金1（Al-Si二元系合金の溶製、熱分析と状態図の作成）
④金属と合金2（Al-Si二元系合金の顕微鏡観察用試料の調整）
⑤金属と合金3（Al-Si二元系合金の組織観察、写真撮影の硬さ測定）
⑥金属と合金4（炭素鋼の状態図と顕微鏡組織観察と記録）
⑦金属と合金5（炭素鋼の熱処理、組織観察と硬さ測定）
⑧セラミックス1（中和共沈法による安定化ジルコニアの原料合成）
⑨セラミックス2（安定化ジルコニアの原料調整、成形と焼結）
⑩セラミックス3（安定化ジルコニア、純ジルコニアの原料調整と焼結）
⑪セラミックス4（純ジルコニアの熱分析－示差熱分析と熱重量分析、安定化ジルコニアの熱膨張測定と焼結体の観察）
⑫セラミックス5（焼結体の評価－安定化ジルコニア、アルミナの組織観察）

有機化学Ⅰ・演習

【担当】中沖　隆彦
【開講】前期　火４

■講義概要
有機化学は炭素化合物の研究を行う分野の学問である。なぜ炭素だけを特別に扱うのだろうか?その答は炭素化合物は単純なものから生体を構成するたんぱく質にいたるまで膨大な数の化合物から構成されていて、バラエティーに富んだ諸性質を示すからである。有機化学Ⅰでは高校でも学習したことを復習しながら、共有結合の基礎から始まり、鎖状化合物の構造と反応性について学修することになる。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（○)
有機化学の基礎となるアルカン、アルケン、アルキンについての命名法、基本反応を習得し、学習教育到達目標D2を達成する。

■講義方法
マクマリーの「有機化学・上」に沿って講義を行います。テキスト中の演習問題を指定しますので次回の講義までに提出してもらいます。試験を受けるには60％以上の出席と演習問題の提出が必要です

■授業時間外における予・復習等の指示
予習はテキストを読んできてください。復習は演習問題を解いて理解を深めるようにしてください。

■成績評価の方法
定期試験（55%）答だけでなく、解き方も問いますので、十分に理解をしておいてください。
そ の 他（45%）中間テストを6月ごろに行います。

■テキスト
マクマリー　『有機化学（上)』　東京化学同人
マクマリー　『有機化学問題の解き方』　東京化学同人

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に理解して覚えてしまうように努力してください。あとで勉強しようと思っても量が多くなっていやになったり、授業で聞いたことを忘れたりしてしまいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業が終わった直後の校時に、教室を使ってTAの人と対応します。

■講義計画
①構造と結合（1回目）
②構造と結合（2回目）
③化学結合と分子の性質（1回目）
④化学結合と分子の性質（2回目）
⑤有機化合物：アルカンとシクロアルカン（1回目）
⑥有機化合物：アルカンとシクロアルカン（2回目）
⑦アルカンとシクロアルカンの立体化学（1回目）
⑧アルカンとシクロアルカンの立体化学（2回目）
⑨中間試験
⑩有機反応の概観（1回目）
⑪有機反応の概観（2回目）
⑫アルケン：構造と反応性（1回目）
⑬アルケン：構造と反応性（2回目）
⑭アルケン：反応と合成（1回目）
⑮アルケン：反応と合成（2回目）

有機化学Ⅱ・演習

【担当】岩澤　哲郎
【開講】後期　木1

■講義概要
化学反応の理解に力点を置く。最近の科学技術の発展には有機化学が深く関与している。有機分子の構造に対する理解や反応機構の解明などが、新材料の創製や生命現象の解明に直結している。また有機化学自体も周辺の境界領域分野から影響を受けて、日進月歩の進化を遂げている。本講義では、不飽和有機化合物（アルケン、アルキン、ハロゲン化アルキル）の性質、有機化学反応メカニズム（求核置換、脱離）などについて講述する。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（◎）
不飽和有機化合物の反応性、有機化学反応メカニズム（求核置換、脱離）の理解を通じて、学習・教育到達目標D2を達成する。

■講義方法
化学反応の書付とその理解に力点を置きます。原則としてテキストに沿って講義します。また、化学式や構造式を多く書いて理解することに力点を置いて進めます。

■系統的履修
原則としてテキストに沿って講義する。また、化学式や構造式を多く書いて理解することに力点を置いて進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習する項目と復習する項目について、重要な部分を適宜講義時に説明します。マクマリーテキストの本文や例題にあらかじめ取組んでください。また、復習も本文や例題および練習問題を解いて対応してください。

■成績評価の方法
小テスト（20%）
定期試験（80%）

■テキスト
マクマリー　『有機化学8版（上）8章～11章』　東京化学同人　4,200円
マクマリー　『有機化学　問題の解き方（第8版）』　東京化学同人　4,200円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
化学反応式や化学構造式を鉛筆でたくさん描くことに力点を置いてください。履修のポイントは、暗記ではなく理解に注力すること。そのためにはできるだけ多くの分子構造を描き、問題を解いて考えること。復習に力点を置いた自宅学習をすすめ、単元ごとのテストを大切にしてほしい。

■講義計画
①アルケンの基本的性質
②アルケンの水和と互変異性について
③アルキンの還元について
④アルケンに関する演習
⑤アルキンの基本的性質について
⑥アルキンの反応性とその反応機構
⑦アセチリドの反応性制御
⑧アルキンに関する演習
⑨ハロゲン化アルキルの合成方法
⑩アリル位臭素化の規則性
⑪Grignard試薬と有機リチウム反応剤
⑫ハロゲン化アルキルに関する演習
⑬基本的な求核置換反応
⑭基本的な脱離反応
⑮求核置換反応と脱離反応に関する演習

有機化学Ⅲ

【担当】内田　欣吾
【開講】前期　木3

■講義概要
本講義では1年次に行なわれる「有機化学Ⅰ」「有機化学Ⅱ」に続いての有機化学、芳香族化合物、アルコール、エーテル類の化学について述べる。芳香族の化学は、現在の有機半導体、機能性色素などの基礎になる重要な項目である。一方、アルコールは、天然由来の有機材料として最も利用されるものであり、他の物質への変換は特に重要である。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（◎）
芳香族化合物およびアルコール類、エーテル類の特徴と反応についての知識と理解が得られる。有機化学の中心的な反応の１つである求電子置換反応について芳香族化合物の反応例から理解する。これらにより学習・教育到達目標D2を達成する。

■講義方法
原則として教科書に沿って講義する。適宜、演習を行うとともに、宿題を課することもある。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、有機化学Ⅳ

■授業時間外における予・復習等の指示
授業はテキストに従って進めるので、授業前にテキストを読んでおくこと。宿題を課さない時も、関連する章末問題を解く等の復習を強く勧める。疑問点は、授業後の時間、またはオフィスアワーを利用して質問して欲しい。

■成績評価の方法
定期試験（70%）
そ の 他（30%）中間試験
中間試験30点・期末試験70点　合計100点満点で評価する。

■テキスト
マクマリー　『有機化学　中』　東京化学同人

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
有機化学は丸暗記をする学問ではない。教科書を理解するように努め、さらに演習問題を解くことによって理解を深めなければならない。さらに理解度を深めるために必要に応じて宿題を課す。

■講義計画
①IUPAC命名法とHueckel則
②ベンゼンと芳香族性
③ベンゼンの化学（1）安定性
④ベンゼンの化学（2）求電子置換反応
⑤ベンゼンの化学（3）置換基効果
⑥ベンゼンの化学（4）酸化と還元
⑦多置換ベンゼンの合成
⑧中間試験
⑨アルコールとフェノール（1）IUPAC命名法と性質
⑩アルコールとフェノール（2）合成法
⑪アルコールとフェノール（3）反応
⑫エーテルとエポキシド（1）IUPAC命名法と性質
⑬エーテルとエポキシド（2）Williamsonエーテル合成と酸開裂
⑭エーテルとエポキシド（3）合成と反応
⑮エーテルとエポキシド（4）エポキシドの開環

有機化学Ⅳ

【担当】宮武　智弘
【開講】後期　水1

■講義概要
カルボニル基は有機化学において重要な官能基であり、カルボニル化合物は、多くの薬剤や合成化学品、さらには生体を構成する成分に含まれる。カルボニル化合物は、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、酸無水物、エステル、アミドなどに分類できるが、これらの性質は基礎的な原理に基づいて理解することができる。本講義では、まずカルボニル基の基礎を解説した後、それぞれの化合物の構造・性質を講述する。また、窒素を含む化合物であるアミンについても解説する。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（◎）
カルボニル化合物およびアミン類の性質や反応性を理解することにより、学習・教育到達目標D2を達成する。

■講義方法
原則として教科書に沿って講義する。適宜、演習問題を解くことにより理解を深める。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ、有機機器分析化学、有機合成化学実験

■授業時間外における予・復習等の指示
テキストに沿って講義を進めるので、受講生は各自でテキストを読み､その中にある演習問題を解きながら､予習･復習に努めてほしい。

■成績評価の方法
小テスト（20%）
定期試験（80%）

■テキスト
マクマリー　『有機化学（中）第8版』　東京化学同人
マクマリー　『有機化学（下）第8版』　東京化学同人

■参考文献
マクマリー　『有機化学／問題の解き方（第6版)』　東京化学同人　4,515円

■履修上の注意・担当者からの一言
有機化学は基礎を理解し、それを応用する能力が求められる。教科書を熟読し、演習問題を解くことによって、理解を深めることができる。

■講義計画
①カルボニル化合物の基礎
②アルデヒドとケトン：求核付加反応（1）アルデヒド・ケトンの構造と命名法
③アルデヒドとケトン：求核付加反応（2）アルデヒド･ケトンの酸化･還元
④アルデヒドとケトン：求核付加反応（3）グリニャール試薬との反応・イミンの生成
⑤アルデヒドとケトン：求核付加反応（4）アセタールの生成・リンイリドの付加
⑥カルボン酸とニトリル
⑦カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応（1）カルボン酸誘導体の構造と命名法
⑧カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応（2）酸ハロゲン化物・酸無水物の反応
⑨カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応（3）エステル・アミドの反応
⑩カルボニルα置換反応（1）α置換反応の基礎とケト・エノール互変異性
⑪カルボニルα置換反応（2）エノラートイオンの生成と反応性
⑫カルボニル縮合反応（1）アルドール反応の基礎
⑬カルボニル縮合反応（2）アルドール反応の応用
⑭アミン（1）アミンの構造と性質
⑮アミン（2）アミンの反応

有機構造解析学

【担当】内田　欣吾
【開講】前期　月2

■講義概要
有機化学の教科書では、有機化合物の構造式が記載されているが、これらは機器分析によって求められたものである。結晶や油状物質として得られる有機化合物の分子構造を明らかにする分析手法として、NMR, IR, Mass, UV-Vis分光法などの方法がある。これらの原理を解説した後、マクマリー有機化学の教科書（上巻・中巻）の各章末にある有機構造解析の演習問題を系統的に解くことによって、分子構造をスペクトルデータよりもとめる力を養う。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1（○）
NMR, IR, Mass分光法などの測定原理を理解する。有機化合物のスペクトルデータから未知化合物の構造決定ができるようになる。これにより学習・教育到達目標E1を達成する。

■講義方法
教科書に沿って講義した後、演習問題を解いてもらい、最後に問題を解くプロセスについて解説する。教科書以外の練習問題も教材として用いる。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ

■授業時間外における予・復習等の指示
授業はテキストに従って進めるので、授業前にテキストを読んでおくこと。宿題を課さない時も、関連する章末問題を解く等の復習を強く勧める。疑問点は、授業後の時間、またはオフィスアワーを利用して質問して欲しい。

■成績評価の方法
小テスト（30%）
定期試験（70%）
中間試験30点、期末試験70点、合計100点満点で評価する。

■テキスト
マクマリー　『有機化学　上』　東京化学同人　4,500円
マクマリー　『有機化学　中』　東京化学同人　4,400円

■参考文献
『Organic Structures from Spectra』　Wiley

■オフィスアワー・教員への連絡方法
本講義の次の時間をオフィスアワーにするので研究室に来ていただきたい。

■講義計画
①質量分析と赤外吸収スペクトルの測定原理
②質量分析と赤外吸収スペクトルによる構造決定
③NMRの測定原理
④いろいろなNMR測定法
⑤マクマリー有機化学　上巻の練習問題
⑥マクマリー有機化学　中巻より
　芳香族化合物の構造決定（1）基本問題
⑦芳香族化合物の構造決定（2）応用問題
⑧中間試験
⑨アルコール・チオールの構造決定
⑩エーテル・エポキシドの構造決定
⑪カルボニル化合物の構造決定（1）基本問題
⑫カルボニル化合物の構造決定（2）応用問題
⑬カルボン酸の構造決定
⑭カルボン酸誘導体の構造決定
⑮総合問題

有機合成化学実験

【担当】内田　欣吾、兵藤　憲吾
【開講】前期　火３・火４・火５

■講義概要
化学を学ぶ学生諸君にとって有機化学の実験は必須のものである。将来有機化学の分野を志す人はもちろん、有機化学以外の化学の分野に進む人にも、有機化合物の特性を知り、それらの取扱いに習熟しておくことは必要である。この「有機合成化学実験」のカリキュラムは有機化学の基本操作実験と有機合成実験とから構成されている。基本操作実験では、蒸留、カラムクロマトグラフィー、再結晶、抽出操作などの有機化学実験の基本操作を習得し、さらに種々のタイプの有機合成反応を行うように組み立てられている。

■到達目標
学習・教育到達目標：D3（◎），E2, F1（○）
本実験では有機合成化学実験の基本となる分離精製操作と基本的な合成実験を学生1人1人個別に行いながら、実験手順を考えることにより、学習・教育到達目標E2を達成する。有機合成の器具の使い方に慣れるとともに、基本的で代表的な有機化学反応について習熟する。これにより学習・教育到達目標D3を達成する。
また、提出した実験レポートの内容について教員と個別に質疑応答することで、学習・教育到達目標F1を達成する。

■講義方法
各実験項目は、準備と後片付けを含めてその実験日の内に終了させる。実験は各実験ごとのティーチングアシスタントの簡単な説明に続いて各個人単位で行う。実験結果は、一週間後、考察を加えたレポートとして提出する。実験と並行して、以前提出した実験レポートについて個人面談（口述試験）を行うほか、全実験終了後、全実験内容を対象に筆記試験を行う。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ、有機化学Ⅳ

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回、テキストを予習しノートに実験手順、試薬量などを記入しておくこと。実験終了後は、記憶の鮮明なうちに、なるべく早くレポートの作成に取り掛かること。

■成績評価の方法
レポート（81%）
そ の 他（19%）口述試験9%＋筆記試験10%
提出した実験レポートならびに、個人面談方式による口述試験により採点する。実験レポート９テーマ各９点満点、口述試験９点、筆記試験10点。合計100点。

■テキスト
『有機合成化学実験指針』（龍谷大学理工学部物質化学科編）を配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
予め当日の実験項目の内容について有機合成化学実験指針を熟読し、各自のノートに原理、反応機構や当日用いる試薬や装置の危険性を熟知し、実験手順をフローチャートにまとめ理解しておくこと。

■講義計画
①安全講習　有機合成化学実験での注意点
②実験準備　器具類の説明と点検ならびに組立等
③o-及びp-ニトロアニリンのカラムクロマトグラフィーによる分離
④アセトアニリドの調製と再結晶
⑤未知試料の抽出による分離
⑥エステル化による安息香酸メチルの合成
⑦メシチレンのアルキル化
⑧グリニャール反応によるトリフェニルメタノールの合成
⑨ベンゾフェノンの光還元によるベンゾピナコールの合成
⑩重合反応による6,6-ナイロンとウレタンフォームの合成
⑪アシラーゼを用いるアミノ酸の光学
⑫面接試験
⑬筆記試験
⑭実験の後片付けと器具の収納
⑮まとめ

有機材料化学

【担当】内田　欣吾
【開講】後期　金１

■講義概要
有機材料は、現在多くの場面で用いられている。以前は、有機物というと薬、農薬といったイメージしかなかったが、現在コンピュータや携帯電話のディスプレーは液晶と呼ばれる有機分子が使われている。次世代のディスプレーとして期待されるエレクトロルミネッセンスにも有機材料が使われている。このような状況での有機材料について主に解説すると共に従来の概念の有機材料についても講義する。

■到達目標
学習・教育到達目標：E1（○）
教科書的な化学の基本事項が先端の有機化学の分野にどのように関連があるかを知るとともに有機化学の最新の話題についての知識を得る。有機化学の基礎と最先端の知見の関連性を理解する。これにより学習・教育到達目標E1を達成する。

■講義方法
教科書およびプリントに従って講義する。宿題を課すこともある。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ、有機化学Ⅳ

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の前半で行う電子環状反応の箇所は、テキストに従って進めるので、授業前にテキストを読んでおくこと。宿題を課さない時も、関連する章末問題を解く等の復習を強く勧める。後半の機能材料の授業では、最新のトピックも含め取り扱うので、関連する書籍を通じて理解を深めてほしい。参考資料は、コピーを配付したり、シラバスや授業中に配付する。疑問点は、授業後の時間、またはオフィスアワーを利用して質問して欲しい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
成績評価は、期末試験の成績100％で評価する。

■テキスト
マクマリー　『有機化学　下』　東京化学同人
松浦和則ら　『有機機能材料』　講談社　2,800円

■参考文献
原田明　『有機機能性材料科学』　三共出版　3,675円
堀江一之・牛木秀治　『光機能分子の科学』　講談社サイエンティフィク　4,900円

■履修上の注意・担当者からの一言
現在、社会で用いられている有機材料一般について興味をもって勉強して欲しい。

■講義計画
①軌道と有機化学：電子環状反応
②軌道と有機化学：環状付加反応
③軌道と有機化学：シグマトロピー反応
④軌道と有機化学：基本問題
⑤軌道と有機化学：章末問題
⑥光と光反応
⑦有機材料の機能
⑧染料と顔料
⑨フォトクロミズムとその反応
⑩光機能材料
⑪液晶
⑫日本の科学技術　大学と企業の違い（ビデオ上映）
⑬分離機能材料
⑭バイオテクノロジーへの展開
⑮まとめ

量子化学

【担当】藤原　学
【開講】前期　水2

■講義概要
化学において、量子論を応用することはきわめて重要になっている。量子論の本質を理解することは難しくても、概略的に理解することは容易であり、実際に多くの分野で応用されている。本講では、まずシュレディンガー方程式を導入し、原子軌道によって原子中の電子状態について述べる。さらに分子軌道論の概念を説明し、二原子分子ならびに簡単な分子の分子軌道とその解析について述べ、化学結合と分子の電子状態について理解を深める。分子軌道計算法について講述し、最後に分子と光との相互作用について述べる。

■到達目標
学習・教育到達目標：D2（○）
分子軌道法の初歩を理解できる。共有結合などの化学結合や分子の構造と性質について量子化学的概念で理解できる。量子化学の考え方にしたがって、化学物質中の電子の挙動について説明できる（D2）。

■講義方法
プリントおよび板書によって講義する。適時小テストや宿題を課して理解度を深める。

■系統的履修
無機化学Ⅰ・演習，無機化学Ⅱ・演習，物理化学Ⅳ

■授業時間外における予・復習等の指示
授業最後に達成度・理解度を確認する小テストを行う。理解が不十分な項目があれば、次回授業までに必ず復習しておくこと。
わからない点があれば、講義終了後もしくは次回の講義までに質問すること。

■成績評価の方法
小テスト（30%）課題に対する達成度および理解度
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
齋藤勝裕『絶対わかる量子化学』講談社サイエンティフィク

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科の固有科目を履習していることを前提として講義を進める。専門用語などで理解できない点は、講義中の質問、講義後の質問用紙への記述および自習することによって解決していってほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に指示する。

■講義計画
①序論・量子とは?
②波動性と粒子性
③波を表す波動関数
④シュレディンガー方程式（1）状態を表す関数とエネルギー
⑤シュレディンガー方程式（2）直線上を動く粒子と原子内電子への応用
⑥量子化と量子数（１次元・２次元・３次元）
⑦原子の電子軌道・電子配置
⑧等核および異核二原子分子
⑨結合性と反結合性
⑩α結合とπ結合、混成軌道
⑪単結合・二重結合・三重結合
⑫分子の性質と分子軌道（1）エチレンのπ分子軌道
⑬分子の性質と分子軌道（2）アリルラジカルとそのイオン
⑭非局在π結合、環状共役系
⑮光と分子の相互作用・分子軌道計算法・講義のまとめ

教職課程科目

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
カ	介護等体験	大西　俊弘／滋野　哲秀／多賀　優	通年	集中	225
	学校カウンセリング論	石川　眞理子	前期	水４	226
	学校教育社会学	伊佐　夏実	後期	水３	227
キ	教育課程論	大西　俊弘	後期	土２	227
	教育社会学Ⅰ	森　繁男	前期	月３	228
	教育社会学Ⅱ	森　繁男	後期	月３	228
	教育実習指導Ⅰ	大西　俊弘／滋野　哲秀／多賀　優	前期	月３	229
	教育実習指導ⅡＡ	大西　俊弘／滋野　哲秀／多賀　優	通年	集中	229
	教育実習指導ⅡＢ	大西　俊弘／滋野　哲秀／多賀　優	通年	集中	230
	教育の方法と技術	大西　俊弘	前期	木１	230
	教職実践演習（中・高）	各教員 （大西　俊弘／滋野　哲秀／多賀　優）	後期	月２･３･４ 火１･２ 水４ 木２・３	231
	教職論	滋野　哲秀	前期	土２	232
シ	人権教育論	矢野　亮	前期	木５	232
セ	生徒指導論	多賀　優	後期	金１	233
ト	特別活動論	多賀　優	前期	金１	233
	道徳教育指導法	奥村　光太郎	後期	土１	234
リ	理科教育研究Ａ	大黒　孝文	後期	金２	235
	理科教育研究Ｂ	滋野　哲秀	前期	水１	236
	理科教育法Ⅰ	多賀　優	通年	水２	237
	理科教育法Ⅰ	多賀　優	前期	水２	238
	理科教育法Ⅱ	多賀　優	後期	水２	238

介護等体験　【担当】大西　俊弘、滋野　哲秀、多賀　優

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅰ（介護等体験）　【開講】通年　集中

■サブタイトル

心豊かな教師を目指して～「介護等体験」への参加～

■講義概要

子ども達に「豊かな心」を育むことが今日の教育の大きな課題となっている。そのためには、まず教師自らが「豊かな心」をもつ存在でなければならない。障害者や高齢者などに対する介護、介助、これらの人々との交流が、人間の尊厳を自覚させ、相手の立場や心に思いを馳せる「豊かな心」を育む貴重な経験となるのである。

国では教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成10年4月1日施行）により、小･中学校の教員免許状を取得しようとする者に「介護等体験」への参加を義務づけている。これを基に本学では、特別支援学校および社会福祉施設で行う「介護等体験」とともに、その事前・事後に大学で必要な指導を行い、それらを総合して教職関係科目に位置づけている。

■到達目標

教師に必要な「豊かな心」を育む。

■講義方法

・１年次の10月からガイダンスが始まるので掲示には注意しておくこと。１年次に２回の説明会と講演会を行い、２年次には説明会及び事務手続きを行い、６月より随時体験に入る。
・２年次生以上の履修についても１年次生と同様。

■授業時間外における予・復習等の指示

指示されたことを確実に遵守し、龍谷大学生としての自覚をもって体験を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（50%）事前・事後指導及び体験への参加状況、意欲・態度を評価する。
その他（50%）提出された記録簿、レポートの内容、学校・施設からの報告書等を総合的に評価する。

上記の尺度･割合を目安として総合して単位認定する。ただし、下記の履修上の注意にもあるように、説明会・講演会の欠席、提出物の遅れ、体験の無断欠席や遅刻等、教職への適性を著しく欠く場合には単位を認定しない。

■テキスト

講義・説明会で適宜配布する。

■参考文献

講義・説明会で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

①説明会や講演会には必ず出席すること。無断欠席の場合は受講資格を失う。公欠等でやむなく欠席する場合は事前に相談・届出 をし、指示を受けること。
②教育実習の先修要件であるので､3年次までに履修すること。
③書類などの提出日は厳守すること。
④進路変更などにより受講を途中で辞退する者は教職課程教室に「辞退届」を提出すること。
⑤「体験」への無届け欠席や遅刻は絶対に許されない。
⑥「体験」には真摯な態度で臨むこと。
⑦留学をする者は必ず事前に相談し、登録をすること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

随時受け付けるが、体験時に問題が起こったときは、連絡・報告・相談をすること。

■講義計画

①介護等体験説明会①－ガイダンス及び登録
②介護等体験説明会②－介護等体験の意義と課題
③介護等体験講演会1－障害児教育諸学校
④介護等体験説明会③及び事務手続き
⑤介護等体験講演会2－福祉施設
⑥介護等体験説明会④－福祉施設への参加手続き
⑦介護等体験説明会⑤－特別支援学校への参加手続き
⑧介護等体験への参加
1. 障害児教育諸学校　2日間
2. 社会福祉施設　5日間
⑨介護等体験を振り返って－記録簿等の書類提出

学校カウンセリング論

【担当】石川　眞理子
【開講】前期　水４

■サブタイトル
教育現場で活かすカウンセリングを学ぶ

■講義概要
教育現場では不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊などの心理･社会的問題が多発している。
このような問題の指導や解決のためには、教師自身も心理カウンセリング的資質が必要となってくる。
本講義では、学校教育におけるカウンセリングの基礎を学び、心理カウンセリング的な基本的態度と、
具体的な対応について理解を深め、問題を抱えた児童・生徒への援助方法を習得していくこととする。

■到達目標
・学校教育相談（カウンセリング）の基礎概念や意義について理解を深める。
・カウンセリングの理論と技法を学び、自己・他者理解及びネットワーク支援について理解を深める。
・基本的な教育相談の理論と実践力を身につける。

■講義方法
講義+演習形式で行う。必要に応じて、資料･プリントを配布、視聴覚教材を用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義の初めに、小テストを行うことがあるので復習をしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）積極的な（出席+演習）取り組みを重視する
小テスト（20%）4回実施する
レポート（40%）最終講義で発表

■テキスト
特に使用しない。
講義中にプリントを配布する。

■参考文献
盛岡正芳（編）『カウンセリングと教育相談』 あいり出版
春日井敏之・伊藤美奈子（編）『よくわかる教育相談』 ミネルヴァ書房
松原達哉（編）『教師のためのカウンセリング技術』 教育開発研究所
米山正信・蔭山昌弘 『「失敗例」に学ぶ学校カウンセリングの心得』 黎明書房
関連文献は講義中に適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
「私語・遅刻しない」を厳守してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
メール連絡とします。
miv26045@fc.ritsumei.ac.jp

■講義計画
①講義のガイダンス
自己紹介・他者紹介
②学校カウンセリング基本的理解（1）
カウンセリングとは何か
カウンセリングの展開・倫理
カウンセリング用語
③学校カウンセリング基本的理解（2）
カウンセリングの進め方
④学校カウンセリング基本的理解（3）
カウンセリングと教育相談
⑤学校カウンセリング基本的理解（4）
個別面接によるカウンセリングの技術
⑥学校カウンセリング基本的理解（5）
学校でのアセスメントとカウンセリング
⑦学校カウンセリング基本的理解（6）
学校カウンセリングに必要な発達的視点
①発達段階を理解する
⑧学校カウンセリング基本的理解（7）
学校カウンセリングに必要な発達的視点
②発達障害を知る
⑨学校カウンセリングの基本的理解（8）
家族を読み解く家族療法を学ぶ
⑩学校カウンセリング応用（1）
不登校・ひきこもりへの対応
⑪学校カウンセリング応用（2）
いじめへの対応
⑫学校カウンセリング応用（3）
学級崩壊への対応
⑬学校カウンセリング応用（4）
スクールカウンセラーと連携した指導
⑭学校カウンセリング応用（5）
傾聴・応答・受容・共感（講義+演習）
⑮レポート課題
まとめ

学校教育社会学
※2011年度までの旧名称：教育制度論

【担当】伊佐　夏実
【開講】後期　水3

■講義概要
様々な教育現象・教育問題に対する社会学的な視点を紹介することで、学校がもつ社会的機能や構造について検討し、学校教育の意義や限界を教師の役割ととも考える。また、その際特に、マイノリティの視点からみた学校や教育の姿を明らかにしていきたい。

■到達目標
・教育現象に対する自身の思い込みや偏見から脱した理解ができるようになる。
・マイノリティの教育の意義や可能性について幅広い視野から議論できるようになる。

■講義方法
パワーポイントを用いた講義中心ですが、適宜ワークショップの実施やDVD等の視聴覚教材の使用を交えながら進めていきます。また、毎回コミュニケーションカードを配布し、授業に対する感想や質問などを受け付けます。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業時に紹介した文献や資料にはできるだけ目を通しておくこと。また、前回授業で配布されたレジュメの内容について疑問点等あれば整理しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業時に出す課題によって評価
小テスト（30%）授業の前半部についての理解度をはかる中間テストを実施する
そ の 他（50%）最終試験

■テキスト
特になし

■参考文献
若槻健・西田芳正『教育社会学への招待』大阪大学出版会 2,520円
講義ごとにレジュメや資料を配布します。

■講義計画
①ガイダンス。教育を社会学的に考えてみる。
②学校選択制から考える現代の教育制度と教育改革
③格差社会の現状と教育機会の不平等
④子どもの貧困と教育
⑤貧困の世代間連鎖と階層の再生産
⑥学力低下と学力格差
⑦中間テスト
⑧ニューカマー教育の現状と課題
⑨ニューカマーの子どもと日本の学校文化
⑩教育のジェンダー差
⑪学校で作られるジェンダーとセクシャルマイノリティ
⑫障害のある子どもの教育の現状と課題
⑬障害のある子どものための教育とは
⑭社会的包摂をめざす学校と教師の役割
⑮まとめ

教育課程論

【担当】大西　俊弘
【開講】後期　土2

■講義概要
すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本講義では､教育課程について生徒の視点ではなく､教師（指導者）の視点で捉えて解説する。具体的には､次のような内容に取り組む。
1．中学校･高等学校における教育課程について、実例を通して概観する。
2．学校現場と教育行政との関係を踏まえた上で、教育課程編成の手順について学ぶ。
3．戦後の教育課題と関連させながら､学習指導要領の変遷について学ぶ。
4．近年の学力観・評価観について解説し、教育課程編成における新しい取り組みと紹介する。
5．学習指導要領の改訂と学力低下問題の関係について考察する。
6．諸外国の教育制度・教育課程を参考にして、今後の日本の教育のあり方を考える。

■到達目標
学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。

■講義方法
講義形式ではあるが、出来る限り学生参加型の授業としたい。また、視聴覚教材の活用も積極的に図りたい。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業後に、まず確実に復習を行い、理解を確実なものとしてほしい。

■成績評価の方法
レポート（10%）レポート未提出の場合は､単位を認定しない。
定期試験（90%）基本事項を幅広く出題、記述式
レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。
授業への参加は必須要件であり、特別な事情なしに3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また､レポート未提出の場合も､原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
田中耕治　他３名 『新しい時代の教育課程』 有斐閣アルマ　1,900円
中学校・高等学校の学習指導要領やその解説書が必要になる場合があるが、その都度指示する。
その他の参考文献については適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：水曜日・木曜日の３講時に研究室にて。
連絡方法：電子メールにて（メールアドレスは講義で連絡）

■講義計画
①序論（教育をめぐる社会の状況）
②戦前の教育制度・教育改革
③戦前の教育課程について
④戦後の教育改革と生活単元学習
⑤系統学習と戦後の学習指導要領の変遷
⑥学校教育に関する法体系と教育課程
⑦高等学校の各種制度と学習指導要領
⑧教育課程編成の実際
⑨高等学校における未履修問題
⑩学力低下問題と学習指導要領の関係
⑪国際的な学力調査の結果が教育課程に及ぼす影響
⑫観点別評価と生徒指導要録
⑬外国の教育課程
⑭教育改革の方向性と新学習指導要領
⑮新学習指導要領の実施に向けての課題

教育社会学Ⅰ

【担当】森　繁男
【開講】前期　月3

■サブタイトル
教育社会学入門
■講義概要
教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。まず前期の本授業では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。
■到達目標
「教育」というきわめて「価値的」な営みを、「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握する態度を養いたい。
■講義方法
主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。
■系統的履修
「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。
■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）
■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）
■履修上の注意・担当者からの一言
日常の人と人とのコミュニケーション（相互作用）を注意深く観察し、人間関係や人間形成のあり方と社会の仕組み（社会構造）とをつないでいる「文化」を読み取るよう心がけていただきたい。（なお、本科目を「教職科目」として受講するつもりの理工学部の学生は、本科目よりも別途開講されている「学校教育社会学」を受講することが望ましい。）
■講義計画
①イントロダクション
②社会学的社会観と教育作用（1）
③社会学的社会観と教育作用（2）
④教育社会学の視点と方法（1）
⑤教育社会学の視点と方法（2）
⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
⑧現代学校の理念と現実（1）
⑨現代学校の理念と現実（2）
⑩社会の変化と家族関係（1）
⑪社会の変化と家族関係（2）
⑫メディアと地域の教育環境
⑬教育問題の発生と解釈（1）
⑭教育問題の発生と解釈（2）
⑮前期のまとめ

教育社会学Ⅱ

【担当】森　繁男
【開講】後期　月3

■サブタイトル
教育現象の社会学的理解
■講義概要
本授業では、前期の「教育学社会学Ⅰ」に引き続いて、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。
■到達目標
社会学的視点と方法から、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。
■講義方法
「レクチャー」をプリントやビデオで補いつつ、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。
■系統的履修
「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。さらに前期の「教育社会学Ⅰ」を先修していることが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。
■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）
■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）
■履修上の注意・担当者からの一言
様々な「教育現象」を社会学的にとらえ、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。
■講義計画
①教育学と社会学の接点（1）
②教育学と社会学の接点（2）
③家族・学校と教育の階層性（1）
④家族・学校と教育の階層性（2）
⑤文化的再生産と社会的相互作用（1）
⑥文化的再生産と社会的相互作用（2）
⑦ディスカッション（その1）
⑧ジェンダーと教育の諸現象（1）
⑨ジェンダーと教育の諸現象（2）
⑩メディアと青少年の文化問題（1）
⑪メディアと青少年の文化問題（2）
⑫ディスカッション（その2）
⑬教育社会学と教育実践
⑭教育社会学と教育改革
⑮後期のまとめ

教育実習指導Ⅰ　【担当】大西　俊弘、滋野　哲秀、多賀　優

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅱ（事前指導）　【開講】前期　月3

■サブタイトル
教育実習に向けて

■講義概要
教育実習は教員養成課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。
そのために、実習生は教師として必要な最低限の見識と能力を備えている必要がある。本学では教育実習の先修科目として「教育原論」「発達と教育（青年心理学）」「教科教育法」「人権論A」「人権論B」「介護等体験」を必修と定めている。この他にも、「教職論」「生徒指導論」「学校カウンセリング論」「メディア教育論」「学校教育社会学」等の教職科目と、できるだけ多くの「教科に関する科目」を実習前年までに修得している事が望ましい。
これら先修科目の基盤として、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務的内容を教授するのが「教育実習指導Ⅰ」の目的である。

■到達目標
教壇に立つ心構えを身につける。

■講義方法
必要な資料を配布して説明する。

■系統的履修
教育実習指導ⅡAまたは教育実習指導ⅡB

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜指示を行う。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況
レポート（60%）毎回の講義で提出を求めるレポートの内容
そ の 他（10%）教職を目指す者にふさわしい意欲・態度等
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。

■テキスト
『教育実習の手引き』（龍大教職課程教室編）を配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
教育実習前は健康管理に十分気をつけること。

■講義計画
①はじめに（教育実習の意義）
②教育実習の準備と心得
③教員の服務
④教科指導
⑤教科外活動の指導
⑥最近の学校教育の現状と課題
⑦今後の教育改革の方向
⑧教育実習後の総括

教育実習指導ⅡA　【担当】大西　俊弘、滋野　哲秀、多賀　優

※2011年度までの旧名称：教育実践研究ⅢA（教育実習）　【開講】通年　集中

■サブタイトル
教えられる立場から教える立場へ

■講義概要
「教育実習指導ⅡA」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。
教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。
本科目は、中学校の教員免許を取得する学生用である（中学校と高等学校の両方の免許を取得する場合でも、本科目のみ履修すればよい）。高等学校の教員免許のみを取得する学生は、「教育実習指導ⅡB」を履修すること。

■到達目標
「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法
学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修
教育実習指導Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示
十分な教材研究を事前に行うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）実習後の報告・事後指導
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
そ の 他（60%）実習校の評価
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後２週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト
特になし

■参考文献
教育実習の手引き（龍谷大学教職センター編）

■履修上の注意・担当者からの一言
・真摯な態度で参加すること。
・教育実習期間中は実習に専念し、就職活動や大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画
①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
②事前打ち合わせ
③オリエンテーション
④教科指導
1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
3. 研究授業と批評会
⑤特別活動の指導
1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
⑥その他の校務分掌業務について
⑦教育実習全体の反省
⑧教職に就くに当たっての心得など

教育実習指導ⅡB　【担当】大西　俊弘、滋野　哲秀、多賀　優
※2011年度までの旧名称：教育実践研究ⅢB（教育実習）　【開講】通年　集中

■サブタイトル
教えられる立場から教える立場へ

■講義概要
「教育実習指導ⅡB」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。
教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。
本科目は、高等学校の教員免許のみを取得する学生用である。中学校の教員免許を取得する学生は、高等学校の免許取得に関係なく、「教育実習指導ⅡA」を履修すること。

■到達目標
「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法
学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修
教育実習指導Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示
事前に十分な教材研究を行うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）実習後の報告・事後指導
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
そ の 他（60%）実習校の評価
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後２週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト
特になし

■参考文献
教育実習の手引き（龍谷大学教職センター編）

■履修上の注意・担当者からの一言
・真摯な態度で参加すること。
・教育実習期間中は実習に専念し、就職活動や大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画
①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
②事前打ち合わせ
③オリエンテーション
④教科指導
1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
3. 研究授業と批評会
⑤特別活動の指導
1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
⑥その他の校務分掌業務について
⑦教育実習全体の反省
⑧教職に就くに当たっての心得など

教育の方法と技術　【担当】大西　俊弘
※2011年度までの旧名称：メディア教育論　【開講】前期　木1

■講義概要
学校教育においては、板書を中心とした従来型の授業が中心ではあるが、視聴覚メディアを活用した授業も各地で実践されている。この授業では，まず授業の設計方法について概観し、次に、視聴覚メディアを活用した教育方法について講義する。
主な講義内容は以下のとおりである。
(1) 授業の設計方法について概観し、指導案の作成等を行う。
(2) 各種メディアやICT機器の特性について考察し、授業での活用方法について学ぶ。
(3) 教育におけるメディア・リテラシーの重要性について学ぶ。
(4) プレゼンテーションの理論・技法について学び、教育への応用を考える。
(5) 教育現場で著作権に配慮することの重要性について学ぶ。

■到達目標
各教科の授業や総合学習において、適切な授業の設計ができ、必要に応じてICT機器を活用した授業を計画することができる。

■講義方法
講義形式だけでなく､グループ活動（ビデオ教材の制作･発表など）も行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義後、必ず復習を行い、理解を確実なものとすること。

■成績評価の方法
レポート（10%）レポート未提出者は単位を認定しない。
定期試験（90%）基本事項を中心に幅広く出題。記述式。
レポート・作品、定期試験にて総合的に評価する。レポート・作品のテーマは授業中に指示する。
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なしに授業を3回以上欠席した場合、原則として単位を認定しない。
また、レポート・作品未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
教員になる強い意志を持った人の受講を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは、木曜3講時である。
連絡方法：電子メールにて（アドレスは講義で連絡する。）

■講義計画
①ディジタル革命時代の学校教育
②授業設計の方法（1）（教育目標の具体化）
③授業設計の方法（1）（適切な授業方法の選択）
④授業における写真・映像の利用方法
⑤授業における統計・グラフの利用方法
⑥学校教育とメディアリテラシー
⑦授業におけるICT機器の利用方法
⑧ビデオ教材の実例紹介
⑨ビデオ製作実習（技術的解説）
⑩ビデオ製作実習（班別製作活動）
⑪ビデオ製作実習（班別製作活動）
⑫ビデオ作品発表会（予選会）
⑬ビデオ作品発表会（本選会）
⑭学校教育と著作権
⑮今後の学校教育の方向性（ディジタル教科書等）

教職実践演習（中・高）

【担当】各教員（大西　俊弘、滋野　哲秀、多賀　優）
【開講】月2・3・4、火1・2、水4、木2・3

■サブタイトル

4年間の総仕上げとして教職への適性を省察する

■講義概要

本授業は教職課程科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認することを目的とする。この意味で、全学年を通じた総仕上げとしての位置付けを持つ。

テーマとしては、本科目の趣旨を踏まえ、教員として求められる①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科内容等の指導力に関する４つの事項を中心に展開する。

【注意事項】先修要件等

ア 教育実習指導ⅡＡ・ⅡBの先修要件（教育原論等）を満たしている者

イ ４年次前期までの履修カルテの入力を済ませている者

ウ 教育実習指導ⅡＡ・ⅡBが不合格の場合は、本授業の単位も不認定となる。

■到達目標

将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできるようになる。

■講義方法

授業は、講義概要で示した4つの事項に関する講義・研究協議の他に、より実践場面を想定した課題に基づいて、学生自らがグループ討議、ロールプレーイング、発表等を行い、自らの教員としての資質能力を確認するようにする。また、これ以外にも講演会等によって、教職に対する自覚･省察を深める。

【注意事項】授業の一環として、9月下旬に全体会を開催し、オリエンテーション、講演等を行うので必ず参加すること。日程等の掲示に注意すること。

■系統的履修

※「履修カルテ」をWeb上で必ず記入すること。（未記入者は評価対象外とする。）

■授業時間外における予・復習等の指示

『教職実践演習ノート』を使用する。毎回出される課題をその都度適切にこなすこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業への参加度・意欲等

その他（70%）毎回だされる課題等　※下記の自由記載参照

上記の評価基準を原則にして総合的に評価を行う。併せて教職科目の修得状況、ボランティア等の学外活動及び本授業を通して、講義概要で示した４つの事項について評価する。

■テキスト

『教職実践演習ノート』（龍谷大学教職課程編）を配布する。

冊子『教育実践研究』（龍谷大学教職課程編）も参考にすること。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

ア 講座の決定については予備登録を実施する。4月当初の履修登録に関する教職課程の指示に十分注意すること。

イ 意欲的に参加すること。就職活動やアルバイト等の個人的な理由による欠席は認めない。原則として３分の２以上の出席を必要とする。

■講義計画

①授業の趣旨・計画・評価及び諸注意
②教職の意義及び教員の役割
③子どもの変化と理解
④協議及びまとめ、今後のスケジュールに関する諸注意等
⑤教育実習を振り返って
⑥テーマ１：教職の意義や教員の役割、職務内容等
⑦テーマ２：子どもの変化と理解、子どもに対する責任等
⑧テーマ３：社会性や対人関係能力
⑨テーマ４：保護者・地域への対応
⑩テーマ５：教科指導力の向上①
⑪テーマ５：教科指導力の向上②
⑫テーマ６：生徒指導力の向上①
⑬テーマ６：生徒指導力の向上②
⑭テーマ７：学級経営力の向上
⑮まとめ：自己評価、アンケート等

教職論
※2011年度までの旧名称：教師論

【担当】滋野　哲秀
【開講】前期　土2

■サブタイトル
教師という仕事は何か。教師に必要な実践力とは。教職の意義や役割を考える。

■講義概要
教職についての基本事項（教職の意義、教員の役割、職務内容等）をおさえるとともに、これからの教師に求められる実践力を考えながら自らの教職観を形成し、教職への意欲を高める内容とする。

■到達目標
教職を目指す学生に対して必要となる教養を理解し、教師を目指すために必要な資質能力を理解し、教育実習等に向けた実践力を養うことを目標とする。

■講義方法
必要な資料等を配布しながら講義と演習を取り入れて授業を実施する。
毎回、授業で小レポートの提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義で指示する。配布した資料等を熟読してくること。
新聞等のメディアで報道される教育関係の内容について日頃から目を通しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）受講状況を考慮する。
レポート（20%）全てのレポートを評価する。
定期試験（70%）
原則として１／３以上欠席した場合は単位を認定しない。毎回授業終了後にレポートの提出を求める。上記の内容を総合的に評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
小島 弘道ほか 『教師の条件―授業と学校をつくる力』 学文社　2,625円
新井 保幸（著）, 江口 勇治（著）『教職論』 培風館　1,995円
文部科学省や教育委員会のホームページなどを積極的に活用して情報を収集してほしい。さらに、日ごろから新聞等のメディアで報道される教育に関するニュースを視聴し、最新の教育事情について理解を深めておいてほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指すものとして、それに相応しい態度で受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
教職センターに、気軽に相談にきてください。不在の時もメールを活用しながら相談することができます。また、教職センターにある参考図書なども積極的に活用してほしいです。

■講義計画
①教職の意義
②教員の役割と職務内容
③教師像の変遷
④教師に求められる資質・能力
⑤教師の身分と服務、研修
⑥教育行政と学校教育
⑦学習指導要領と教育課程
⑧教員の職務（1）教科指導と学習評価
⑨教員の職務（2）学級担任と学級経営
⑩教員の職務（3）生徒理解と生徒指導
⑪教員の職務（4）キャリア教育と進路指導
⑫教員の職務（5）特別活動と部活動
⑬教員の職務（6）特別支援教育
⑭教員の職務（7）保護者との連携、地域との連携
⑮教師のライフコース。教育実習から専門家としての教師へ。まとめ

人権教育論

【担当】矢野　亮
【開講】前期　木5

■サブタイトル
個からはじまる人権教育論

■講義概要
私たちは、日々、様々なメディアを通じて、「他者」が痛み苦しんでいる姿を目の当たりにしている。また、私たち自身も、様々な痛みを感じながら生きている。本講義では、自己と他者の「痛み」とその所在について考え、人権教育に何ができるのかということについて議論する。そのうえで、どうすれば、「他者」の痛みを理解しそれをまったく知らない他者に伝えることが可能なのかについて、ケーススタディを通じて考え議論する。さらに、受講生それぞれが、将来、学校や職場、地域、家庭などで、使えるように、人権教育の教材開発とその方法について具体的に検討をおこなう。

■到達目標
自己と他者の痛みとその所在について深く理解し、人権教育の必要性について説明できる力量を養う。また、自身が、将来、学校や職場、地域、家庭などで使えるよう、人権教育の教材を開発し提案できるようになることまでを到達目標とする。

■講義方法
教科書は指定しません。各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料等）を活用しながら講義を進めていきます。
受講生の人数によりますが、適宜、コミュニケーションカードを使用し、それぞれの関心や課題、考えたことに対してコメントできるよう工夫をしたいと考えています。

■系統的履修
人権論

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
森岡正博 『無痛文明論』 トランスビュー　3,990円
小熊英二 『社会を変えるには』 講談社現代新書　1,300円

■講義計画
①イントロダクション
②人権をめぐる現状
③人権教育の目標・意義・取り組み
④人権教育に向けて①「痛み」とその所在について考える
⑤人権教育に向けて②苦痛を分かち合う仕組みについて考える
⑥人権教育の方法①啓発とその効果について考える
⑦人権教育の方法②知識と感覚を分かち合う連帯について考える
⑧「なぜ人は認められたいのか」について考える
⑨人権教育の主要概念としてのエンパワメント、問題解決アプローチ、ストレングスモデル
⑩人権教育の対象とはなにか
⑪ケーススタディ①人権相談の現場から
⑫ケーススタディ②人権相談の現場から
⑬人権教育とケア
⑭人権教育におけるネットワーキングと多職種連携の実際
⑮まとめ――社会を変えるための人権教育にむけて

生徒指導論

【担当】多賀　優
【開講】後期　金1

■サブタイトル
学校教育における生徒指導の意義と役割
■講義概要
学校教育は社会の時代的な変遷によって常に大きく影響を受け、様変わりしている。近年の社会における倫理観の欠如や価値観の変化により、学校での生徒指導に関する喫緊の課題も山積している。これらの課題は教員の前に様々な形で現れる。教員は生徒と向き合う中でこれらの課題と毎日直面し、素早い判断をもって他の教員と連携して的確に指導しなければならない。生徒指導とは非行等の様々な問題行動への指導だけを意味するのではなく、将来、社会の中で自分らしく生きる大人になるよう、児童生徒の自発的で主体的な成長や発達を支援し促す指導のことである。そのため、本講義ではいじめや不登校等の様々な課題やさらには特別支援教育、進路指導・キャリア教育についても幅広く実証的に論じ、実践的な生徒指導力の獲得につなげるための考察を加える。
■到達目標
教員に求められる生徒指導に関する教育力の基礎を培うことを目標とする。
■講義方法
講義の他､討論･発表等の参加型授業をできるかぎり取り入れる。
■系統的履修
「発達と教育」などの発達・教育心理学関係の科目
■授業時間外における予・復習等の指示
課題には主体的に取り組むこと。また紹介された参考文献等をよく読み、知識を深めるとともに、批判的な思考力を養うこと。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート（10%）毎回出される小課題の達成度を評価する。
定期試験（70%）学習内容の理解、教職への適性を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。
■テキスト
文部科学省 『生徒指導提要』 教育図書株式会社　290円
プリントを配布するので、まとめておくファイルを準備すること。
■参考文献
講義の中で適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。
■講義計画
①ガイダンス・今日の学校と目指す教師像
②生徒指導の意義と役割
③学級運営と生徒指導
④生徒理解の方法
⑤学校生活にかかわる問題行動　1
⑥学校生活にかかわる問題行動　2
⑦学校生活にかかわる問題行動　3
⑧反社会的問題行動　1
⑨反社会的問題行動　2
⑩反社会的問題行動　3
⑪非社会的問題行動　1
⑫非社会的問題行動　2
⑬生徒指導と特別支援教育
⑭進路指導の課題とその指導　1
⑮進路指導の課題とその指導　2

特別活動論

【担当】多賀　優
【開講】前期　金1

■サブタイトル
学校教育における特別活動の意義と役割
■講義概要
学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、学校行事などのいわゆる特別活動は教科教育、道徳教育、総合的な学習の時間と相互に関連して営まれている。本講義では、特別活動の変遷を検証しながら、特別活動の意義について考察し、同時に実践な力を身につける。具体的には、特別活動を実践する上での意義や特別活動の指導法の現状、さらには特別活動における自治的活動の現状と課題について考察し、特別活動の事例等の課題に応じた様々な活動を行う中で、実践的な基礎力を養う。
■到達目標
特別活動について理解するとともに、教師としての実践的な指導力を培う。
■講義方法
講義の他、討論･発表･ロープレイ等の参加型授業を導入する。
■授業時間外における予・復習等の指示
課題は積極的・主体的に取り組むこと。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート（30%）活動と理解の達成度を評価する。
定期試験（40%）学習内容の理解、教職への適性を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。
■テキスト
文部科学省 『中学校学習指導要領解説特別活動編』 ぎょうせい　114円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説特別活動編』 海文堂出版　210円
プリントを配布するので、まとめておくファイルを準備すること。また上記テキスト解説は､1冊100円～ 200円程度なので、中学校・高等学校とも準備すること。
■参考文献
講義の中で紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
講義では様々な活動があるが、教職を目指す者として周囲の人と協力しながら主体的かつ意欲的に受講すること。
■講義計画
①ガイダンス、アンケート
②特別活動の意義と特性　1
③特別活動の意義と特性　2
④特別活動の意義と特性　2
⑤望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ　1
⑥望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ　2
⑦望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ　3
⑧教育課程としての特別活動
⑨学級活動の意義と運営
⑩学校行事の意義と実施上の工夫・配慮事項
⑪特別活動の指導計画と工夫　1
⑫特別活動の指導計画と工夫　2
⑬特別活動と特色ある学校づくりの紹介　1
⑭特別活動と特色ある学校づくりの紹介　2
⑮まとめ

道徳教育指導法

【担当】奥村　光太郎
【開講】後期　土1

■サブタイトル
道徳教育の理論と実践

■講義概要
本科目では道徳教育の理論と実践について講義を行う。そして道徳教育の指導法を総合的に理解することを目的とする。「道徳」は学習指導要領に位置づけられた領域であり、小学校と中学校における年間配当時間は３５時間（小１は３４時間）と定められている。従って、ここで学ぶ学生諸君もこれまで数百時間に及ぶ「道徳の時間」を 経験してきたはずである。ところで、皆さんの記憶に残っている「道徳の時間」とは一体どのようなものだっただろうか。素晴らしい感動の時間であったという諸君は幸せだが、中には殆ど覚えていないという人もいるかもしれない。実は現在の学校現場でも道徳が「学活」や「担任裁量」に切り替えられて不十分である例が少なくない。このような現状を改善すべきだということもあって道徳の教科化が検討されているのである。このことは、道徳教育に関する理論を学び、実践力を身に付けた教員が今後益々必要となってくるということを意味している。俗な言い方をすれば、今ほど「道徳ができる先生」が求められている時はないのである。諸君には道徳教育の即戦力として活躍していただきたい。それができるだけの力量を身に付けてもらうことを目指して、理論と実践の両面から講義を進めていきたいと考えている。

■到達目標
道徳教育に関する様々な理論や実践を理解する。そして新聞記事やテレビ映像、ネット情報などから目の前にいる生徒に適した道徳の素材を見つけ出す。その素材を生徒の発達段階に応じたスタイルにアレンジして「学習指導案」「ワークシート」「予想される生徒の反応が記載されたワークシート記入例」を作成する。それをもとに実際に授業を行い、改善点を見出すことのできる能力を身に付ける。

■講義方法
教科書や配布プリントを利用して講義を行う。時には映像資料なども使用する。講義終了時に簡単なレポート（感想程度）を提出してもらう。
※レポート（感想）は次回以降の講義内容にも反映させていく。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書や道徳に関する書物等を読み、道徳に関する知識と理解を理論と実践の両面から深めることを心がけてほしい。道徳教育に関する素材はどこにでも転がっている。諸君が「これは」と思うものがあれば、スクラップしたりメモをとっておいたりしてほしい。そしてそれを使ってどのように授業を行っていくかをイメージすることを期待する。（その姿勢が道徳教育を進めていく上での能力向上につながるのである。）

■成績評価の方法
平 常 点（50%）「授業時数の３分の２以上の出席者」のみを評価対象とし、授業態度やレポート（感想）の内容によって評価する。
定期試験（50%）「道徳の理論の概略を理解し、学習指導案を作成できる」という点を評価基準とする。「

■テキスト
文部科学省編　『中学校学習指導要領解説（道徳）』　日本文教出版　143円
担当者からも適宜プリントを配布する。散逸を防止するため、「Ａ４タテ」の２穴ファイル（紙製でよい）を用意することが望ましい。なお、テキストは文部科学省のＨＰからも無償でダウンロードできる。

■参考文献
道徳に関する資料は何でも参考文献になる。小・中学生時代に使用した「道徳副読本」や「心のノート」も立派な参考文献である。参考文献やネット等で閲覧した指導案等の資料をこまめにファイルしておくことも大いに役に立つ。担当者は「モラルジレンマの道徳教育」を専門にしており、最近関わった専門書としては「モラルジレンマ教材でする白熱討論の道徳授業=中学校・高等学校編　￥2,373　明治図書発行」がある。機会があれば図書館等で一読しておくことをおすすめする。（購入する必要はない。）
なお、担当者の基本的なスタンスを知りたい諸君は「奥村光太郎　道徳」「奥村光太郎　日本銀行」で検索してほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言
担当者は、道徳に関する知識がほとんどない人でも教員採用と同時に「道徳係」の分掌を受け持つことができるだけの力量を身につけてほしいと願っている。「人材不足」の状況にある道徳教育の現場に「活」を入れてやるという意気込みをもって受講してほしい。

■講義計画
①道徳教育とは何か。これまでの道徳教育の歴史をふり返る。
②学校現場における道徳教育の現状を分析する。
③教科化の流れなど、道徳教育をめぐる社会的情勢を分析する。
④道徳教育の方法について考える。
　①映像を利用した授業法について
⑤道徳教育の方法について考える。
　②副読本を利用した授業法について
⑥道徳教育の方法について考える。
　③オリジナル資料を利用した授業法について
⑦道徳教育の方法について考える。
　④ＮＨＫ道徳ドキュメントを利用した授業法について
⑧モラルジレンマの道徳教育とは何か
　①コールバーグの理論を学ぶ
⑨モラルジレンマの道徳教育とは何か
　②モラルジレンマの授業スタイルタイプⅠ
⑩モラルジレンマの道徳教育とは何か
　③モラルジレンマの授業スタイルタイプⅡ
⑪「私たちの道徳」を活用した道徳教育について
⑫道徳の時間を「要」とした道徳教育とは何か。（すべての「教科」「領域」との関係）
⑬道徳指導案作成演習
⑭道徳授業の実際
⑮総括及び定期試験の説明

理科教育研究A（2010年度以降入学生）

【担当】大黒　孝文
【開講】後期　金2

■サブタイトル
理科が大好きな生徒を育てる教師になる

■講義概要
中学校・高等学校の理科教師としての資質と能力の育成をめざして、各領域における実験・観察指導や実験開発を行なう基礎的な知識と技能を身につけことができる。

■到達目標
・中学校・高等学校の学習指導要領理科の目的や内容を理解し説明することができる。
・中学校・高等学校の理科授業に関する基礎的な知識や判断力を身につけることができる。
・理科教育の課題を把握し、アクティブラーニングの実践的指導力を身につけることができる。
・現在の理科教育の課題を把握し、協同学習を中心とした授業法やテクノロジ利用の実際を知ることができる。

■講義方法
授業内容によって講義・協同学習・製作・実験、及び、常時アクティブ・ラーニング を取り入れる。

■系統的履修
理科の教員免許状取得希望者は､3回生設置の「理科教育法Ⅰ」･「理科教育法Ⅱ」･「理科教育研究B」の履修に先行して、原則として2回生後期で履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示
免許取得希望の校種の理科学習指導要領の確認
理科全領域の学習内容の確認

■成績評価の方法
平 常 点（10%）授業への参加状況と態度（関心・意欲・態度）
小テスト（20%）観察道具の作成（星座早見盤）とコンデンサーとLED実験開発（技能）
レポート（20%）指導案修正レポートと協同学習ケーステスト(思考判断表現)
定期試験（50%）理科の各領域テスト（知識理解・思考判断表現）

■テキスト
特になし

■参考文献
神戸大学発達科学部附属住吉中学校・中等教育学校著 『生徒と創る協同学習 - 授業が変わる、学びが変わる』 明治図書　2,500円
文部科学省 『中学校学習指導要領解説　理科編』 大日本図書　110円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説　理科編理数編』 実教出版　336円
指導要領解説書は取得免許に応じて購入することが望ましい。その他別途指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業への参加は全出席を基本とする。

■講義計画
①オリエンテーション（学習内容･学習方法･評価基準等の理解）
②現在の理科教育の課題と意義
③理科で使う力、つける力
④ケースメソッドで学ぶ理科指導法Ⅰ
⑤ケースメソッドで学ぶ理科指導法Ⅱ
⑥生命領域の学習
⑦地球領域の学習
⑧地球領域の方法（星座早見盤の製作と操作方法）
⑨エネルギー領域の学習
⑩粒子領域の学習
⑪エネルギー領域の方法（手回し発電機とエネルギー変換）
⑫実験開発学習（大容量コンデンサーとLED）
⑬ナラティブアプローチで学ぶ理科の協同学習Ⅰ
⑭ナラティブアプローチで学ぶ理科の協同学習Ⅱ
⑮全体のまとめとふり返り

理科教育研究Ｂ（2010年度以降入学生）

【担当】滋野　哲秀
【開講】前期　水１

■サブタイトル
生徒に科学の素晴らしさと面白さを教える理科教師を目指して

■講義概要
現在の理科教育の現状と課題を検討し、今後の理科教育の方向性について考察する。また、実験・観察や教材開発にも取り組みながら、中学校・高等学校において役立つ教科指導力の育成を図る。特に、高等学校で地学分野を履修していない学生も多くいることを踏まえ、天文、気象分野を中心とした内容に重点をおいて授業を展開する。

■到達目標
(1) 学習指導要領の目標や内容等について理解し説明することができる。
(2) 理科教育の現状と課題を理解し、理科の教科指導力を身につけることができる。
(3) 実験・観察などの指導力や教材開発を行う技術を身につけることができる。

■講義方法
講義、実習、演習を行う。
実習・演習においては教材開発や指導案の作成を行い、模擬授業演習（討論、レポート作成を含む）も行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
学習指導要領の理解（目標と内容に目を通しておくこと）。
次回の講義及び実習・演習について提示したことについての事前学習。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）授業への出席状況と講義・実習への参加態度
レポート（30%）学習指導案の作成、演習等のレポート
そ の 他（30%）模擬授業の成果
特別な理由なく３回以上欠席した場合は原則として単位を認定しない。
レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
文部科学省 『中学校学習指導要領解説　理科編』 大日本図書　110円
文部科学省 『高等学校学習指導要領　理科編』 実教出版　336円
小倉義光 『一般気象学』 東京大学出版会　2800円
村山　斉 『宇宙はなぜこんなにうまくできているのか』 集英社インターナショナル　1,100円
左巻健男・内村　浩 『授業に活かす理科教育法』 東京書籍　2,200円
その他、授業の中で別途指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
理科教員となることを強く志望する意欲ある学生に履修してほしい。教員をめざすのにふさわしい態度で受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業の初めに伝えたメールアドレスで連絡してほしい。

■講義計画
①理科の指導法（授業の導入と動機付け）
②理科教育と防災教育（地震・火山）
③気象分野における授業の展開（1）
大気の鉛直構造、降水過程等
④気象分野における授業の展開（2）
大気の運動
⑤気象分野における授業の展開（3）
メソスケールの現象（台風、梅雨等）
⑥気象分野における授業の展開（4）
天気図等気象データの活用と天気予報
⑦天文分野における授業の展開（1）
宇宙と物理法則、身の回りの自然現象、天上と地上を支配する法則
⑧天文分野における授業の展開（2）
なぜ太陽は燃え続けていられるのか?
星の一生
⑨天文分野における授業の展開（3）
惑星の不思議
⑩天文分野における授業の展開（4）
ブラックホールと暗黒物質
⑪天文分野における授業の展開（5）
膨張する宇宙、四つの力と素粒子の標準模型
⑫模擬授業演習と授業に基づく評価（1）
⑬模擬授業演習と授業に基づく評価（2）
⑭模擬授業演習と授業に基づく評価（3）
⑮講義内容の整理（全体のまとめと振り返り）

理科教育法Ⅰ（2003 ～ 2009年度入学生）

【担当】多賀　優
【開講】通年　水2

■サブタイトル
現場に活かす理科教育法（中学第２分野、高校地学,生物を中心に）

■講義概要
理科を学ぶことで、生徒は自然への興味関心を高め、さらに認識を深めていく。理科の教師としていかに授業を創り、教えるのかということは生徒の自然観自体に大きな影響を及ぼす。理科の授業力を身につけるためには今までの授業観・学習観を見直し、生徒の理解の変化を基本とする授業とは何かを考えることが大切である。本講義では理科教育が抱える現在の課題を明らかにしながら、理科教育の目的や特徴、科学的概念の意味、理科の様々な授業法、観察・実験のあり方、安全管理、指導計画や学習評価等について理論的に考察し、さらに模擬授業を行い初等中等教育での理科授業の実際を学ぶ。

■到達目標
理科を学ぶことの意味を理解し、理科の魅力ある授業を展開できる実践的な力を培う。

■講義方法
講義の他、教材作成、指導案作成、実践的な模擬授業等の活動を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
教材作成、指導案の作成等レポート形式で提出する。参考文献は特に購入する必要はない。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）グループ活動、発表
レポート（30%）模擬授業、指導案作成、教材作成
定期試験（50%）
毎回出席し積極的な学修態度を望む。理科教員としての資質を磨くことを重視する。

■テキスト
文部科学省 『中学校学習指導要領解説理科編』 大日本図書 110円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説　理科編　理数編』 実教出版 336円
岡村定矩ほか 『新しい科学（中学１年)』 東京書籍 710円
配布したプリントをまとめておくファイルを準備すること。

■参考文献
川村康文ほか 『おもしろ理科実験』 オーム社 1,200円

■講義計画
①ガイダンス、理科教育の目的と目標
②理科教育の歴史
③様々な調査からの理科の能力観・学力観
④科学的概念と素朴概念
⑤理科の学習評価理論と実践　1
⑥理科の学習評価理論と実践　2
⑦対話的な理科の授業
⑧学習指導案の書き方　1
⑨学習指導案の書き方　2
⑩仮説実験授業　1
⑪仮説実験授業　2
⑫理科におけるＩCTの活用方法と実習
⑬理科の授業と安全管理
⑭環境と持続可能な社会のための理科教育
⑮理科教育の周辺と今後
⑯理科の教員になるために
⑰防災教育
⑱世界の理科教育
⑲物理分野の教材と使い方
⑳地学分野の教材と使い方
㉑生物分野の教材と使い方
㉒化学分野の教材と使い方
㉓理科授業の実際（中学理科、高校地学・生物）と学習指導案の準備
㉔模擬授業（1）　グループ１～３　発表
㉕模擬授業（2）　グループ４～６　発表
㉖模擬授業（3）　グループ７～９　発表
㉗模擬授業（4）　グループ10～12　発表
㉘模擬授業検討会　ビデオ撮りの中から
㉙模擬授業検討会　授業の改善とは
㉚今後の理科教育　教育現場の現状

理科教育法Ⅰ（2010年度以降入学生）

【担当】多賀　優
【開講】前期　水2

■サブタイトル
現場に活かす理科教育法（理科教育に関する理論と実践）
■講義概要
理科を学ぶことで、生徒は自然への興味関心を高め、さらに認識を深めていく。理科の教師としていかに授業を創り、教えるのかということは生徒の自然観自体に大きな影響を及ぼす。理科の授業力を身につけるためには今までの授業観・学習観を見直し、生徒の理解の変化を基本とする授業とは何かを考えることが大切である。本講義では理科教育が抱える現在の課題を明らかにしながら、理科教育の目的や特徴、科学的概念の意味、理科の様々な授業法、観察・実験のあり方、安全管理、指導計画や学習評価等について理論的に考察し、さらに模擬授業を行い初等中等教育での理科授業の実際を学ぶ。
■到達目標
理科を学ぶことの意味を理解し、理科の魅力ある授業を展開できる理論的な認識を深め、実践的な力を培う。
■講義方法
講義の他、教材作成、指導案作成、実践的な模擬授業等の活動を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
教材作成、指導案の作成等レポート形式で提出する。参考文献は特に購入する必要はない。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）グループ活動、発表
レポート（30%）模擬授業、指導案作成、教材作成
定期試験（50%）
毎回出席し積極的な学修態度を望む。理科教員としての資質を磨くことを重視する。

■テキスト
文部科学省 『中学校学習指導要領解説理科編』 大日本図書 110円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編』 実教出版 336円
岡村定矩ほか 『新しい科学（中学１年)』 東京書籍 710円
配布したプリントをまとめておくファイルを準備すること。
■参考文献
川村康文ほか 『おもしろ理科実験』 オーム社 1,200円
■講義計画
①ガイダンス、理科教育の目的と目標
②理科教育の歴史
③様々な調査からの理科の能力観・学力観
④科学的概念と素朴概念
⑤理科の学習評価理論と実践 1
⑥理科の学習評価理論と実践 2
⑦対話的な理科の授業
⑧学習指導案の書き方 1
⑨学習指導案の書き方 2
⑩仮説実験授業 1
⑪仮説実験授業 2
⑫理科におけるＩCTの活用方法と実習
⑬理科の授業と安全管理
⑭環境と持続可能な社会のための理科教育
⑮理科教育の周辺と今後

理科教育法Ⅱ（2010年度以降入学生）

【担当】多賀　優
【開講】後期　水2

■サブタイトル
現場に活かす理科教育法（中学第２分野、高校地学,生物を中心に）
■講義概要
理科を学ぶことで、生徒は自然への興味関心を高め、さらに認識を深めていく。理科の教師としていかに授業を創り、教えるのかということは生徒の自然観自体に大きな影響を及ぼす。理科の授業力を身につけるためには今までの授業観・学習観を見直し、生徒の理解の変化を基本とする授業とは何かを考えることが大切である。本講義では理科教育が抱える現在の課題を明らかにしながら、初等中等教育での理科授業や観察・実験の進め方の実際を学ぶ。また、学習指導案を作成し、模擬授業や相互評価をおこない実践的な理科の授業力を身につける。
■到達目標
理科を学ぶことの意味を理解し、理科の魅力ある授業を展開できる実践的な力を培う。
■講義方法
講義の他、教材作成、指導案作成、実践的な模擬授業等の活動を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
教材作成、指導案の作成等レポート形式で提出する。参考文献は特に購入する必要はない。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）グループ活動、発表
レポート（30%）模擬授業、指導案作成、教材作成
定期試験（50%）
毎回出席し積極的な学修態度を望む。理科教員としての資質を磨くことを重視する。

■テキスト
文部科学省 『中学校学習指導要領解説理科編』 大日本図書 110円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編』 実教出版 336円
岡村定矩ほか 『新しい科学（中学１年)』 東京書籍 710円
配布したプリントをまとめておくファイルを準備すること。
■参考文献
川村康文ほか 『おもしろ理科実験』 オーム社 1,200円
■講義計画
①理科の教員になるために
②防災教育
③世界の理科教育
④物理分野の教材と使い方
⑤地学分野の教材と使い方
⑥生物分野の教材と使い方
⑦化学分野の教材と使い方
⑧理科授業の実際（中学理科、高校地学・生物）と学習指導案の準備
⑨模擬授業（1） グループ１～３ 発表
⑩模擬授業（2） グループ４～６ 発表
⑪模擬授業（3） グループ７～９ 発表
⑫模擬授業（4） グループ10～12 発表
⑬模擬授業検討会 ビデオ撮りの中から
⑭模擬授業検討会 授業の改善とは
⑮今後の理科教育 教育現場の現状

本願寺派教師資格課程科目

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
シ	宗教学概論	古荘　匡義	通年	月５	241
	宗門法規	林　春男	サ集	集中	241
	真宗学概論	長岡　岳澄	通年	水４	242
	真宗史	斎藤　信行	通年	火３	242
ニ	日本仏教史	下間　一頼	通年	火４	243
フ	仏教学概論	道元　徹心	通年	水３	243

宗教学概論

【担当】古荘　匡義
【開講】通年　月5

■サブタイトル
宗教を学問的に分析する
■講義概要
「宗教学」という言葉は、神学（宗学）や宗教哲学、宗教史なども含む学問領域全体を指すことも多いですが、本講義で主に扱うのは狭義の宗教学、つまり、宗教心理学・宗教社会学などの「実証的宗教学」です。本講義では、狭義の宗教学が宗教を分析する際に用いるさまざまな方法論を紹介し、受講者もこれらの方法を活用できるようにすることを目指します。また、本講義は教職科目でもあり、宗教になじみのない受講者も多いと思いますので、諸宗教の入門的な講義を最初に行います。
■到達目標
諸宗教の基本的な知識を身につけること。
宗教をさまざまな学問領域の方法論を用いて考察できるようになること。
■講義方法
毎回配布するレジュメや資料をもとに講義します。DVDなども適宜参照しながら授業を行います。授業中に小レポートを課します。
■系統的履修
本講義は宗教を学問的に扱う多様なアプローチを紹介することを目標にしていますので、社会学部の講義ではありますが、「宗教社会学」をあえて大きく取り上げていません。「宗教社会学」に関心のある方は、当該授業をあわせて受講してください。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義で紹介した文献を自分で読みつつ、みなさんにとって身近な事例を宗教学のさまざまな手法を使って分析してみてください（レポートで分析の結果を報告していただきます）。
■成績評価の方法
小テスト（20%）授業内容の理解を問う小レポートの作成や確認テストを講義中に適宜行う。
レポート（80%）前期と後期、それぞれレポートを提出してもらう。
■テキスト
特になし
■参考文献
脇本平也 『宗教学入門』 講談社学術文庫　1,188円
細谷昌志・藤田正勝編 『新しい教養のすすめ　宗教学』 昭和堂　2,052円
本講義で扱う参考文献は多岐にわたりますので、上記以外のものは講義中に指示します。
■講義計画
①イントロダクション
②宗教とはなにか
③世界の宗教
④一神教
⑤日本の宗教・無宗教
⑥日本の宗教
⑦比較宗教学
⑧宗教民俗学―日本の民俗宗教を中心に
⑨前期のまとめ
⑩宗教現象学
⑪宗教起源論・宗教進化論
⑫宗教社会学
⑬宗教心理学
⑭宗教人類学
⑮講義全体のまとめ

宗門法規

【担当】林　春男
【開講】サ集　集中

■サブタイトル
浄土真宗本願寺派（宗門）の諸規則について
■講義概要
本講義は、浄土真宗本本願寺派教師の資格取得に必要な単位として開設されているのであるが、近年の傾向として、必ずしも寺院関係者に限定されることなく、幅広く受講される状況にある。このため、浄土真宗本願寺派（西本願寺）という宗教団体は、どのような目的を持っているのか、また、どのような組織で、どのような活動を展開しているのかなどの点を中心に講義することとする。
■到達目標
浄土真宗本願寺派教師の資格取得によって、寺院住職、布教師就任の途が開かれる。そのため、より重要な責務を全うするに必要な宗門法規の内容理解を深める。
■講義方法
所定のテキストを中心に講義を進めるが、必要に応じて関係資料をプリントで配布することとする。
本講義では、その内容が宗門の諸規則という事からも、特殊な用語が多く用いられているので早く慣れていただきたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間後に、講義内容の復習を行うこと。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
法制部編『浄土真宗本願寺派 宗門基本法規集』本願寺出版社
■参考文献
特になし
■講義計画
①浄土真宗本願寺派（以下、宗門という。）の基本法規について
②宗門の組織について①
③宗門の組織について②
④宗門の諸法規の体系について
⑤本山（本願寺）の組織について①
⑥本山（本願寺）の組織について②
⑦本山以外の寺院の規則などについて
⑧宗門の法規と宗教法人法との関係について
⑨宗教法人法
⑩信教の自由と政教分離の原則について
⑪宗教法人法施行以前の宗教関係通達等（明治･大正･昭和初期）
⑫宗教法人法施行以前の宗教関係法規について（宗教団体法）
⑬宗教法人法施行以前の宗教関係法規について（宗教法人令）
⑭宗門基本法規のまとめ
⑮確認テスト

真宗学概論

【担当】長岡　岳澄
【開講】通年　水４

■サブタイトル
浄土真宗の教えを学ぶ
■講義概要
浄土真宗の開祖である親鸞の思想を中心に、真宗の基本的知識を講義していく。
真宗の学び方、書籍の調べ方を含め、これから真宗を学んでいくにあたっての基礎力が身につくように講義し、真宗教義の基本構造の理解を深めていく。
■到達目標
真宗の学び方を知り、真宗教義の基本構造を理解する
■講義方法
基本的に講義形式で進めていく。
真宗の教えの基本的な事項を理解することに重点を置く為、受講者の理解度を確認しながら進めていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に配布するレジュメを保存し、見直すこと。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）受講態度等
小テスト（50%）前期末・後期末にテストを実施（真宗教義の基本を理解できているかを確認）
■テキスト
教学伝道研究センター編纂 『浄土真宗聖典（註釈版）第二版』本願寺出版社　5,616円
講義時には『浄土真宗聖典（註釈版）』を必ず手元に置いておくこと
■参考文献
講義時に紹介
■履修上の注意・担当者からの一言
毎講義、真宗教義における重要事項の説明が中心となるため、出席状況を重視します。
また、意欲的な受講態度を期待します。

■講義計画
①仏教概説（1）
②ガイダンス・真宗を学ぶ前に
③仏教概説（2）
④仏教概説（3）
⑤親鸞の生涯（1）
⑥親鸞の生涯（2）
⑦真宗の歴史
⑧真宗概説（1）
⑨真宗概説（2）
⑩浄土三部経（1）
⑪浄土三部経（2）
⑫浄土三部経（3）
⑬浄土三部経（4）
⑭浄土三部経（5）
⑮前期まとめ
⑯救いの対象
⑰阿弥陀仏（1）
⑱阿弥陀仏（2）
⑲本願（1）
⑳本願（2）
㉑名号
㉒信心（1）
㉓信心（2）
㉔称名・利益
㉕七高僧（1）
㉖七高僧（2）
㉗七高僧（3）
㉘七高僧（4）
㉙後期まとめ
㉚全体のまとめ

真宗史

【担当】斎藤　信行
【開講】通年　火３

■サブタイトル
真宗の成立とその変容
■講義概要
親鸞によってひらかれた真宗は、どのような主体−生き方を成立させるのか。真宗が形成する教団は、どのような性格の集団なのか。親鸞以後、真宗はどのように継承されたのであろうか。なぜ、真宗教団は勢力を拡大することができたのか。戦争中、真宗はどのような対応をしたのか。真宗の存在意義とは何なのか。このような問題関心の下、本講義では、まず仏教伝来後、どのような流れのなかから真宗が成立したのかを確認し、その歴史的意義について考える。そして、親鸞以後、真宗がどのような過程を経て展開・変容していったのか概観し、各時代状況のなかで真宗がいかなる役割を果たしたのかを考えることで、真宗史の全体像を明らかにしてゆく。
■到達目標
真宗が歴史のなかで果たした役割を説明できるようになる。
真宗の成立とその変容の歴史を学ぶことを通して、現在の真宗教団がかかえる課題と真宗が有する可能性について考えることができるようになる。
■講義方法
プリントを配布し、それに沿って講義を進めてゆく。適宜、視聴覚教材を活用する。講義終了時に、講義の感想・質問等を書いて提出してもらう。
■授業時間外における予・復習等の指示
真宗史の概説書を読んで大まかな流れをつかんでおくこと。配布したプリントおよび補足説明としておこなった板書を読み直し、講義内容を確認しておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）講義の感想・質問等を評価する。
レポート（50%）内容に関しては講義時に指示する。
■テキスト
特になし
■参考文献
二葉憲香・松尾博仁・福嶋寛隆(編)『新編 歴史のなかの親鸞』永田文昌堂　2,800円
福嶋寛隆 『歴史のなかの真宗』 永田文昌堂　2,800円
中央仏教学院編 『真宗史』 本願寺出版社　1,200円
このほかは講義内で随時紹介する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
初回講義時に伝えます。

■講義計画
①ガイダンス
②親鸞以前（1）　―仏教伝来―
③親鸞以前（2）　―「聖徳太子」の仏教受容―
④親鸞以前（3）　―浄土教の受容と展開―
⑤親鸞以前（4）　―空也・千観・源信の浄土教―
⑥親鸞以前（5）　―法然の専修念仏―
⑦歴史のなかの親鸞（1）
⑧歴史のなかの親鸞（2）
⑨歴史のなかの親鸞（3）
⑩歴史のなかの親鸞（4）
⑪『歎異抄』の真宗
⑫東国門徒の諸相
⑬大谷廟堂の寺院化
⑭覚如と存覚
⑮初期真宗の展開
⑯蓮如と本願寺教団の確立（1）
⑰蓮如と本願寺教団の確立（2）
⑱一向一揆とは何か
⑲織豊政権と真宗
⑳幕藩体制と真宗
㉑近世真宗の諸相
㉒排仏論と真宗
㉓近代天皇制国家の成立と真宗
㉔真宗教団の「近代」化
㉕日清・日露戦争と真宗
㉖社会事業と真宗
㉗戦時教学と真宗
㉘部落問題と真宗
㉙靖国問題と真宗
㉚まとめ

日本仏教史

【担当】下間　一頼
【開講】通年　火４

■サブタイトル
日本仏教の受容と変容
■講義概要
外来思想であった仏教がどのように受容・展開し、日本社会の中に定着してきたのか。現代人の宗教観・倫理観はどのような過程をへて形成されてきたのか。
本講義では日本仏教のあり方を歴史学の方法を用いて考察し、日本における仏教受容を検証していく。
■到達目標
高等学校では政治の流れを中心に歴史を学んできた。
ここでは仏教を方法的視座にすえることで、今までと異なる日本歴史像を提示できると考えている。
■講義方法
講義形式で授業を行なう。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（10%）
定期試験（80%）
■テキスト
特になし
■参考文献
二葉憲香・他 『歴史のなかの親鸞』 永田文昌堂　2,400円
その他、講義中に紹介する。

■講義計画
①これから学ぶ仏教
②仏教伝来
③古代の仏教①
④古代の仏教②
⑤中世の仏教
⑥近世の仏教
⑦近代の仏教
⑧日本仏教の課題

仏教学概論

【担当】道元　徹心
【開講】通年　水３

■講義概要
仏教の教理について、歴史的展開をふまえながら体系的に講義する。
テキストに用いて講義する。先ず仏教が「真理の宗教」とされる理由を説明し、仏教が説く縁起の思想について講義する。そして、大乗仏教が興起し、中国仏教・日本仏教へと展開する過程で仏教が宗派仏教として広まった内容を解説する。特に天台教義・浄土教義については詳しく講義したい。また、現代社会における仏教思想の持つ意義についても考察を試みたい。
■到達目標
本願寺派教師資格科目の一つとして、要求される知識を身につける。
■講義方法
基本的にテキストに用いて板書しながら講義し、視聴覚教材を随時織り交ぜて説明する。また、必要に応じてプリントを配布する。
■系統的履修
必修の「仏教の思想」A・Bを履修済みであること。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に紹介した参考文献を読む。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）講義毎回に課すミニレポートや受講態度
定期試験（50%）
■テキスト
芹川　博通他 『仏教思想へのいざない』 北樹出版　2,200円
■参考文献
講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養っていってほしい。
■講義計画
①イントロダクション
②仏教とは何か
③仏教の根本原理
④縁起の思想（1）
⑤縁起の思想（2）
⑥大乗仏教の起こり
⑦大乗仏教の思想（1）
⑧大乗仏教の思想（2）
⑨大乗経典
⑩中国仏教の思想（1）
⑪中国仏教の思想（2）
⑫日本仏教の特徴（聖徳太子）
⑬日本仏教の特徴（奈良仏教）
⑭日本仏教の特徴（平安仏教）
⑮日本仏教の特徴（鎌倉仏教）
⑯現代社会と仏教
⑰まとめ

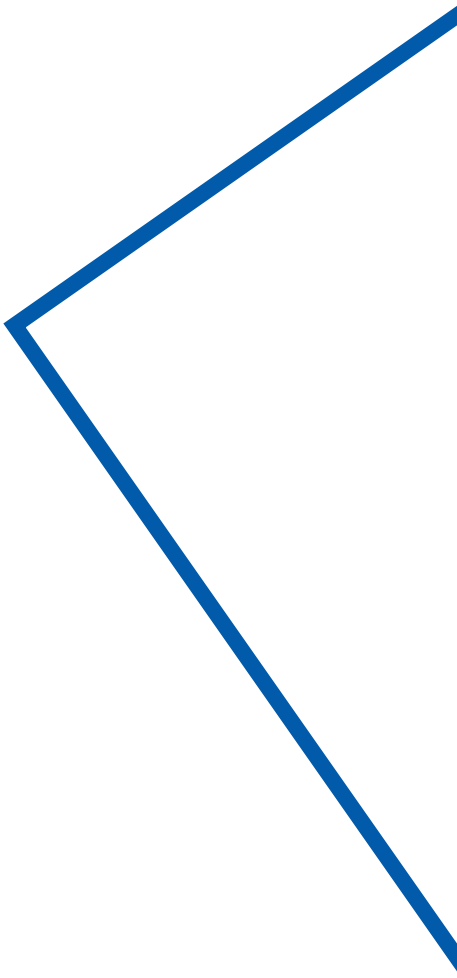
２０１５年度
理工学部　物質化学科　**Syllabus**

2015年４月１日発行

編集発行　龍谷大学理工学部

〒520−2194　大津市瀬田大江町横谷１－５

印　　刷　アインズ株式会社



www.rikou.ryukoku.ac.jp